フルカラー版

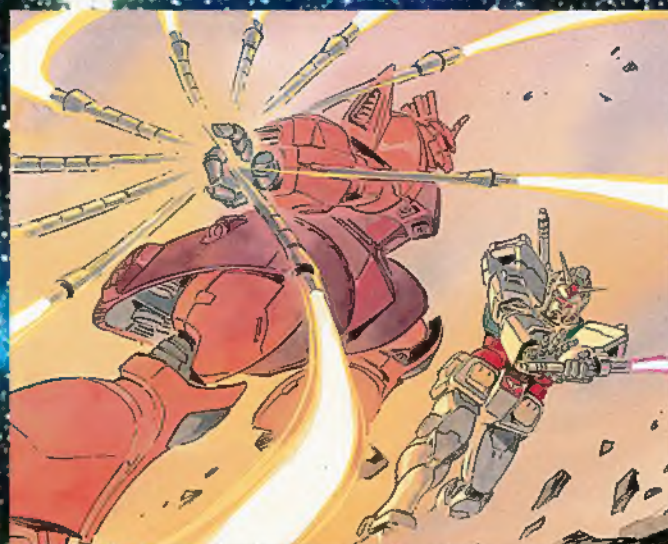
機動戦士ガンダム THE ORIGIN 22

—ひかる宇宙編・後—

安彦良和

原案
矢立肇・富野由悠季

メカニックデザイン
大河原邦男

これまでのあらすじ

最終決戦の時が迫っていた

人類が増えすぎた人口を宇宙に移民させるようになって、すでに半世紀が過ぎていた。人工の大地スペースコロニーは、人類第二の故郷となり、数億の人々がそこで子を産み、育て、そして死んでいった。宇宙世紀〇〇七九、地球から最も離れたコロニー群サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に対し独立戦争を挑んだ。開戦後一ヵ月あまりで、人類はその総人口の半分を死に至らしめ、戦争は膠着状態に入り八ヵ月あまりが過ぎた……。

赤い彗星の異名をもつシャア少佐に率いられたジオンMS部隊が連邦軍の極秘計画V作戦を探るべく中立コロニー・サイド7に侵入した。コロニー内部で勃発したジオン軍と守備隊の戦闘に巻き込まれた少年アムロは、実父が開発した新型MS〝ガンダム〟に搭乗し、卓越な操縦技量の片鱗をみせる。新造艦ホワイトベースに収容されたアムロたちは、度重なる危機をくぐり抜け地球へと降下、ジオンを統べるザビ家の末子ガルマを討つ殊勲をあげた。ガルマの仇を討つべく派遣されたランバ・ラル隊、ジオン軍の最精鋭たる黒い三連星が操る重MSドムを退け、南米ジャブローの総司令部に辿りつき、

ニュータイプは戦争の道具にすぎないのか

それは遅すぎた、出会いだった

ララァの死、閉ざされた可能性――

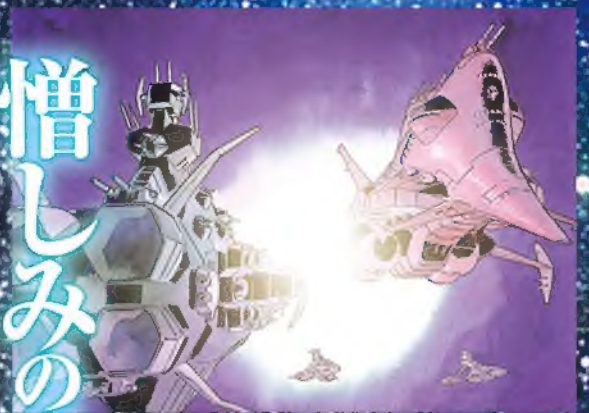
オデッサの大反攻作戦に参加したホワイトベース隊は再び宇宙へと戻る。

父との離別、少女ララァとの出逢いを経てニュータイプとして覚醒したアムロだったが、宿敵シャアの操る新型MSゲルググに敗れ、ガンダムを大破させてしまった。

戦局が最終段階へ向かいつつあるなか、ジオンの月面駐留軍司令キシリアの内報を受けたギレン総帥は、コロニーを改造した破壊兵器ソーラ・レイによって父親であるデギン公王ごと連邦宇宙軍の主力艦隊を灼きつくし壊滅させる。窮地に陥った連邦軍はギレンの拠るア・バオア・クーの直接攻略に残存兵力のすべてを賭けた。

ニュータイプの存在はヒトの未来を拓く可能性であるはずだった――しかし過酷な現実は、彼らに優秀な兵器としての役割を求める。再びガンダムに乗り組んだアムロは、激戦の中でシャアのゲルググを追いつめた。しかしシャアを守ろうと身を挺したララァをその手にかけてしまう。

彼女の死に打ちのめされたアムロとシャア、悲劇が連鎖する激戦のなか彼らはどこへ向かうのか――。

憎しみの光が人々を灼きつくしていく

機動戦士ガンダム THE ORIGIN 22 ―ひかる宇宙編・後―

C O N T E N T S

—ひかる宇宙編・後—
SECTION
VII

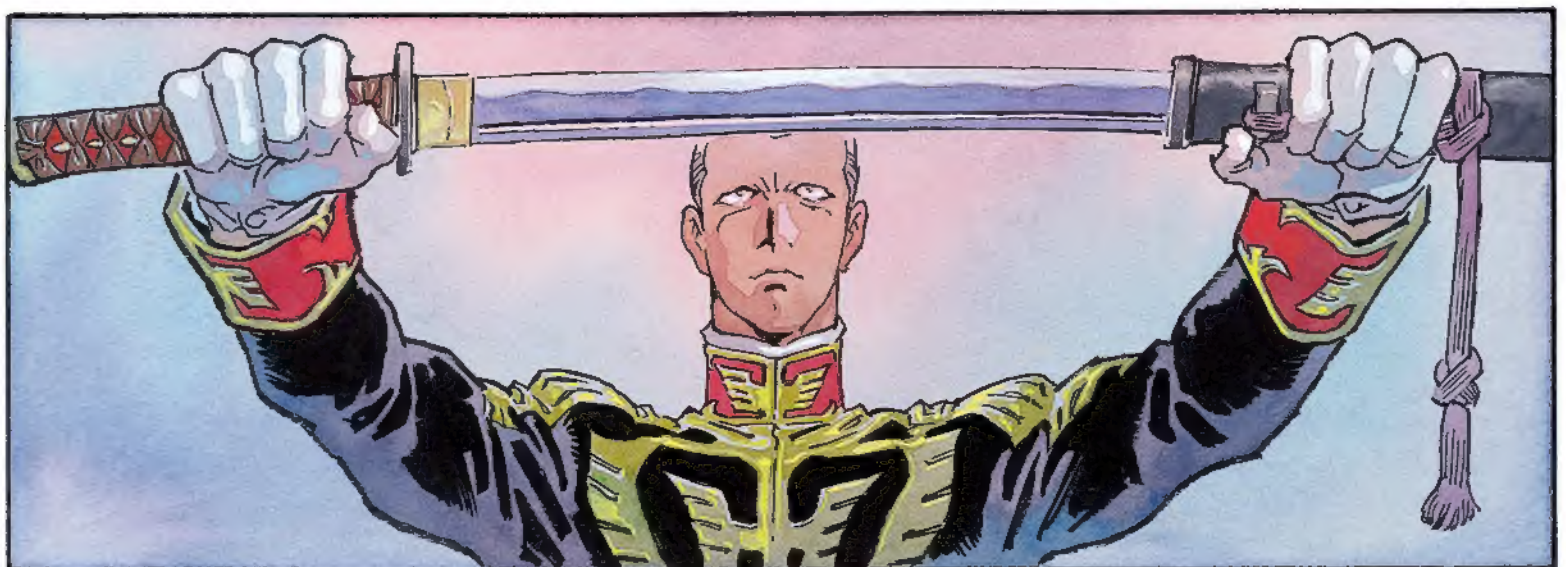
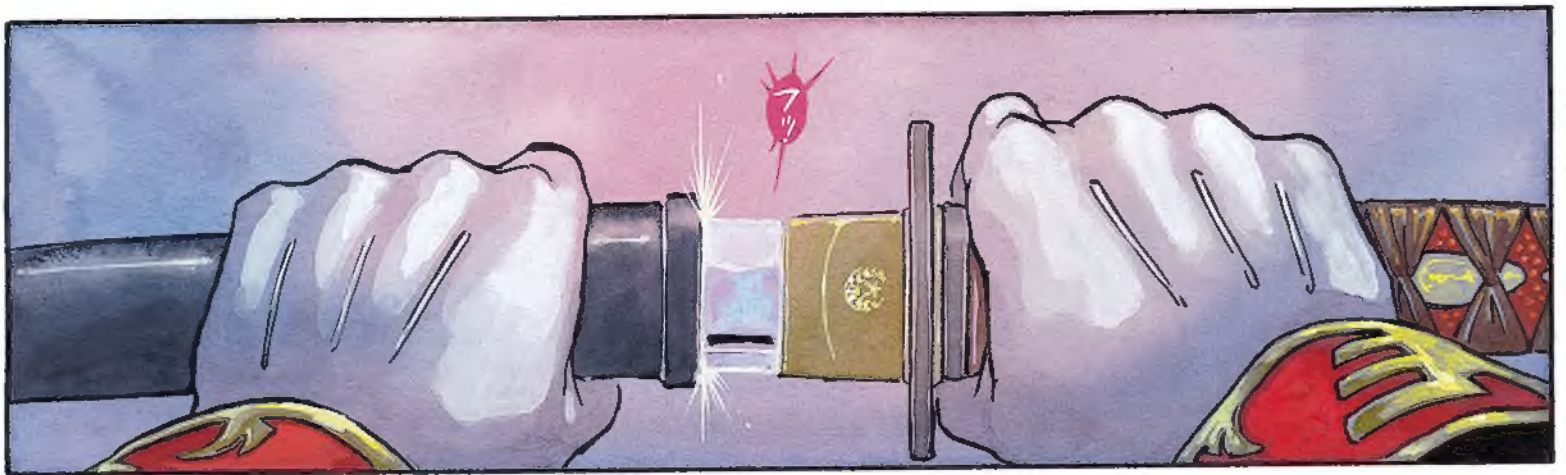
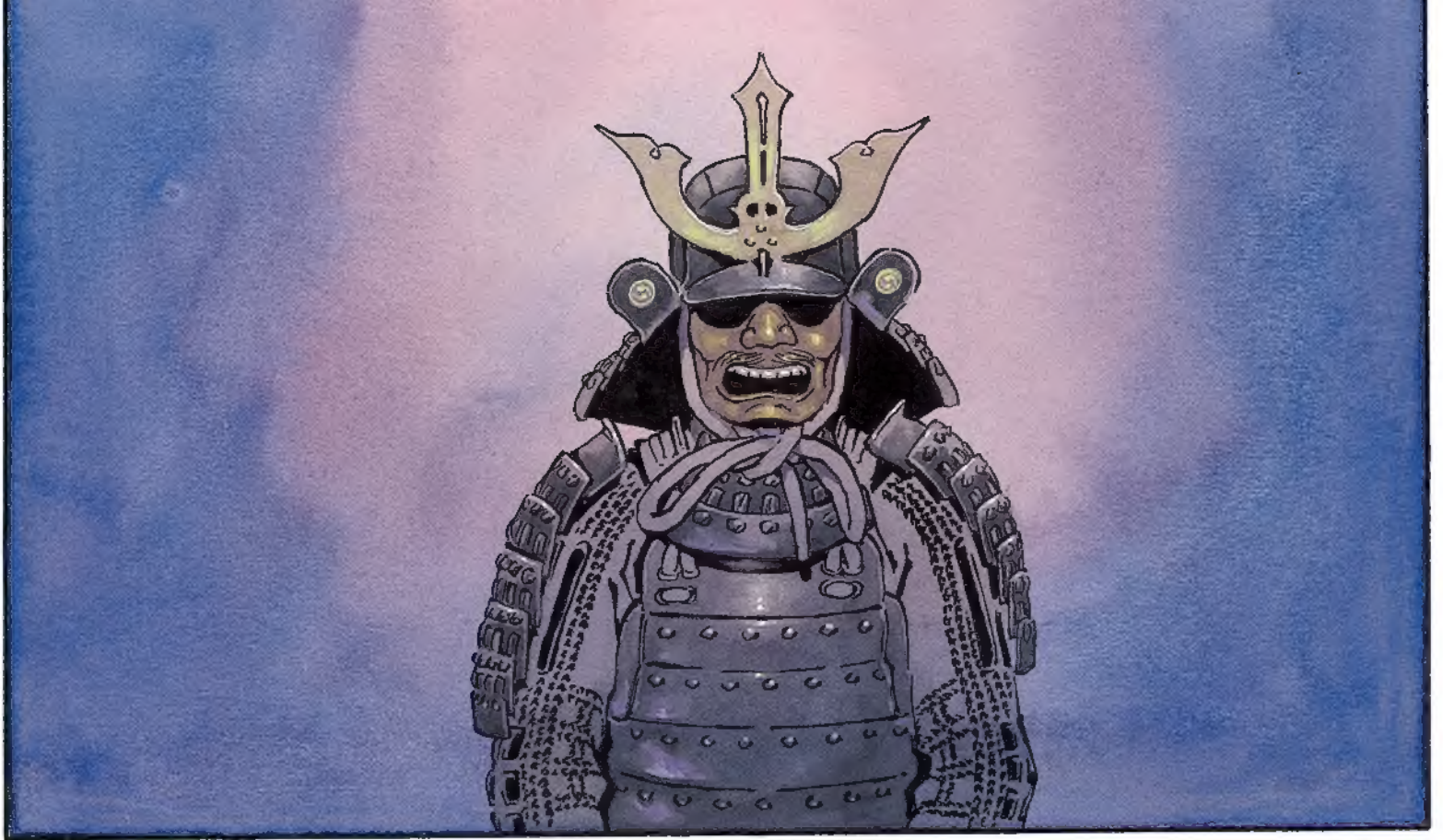
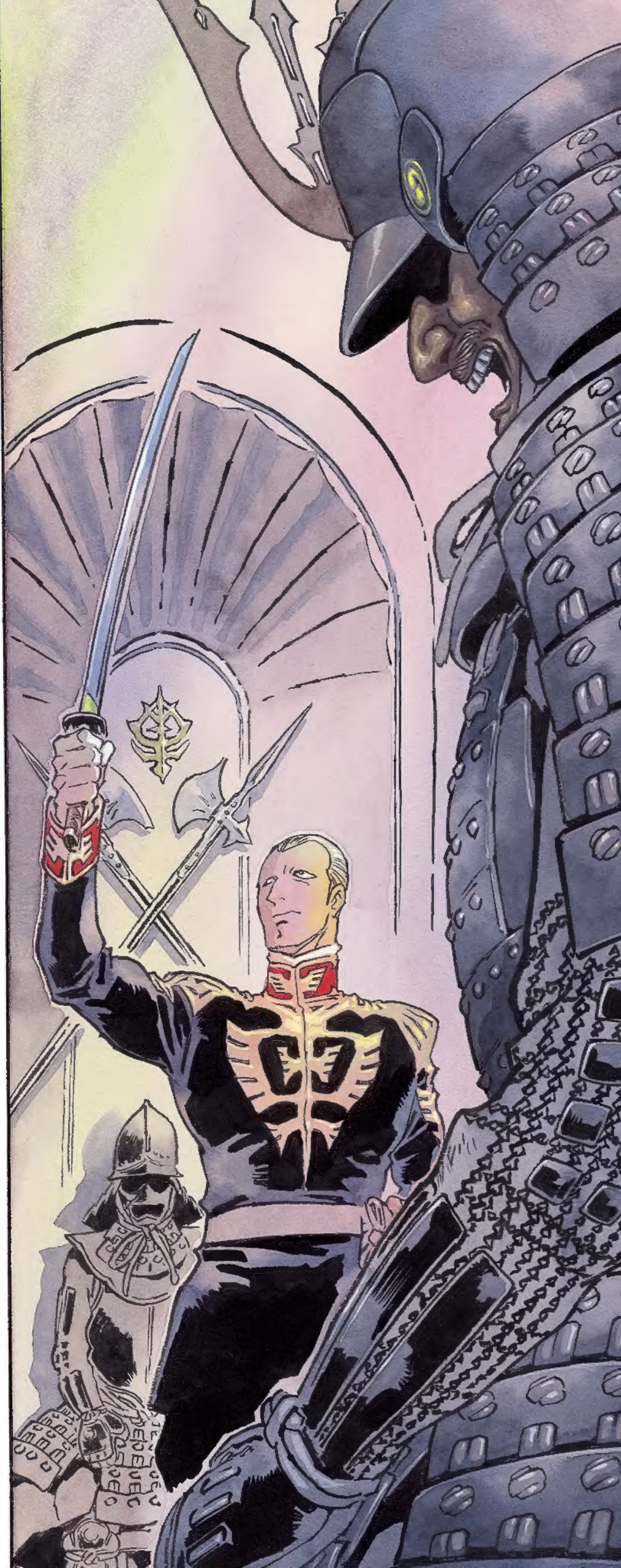
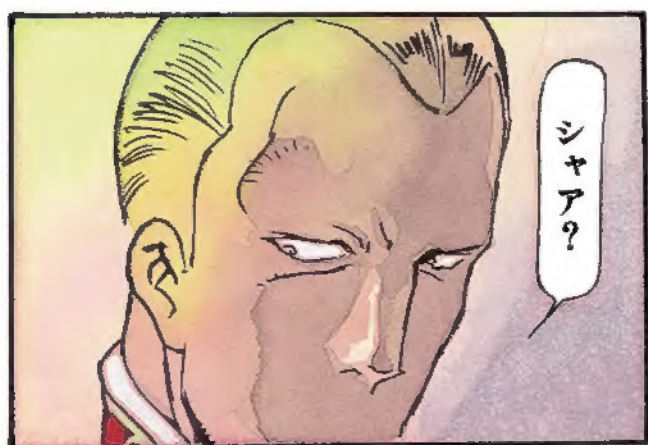
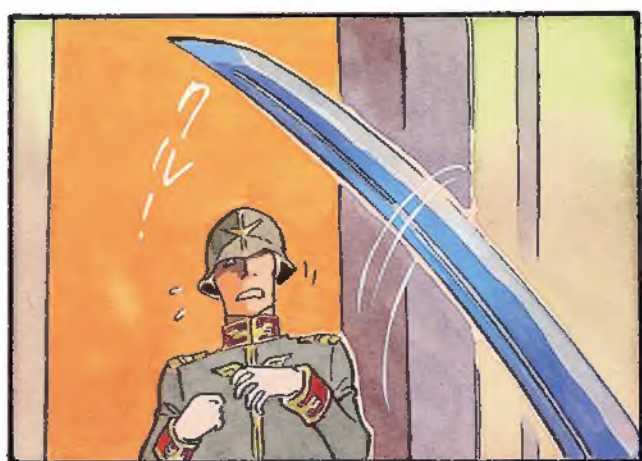
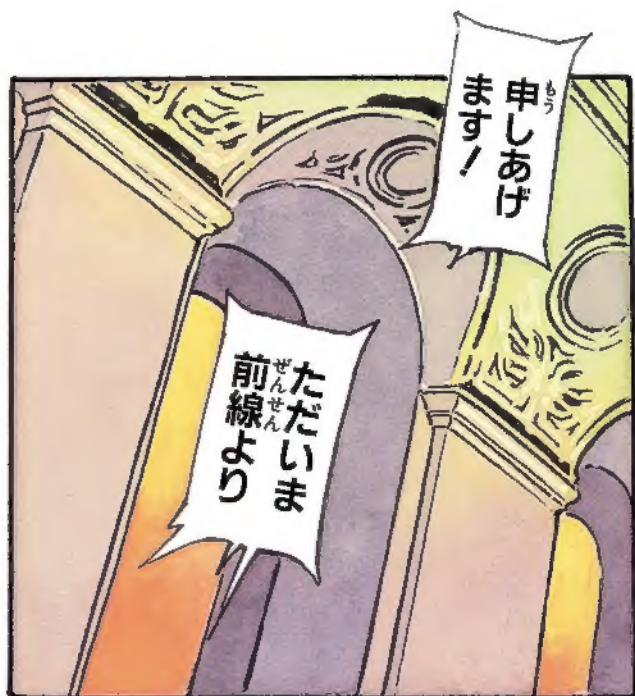
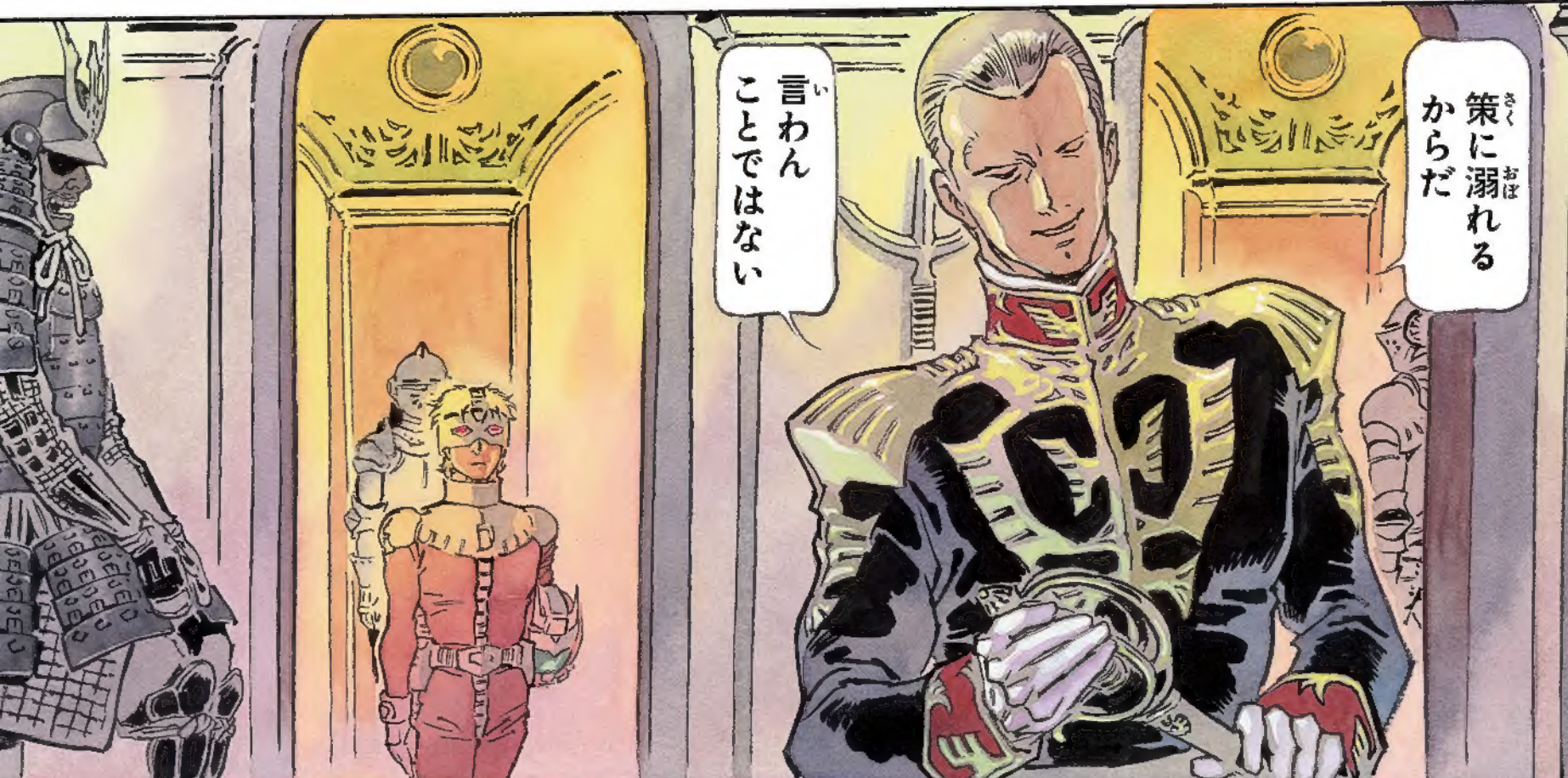
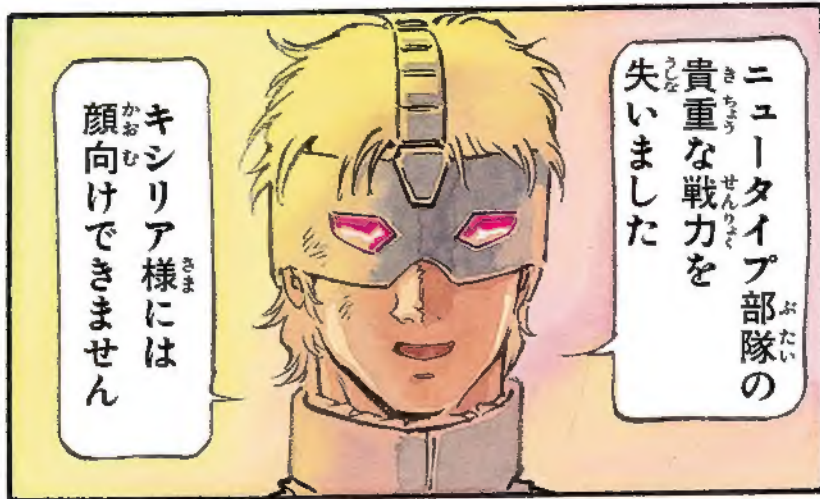
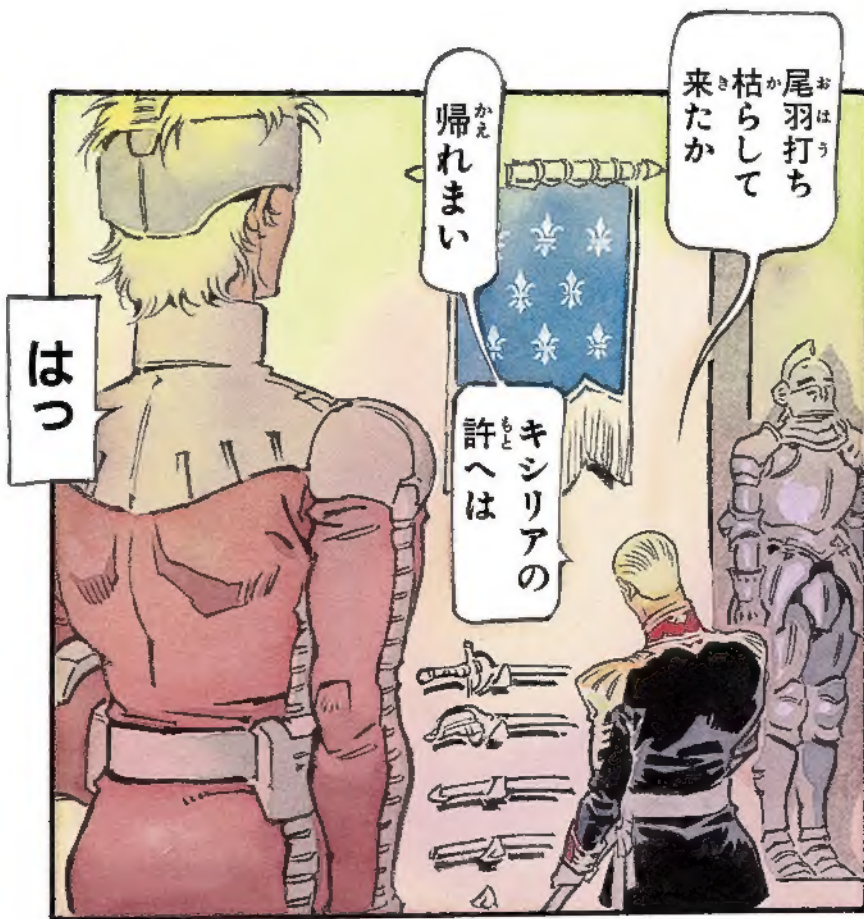
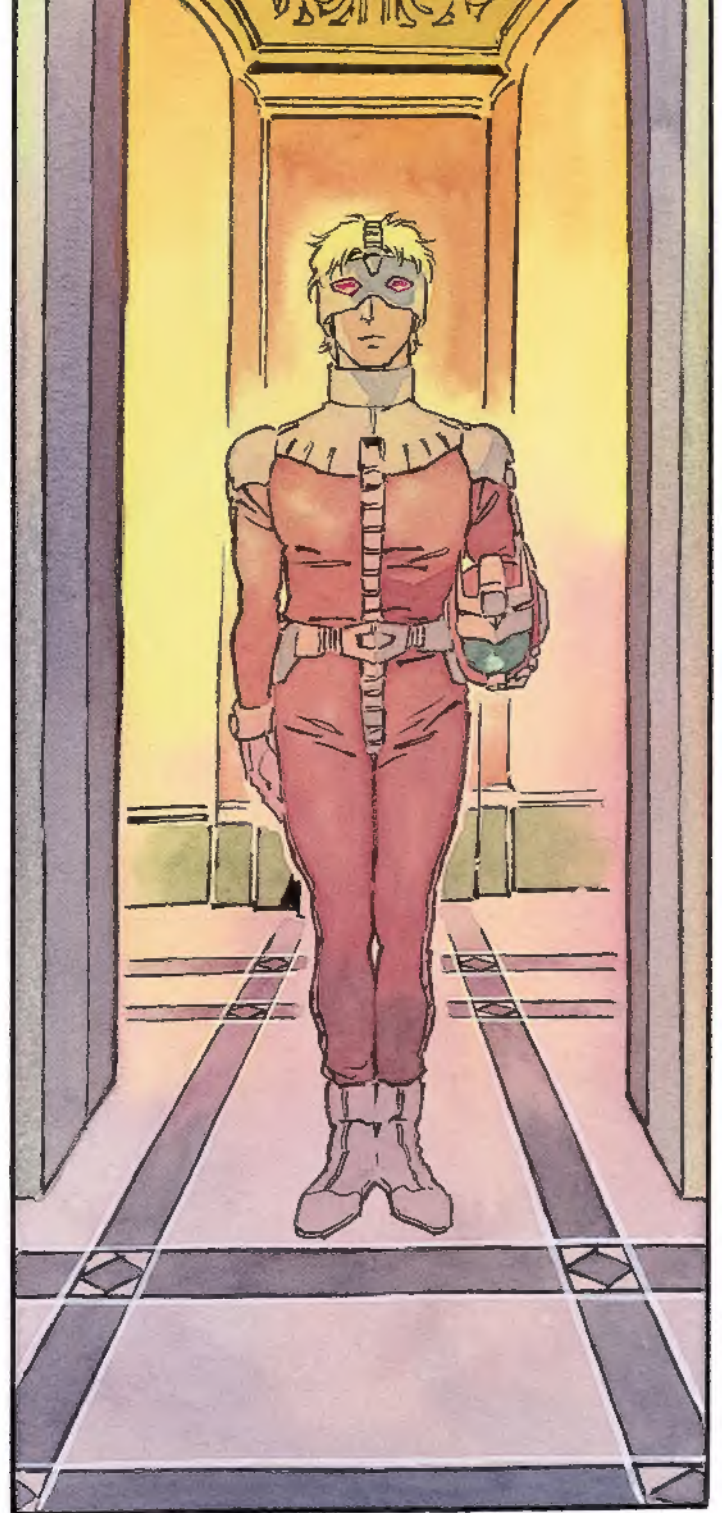
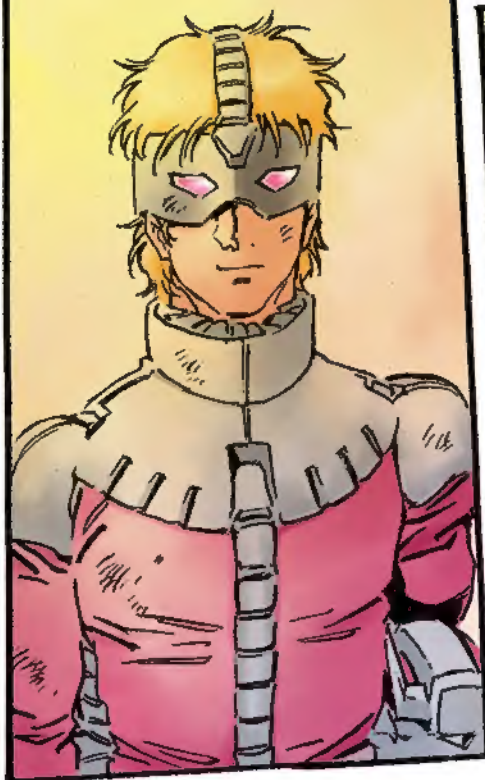
フッ

申しあげます！
ただいま前線より

クル！

シャア？

よい
ここへ通せ
パチ

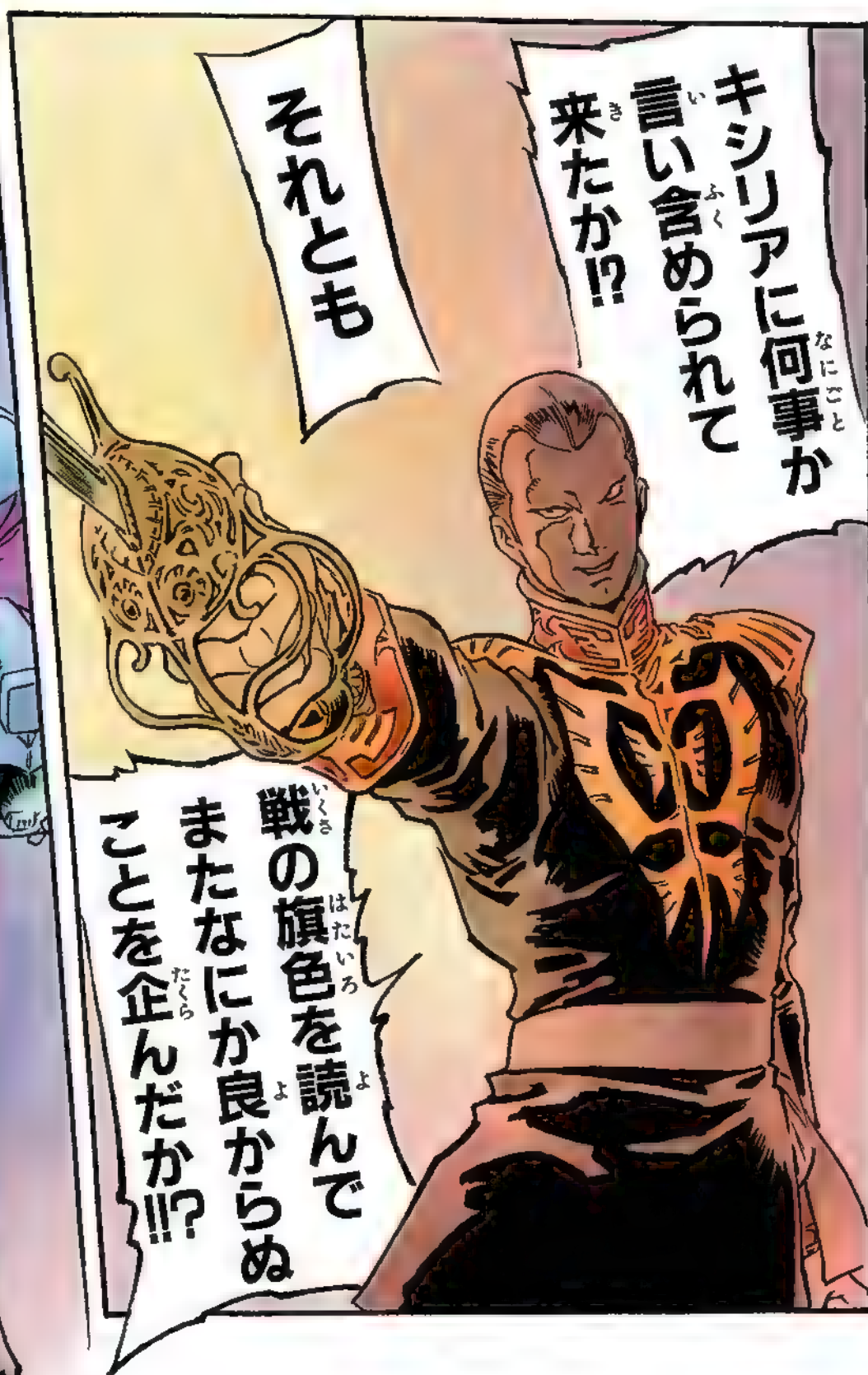
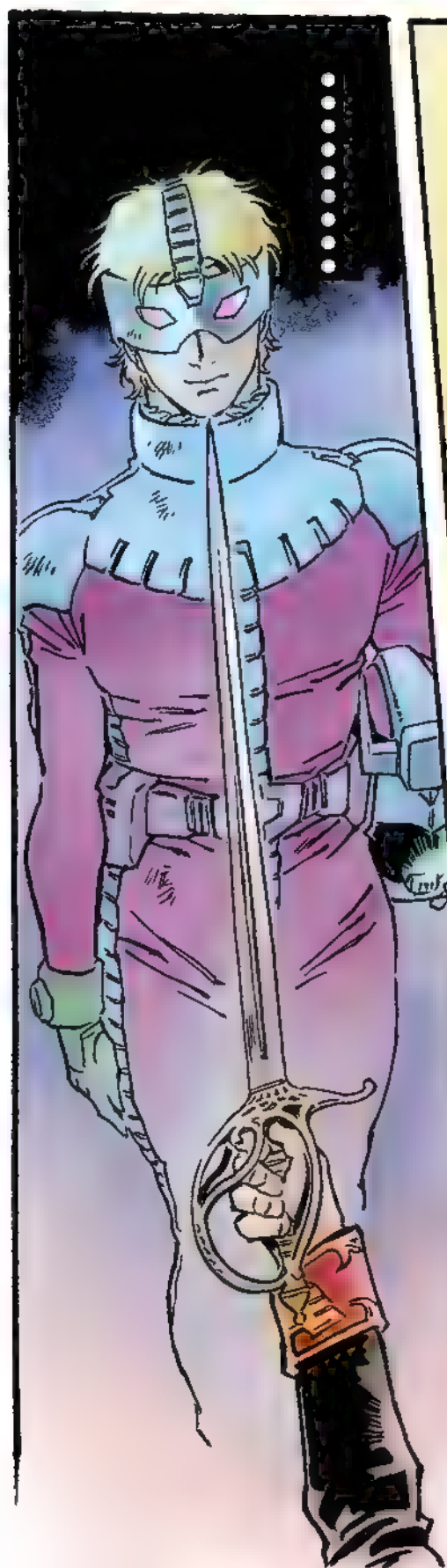
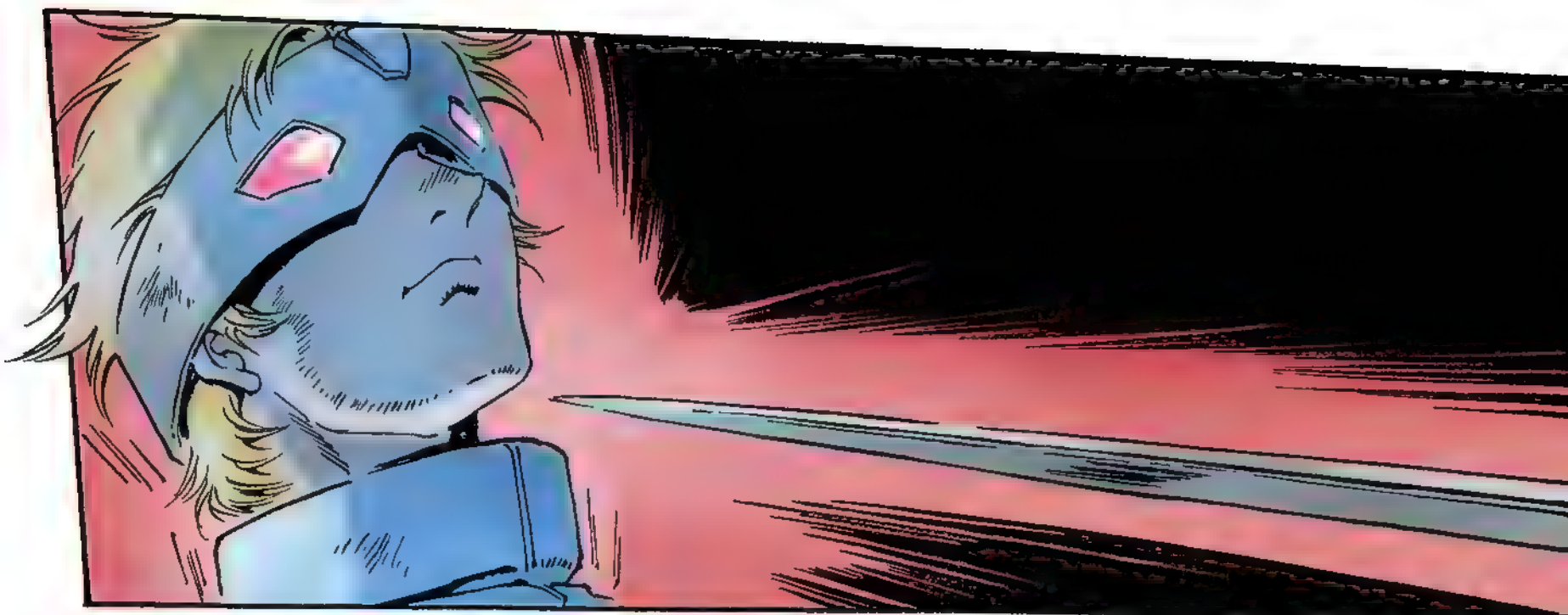
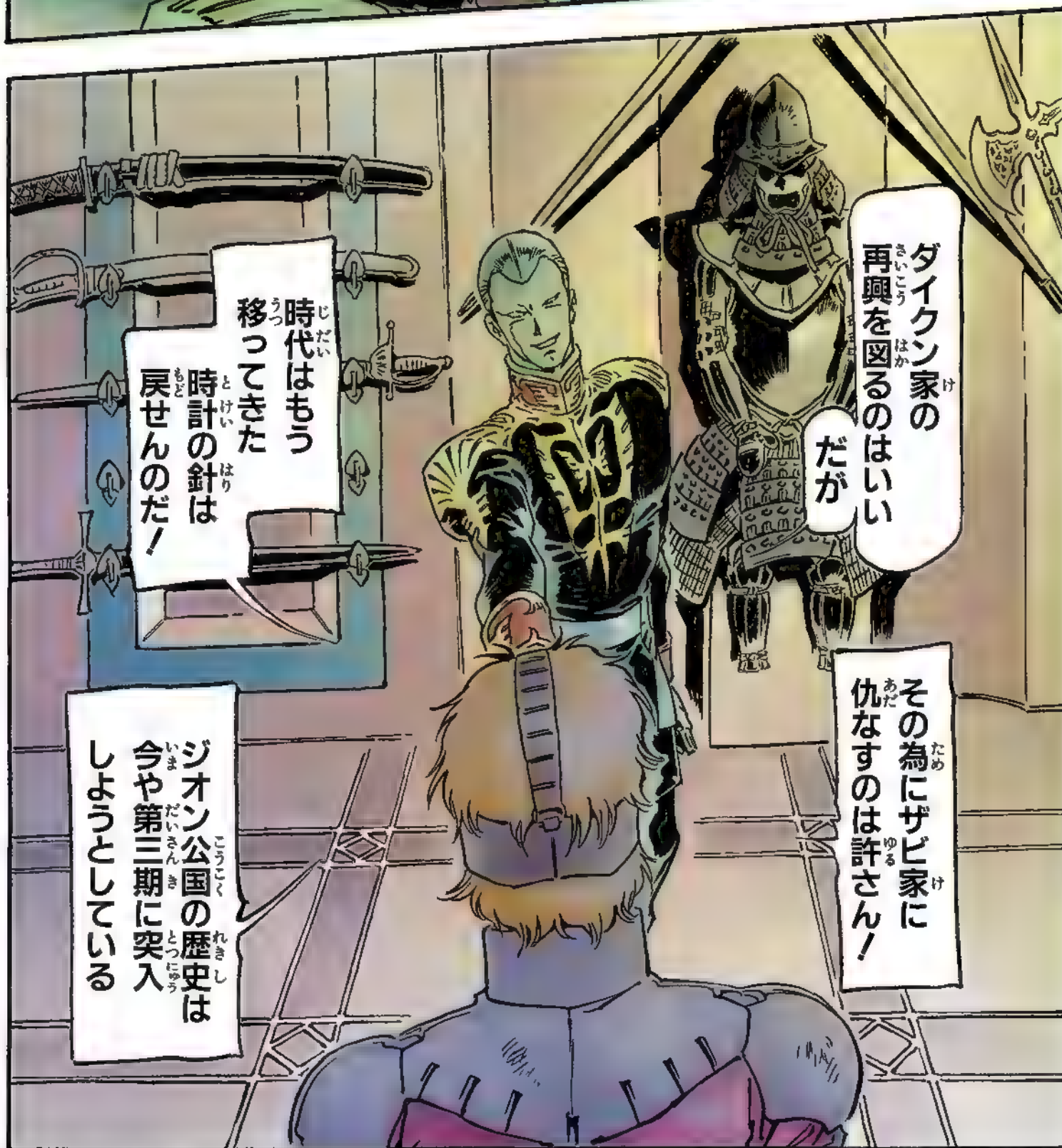
策に溺れるからだ
言わんことではない

キシリアは以前から御執心だったようだがわたしは眼中になかったのだ

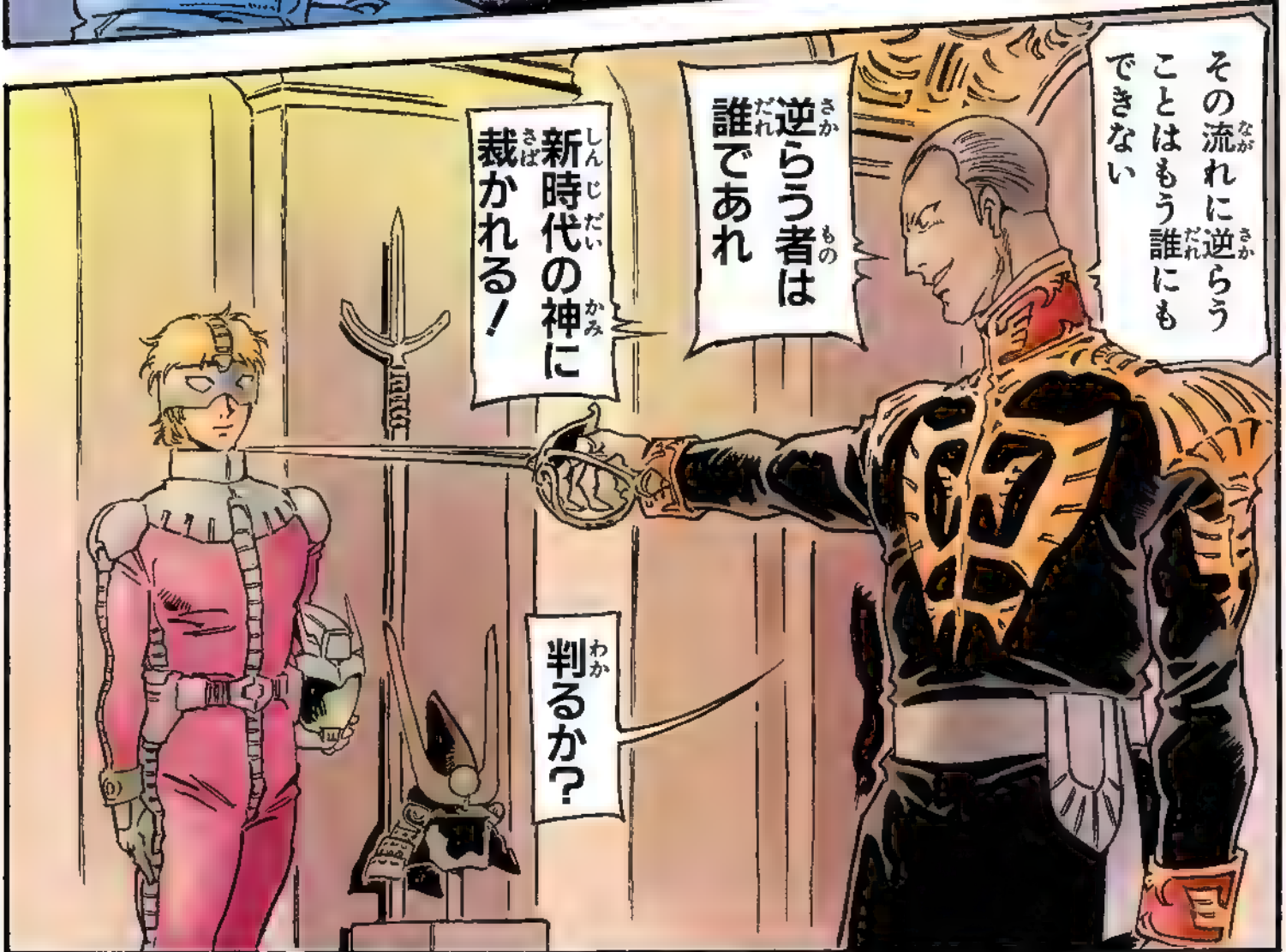
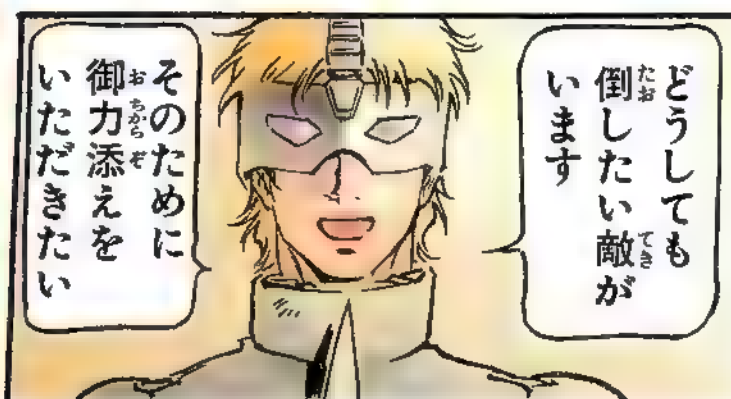
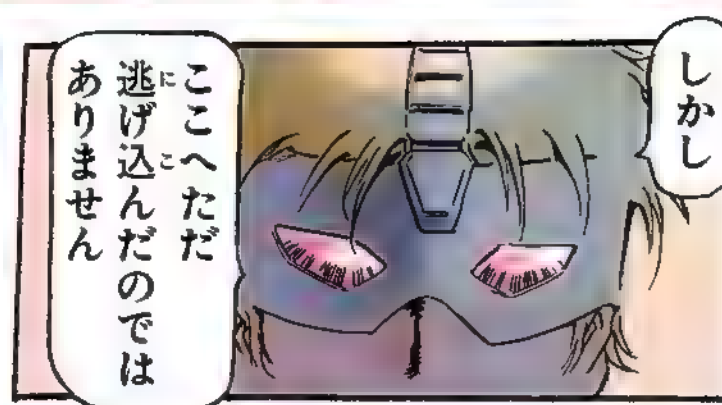
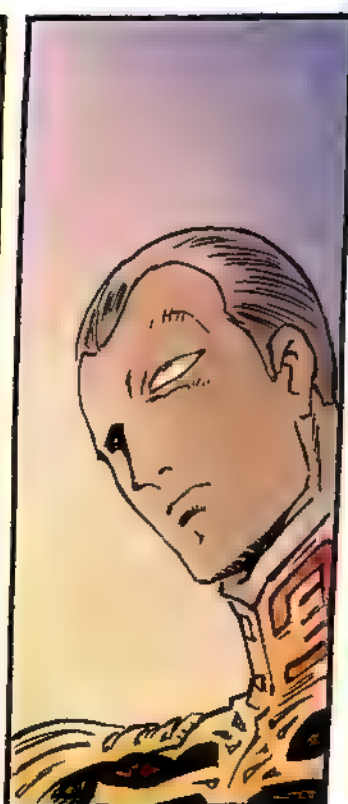
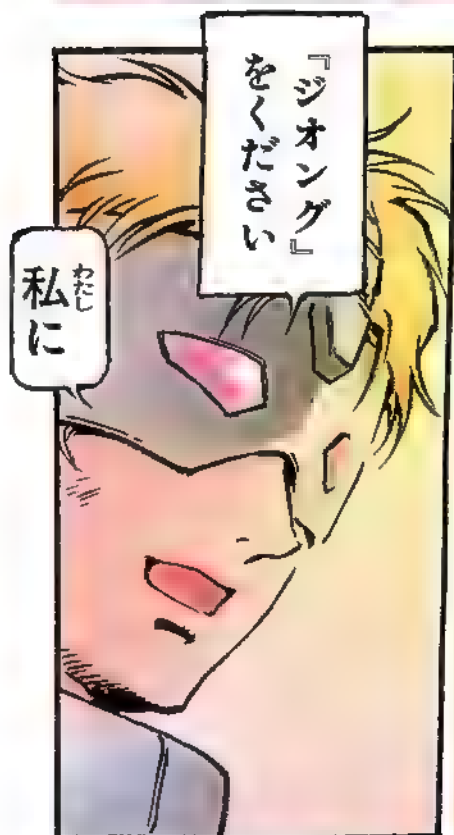
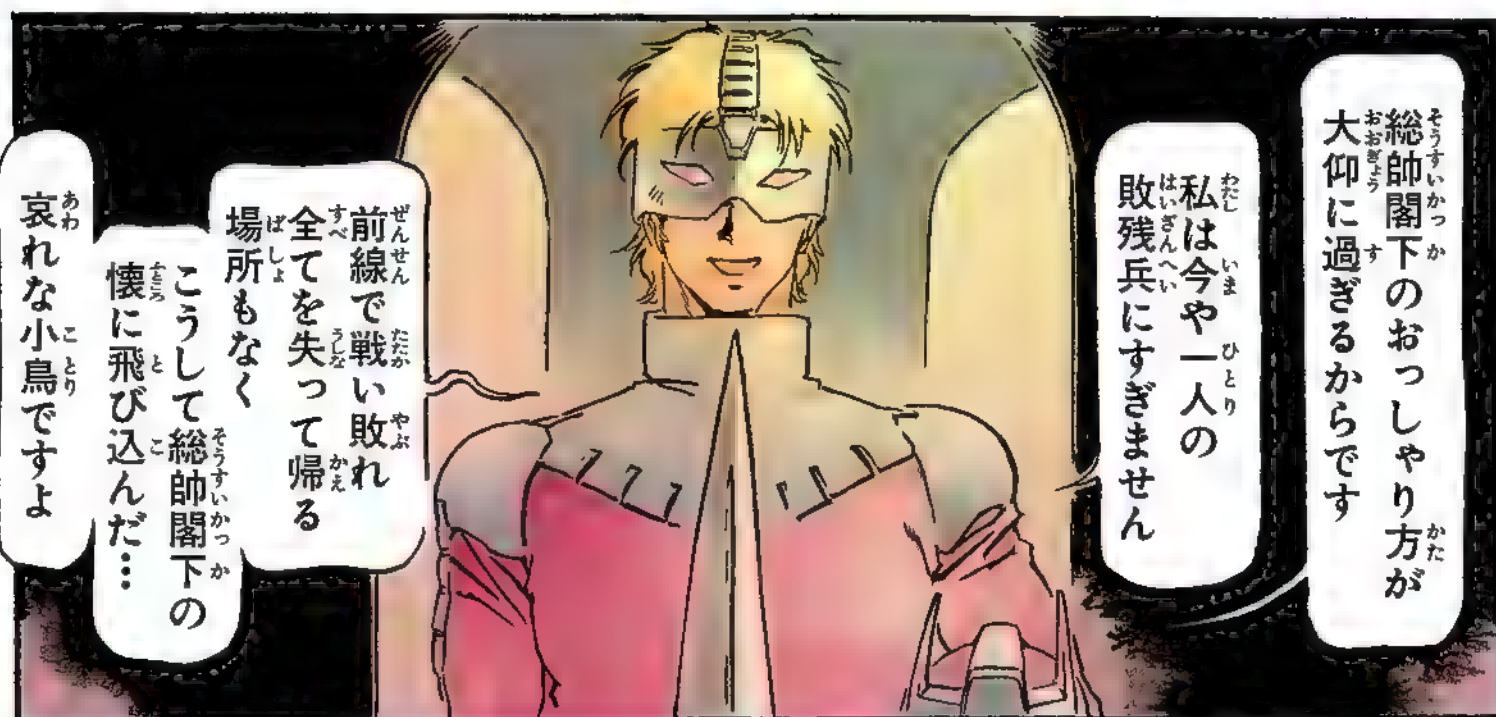
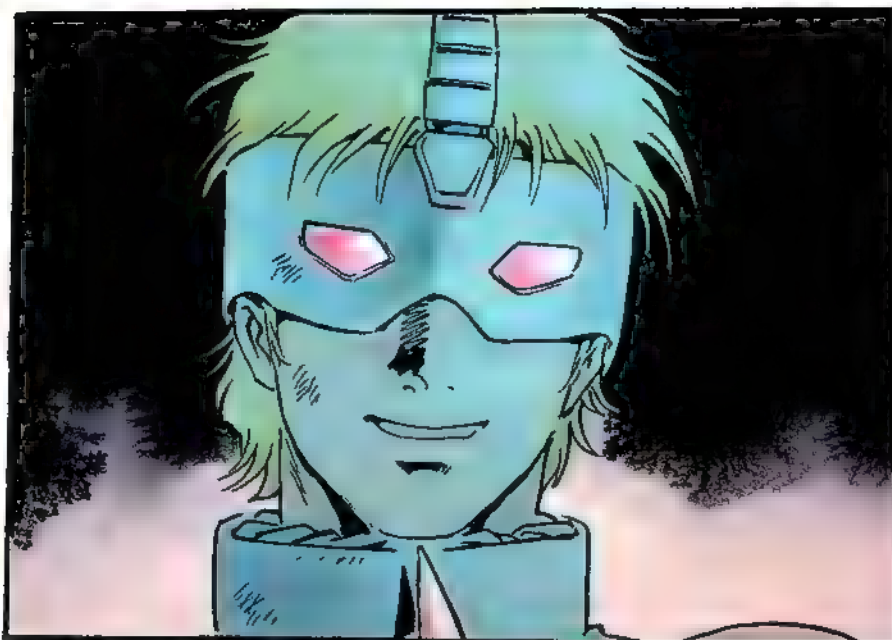
『ニュータイプ部隊』なぞ

そんなものなぞ無くても連邦に勝つことはできる

現に見てのとおりだ

おまえたちは敗れても我が軍が堂々と勝利しつつある

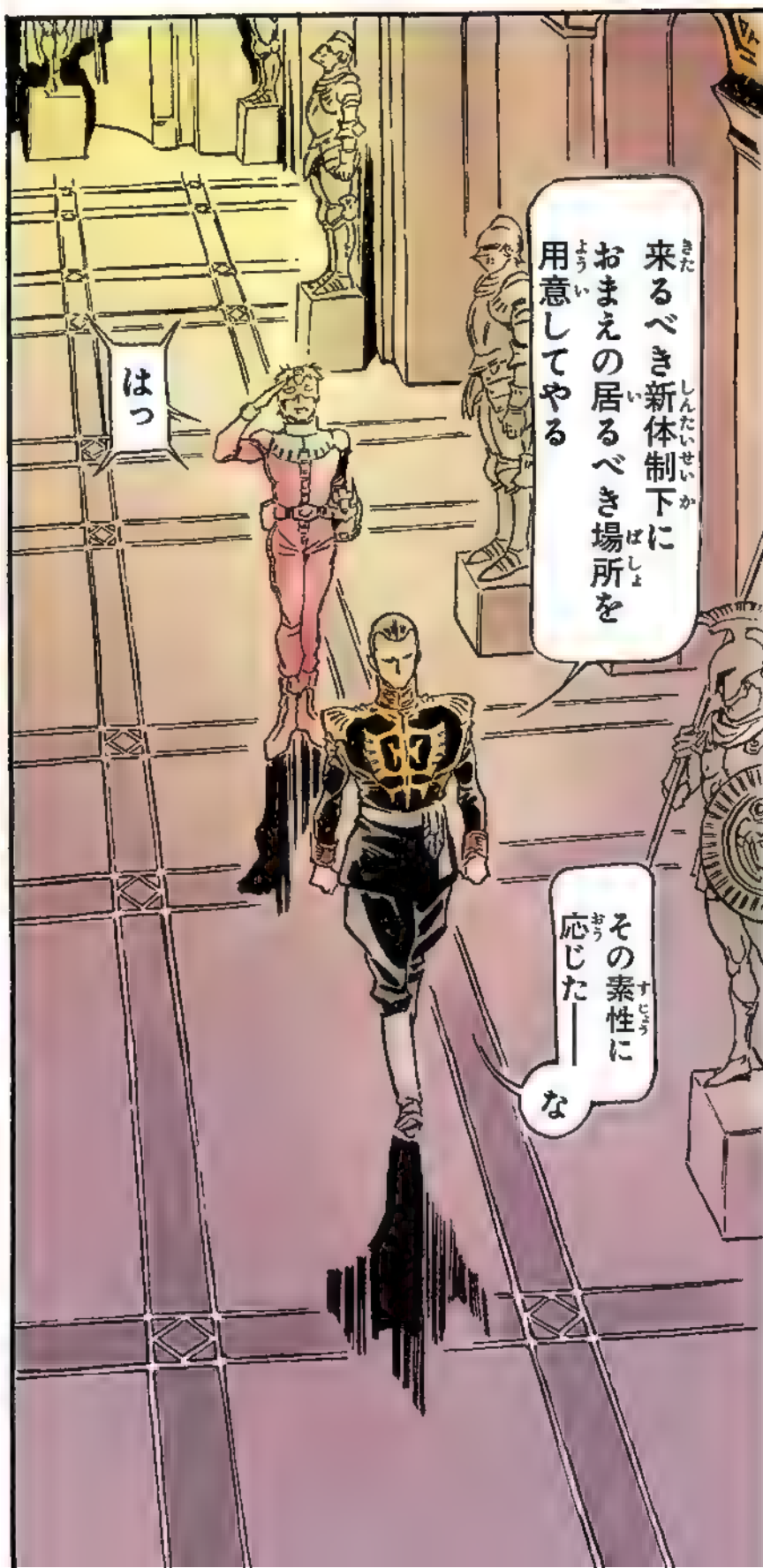
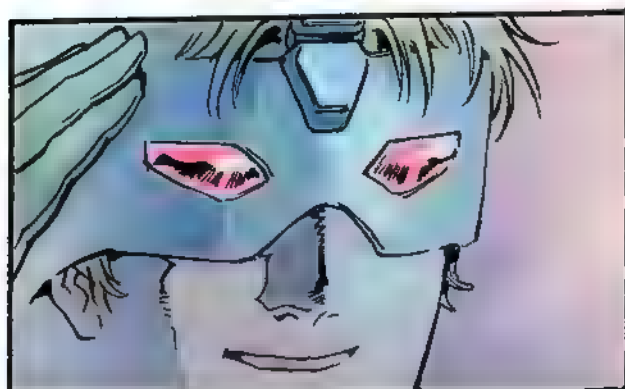
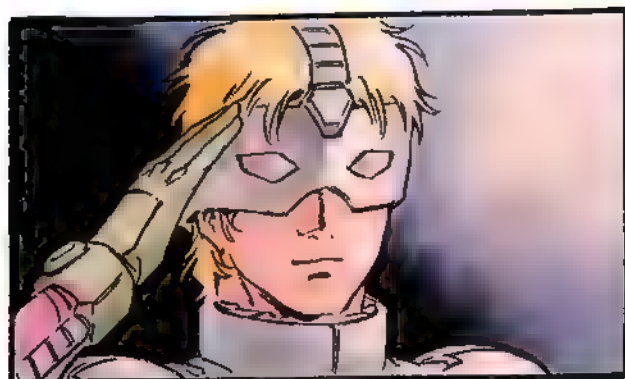
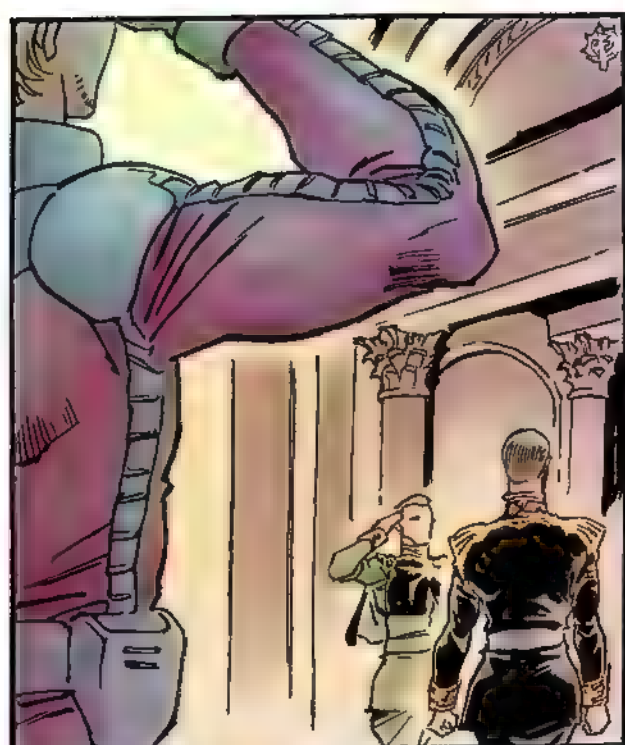
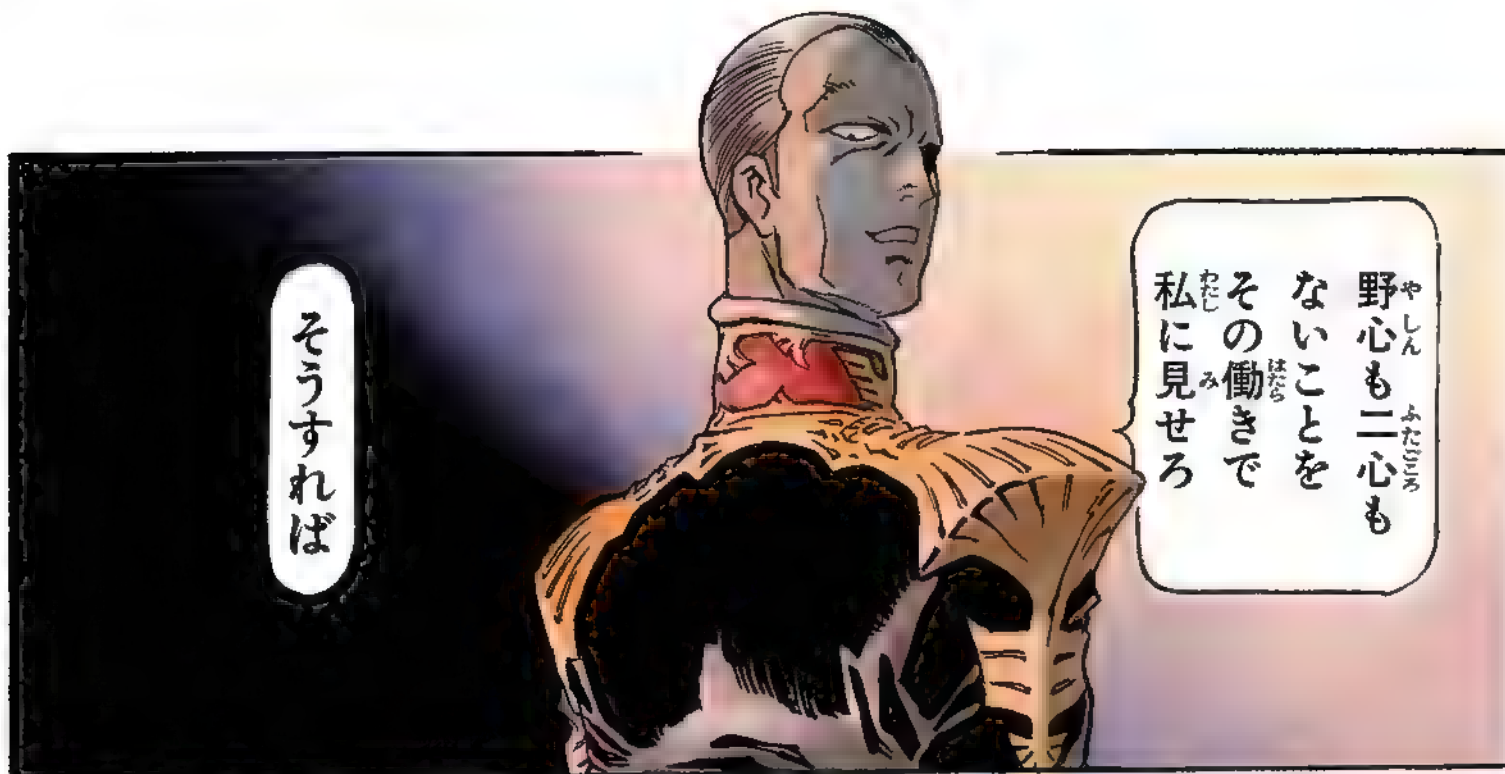
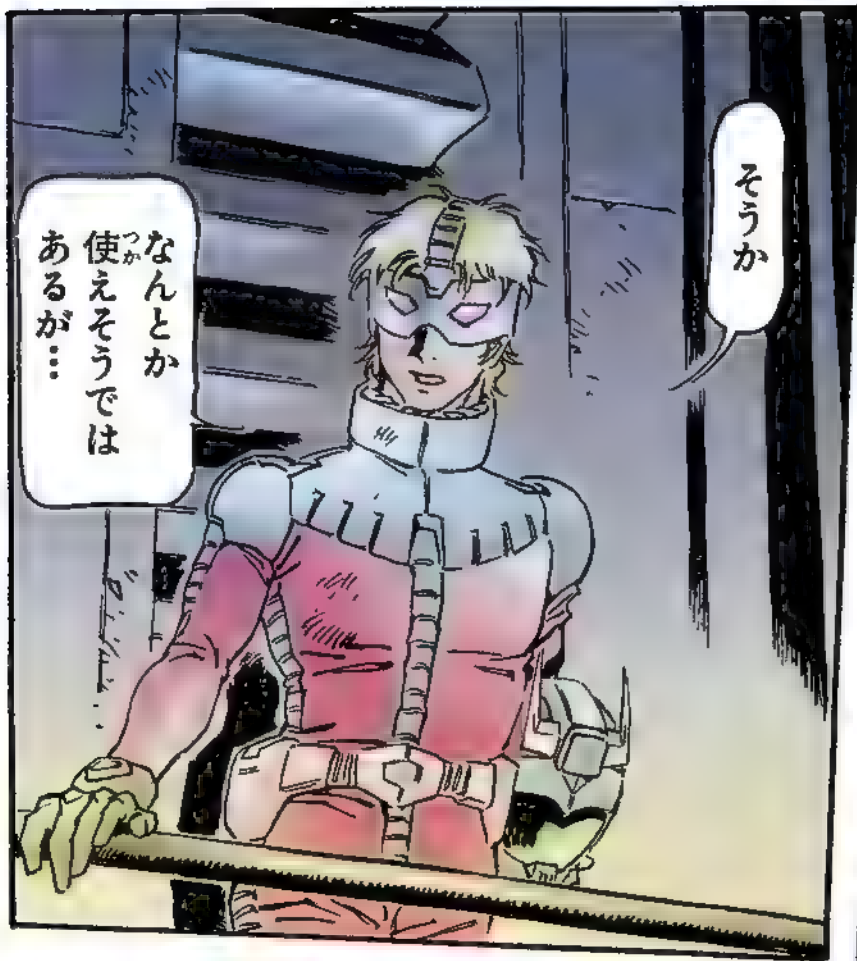
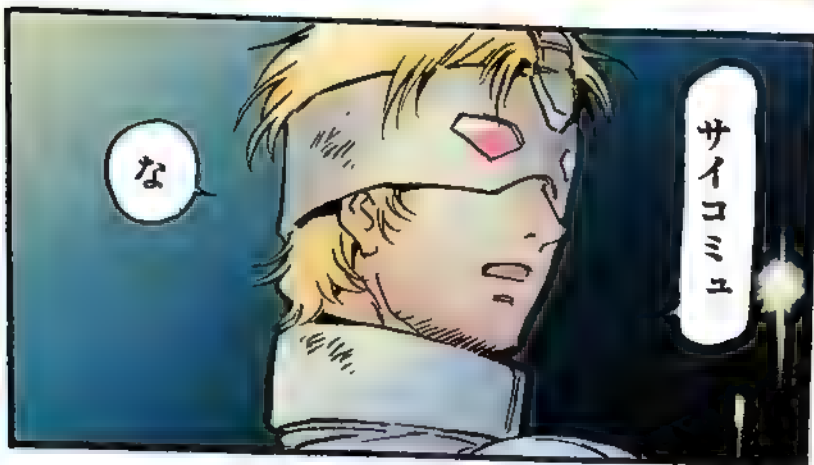
キシリアに何事か言い含められて来たか!?
それとも
戦の旗色を読んでまたなにか良からぬことを企んだか!!?

おまえが誰かということは知っているぞ
キシリア機関だけがジオンの諜報組織ではない
ダイクン家の再興を図るのはいいだが
時代はもう移ってきた
時計の針は戻せんのだ!
その為にザビ家に仇なすのは許さん!
ジオン公国の歴史は今や第三期に突入しようとしている

ザビ家の時代から この私の時代へ！
勝利した戦後の『人の革新』の時代へ!!
……………
その流れに逆らうことはもう誰にもできない
逆らう者は誰であれ
新時代の神に裁かれる！
判るか？

?!
なぜ笑う?!!
総帥閣下のおっしゃり方が大仰に過ぎるからです
私は今や一人の敗残兵にすぎません
前線で戦い敗れ全てを失って帰る場所もなく
こうして総帥閣下の懐に飛び込んだ…
哀れな小鳥ですよ
しかし
ここへただ逃げ込んだのではありません
どうしても倒したい敵がいます
そのために御力添えをいただきたい
私に
『ジオング』をください

知っていたのか
やはりスミに置けんな

総帥閣下直属のプロジェクトチームが全く新しい世代のモビルアーマー開発に成功したことを知らない者はおりません
すくなくともキシリア様の幕僚の中には

ただしこれは或る種の誓約だ
窮したおまえは私の懐に飛び込み私はそれを受け容れた

もちろん

野心も二心もないことをその働きで私に見せろ
そうすれば
来るべき新体制下におまえの居るべき場所を用意してやる
はっ
その素性に応じた──な

ゴオン!
ゴオン
ゴオン
80パーセント?
冗談じゃありません
現状でジオングの性能は100パーセント出せます!

そりゃあま…
大佐のニュータイプ能力は未知数でありますから
保証できるわけではありませんが…

はっきり言うヤツだ
気にいらんな

へへへ
こりゃまどうも…
気休めかもしれませんが

大佐なら
うまくやれますよ

ん

あれか？

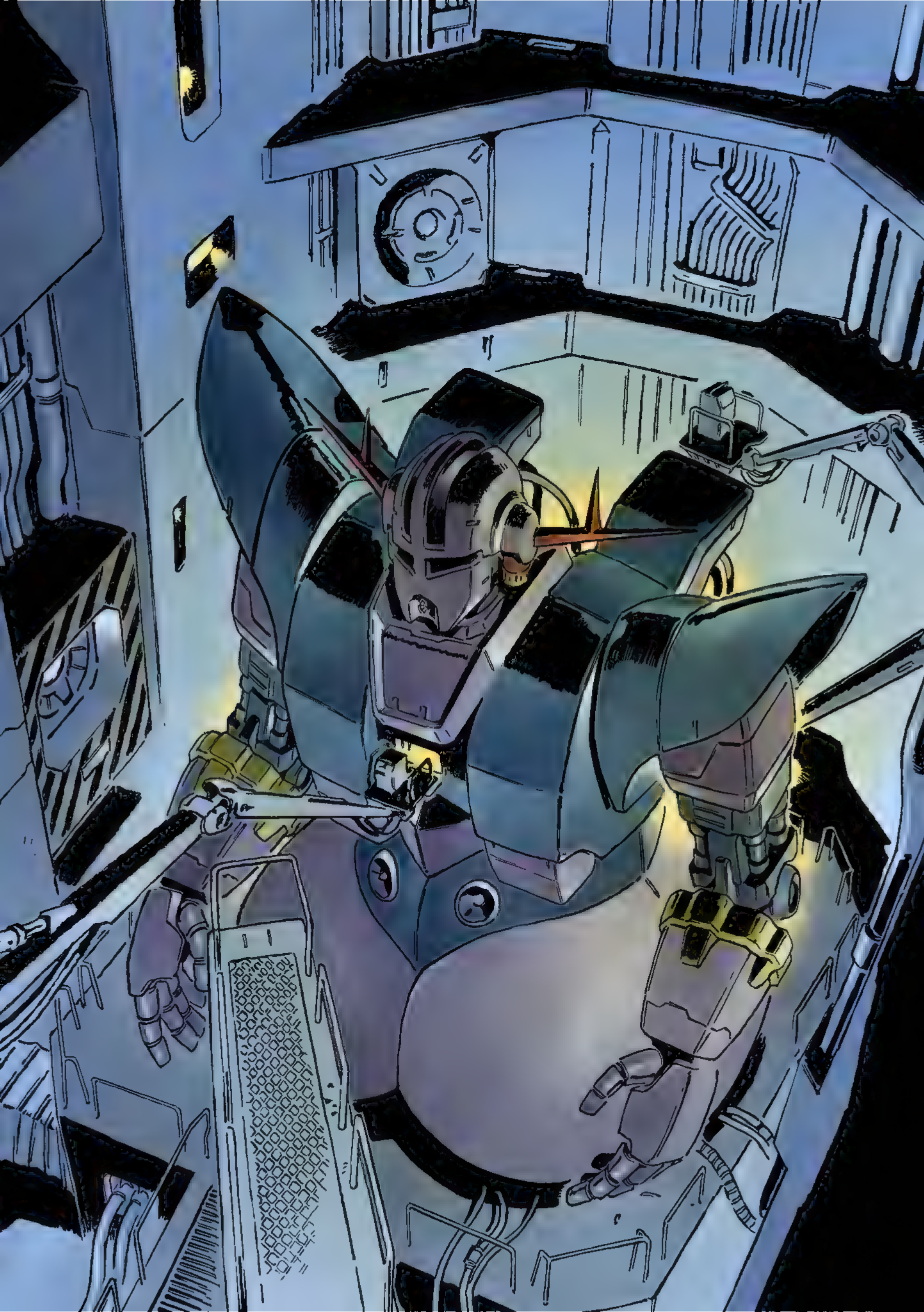
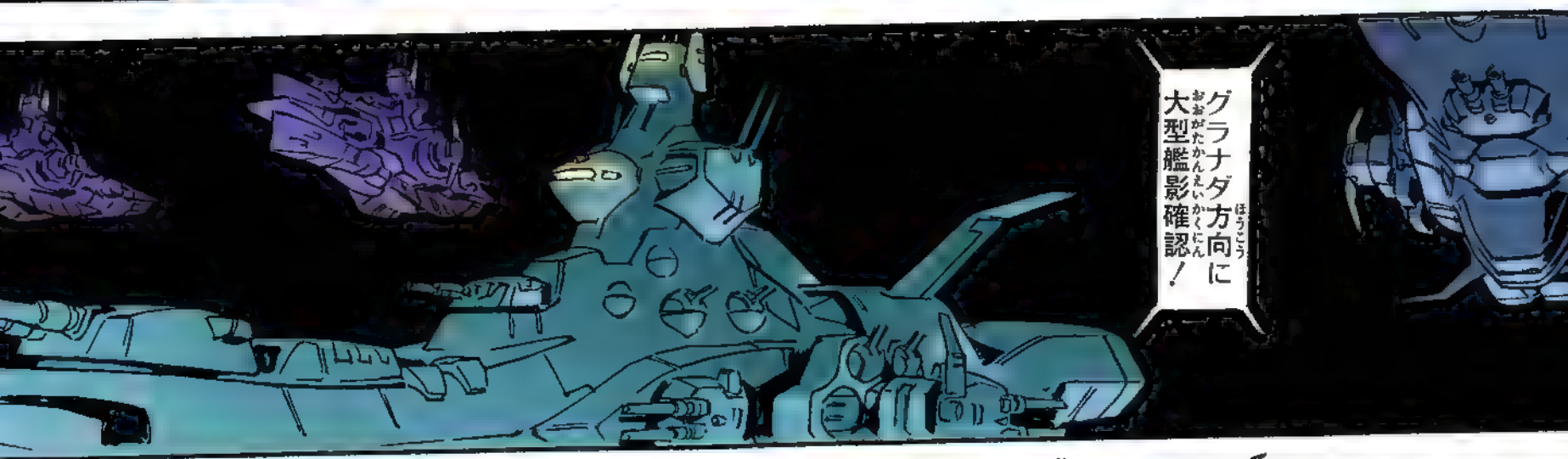
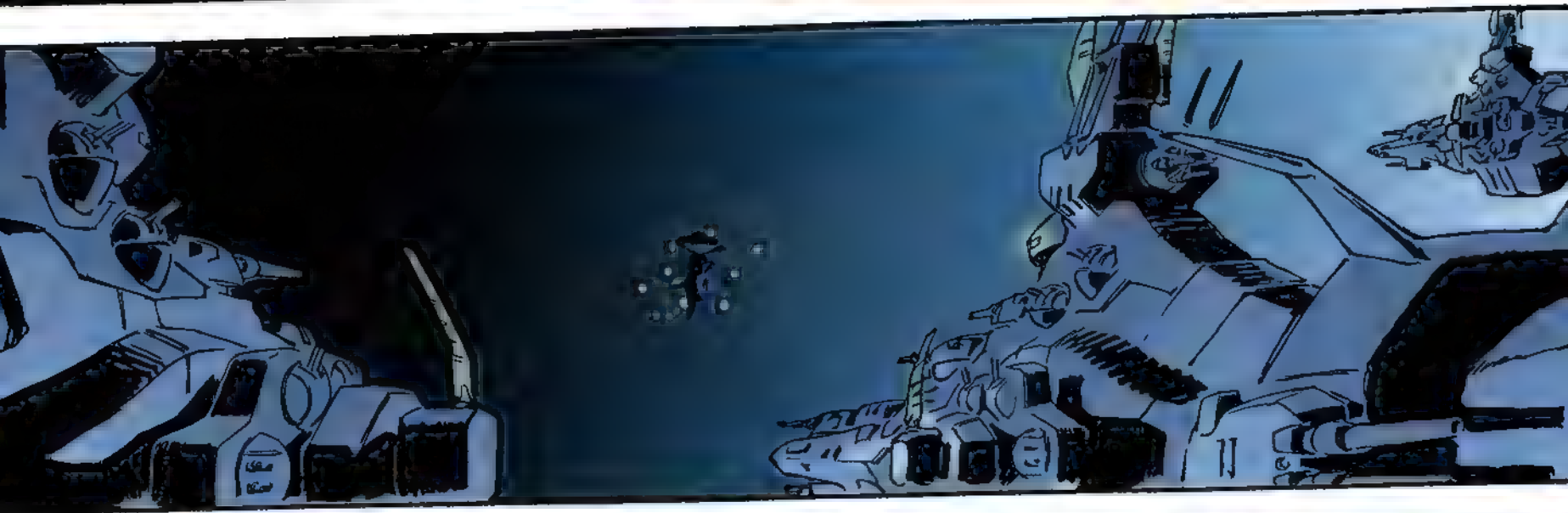
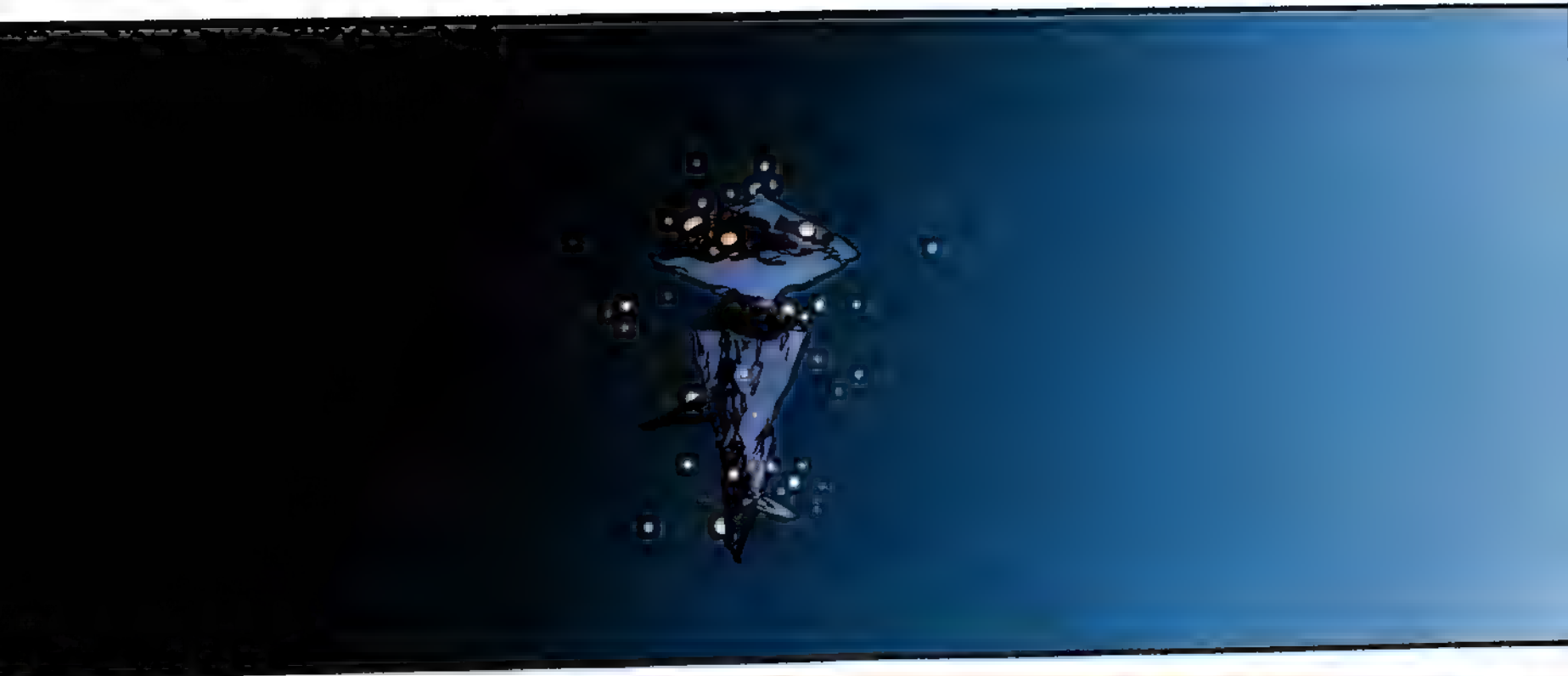
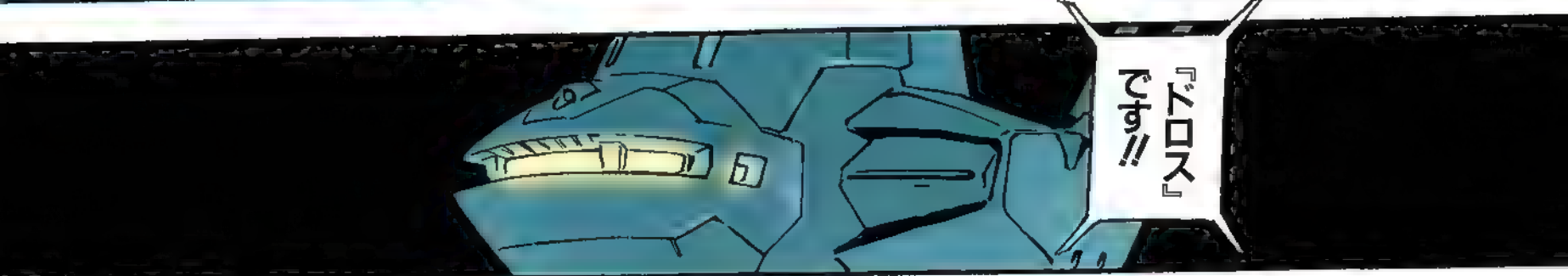
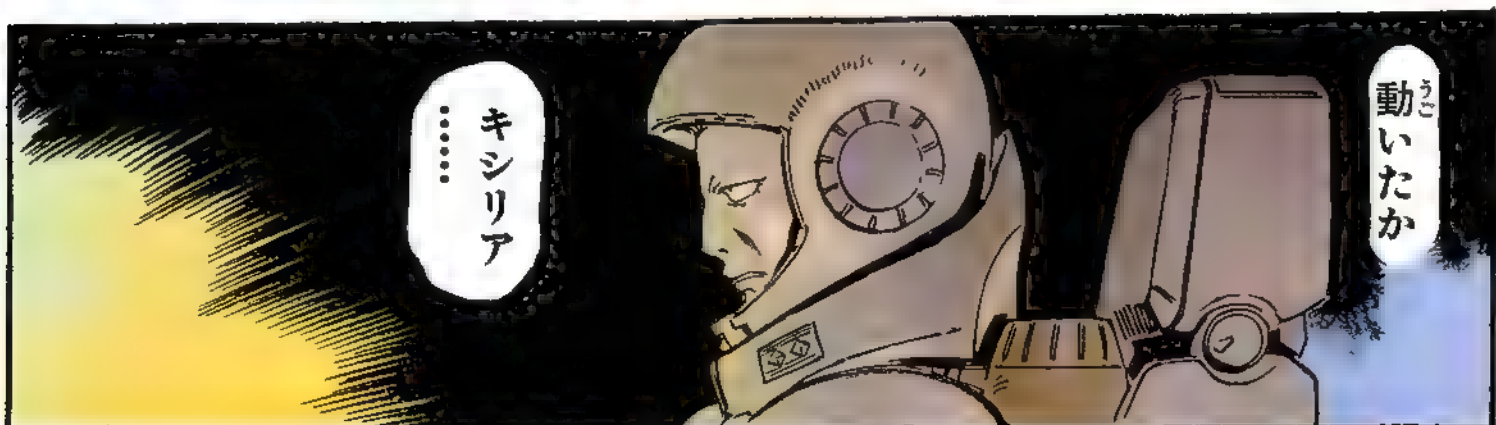
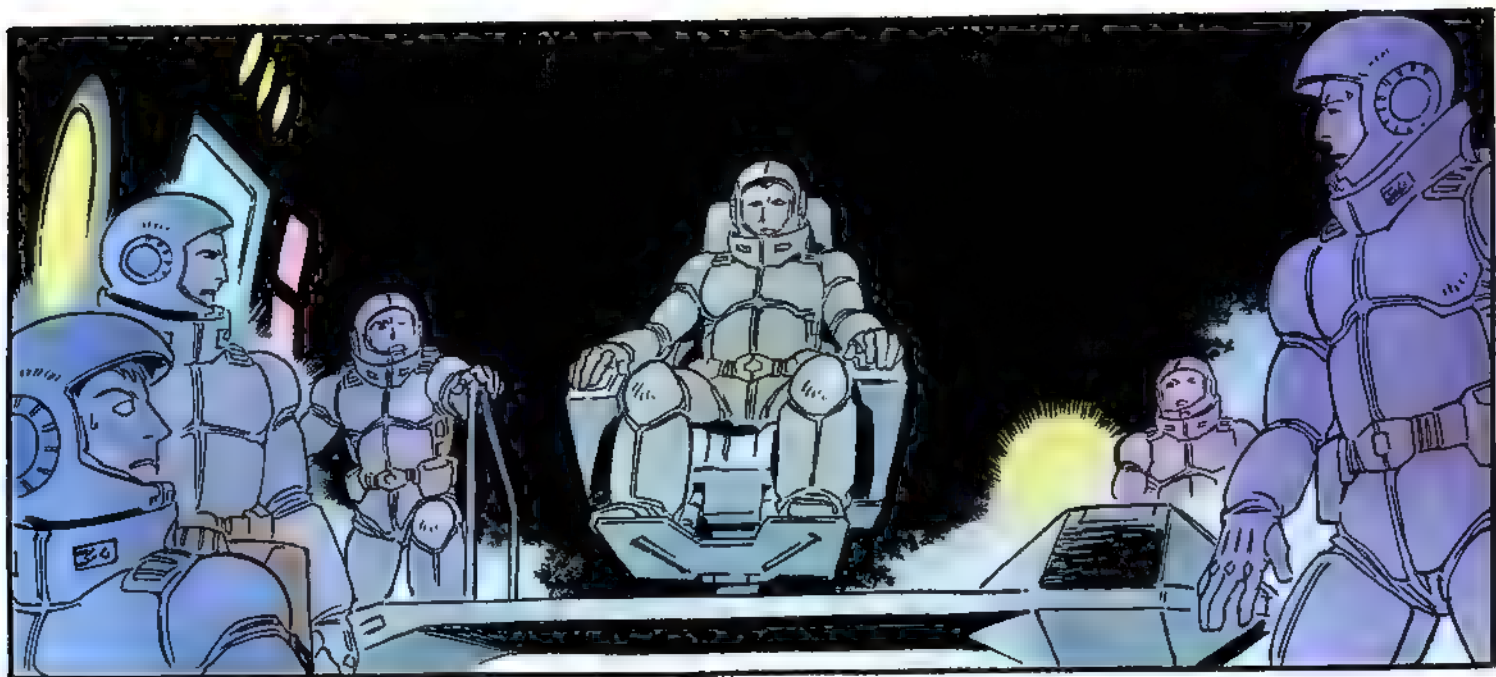
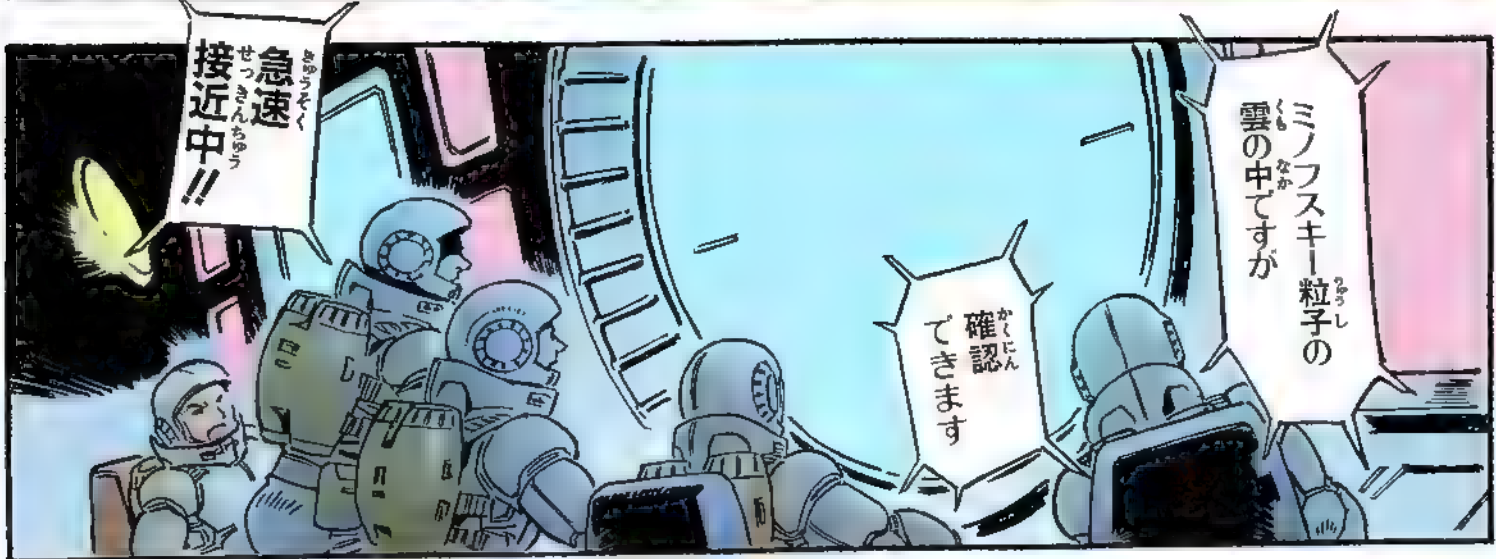
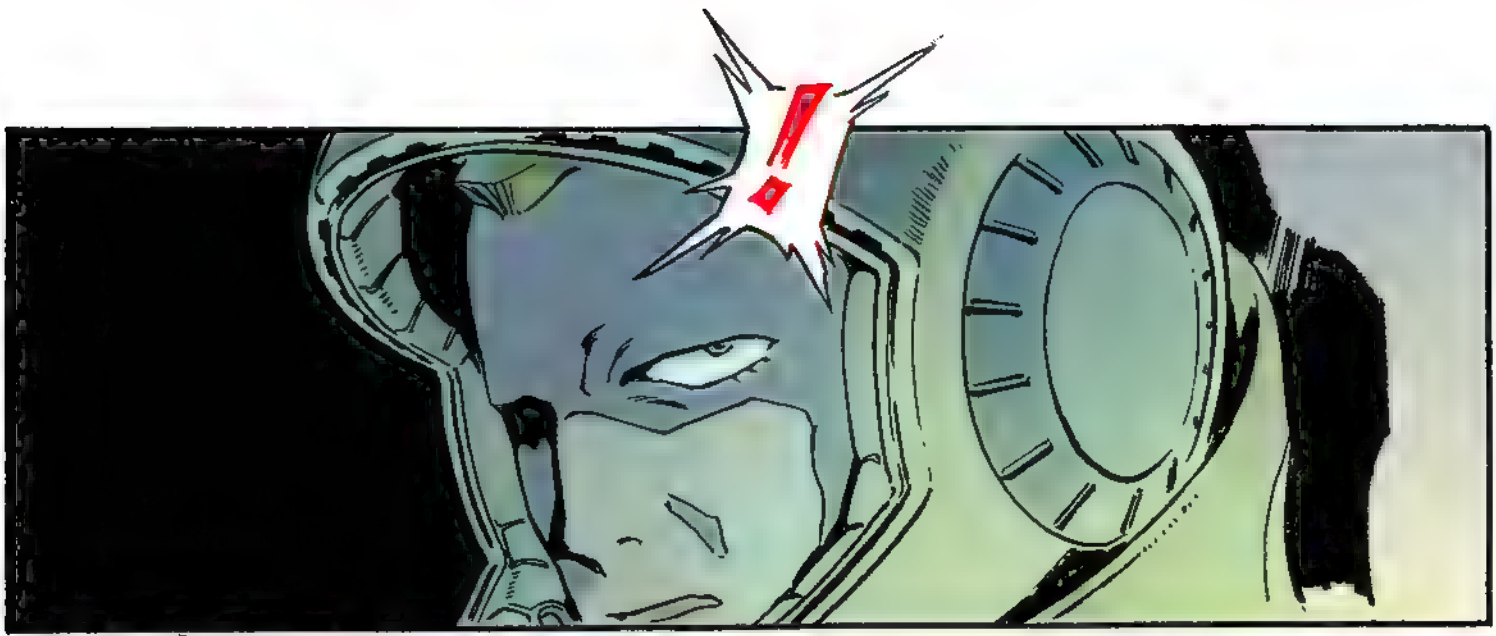
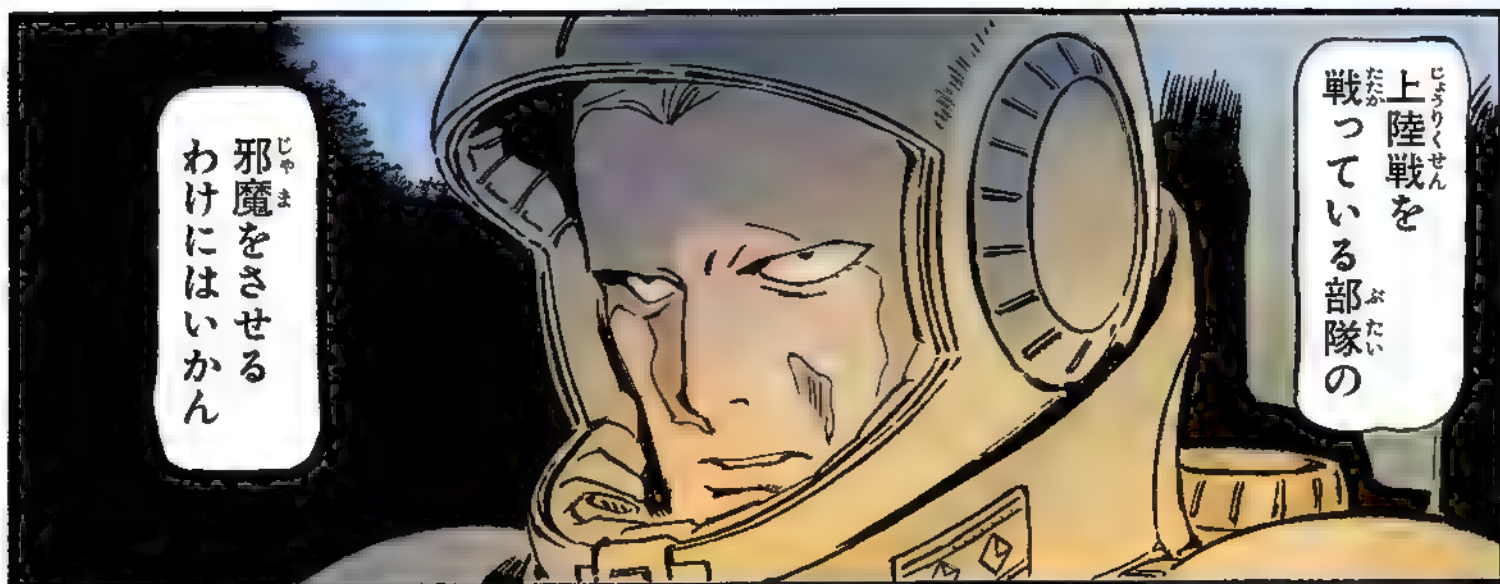
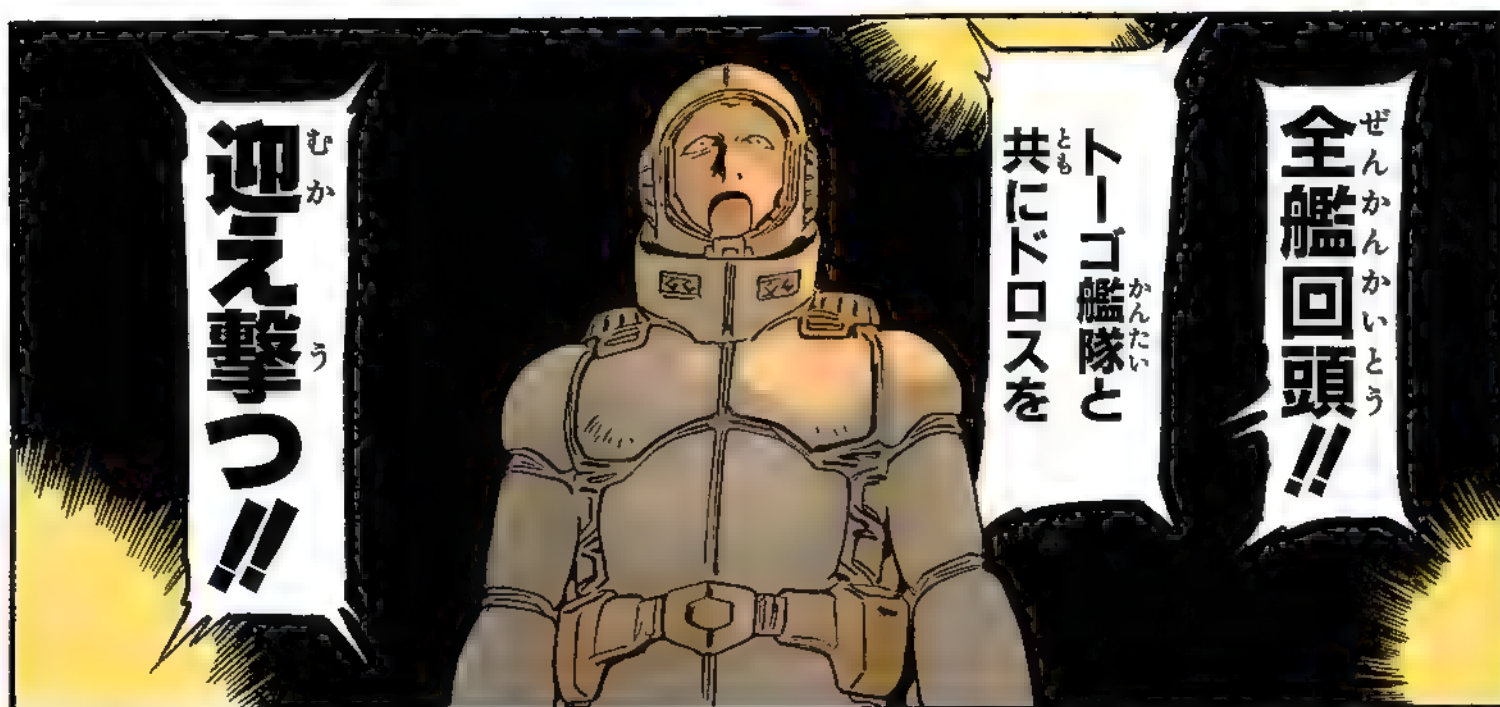
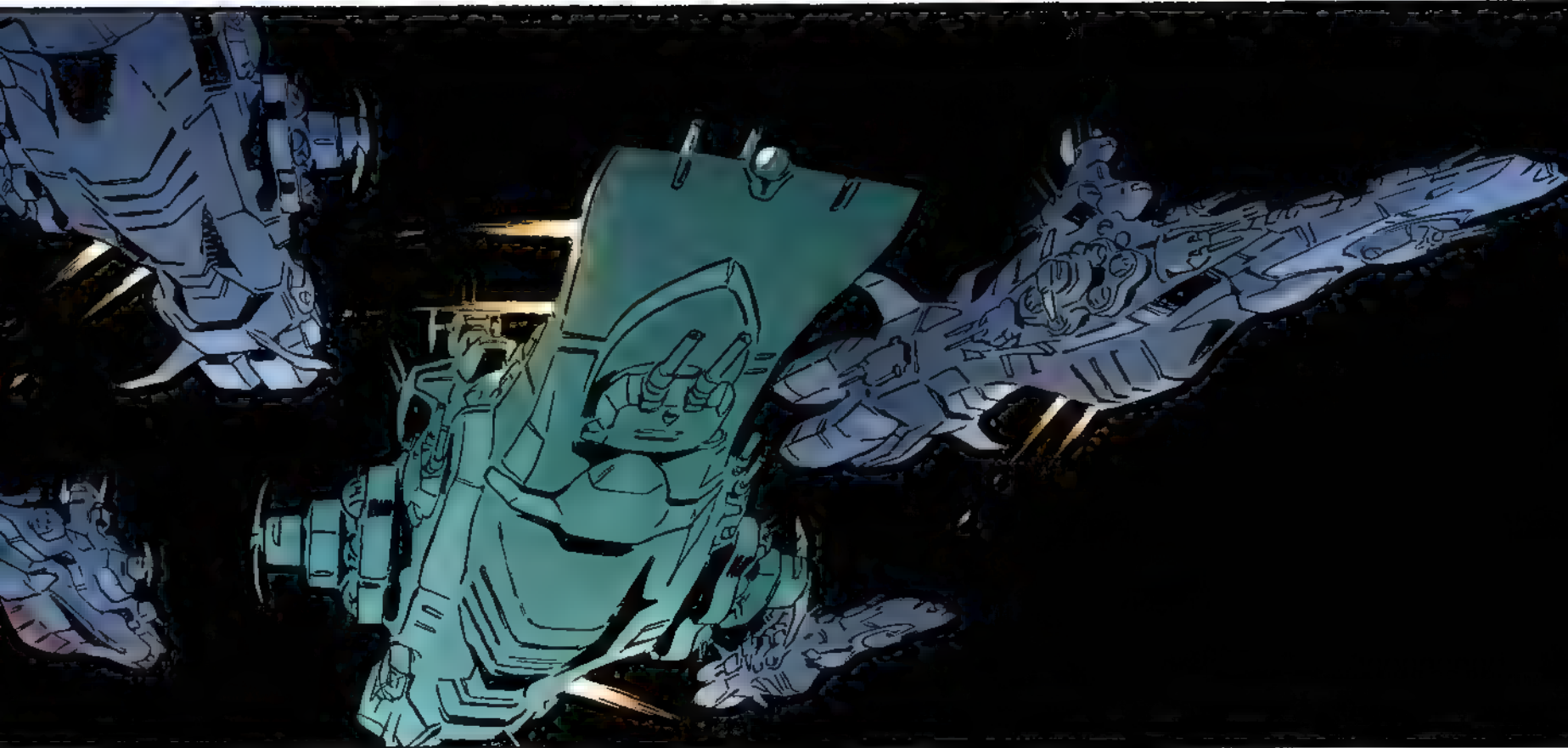
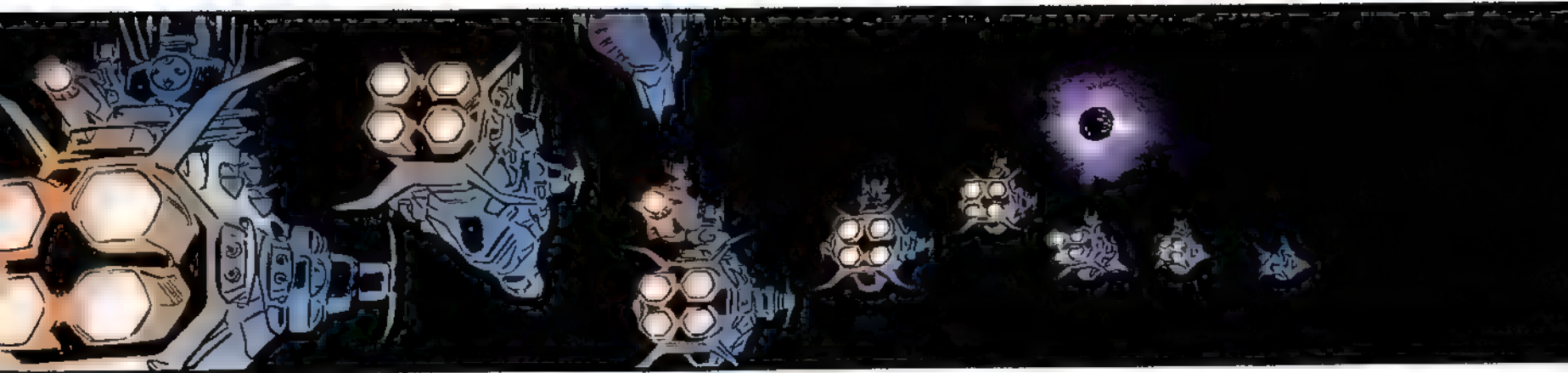
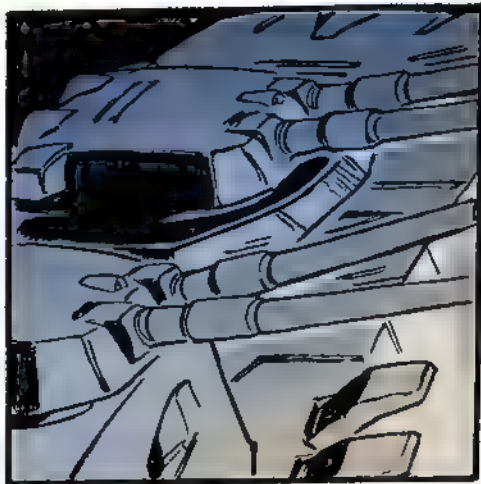
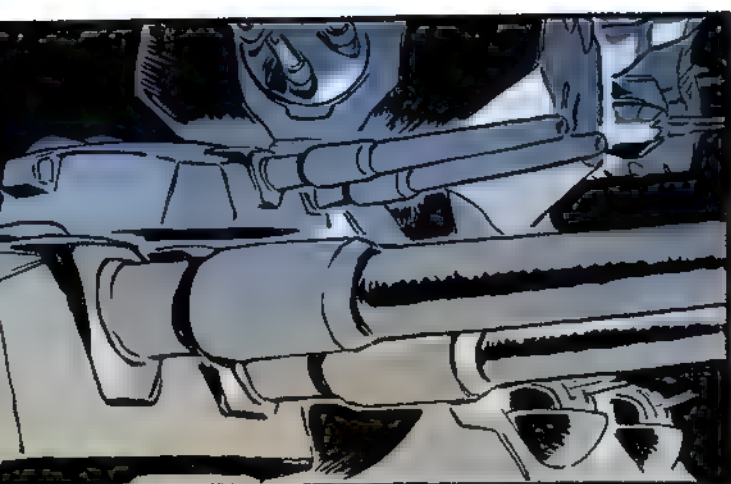
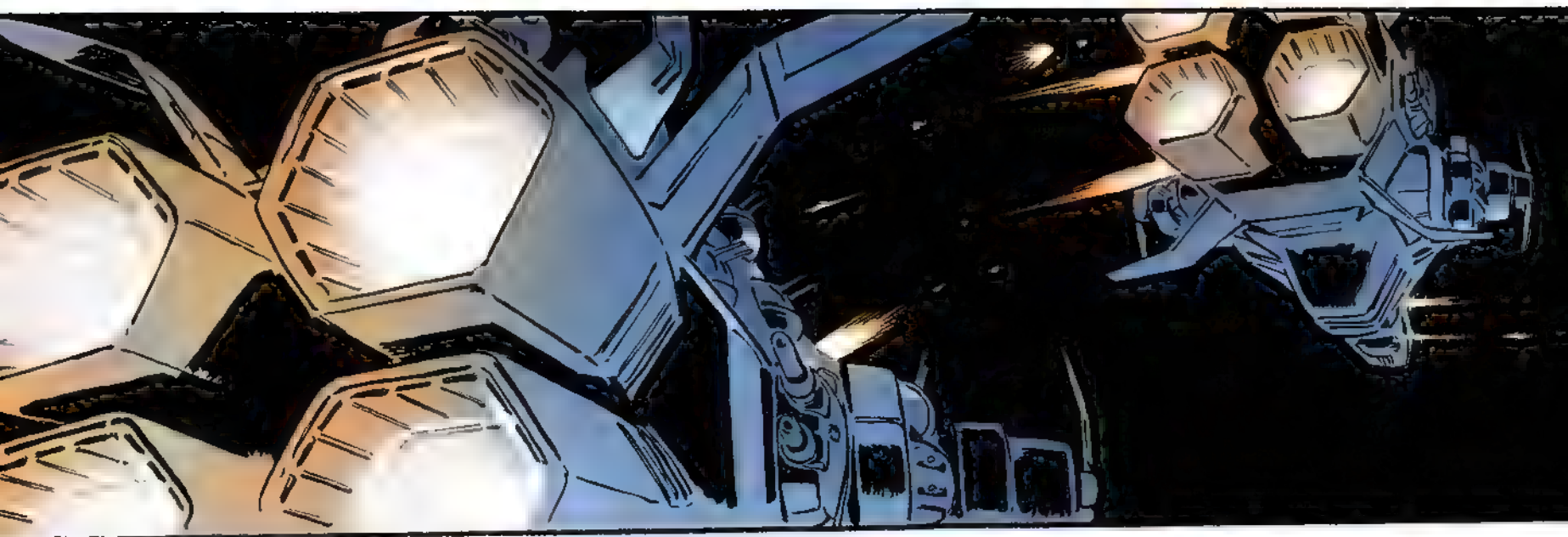
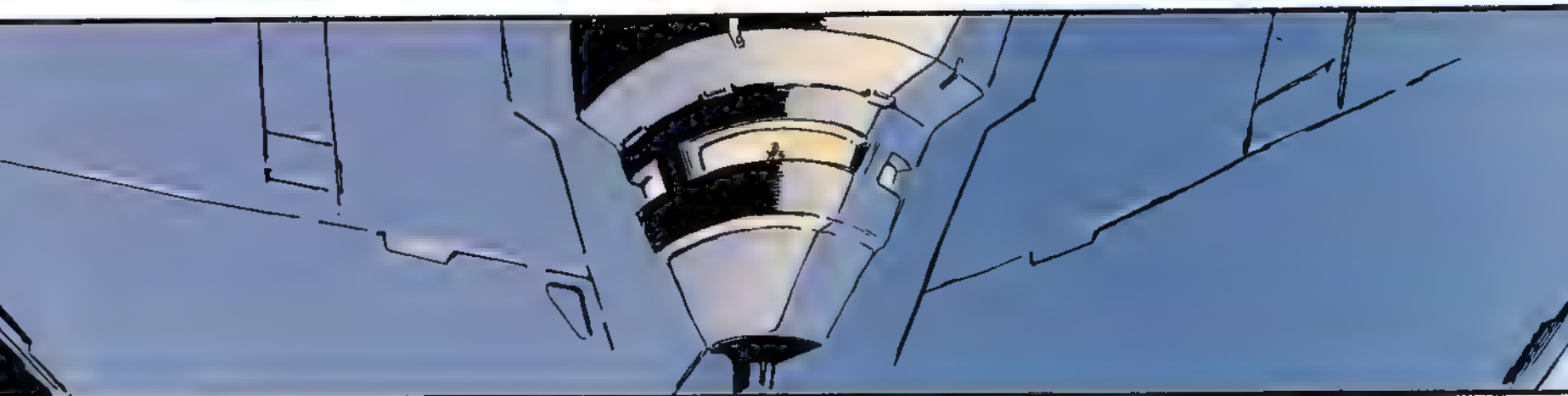
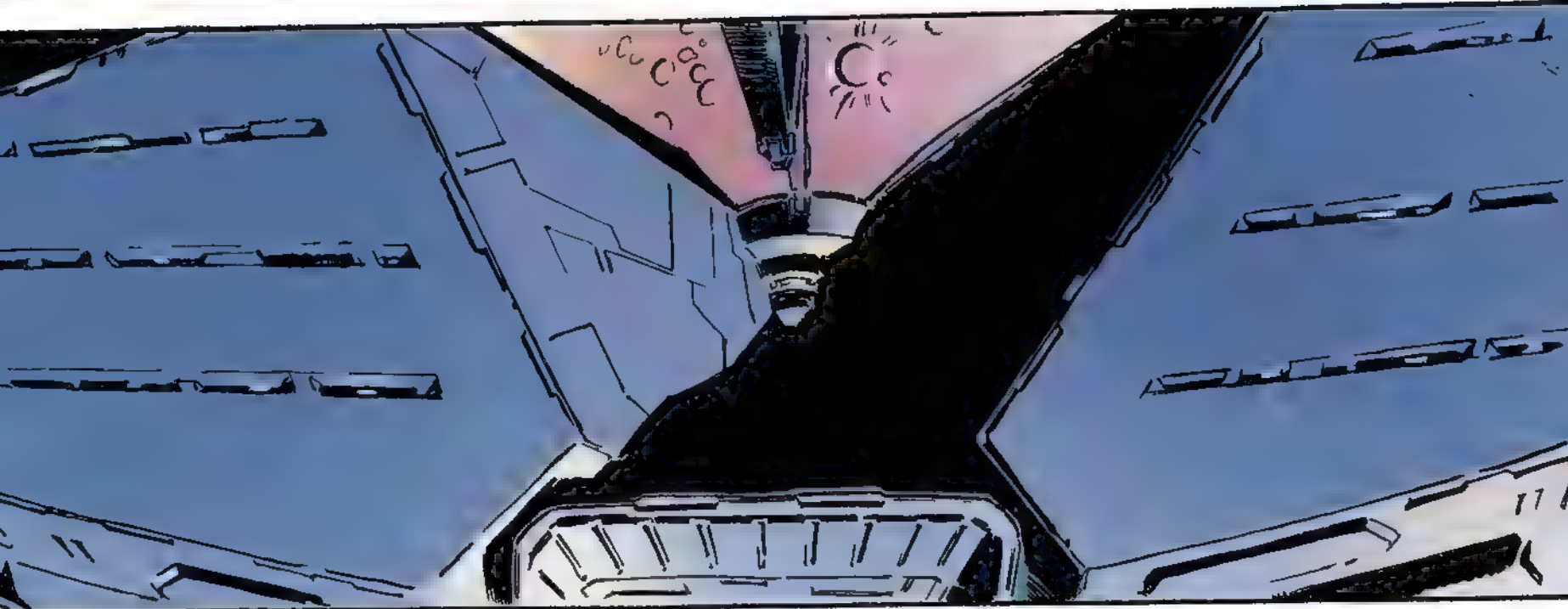
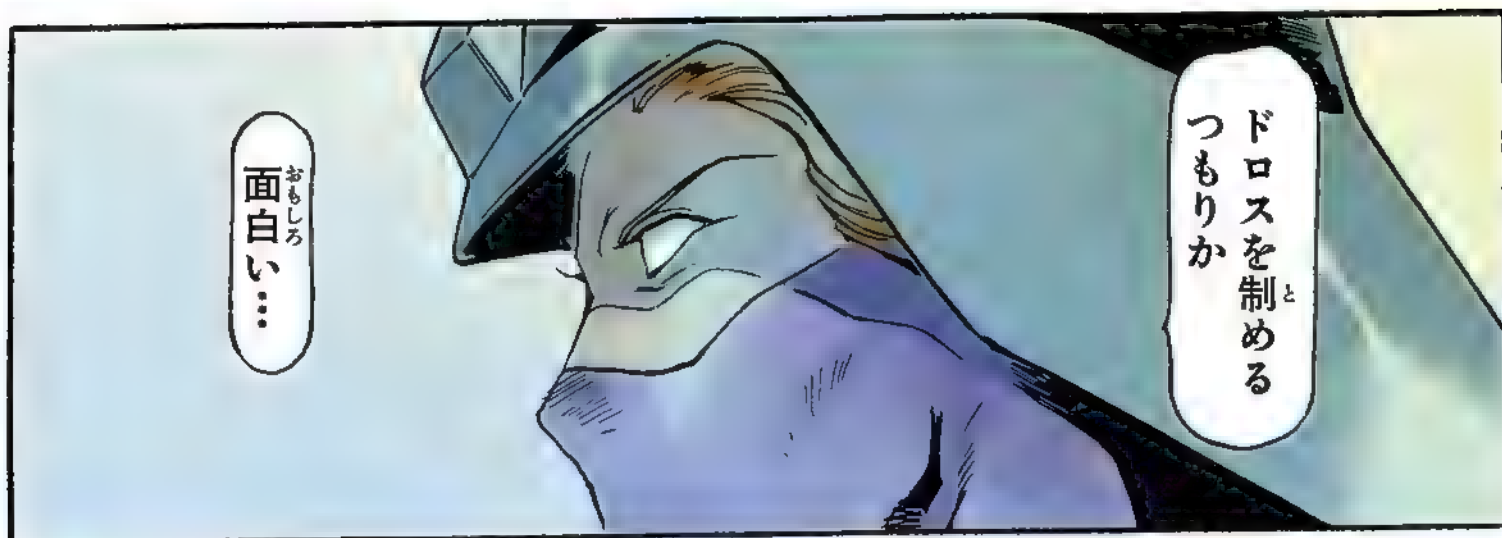
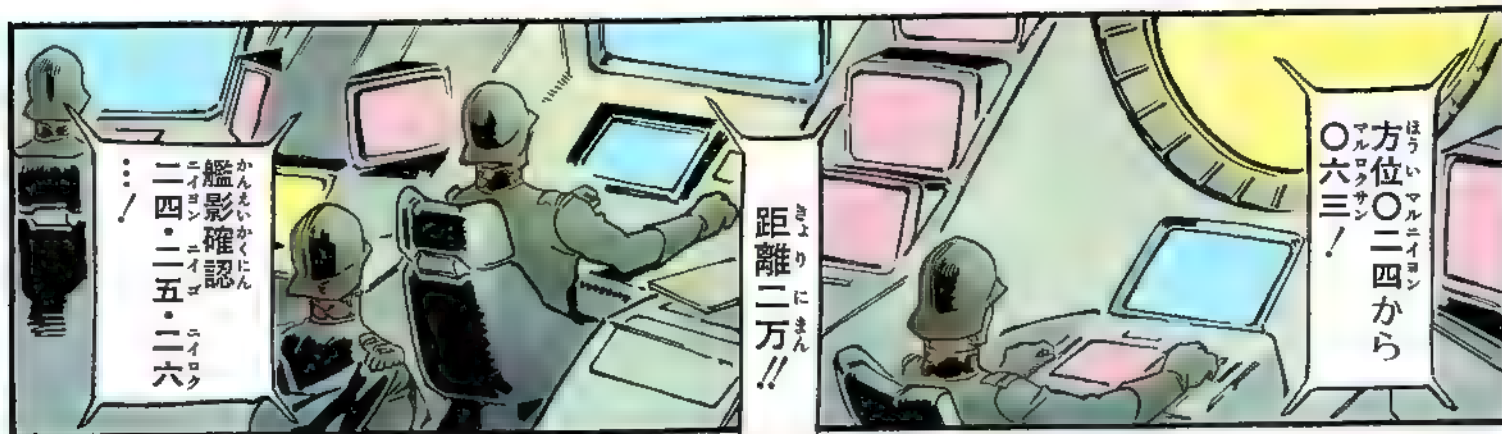
脚が無いな
脚なんて飾りです

エライ人にはそれがわからんのです

グラナダ方向に大型艦影確認！
『ドロス』です!!

!

ミノフスキー粒子の雲の中ですが
確認できます
急速接近中!!

動いたか
キシリア……

上陸戦を戦っている部隊の
邪魔をさせるわけにはいかん

全艦回頭!!
トーゴ艦隊と共にドロスを
迎え撃つ!!

敵艦隊反転！
防御態勢で展開！

ドロスを制めるつもりか
面白い…

方位〇二四から〇六三！
距離二万!!
艦影確認二四・二五・二六…！

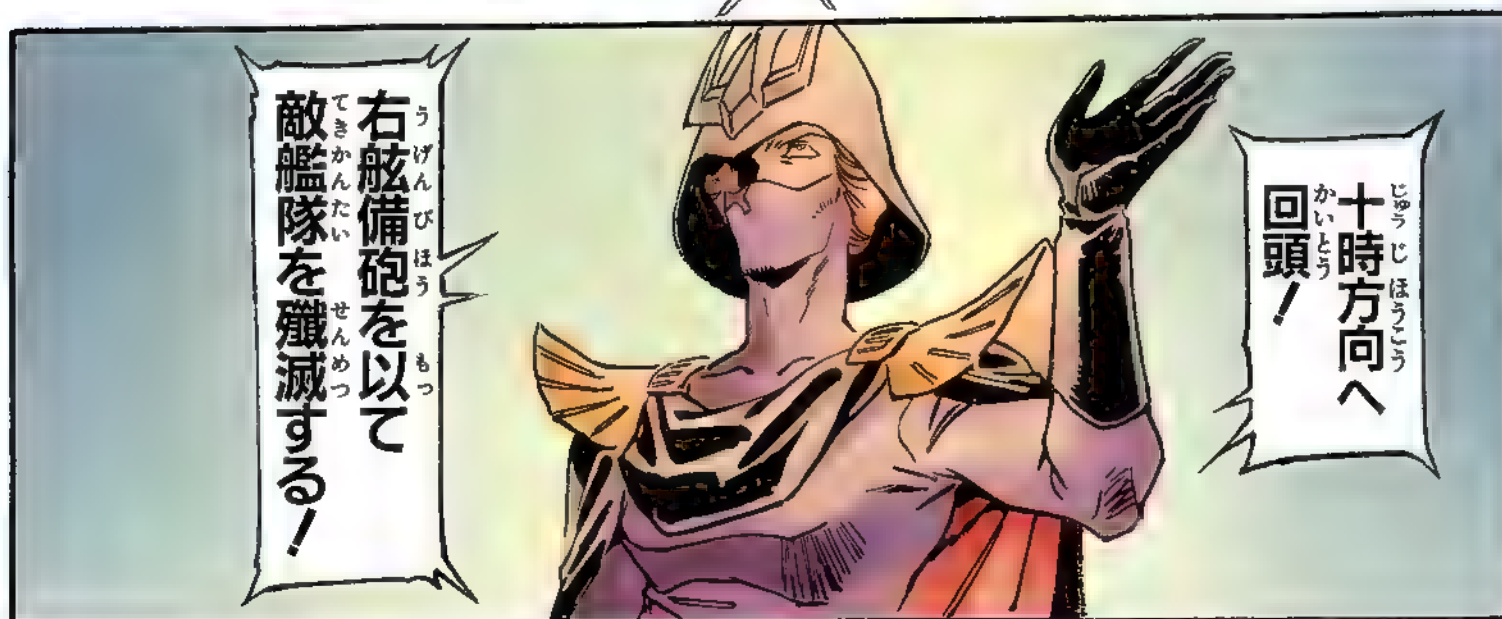
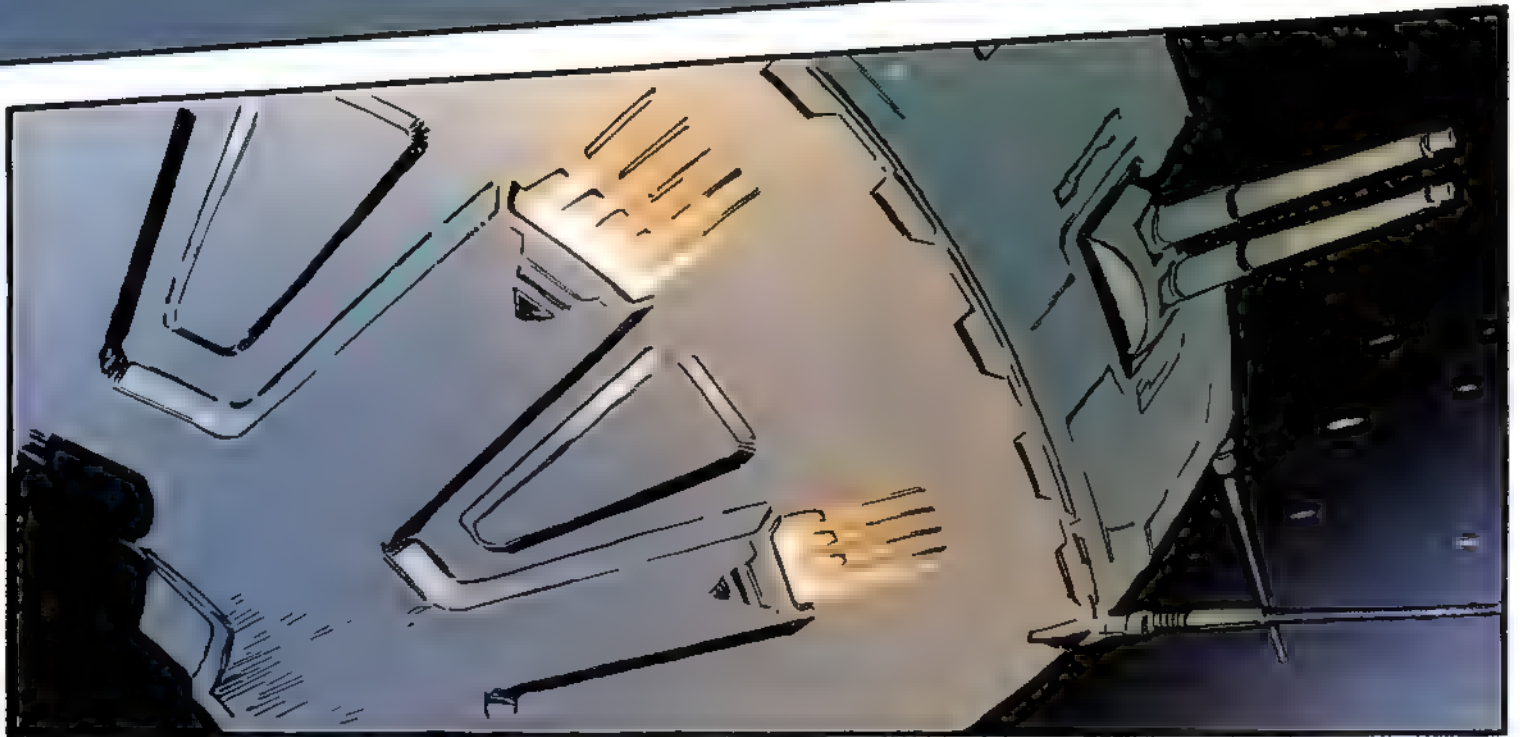
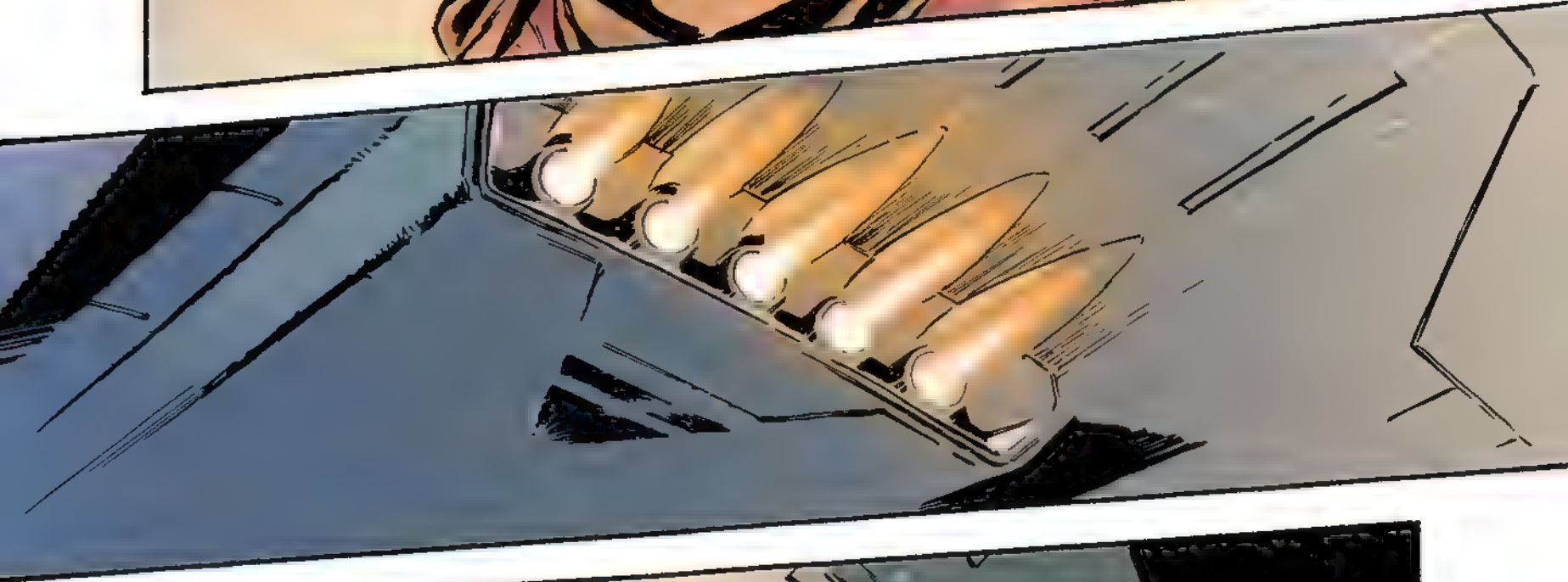
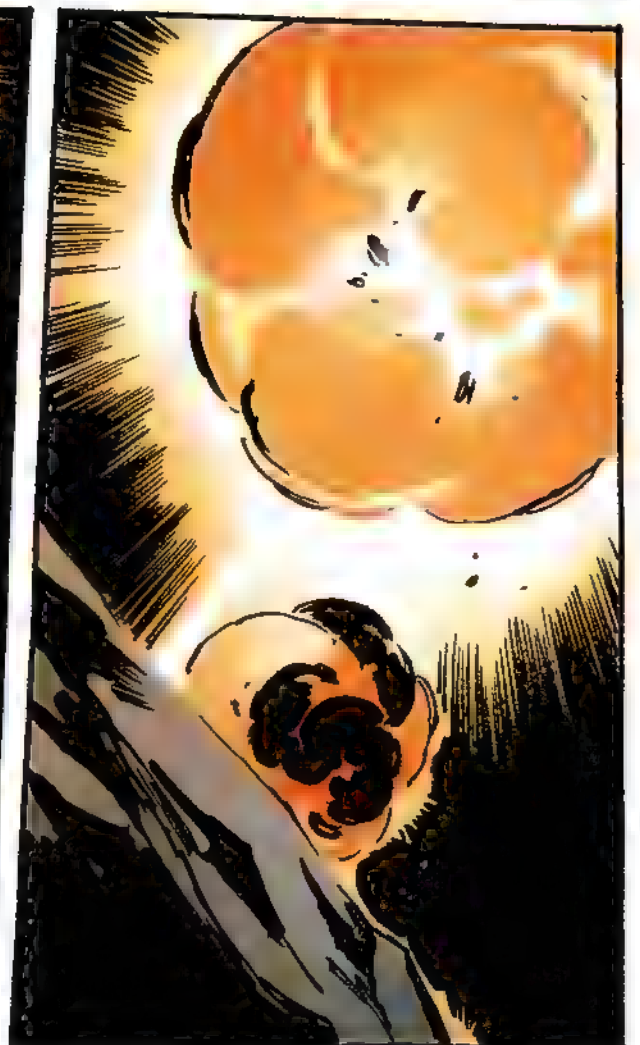
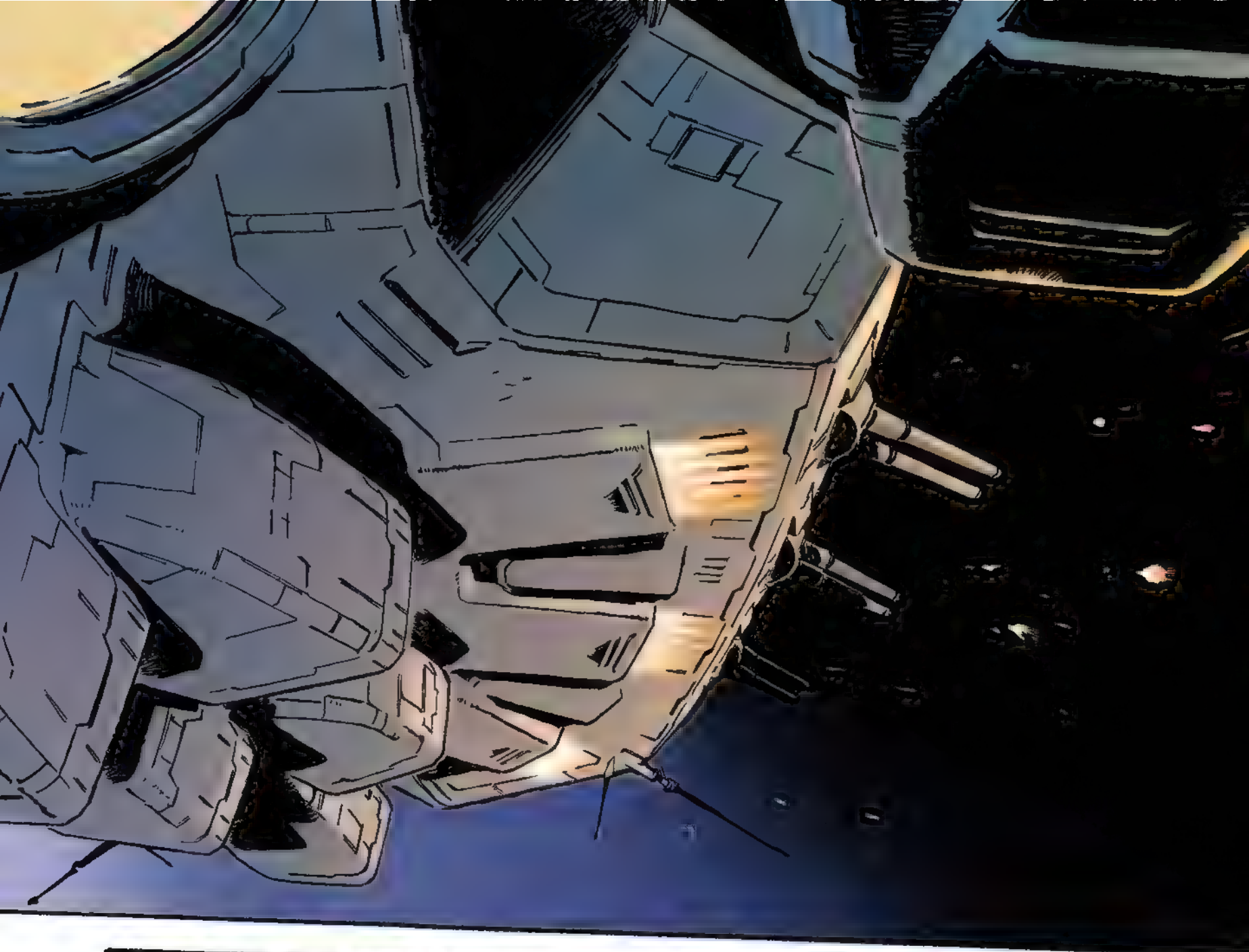
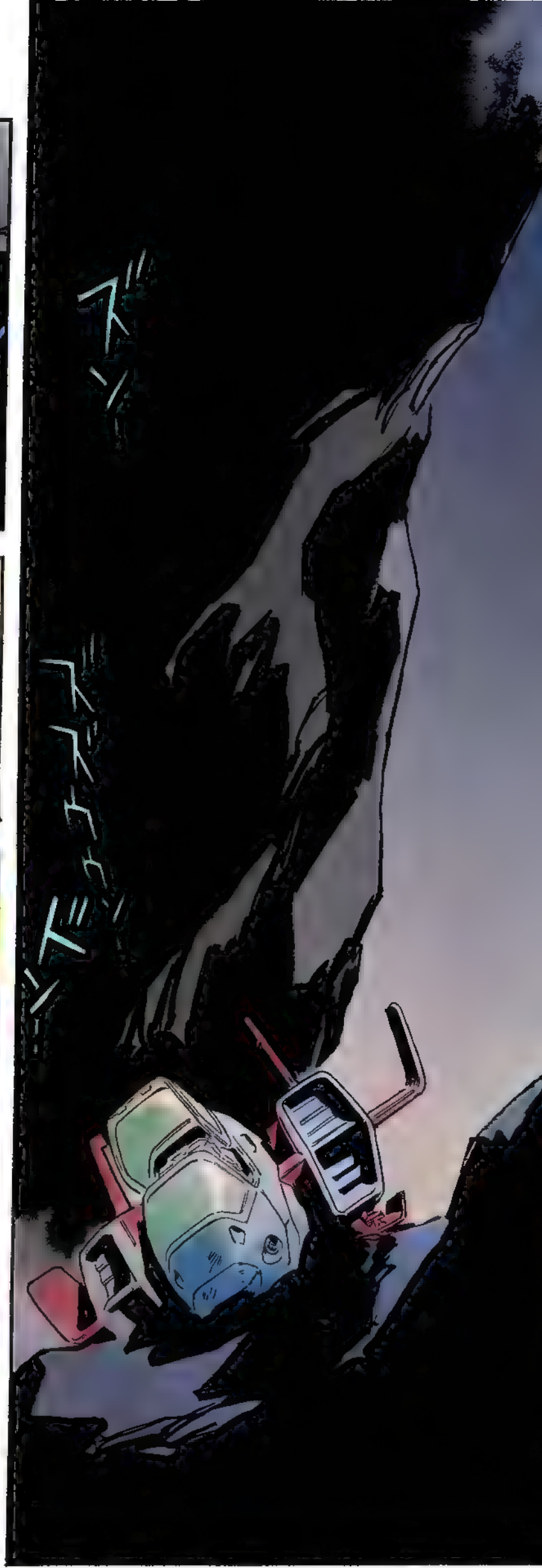
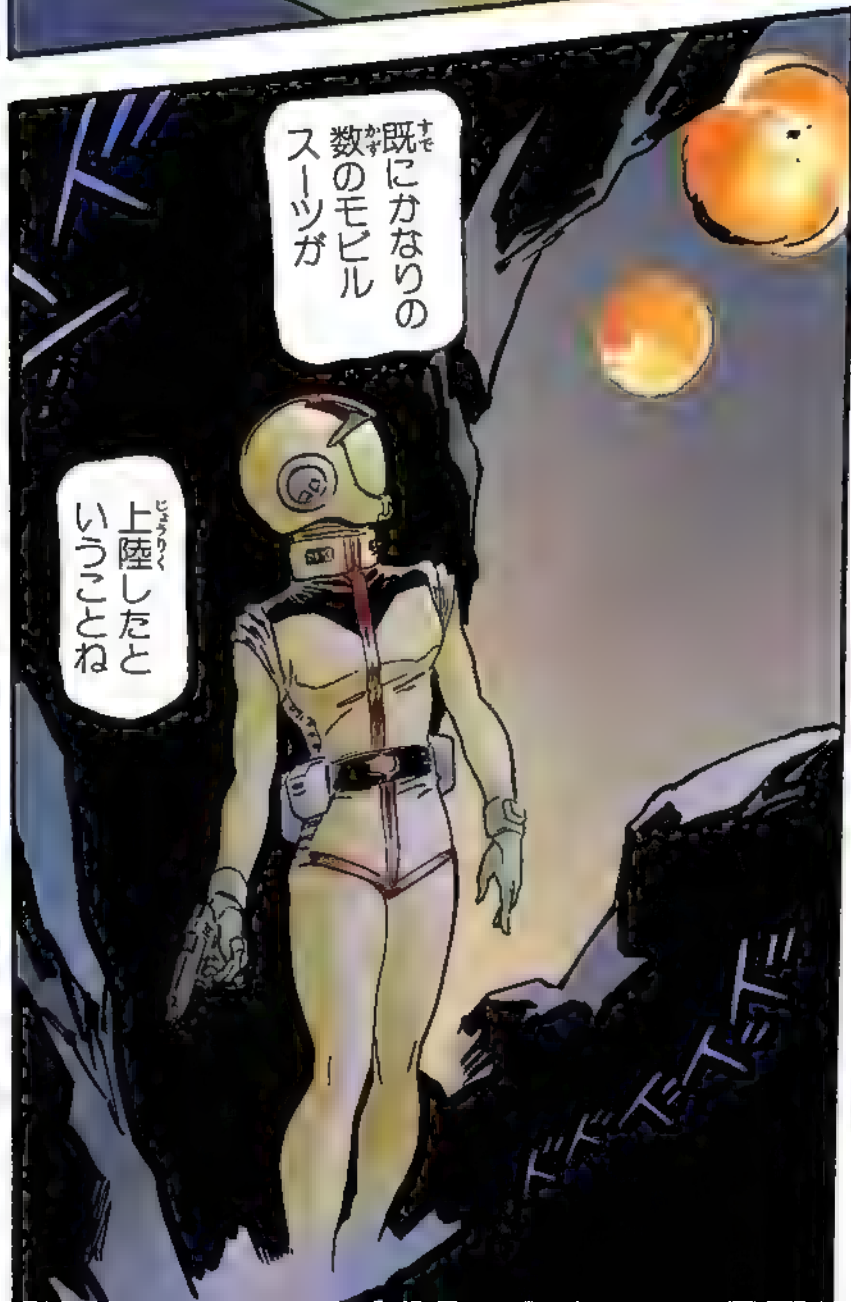
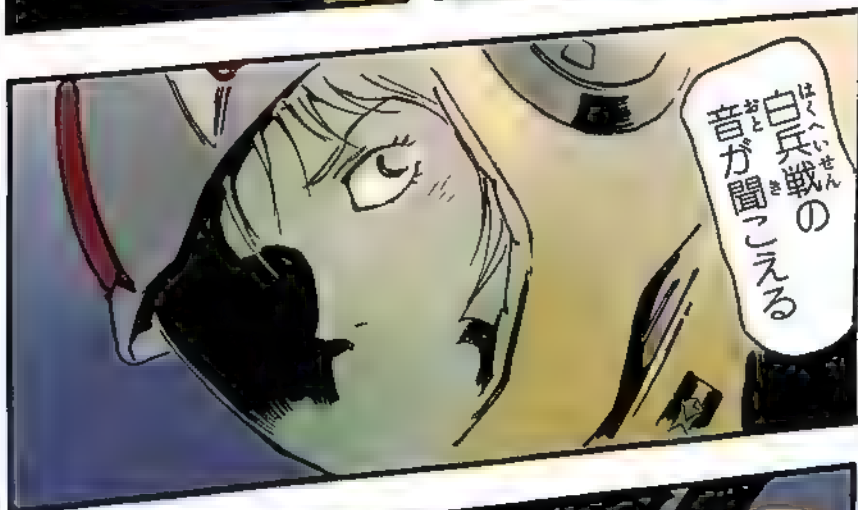
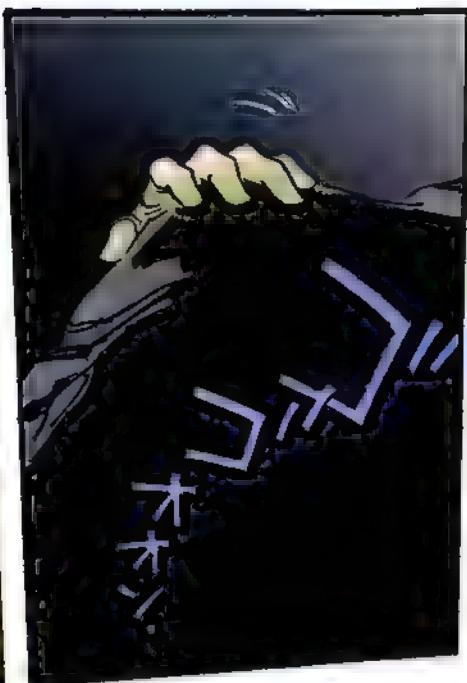
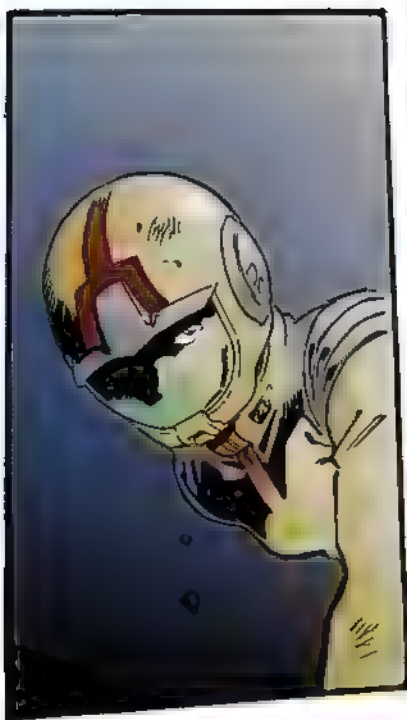
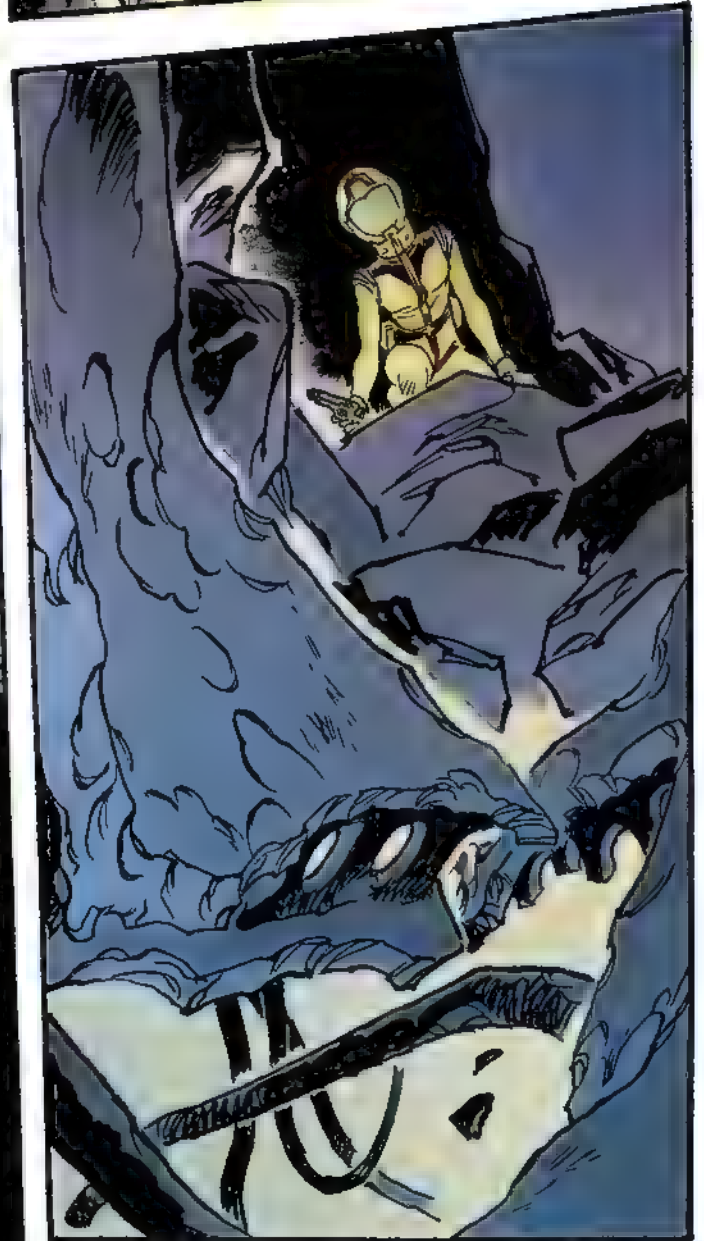
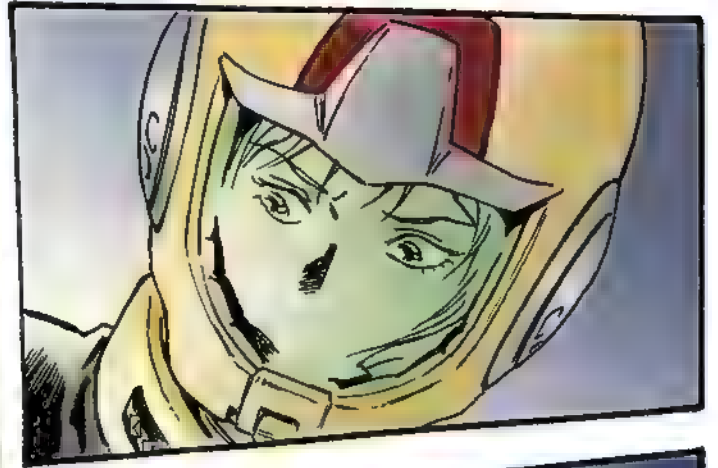
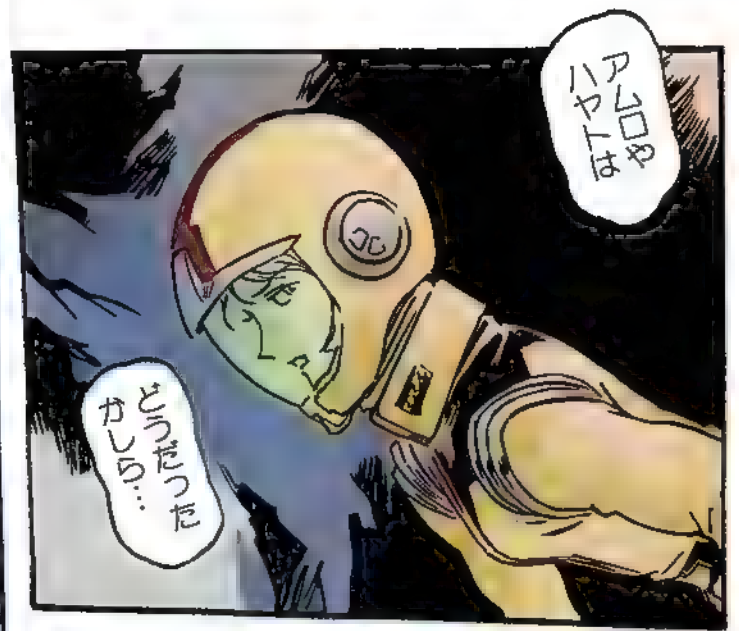
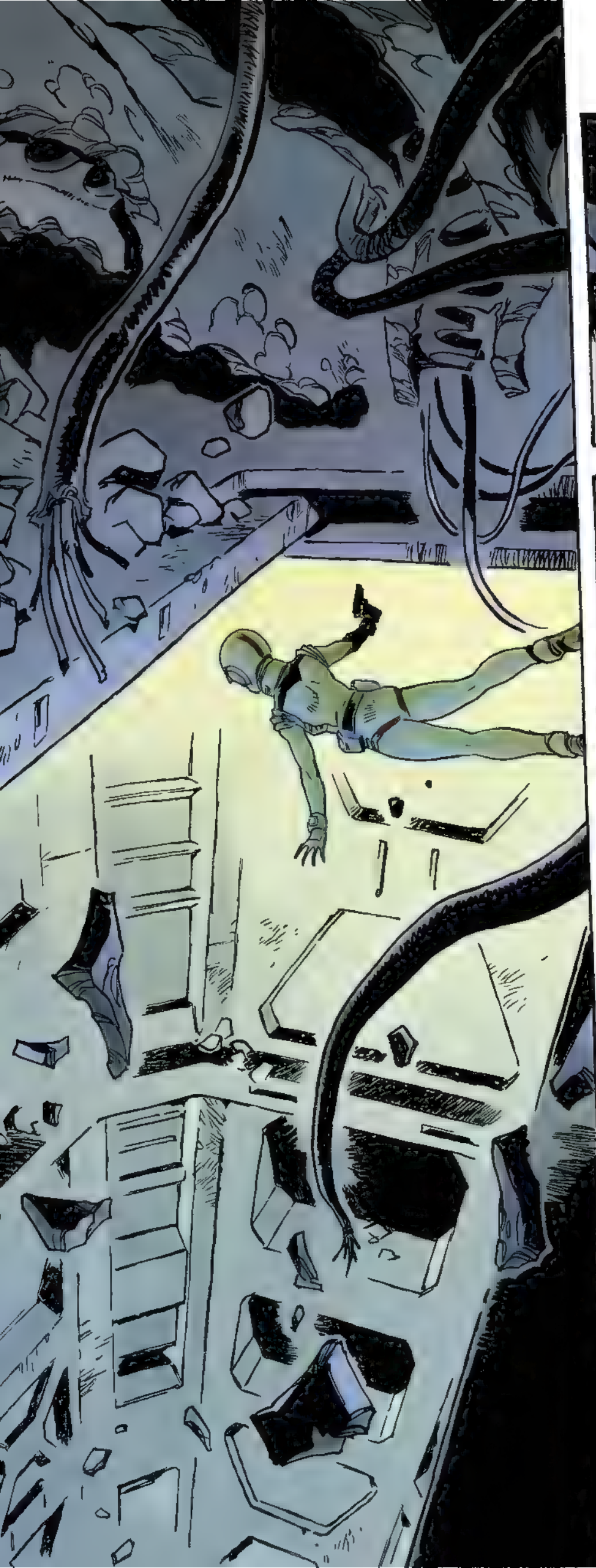
十時方向へ回頭！
右舷備砲を以て敵艦隊を殲滅する！

有効射程内に敵艦を捕捉し次第
一斉射を開始せよ!!

白兵戦の音が聞こえる

既にかなりの数のモビルスーツが

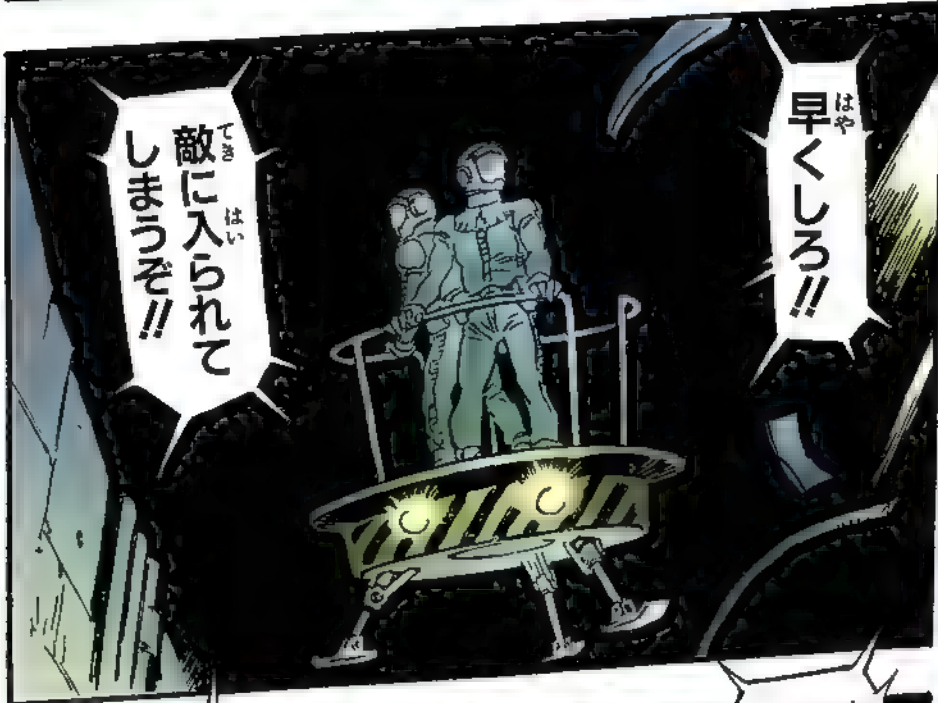
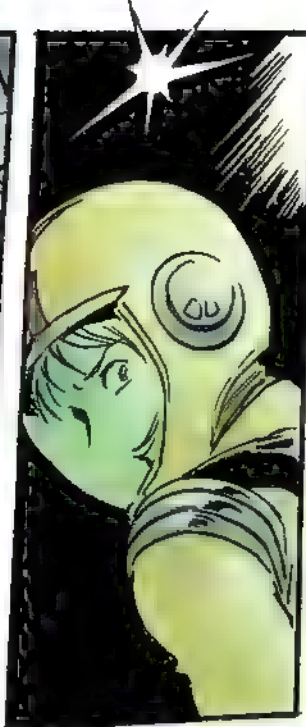
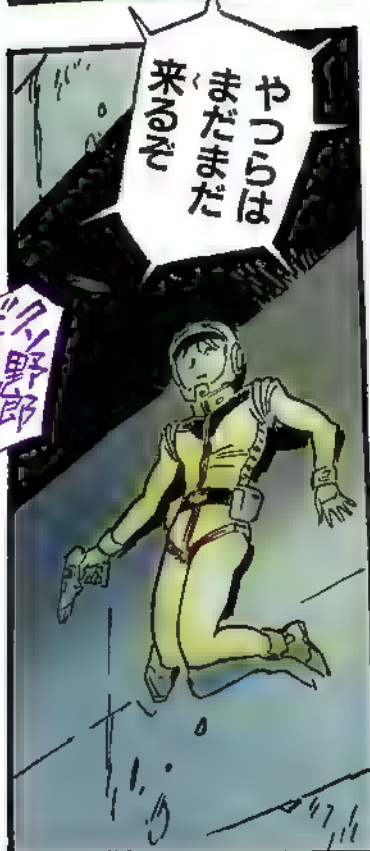
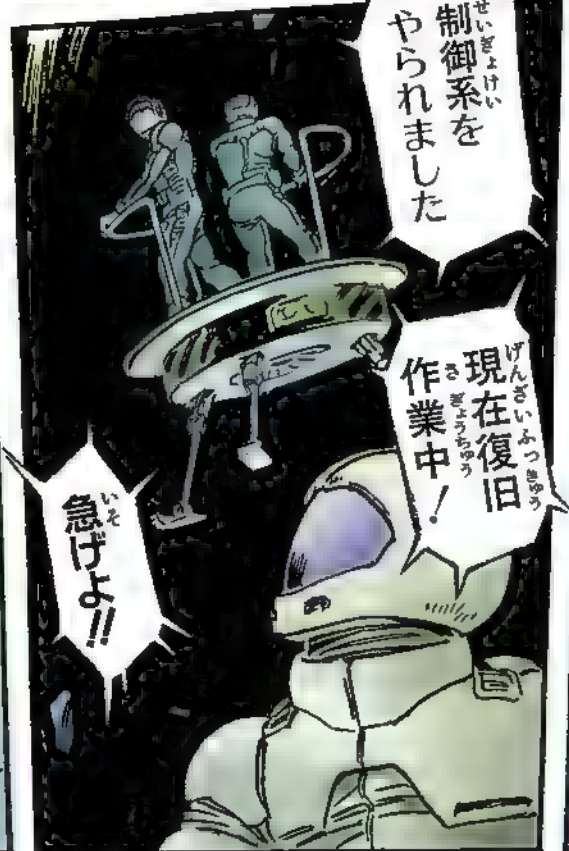
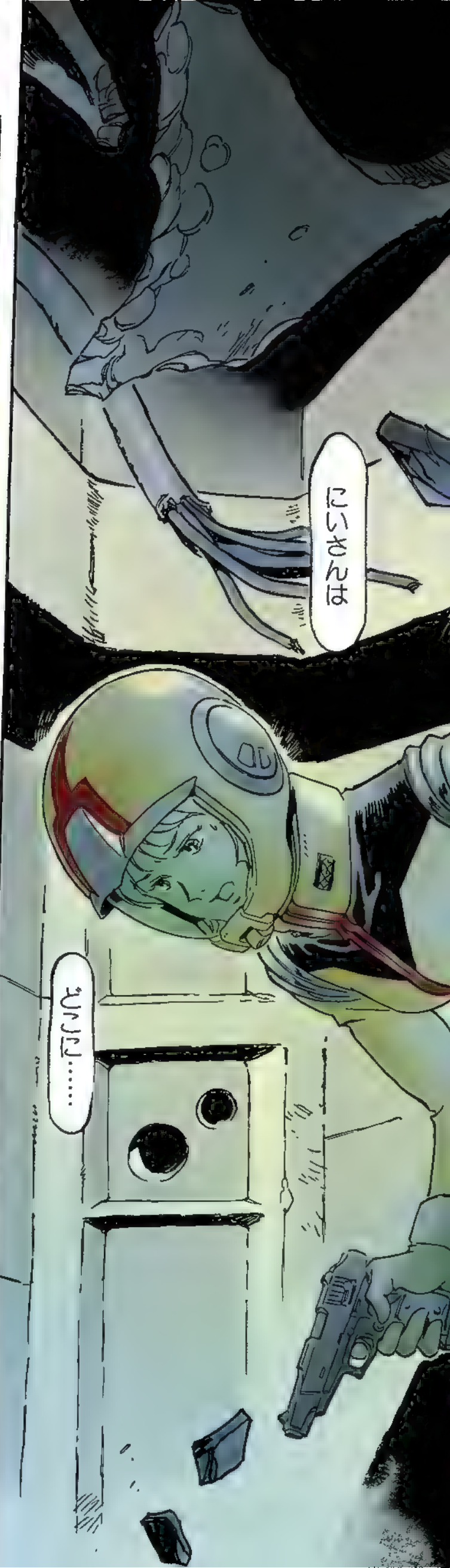
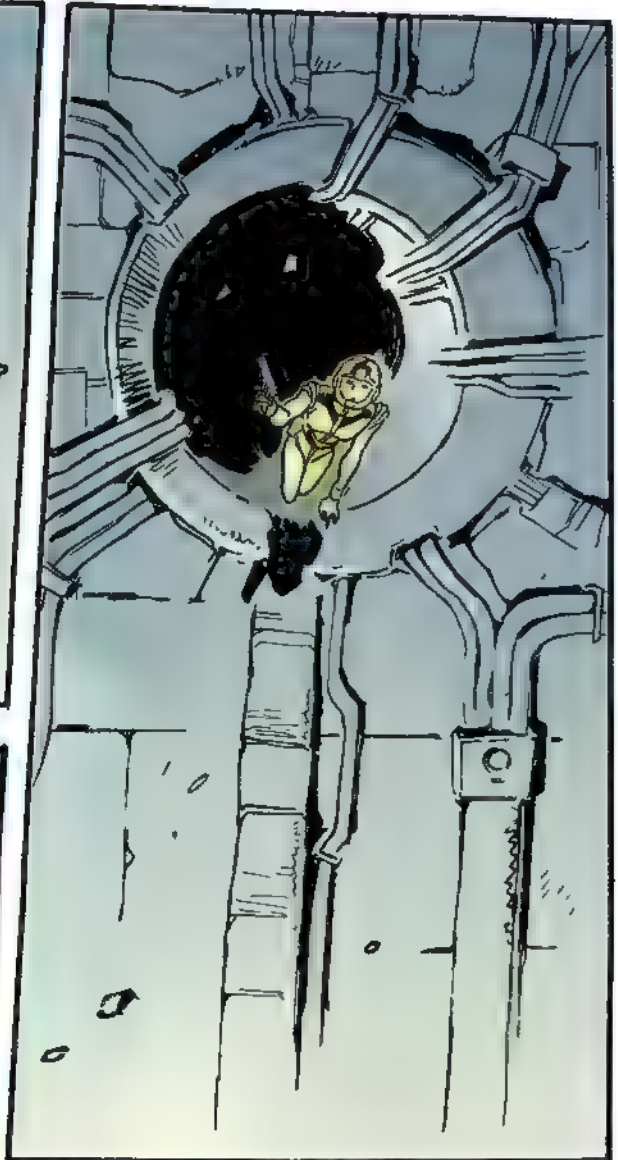
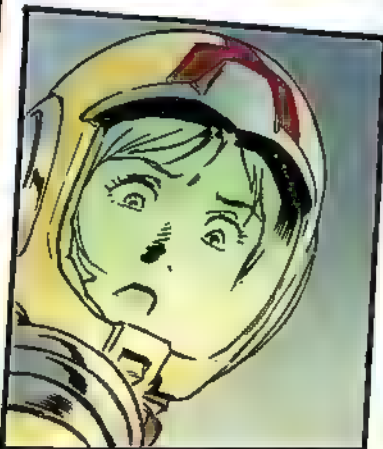
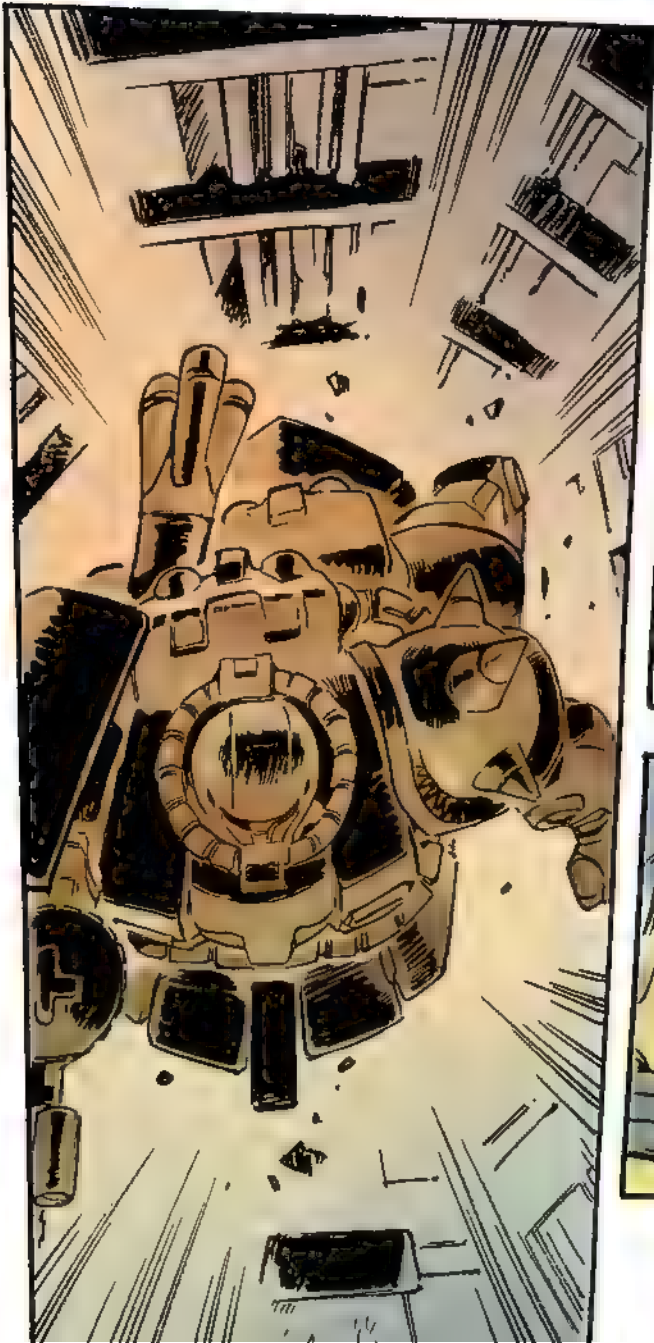
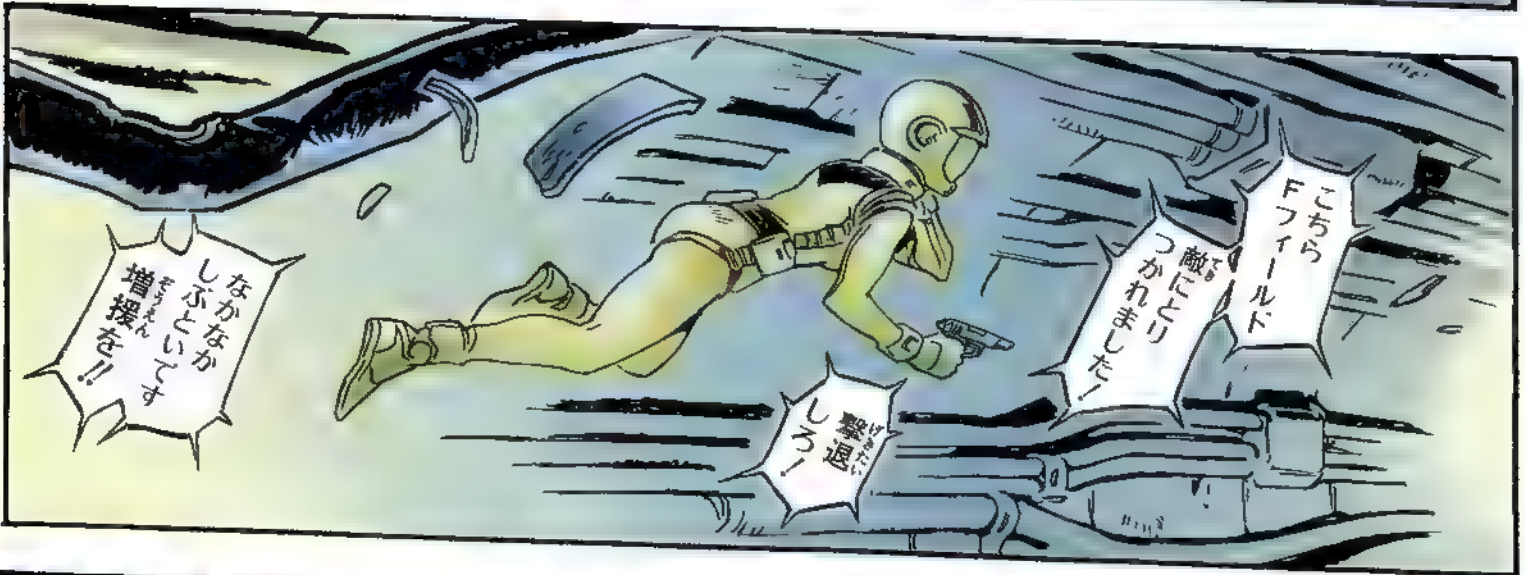
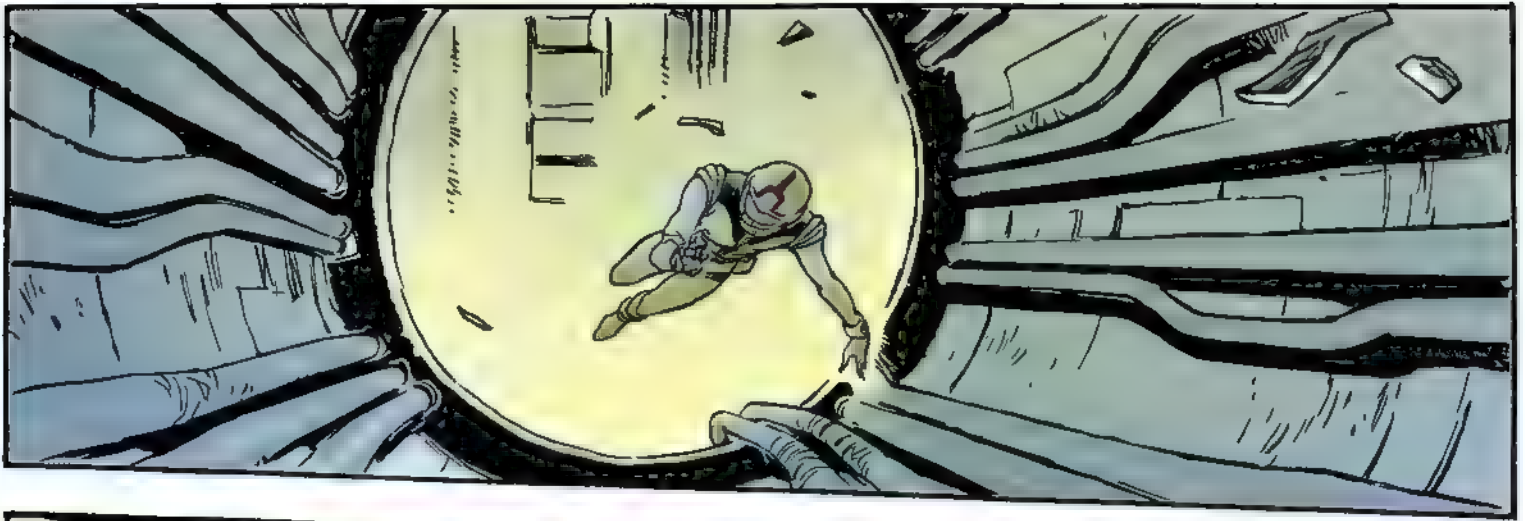
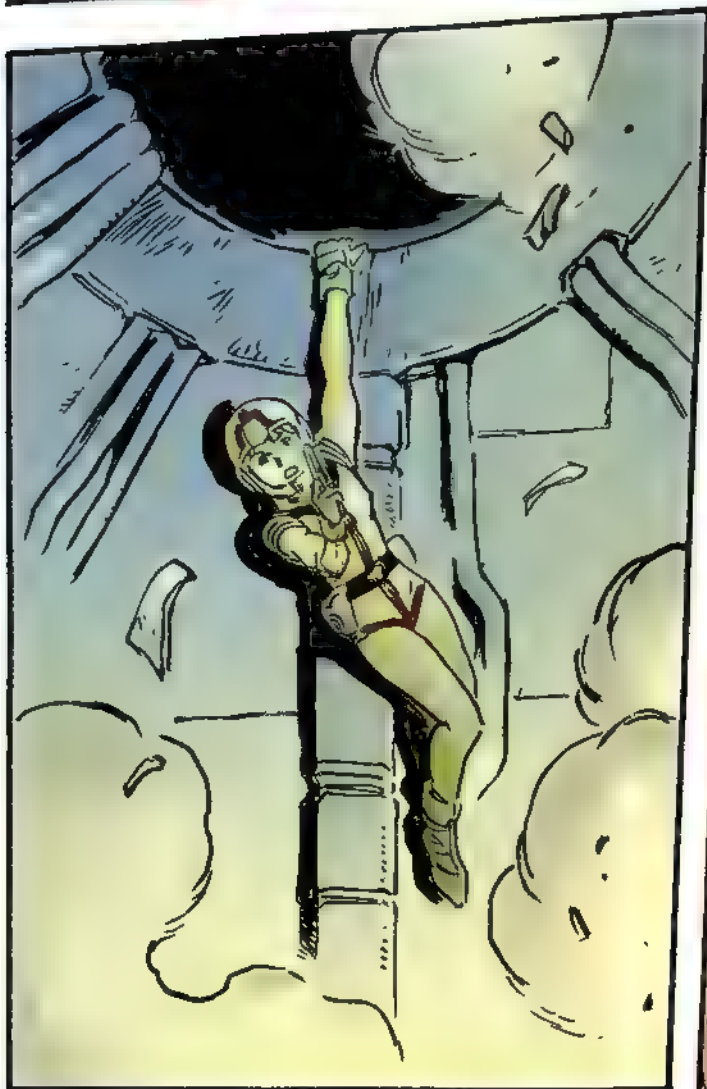
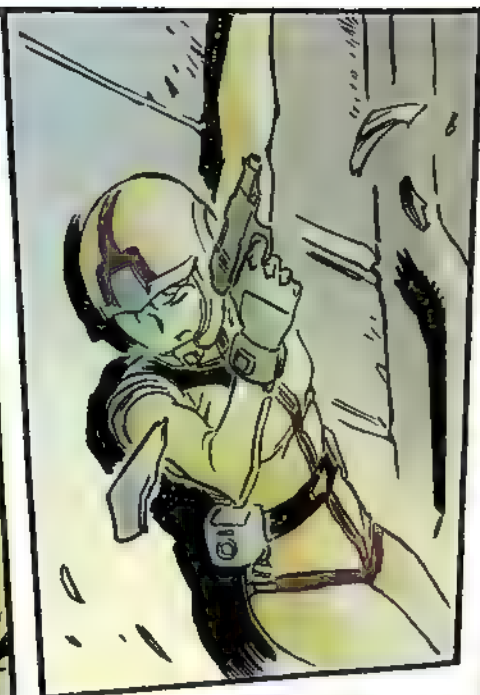
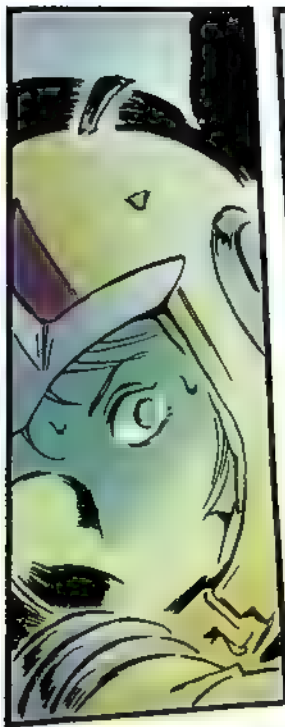
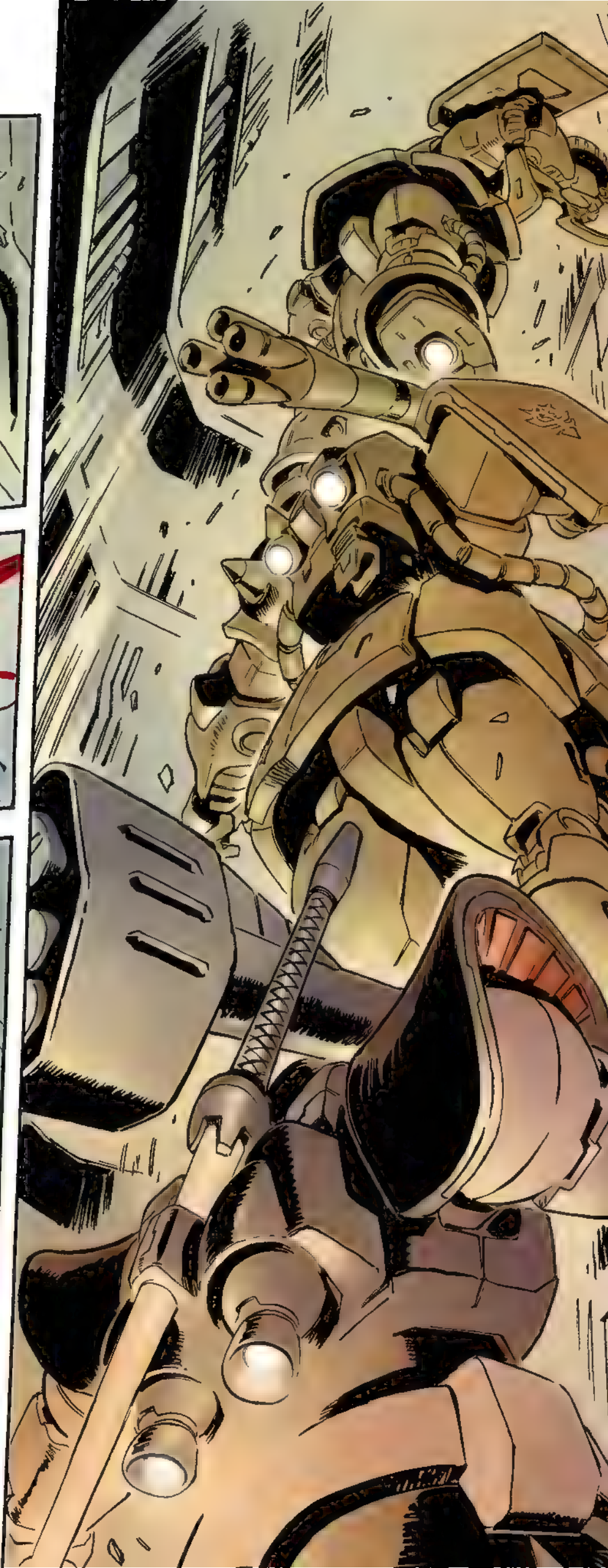
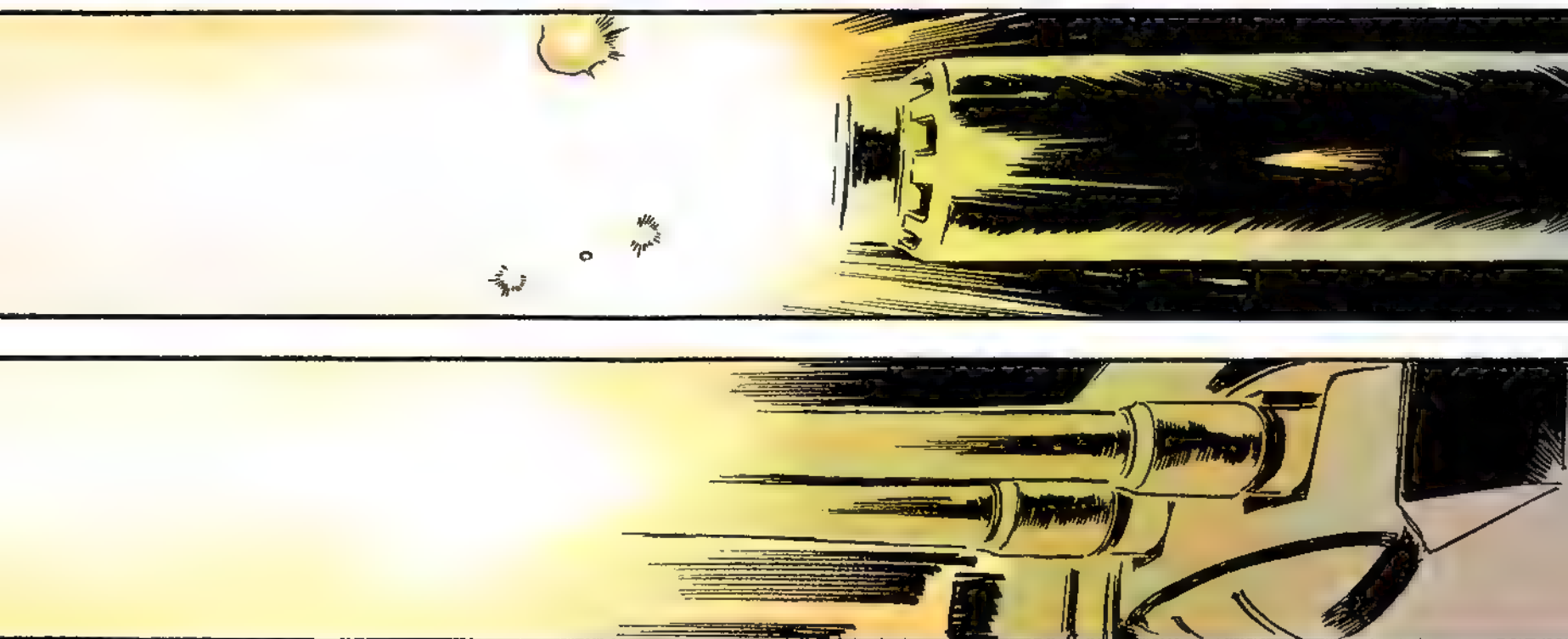
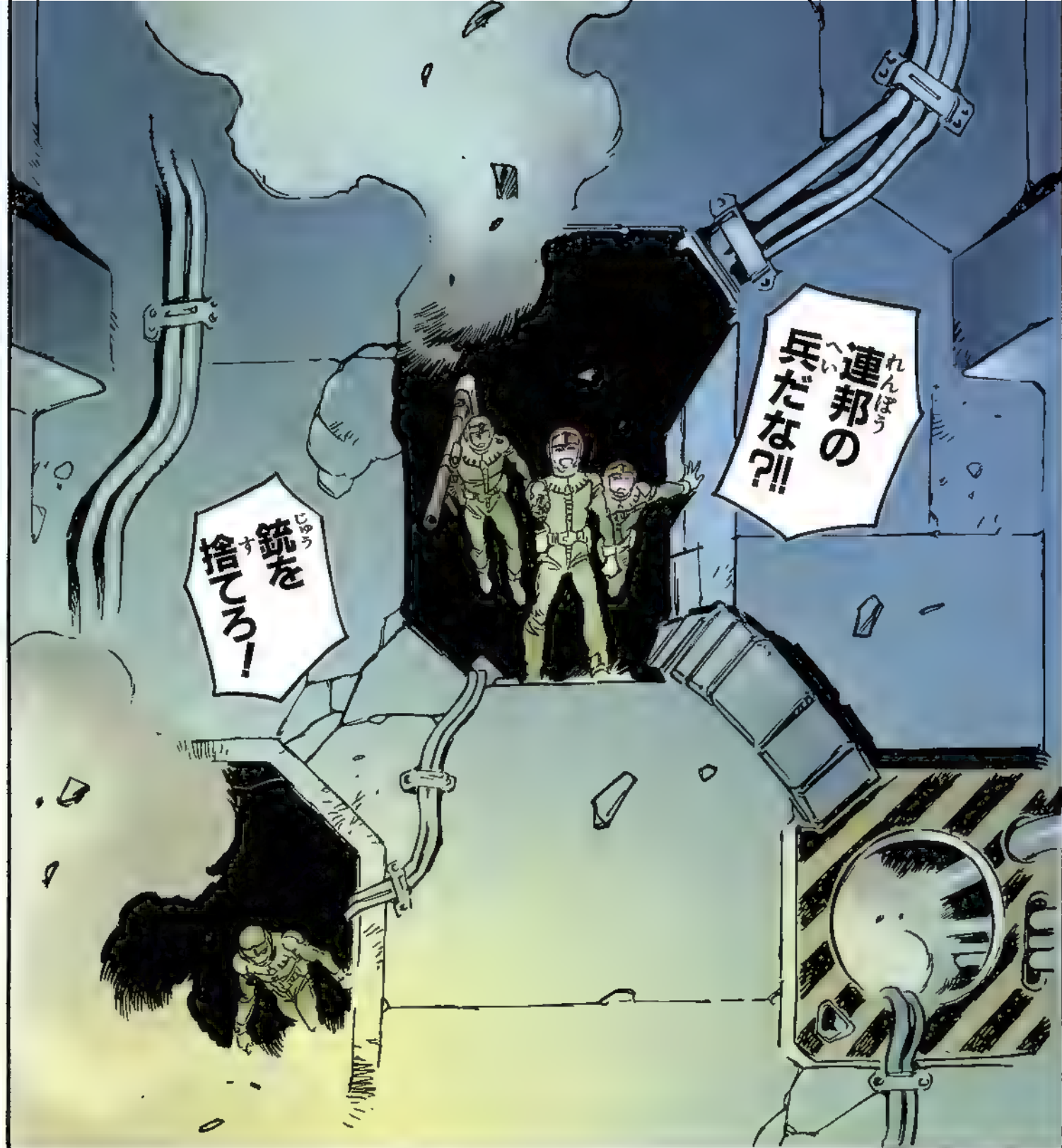
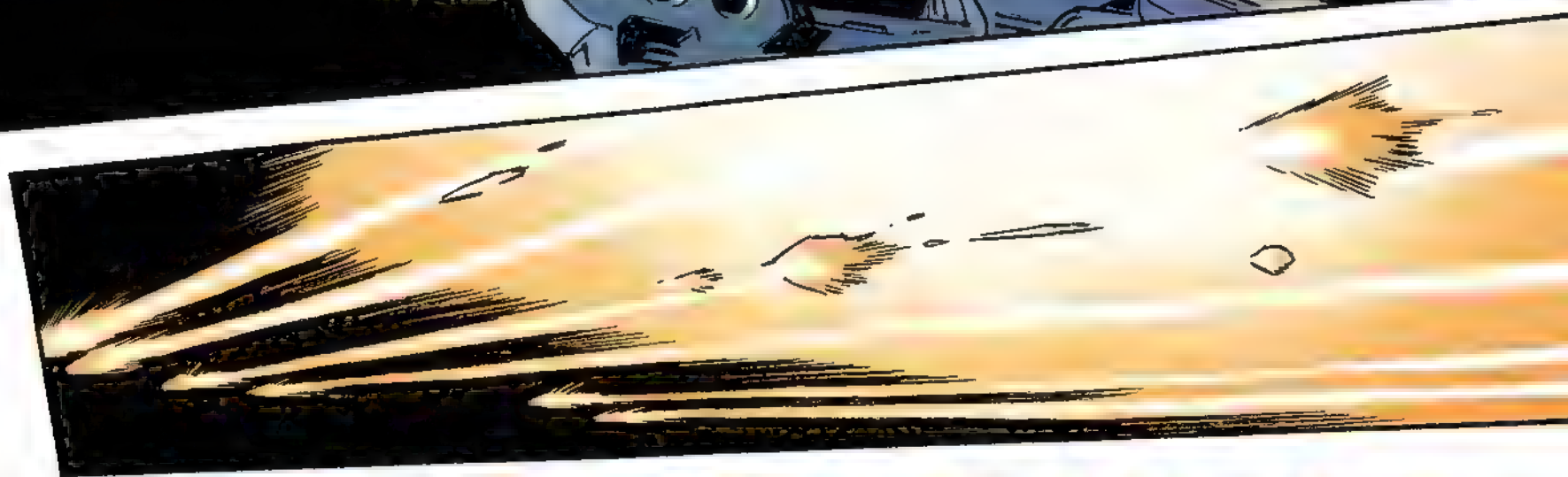
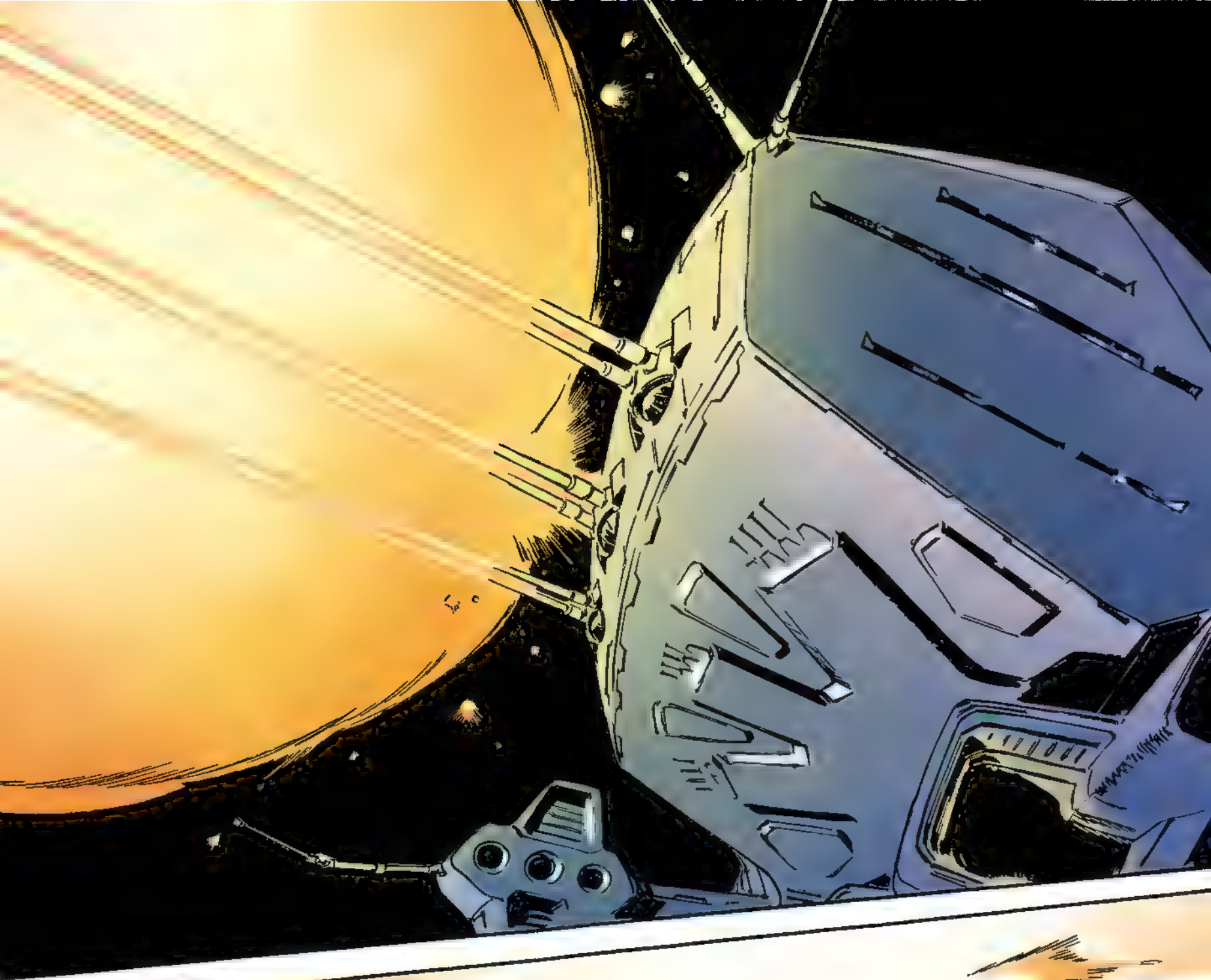
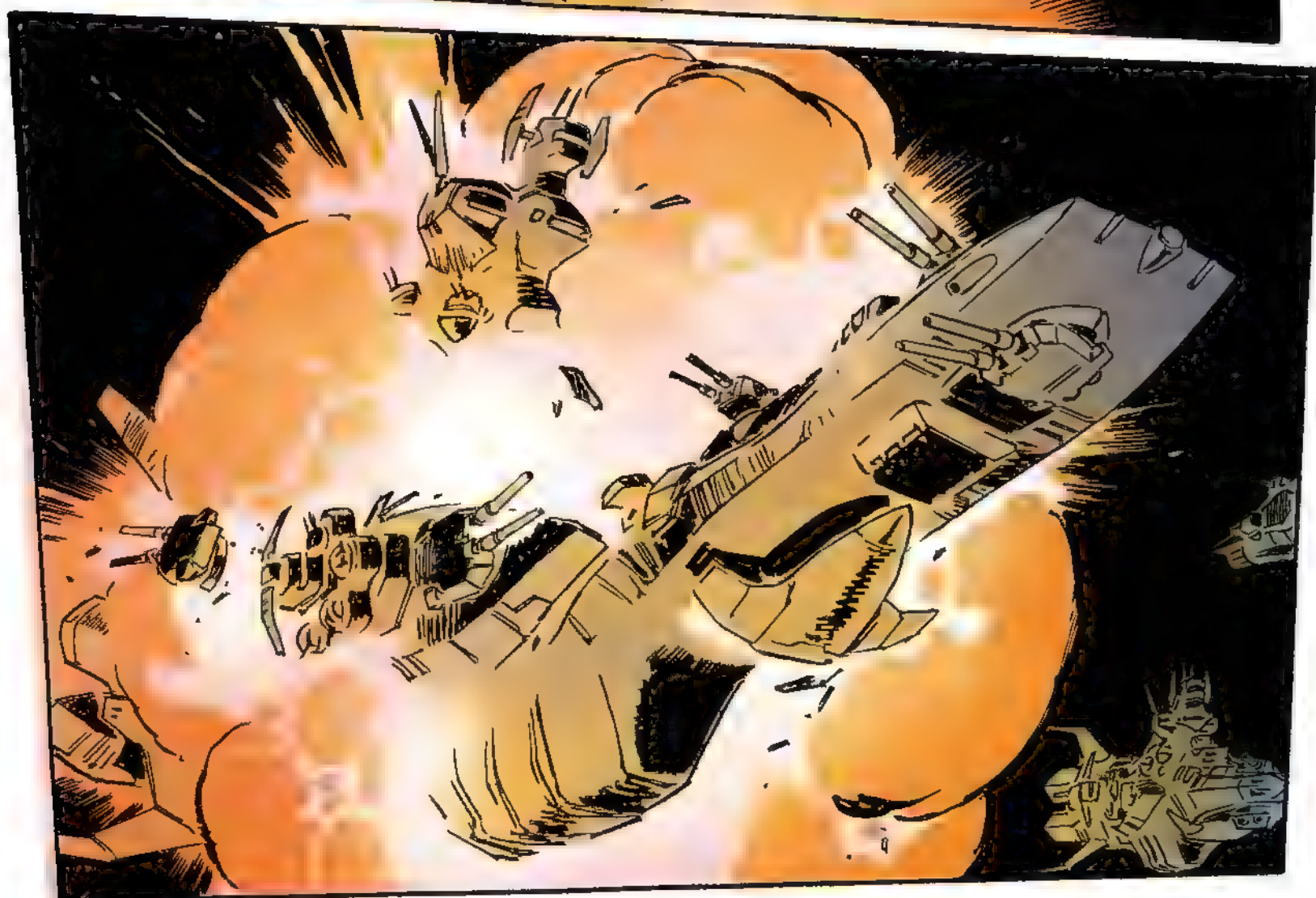
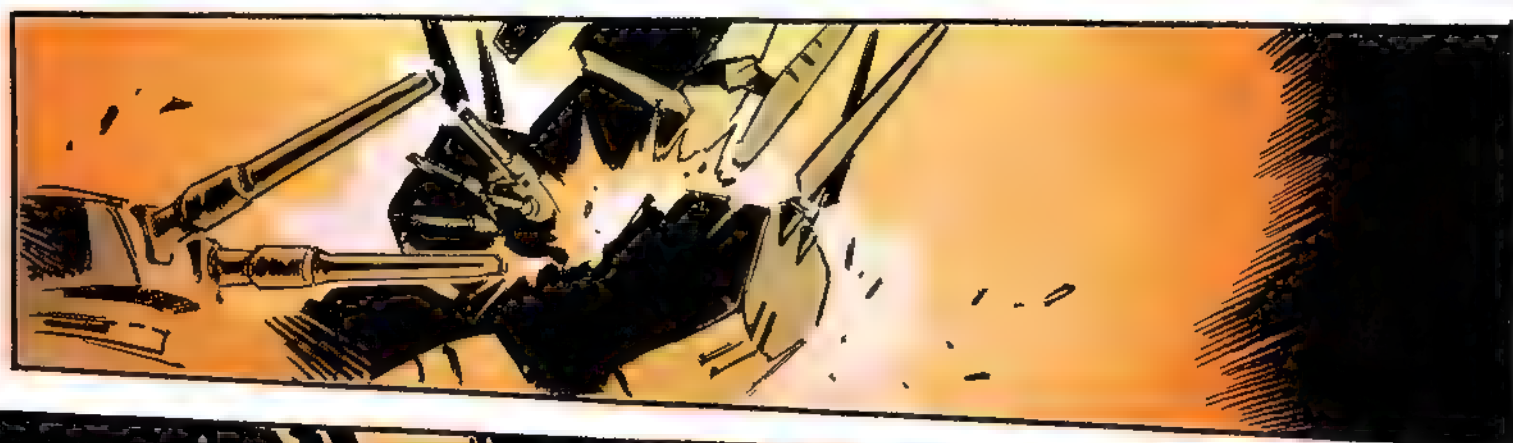
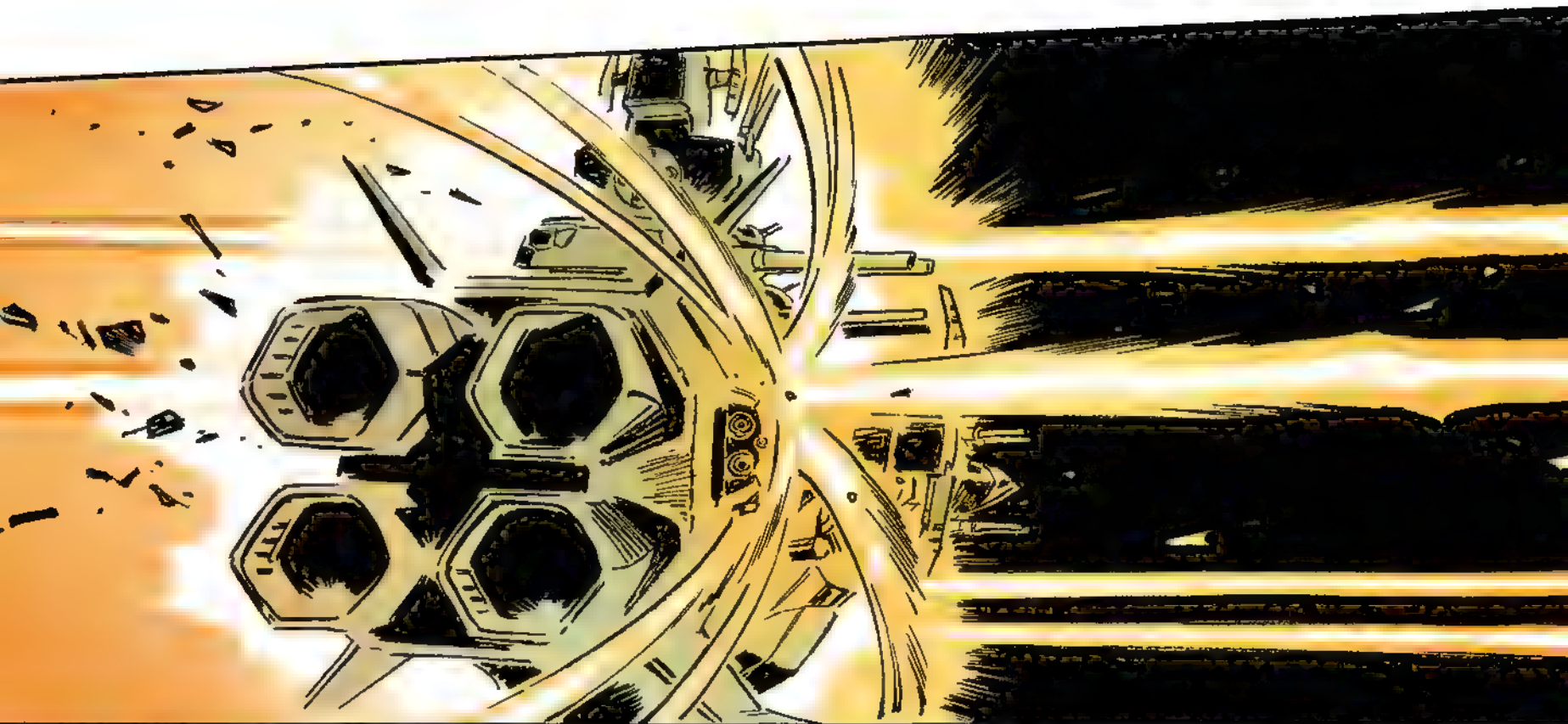
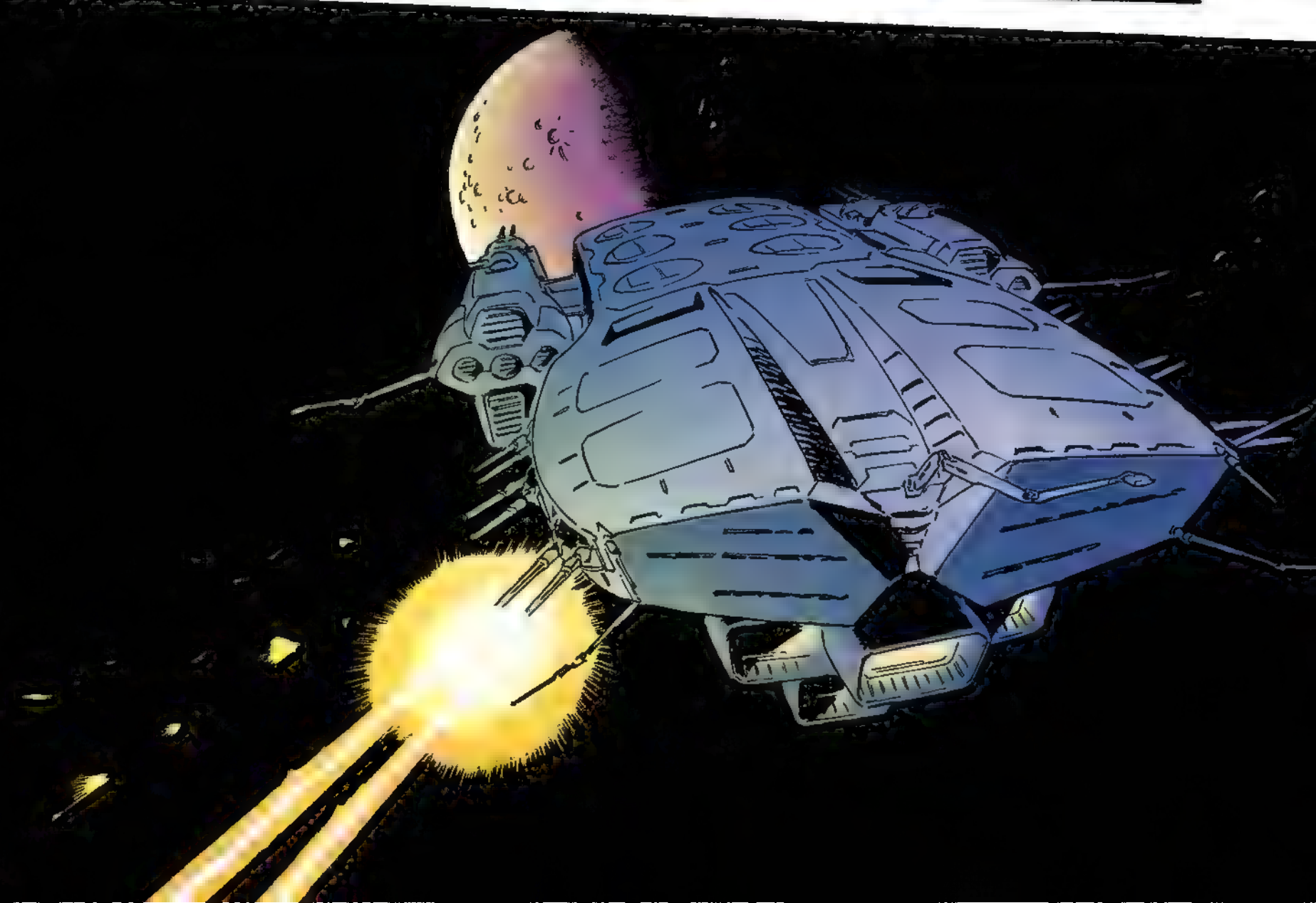
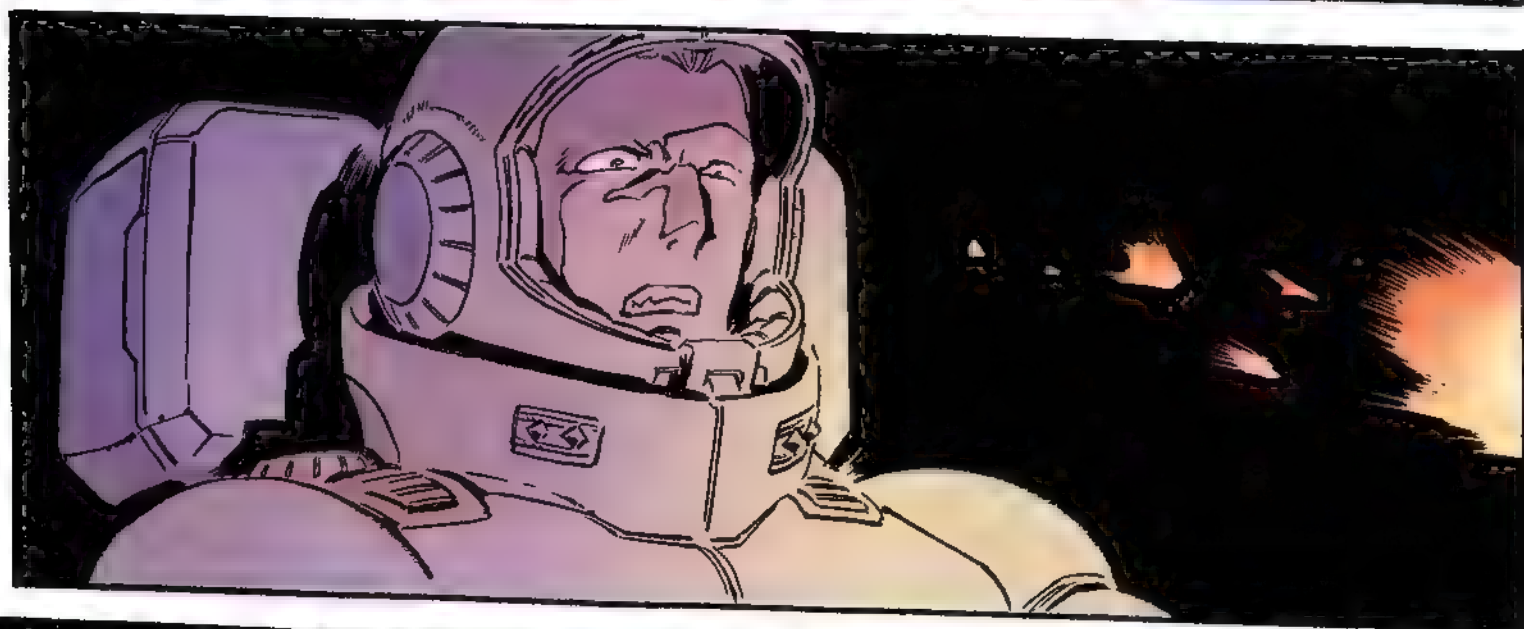
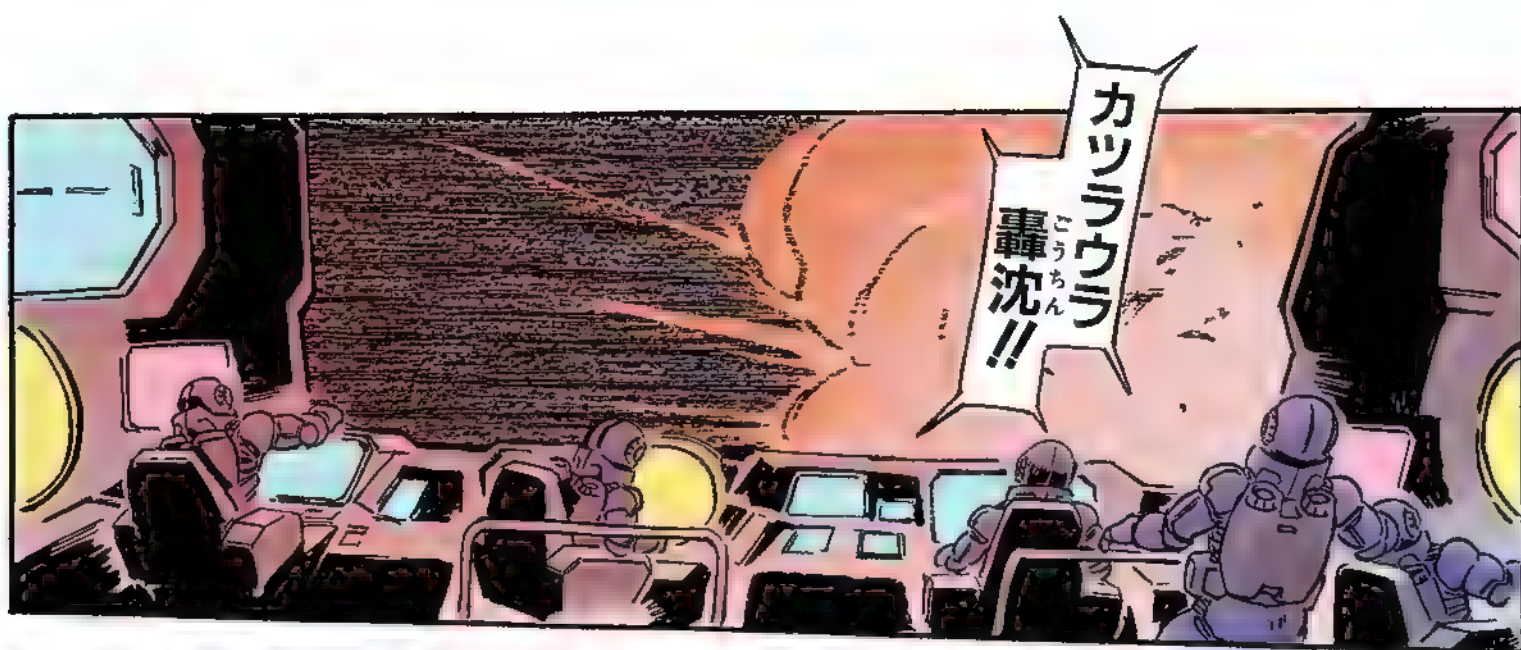
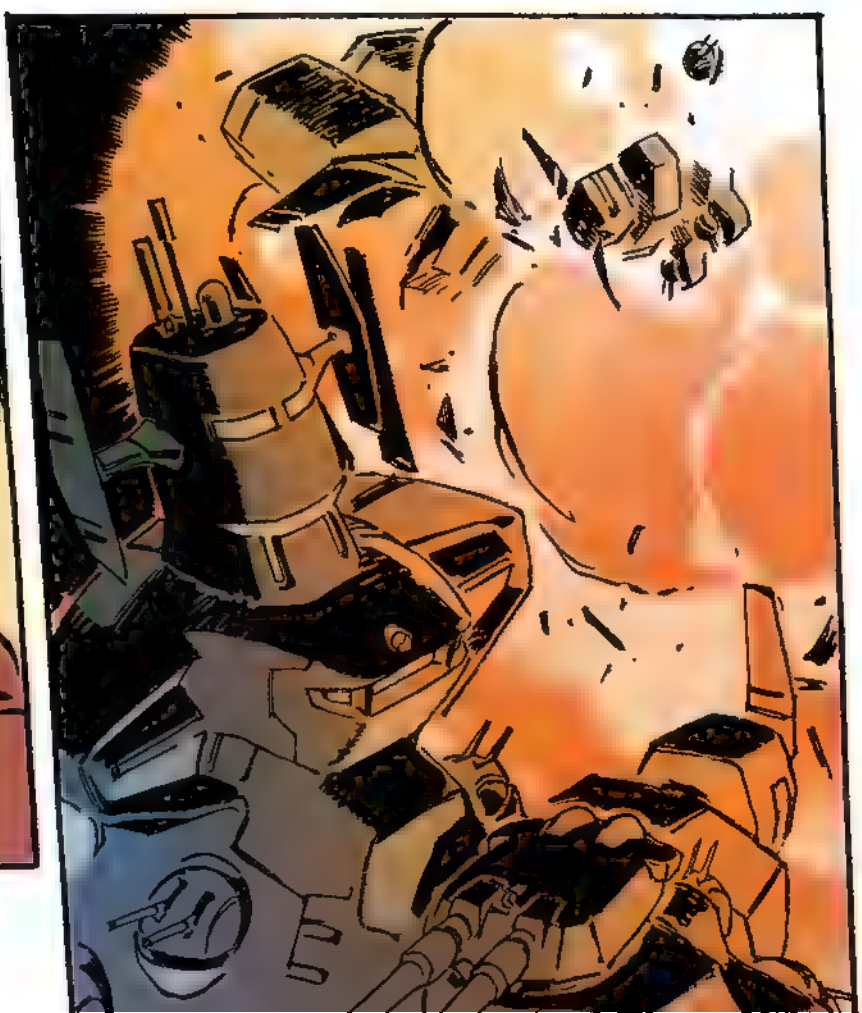
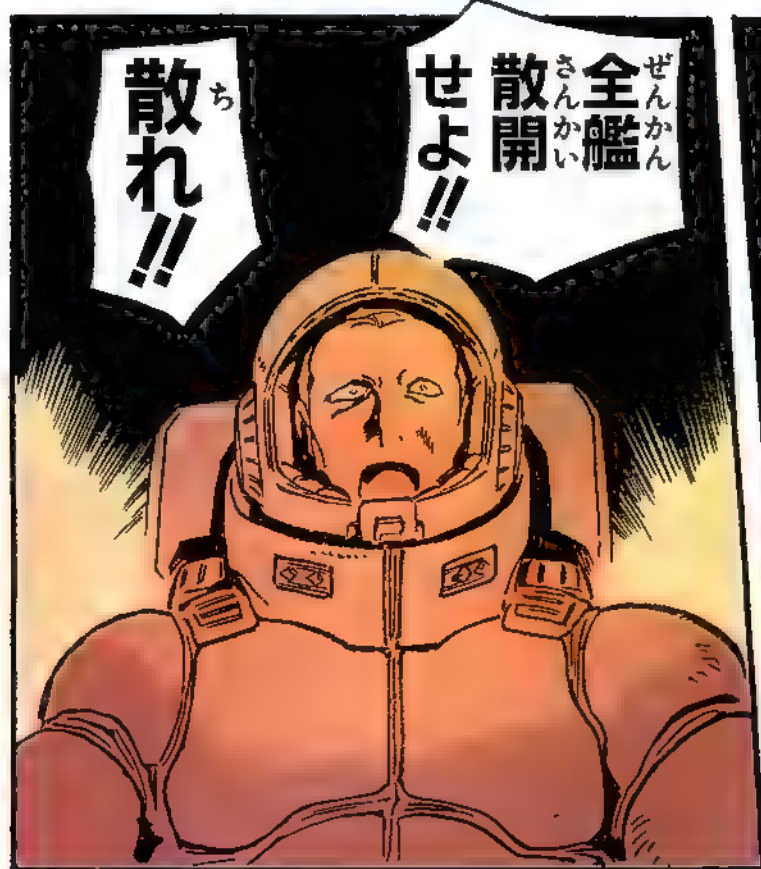
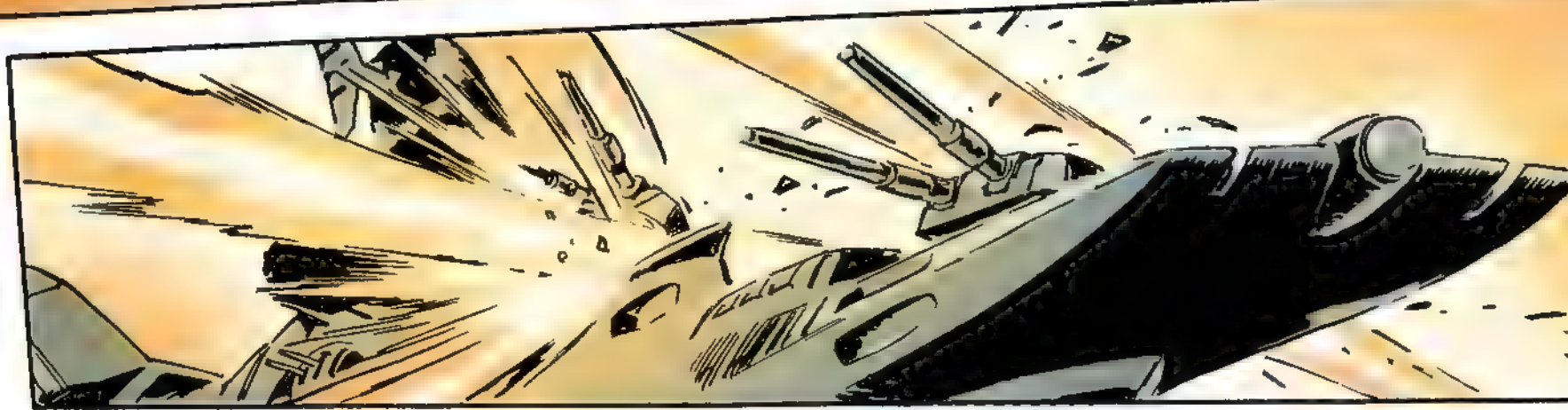
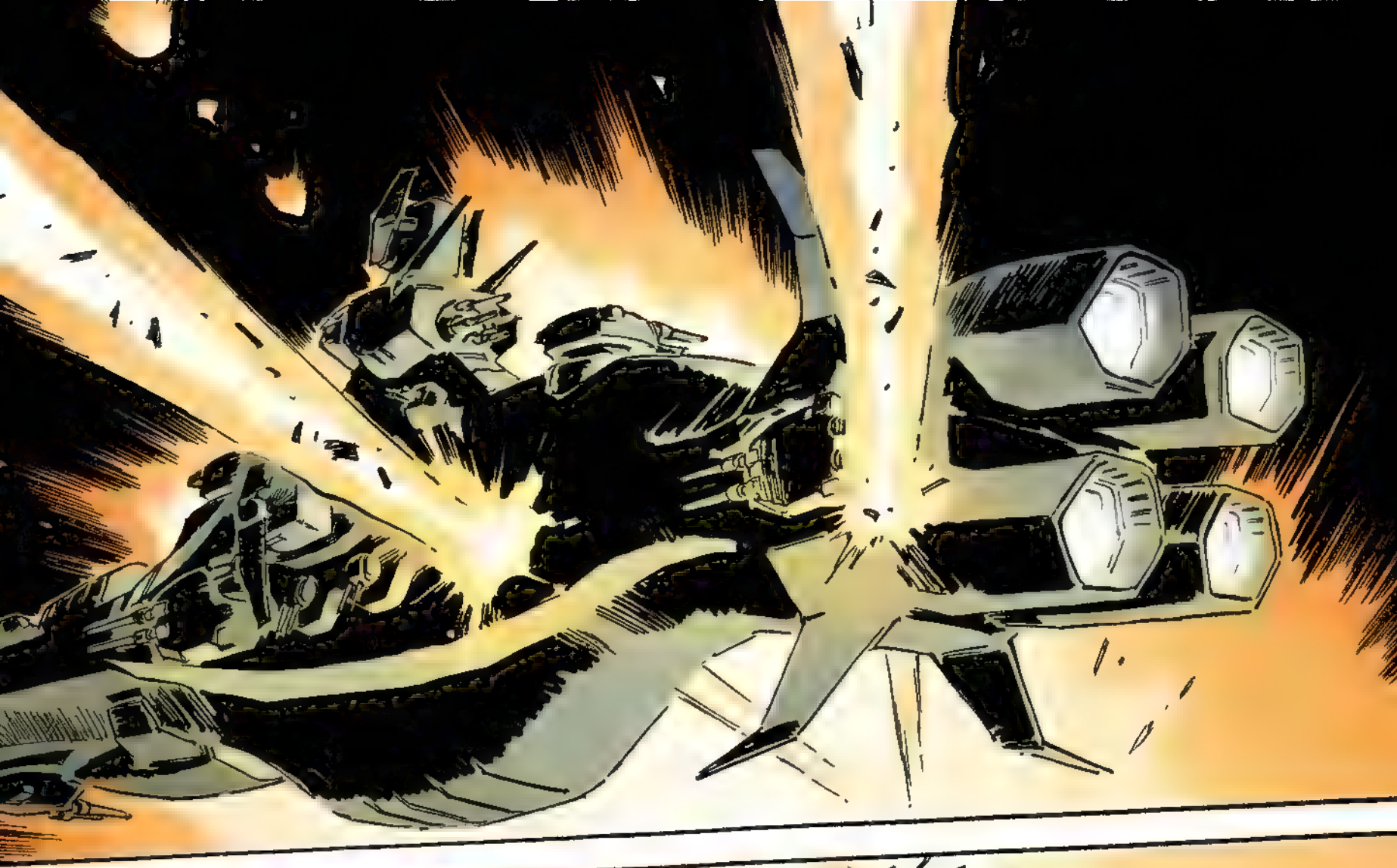
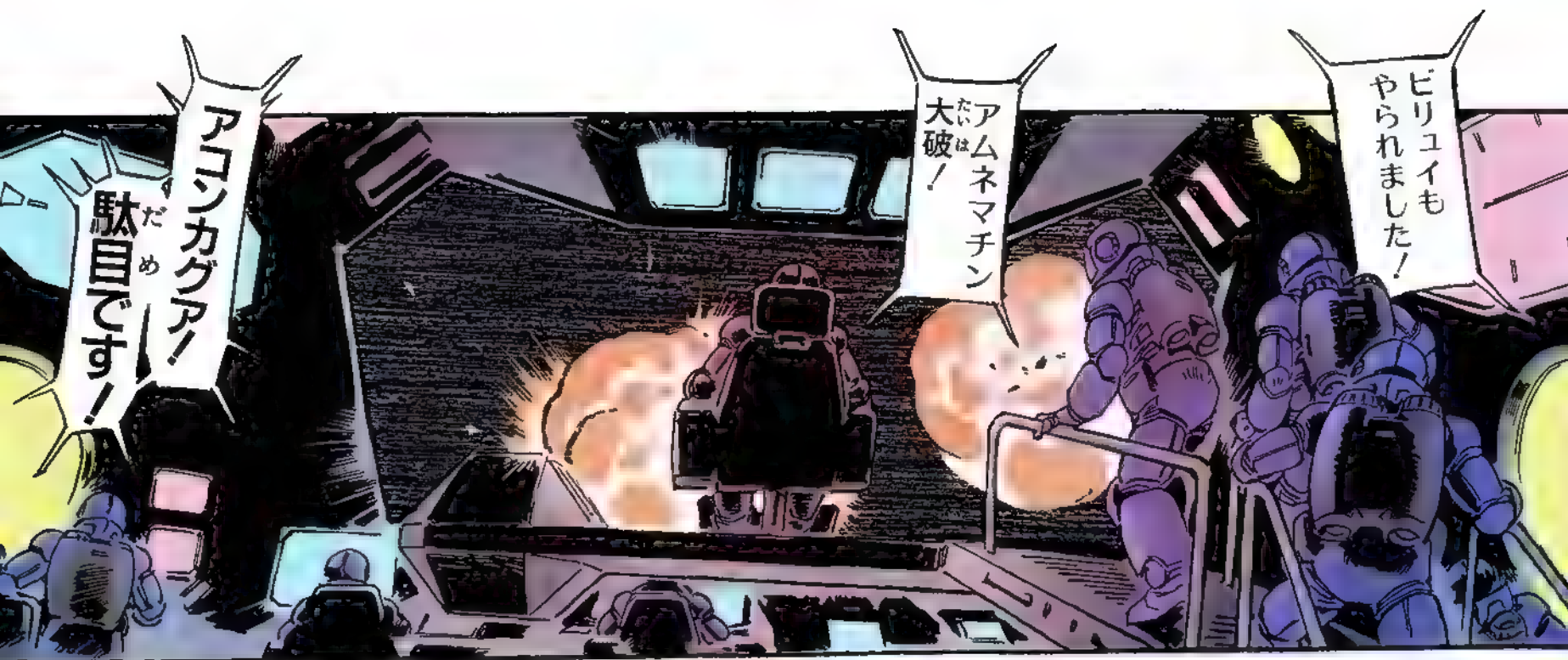
上陸したということね

アムロや
ハヤトは
どうだった
かしら…

にいさんは
どこに……
ここの隔壁を閉鎖しろ!!
早くしろ!!
敵に入られてしまうぞ!!
制御系をやられました
現在復旧作業中!
急げよ!!
やつらはまだまだ来るぞ
クソ野郎どもが!!

こちら
Fフィールド
敵にとりつかれました!
撃退しろ!
なかなかしぶといです
増援を!!

連邦の兵だな?!!
銃を捨てろ!

カツラウラ轟沈!!

全艦散開せよ!!
散れ!!

ビリュイもやられました！
アムネマチン大破！
アコンカグア！駄目です！
射程距離と打撃力にこれほど
差があっては…

うわああ
なんだ?!
味方の艦隊がやられてるんじゃないのか?!
くそっ
せっかくとりついたってのに
ホワイトベース
大丈夫ですかねカイさん
オレ達の帰る所
さあねっ
なくなっちまうかもよ

ザッ!
カッ
カッ
カッ
カッ

現在敵の後衛艦隊と交戦中であります！
うむ
キシリア様がドロスにて参戦されました！
遅かったな
尚 現在敵の若干のモビルスーツ部隊が上陸し橋頭堡を築こうとしておりますがっ
まもなくこれを駆逐いたします!!
わかった
すみやかにやれ
はっ!!

キシリアめ

なにを考えているか…

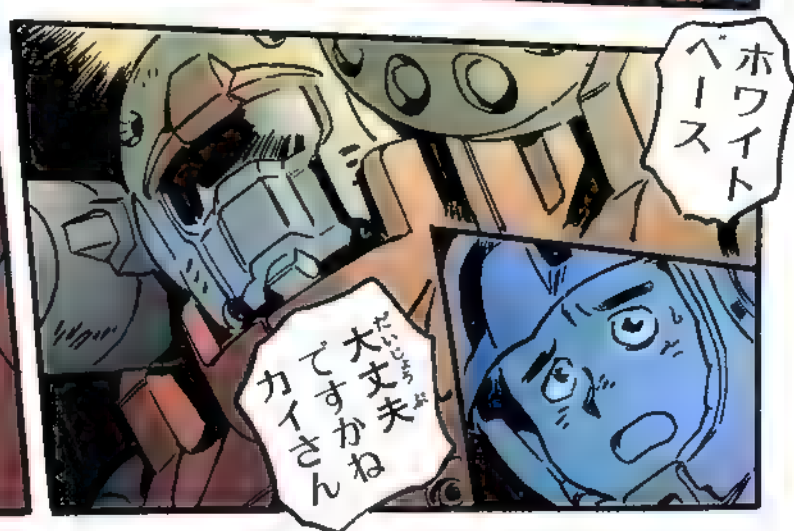
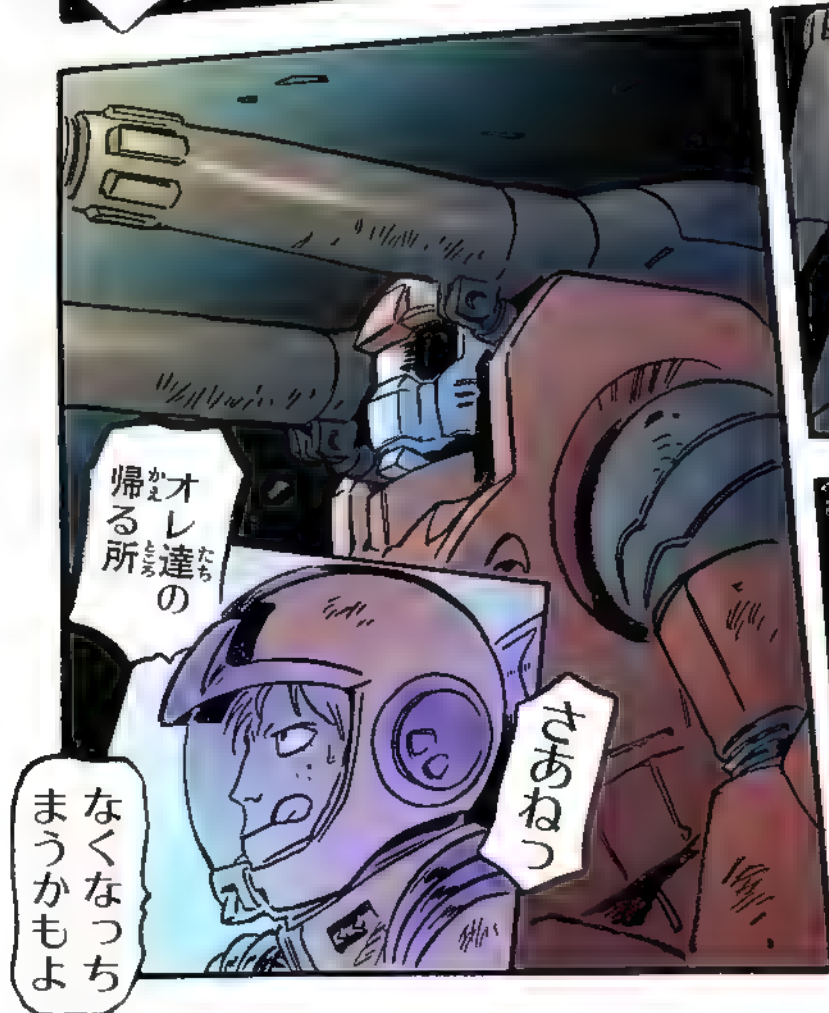
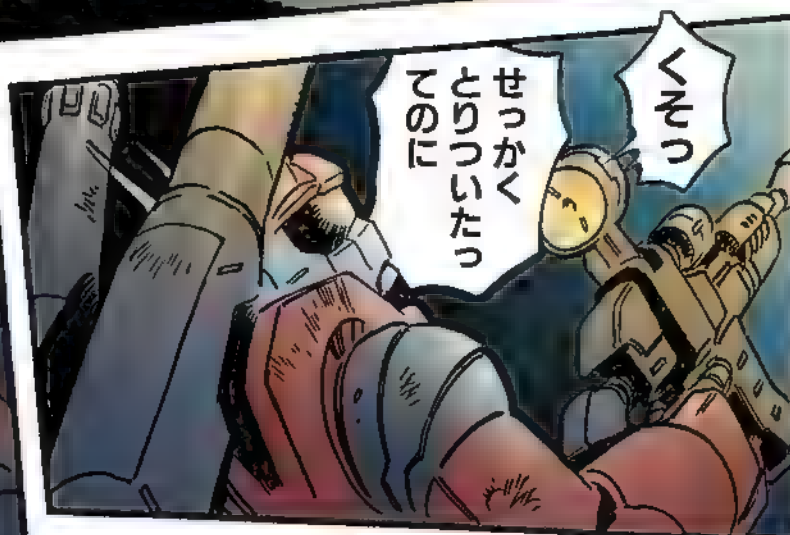
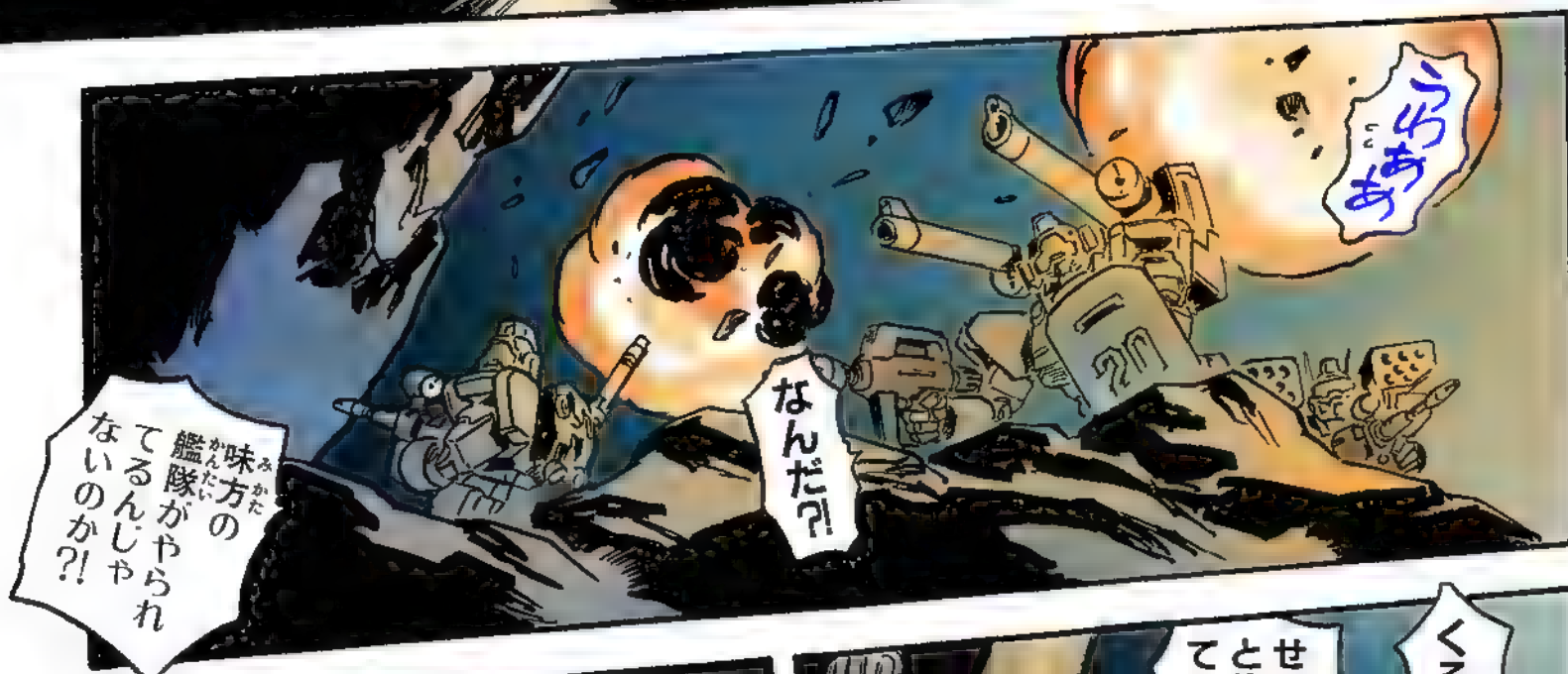
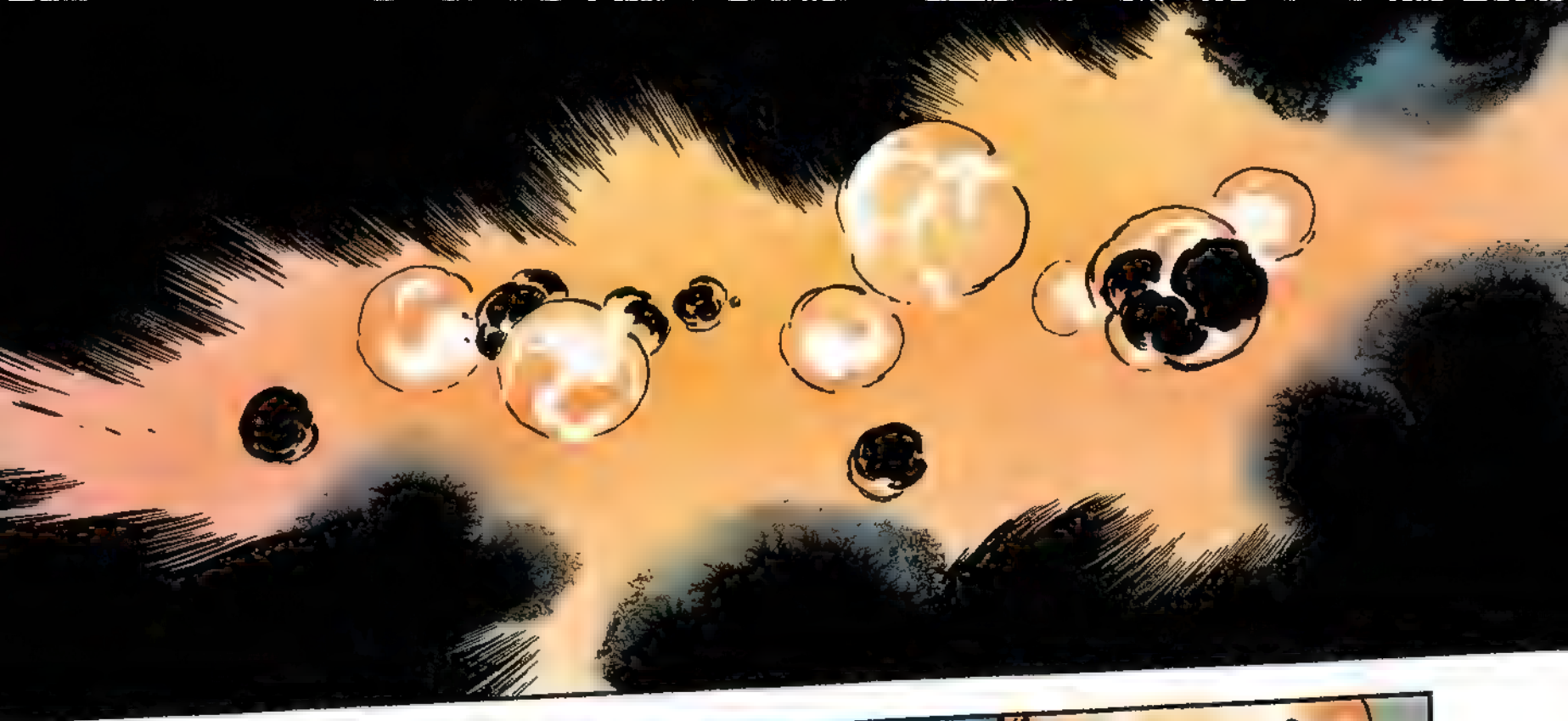
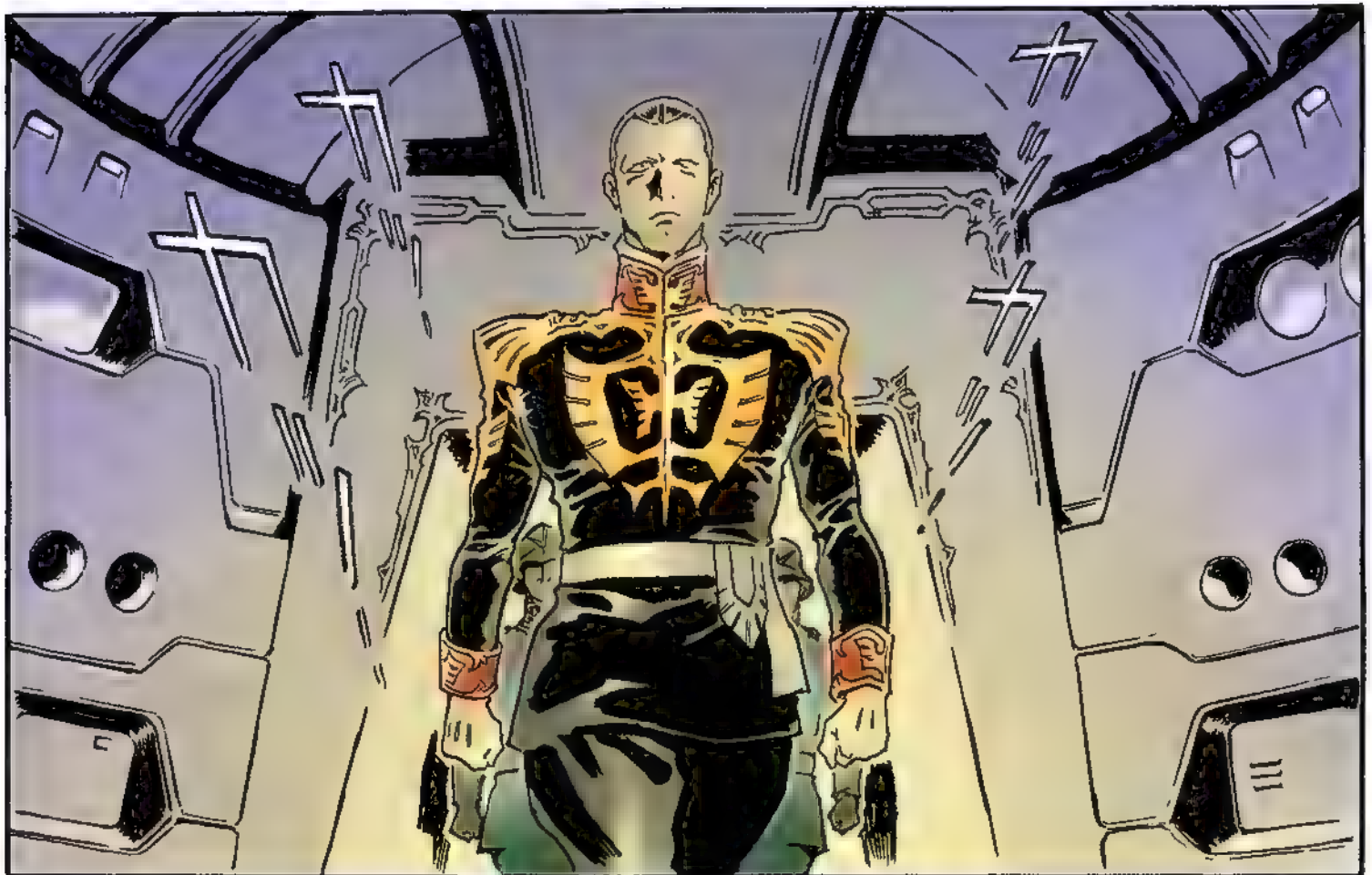
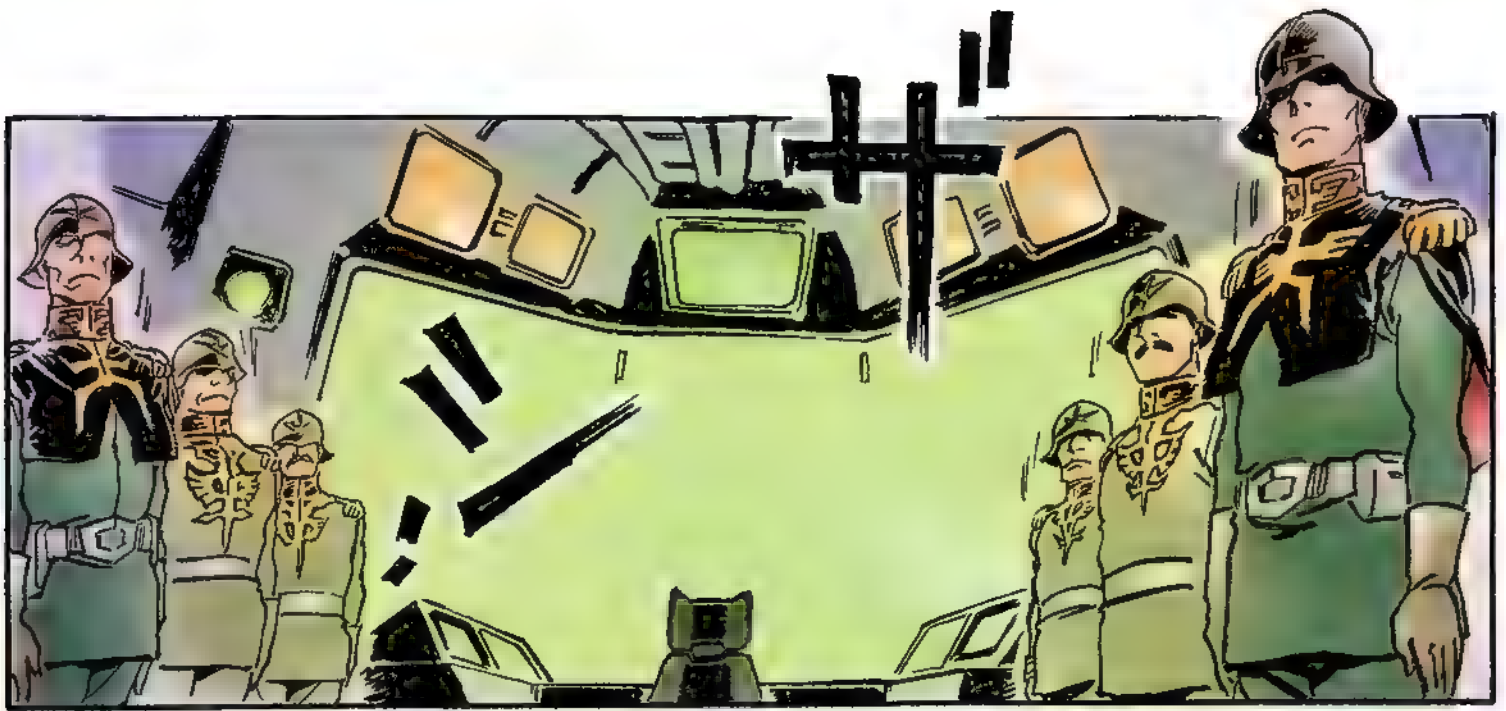
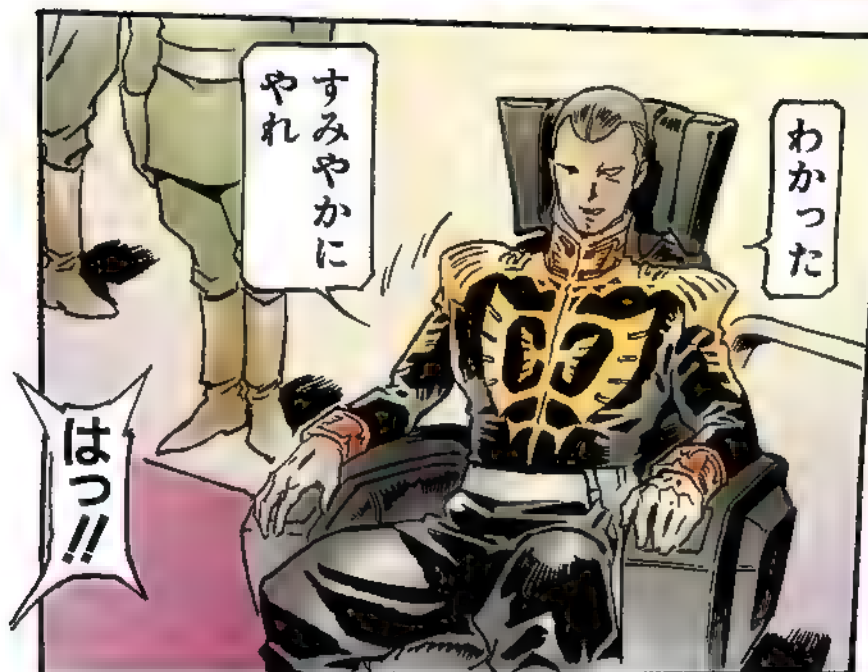
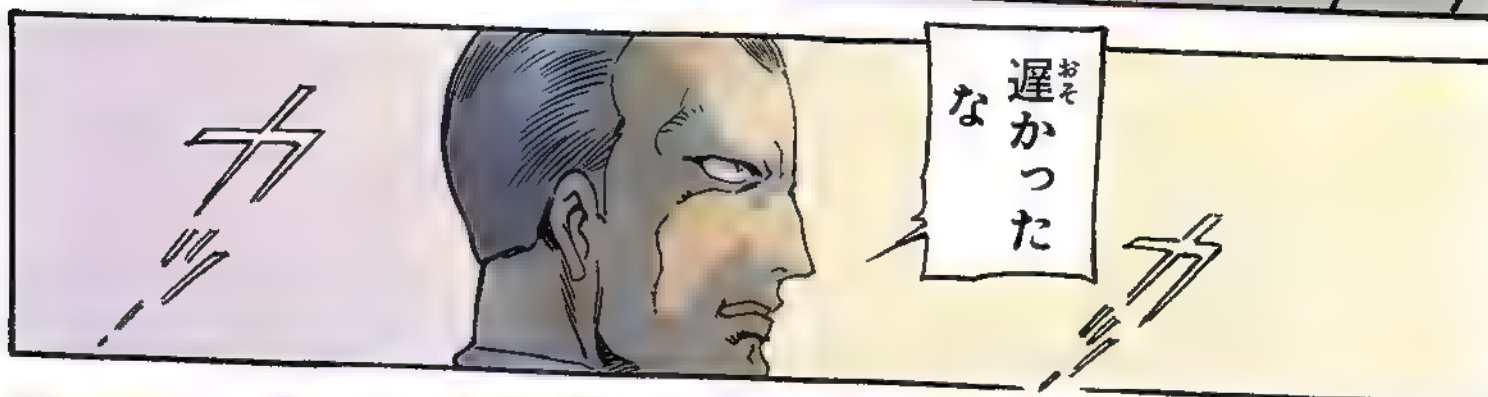
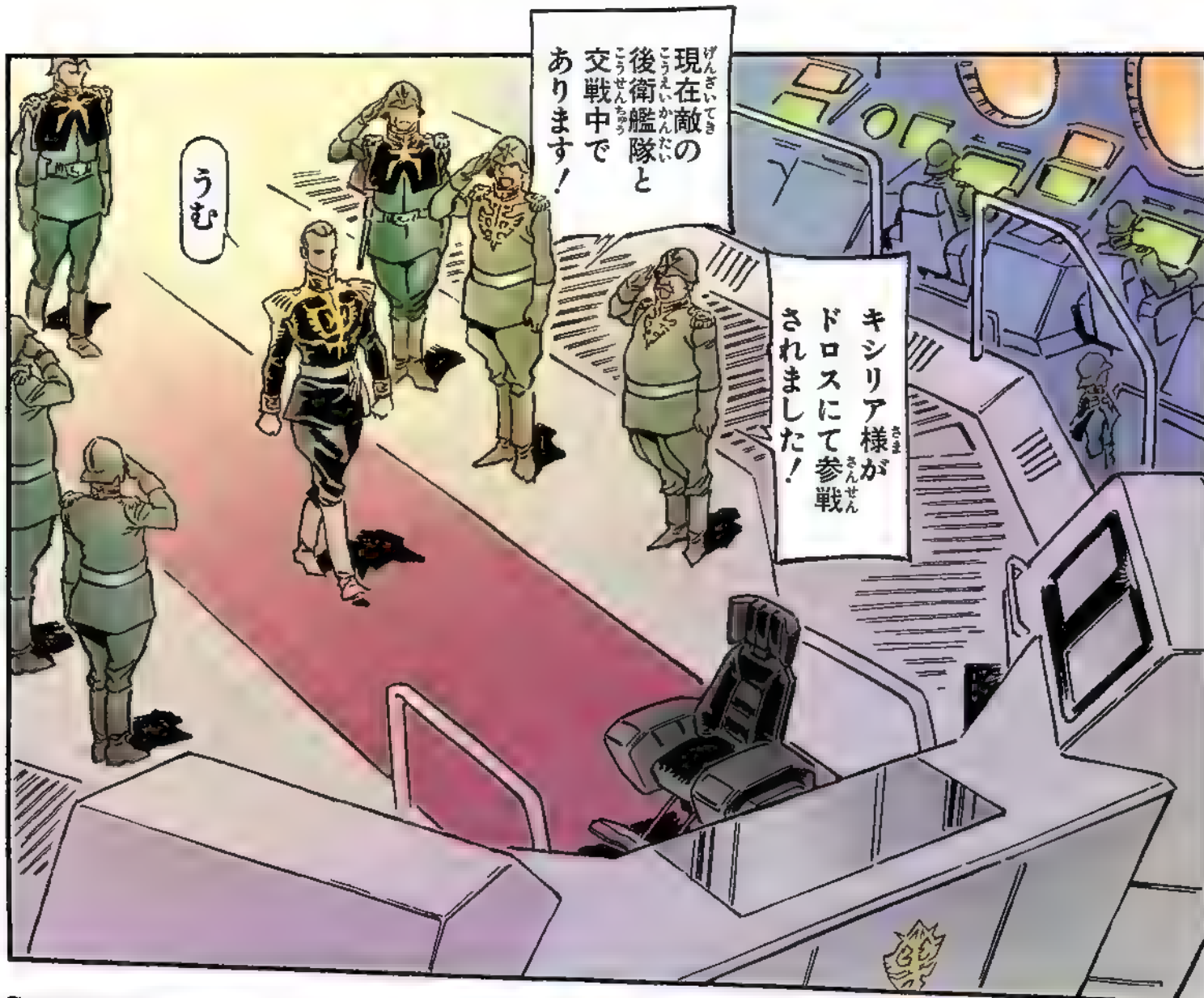
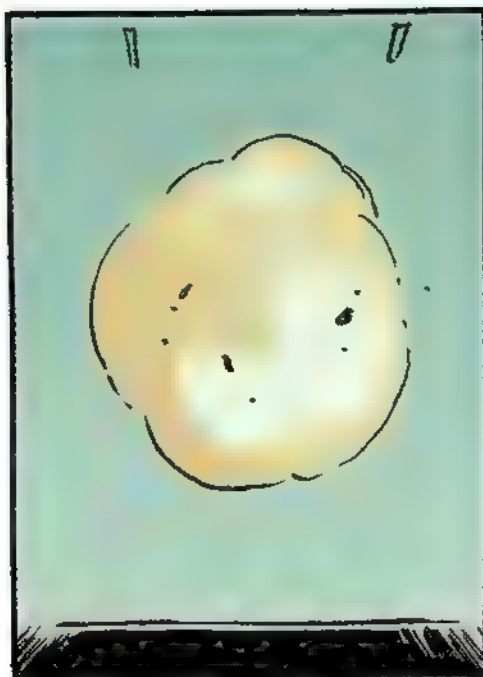
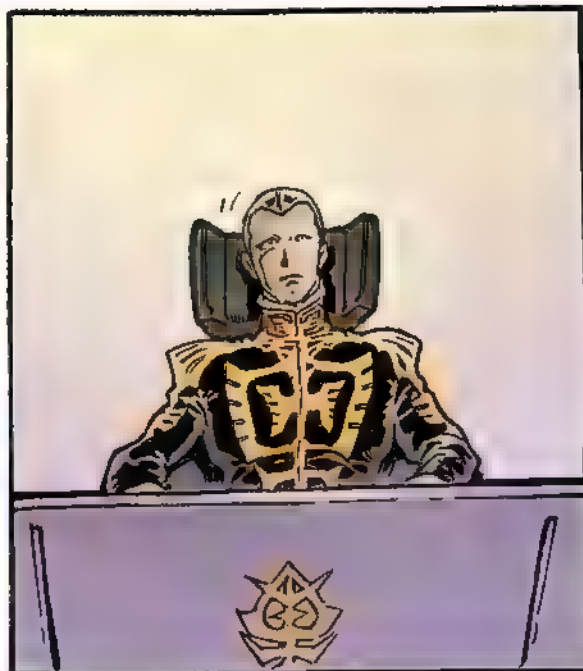
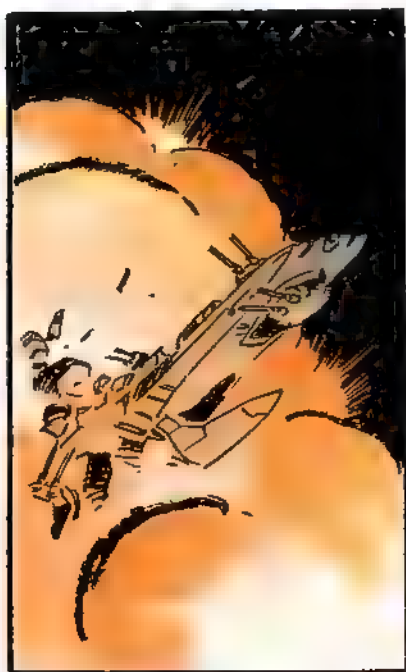
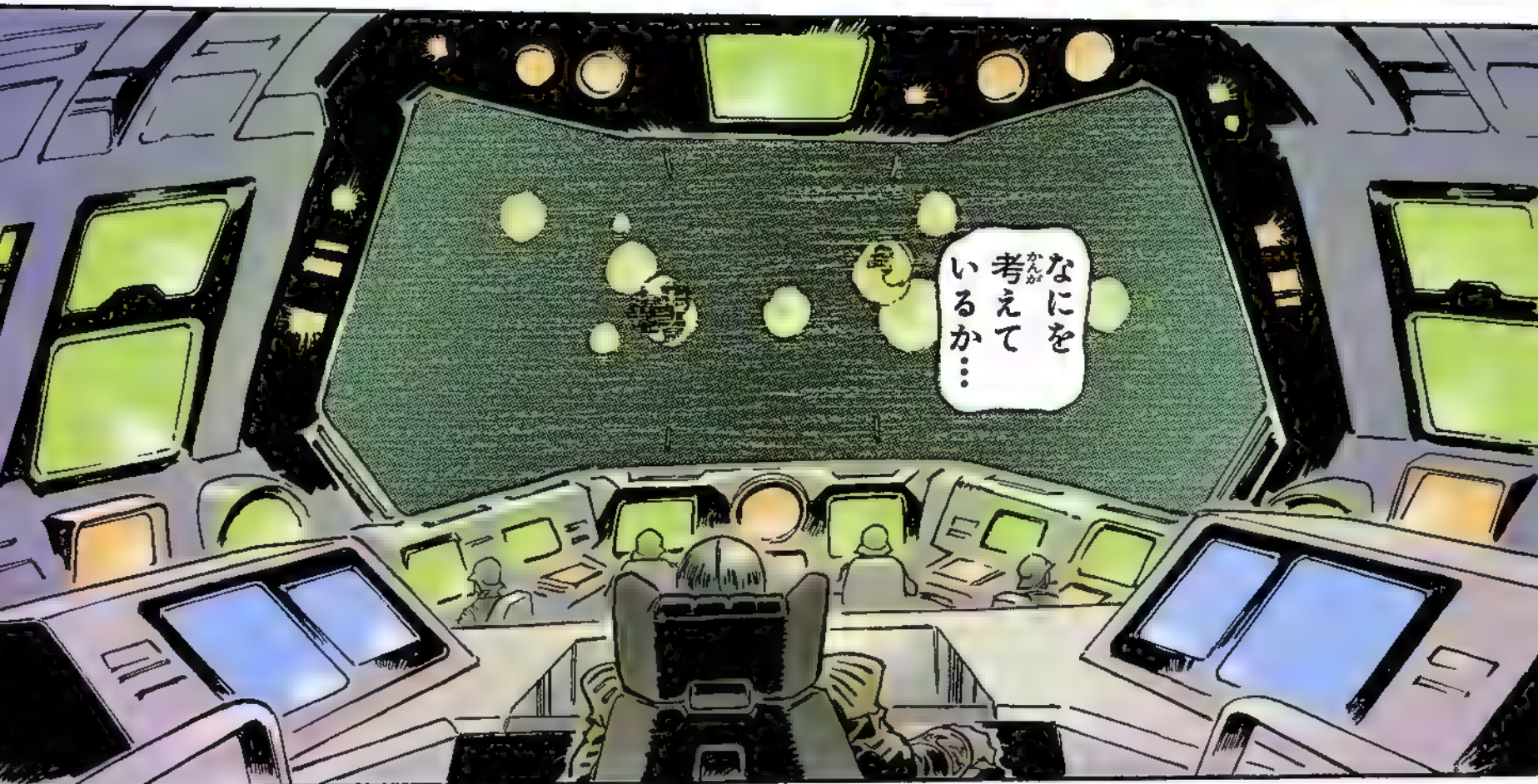
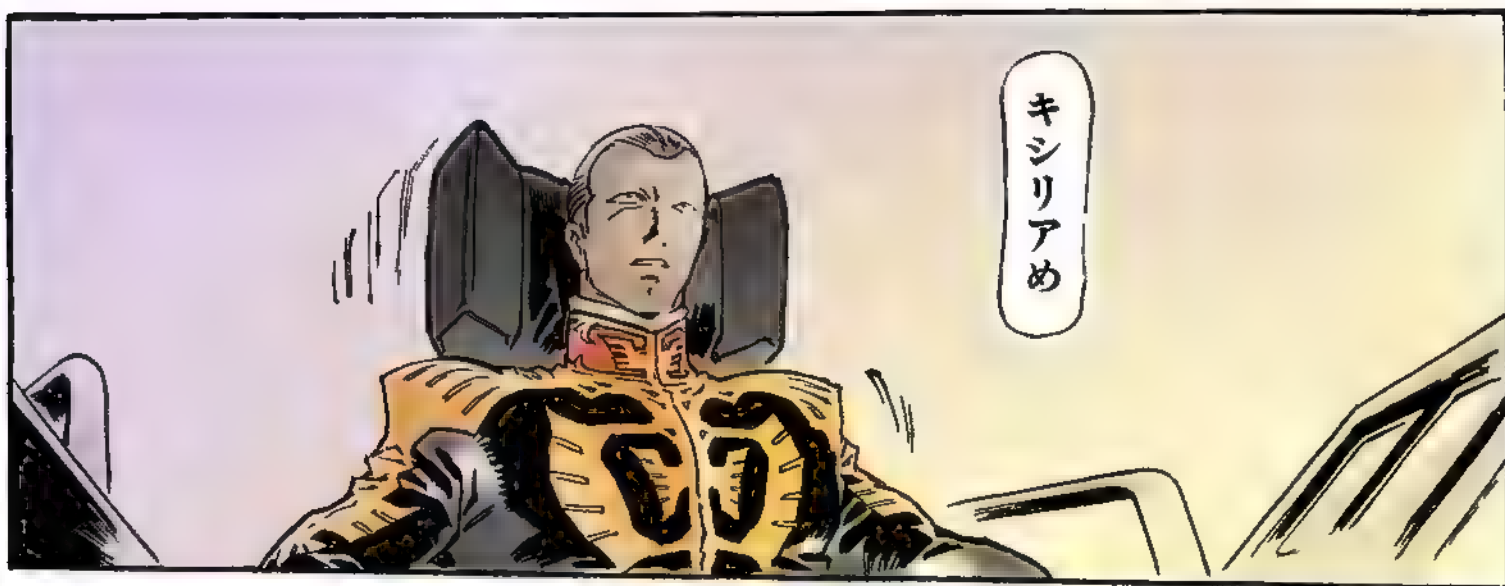
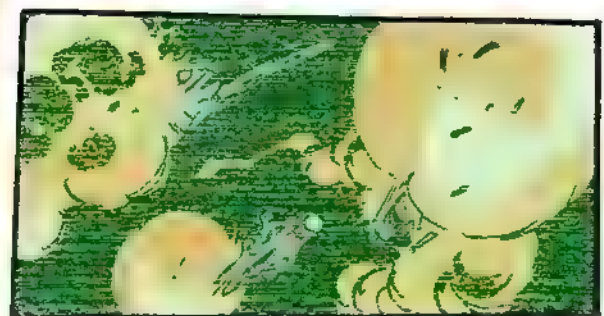
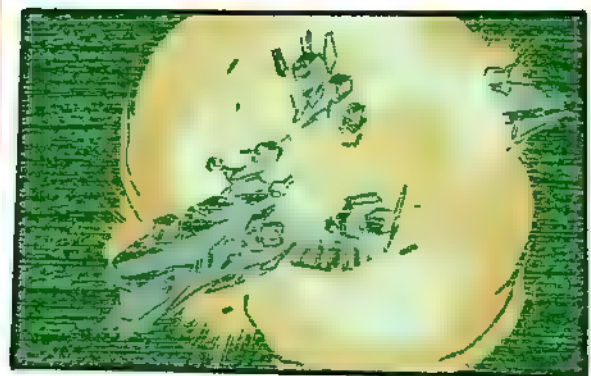
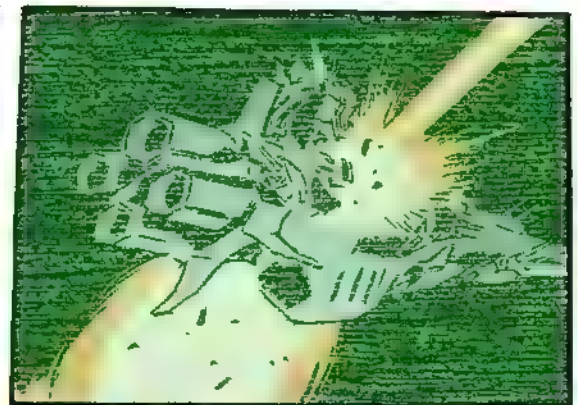
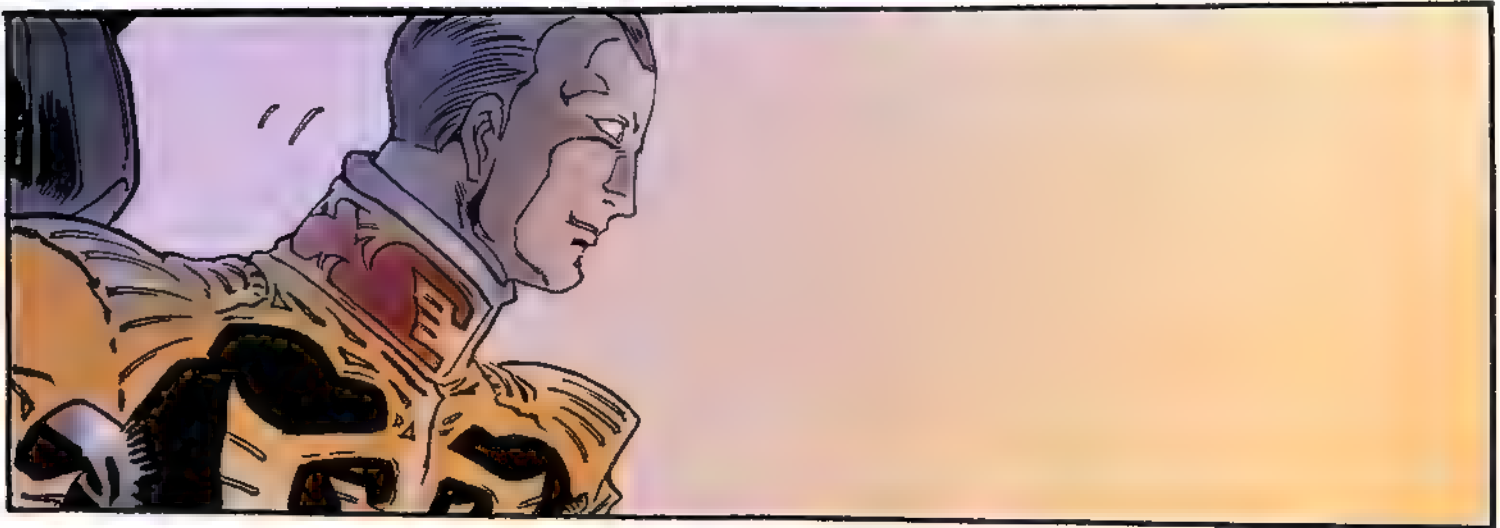
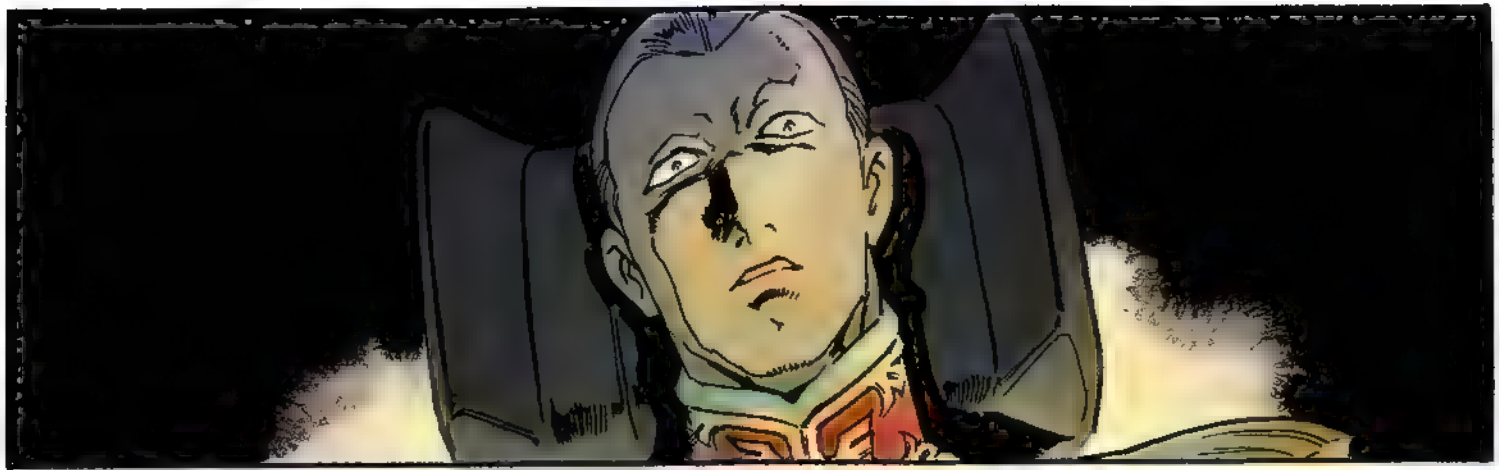
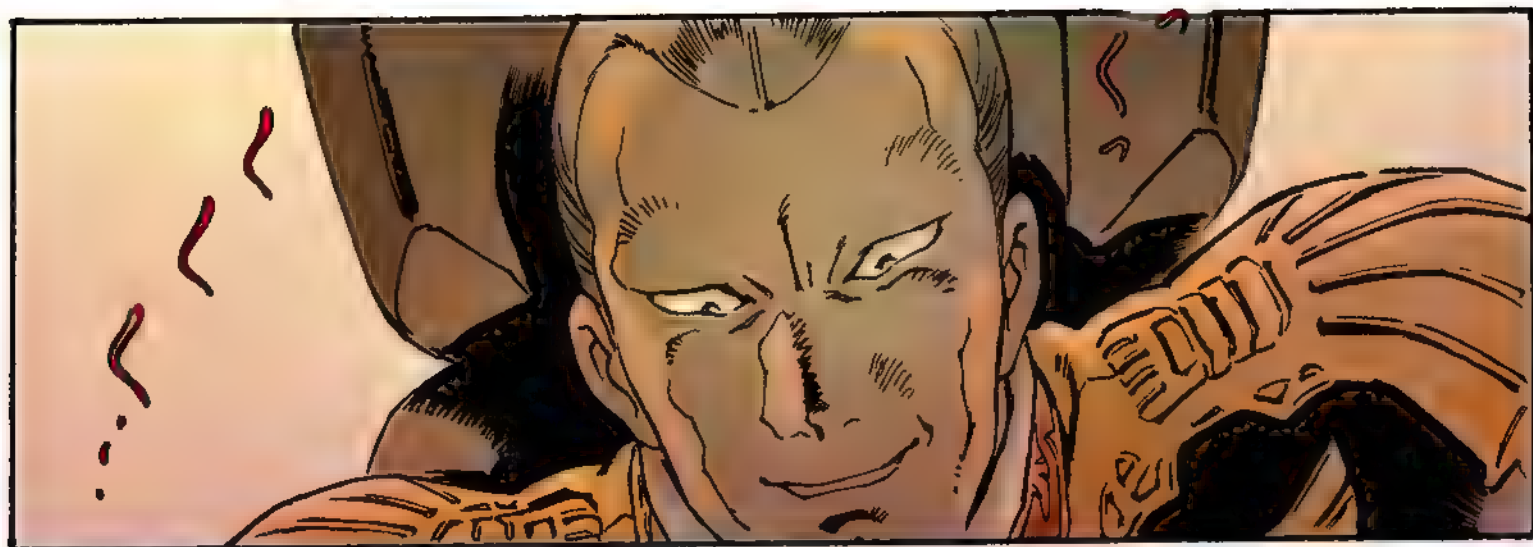
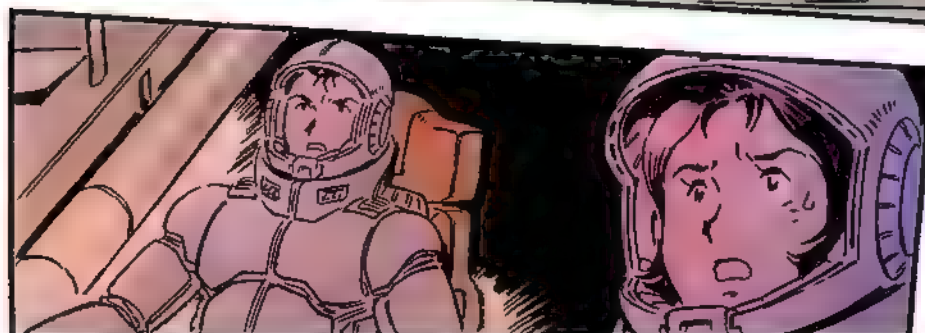
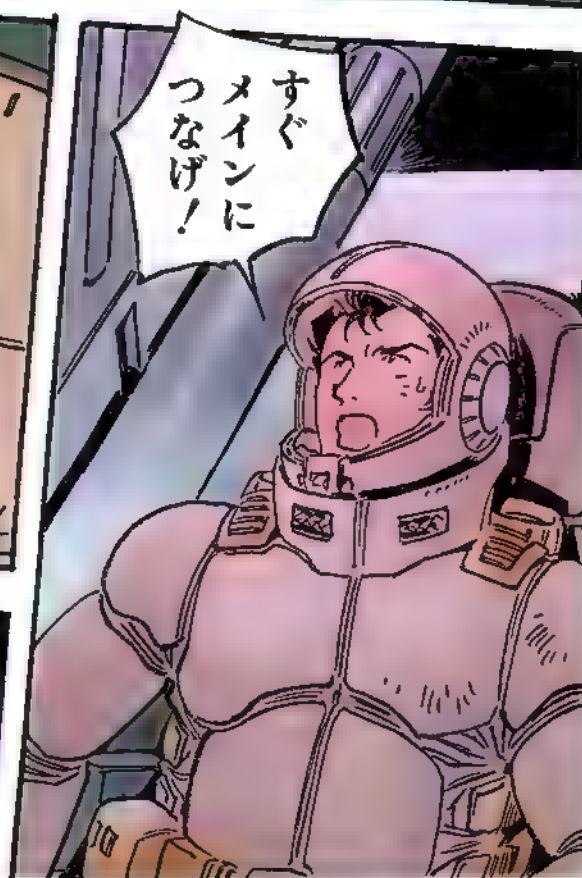
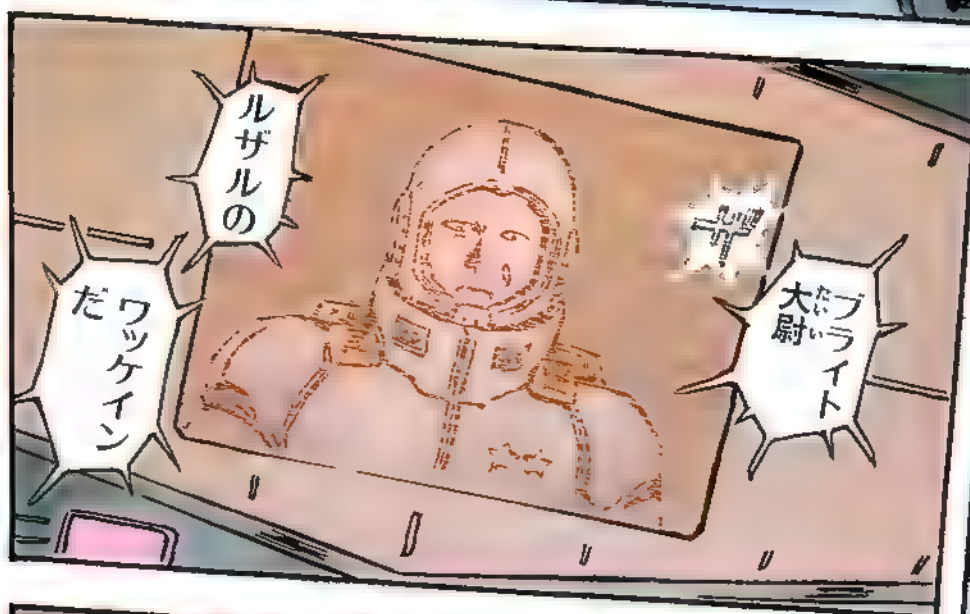
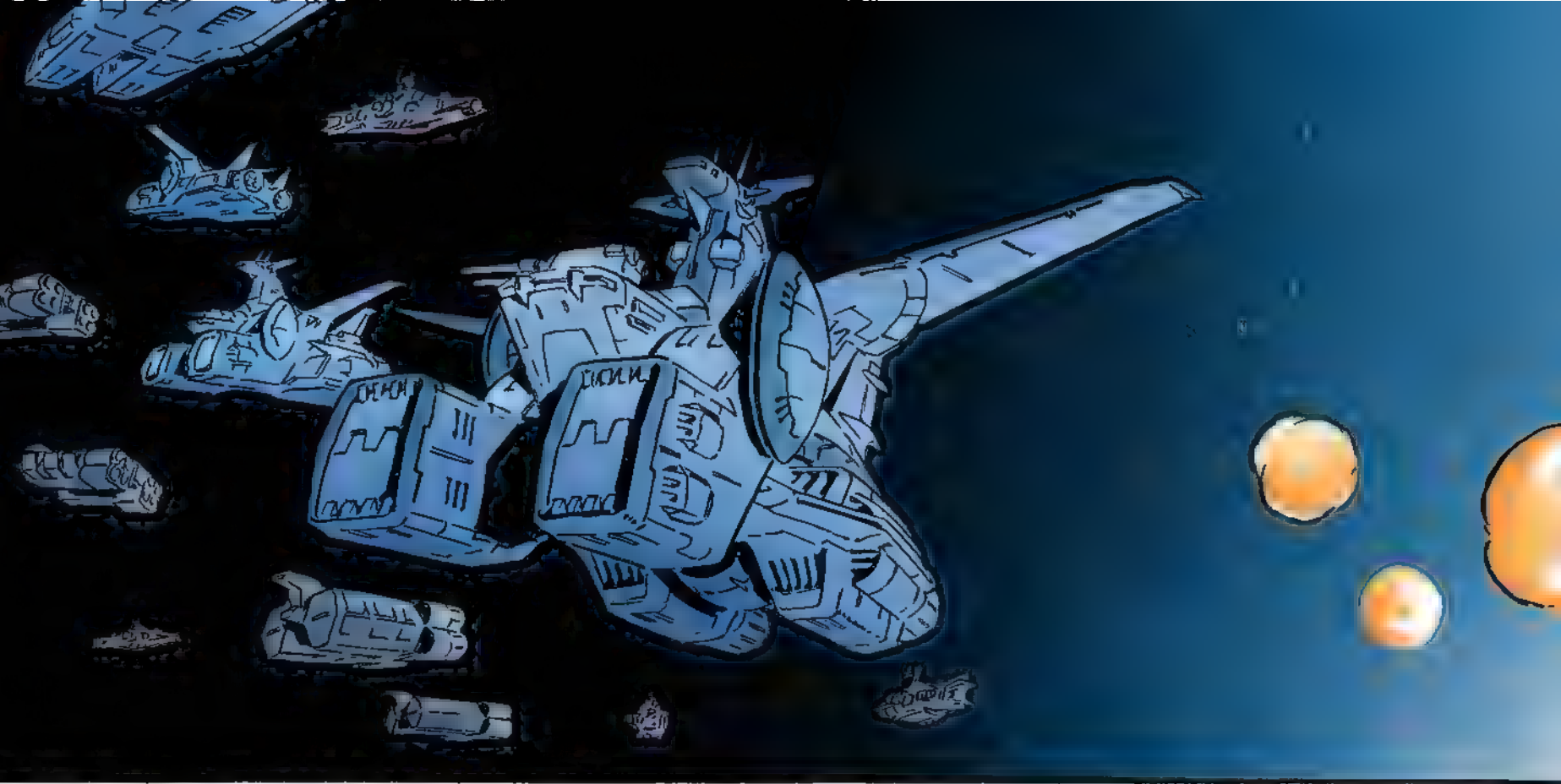
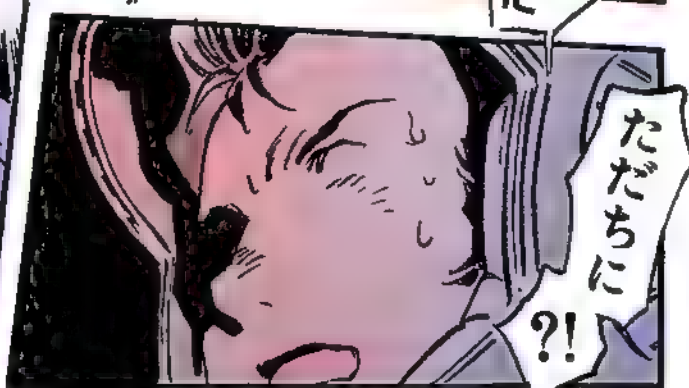
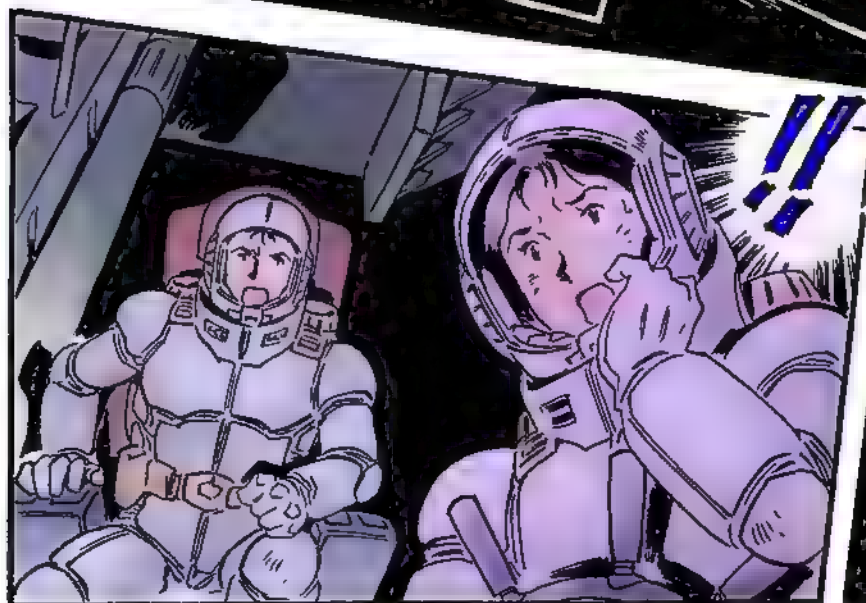
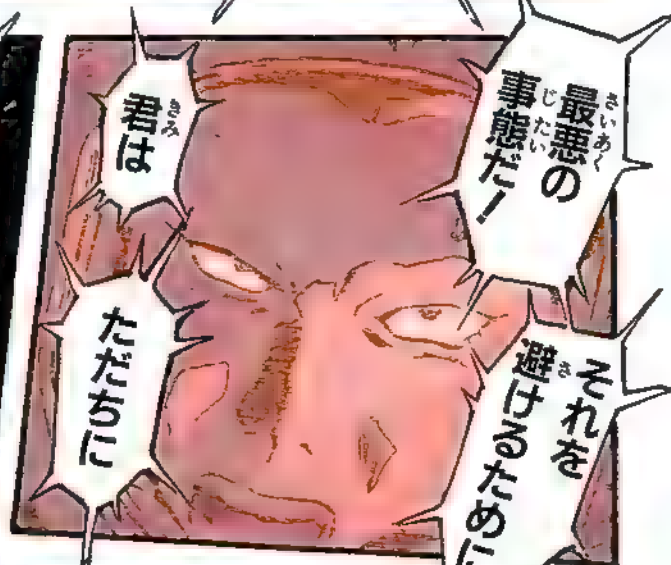
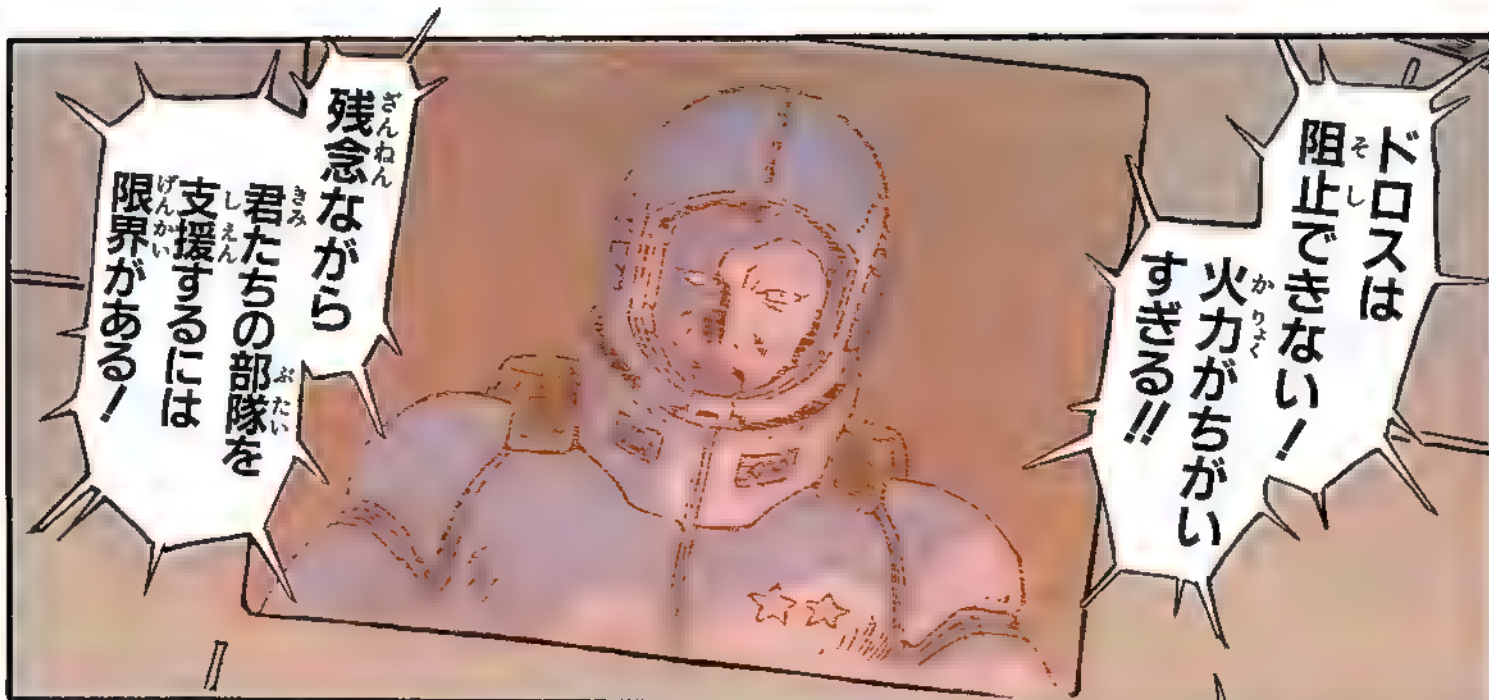
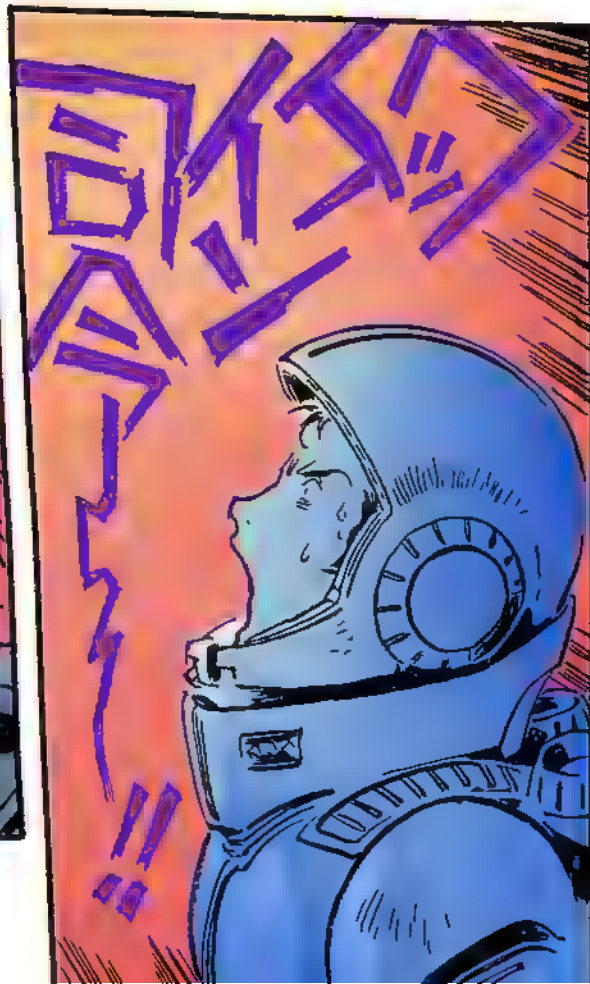
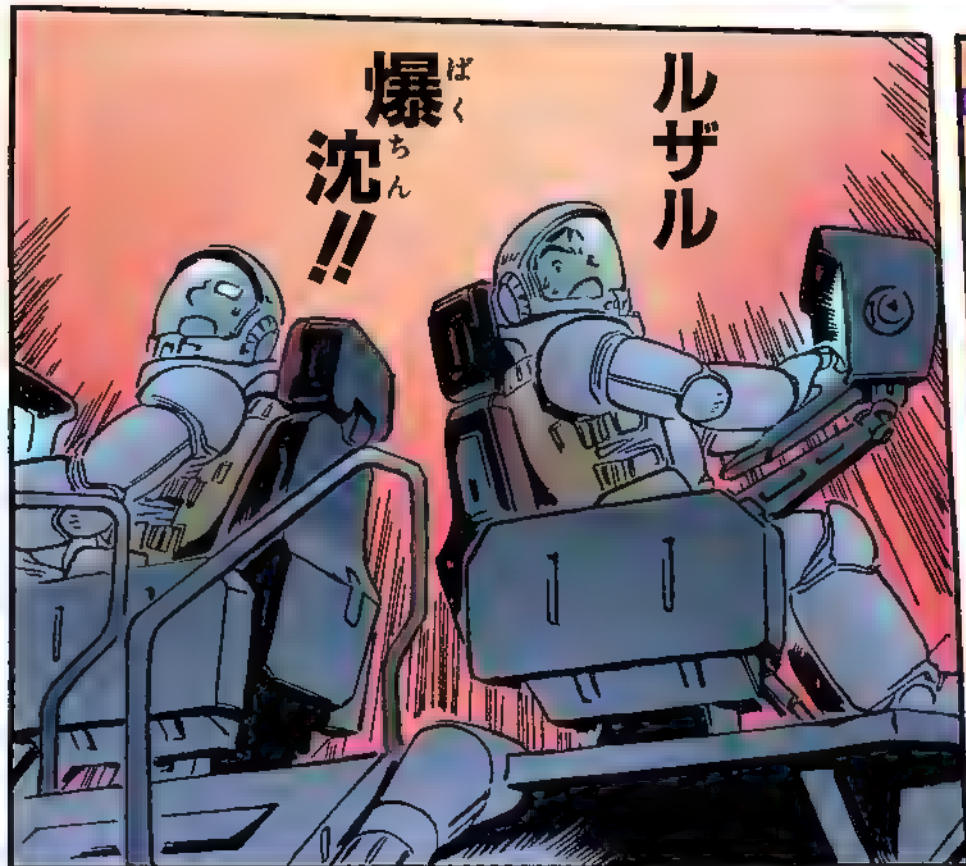
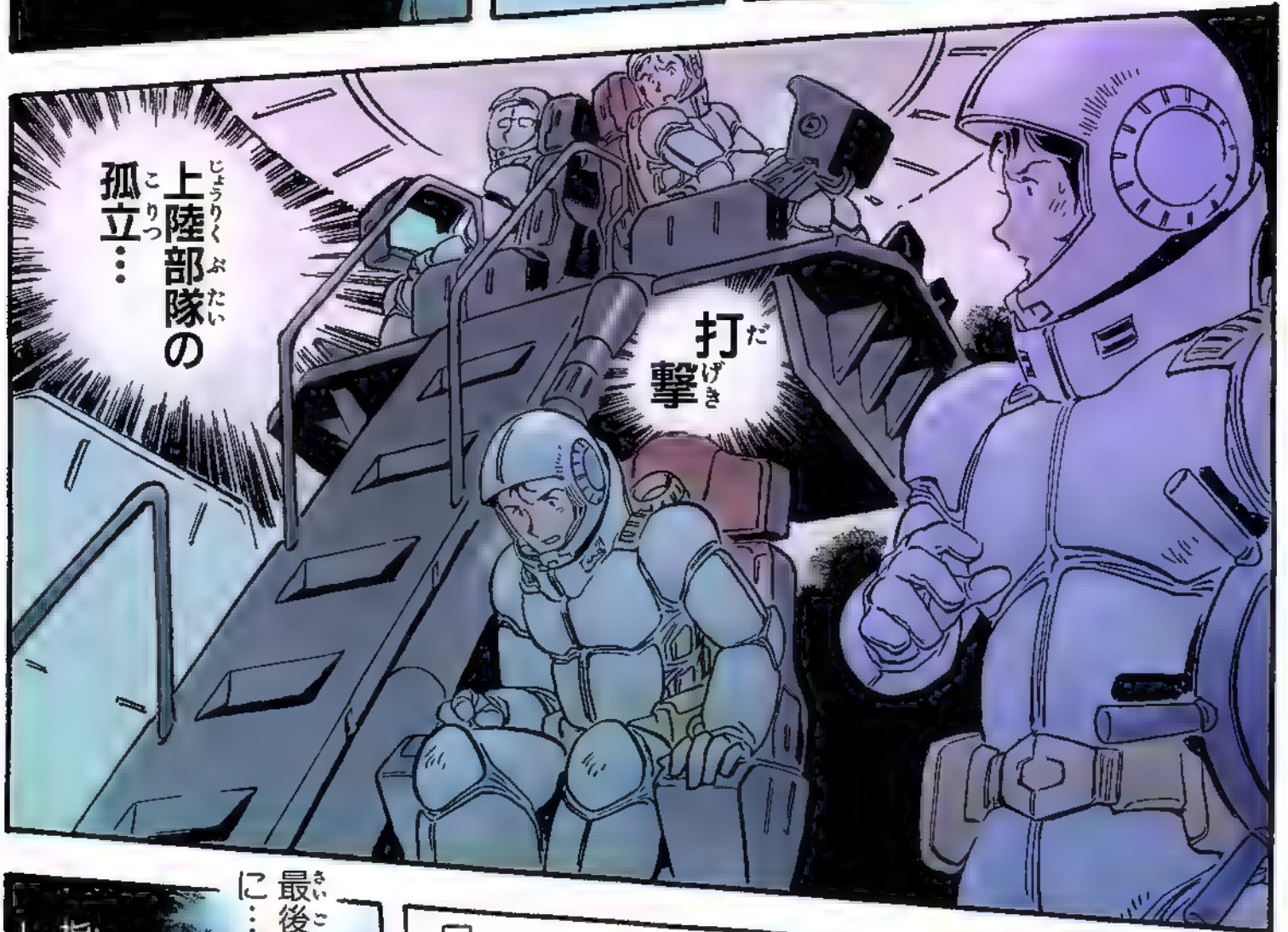
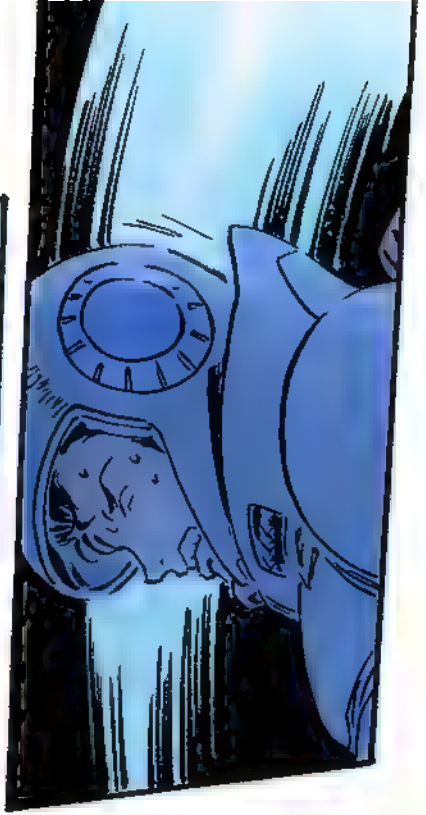
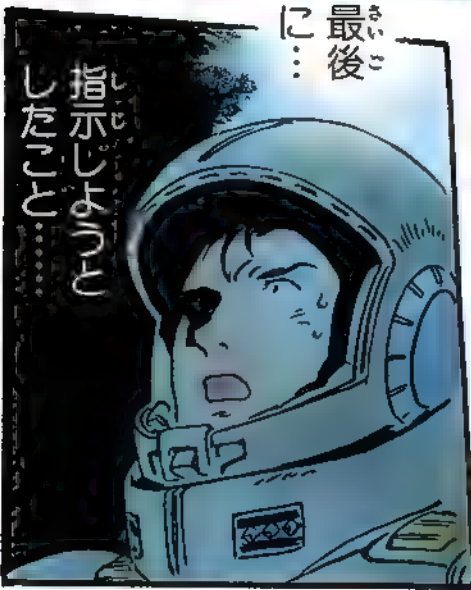
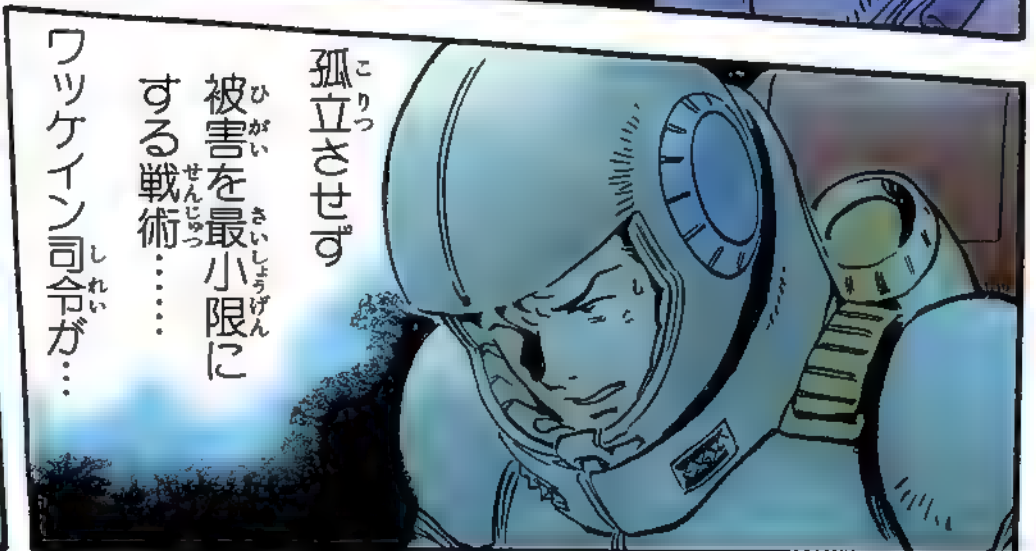
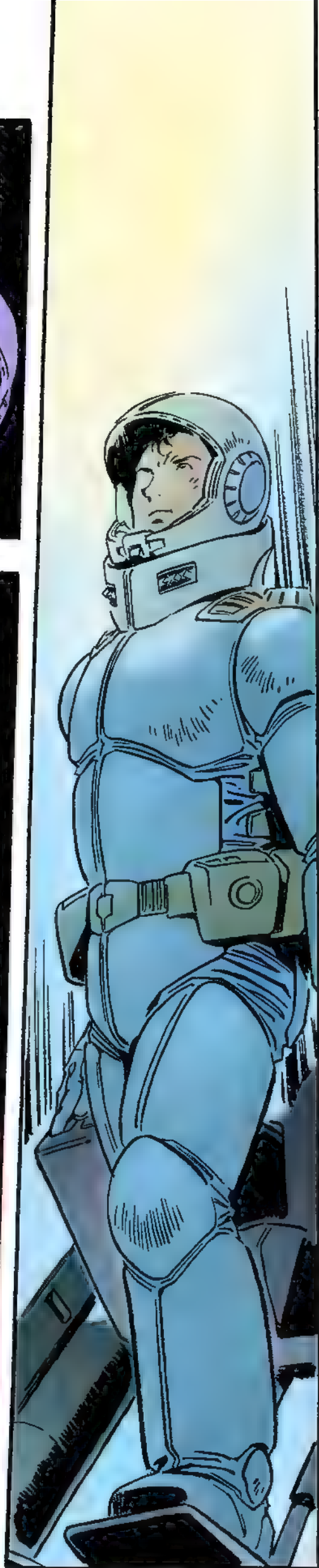
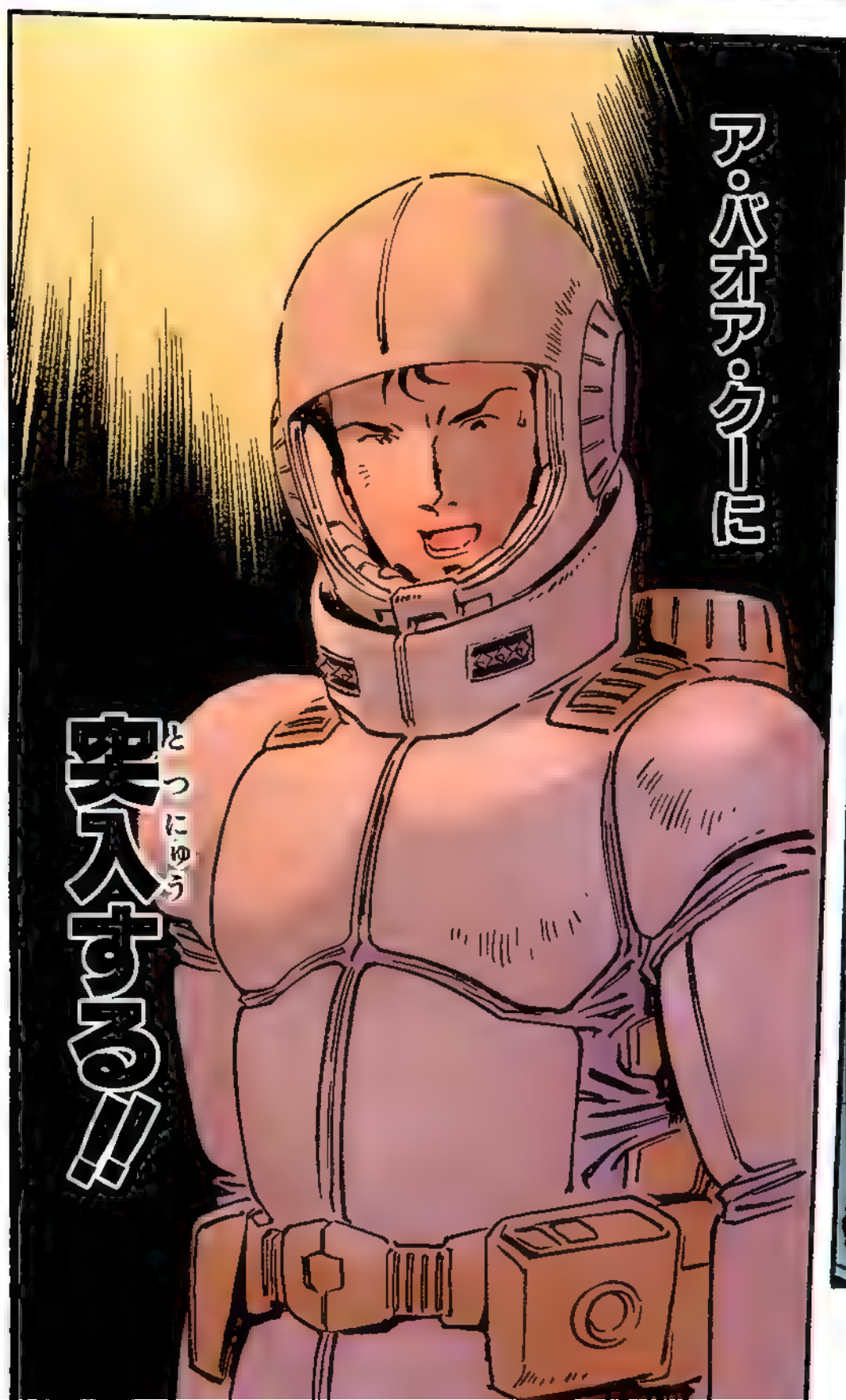
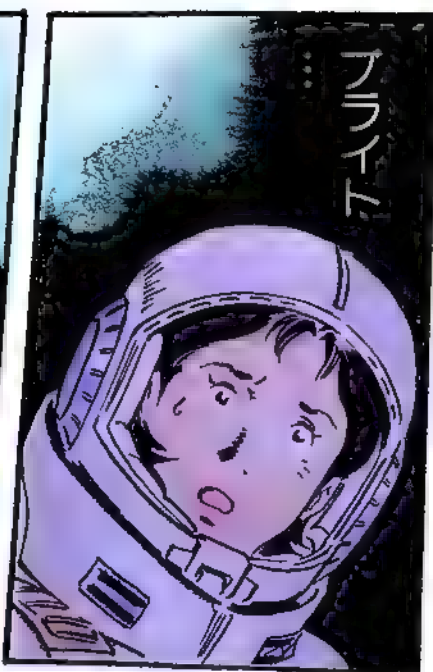
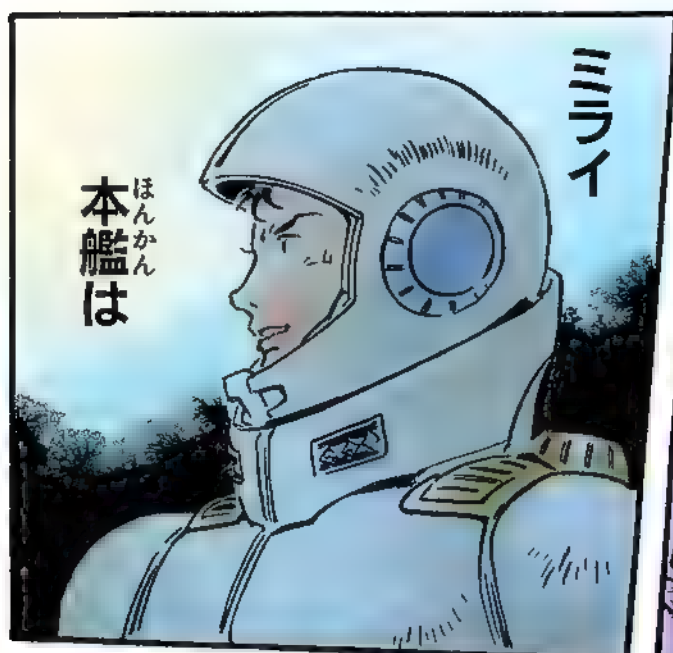
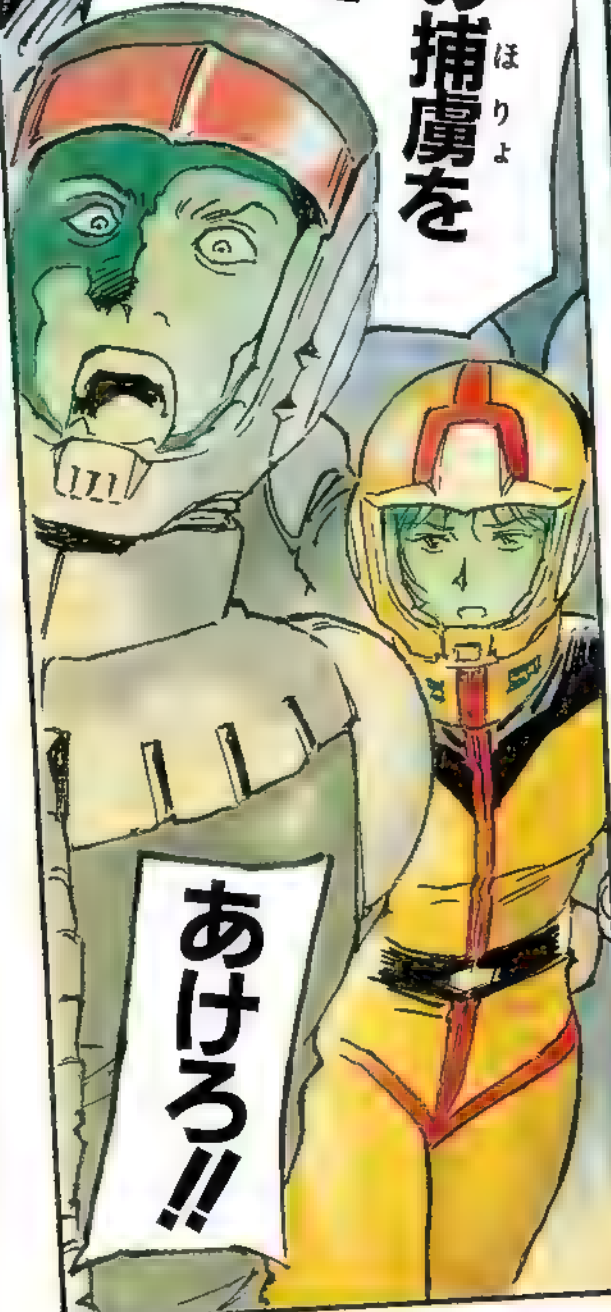
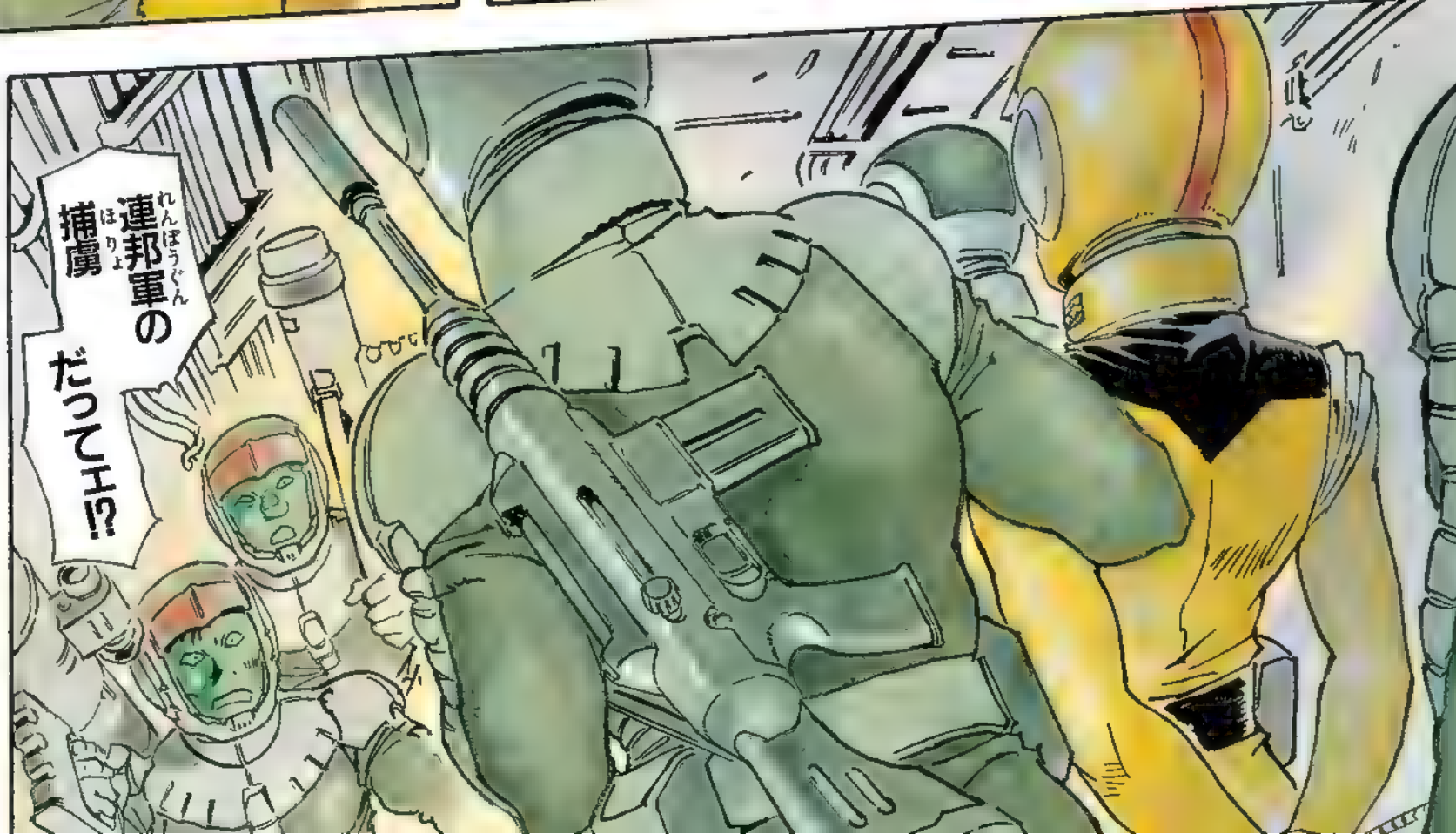
ふ……

圧倒的じゃないか
我が軍は!!

艦長！
ルザルから緊急通信です！

ドロスは阻止できない！火力がちがいすぎる!!
残念ながら君たちの部隊を支援するには限界がある！
ドロスはこのまま突き進み次は君たちに砲火を浴びせるだろう！
そうなると大打撃を受け上陸部隊は孤立してしまう!!
ガガガ
ビチ
最悪の事態だ！
君は
それを避けるために
ただちに
!!
ただちに
?!

ルザル
爆沈!!

ヘイズン司令ーー!!

oooooooooooo
打撃
上陸部隊の孤立…
孤立させず
被害を最小限にする戦術……
ワッケイン司令が…
最後に…
指示しようとしたこと……

ア・バオア・クーに
突入する!!

SECTION
VIII

前をあけろ!!

連邦軍の捕虜を連行しているんだ!

あけろ!!

嘘だろ？おいっ
わあっしかも女だ!!
女ァ?!!
ホントだ女だ!!
女兵士だ！
いい女だぜ!!
触らせろ
こらキサマらあっ!!
触らせろォ!!
こらあっ!!
あけろったらあけろォ!!

攻撃部隊の全艦艇へ!
こちらはWB!!

本艦はこれより ア・バオア・クーに
強行着陸する！

全艦これに続け!!
カチャ
カチャカチャ

このまま遊弋していては敵巨大艦の餌食になる!
ワッケイン司令の遺命もそれを宜しとしなかった!!
全戦力を揚陸する!
健闘せよ僚艦諸君!!

めキ

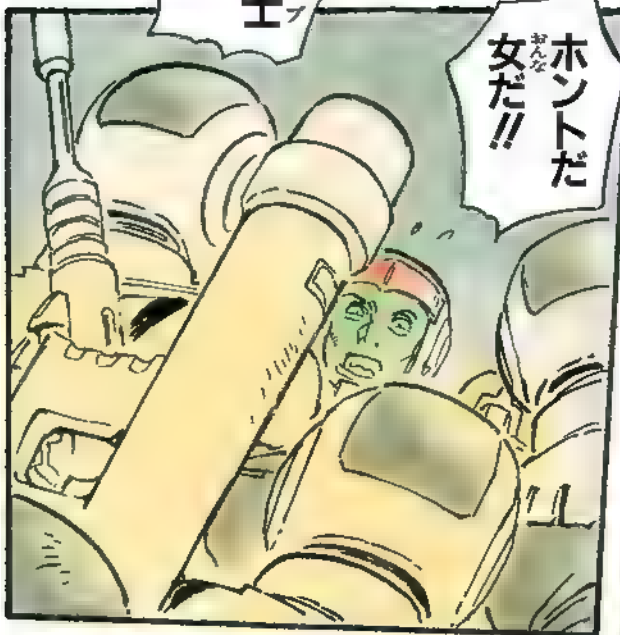
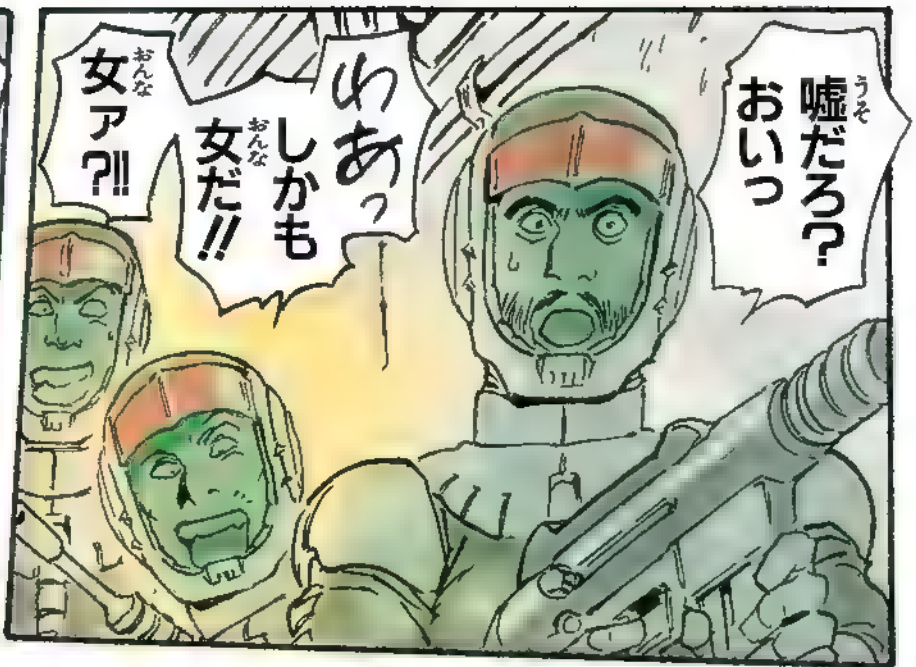
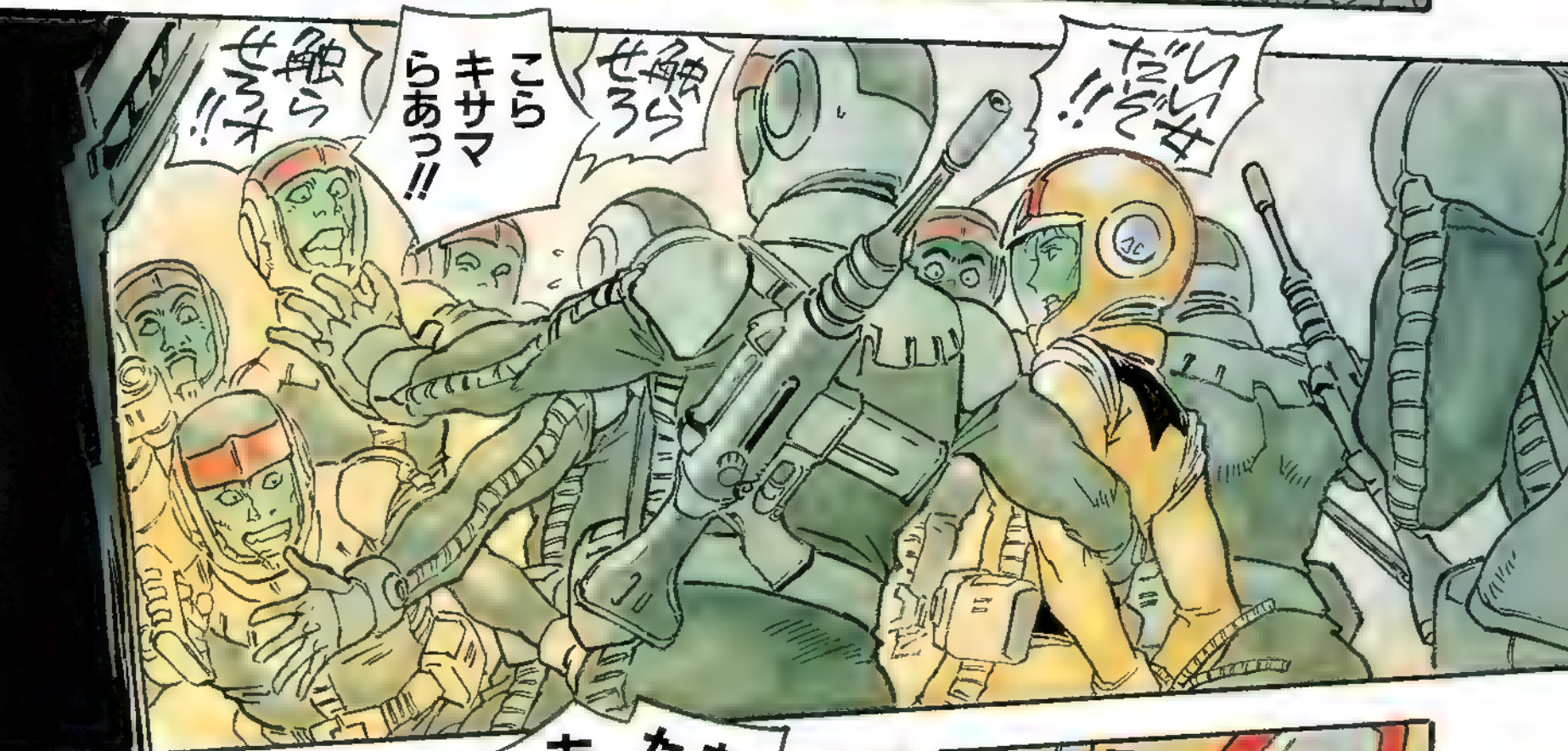
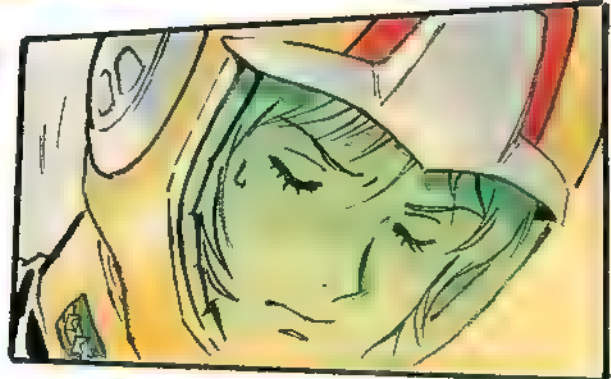
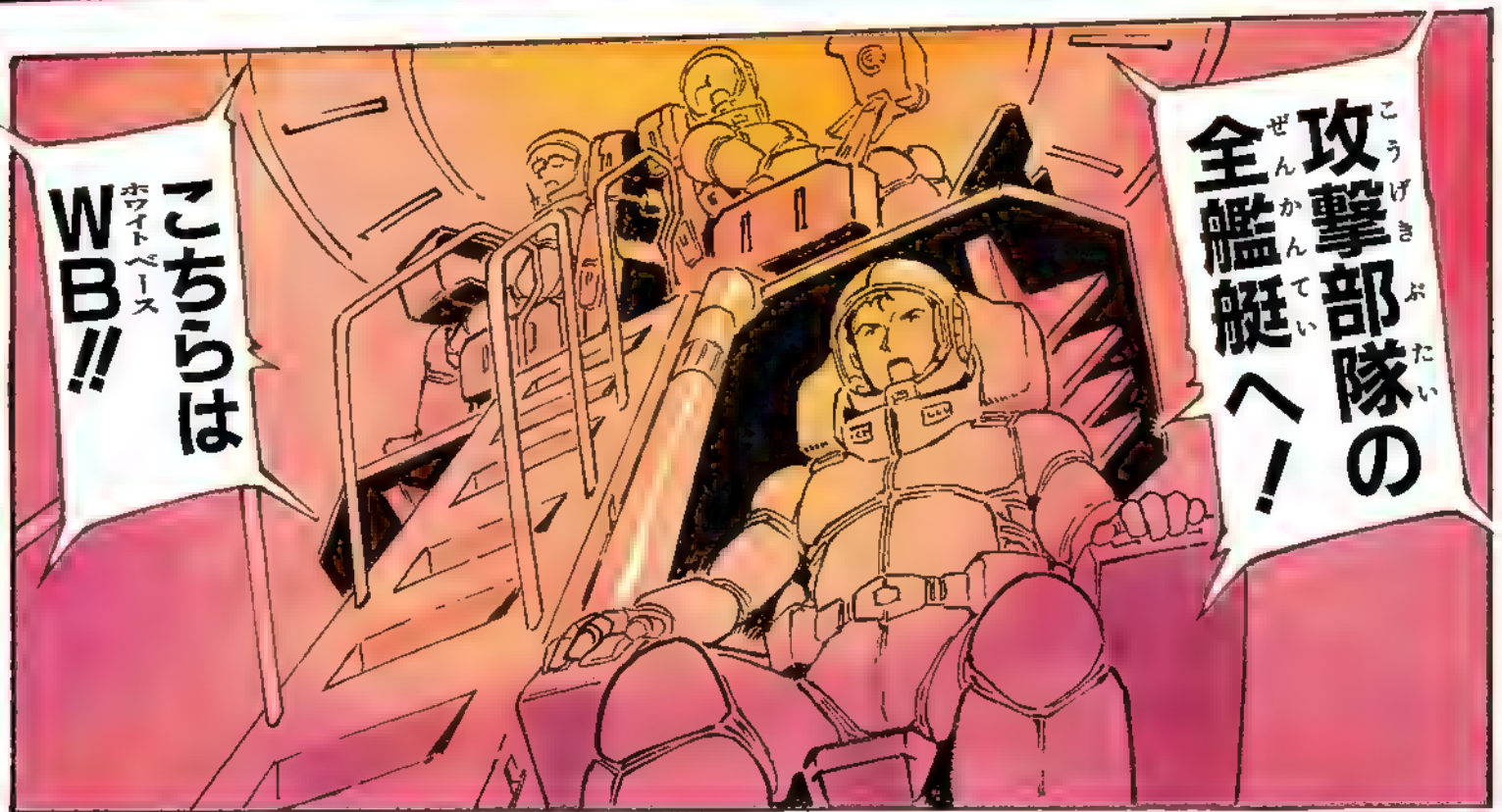
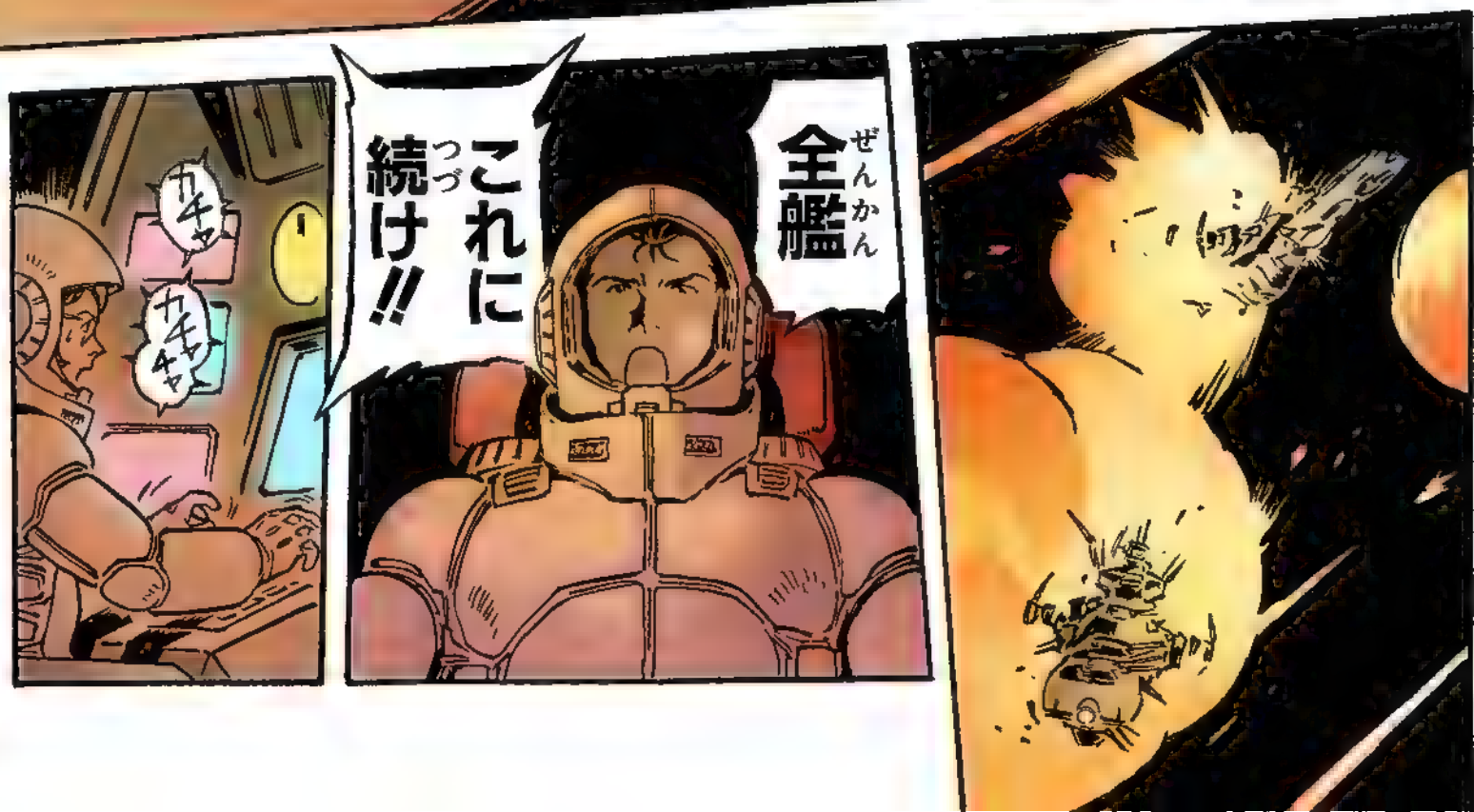
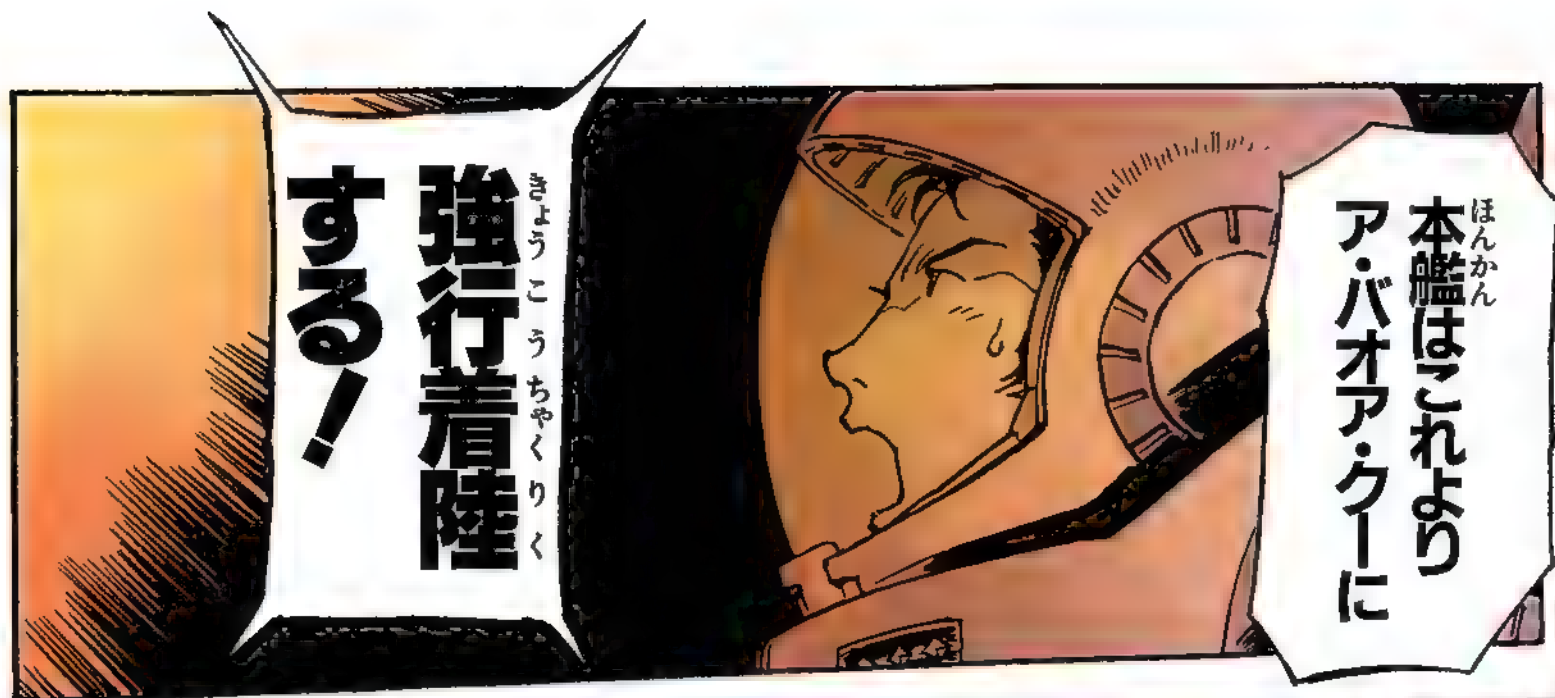
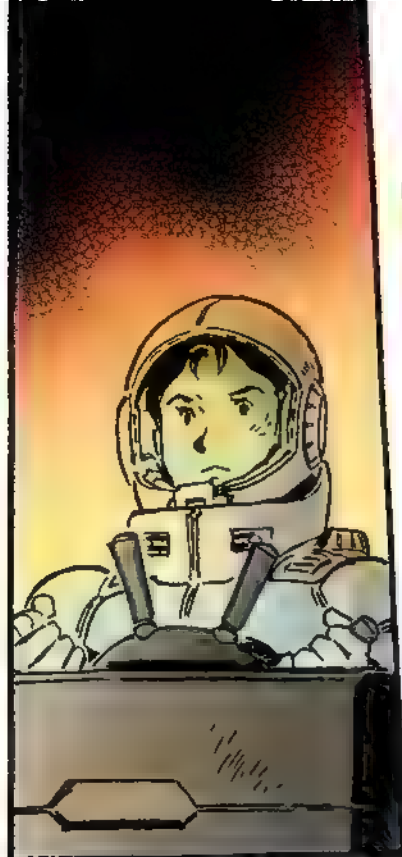
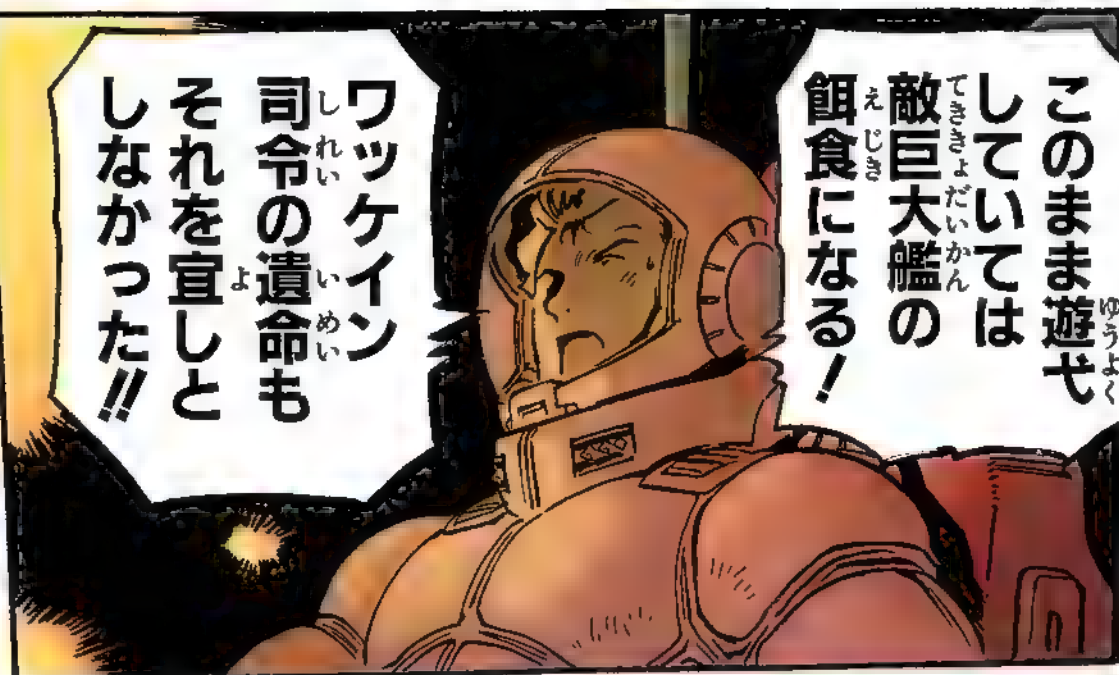
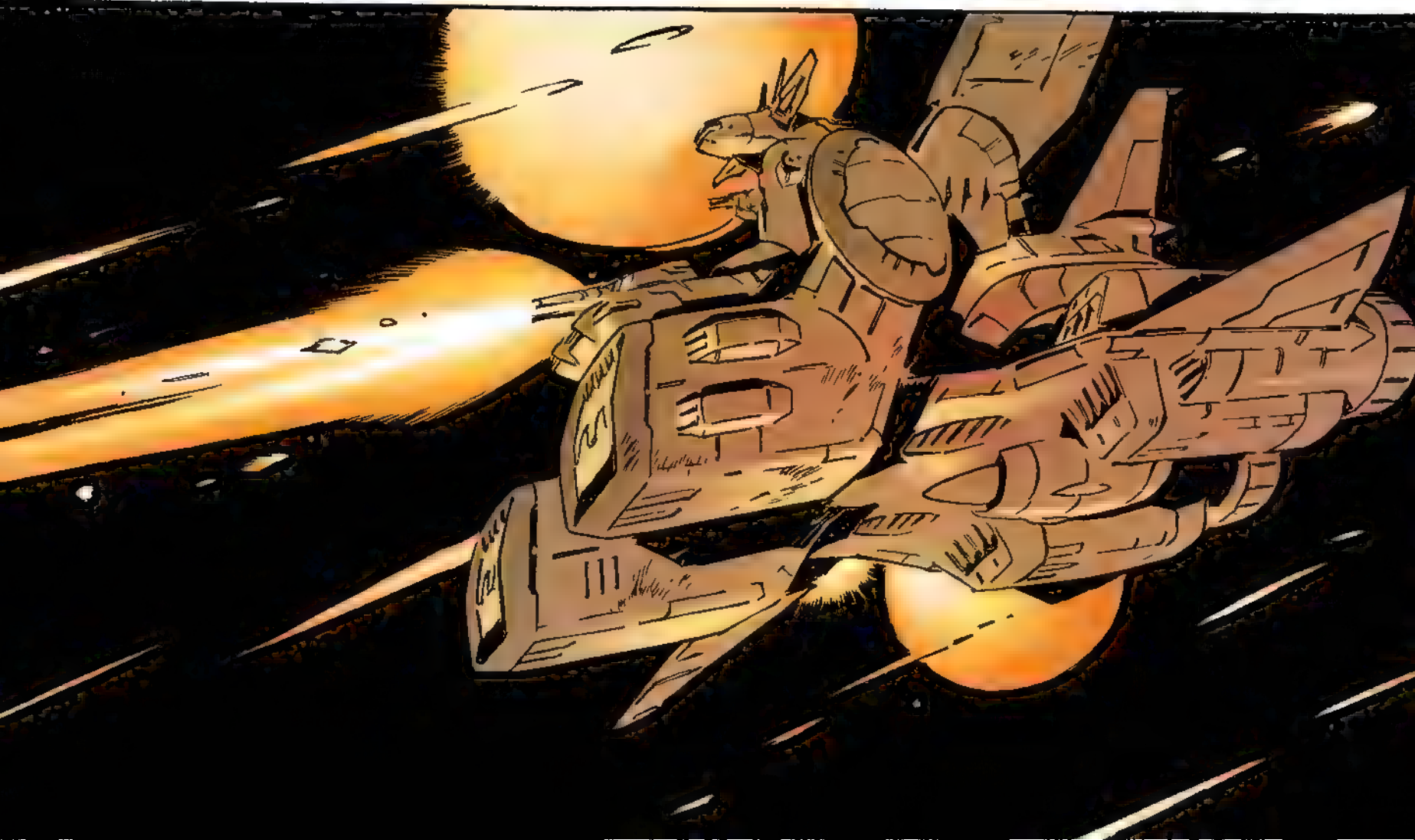
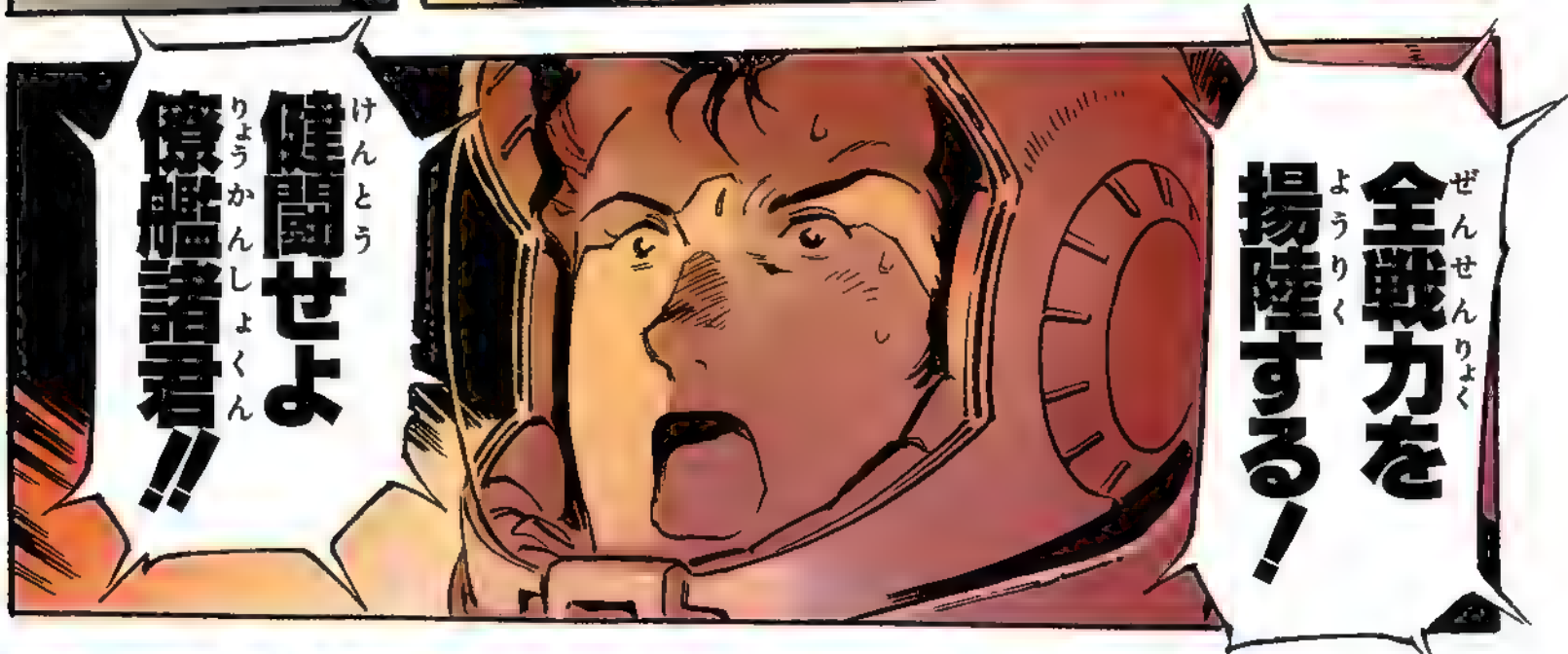
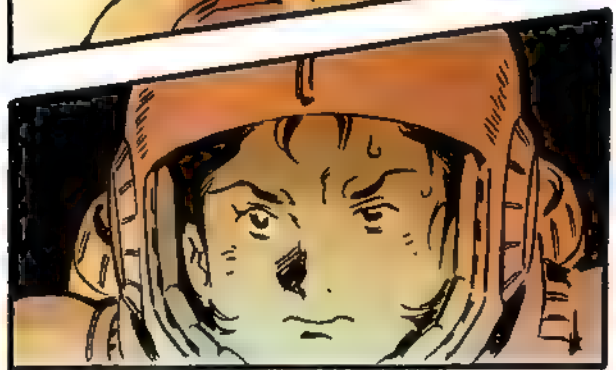
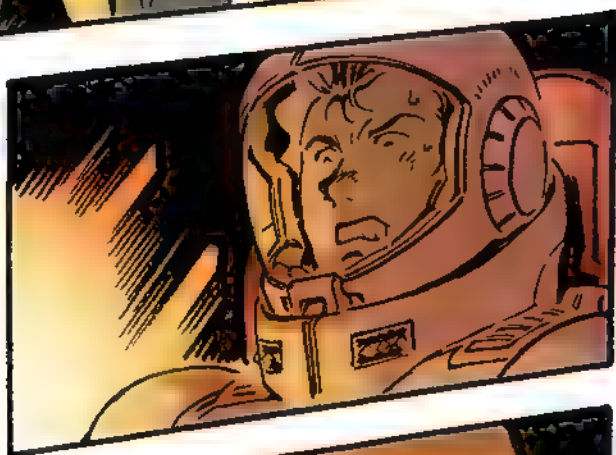
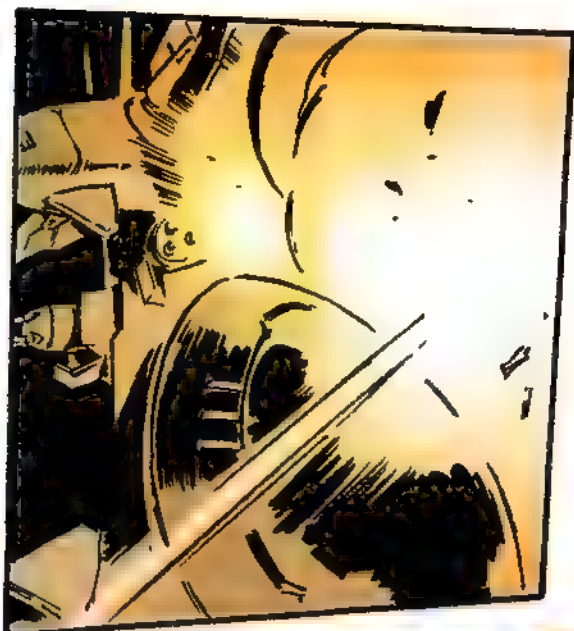
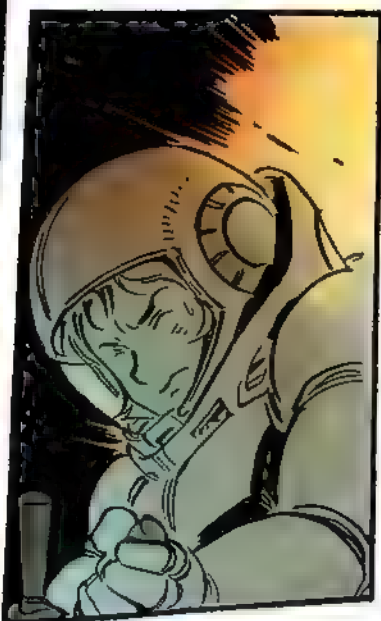
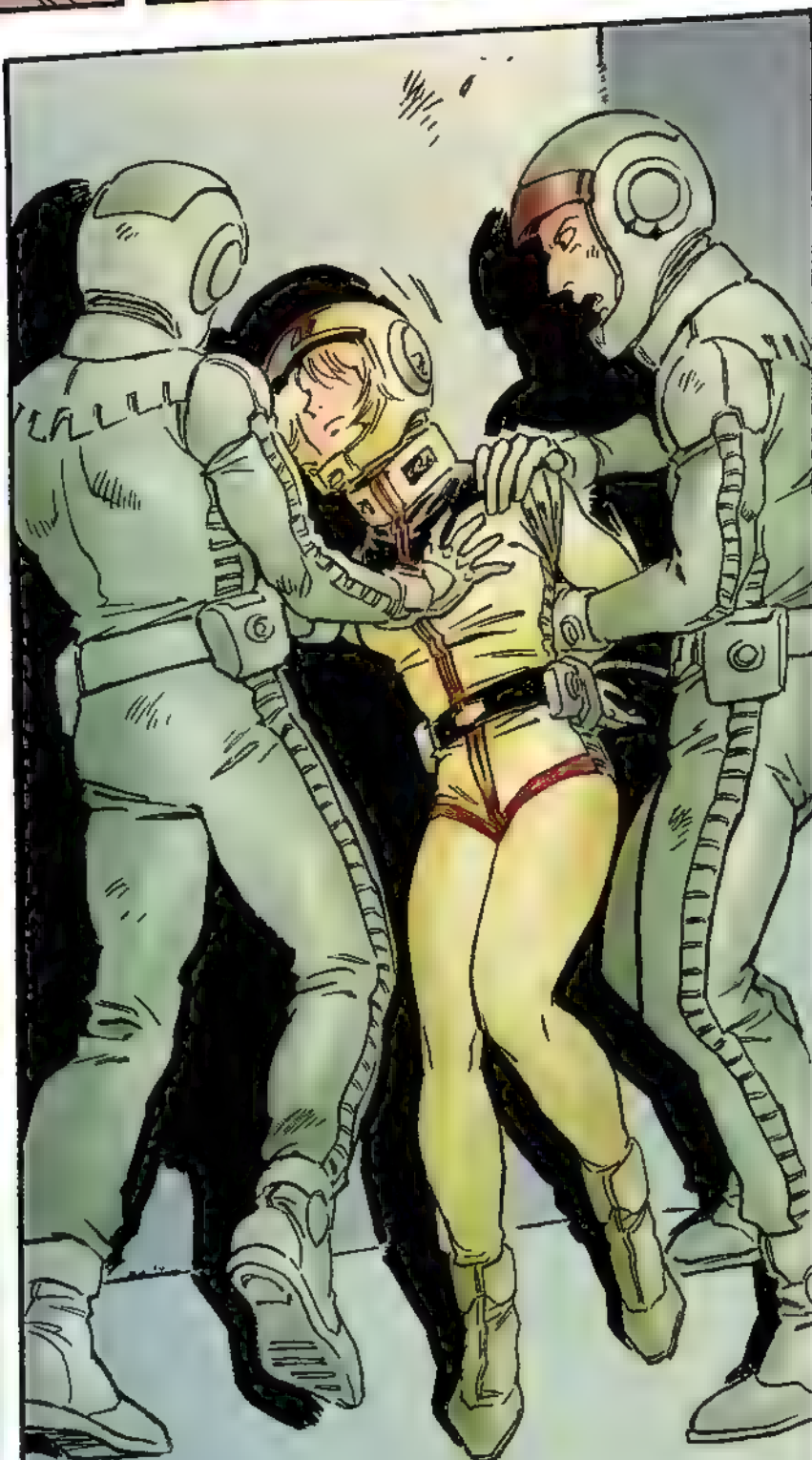
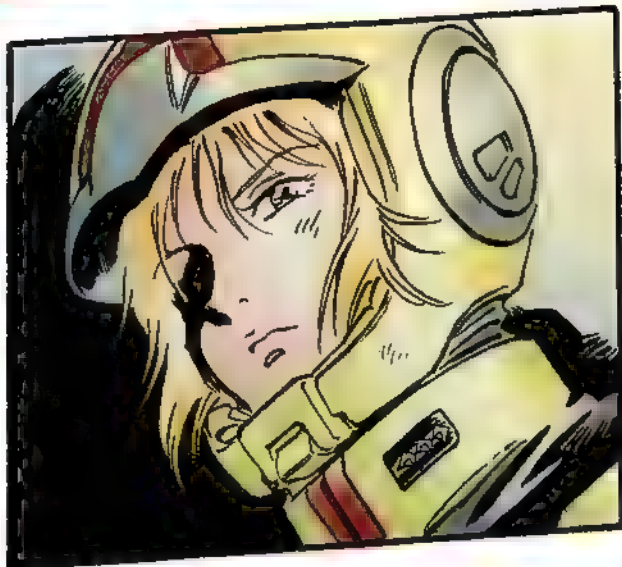
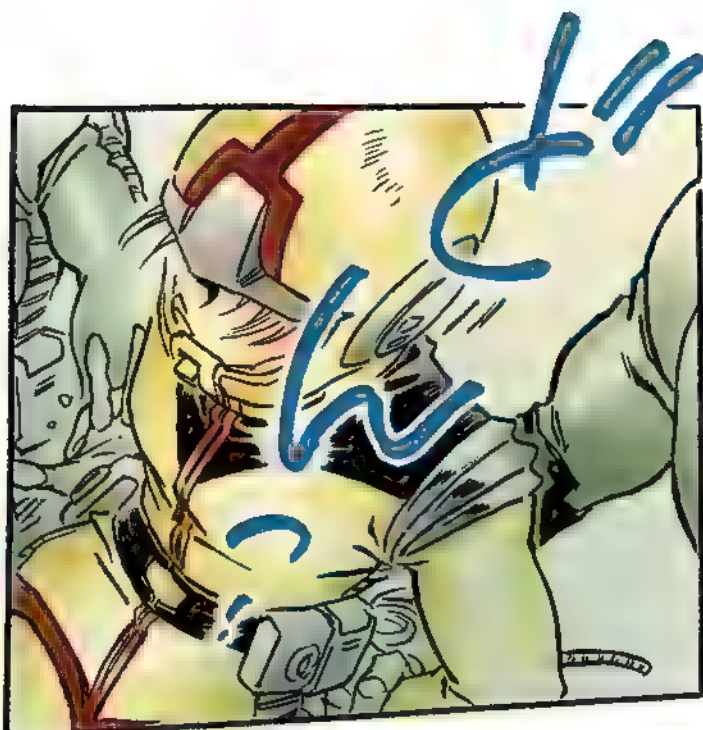
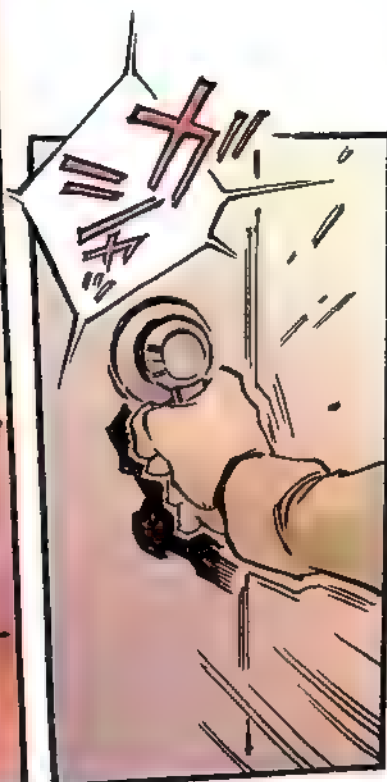
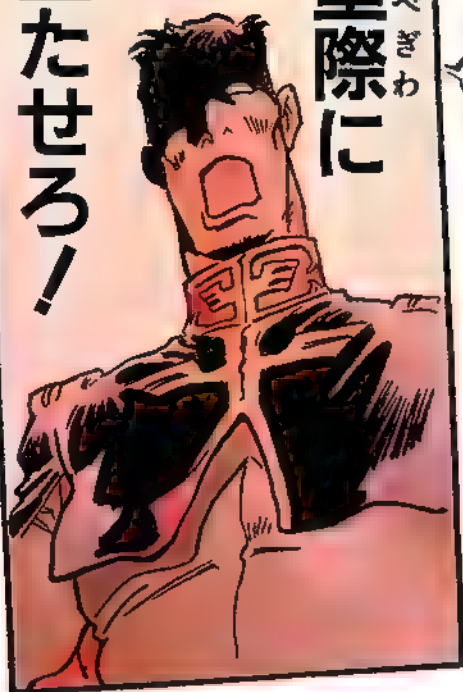
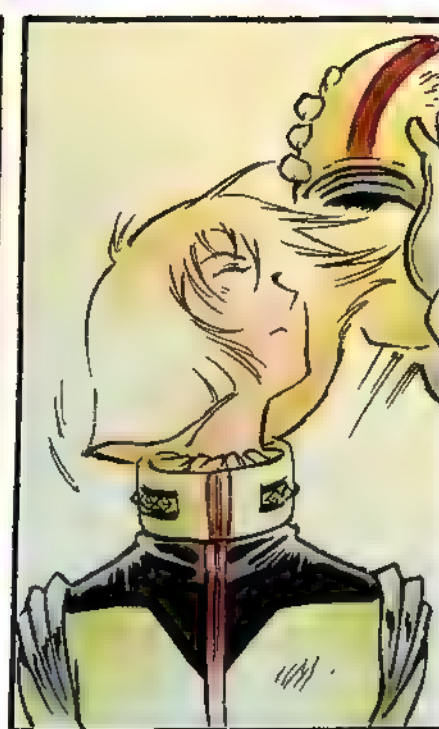
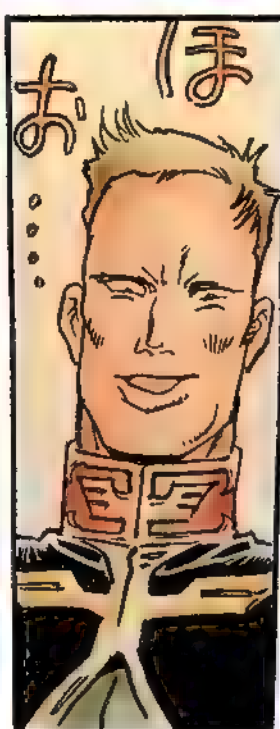
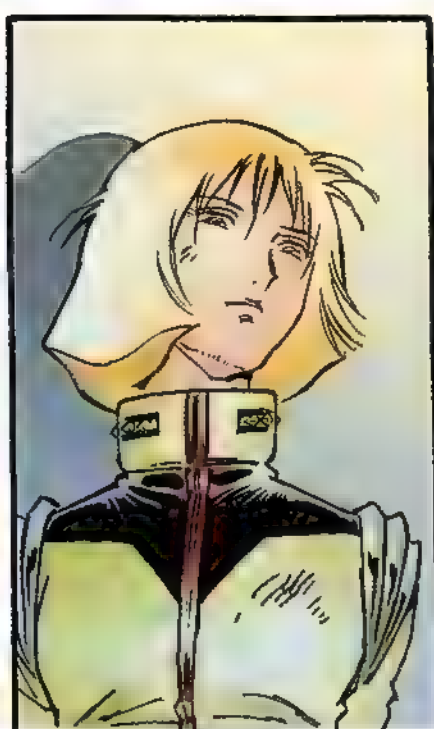
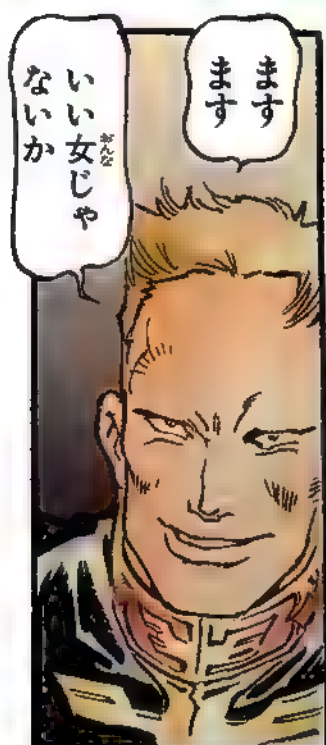
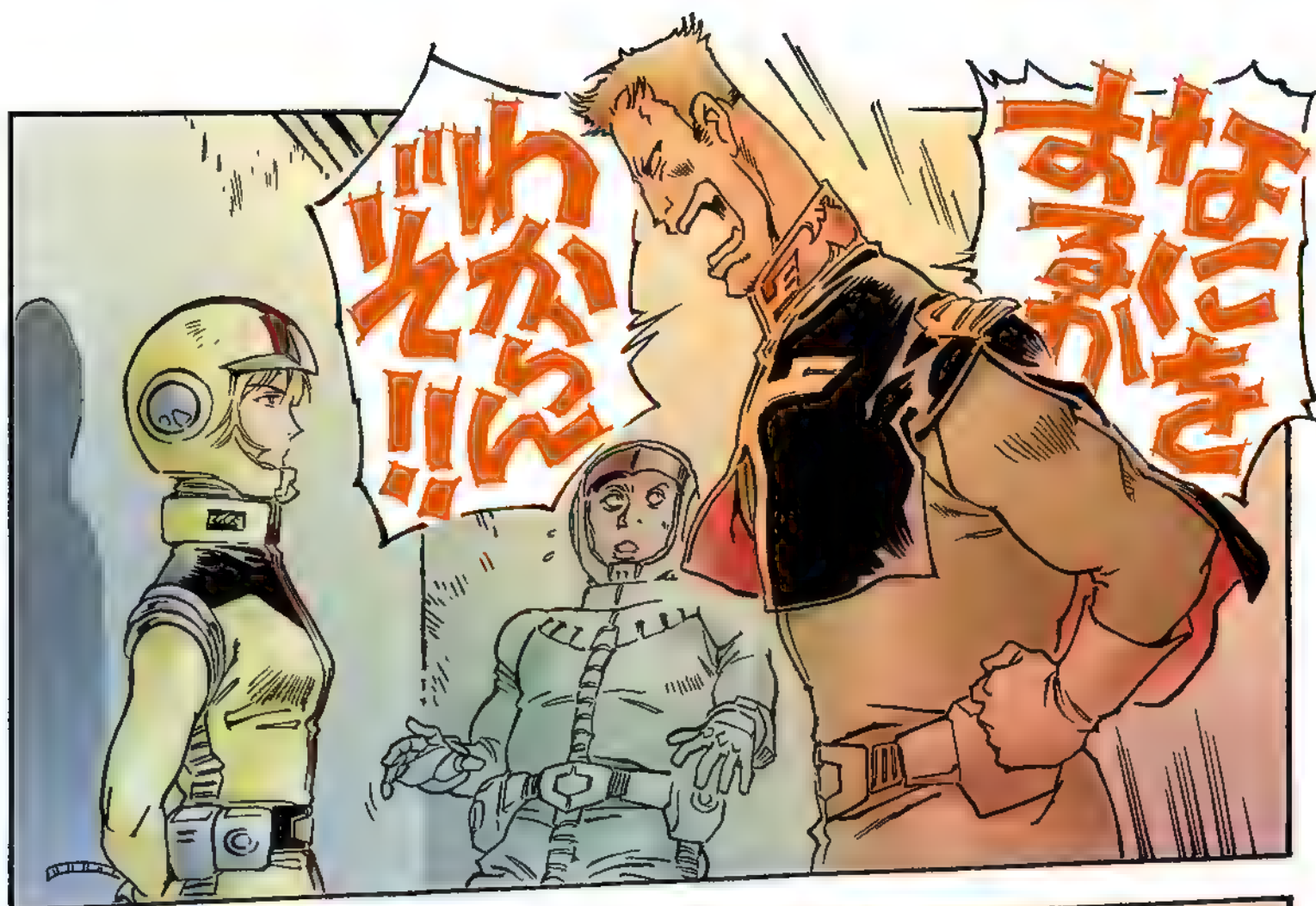
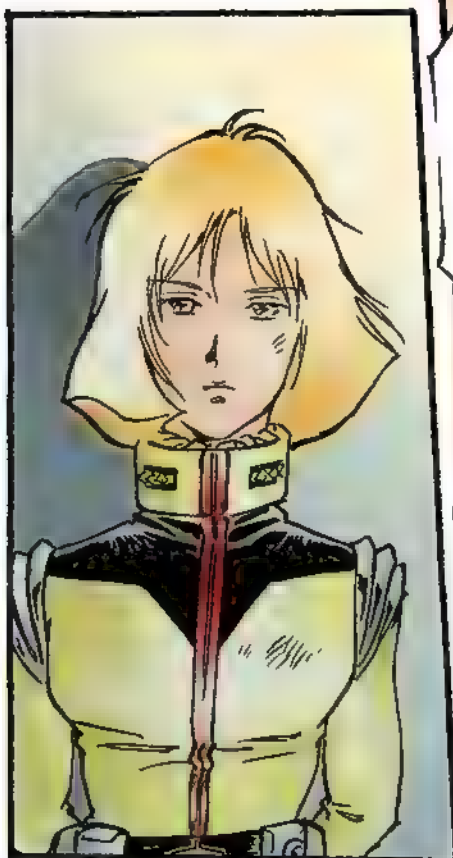
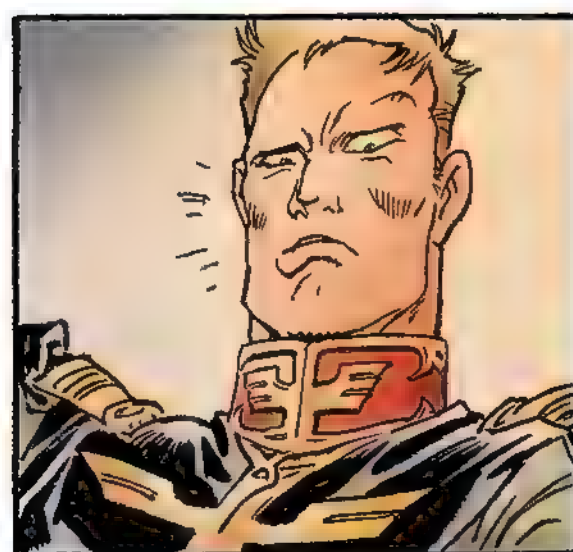
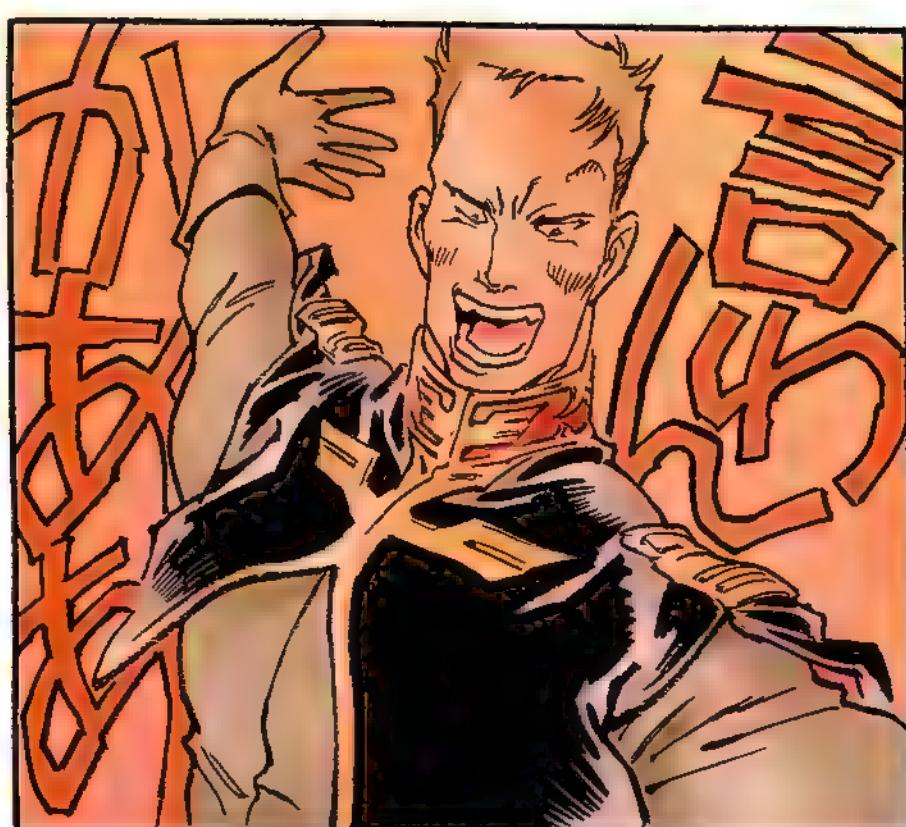
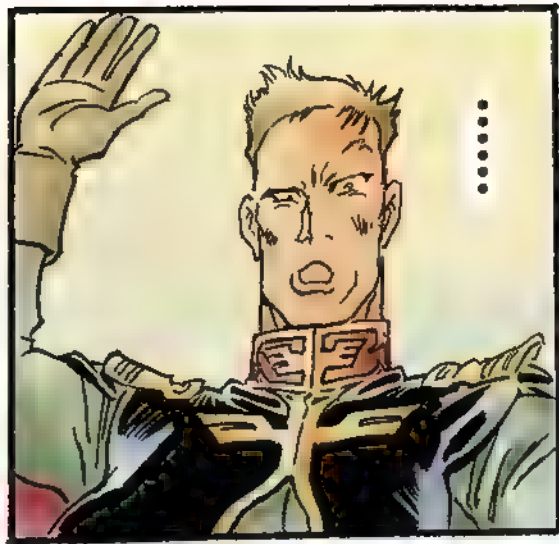
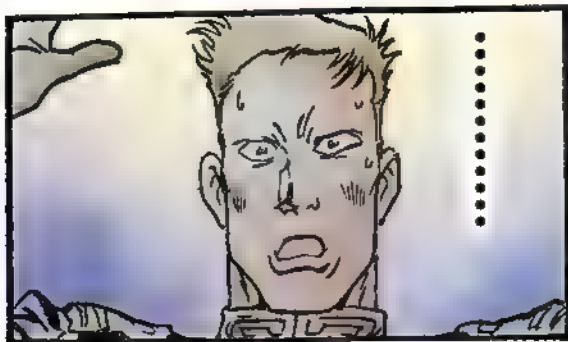
どんっ

ガシャ

壁際に立たせろ！

おどろいたな
連邦軍の一番乗りがおまえのような女兵士か

単独で潜入する筈がないっ破壊工作か?!
仲間がいるな?
そんなハズがあるかぁ!!
どこだ?何人いる?何をしに入ってきた?!
言え!
ドンッ
触らせろ
女
やらせろ
オンナ〜
ええいケダモノども……
か弱い捕虜に手荒いことなぞしたくないが…
こういう時だ
兵士共だけじゃなく俺も
気が立っている

なにをするか
わからんぞ!!
ヘルメットを
とれ
はっ
ほお……
ますます
いい女じゃないか

だが
だからといって俺は手加減なぞしないぞ!
なんの目的でここに潜入した?!
仲間は何人だ?
今 どこにいる?!!
私は帰って
来たのです
言わんかぁぁ
潜入したのでは
ありません

ジオン・ダイクンの娘アルテイシア・ソム・ダイクンが
ジオン公国に帰って来たのです！

……

ギレン総帥に取り次ぎなさい
『アルテイシアが帰ってきた』と

……

……

早く行きなさい！
総帥の処へ!!

……

キサマたち!!
この御方
この女をしっかり
見張っていろ!!
いや
いや
なにかあったら
絶対に
許さんぞ!
いいな!!
バアン!!
どけどけ
こらあっ
前をあけろォ!!
邪魔だ
カスどもォ
言ってしまった
でも
仕方がないわ……
あとは
なるようになるだけ……

Sフィールドに敵艦多数突入！
Dフィールドにも急速降下中！多数!!
ちっ
血迷ったか
連邦～～～
ありったけの火砲で応戦しろ!!
近づけるなあっ！

メイン停止！
距離二〇〇〇
スラスター噴射！
着底します
対ショック防御!!!

伏せて!
かがまってぇぇっ!!
ゴオ

ひよえんえんっ

いよいよブチ切れたね艦長……
ものスゴいことやってくれちゃって
おいっハヤト！

なんですかア～～
カイさあん。

決まったぜハヤト！
オレ達の任務が

は？
なんですか？

あいつを
護るんだよ

ここの攻防戦は連邦とジオンにとってはそりゃ重要だろうけど
オレ達にはもっと大事なことがある
なっ

だってあれはよ
あいつは…

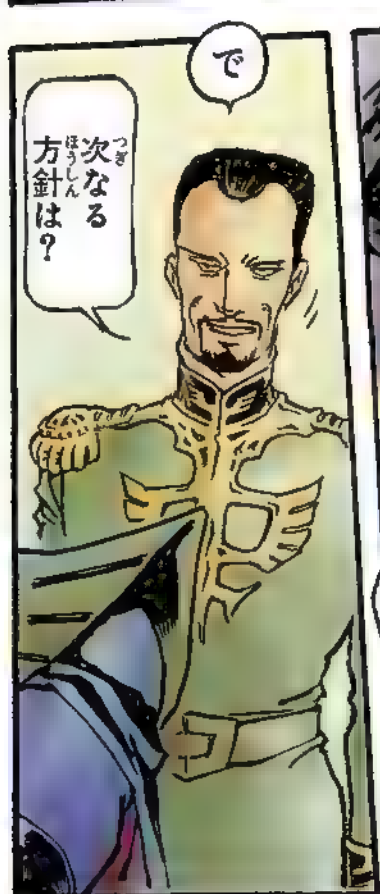
サイド7からこっちずうっとオレ達の
家だったんじゃねえか

お

ヤツも
御帰還だぜ

あいつも自分の居場所
見つけたのかもしれないぜ

……

攻撃部隊はドロスの猛威を避け敢えて
ア・バオア・クーへの強行揚陸作戦に出たようです

賢明だな
良い指揮官がいるとみえる

見ろ皮肉な光景だ
連邦軍の艦艇がまるで保護を求めるように
ア・バオア・クーへ逃げ込んでゆく

で
次なる方針は？

ア・バオア・クーに接舷する

では――!

ん
そろそろ

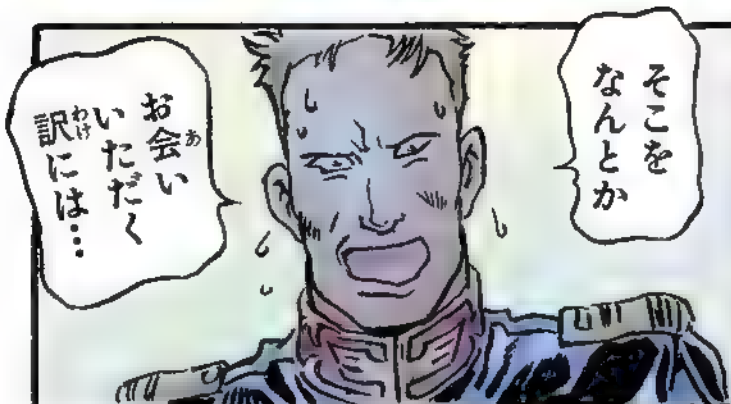
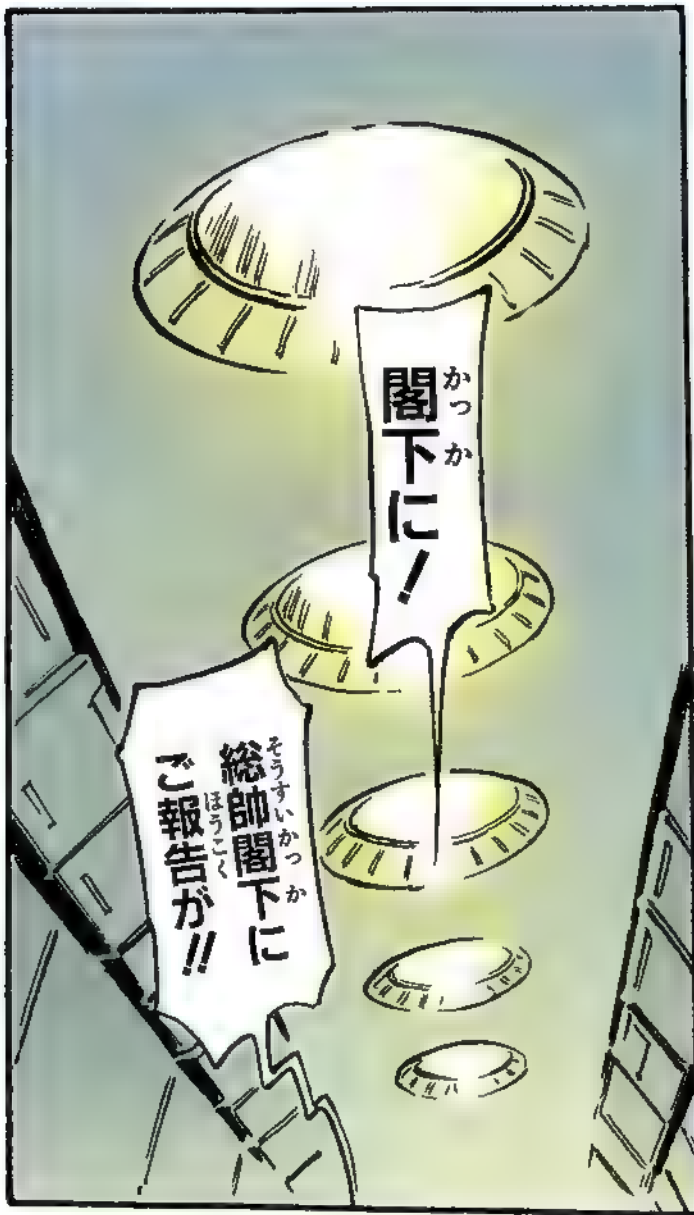
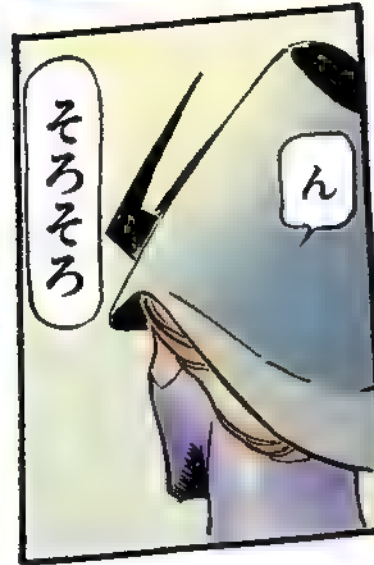
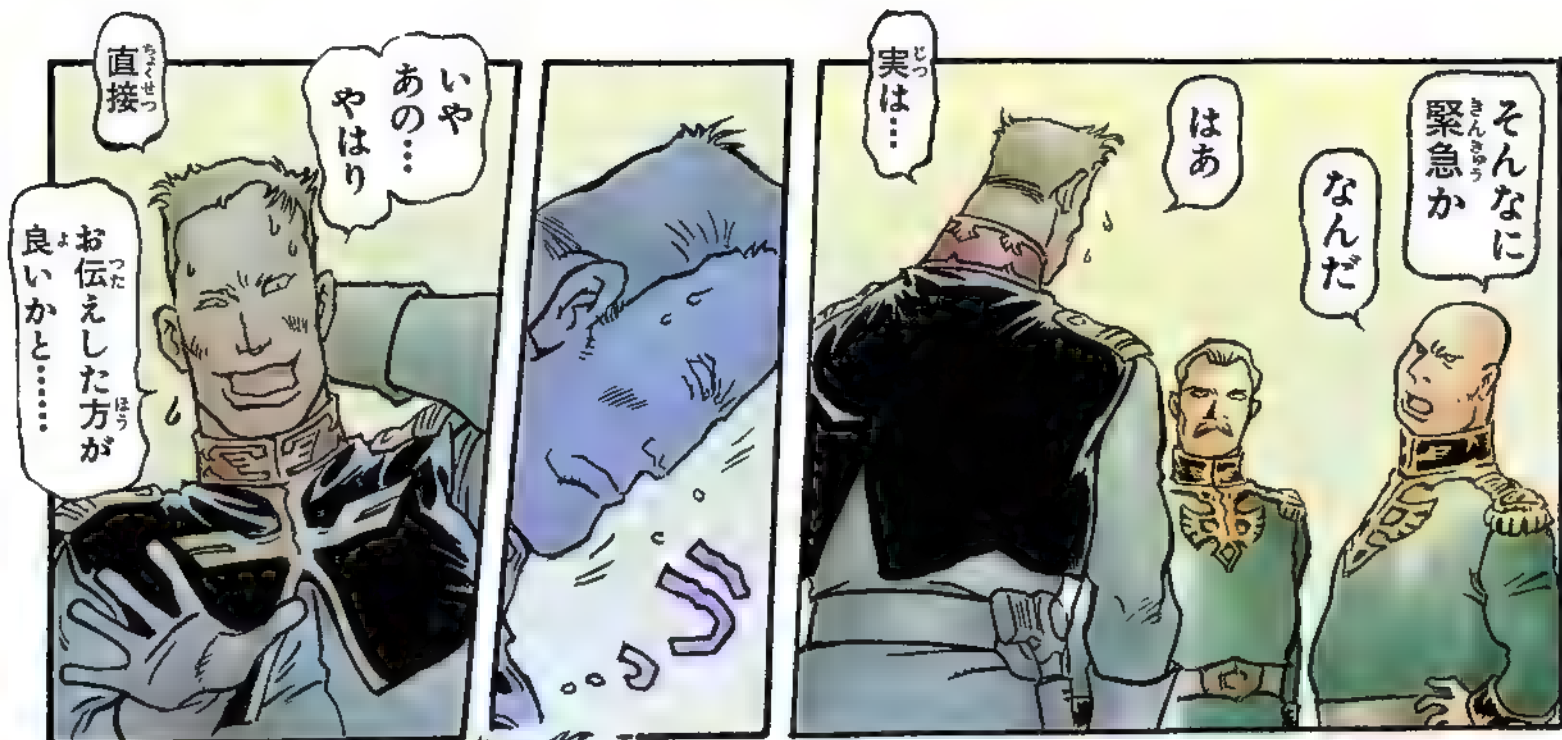
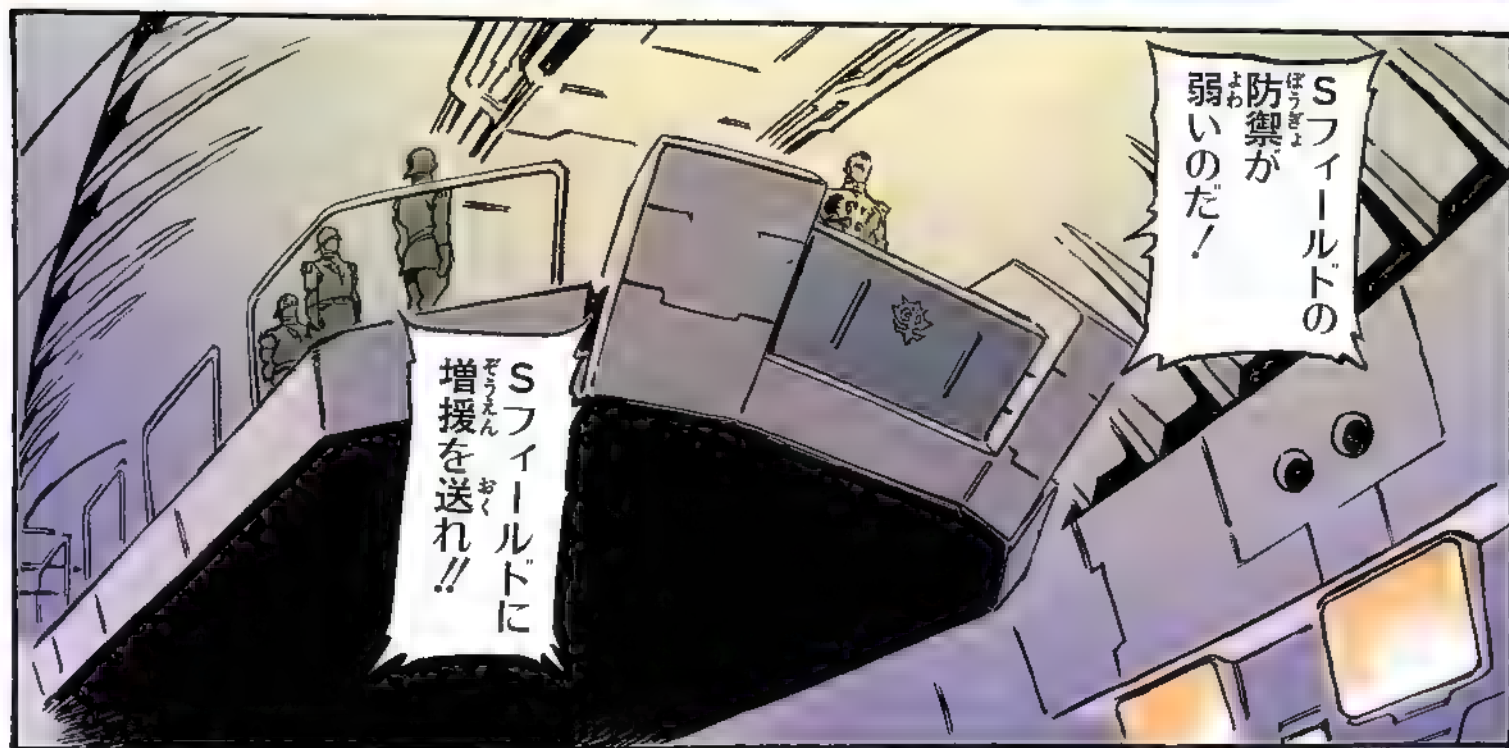
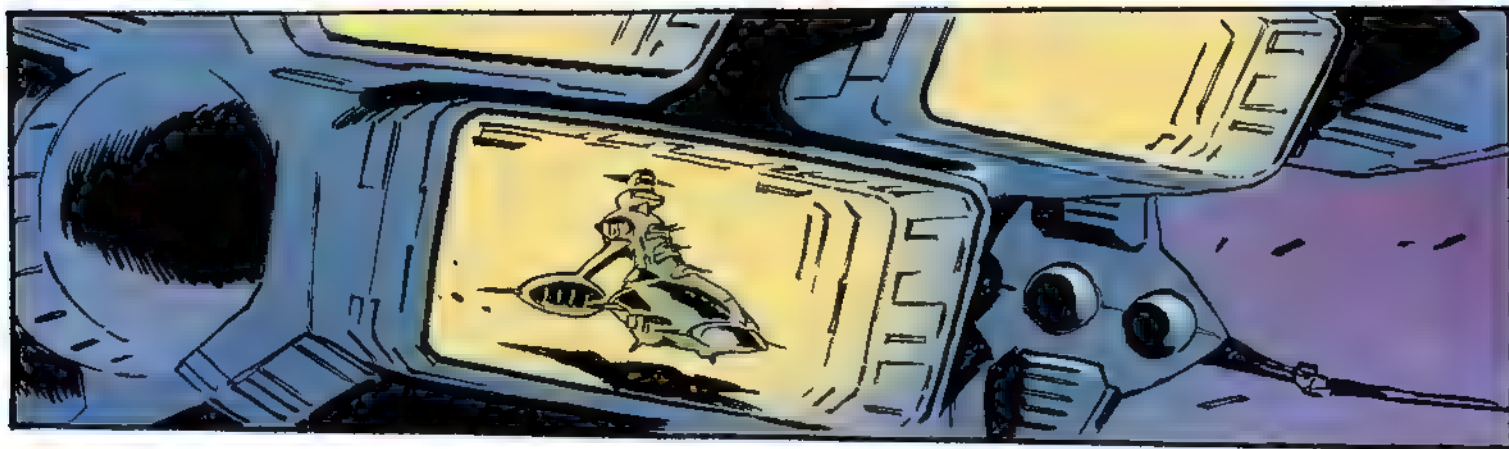
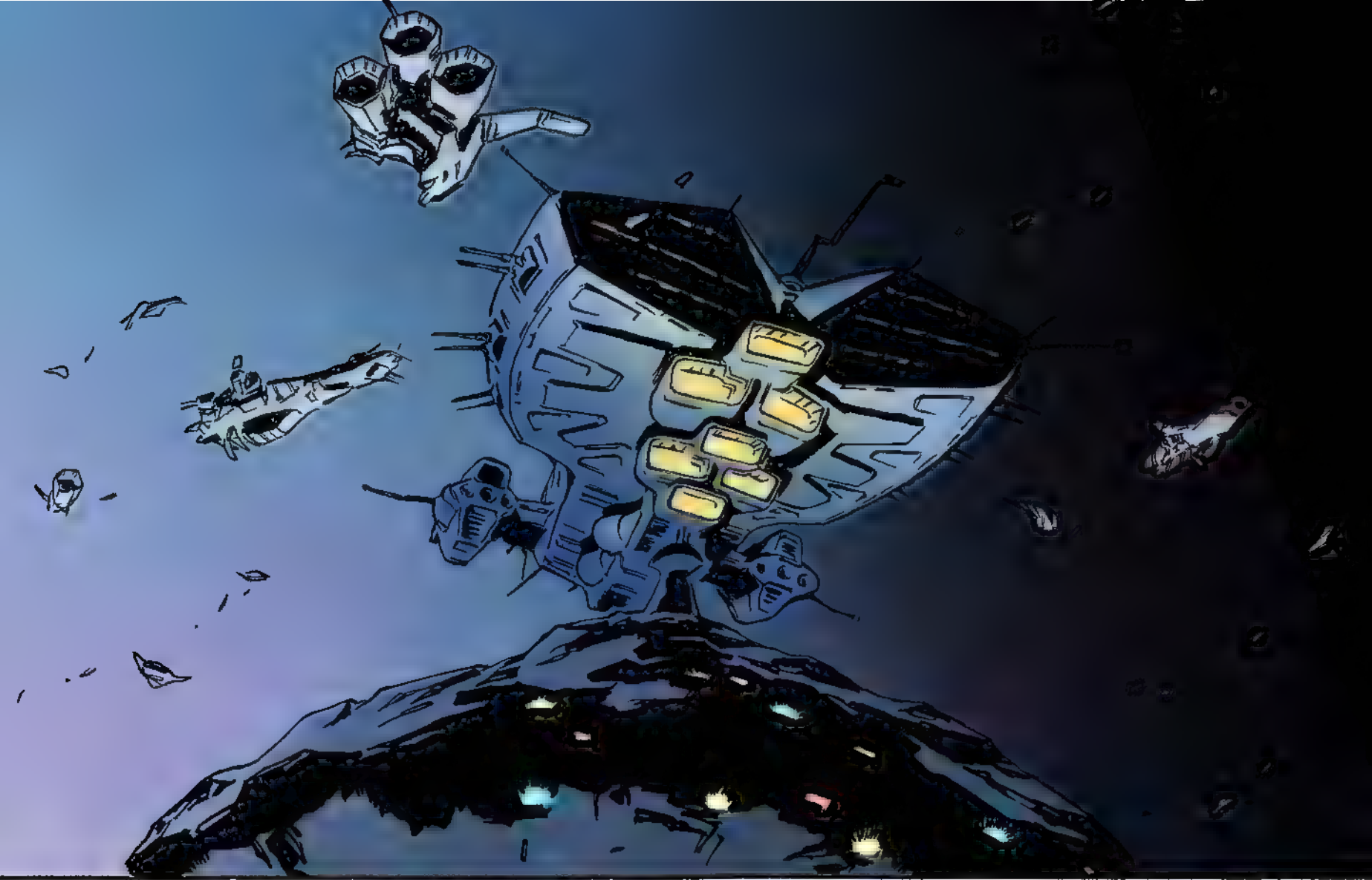
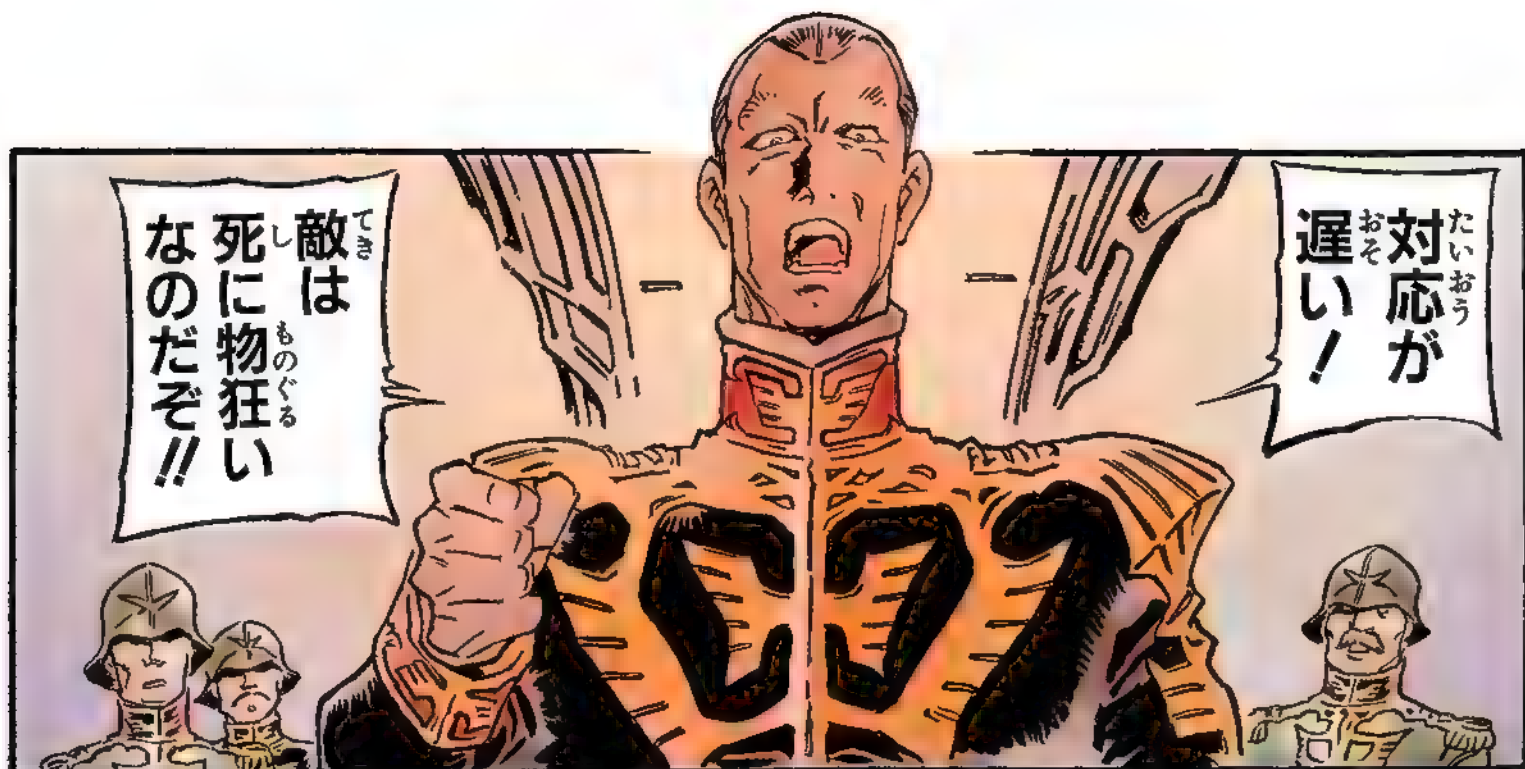
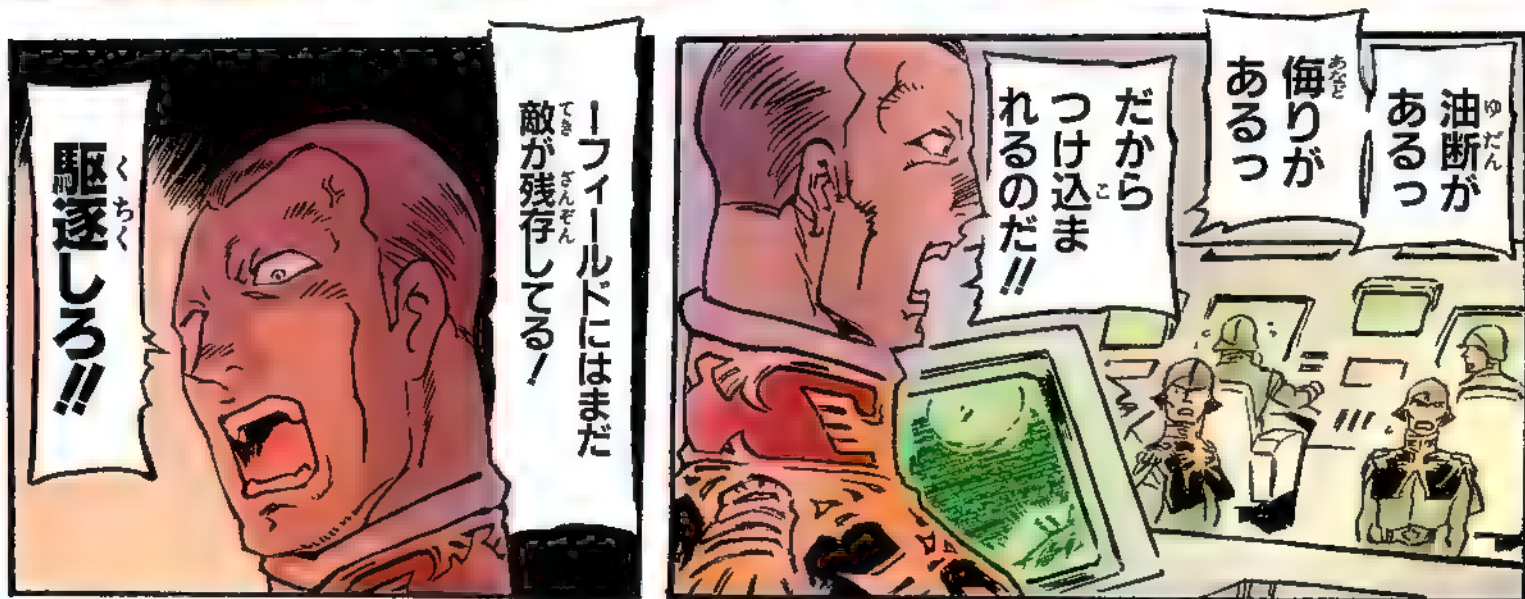
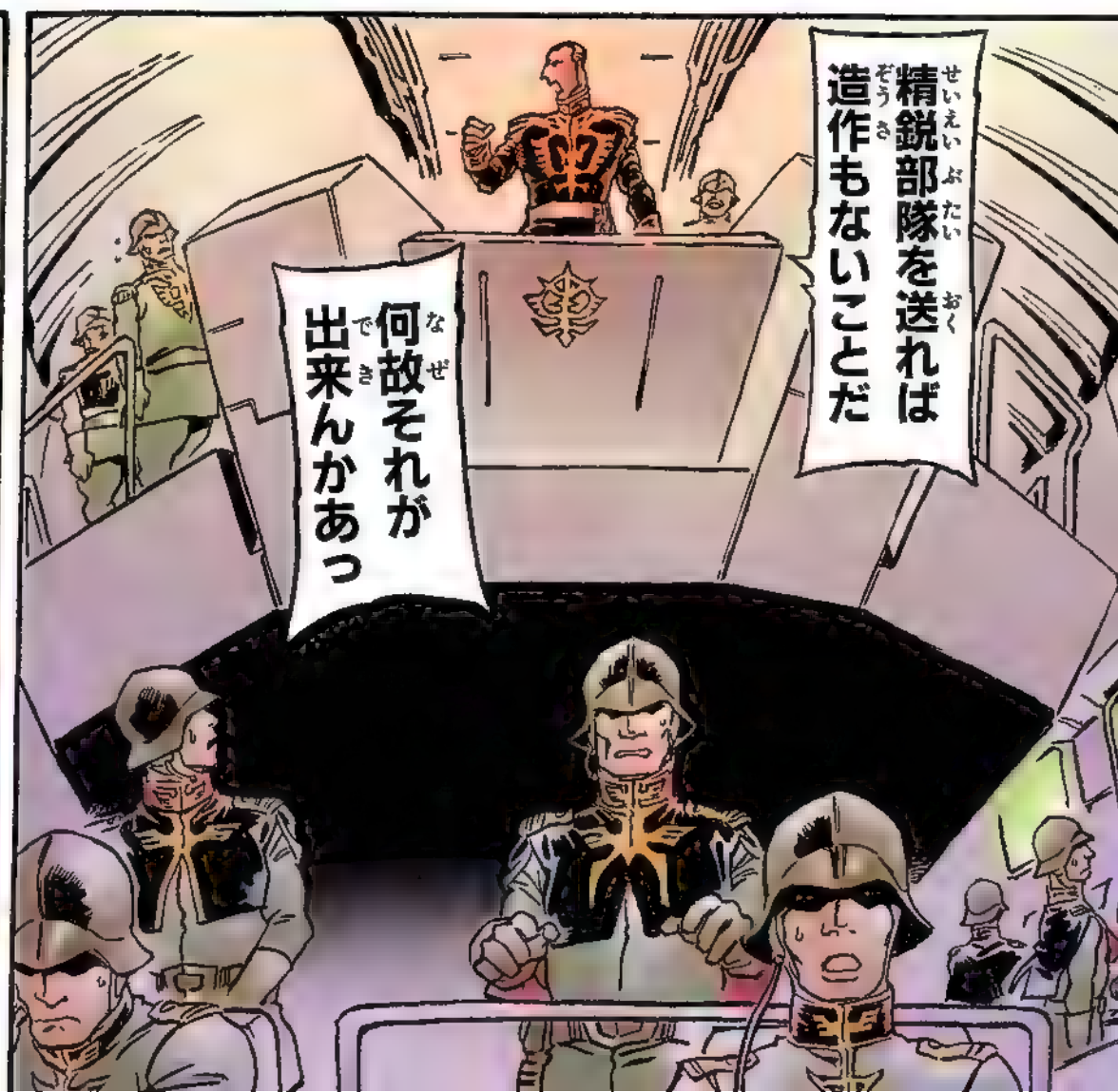
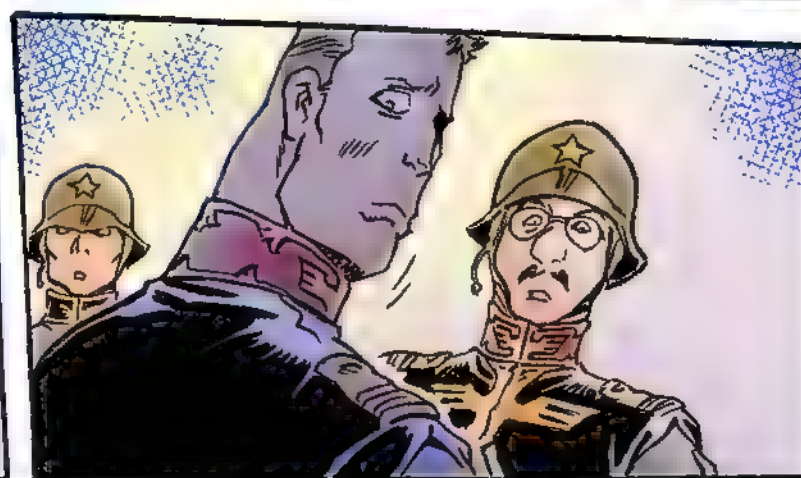
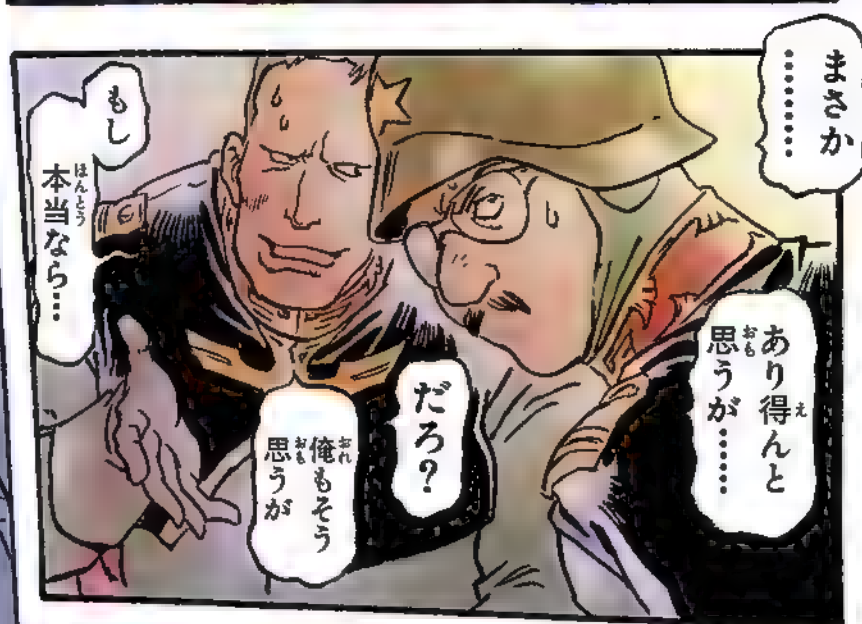
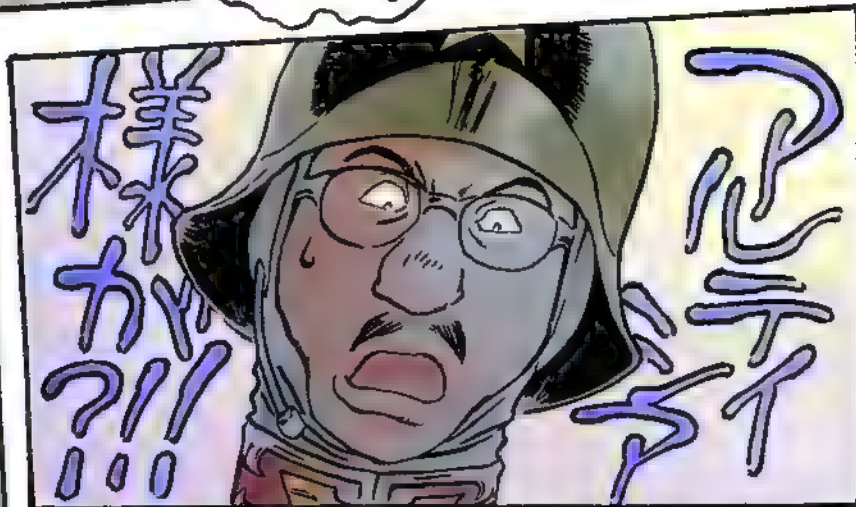
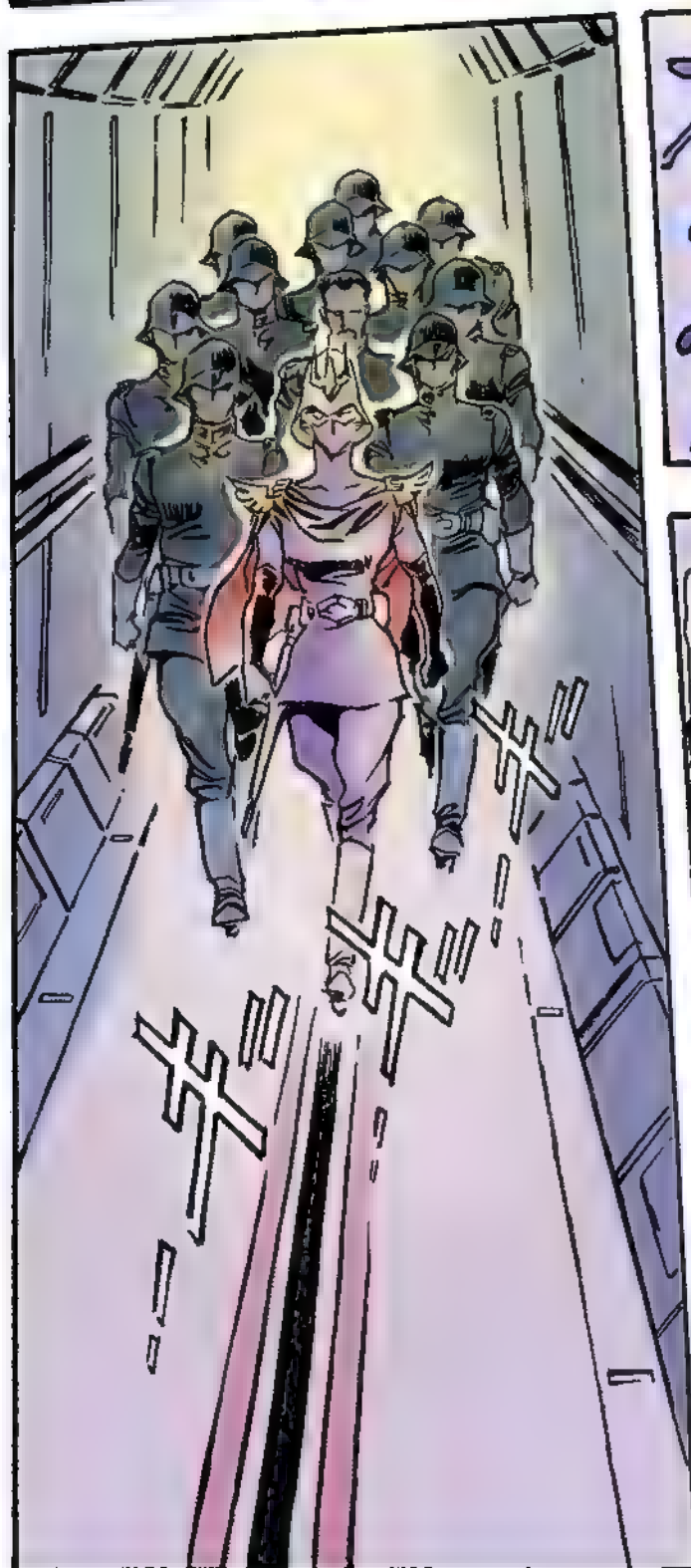
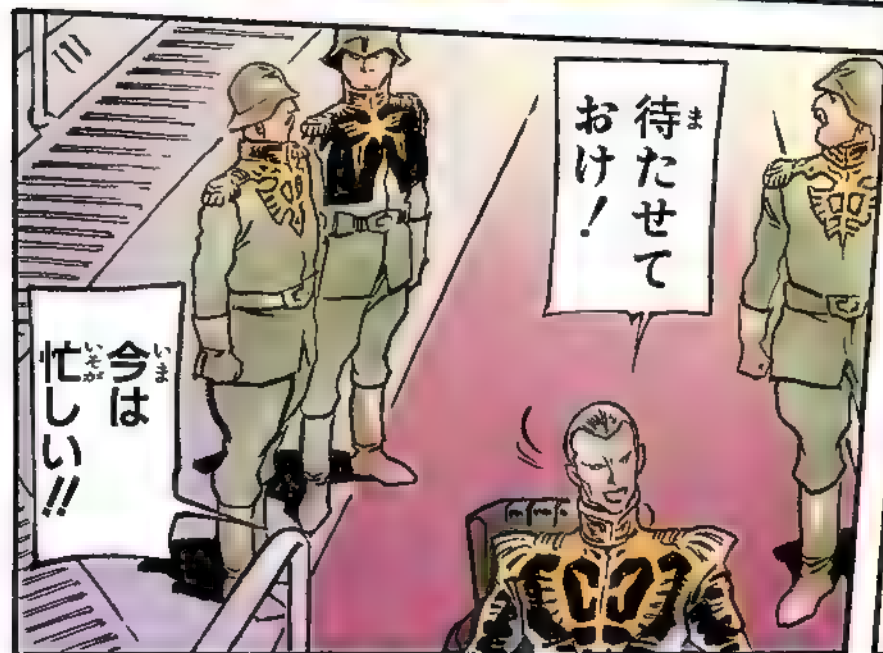
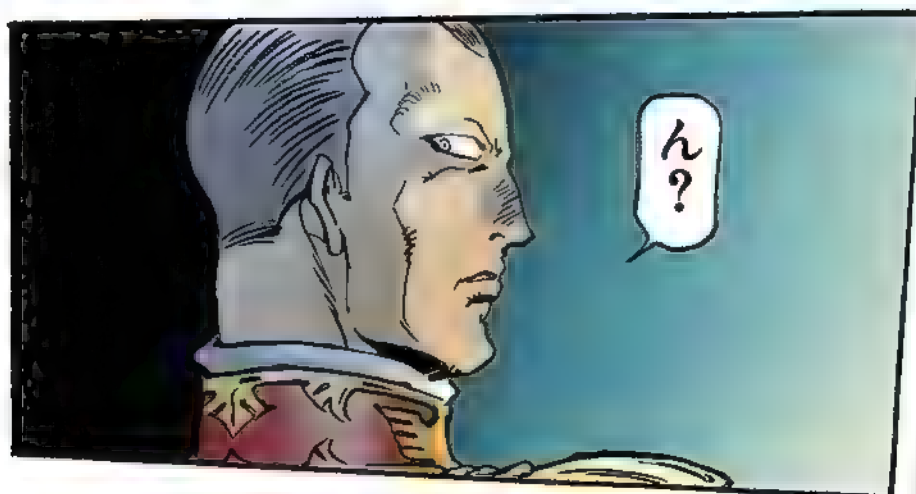
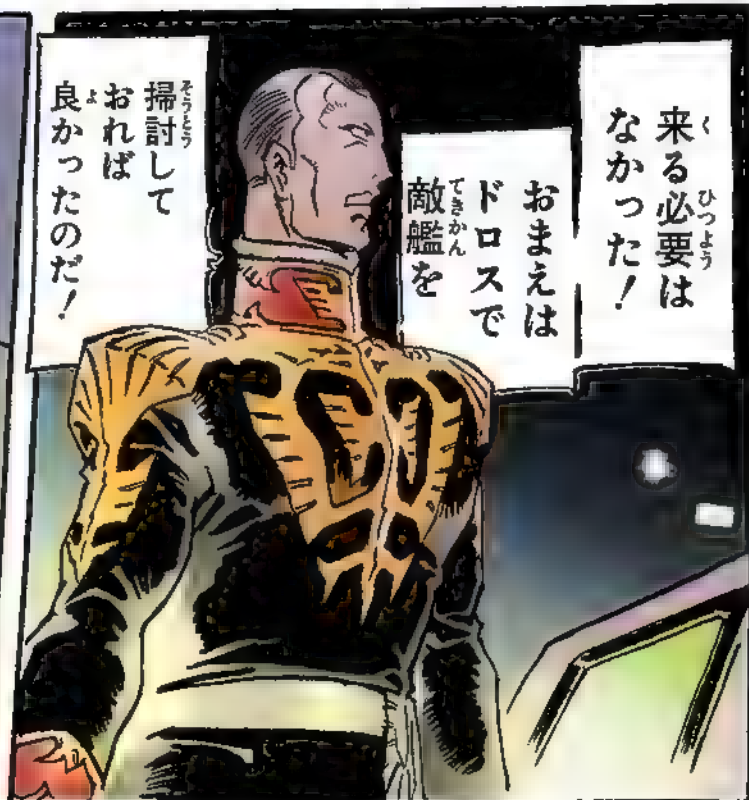
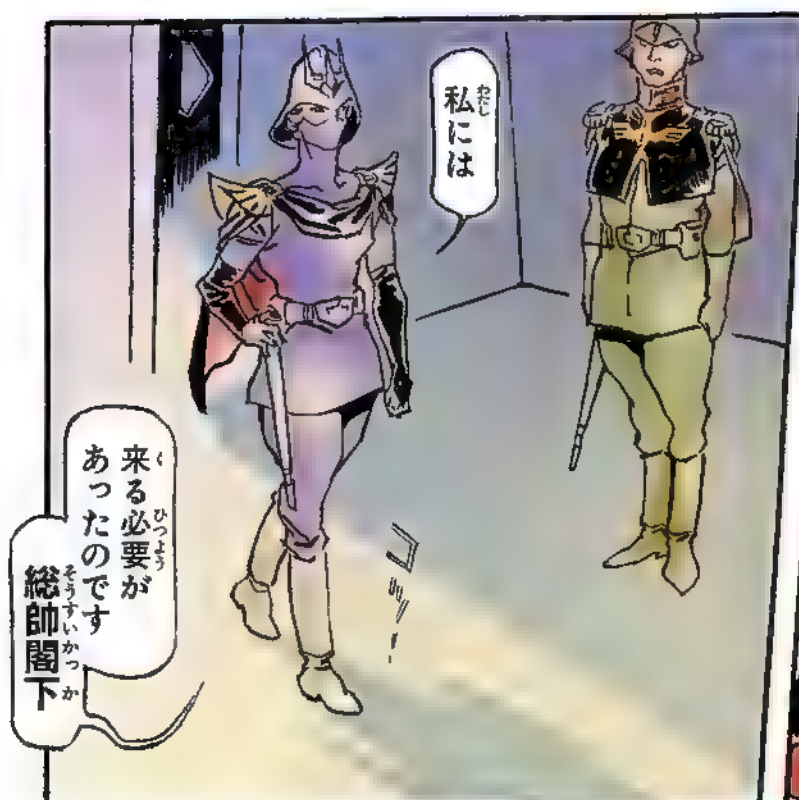
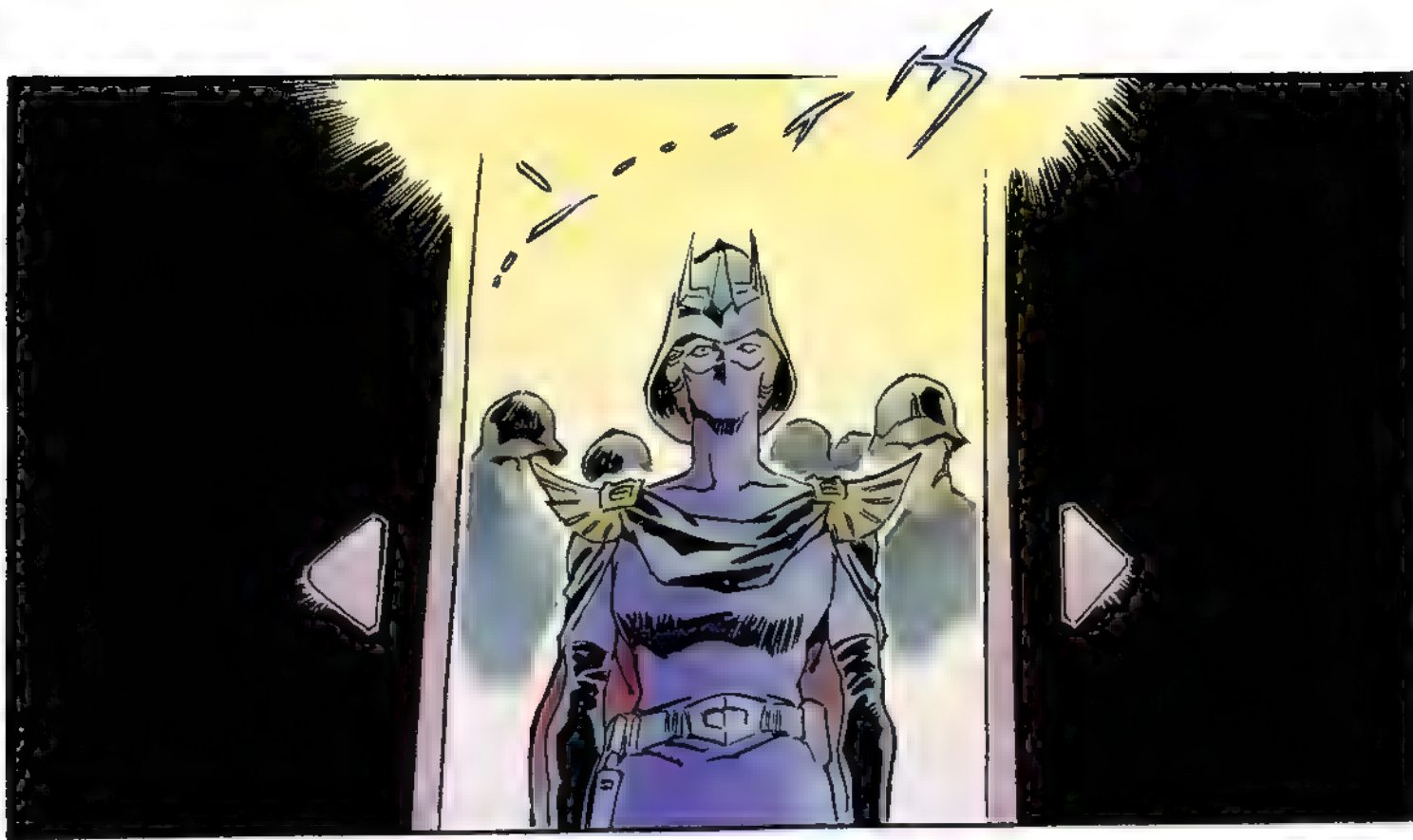
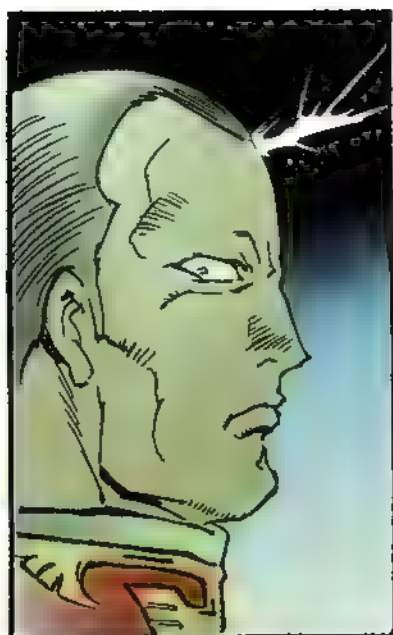
総帥閣下に
拝謁せねばなるまい

閣下に!
総帥閣下にご報告が!!

なんだあ?
閣下は今中央司令室で作戦を直々に指揮なさっている

そこをなんとか
お会いいただく訳には…

そんなに緊急か
なんだ
はあ
実は…
う
いやあの…やはり
直接
お伝えした方が良いかと……
何を言うとるか
中尉風情がっ！
総帥閣下は今お忙しいのだ！
で
であリましょうが！
本当ならこれはかなり重大事件かと
「本当なら」だと?!
そんなヨタ話を閣下にお聞かせするつもりか！
先ず軍令部の事務局へ行け
然るべき手順を踏んでそれから出直して来い
でしょうがあっ

Sフィールドの防御が弱いのだ！
Sフィールドに増援を送れ!!

対応が遅い！
敵は死に物狂いなのだぞ!!
油断があるっ
侮りがあるっ
だからつけ込まれるのだ!!
Iフィールドにはまだ敵が残存してる！
駆逐しろ!!
精鋭部隊を送れば造作もないことだ
何故それが出来んかあっ
司令室に一般将校は入れられん
まして今総帥閣下はお取り込み中だ！
だからっ
それは充分判っているのだがっ

どうしても
お耳に入れて
ご指示を仰ぎたい
用件があるの
だああ
それほど
重大なこと
とは
なんだ？
ウウ〜〜〜〜〜…
アルテイシア
様か？!!
まさか……
ありえんと
思うが……
もし
本当なら…
だろ？
俺もそう
思うが
ザ
ザ
ザ

…ッザ

申し上げますっ！

キシリア様が謁見に参られました！

ん？

待たせておけ！

今は忙しい!!

シューーッ

キシリアか

来る必要はなかった！
おまえはドロスで敵艦を
掃討しておれば良かったのだ！

私には
来る必要があったのです
総帥閣下

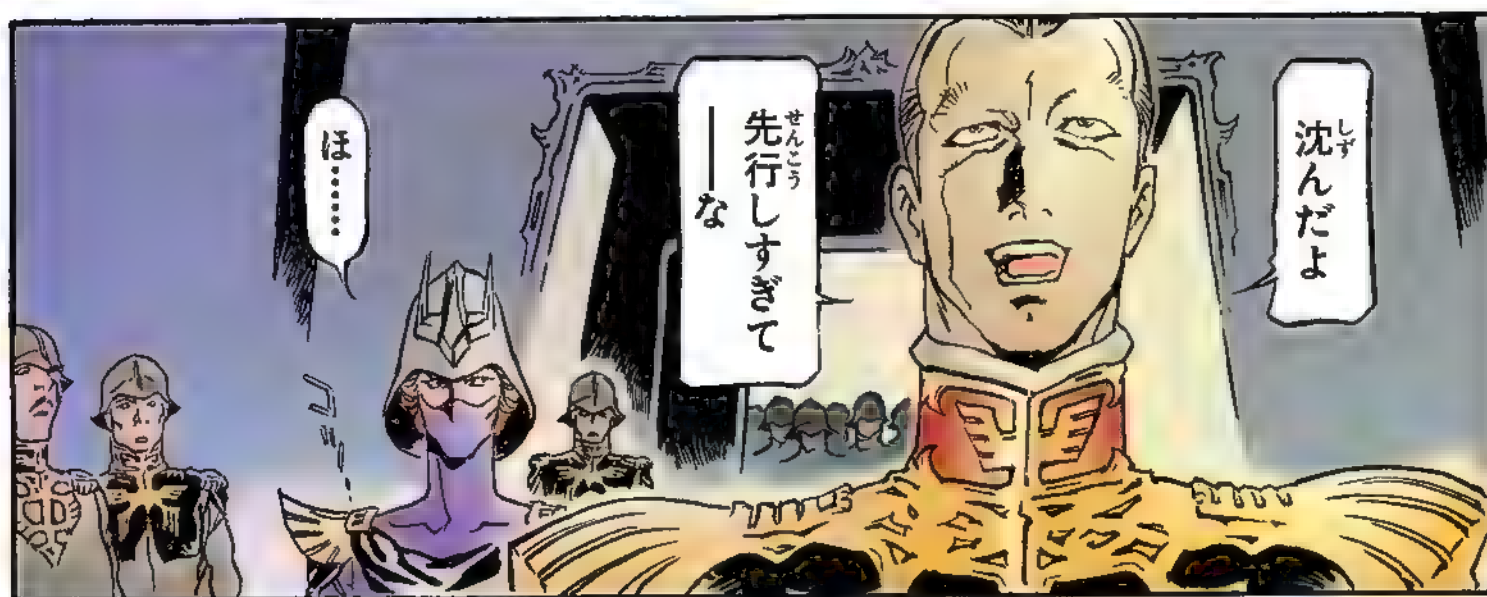
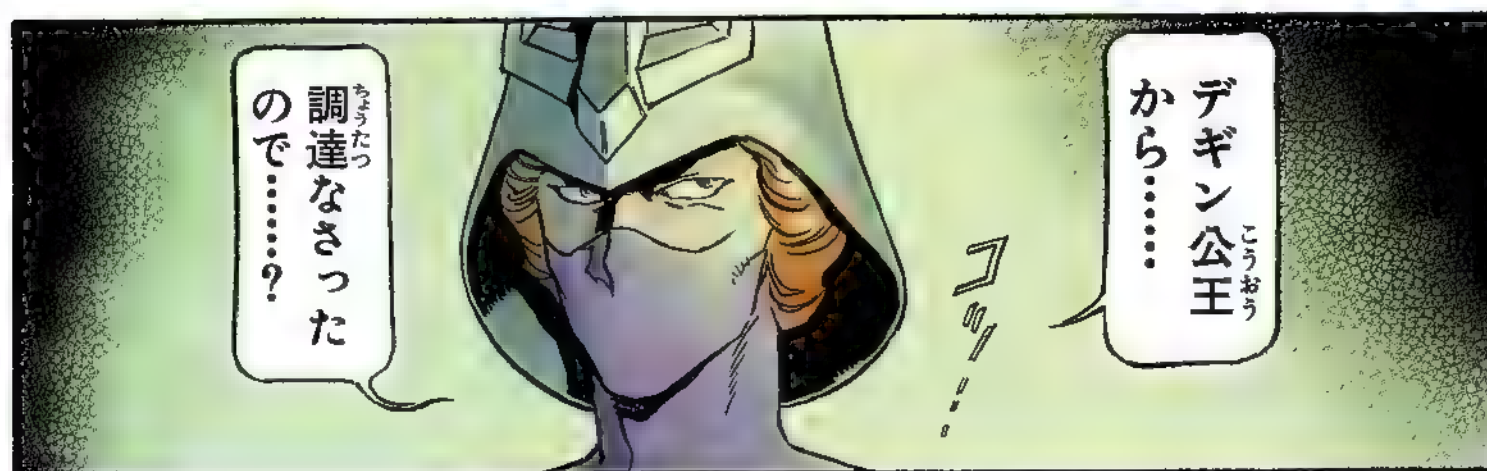
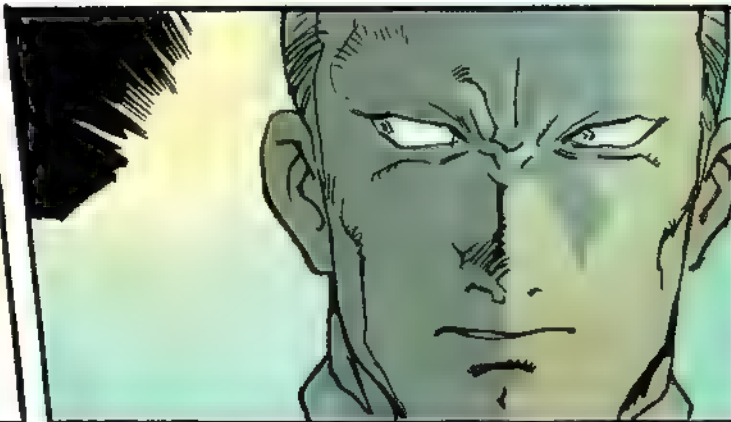
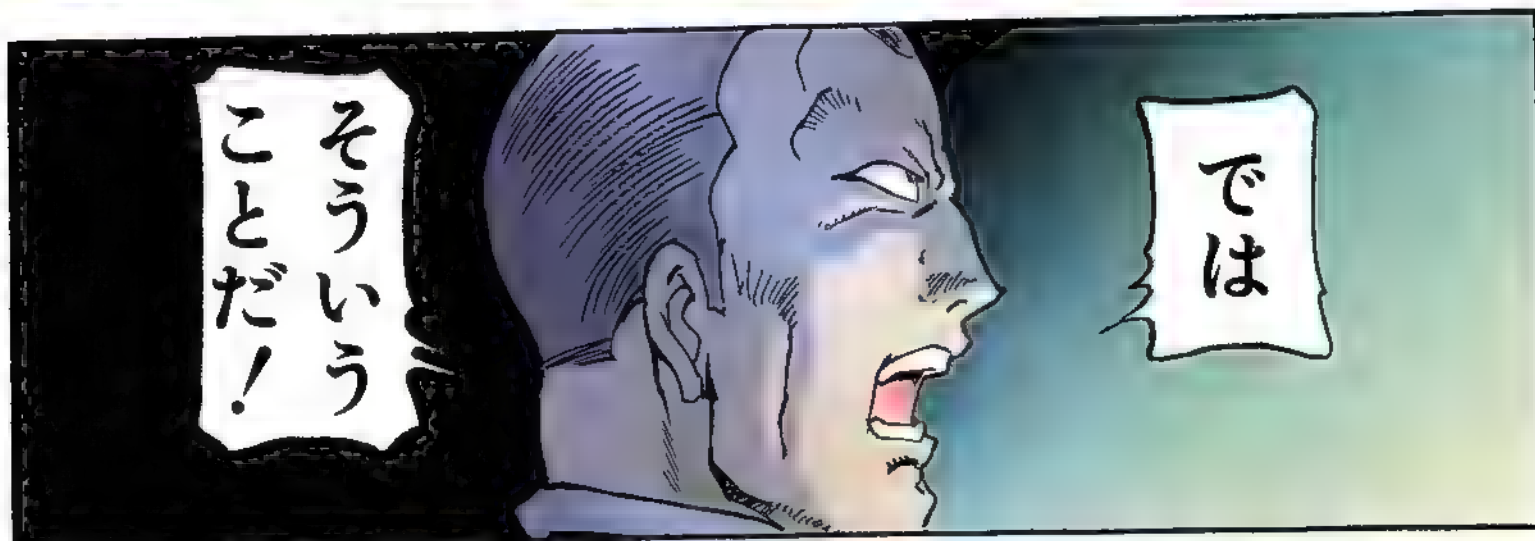
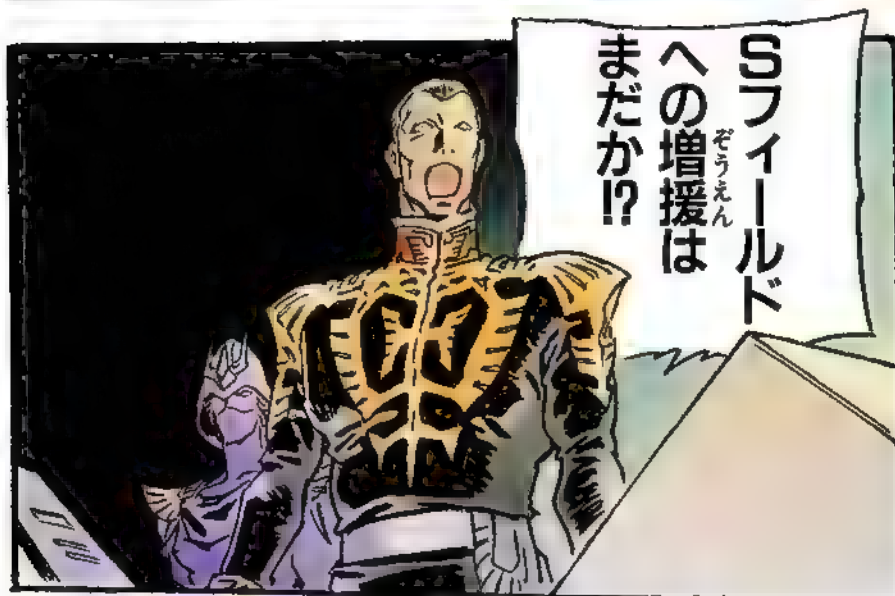
グレートデギンを
どこに配備なさったのですか?
コツ…
沈んだよ
先行しすぎて——な
ほ……
コツ…
デギン公王から……
調達なさったので……?
コツ…
……

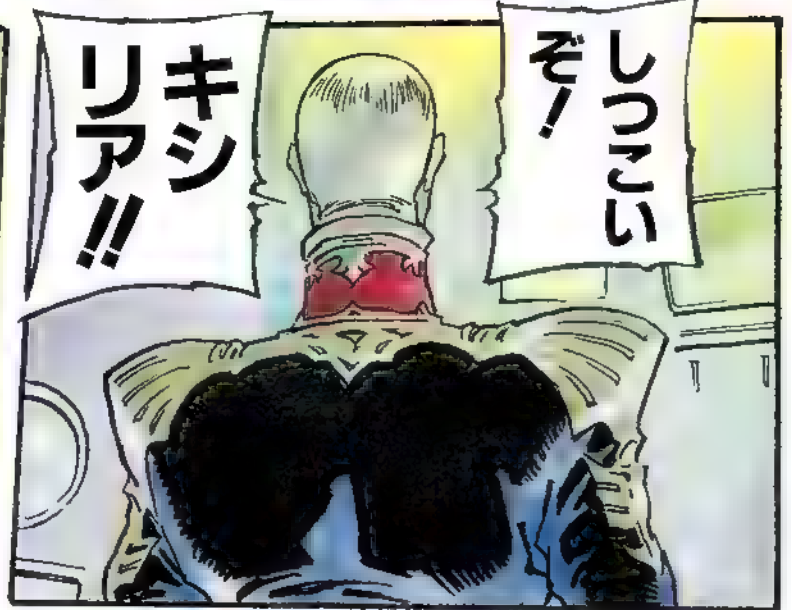
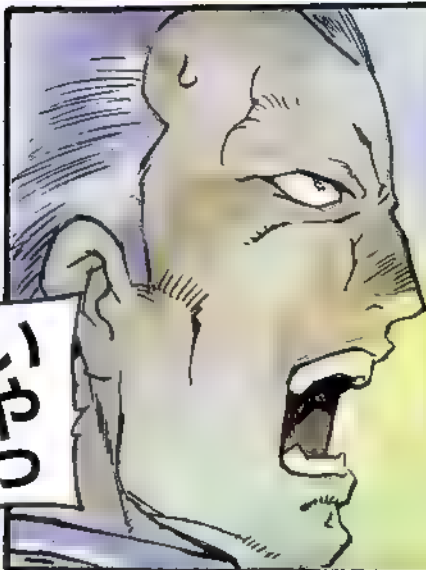
歯がゆいなキシリア!
父がグレートデギンを手放すと思うのか?

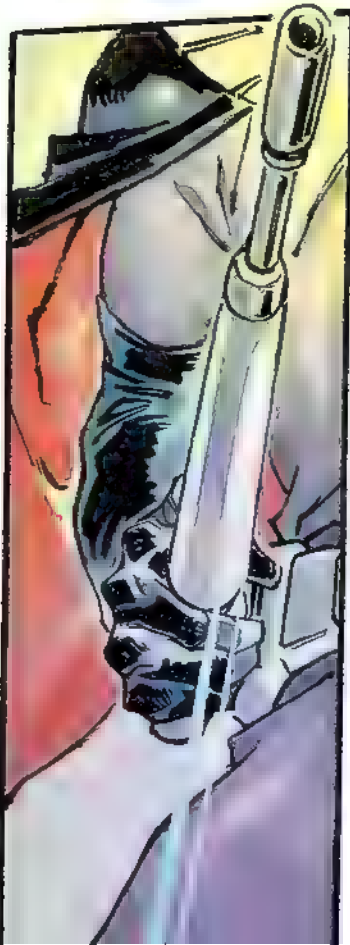
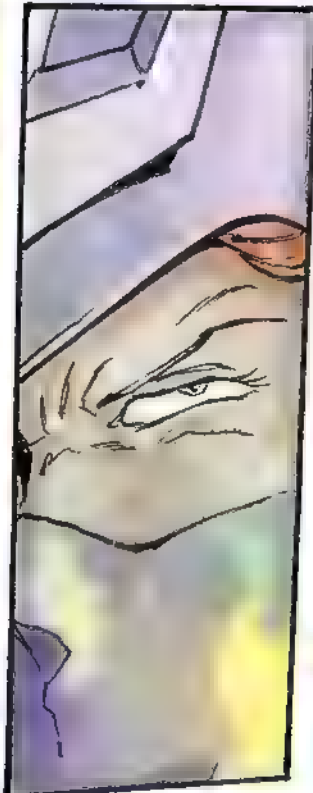
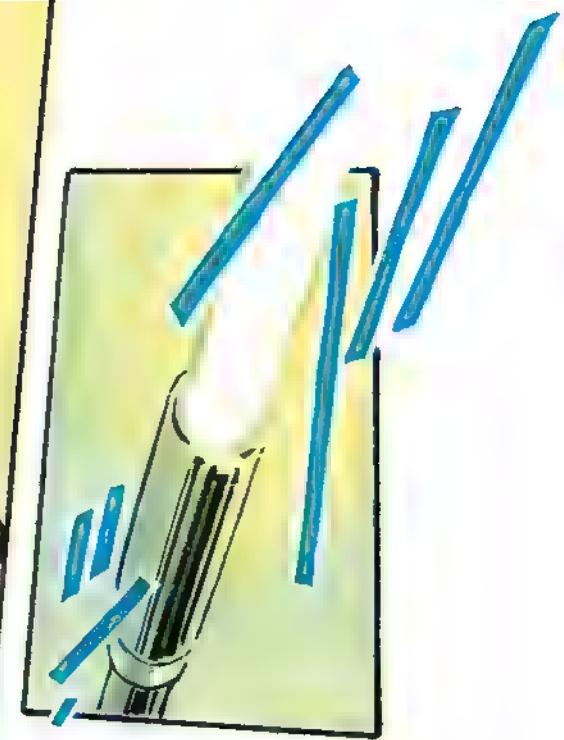
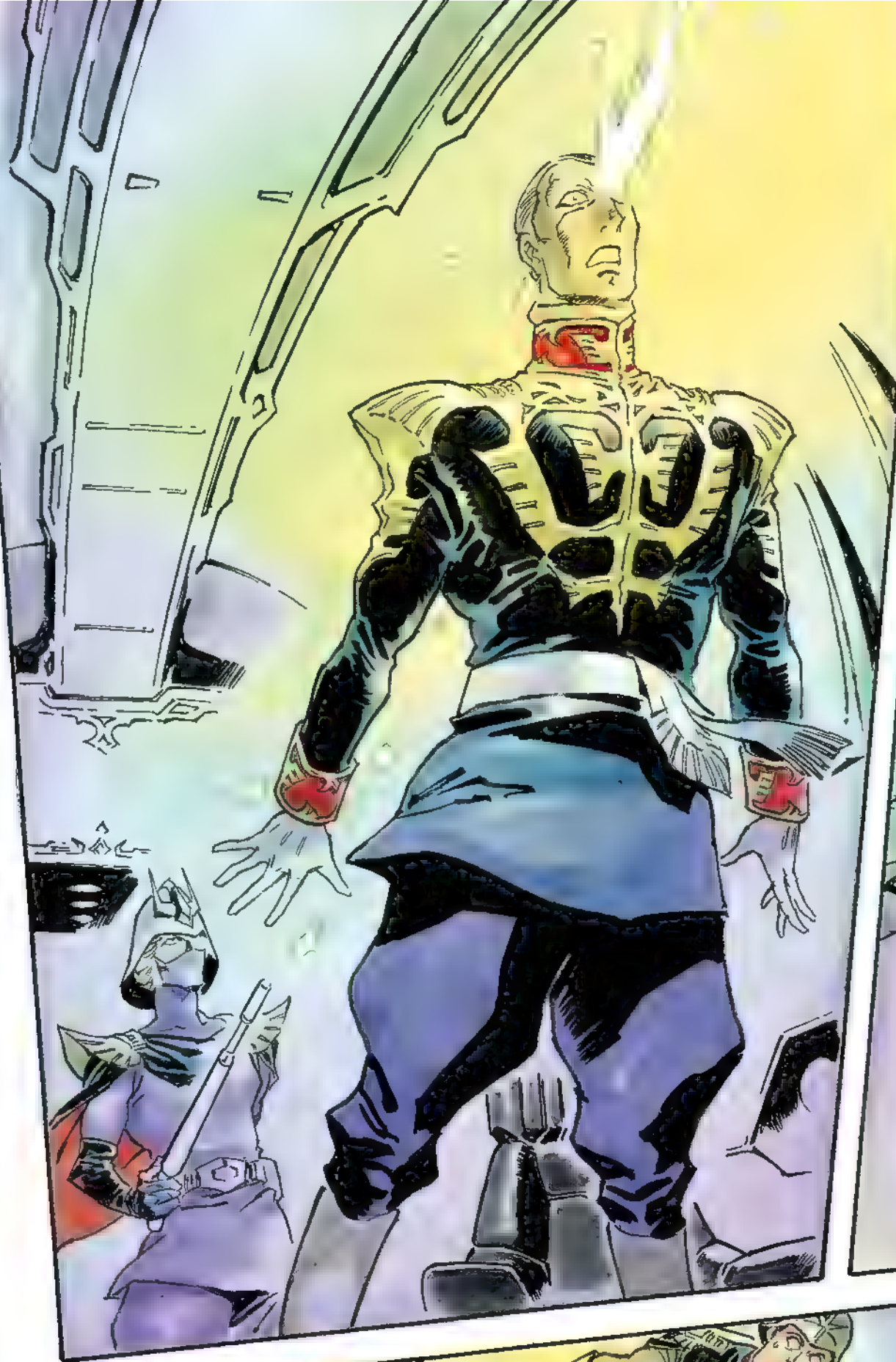
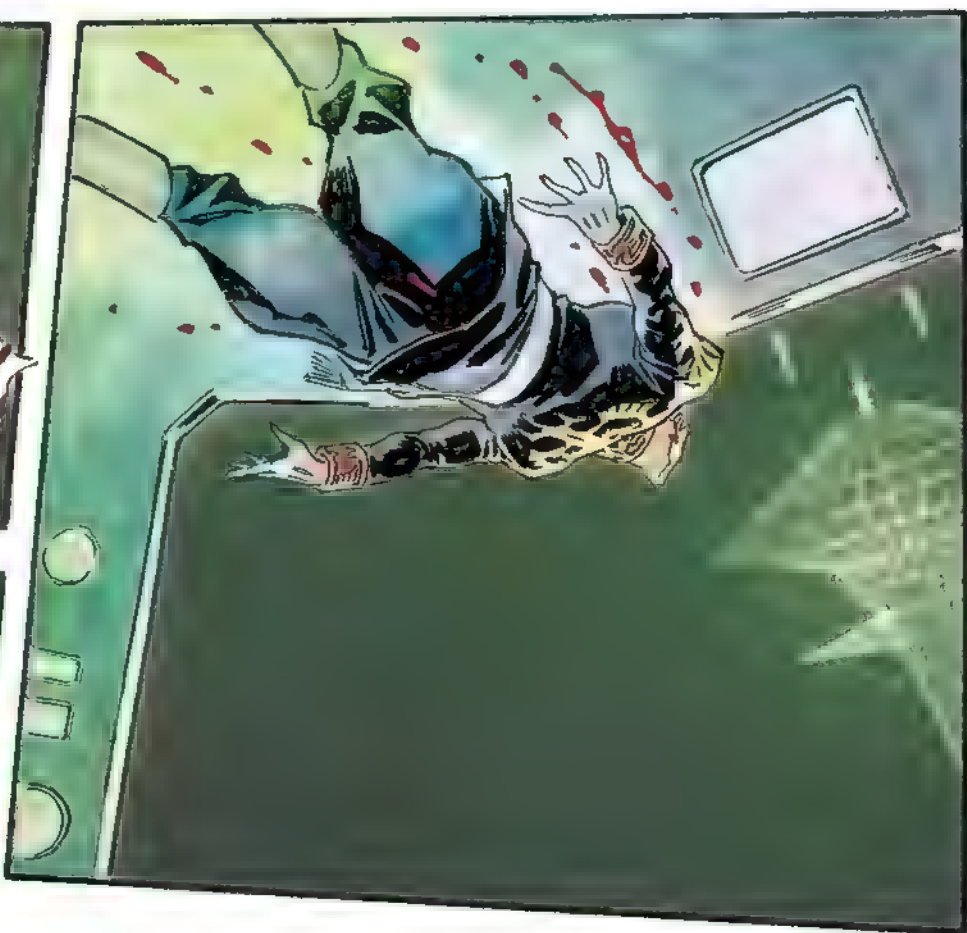
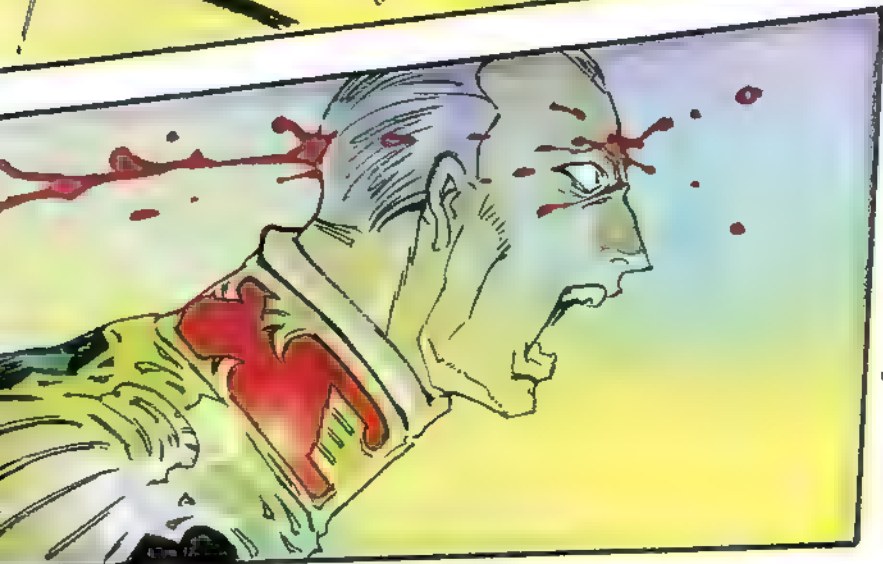
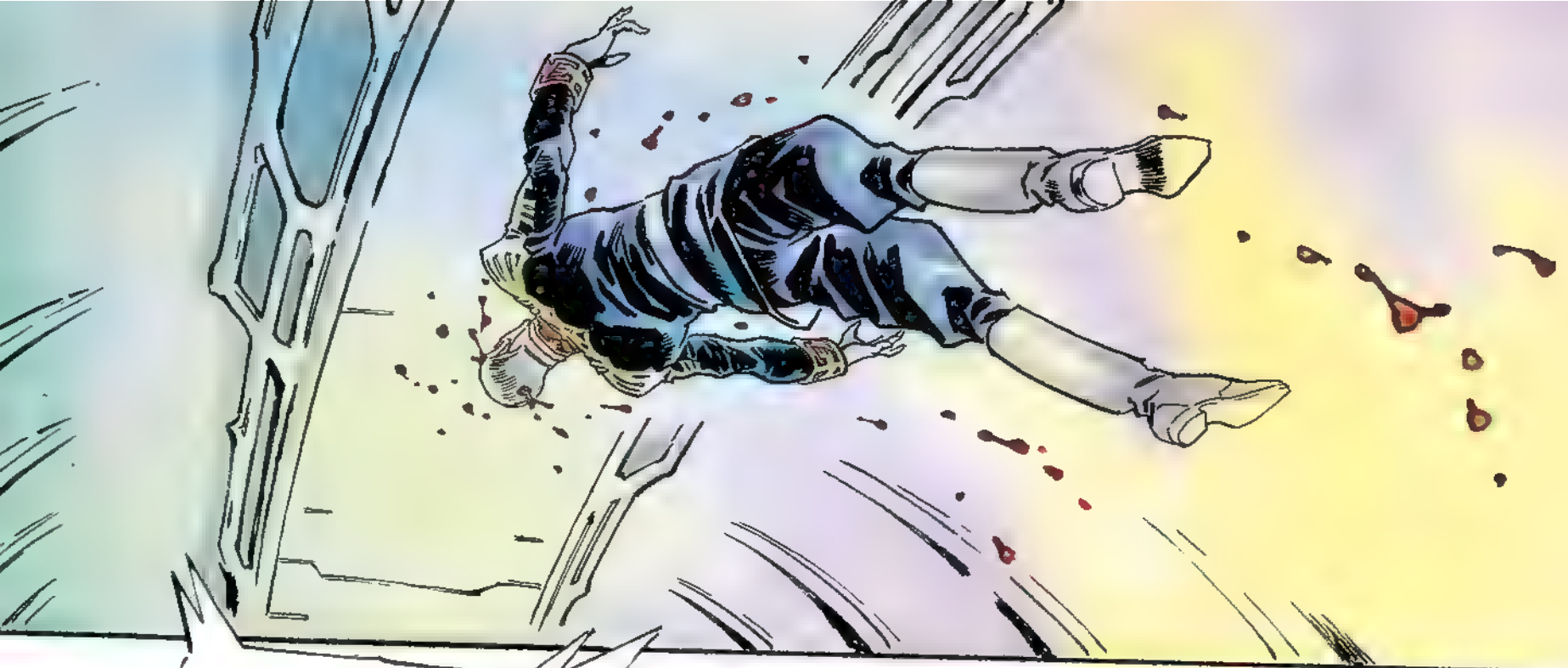
思いません

では
そういうことだ!

乗っておられたのですね?
公王陛下は
グレートデギンに

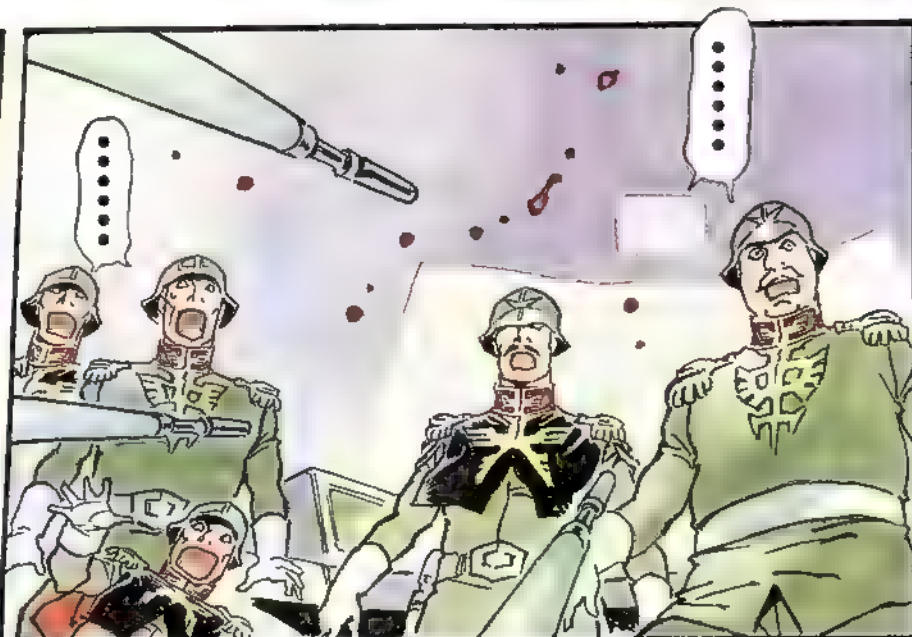
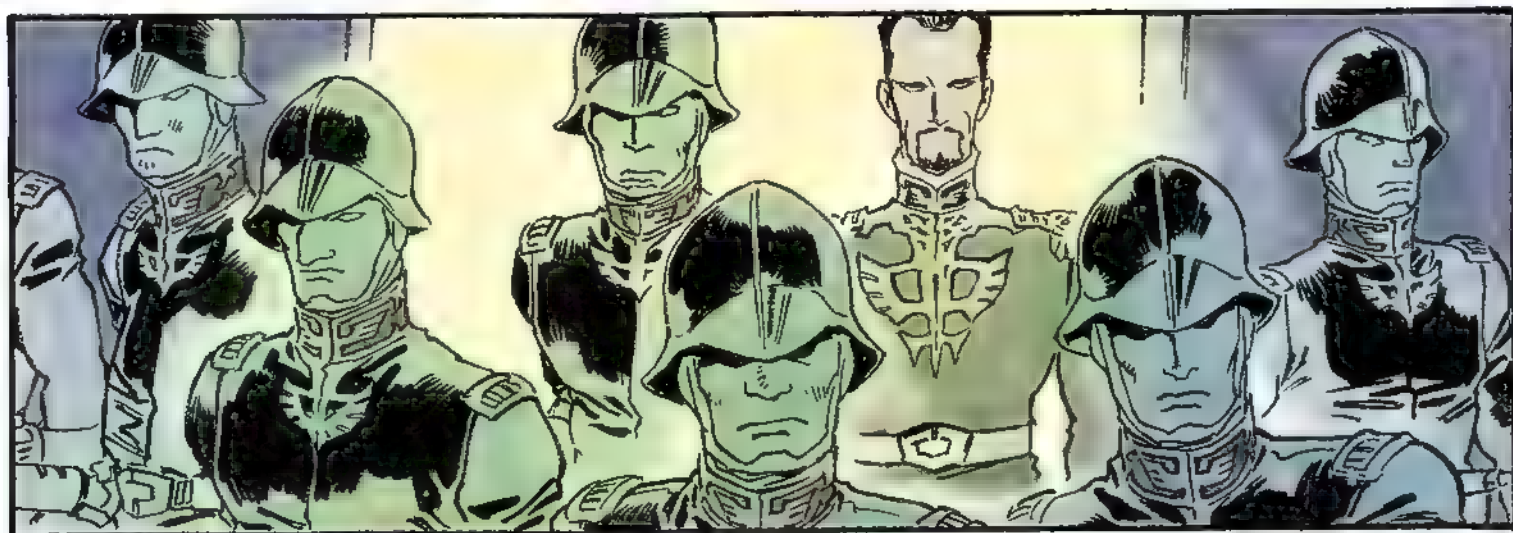
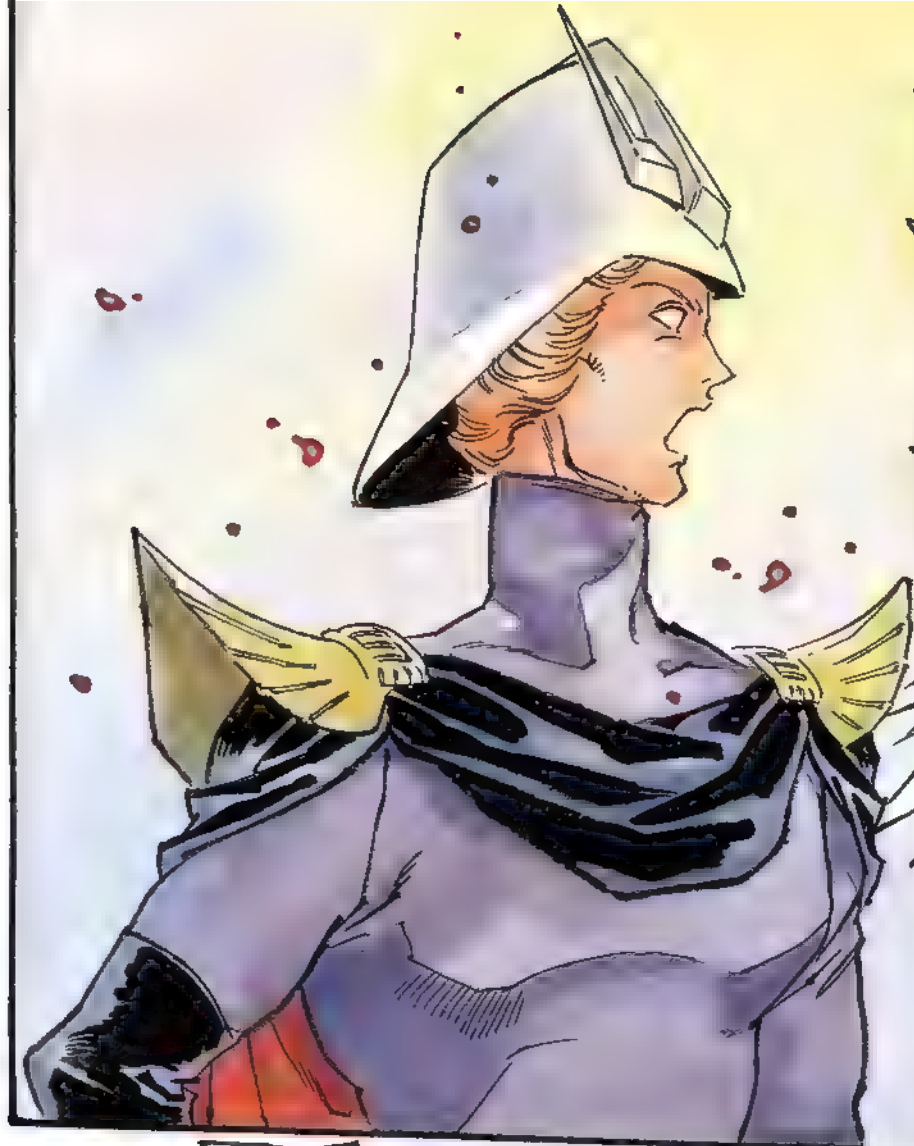
Sフィールドへの増援はまだか!?

もう一度訊きます
デギン公王は あの時 グレートデギンに乗っておられた
そうですね?

しつこいぞ!
キシリア!!

父は突出し過ぎたのだ
いやっ

でしゃばりすぎたのだ!!
あ・・・あの時 あの時点で和平なぞ!

わあああ
ギレン総帥じゃないのか?!!
どしゃ

ギレン総帥を成敗した！
父殺しの罪はたとえ総帥であっても免れることはできないっ!!!

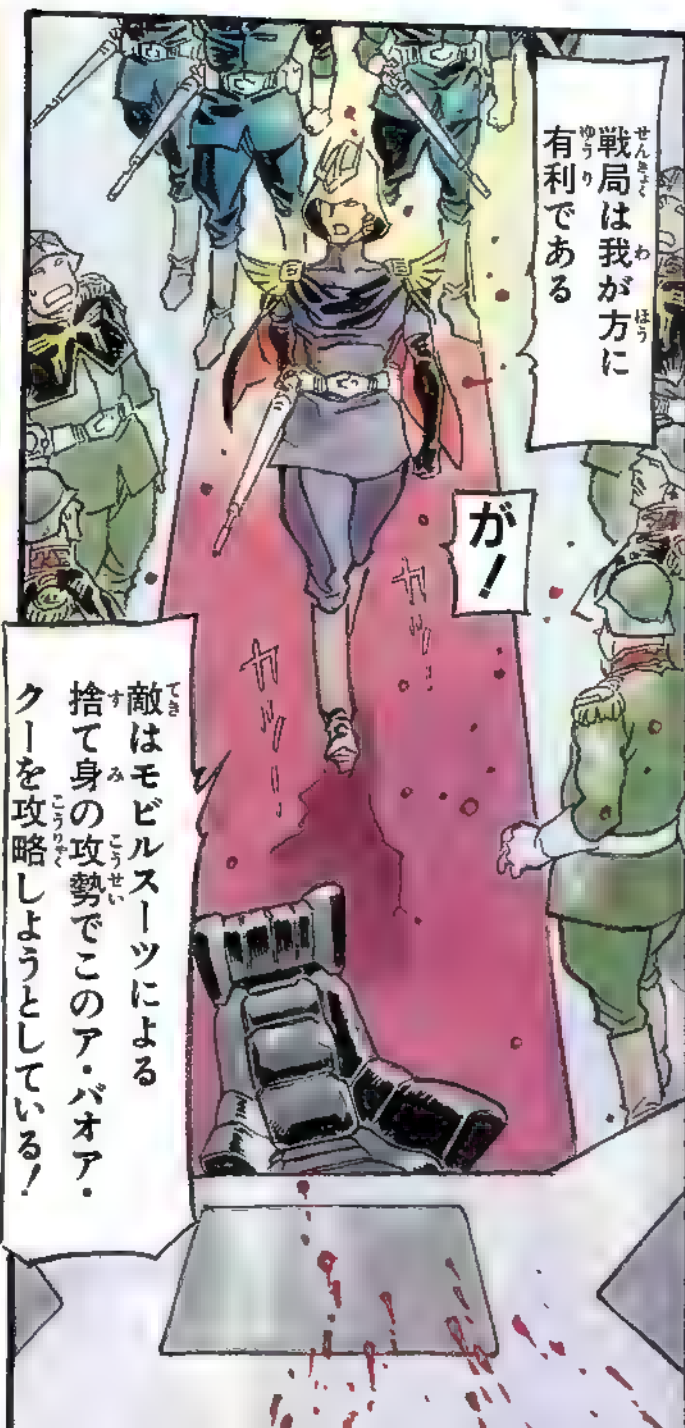
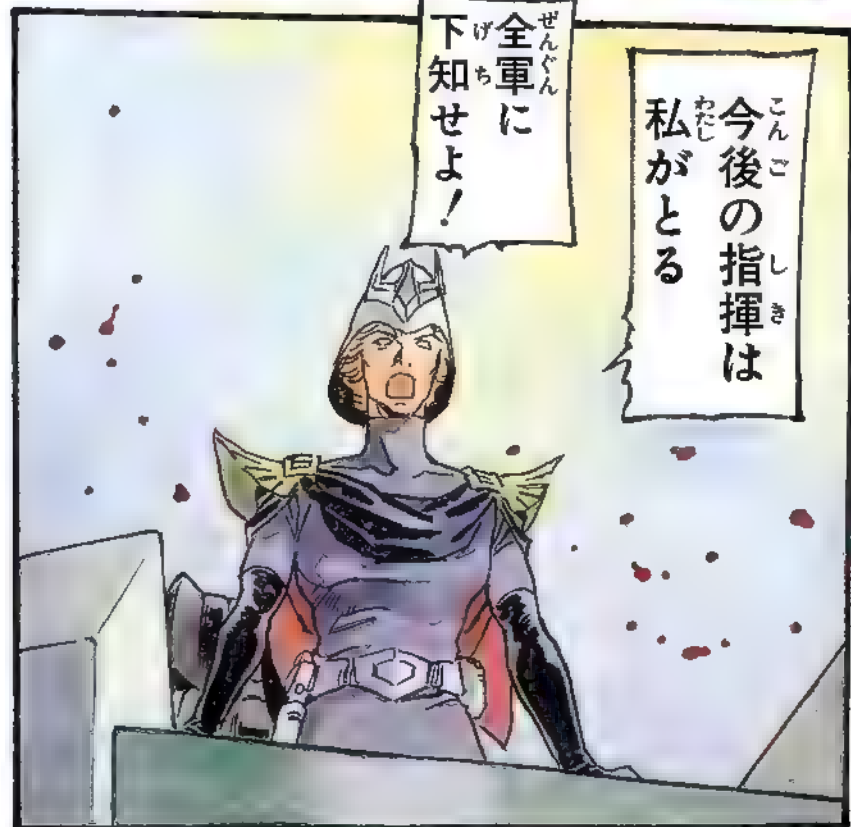
ぴかる宇宙編・後
SECTION
IX

私のこの処置に異議のある者はいるか?!

いるならばこの場で申し立てい!!!

動揺するな!!

各員　そのまま任務を遂行せよ!

いささかの油断も

許されないっ!!

ギレン総帥は不慮の死をとげられた!
だがっ
キシリア・ザビ少将が増援を率いて戦いを勝利に導くと!!
ゴ
ボ
Nフィールドに敵がくい込んでいる!
掃討せよ!!!

なんでありますか？大尉殿
中でなにか？

こ
ここの警備はもういい
少尉
中隊を至急召集しろ
？
？

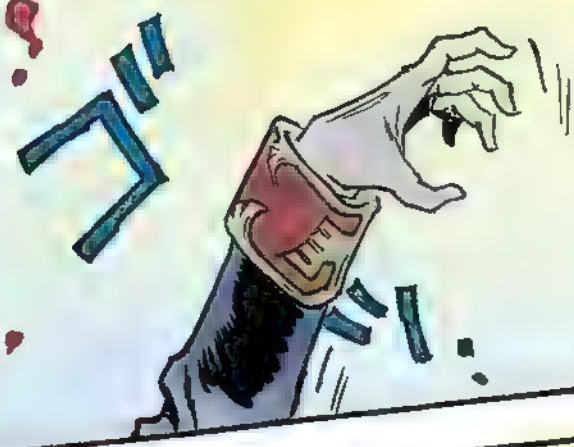
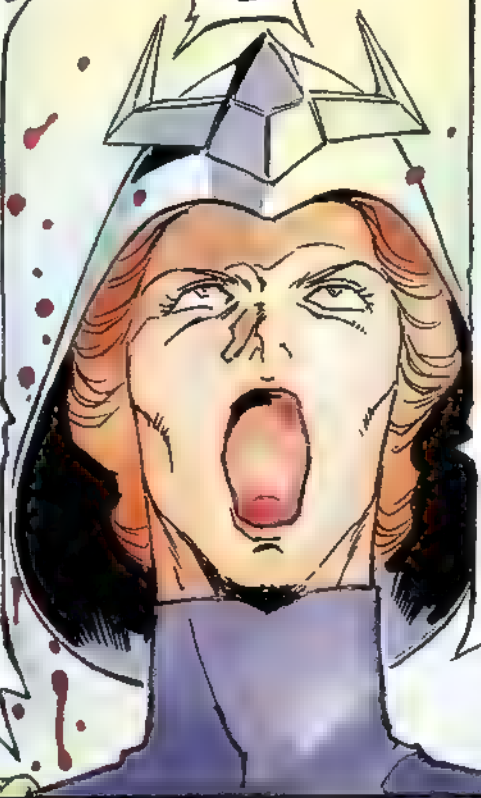
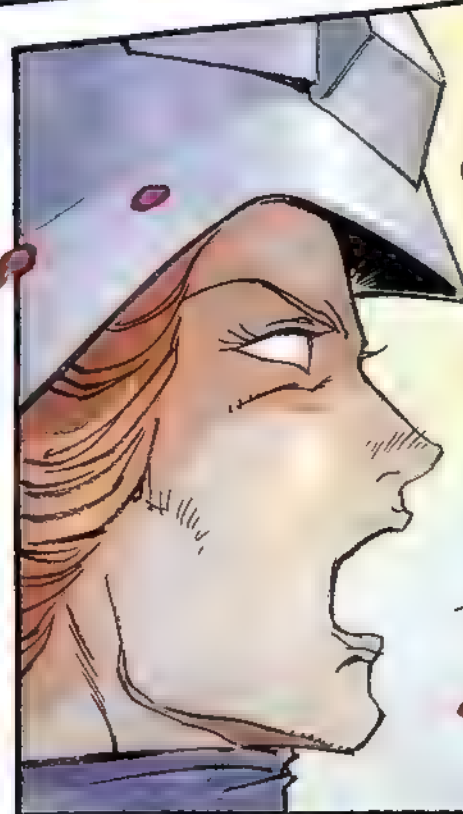
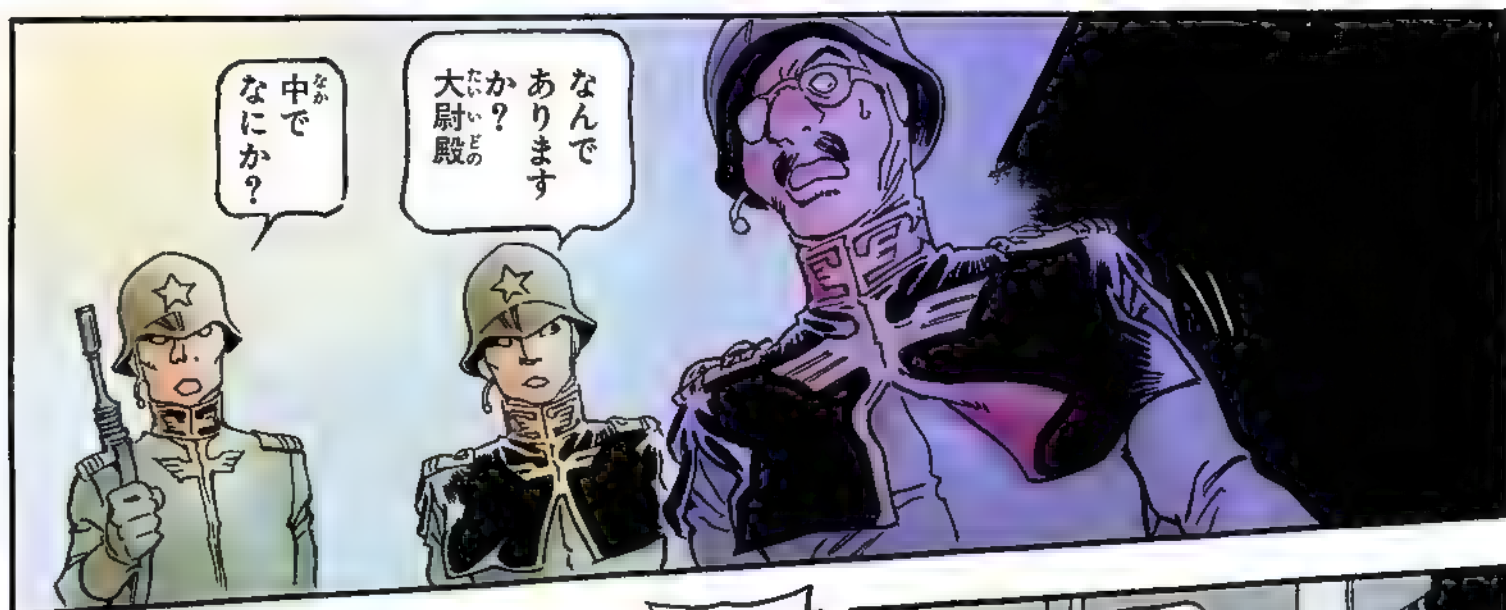
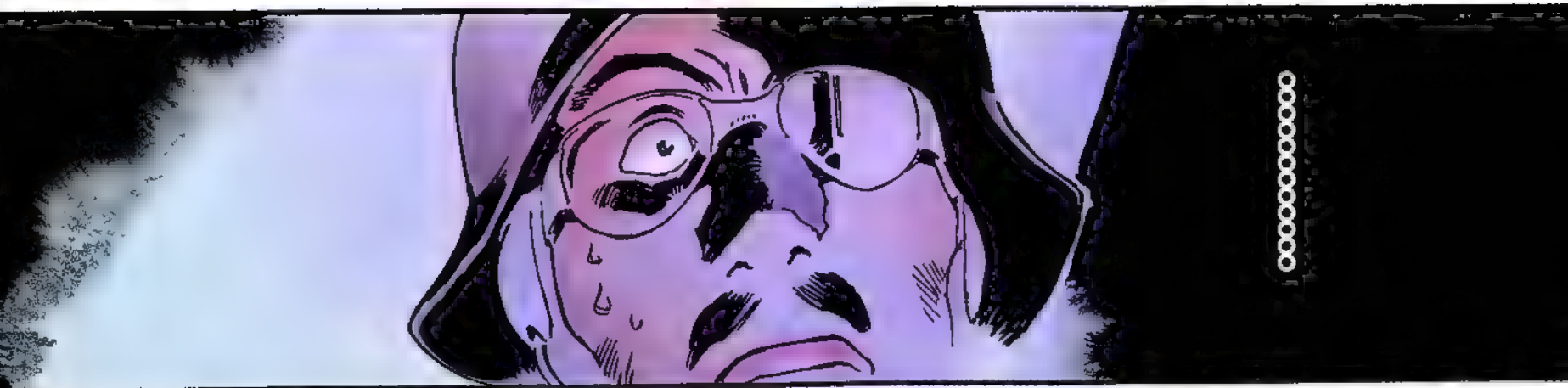
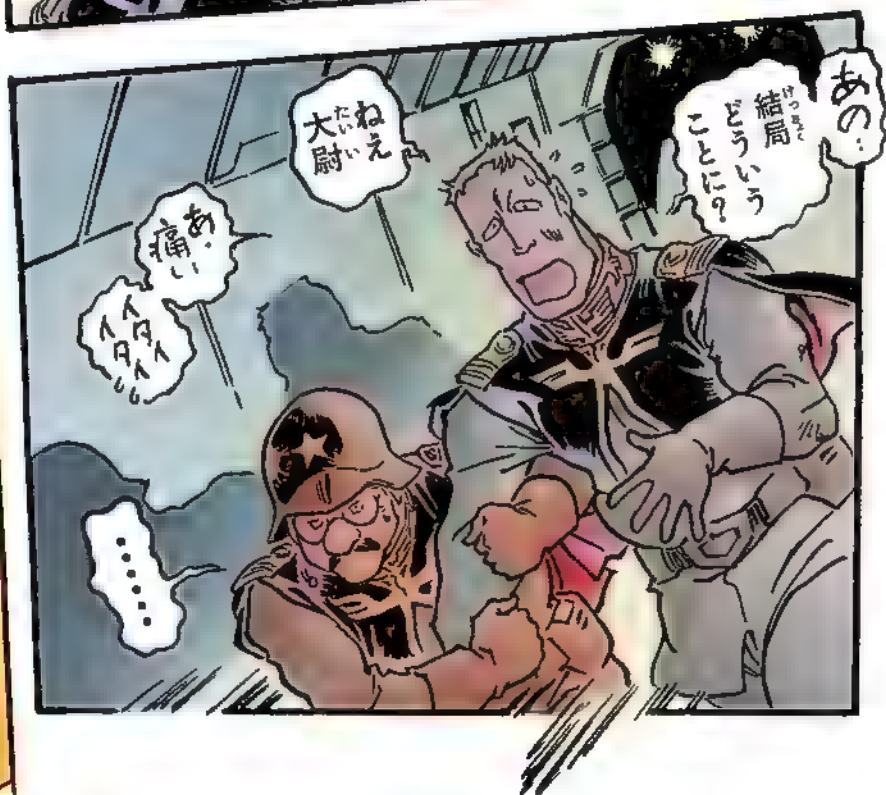
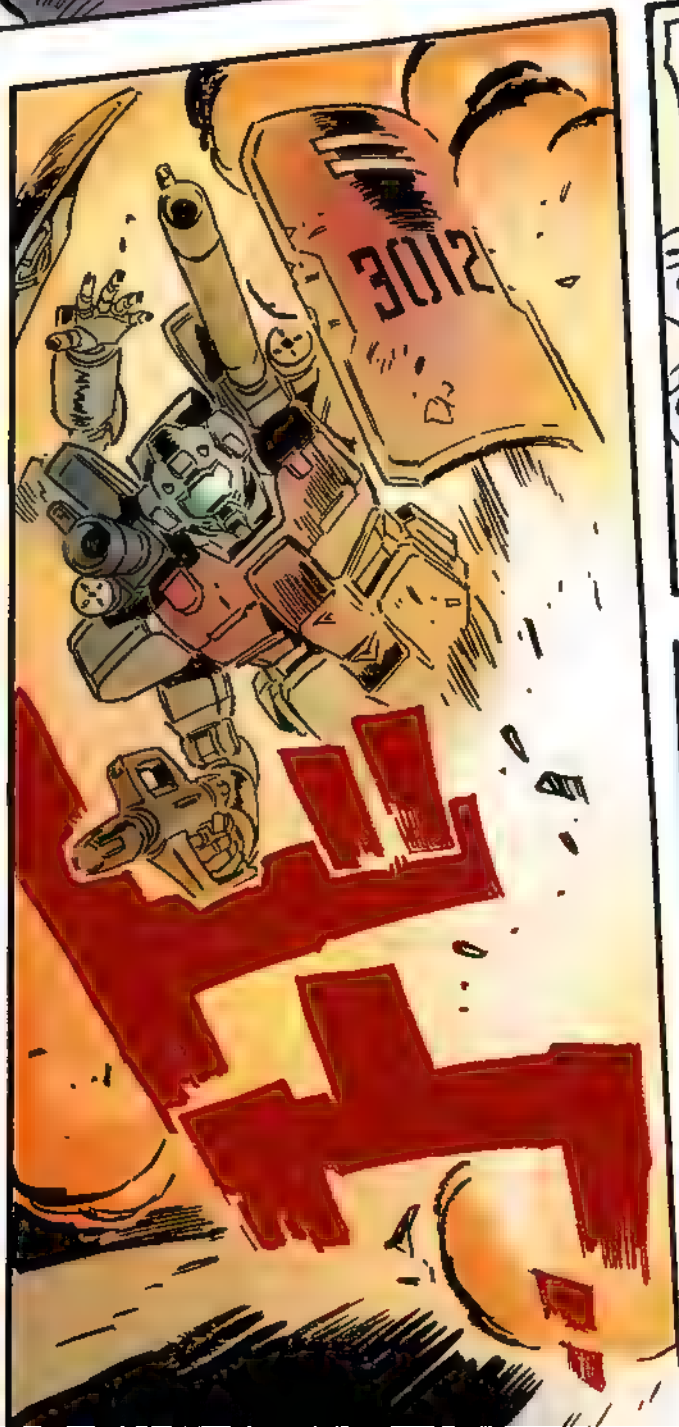
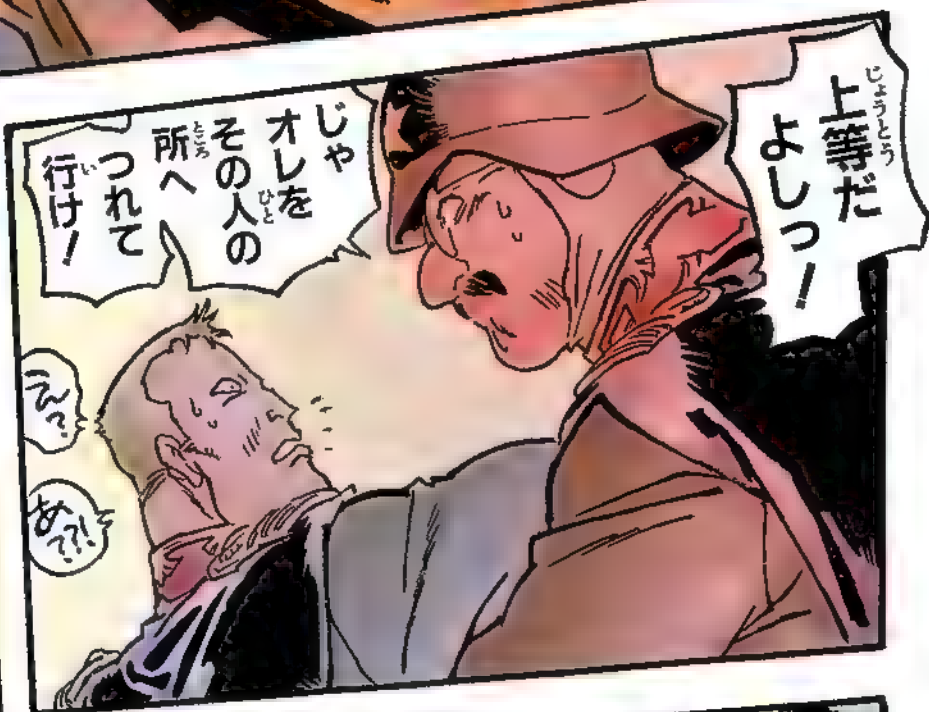
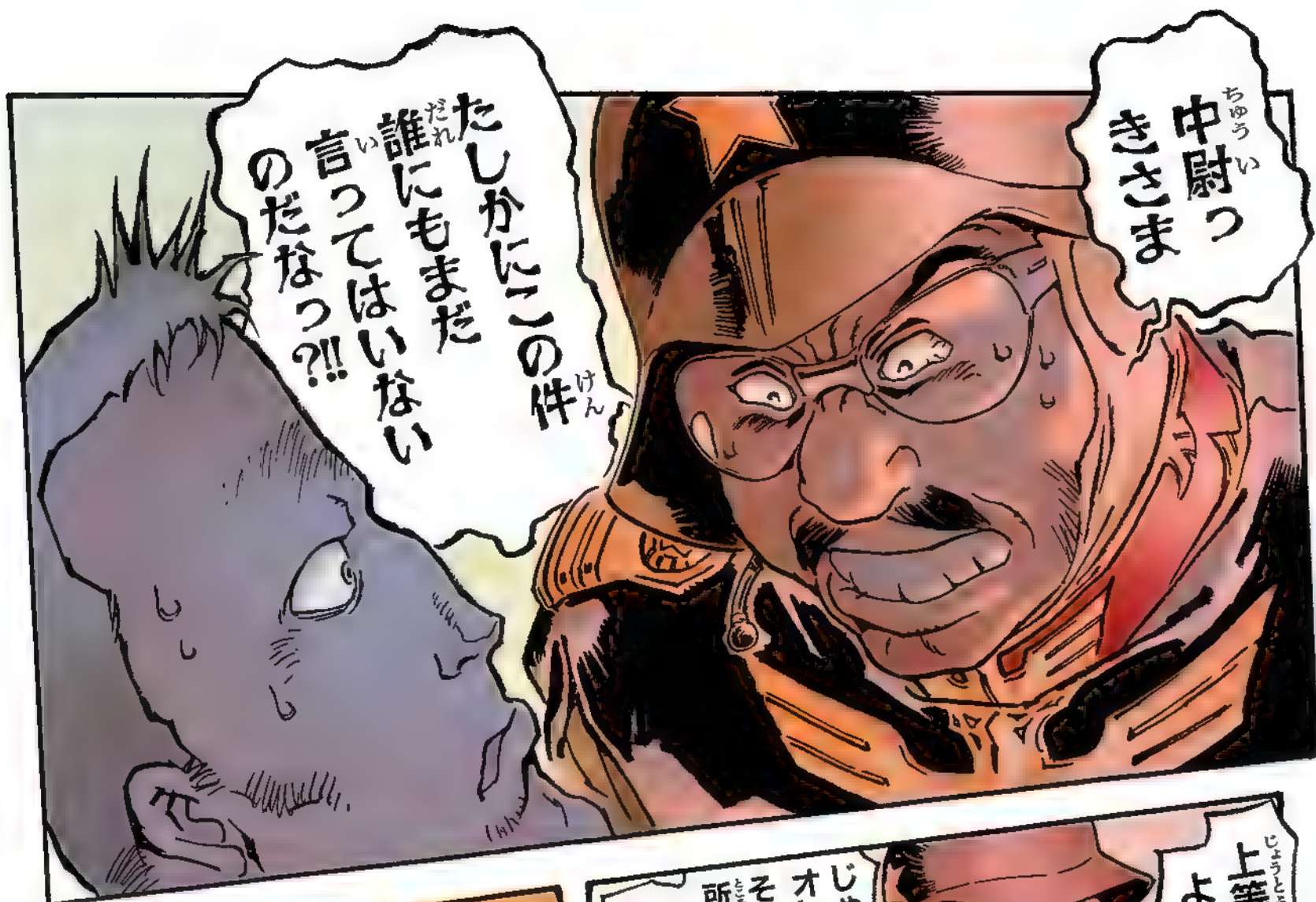
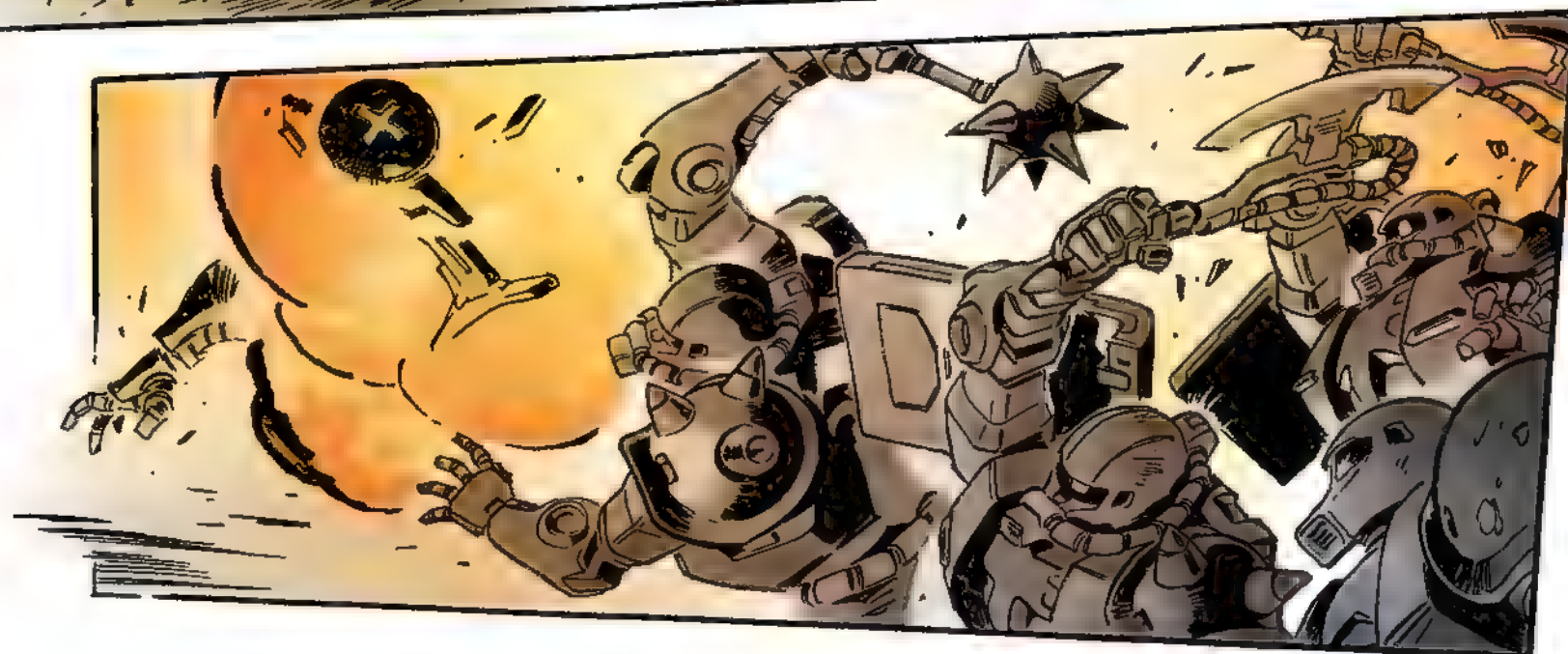
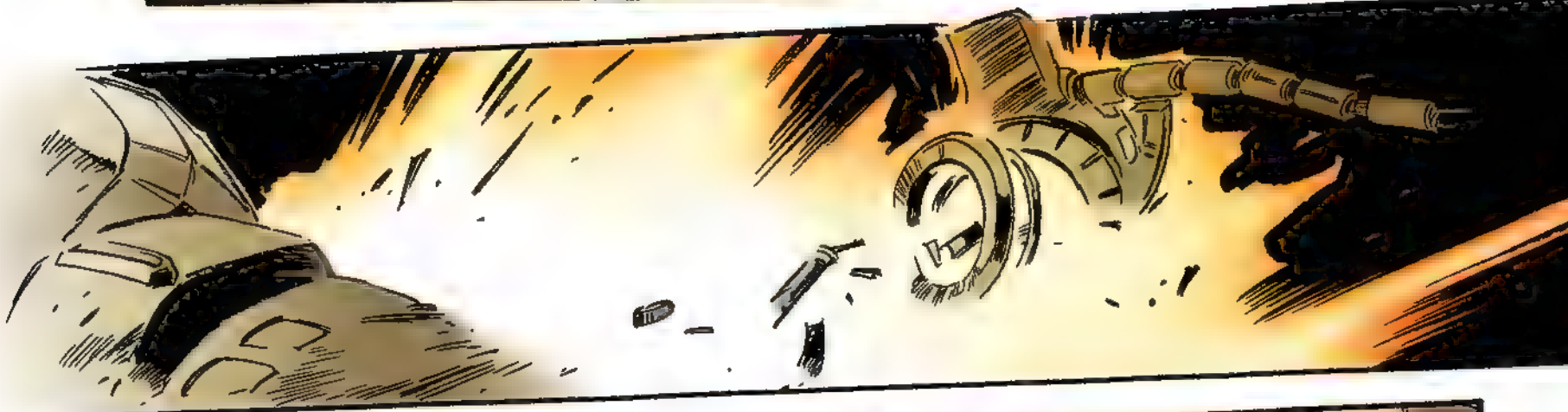
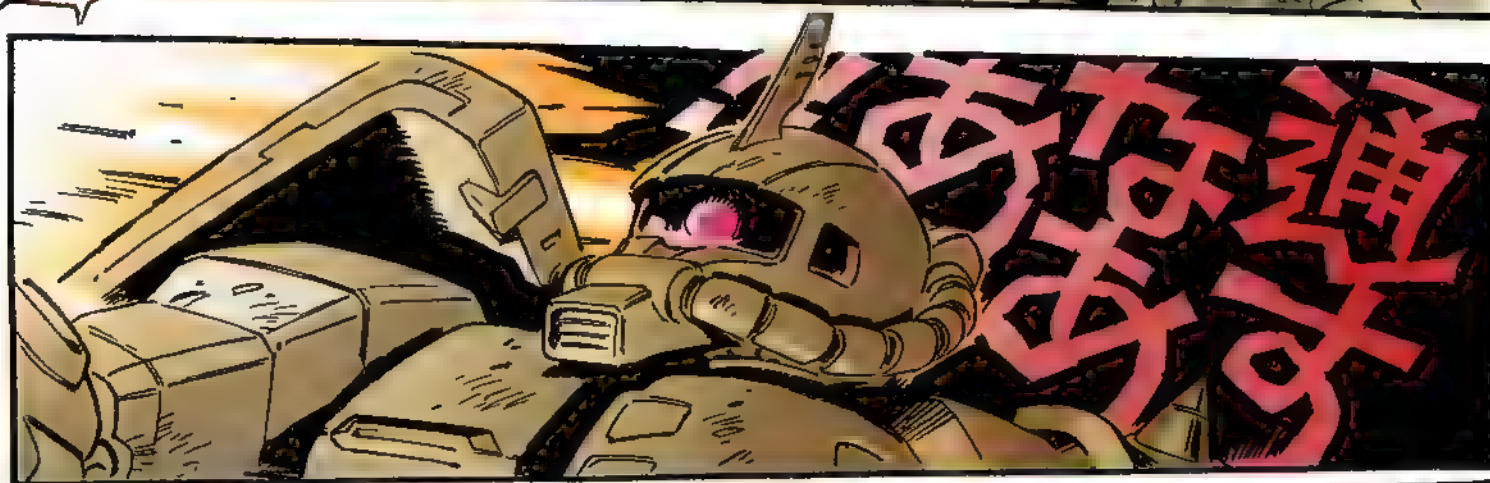
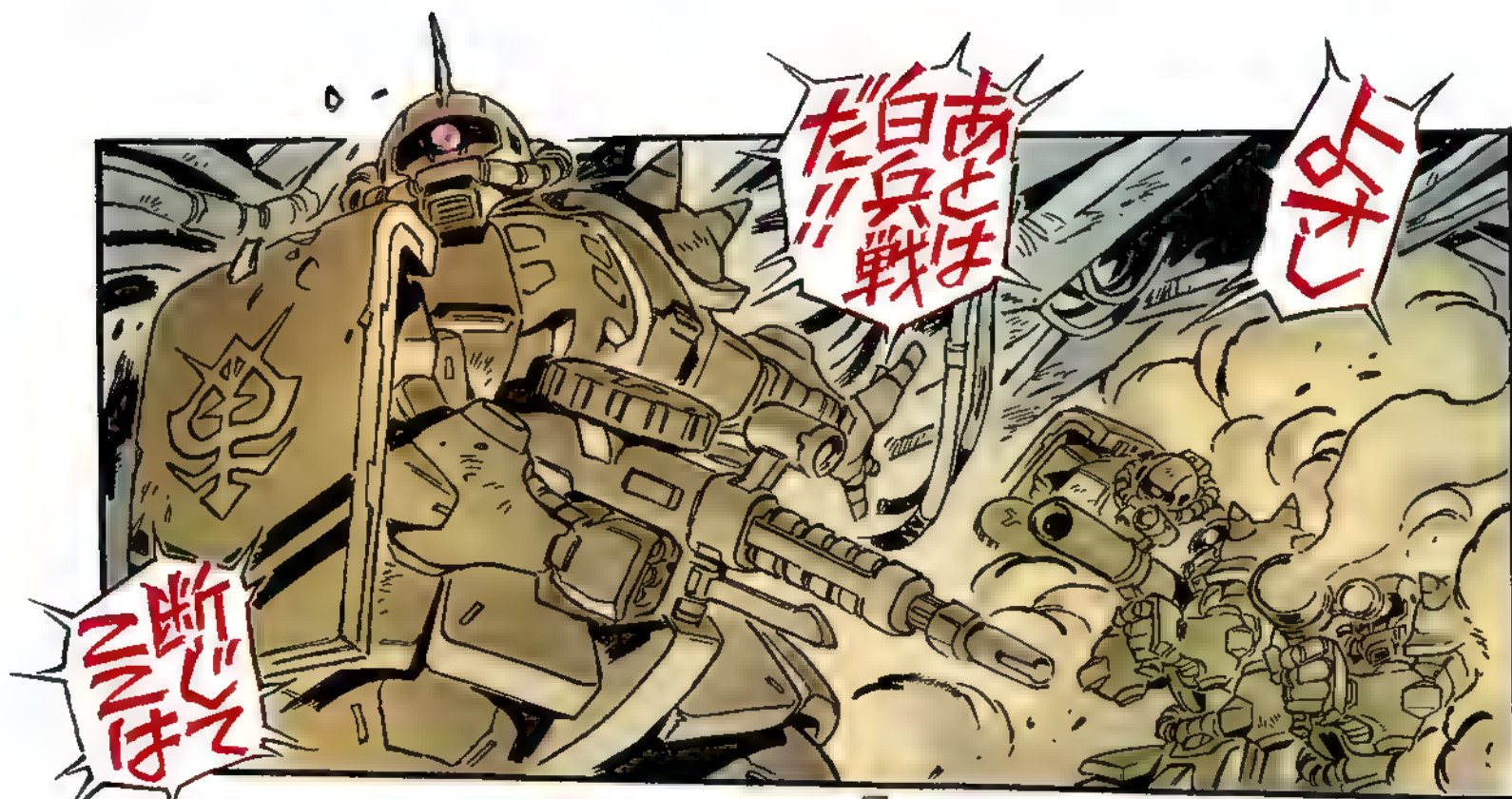
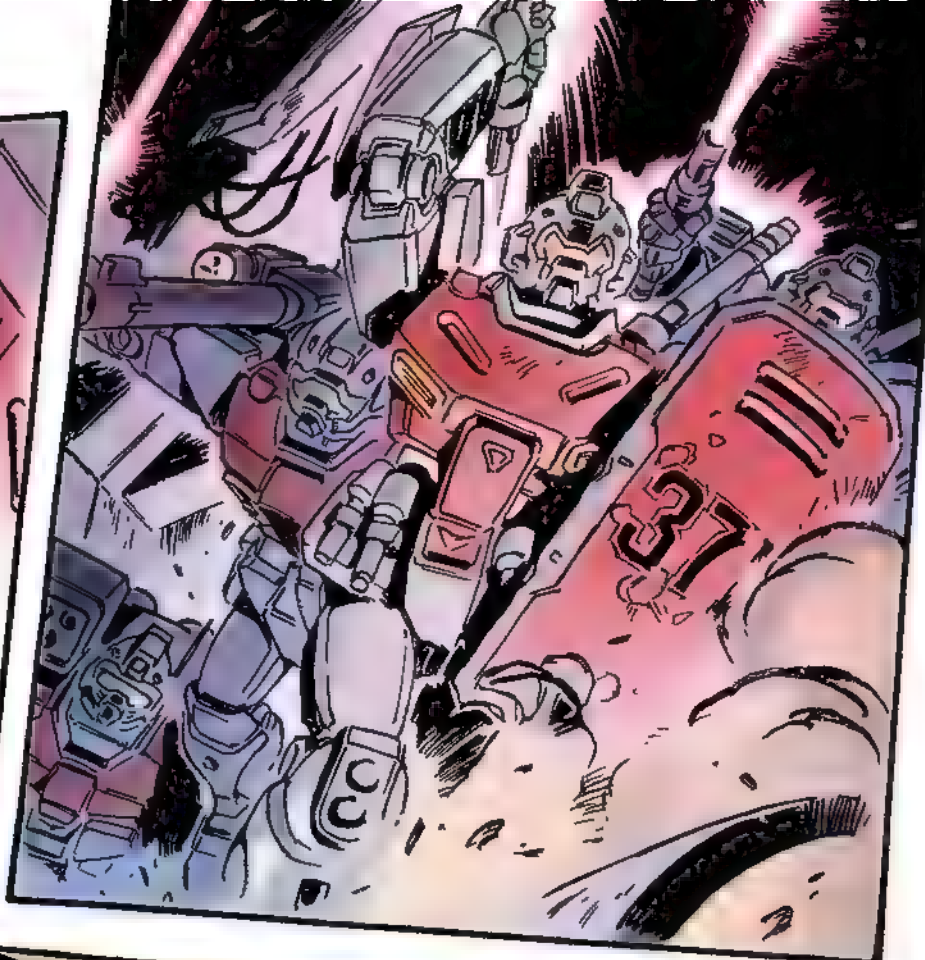
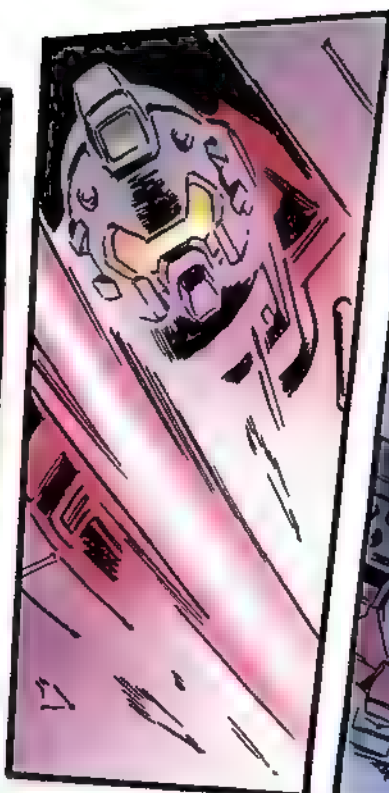
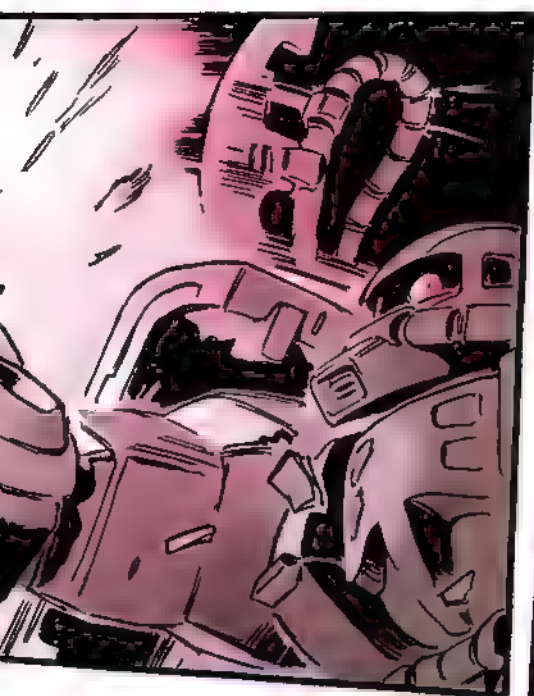
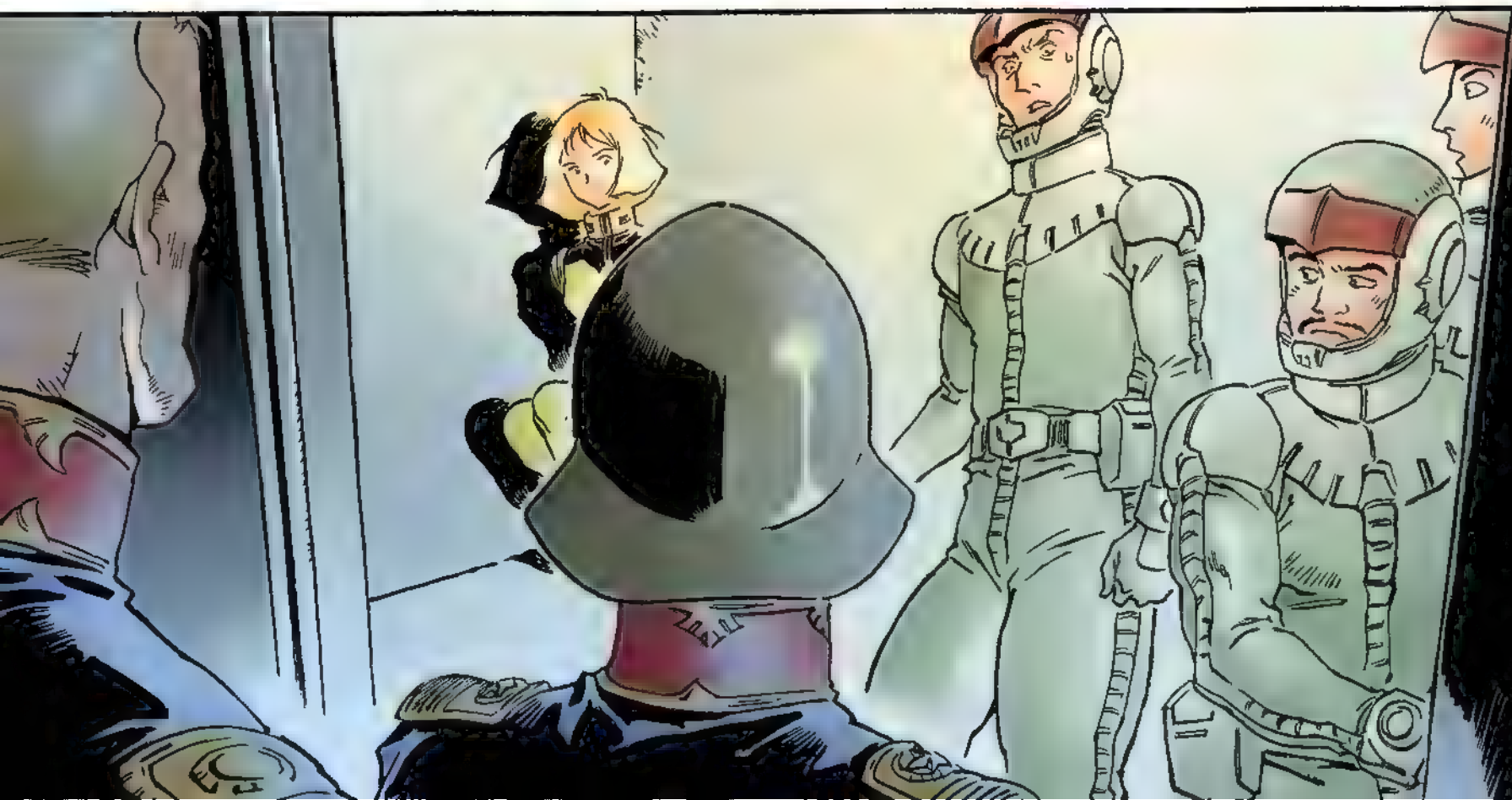
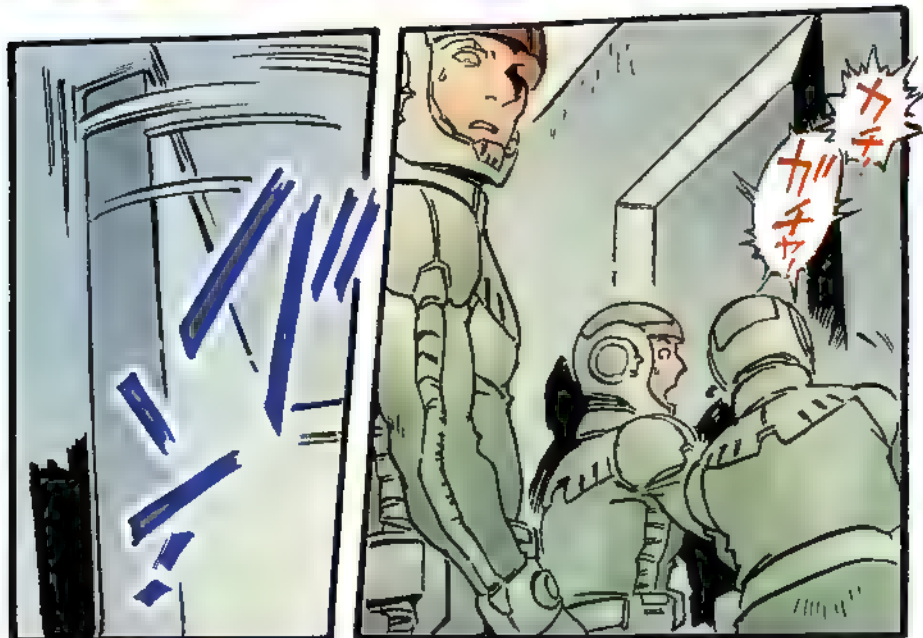
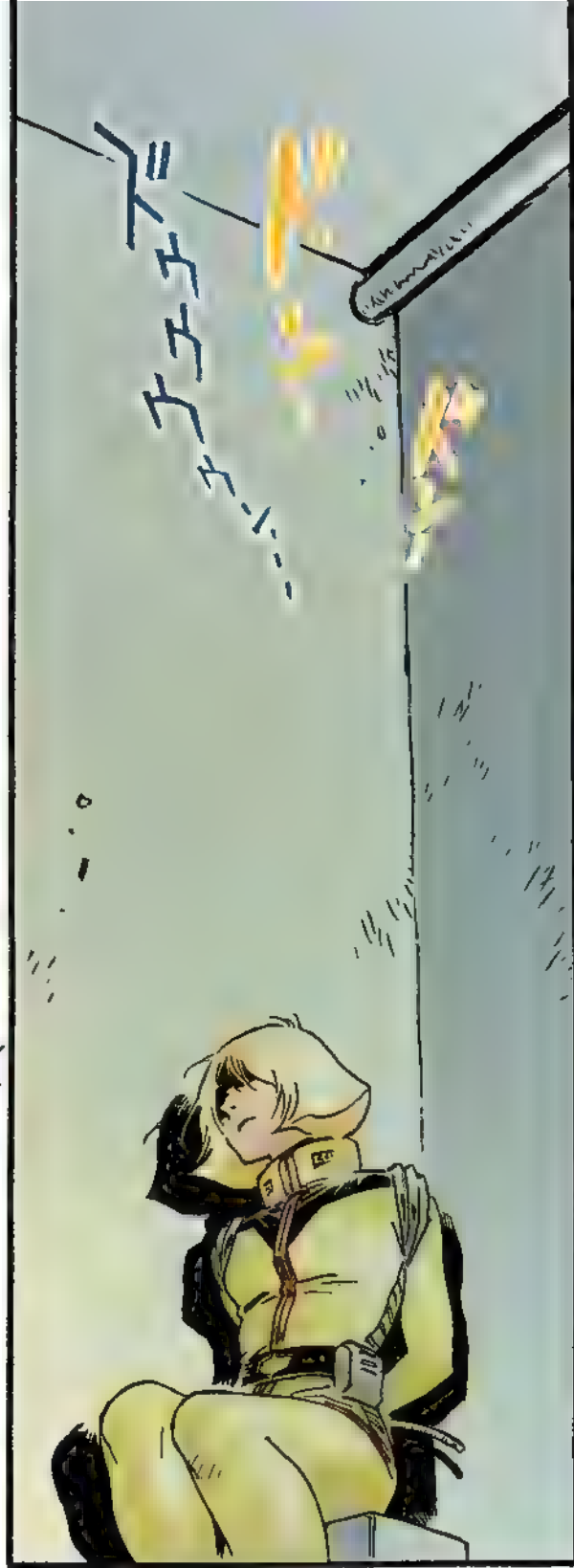
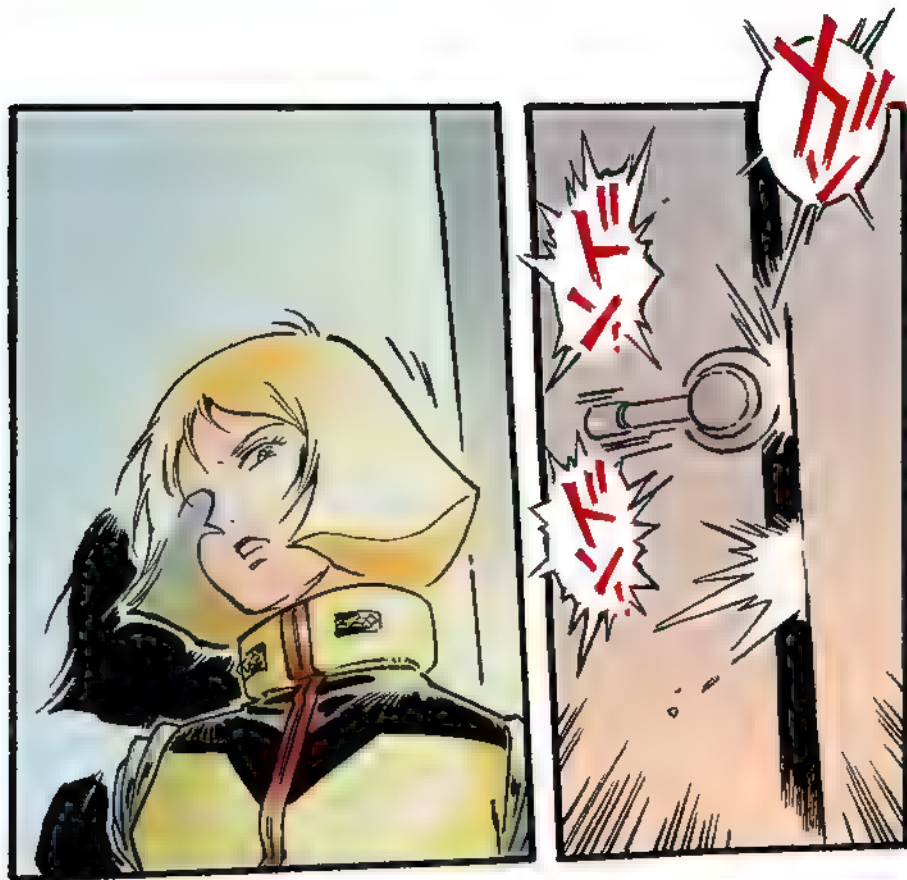
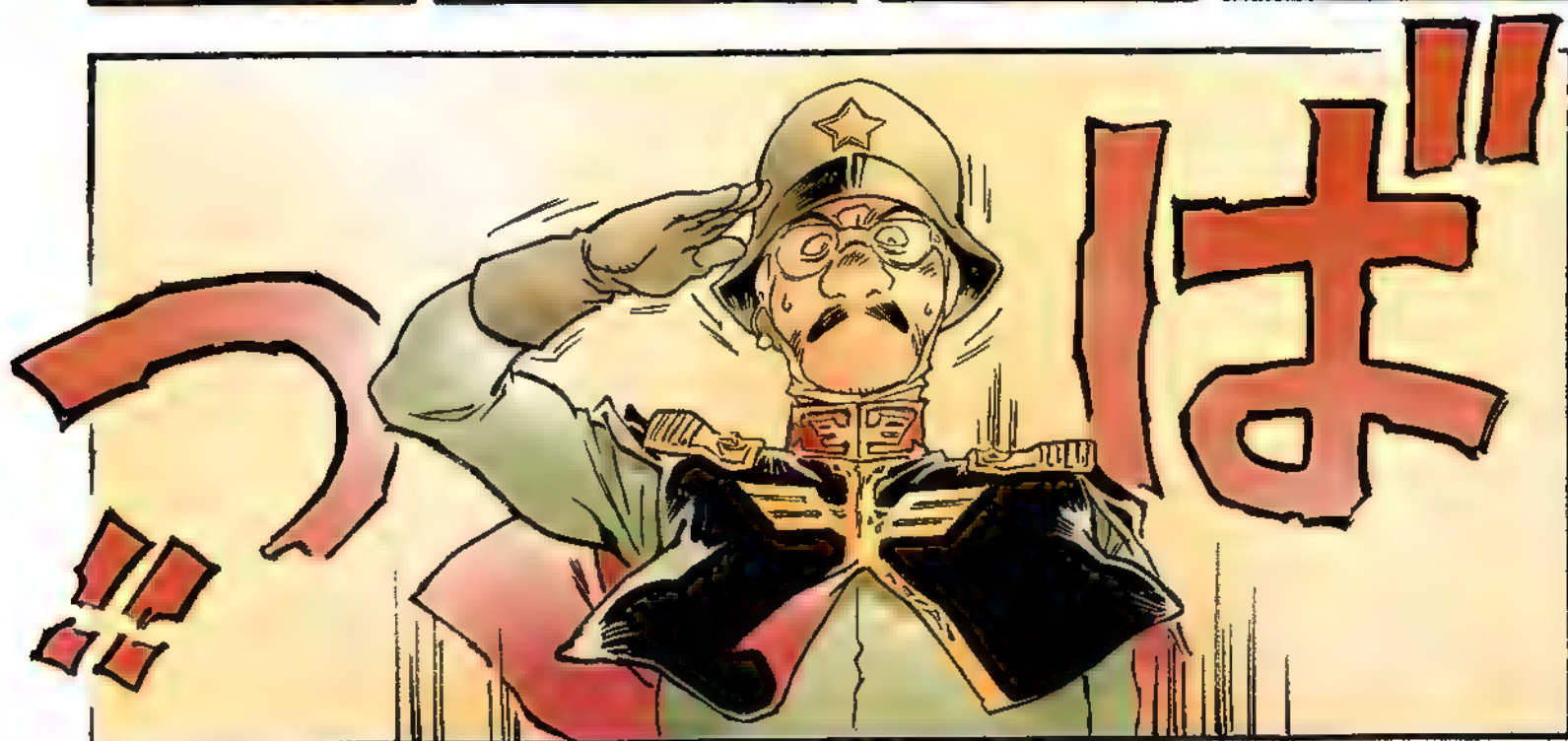
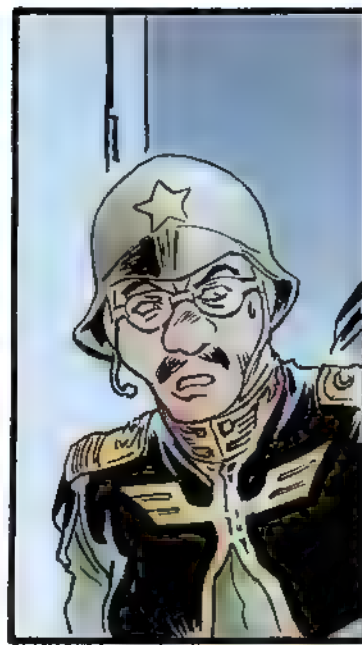
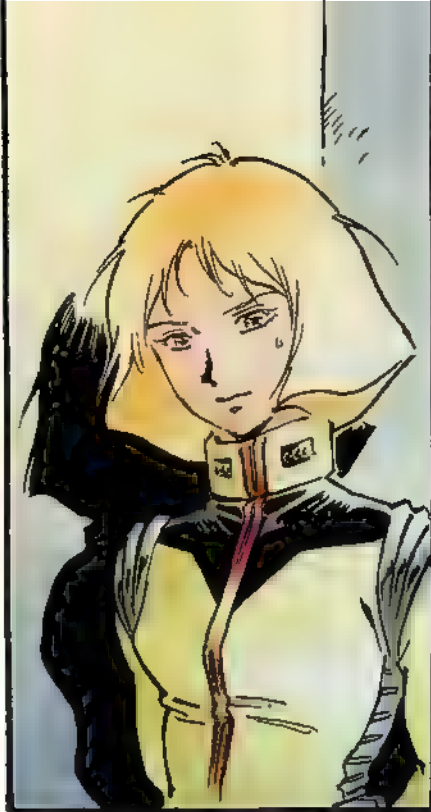
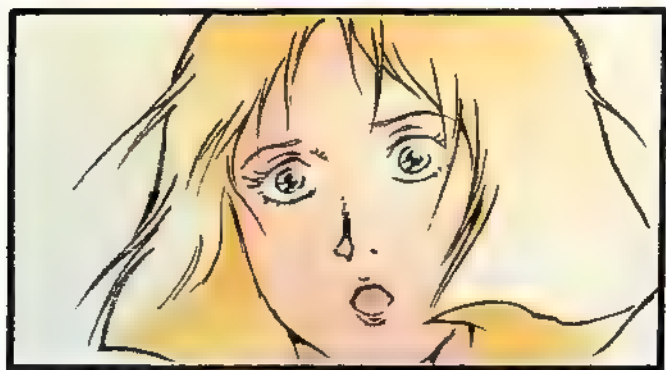
なにも訊くな！
なにも言うな!!
ただちにノーマルスーツ着用でな!!
ハッ

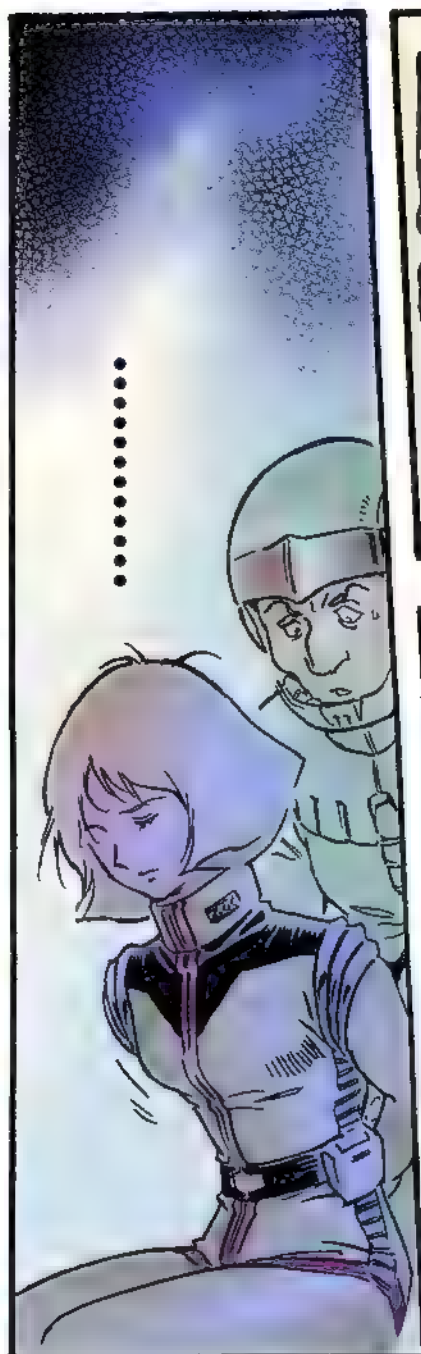
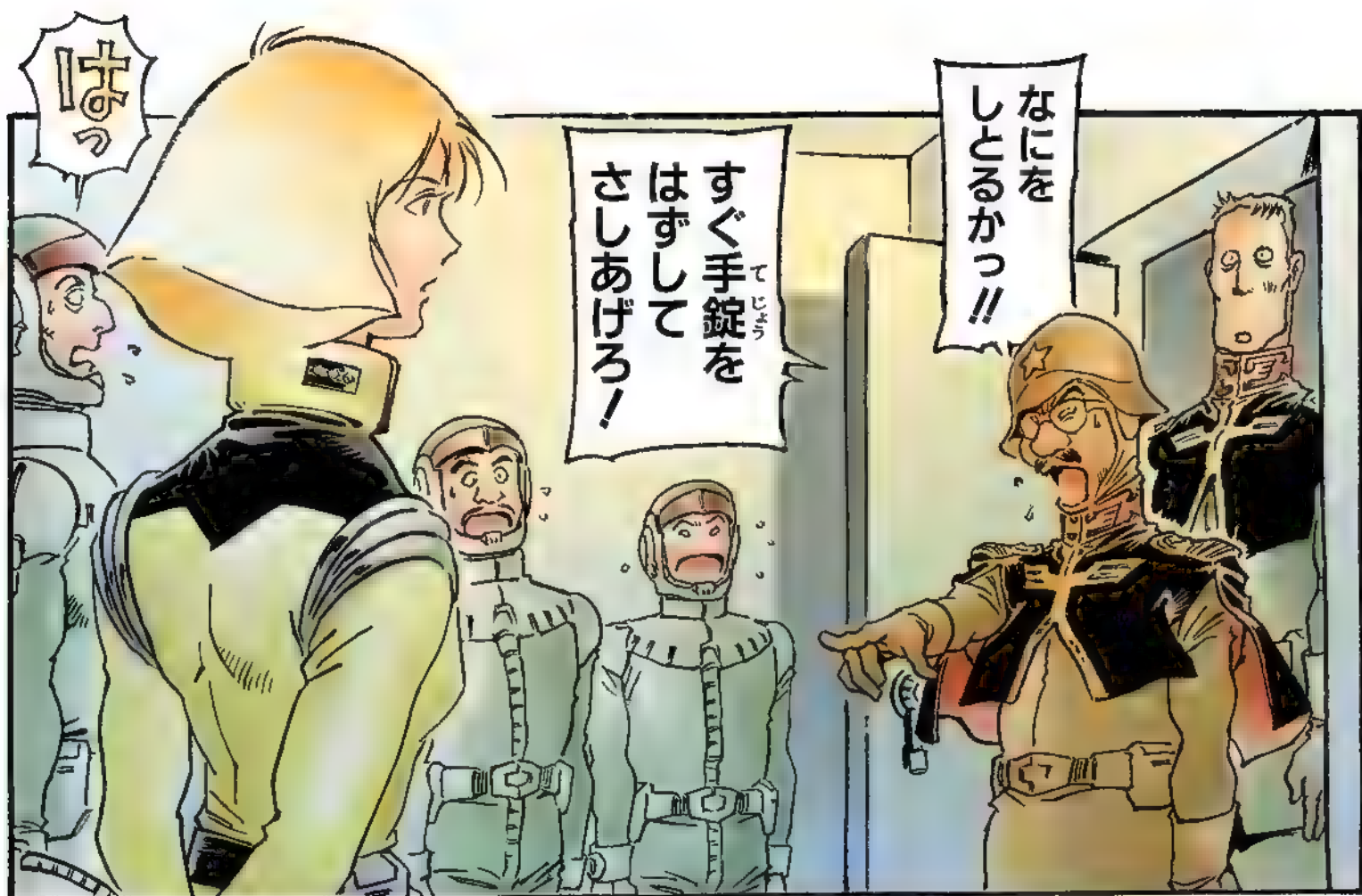
どうだった？
総帥閣下は
御興味がおありのようかな？

中尉っ きさま
たしかにこの件 誰にもまだ 言ってはいない のだなっ?!!
上等だ よしっ!
じゃ オレを その人の 所へ つれて 行け!
え?
ぬ?!
あの… 結局 どういう ことに?
ねえ 大尉
あ、痛い イタイ イタイ
……
3012

よぉし
あとは白兵戦だ!!
ここは断じて
通すなあああ

37

ズヴヴヴゥゥーン…
ガツ
ドン!
ドン!
カチ
ガチャ!

ばっ!!
アルテイシア様にはうるわしく御機嫌っ!
司令部付警護中隊をお預かりしております
ドノバン・マトグロス大尉であります!!
若い頃にはランバ・ラル様にかわいがられました

なにをしとるかっ!!
すぐ手錠をはずしてさしあげろ!
はっ
信じられません
どういう奇跡なのでしょう
これは…
…………
ラル様が生きてこの場におられたら
どんなにかお喜びだったでしょうに…
このランバ・ラルおじさんはね
なんだってできるんです

アルテイシア様お忘れか!?
あなたの父上ジオン・ダイクン様にお仕えした……
ザッザッザッザッ
ザッザッ

ダッ
ダッ
ダッ
ドロスから陸戦隊が続々繰り込んで来ている！
増援ではないな――
武力制圧だ！
決まってる!!
クーデターだこれは！
キシリア派の！
くそっこんな時に！

"アルテイシア様"だって？
なんだ？どうなっているんだ?!
ギレン総帥はホントに殺されたのか？

誰か説明してくれ！
中隊長！
まてっ
ガヤ
ガヤ
もうじき説明がある！

ガヤガヤ
ザワ‥

中尉…

ボサっとしておらんで
キサマも手勢を集めんかぁっ!!

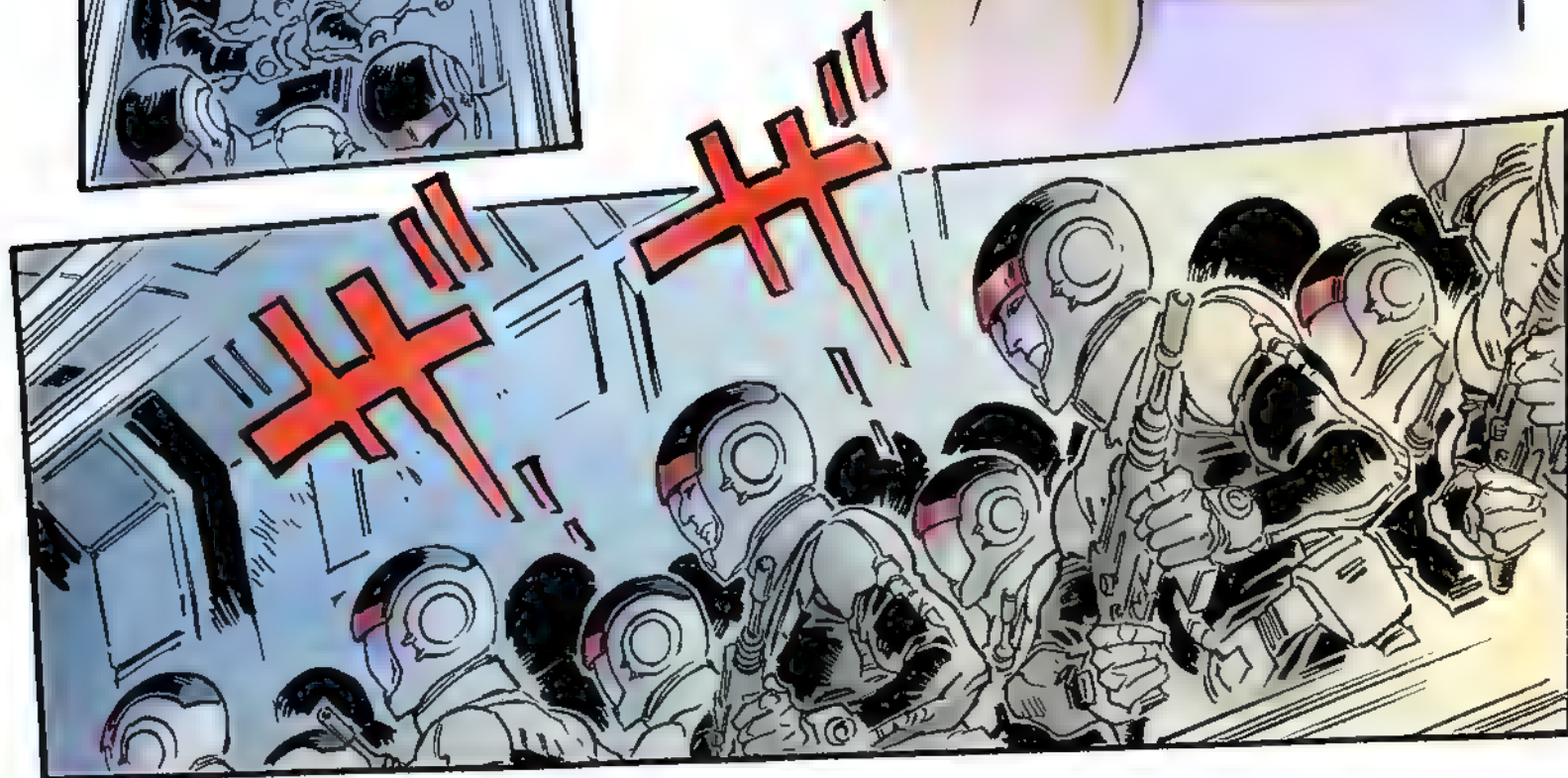
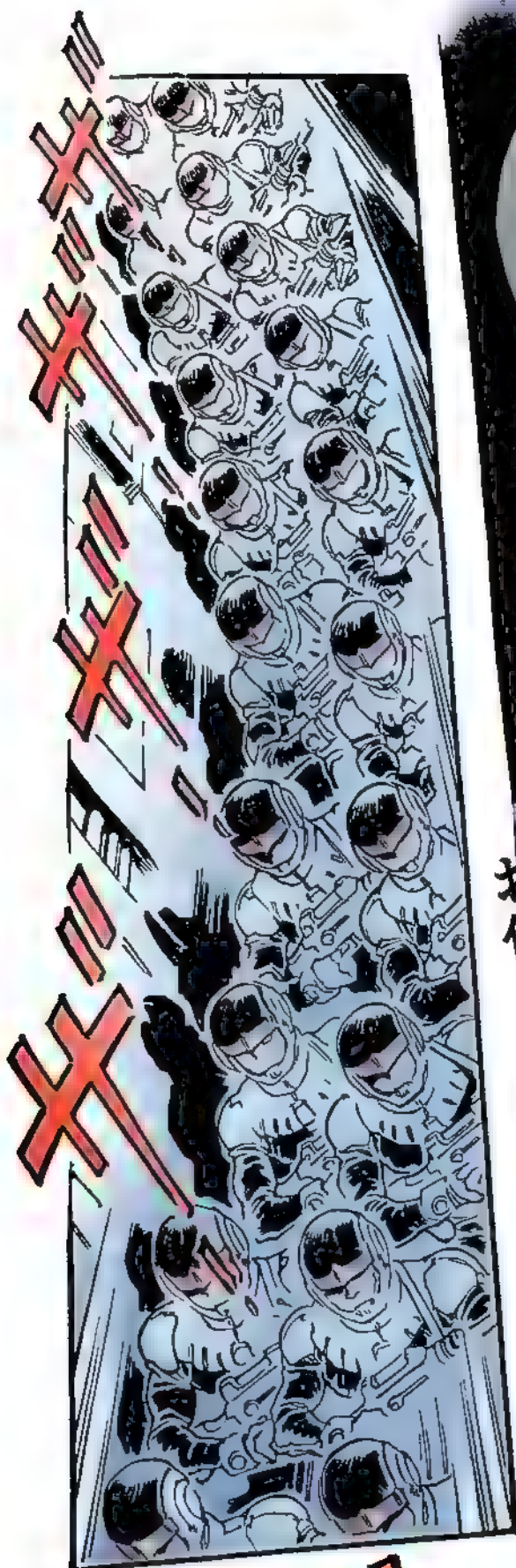
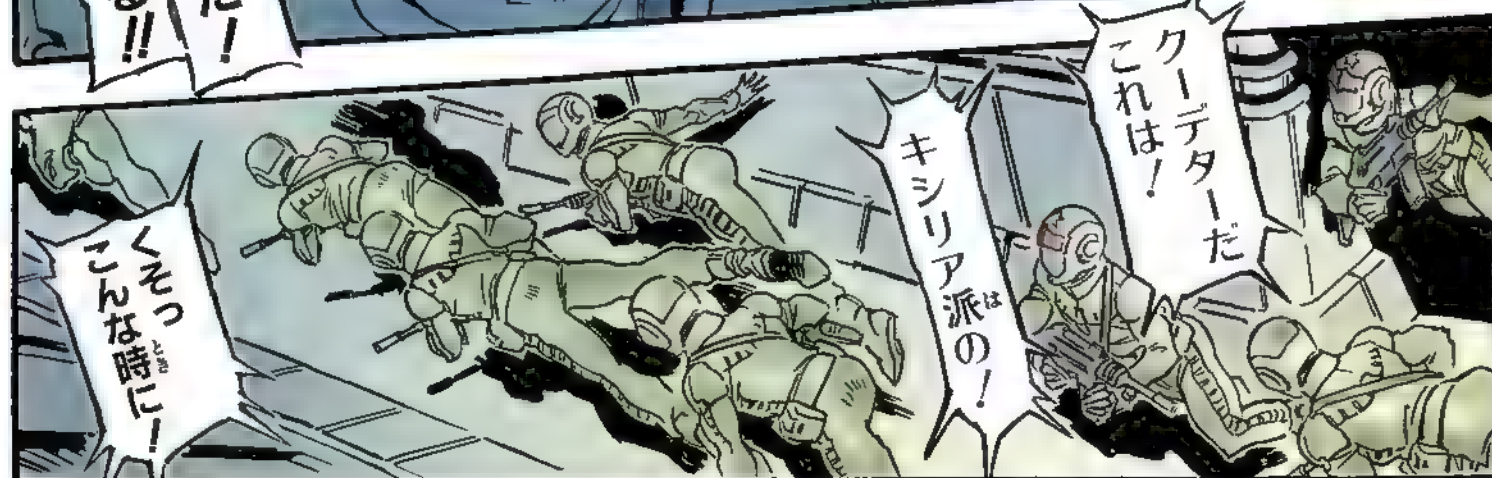
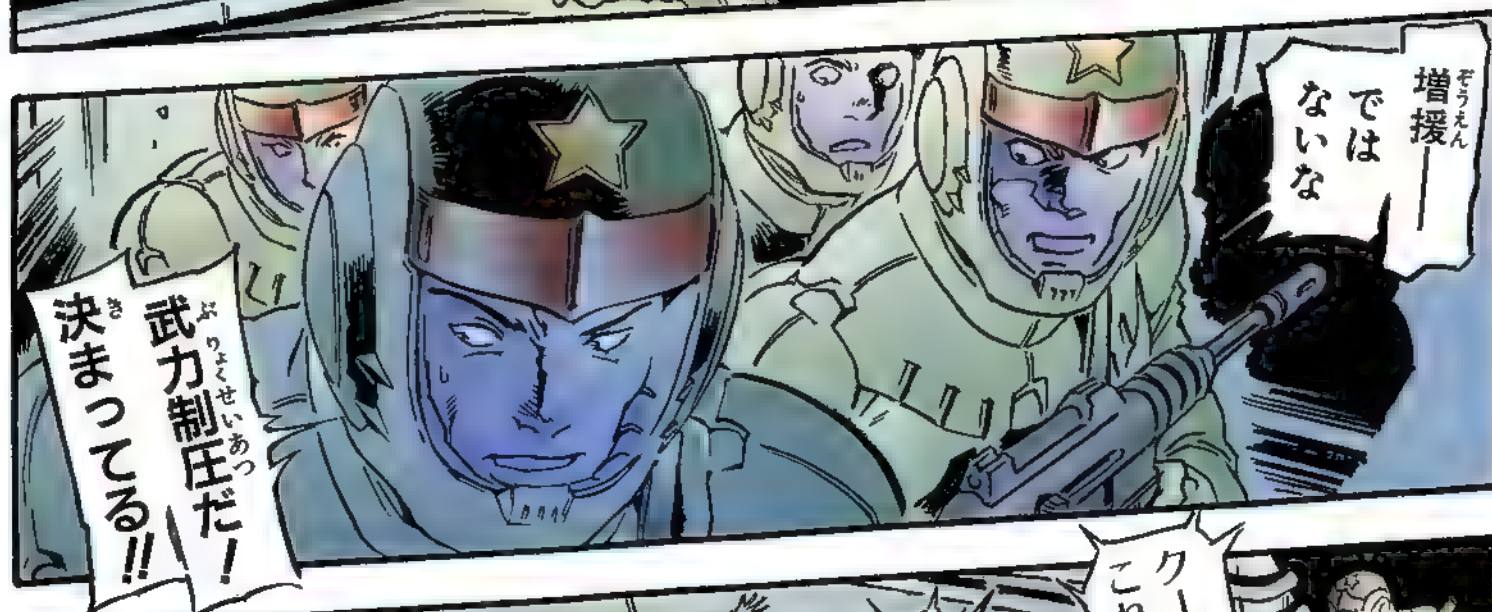
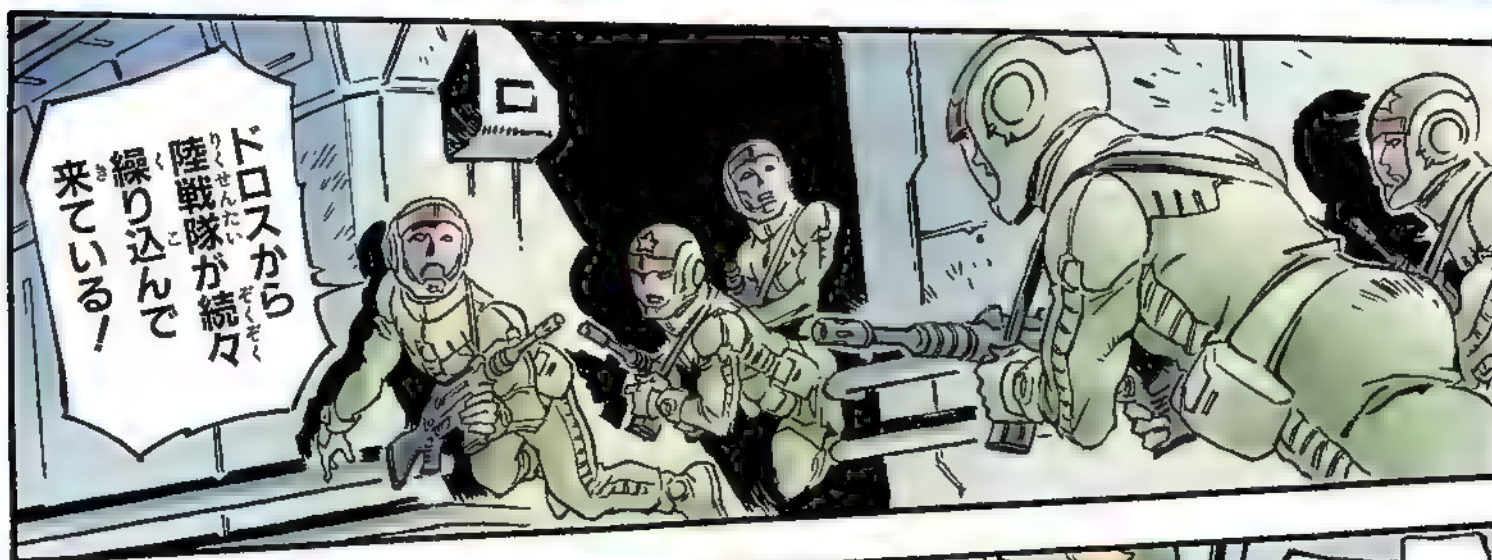
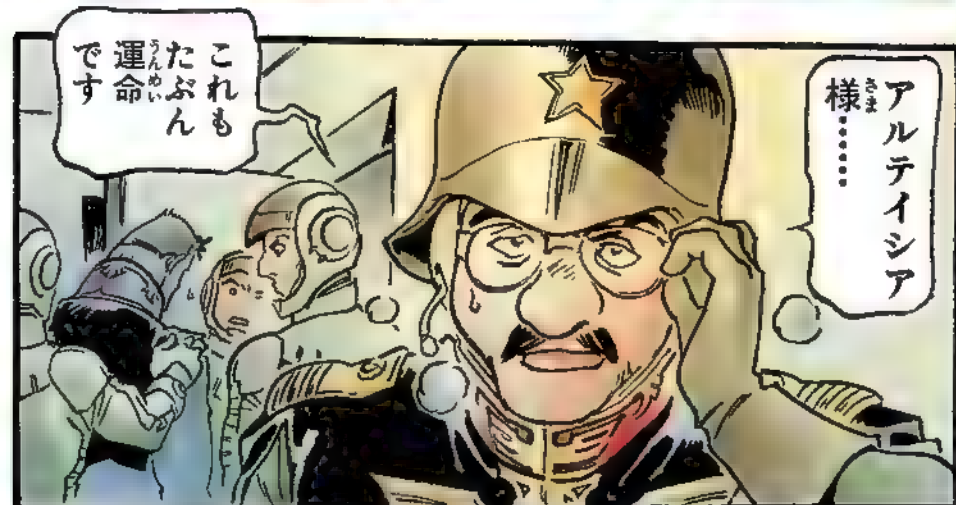
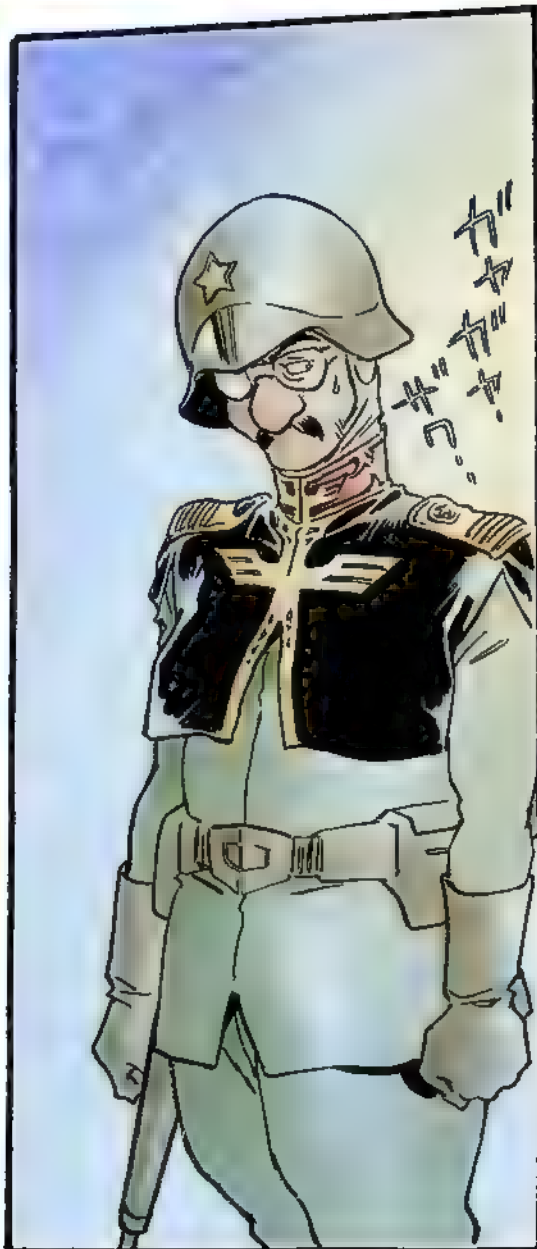
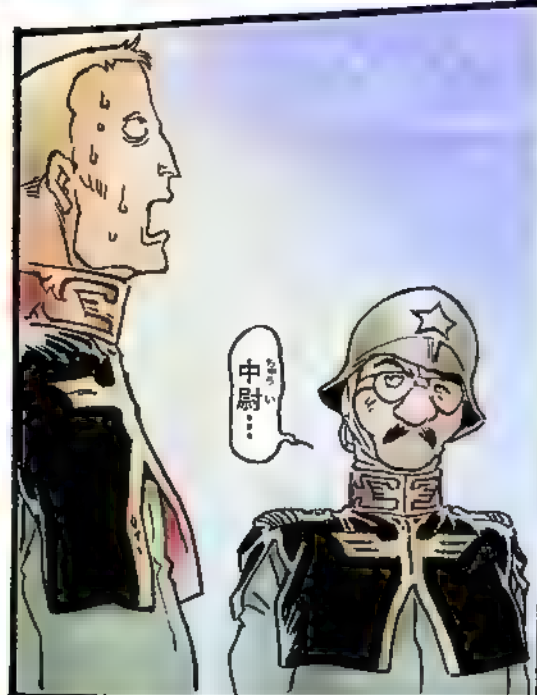
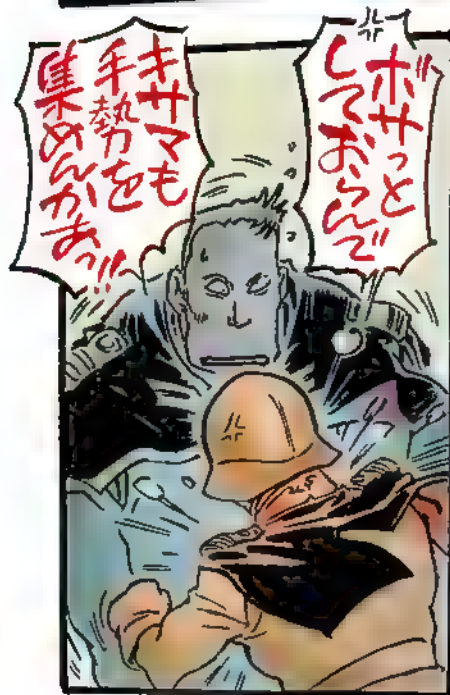
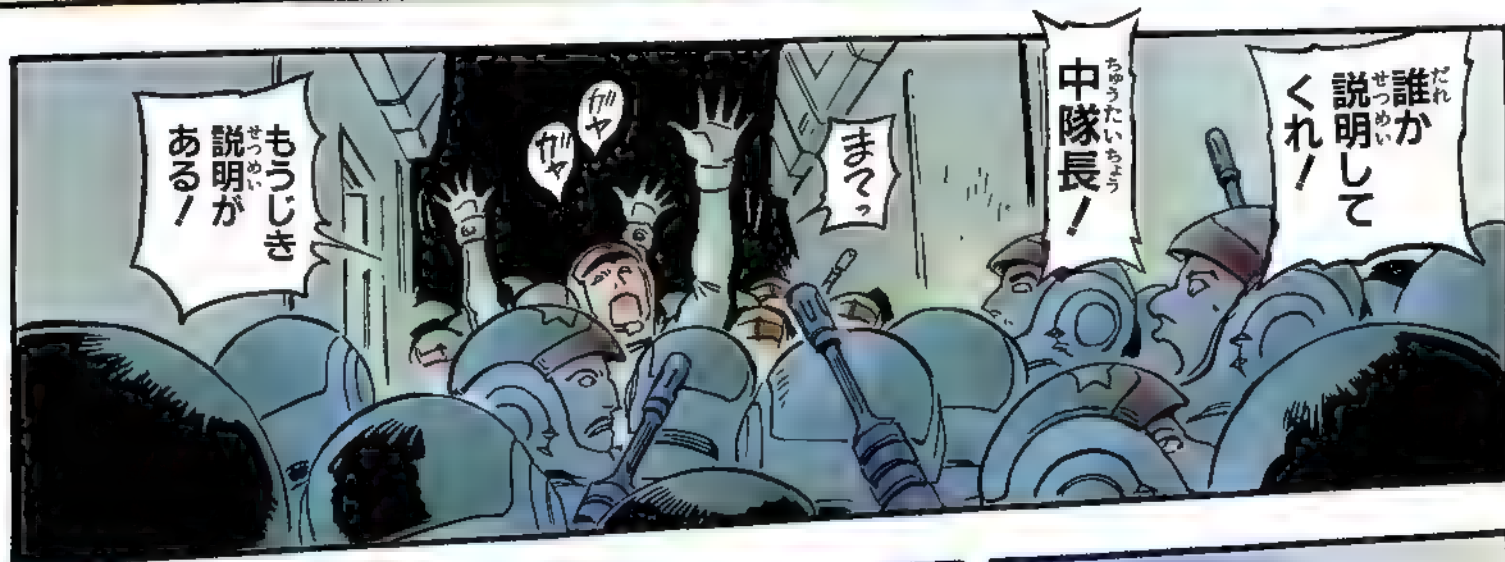
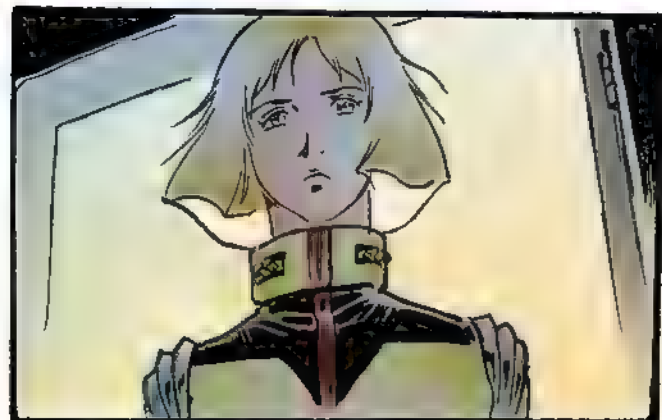
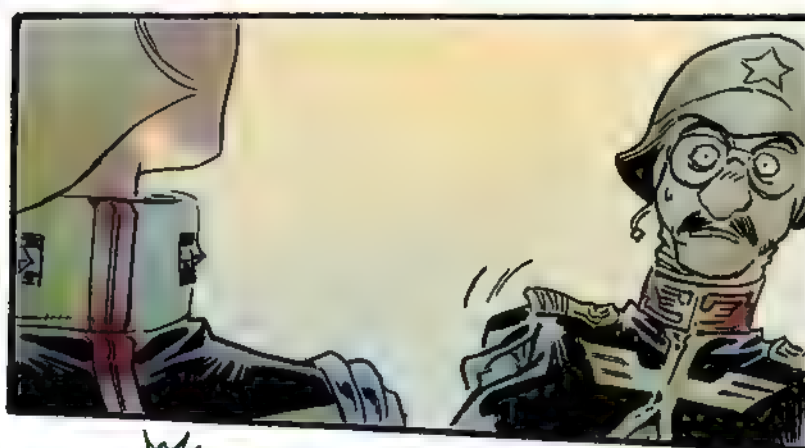
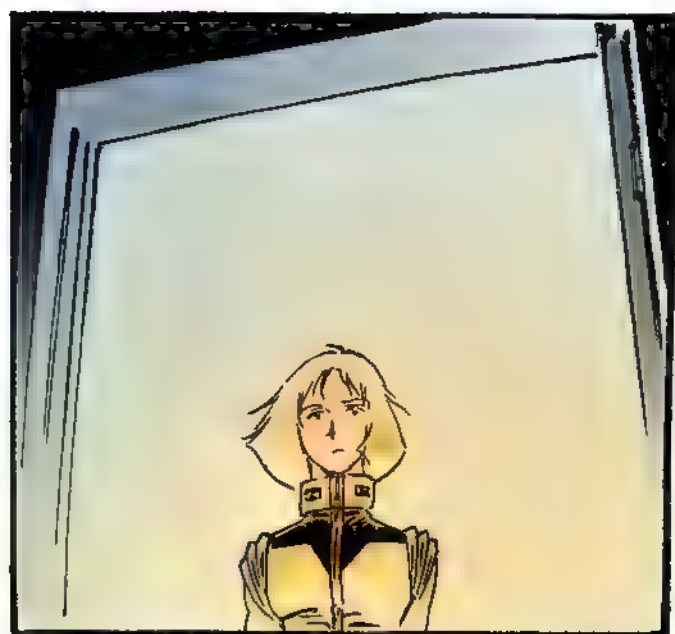
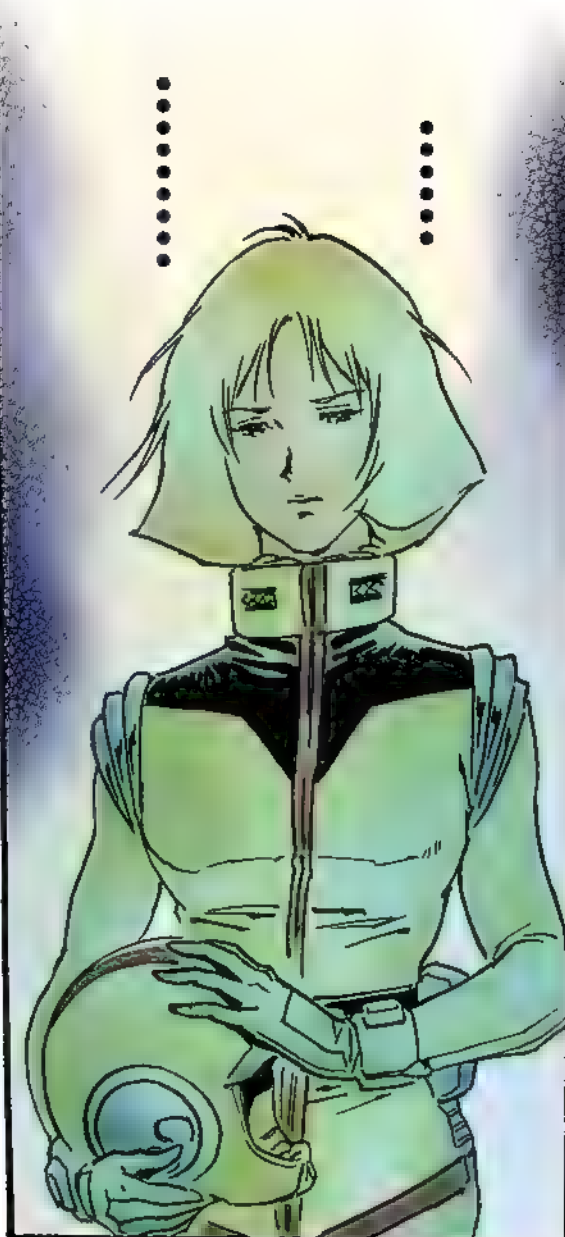
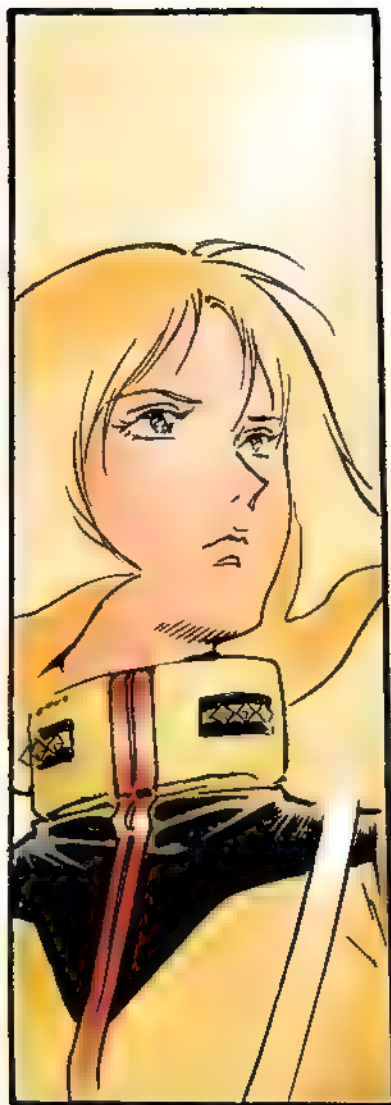
アルテイシア様……
これもたぶん運命です

受け容れて
ください

あなたの御名前の下で
戦わせて下さい！

……
……

!!

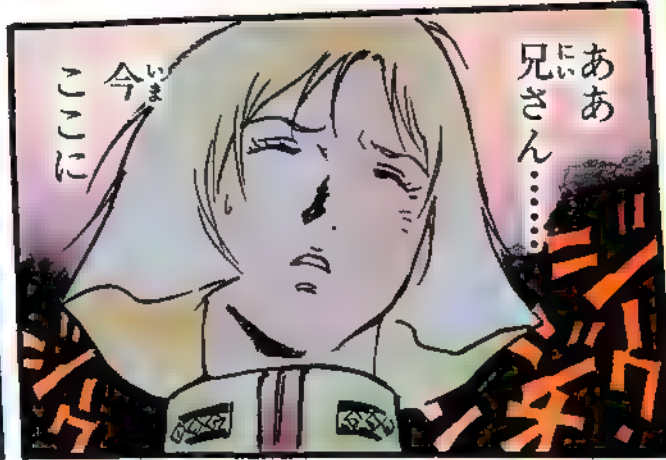
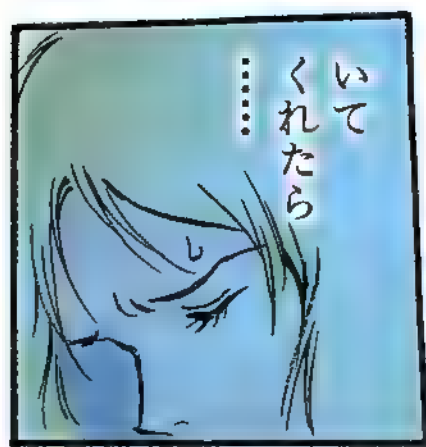
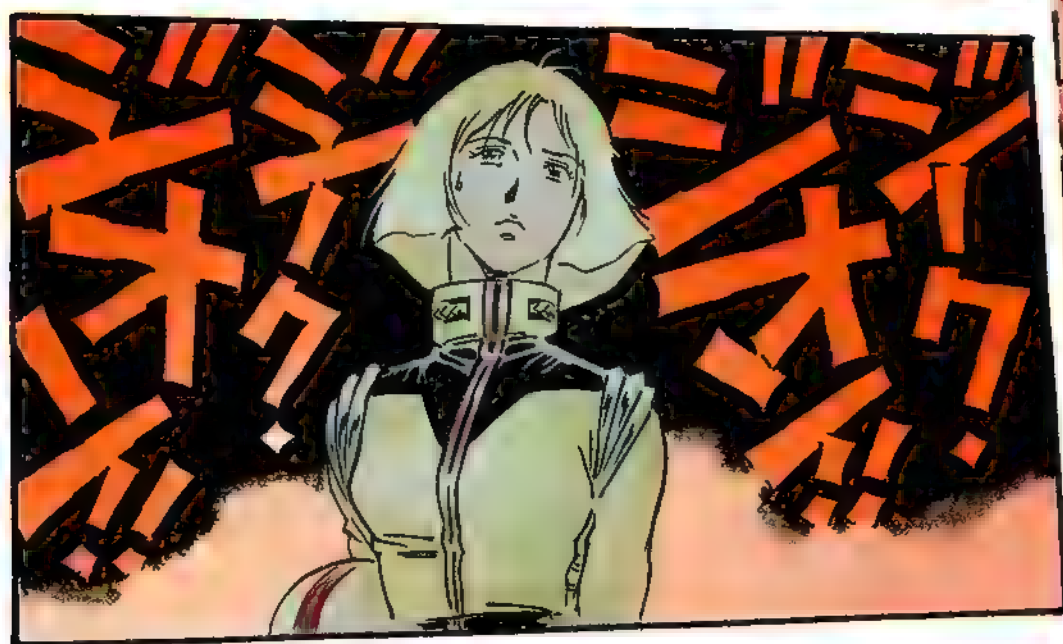
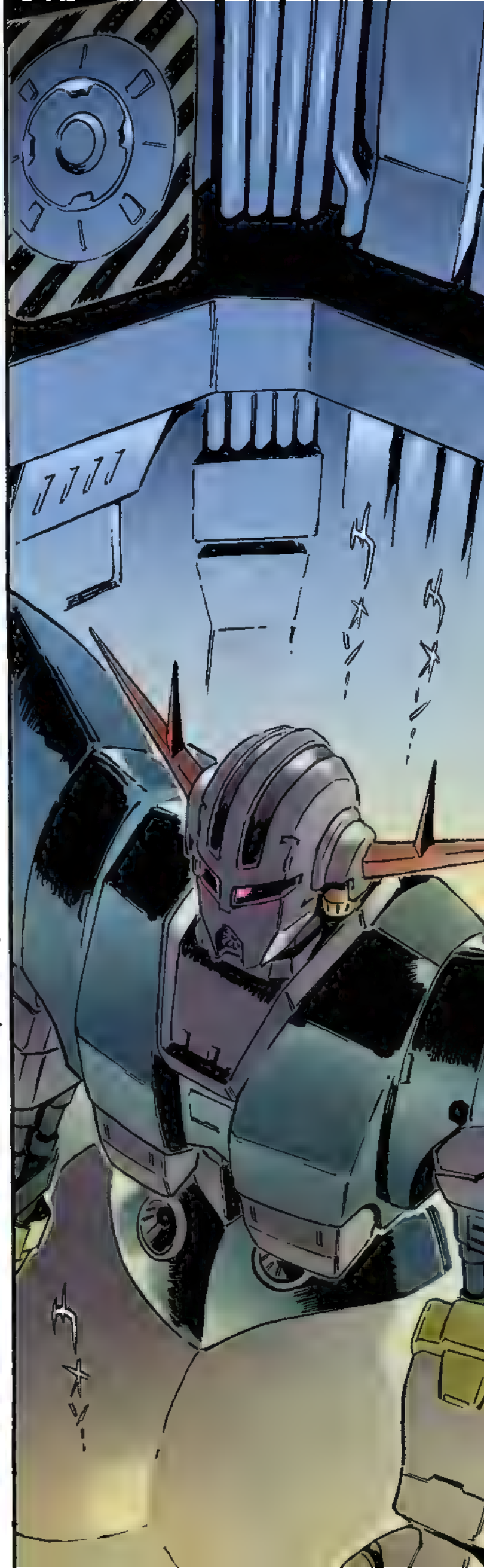
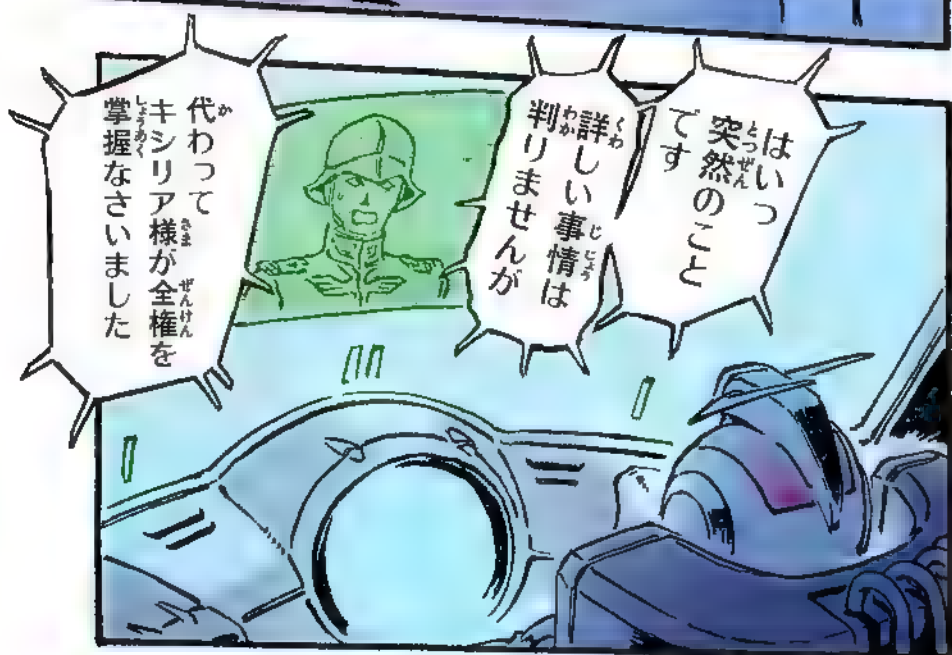
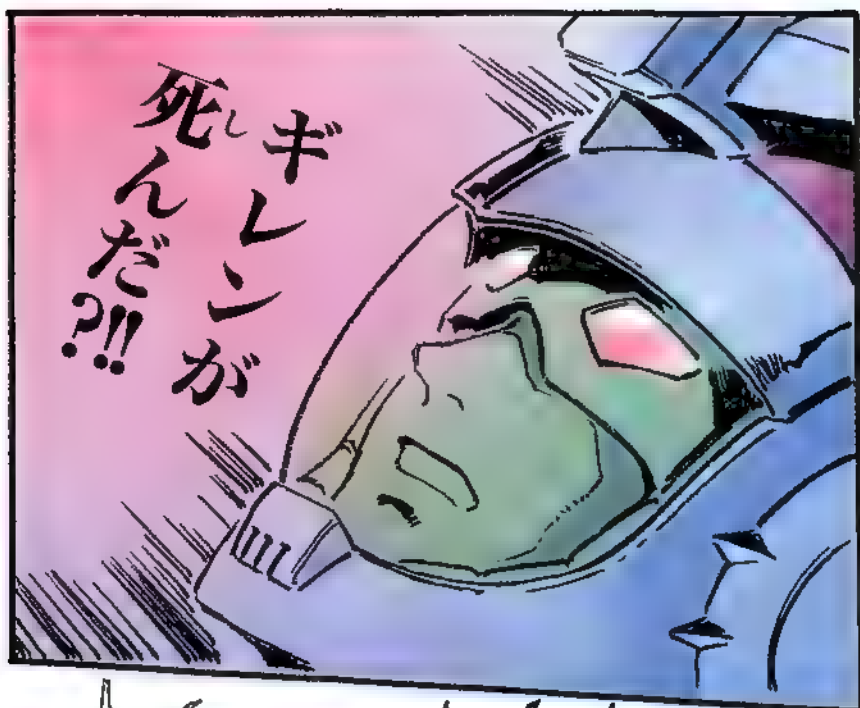
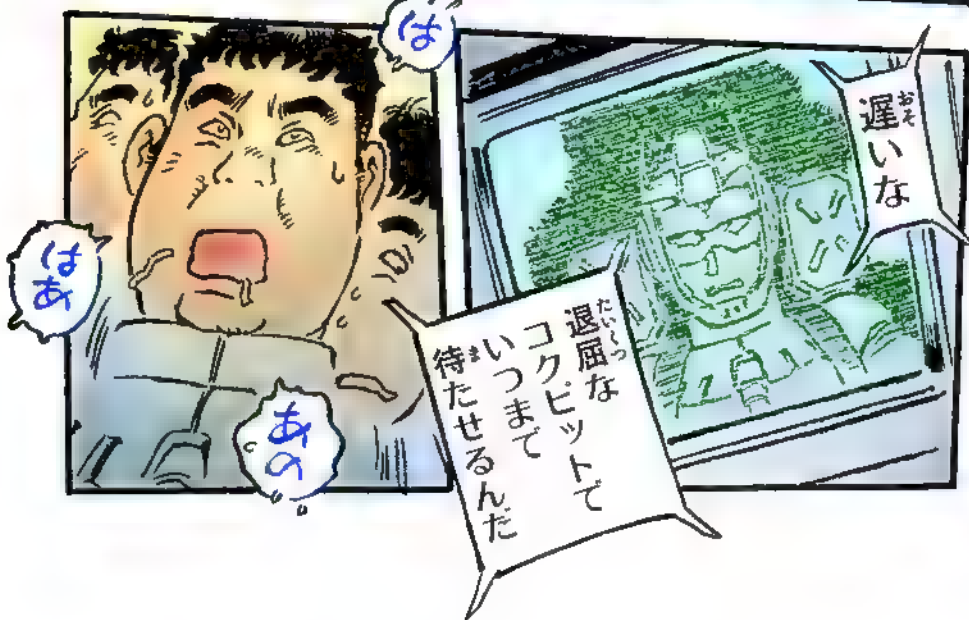
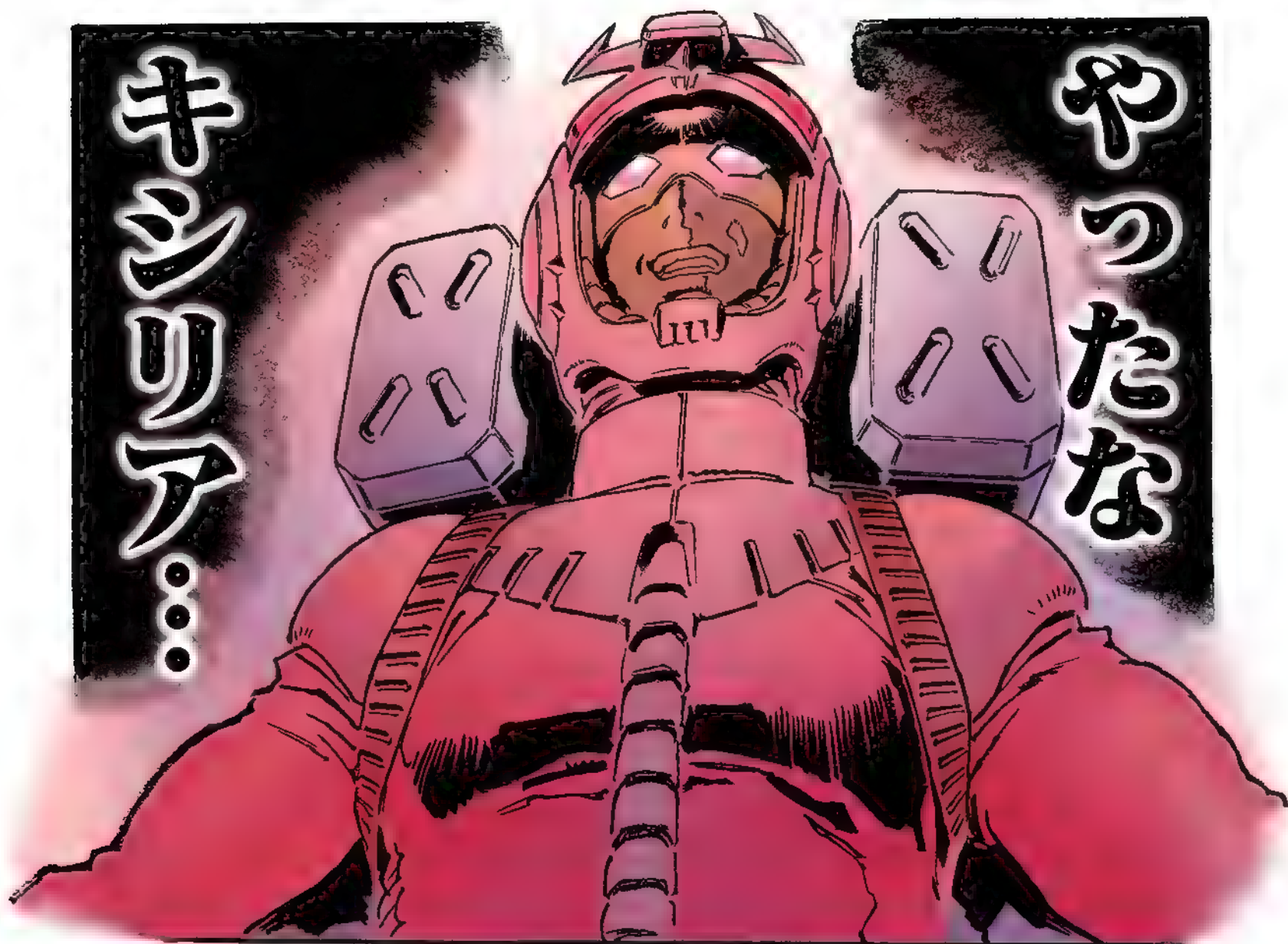
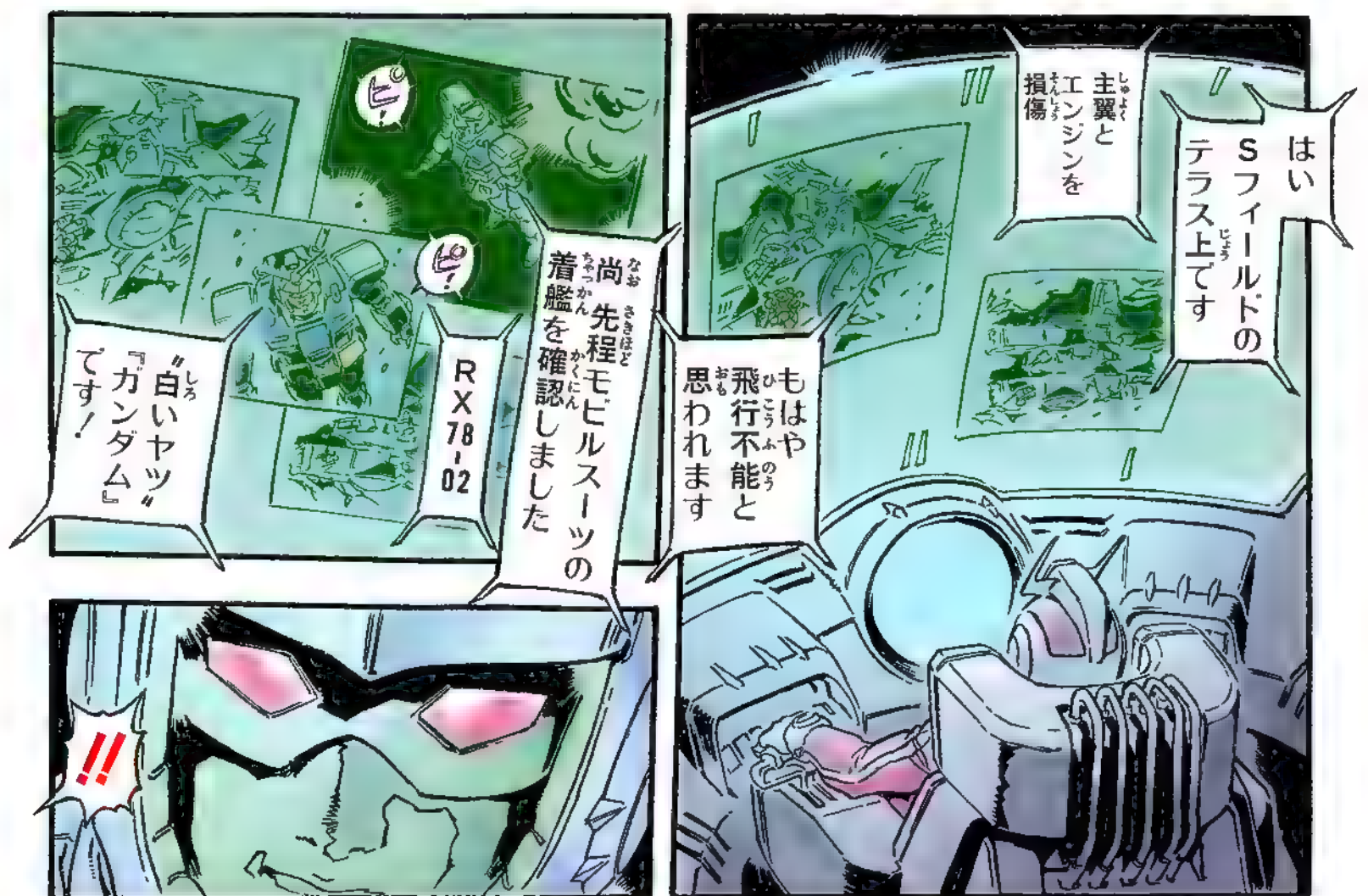
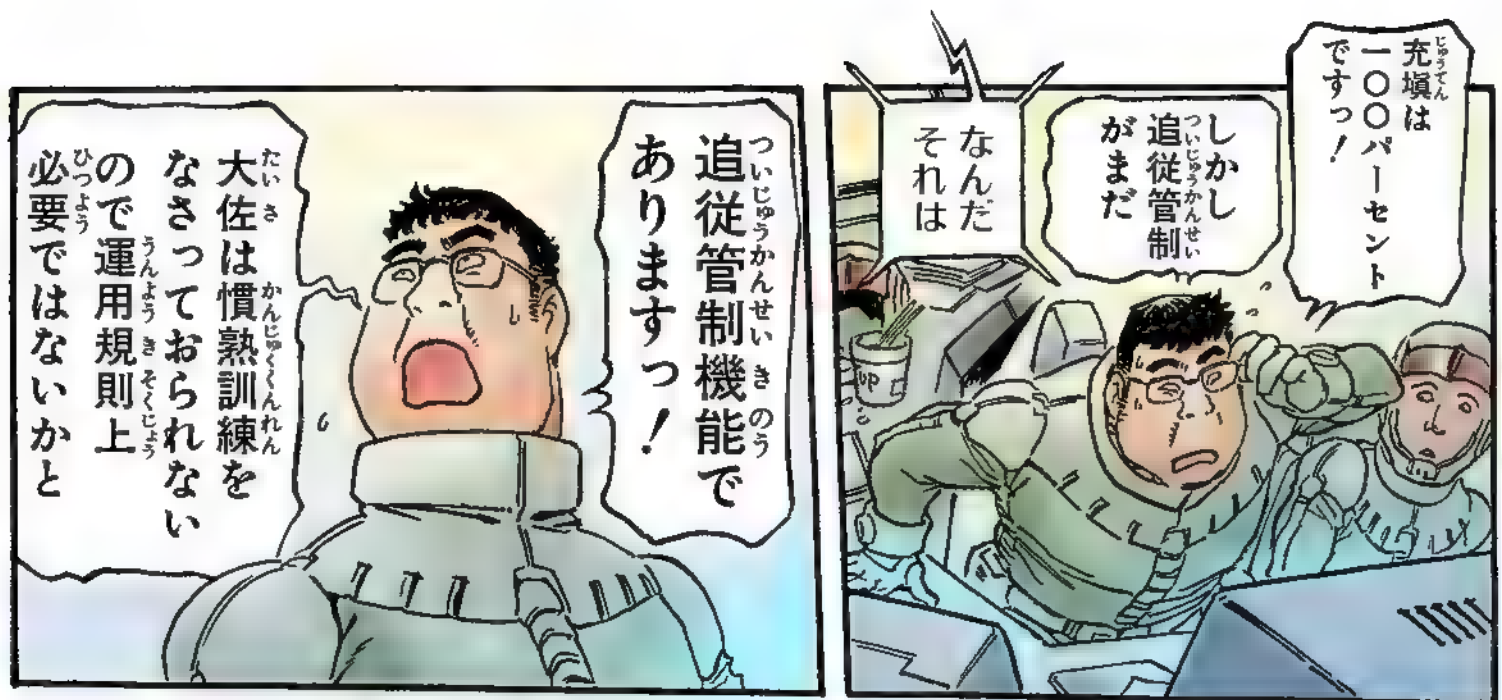
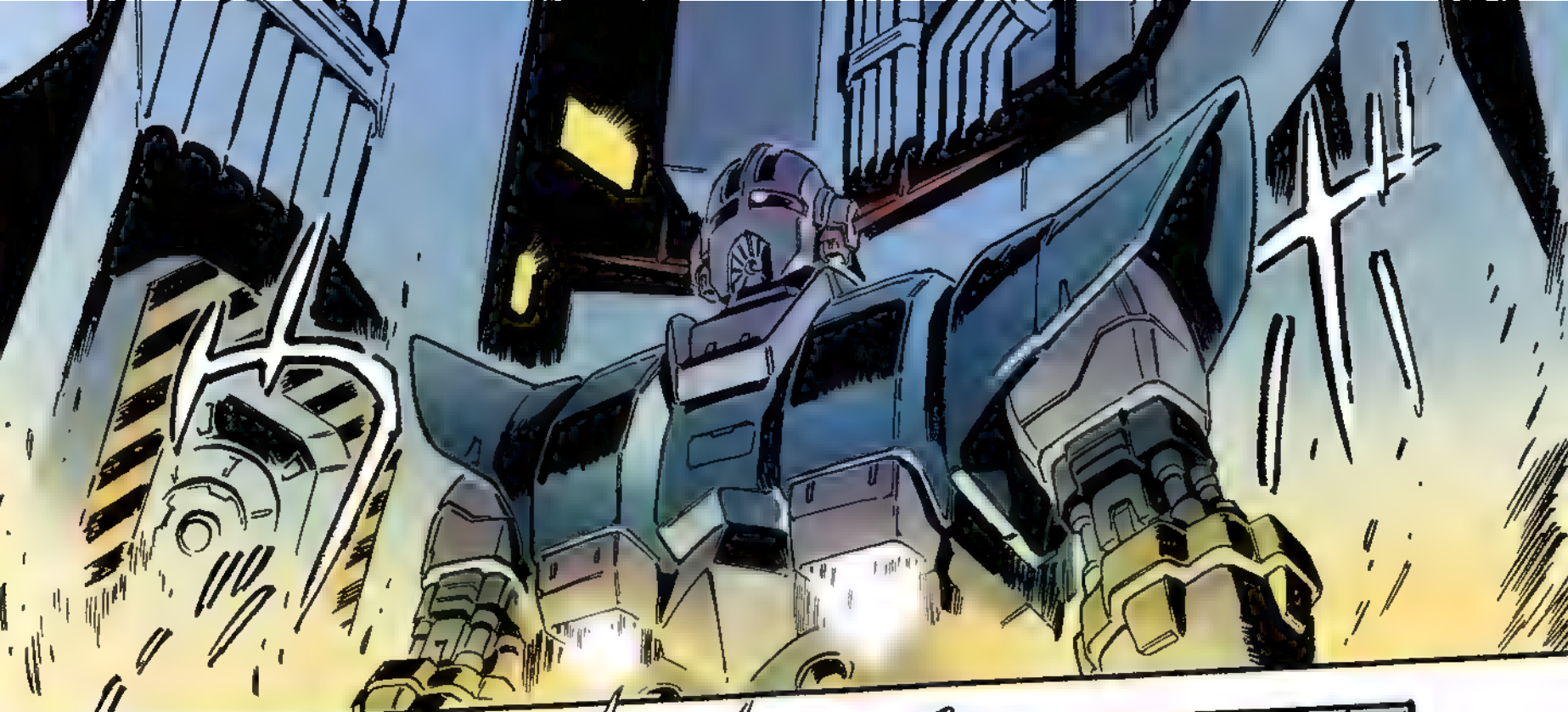
おおお

アルテイシア・ソム・ダイクン
ジオン・ダイクンの娘……
生きていたのか……
生きていたの…なら
もおおザビ家は…
ザビ家じゃなくジオンは…
ジ…ジ……
ジーク・ジオン
ジーク・ジオン
ジーク・ジオン!!
ジーク・ジオン!!
ああ兄さん……
今ここに
いてくれたら……
ジーク・ジオン

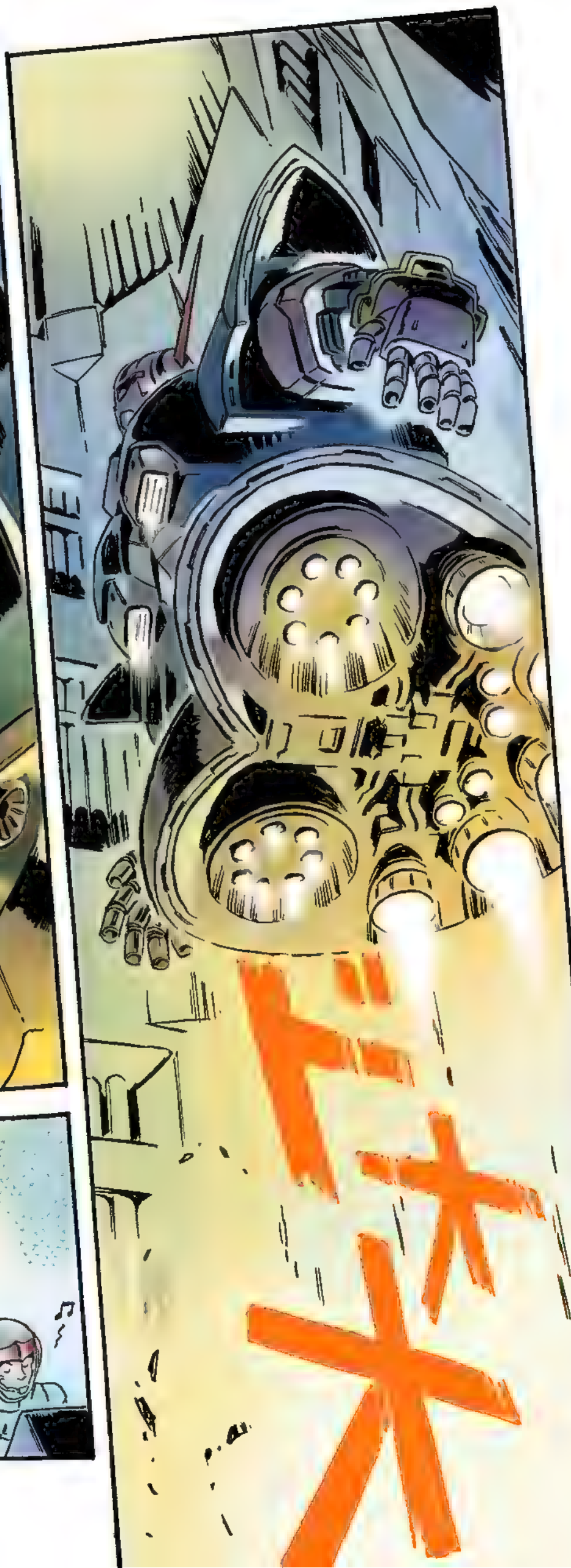
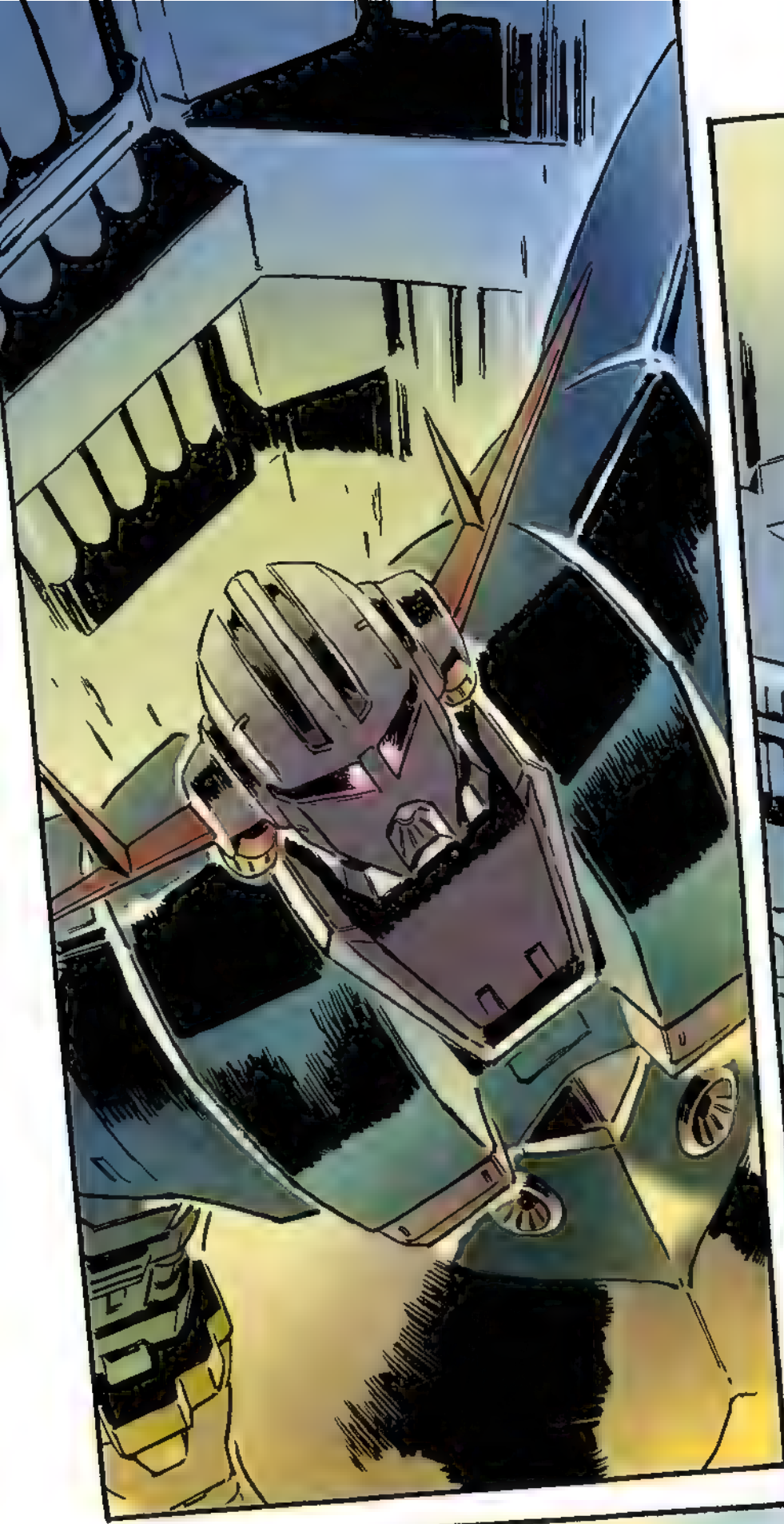
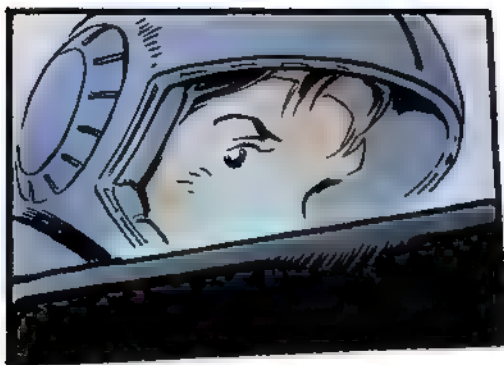
ギレンが死んだ?!!
はいっ 突然のことです
詳しい事情は判りませんが
代わって キシリア様が全権を掌握なさいました
大佐殿は やはり出撃なさいますか?
大佐殿! 大佐
プッ
ウォォン…
ウォン…
ウォン…

やったな
キシリア…

技術将校!!

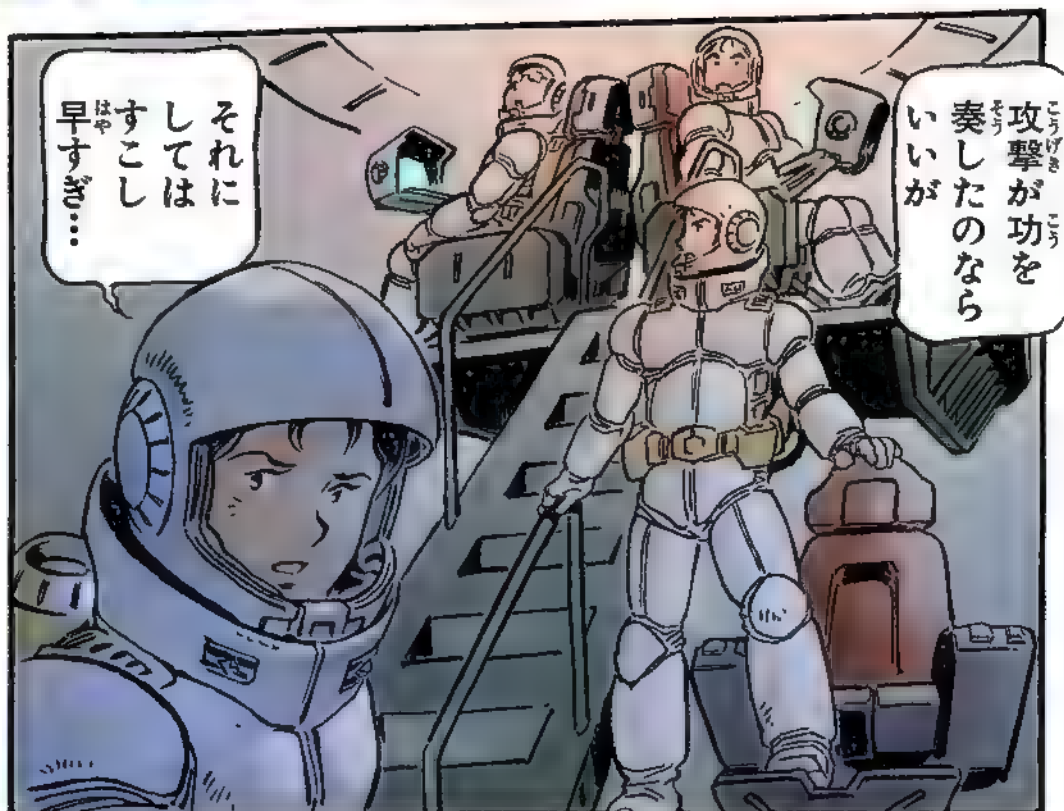
はっ
なんでありますか大佐殿!
エネルギー充填はまだか?!

遅いな
退屈なコクピットでいつまで待たせるんだ
はっ
はあ
あの

※CDC：戦闘指揮所。 Combat Direction Center の略。

大佐殿!
本機は脚部が無い為AMBACシステムが機能しませんから
バーニアの操作が少々面倒です! でも大佐殿なら
“脚なんて飾り”じゃなかったのか?
そ そうですが
いちおう
技術将校
君のモノ言いは面白い
名前はなんだ?
はっ
サキオカ少尉でありますっ
「サキオカ」だな?
憶えておく!

ドオオ
なにか
気に障ってたの
かな……?

気のせいじゃなさそうね
さっきから砲火がすこし…

ん
下火になったようだ……

攻撃が功を奏したのならいいが
それにしてはすこし早すぎ…

ガンダムが換装のために帰艦しているのだったな?!

大きな損傷はなくて
再出撃に耐えられる
と言ってきています
アムロ君も
左舷デッキで
小休止中です

ちょっと
様子を
見てくるか
艦長!!

〝ギレン総帥が
死んだ〟という
交信が傍受され
ています!
それも
複数!

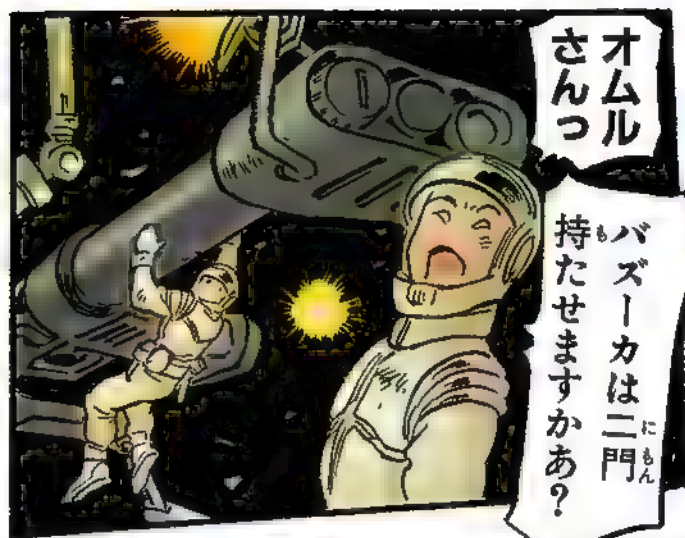
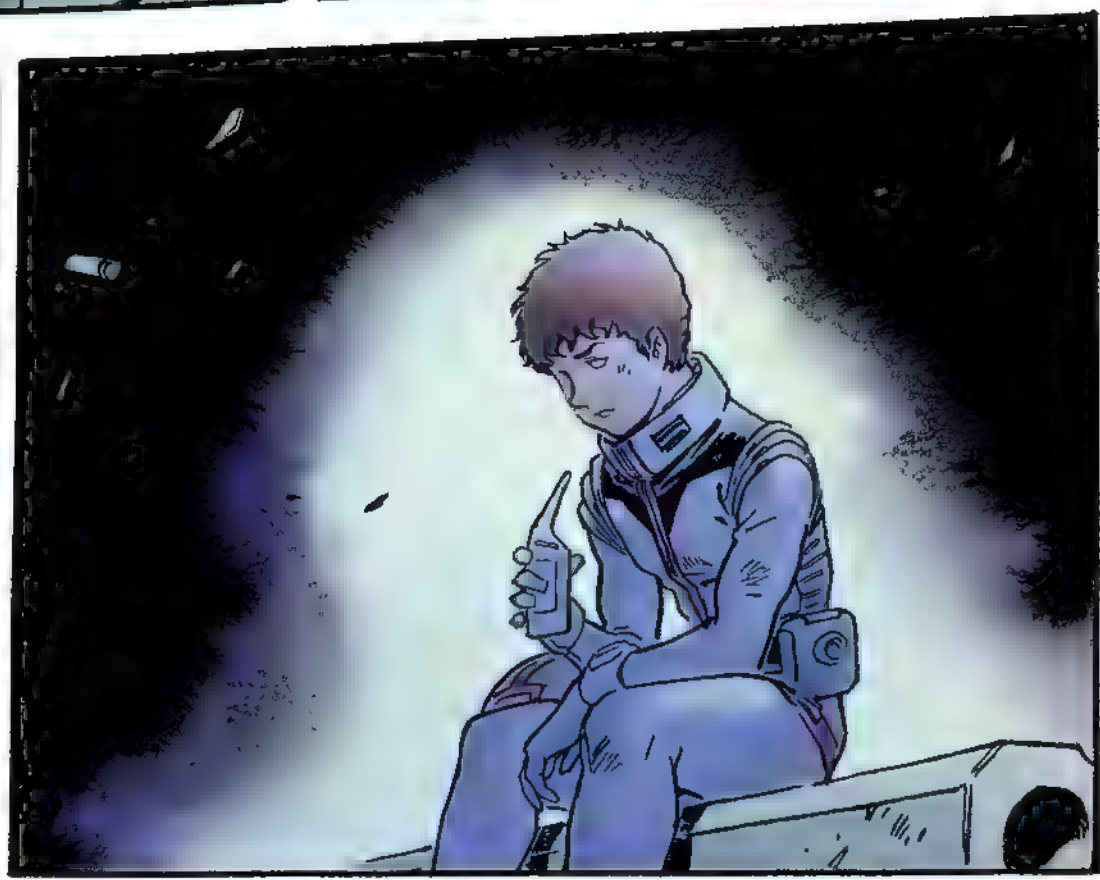
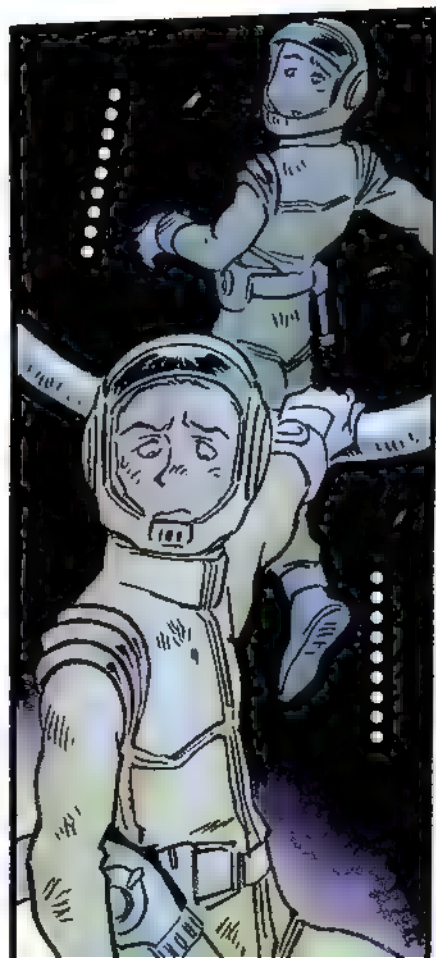
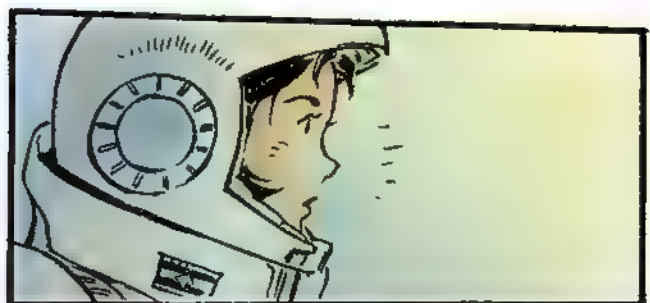
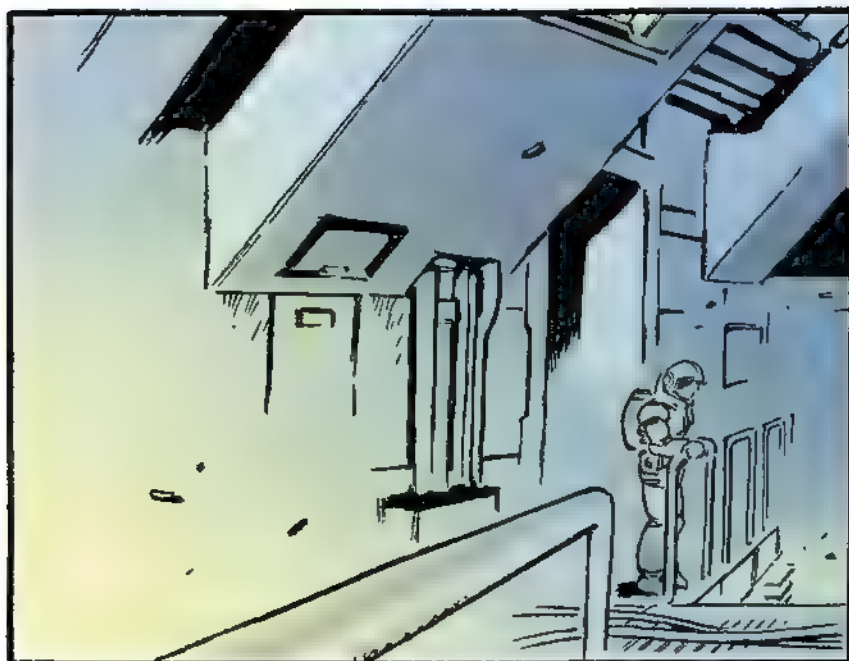
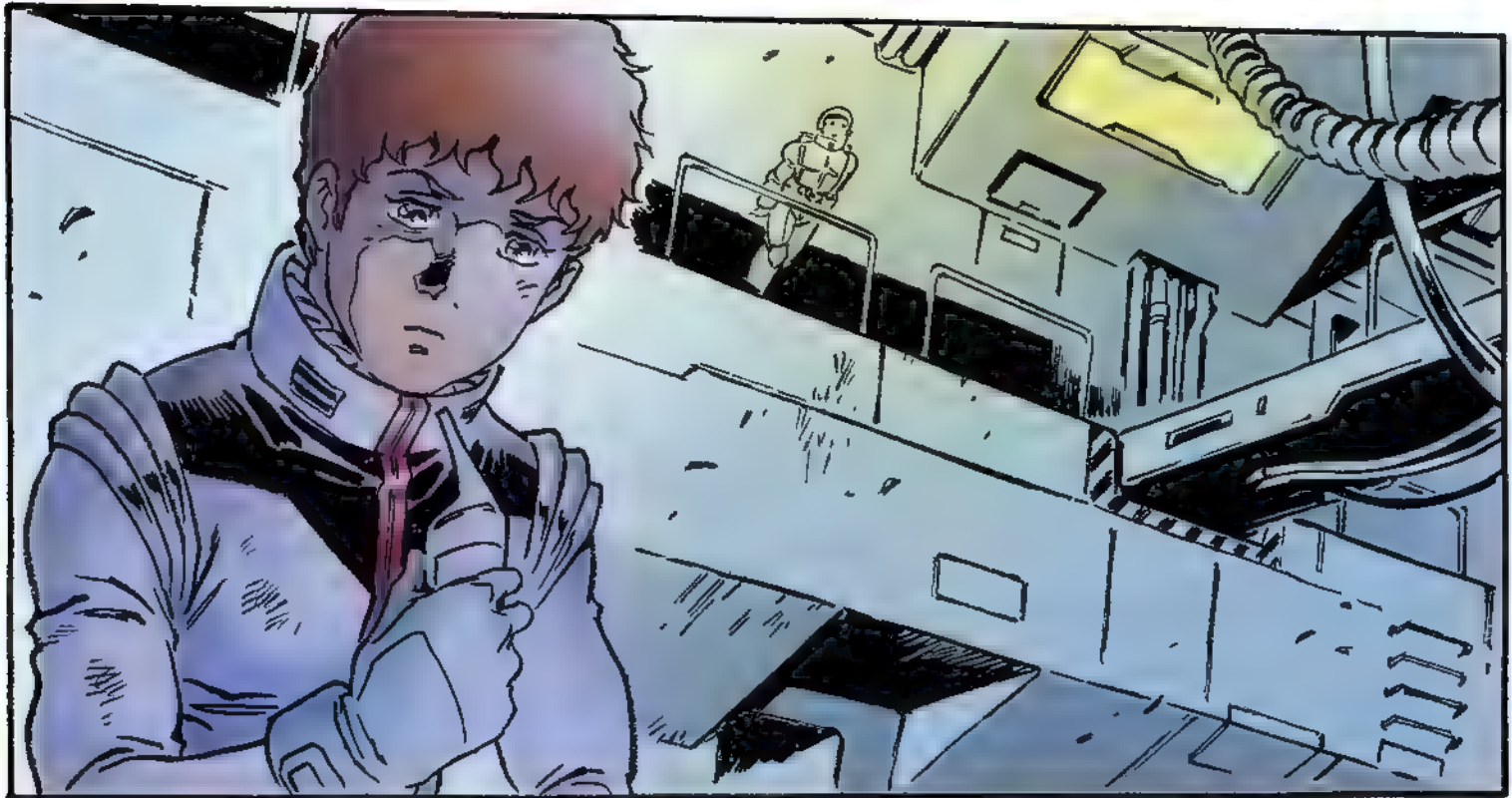
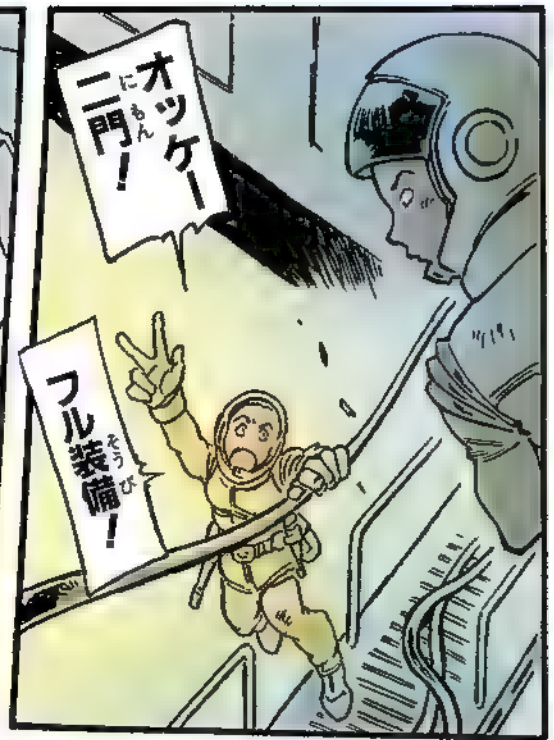
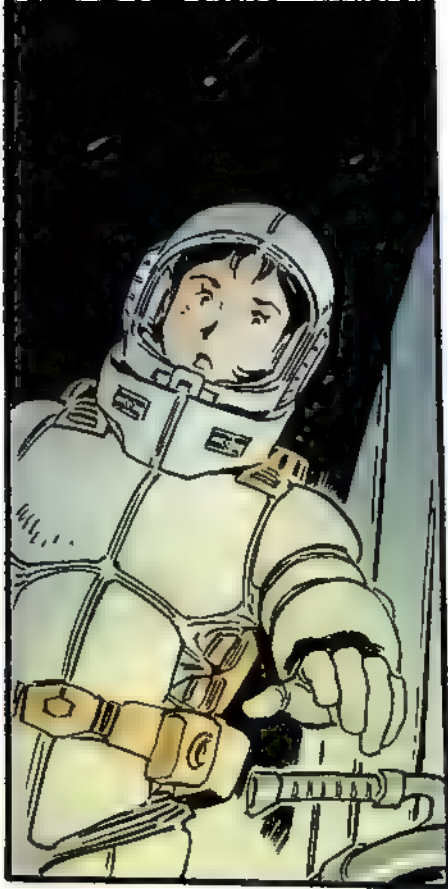
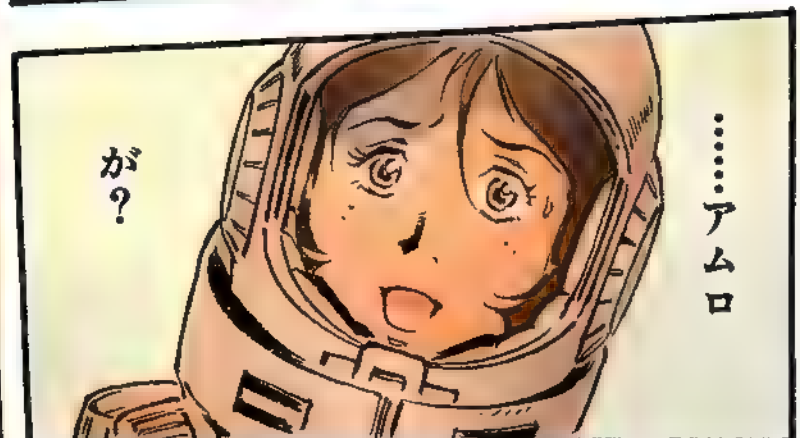
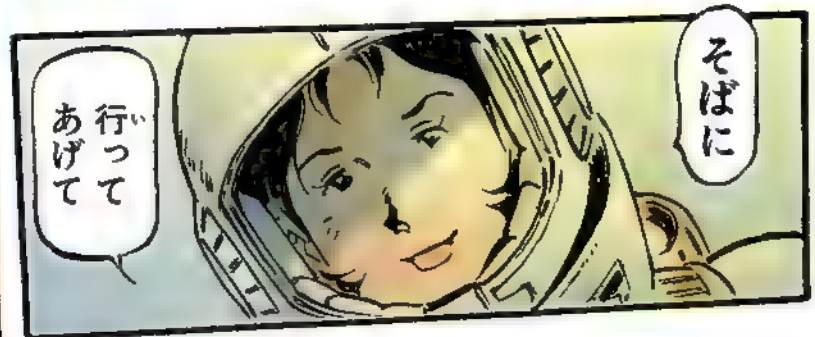
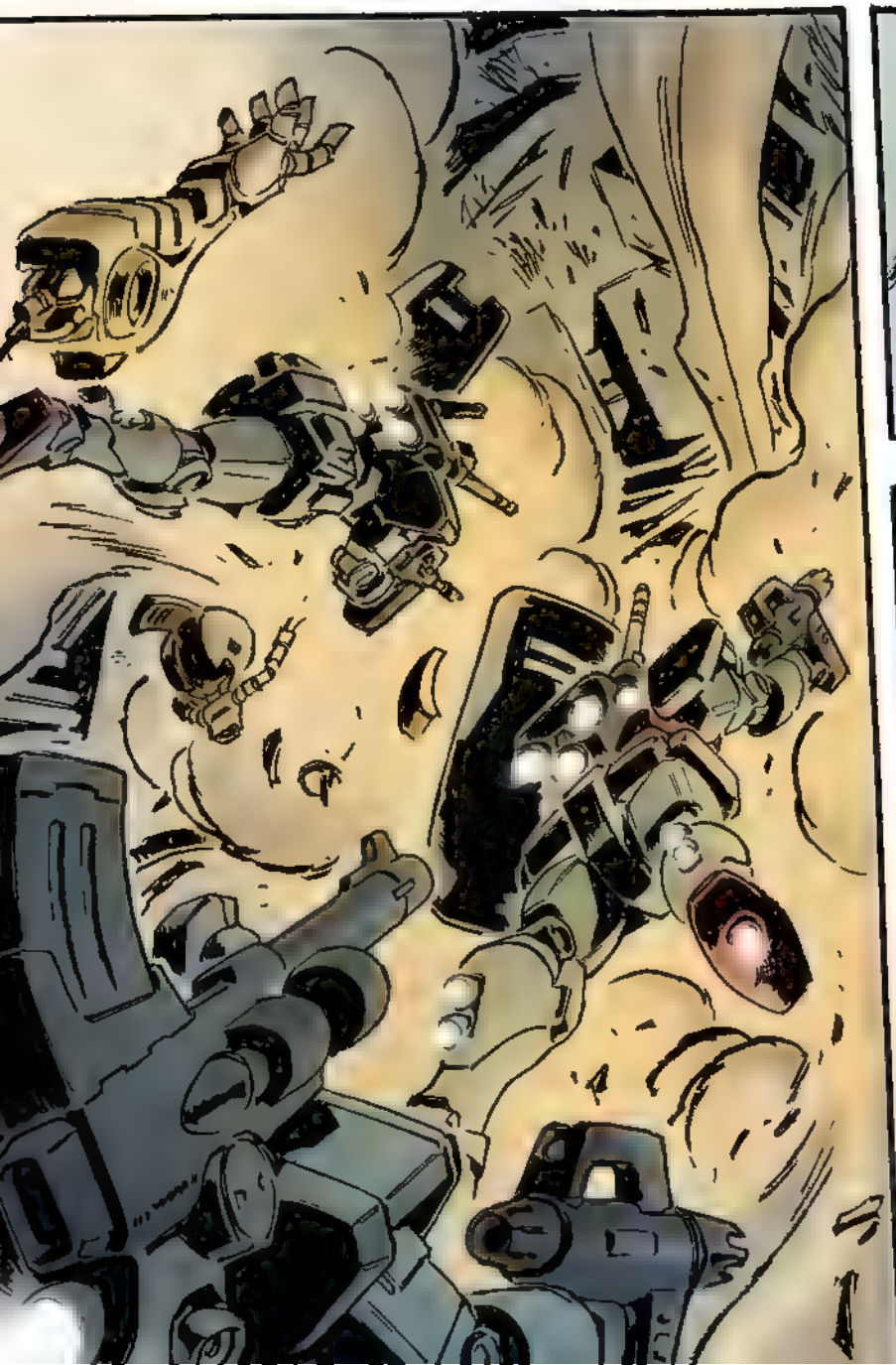
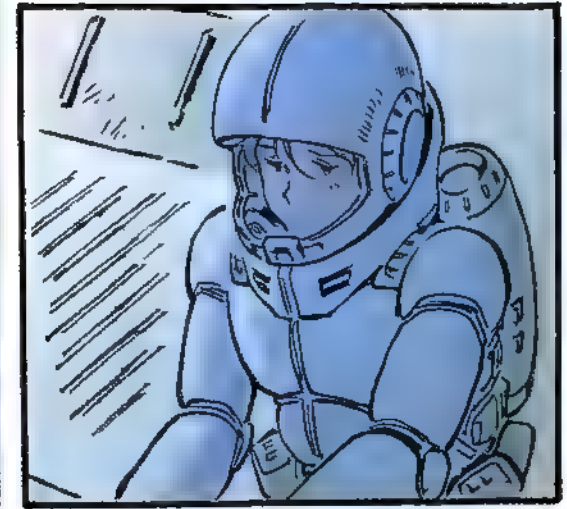
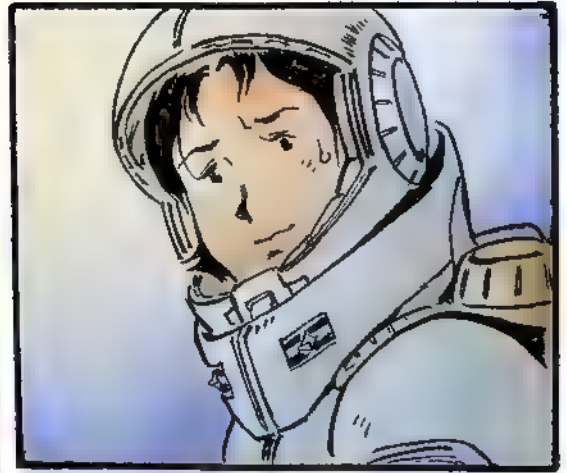
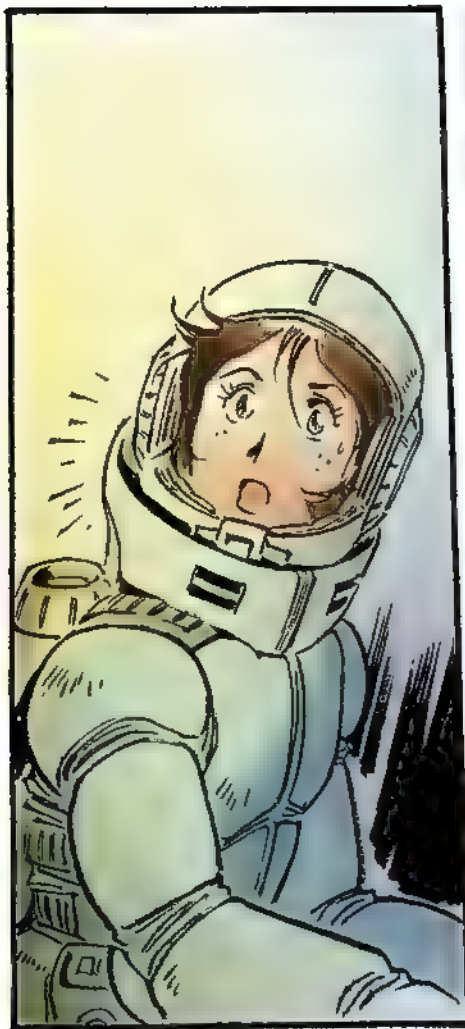
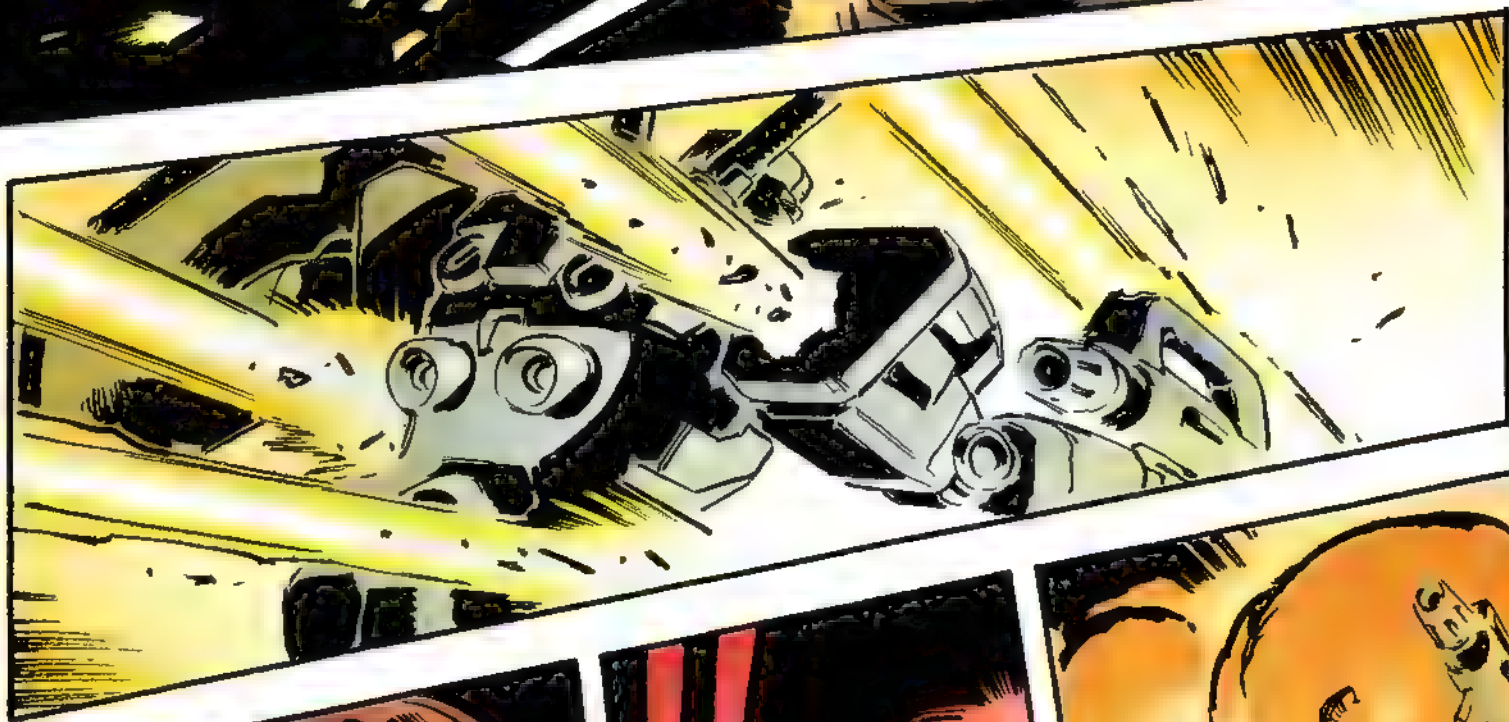
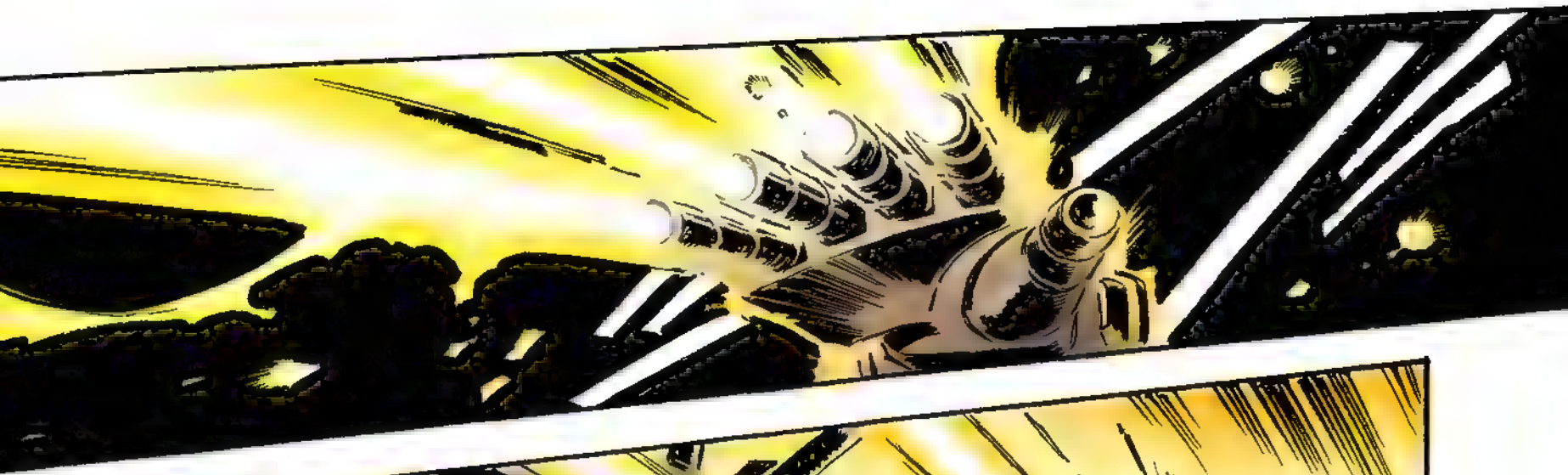
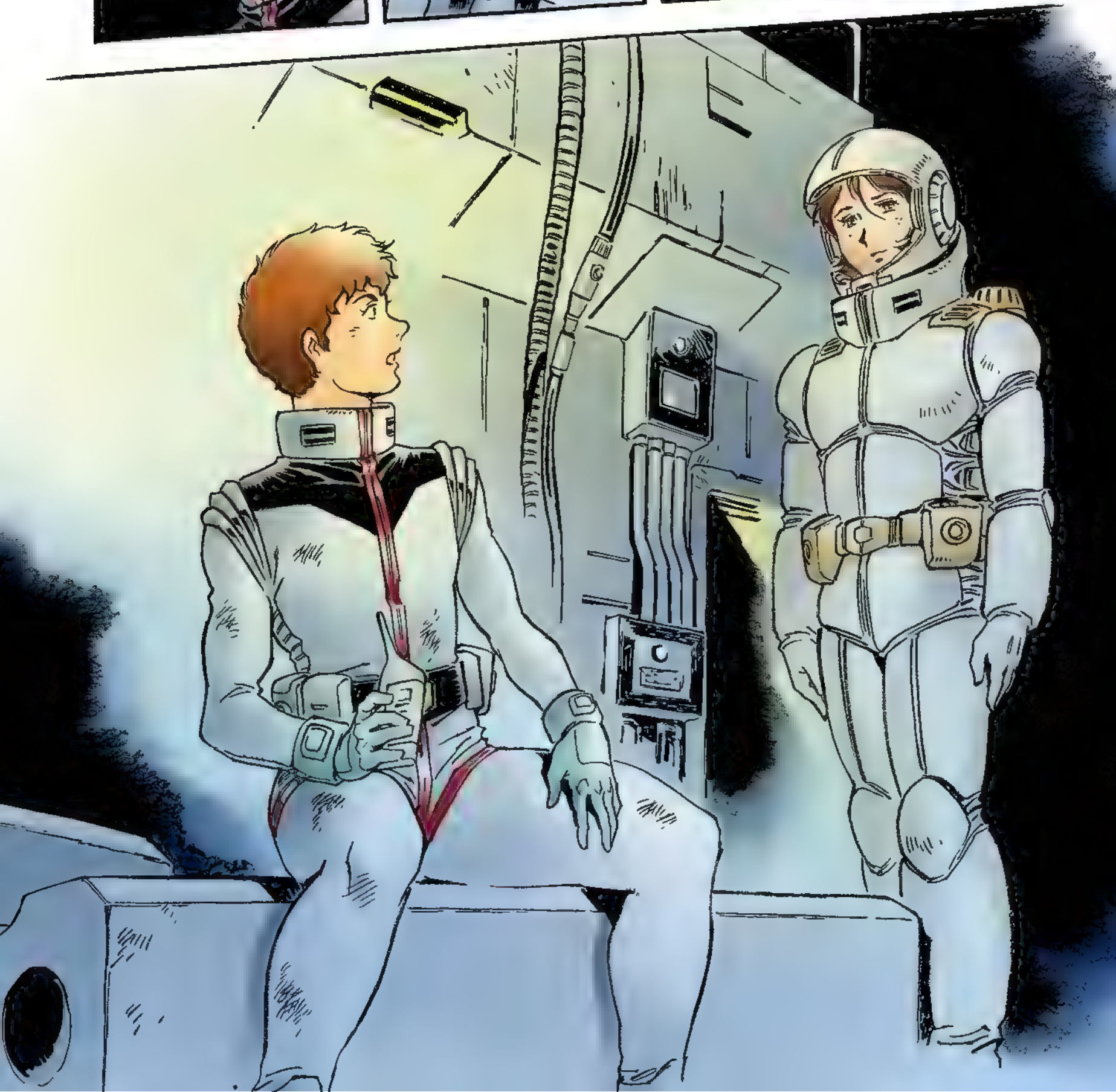
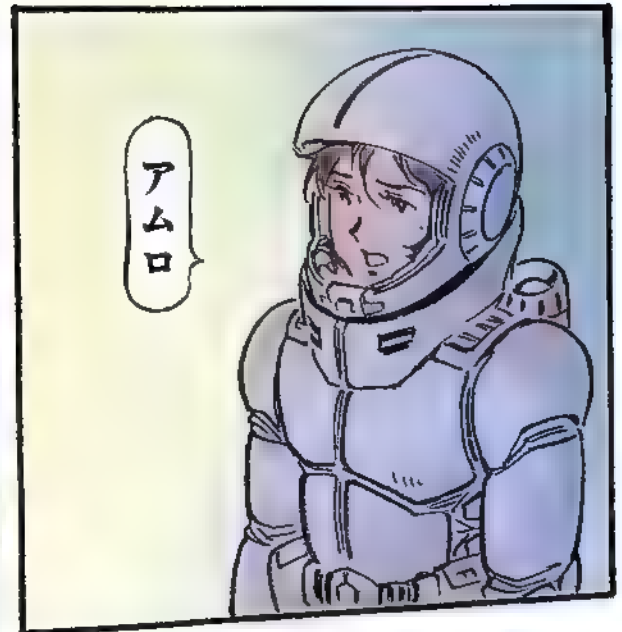
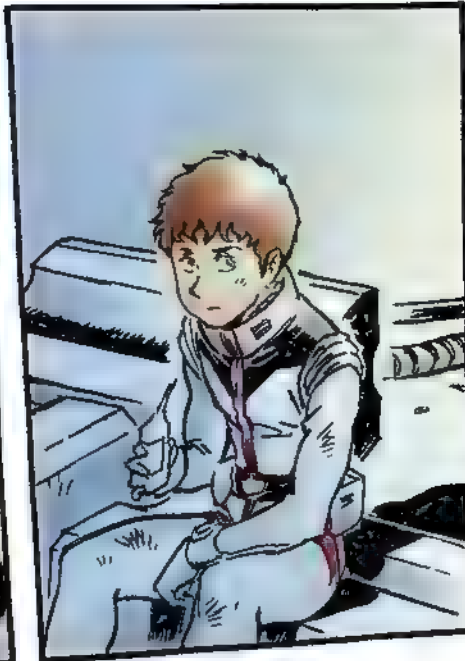
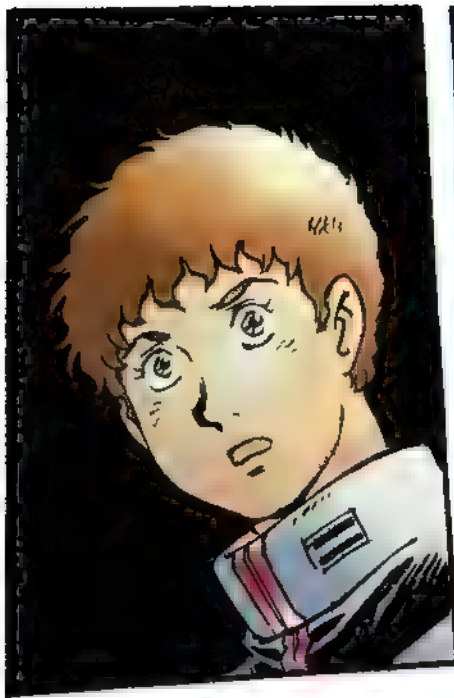
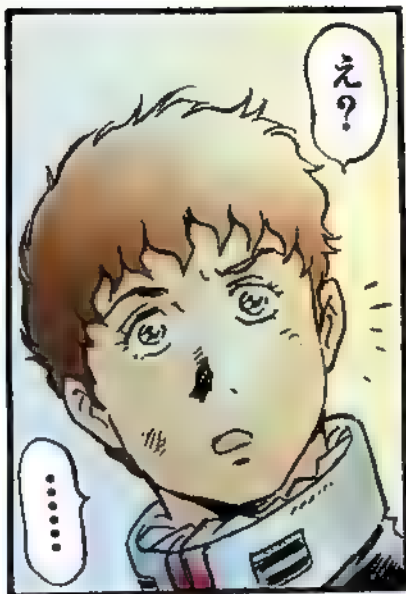
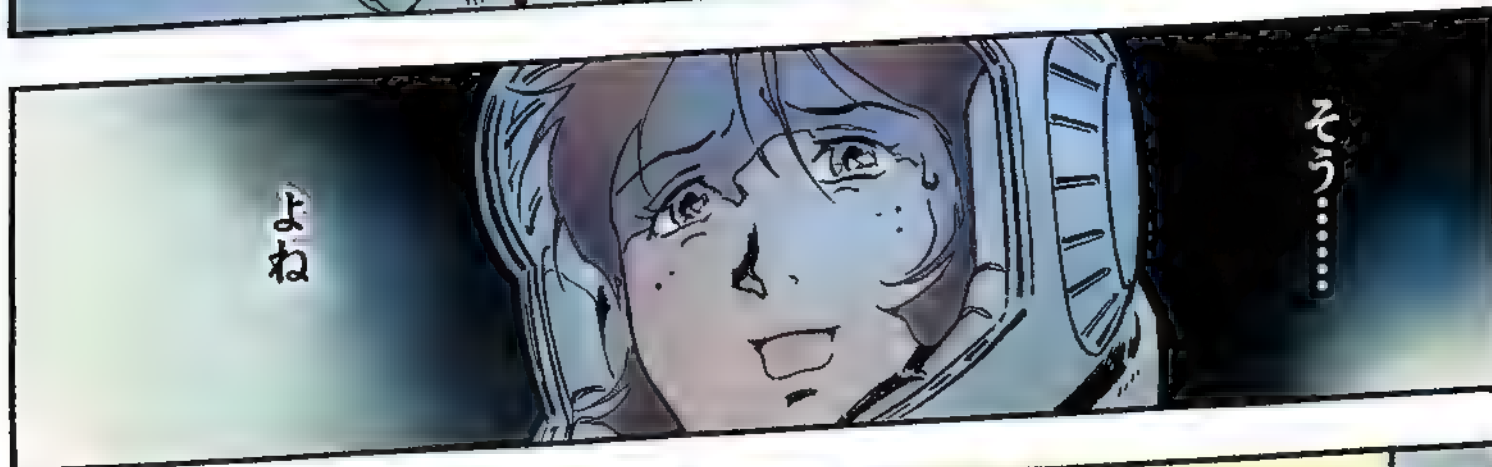
着底したので
ジオン側の雑信号が
よく入りますっ
あ・
またなにか
言って
ます!

流言蜚語の類
じゃないかしら
ありそうも
ない話だし

そうだとしても
艦長はここを
動かないほうが
よさそうね

アムロは私が
見てくるわ

コントロール系統に異常なしっ！

バルカン砲装弾終了！

エネルギー充塡完了まであと五分！

オムルさんっ

バズーカは二門持たせますかあ？

う〜ん そうだナア…

どうするアム……

オッケー二門！
フル装備！

たぶんこれが最後の補給チャンスだろうからなっ！
そうすると盾は背面装備になりますがあ…
ノォフロフレム‼

………

フラウ
アムロがあなたに
話したいことがあるってよ
そばに
行ってあげて
……アムロ
が？

アムロ

お話って
なに？
え？
……
あ
ああ
しばらく話しなかったから……
どうだろうなああと思って……
そう……
よね
もおこれっきりなんだって
思ってた……

ごし
ごし……

これっきりで
もお
話すこと
なんて……

ずうっと
ないんだって……

ウララ
!!

シャアが
来る!!

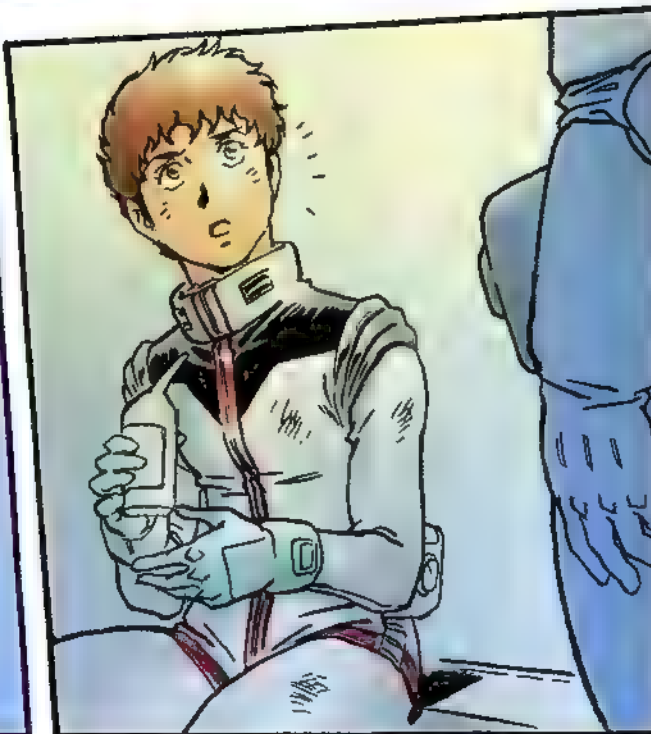
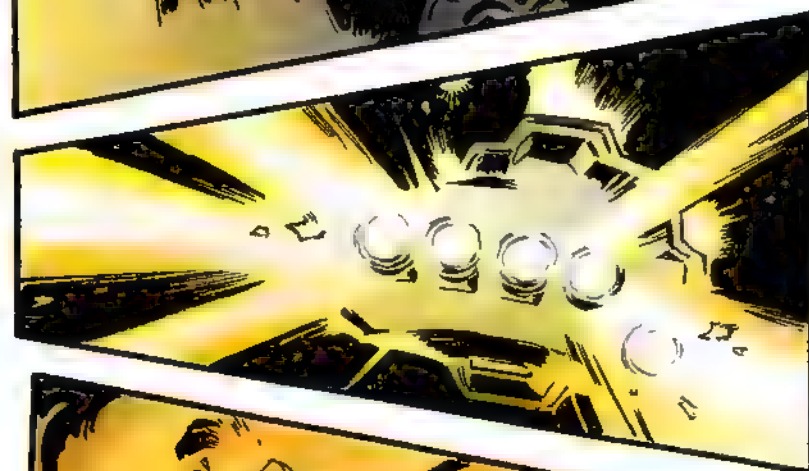
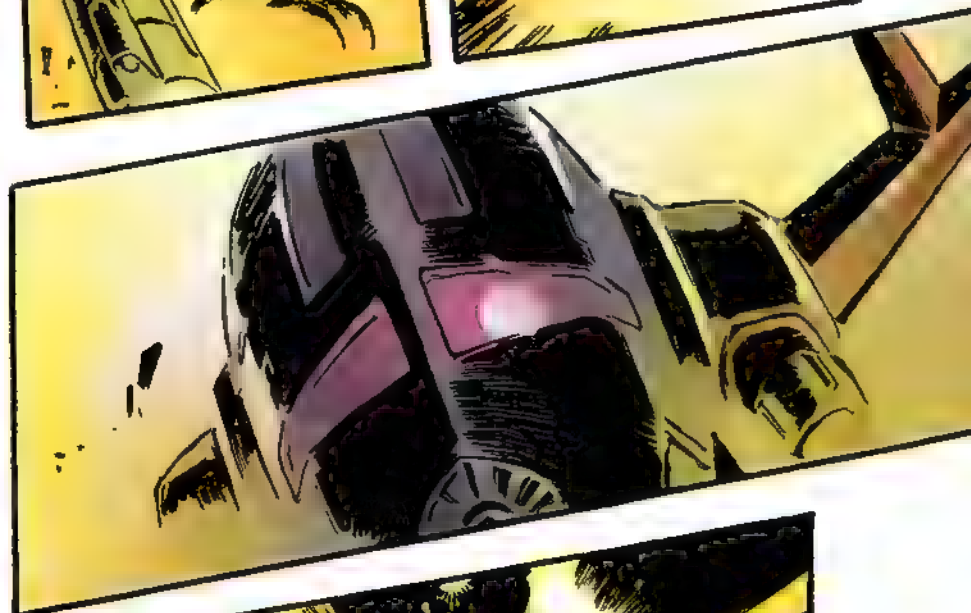
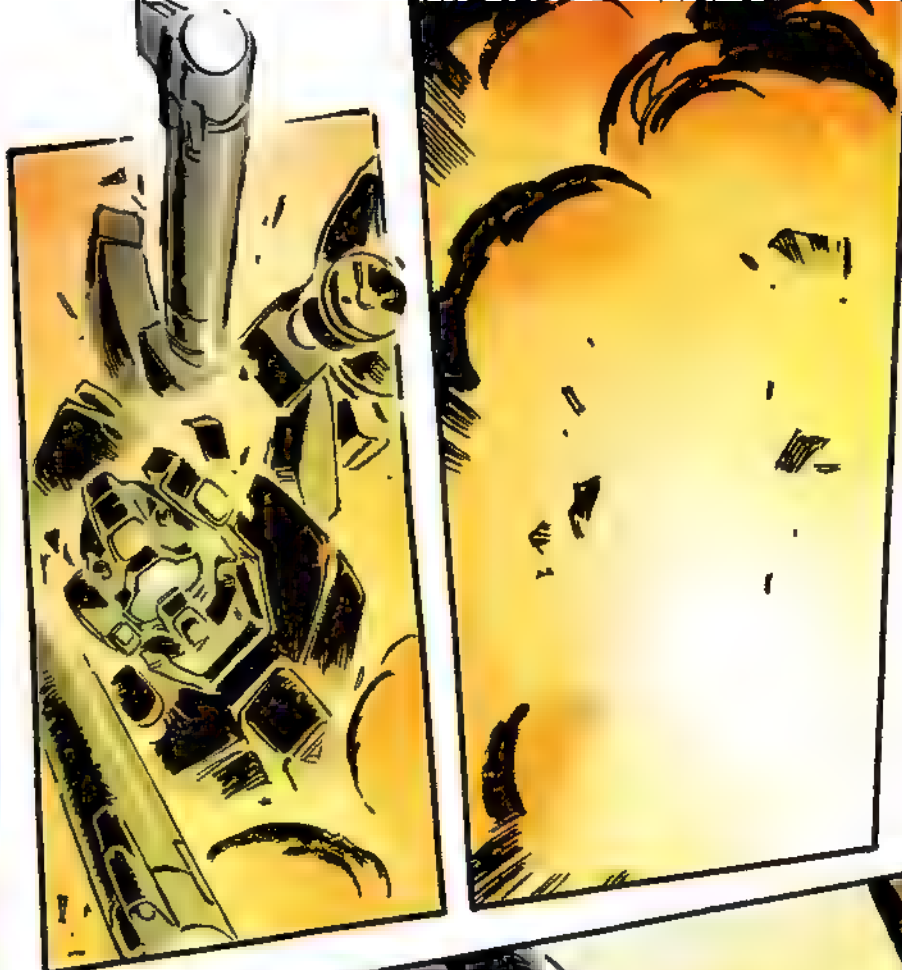
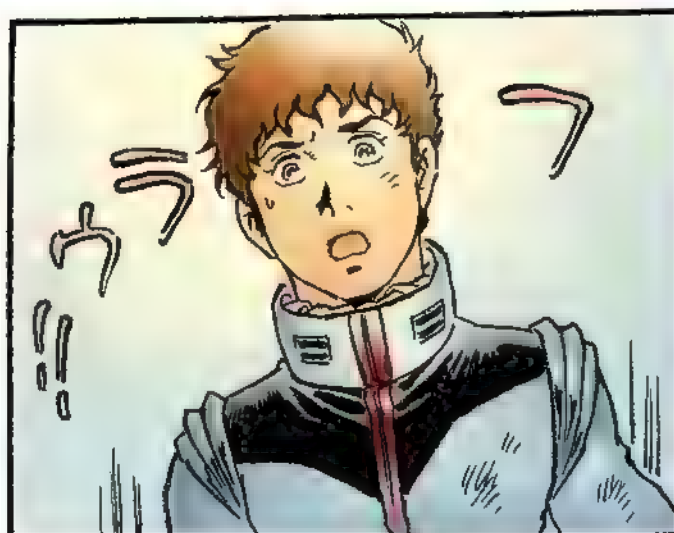
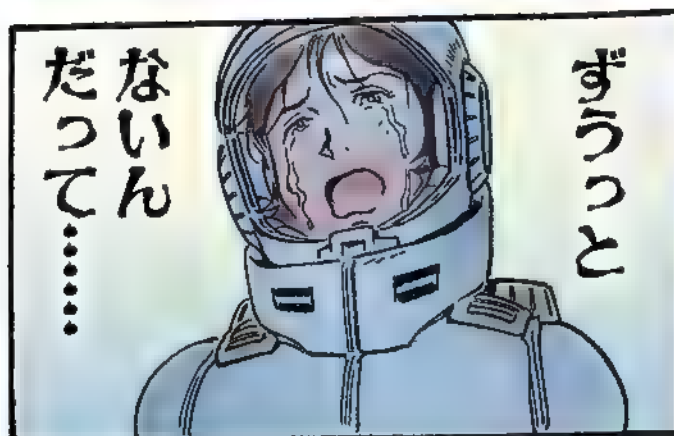
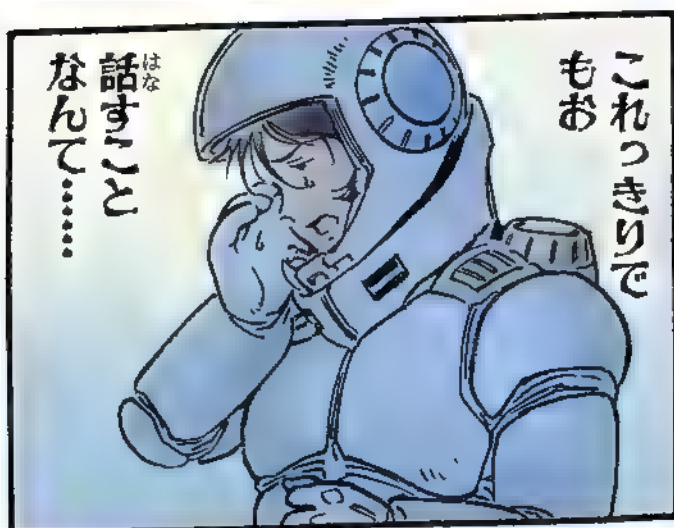
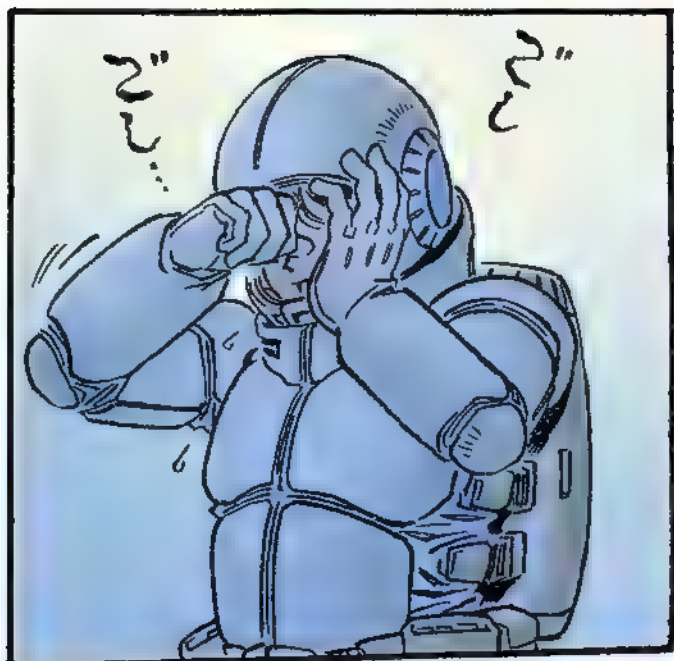
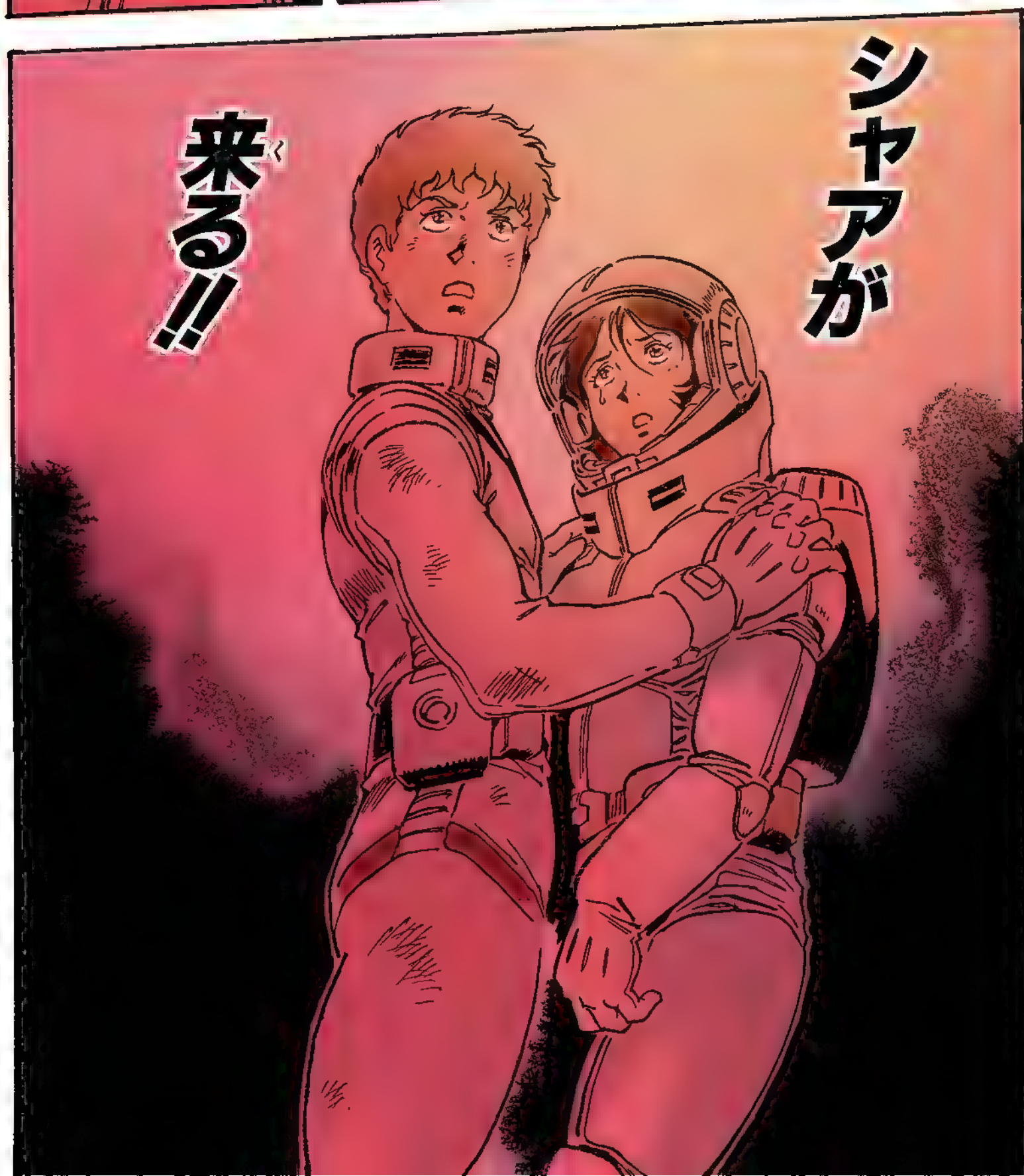
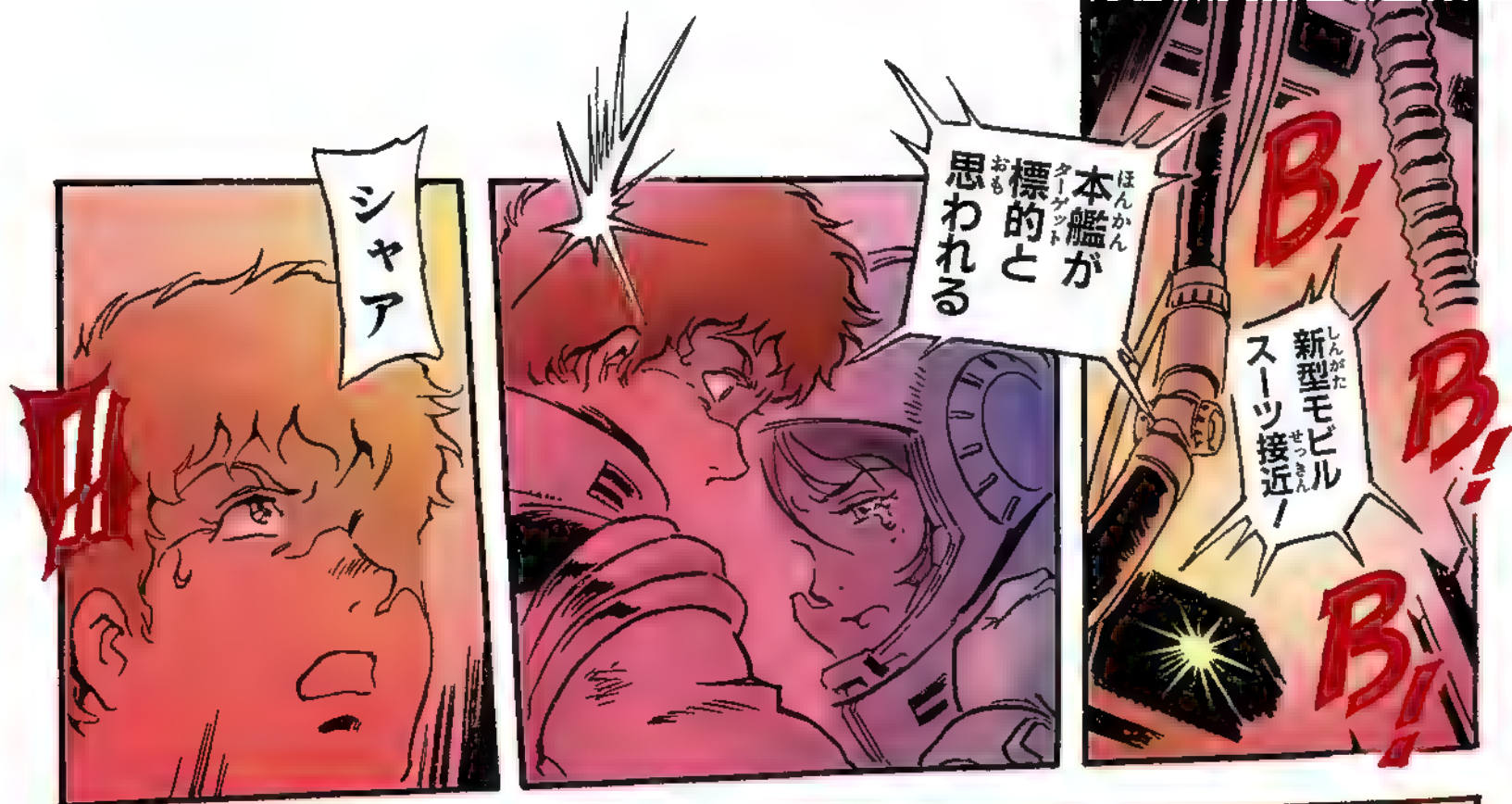
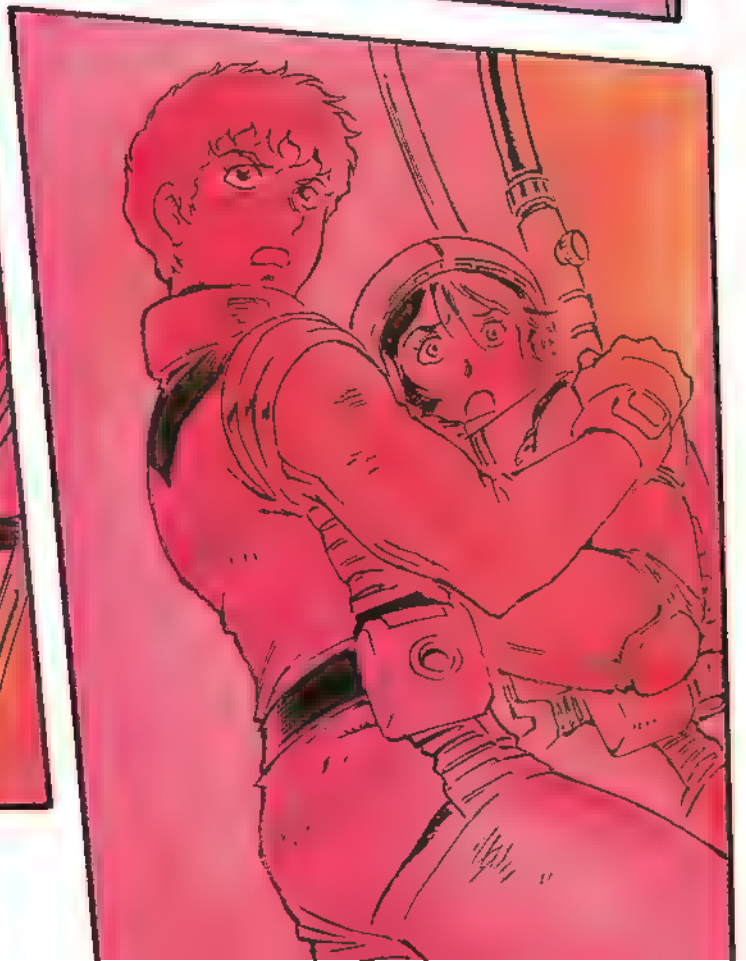
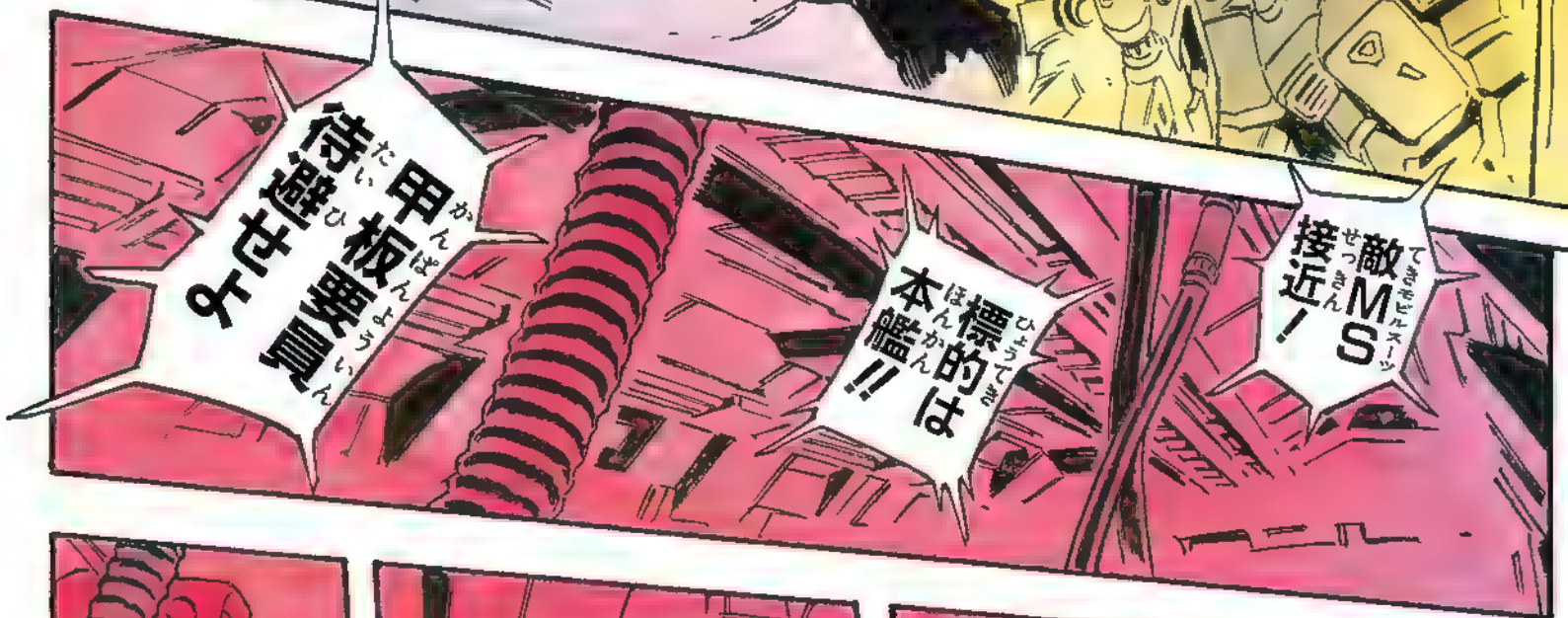
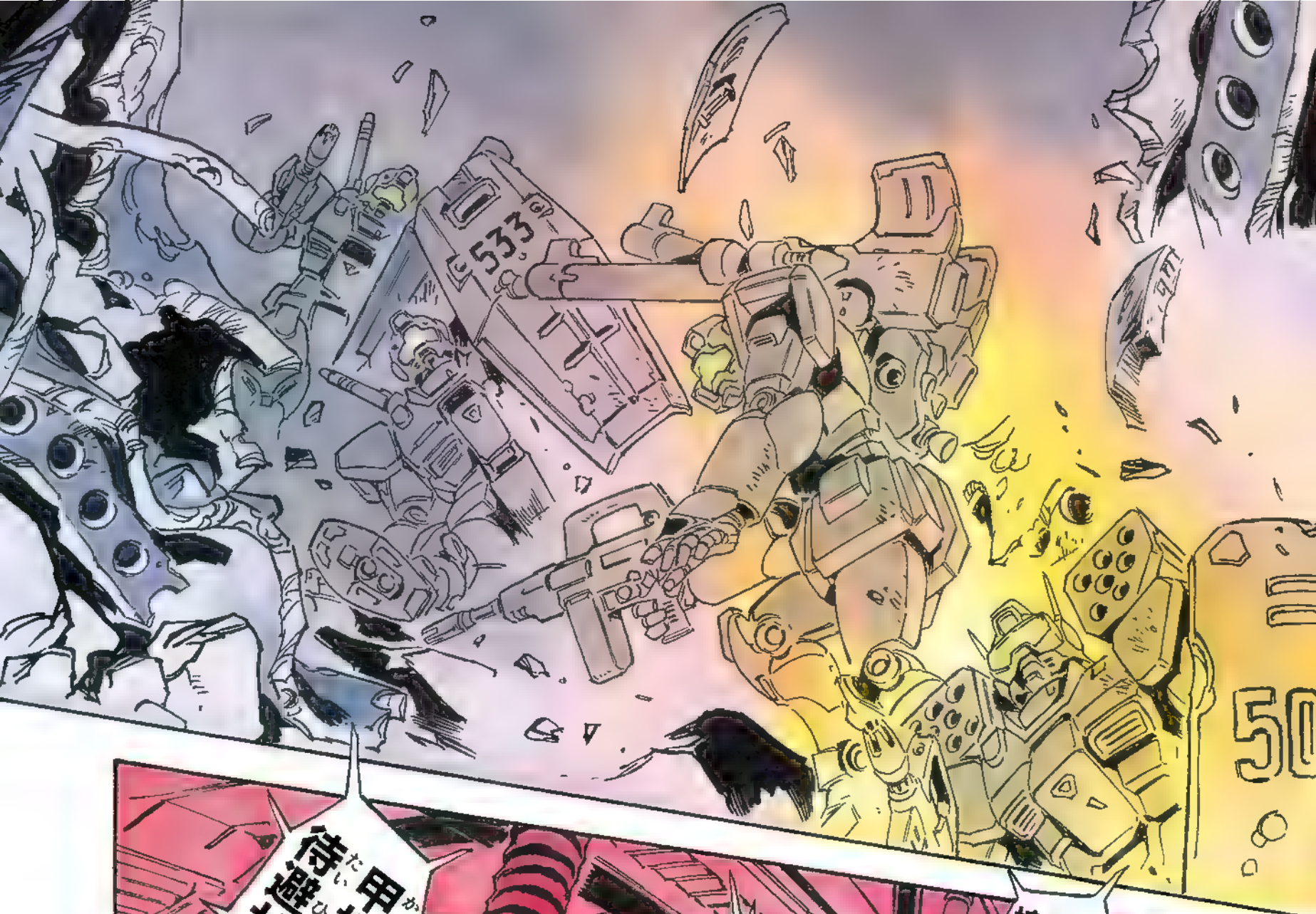
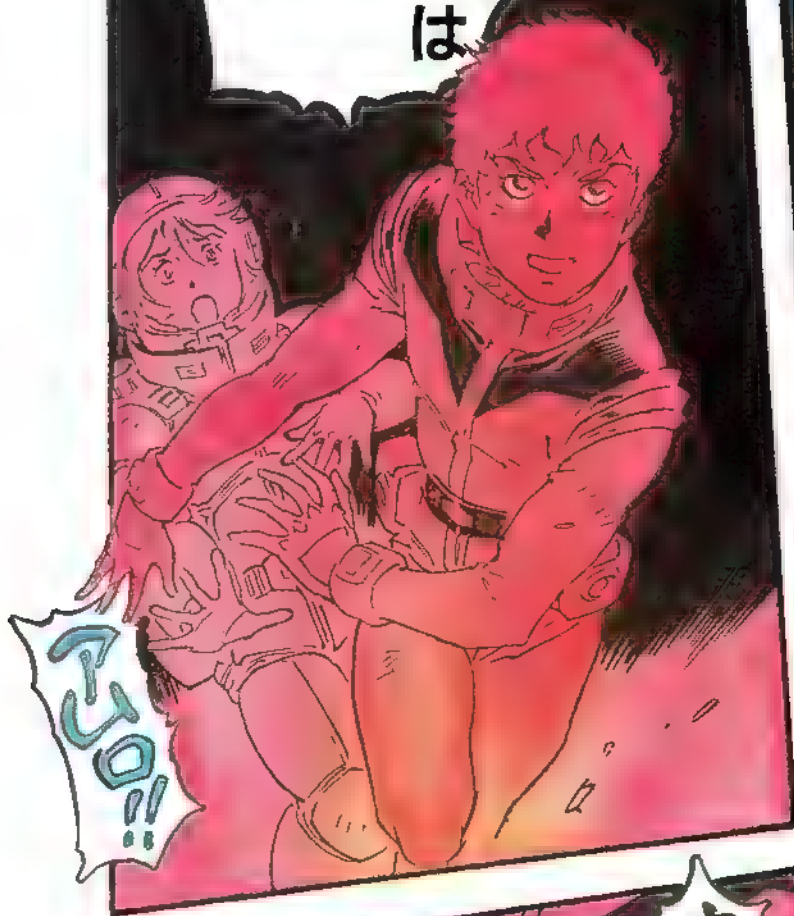
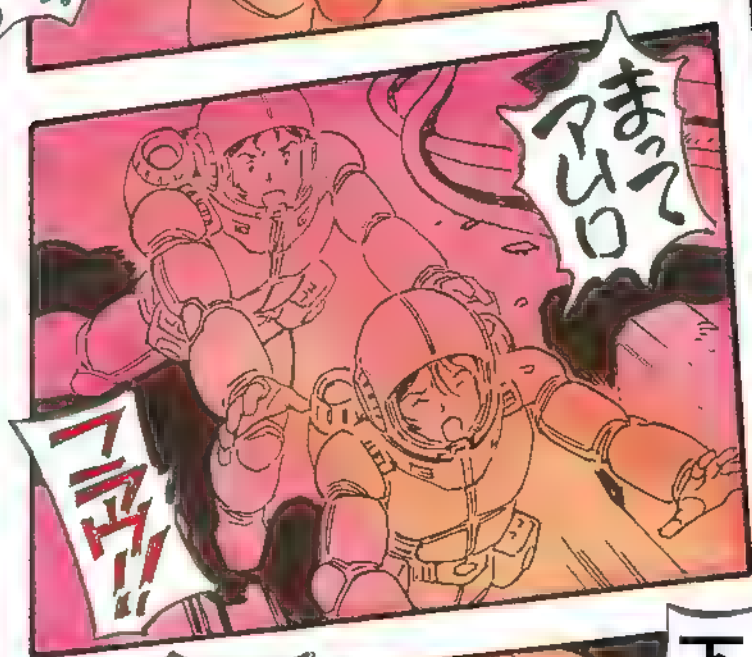
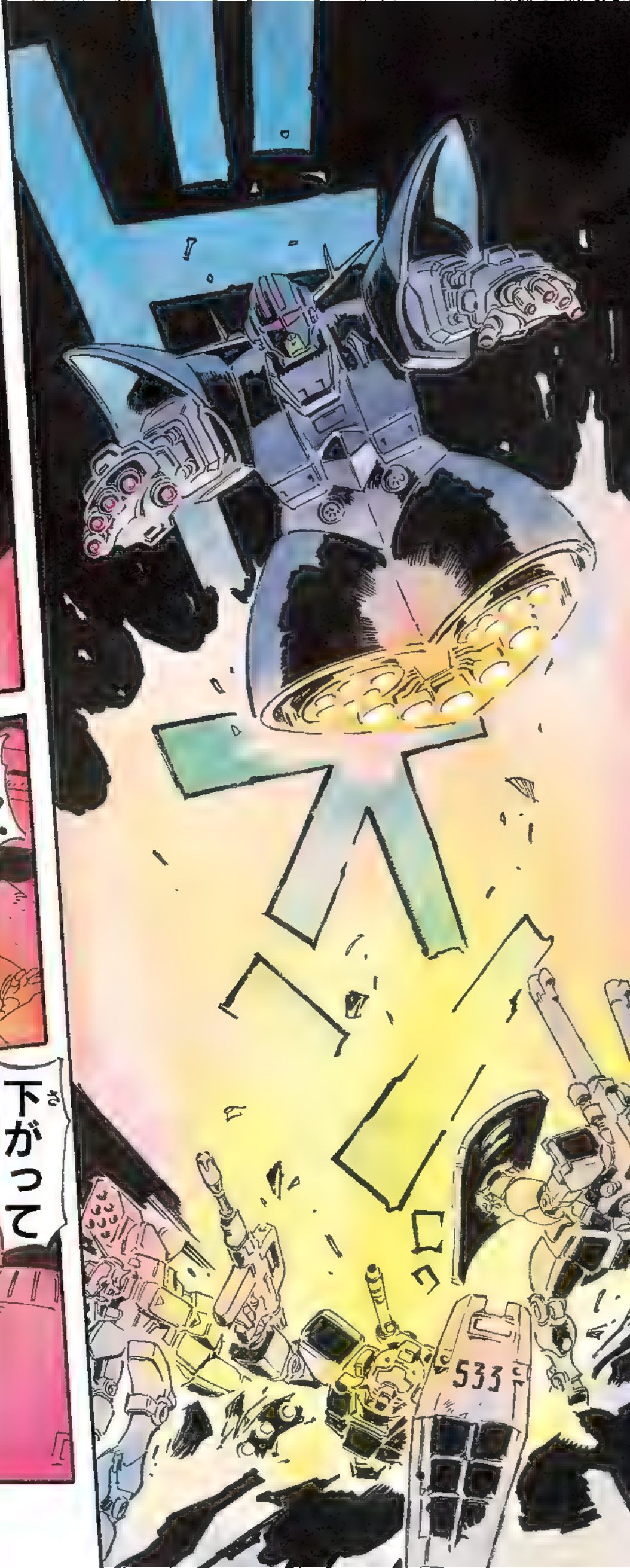
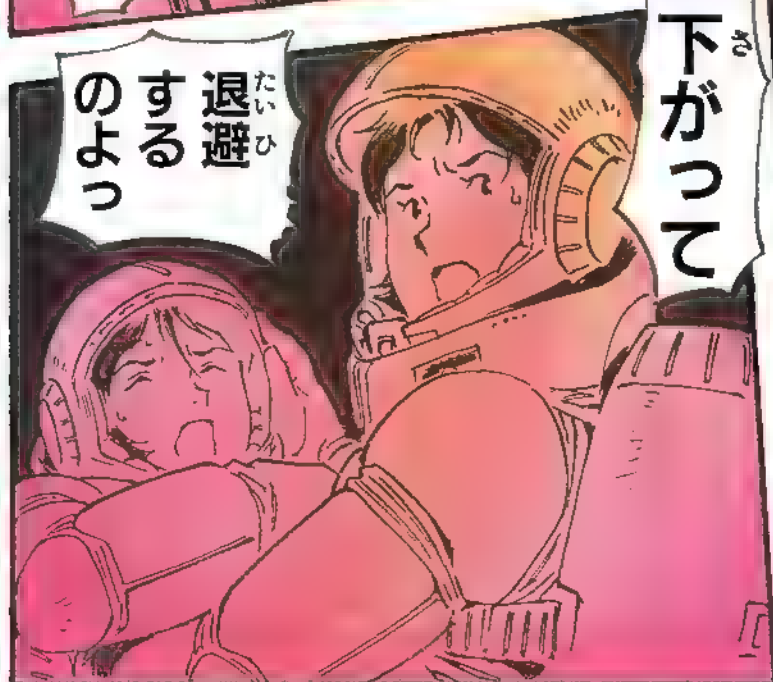
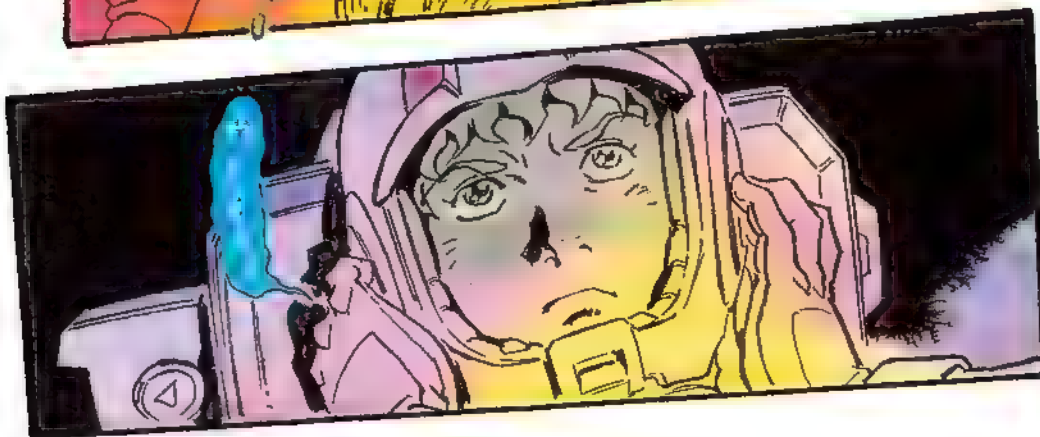
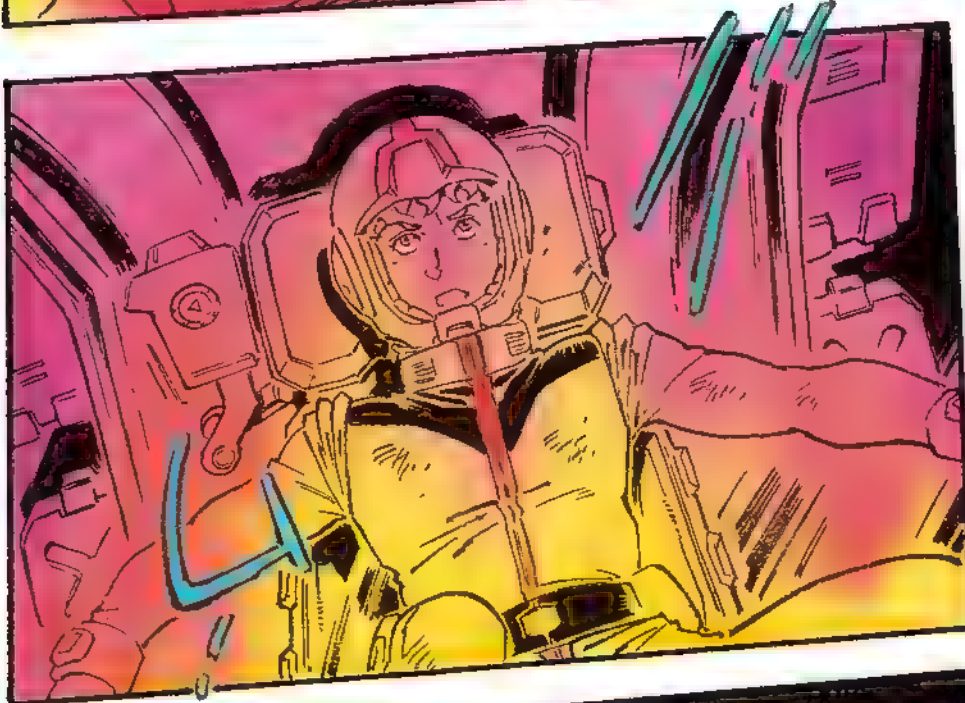
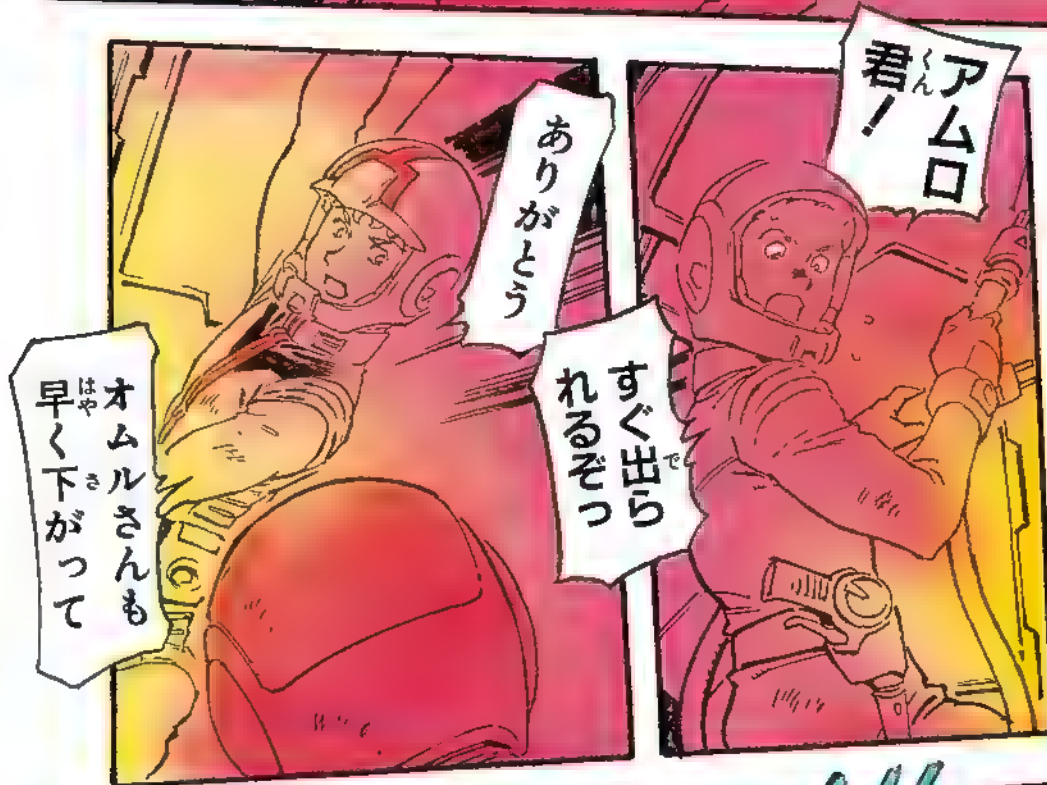
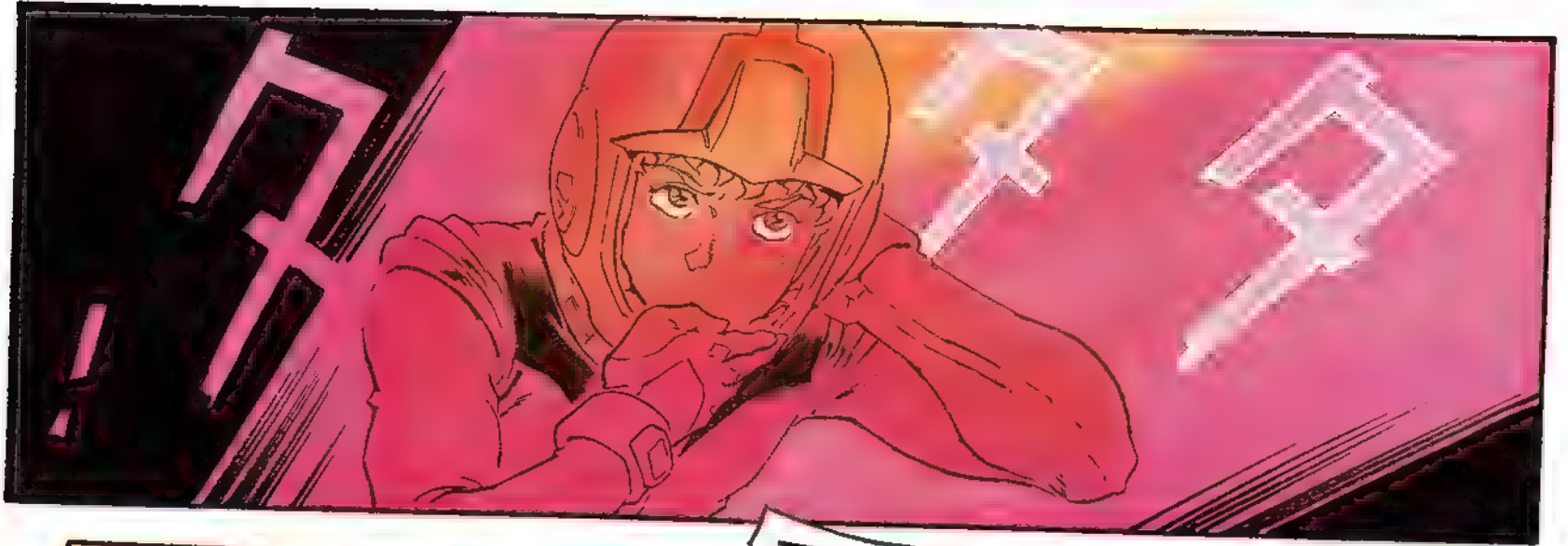
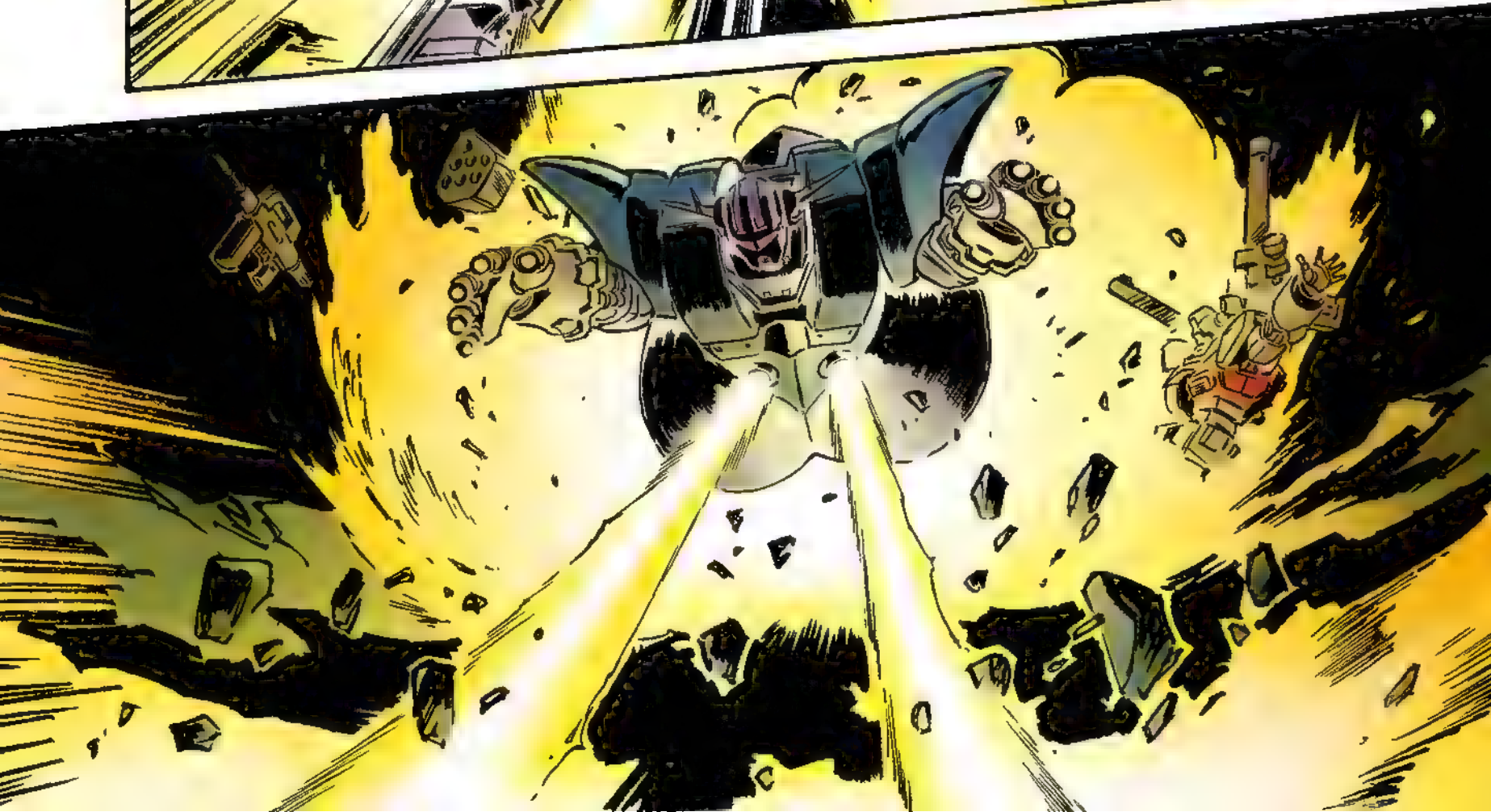
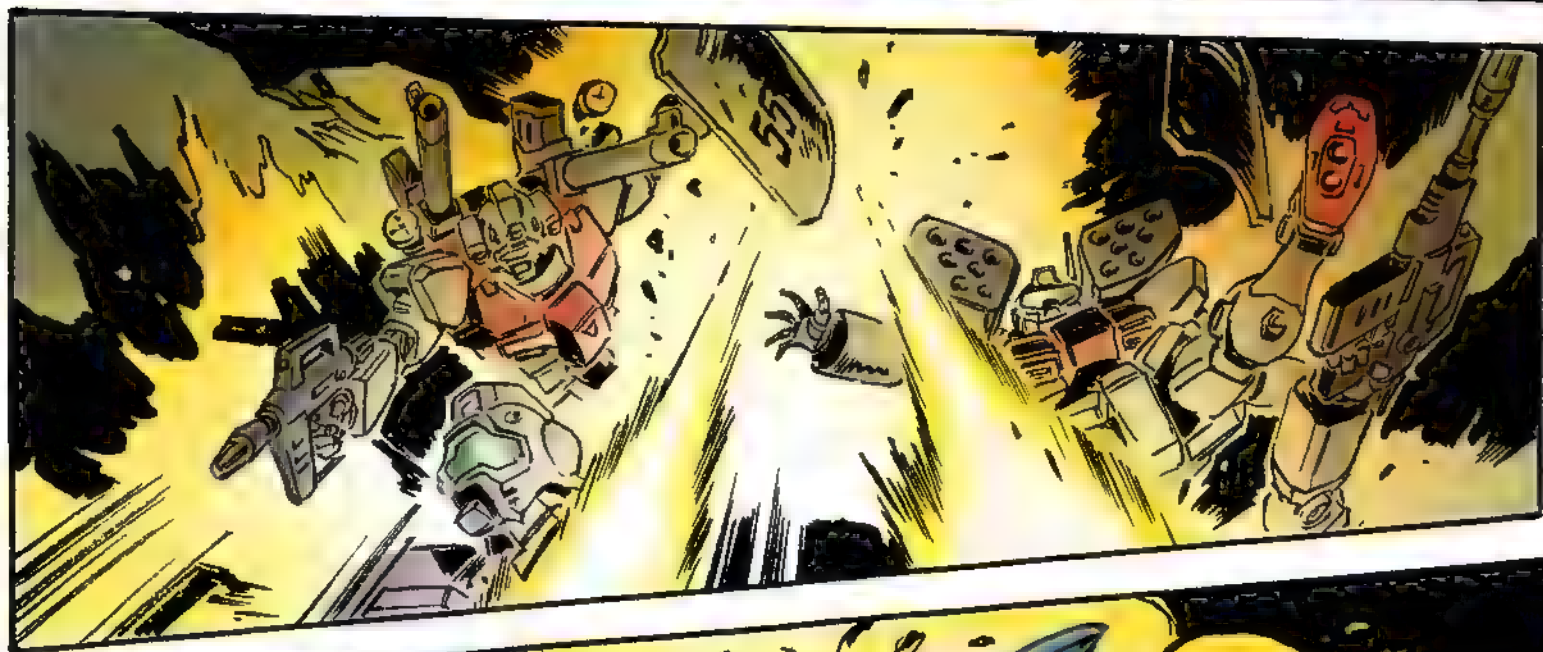
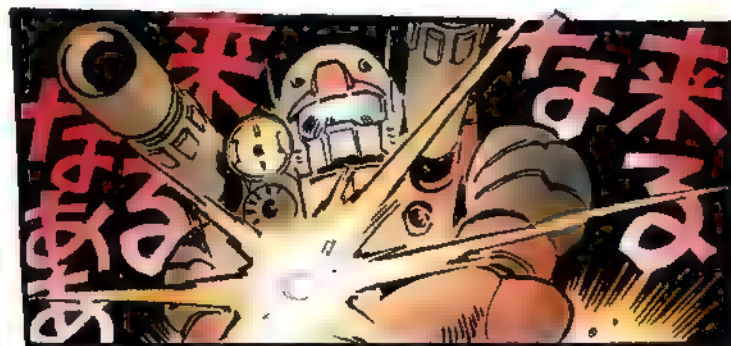
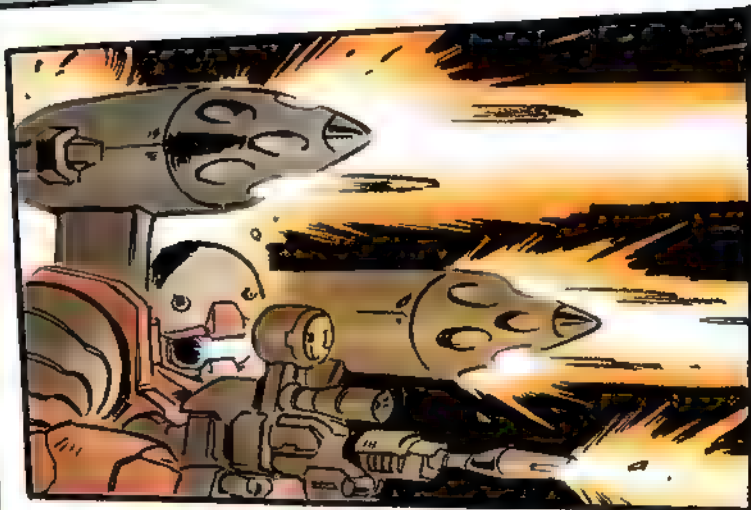
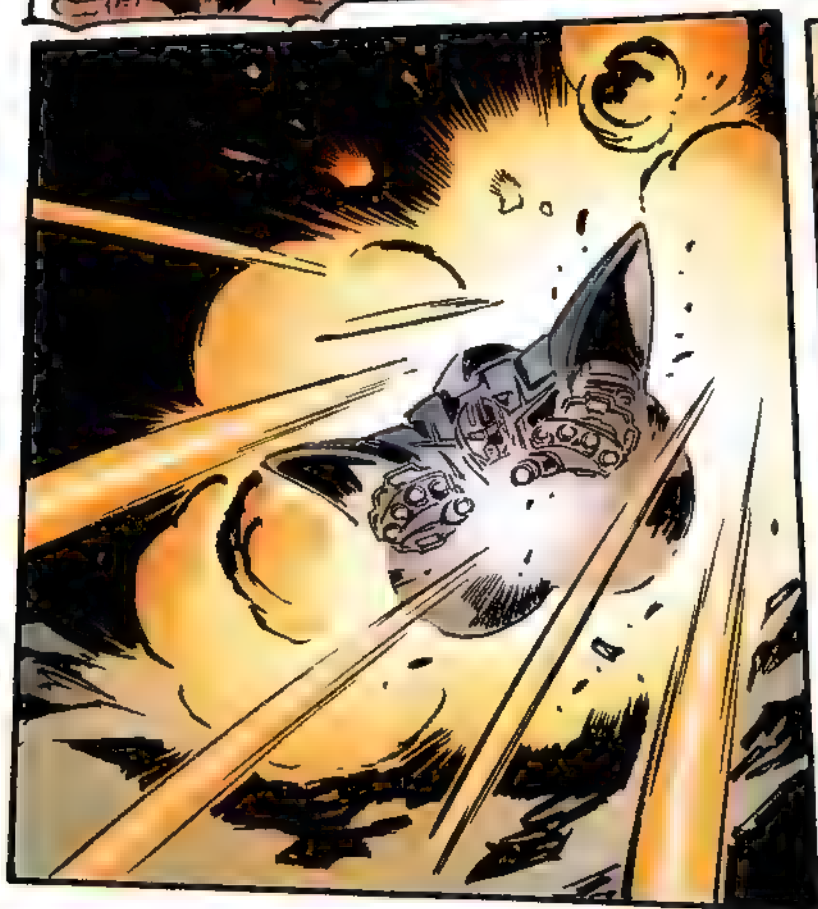
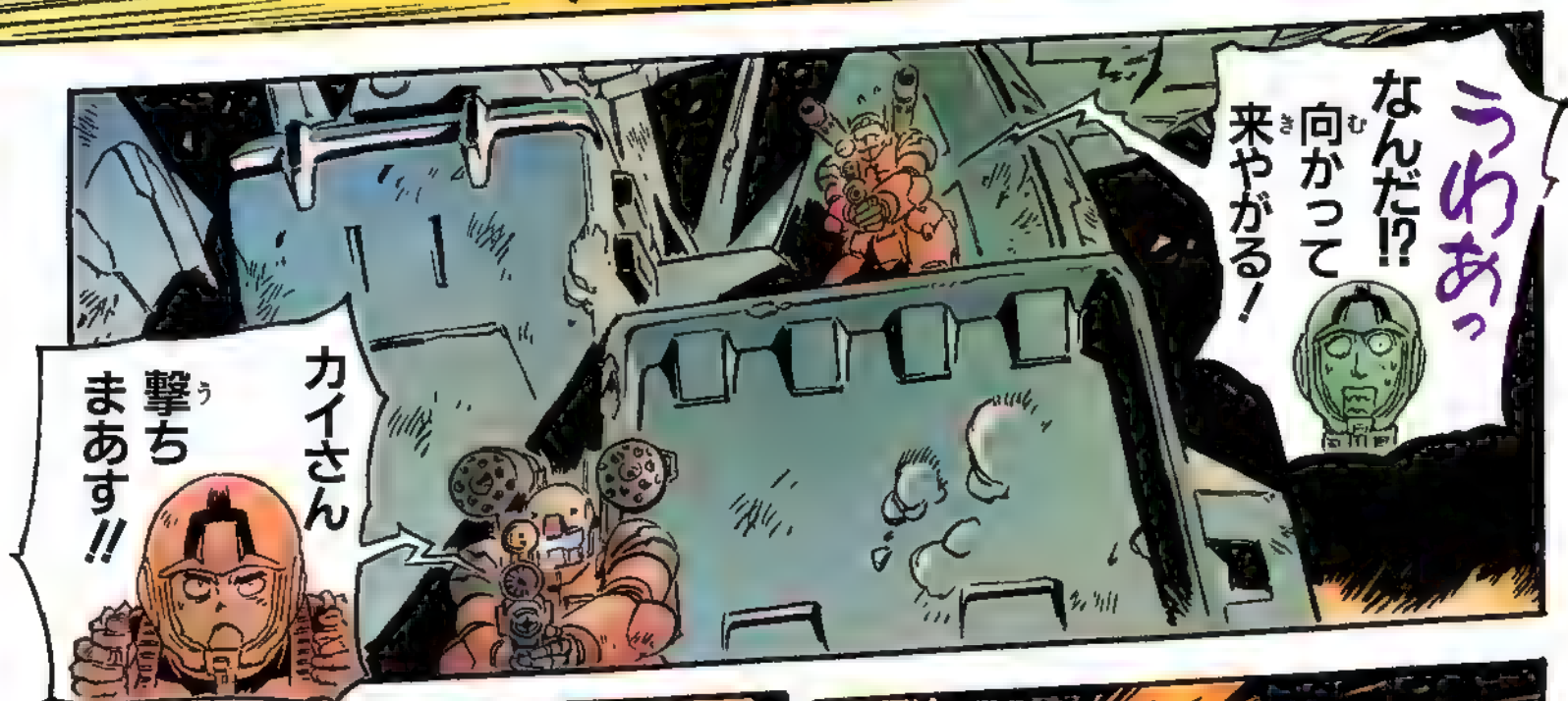
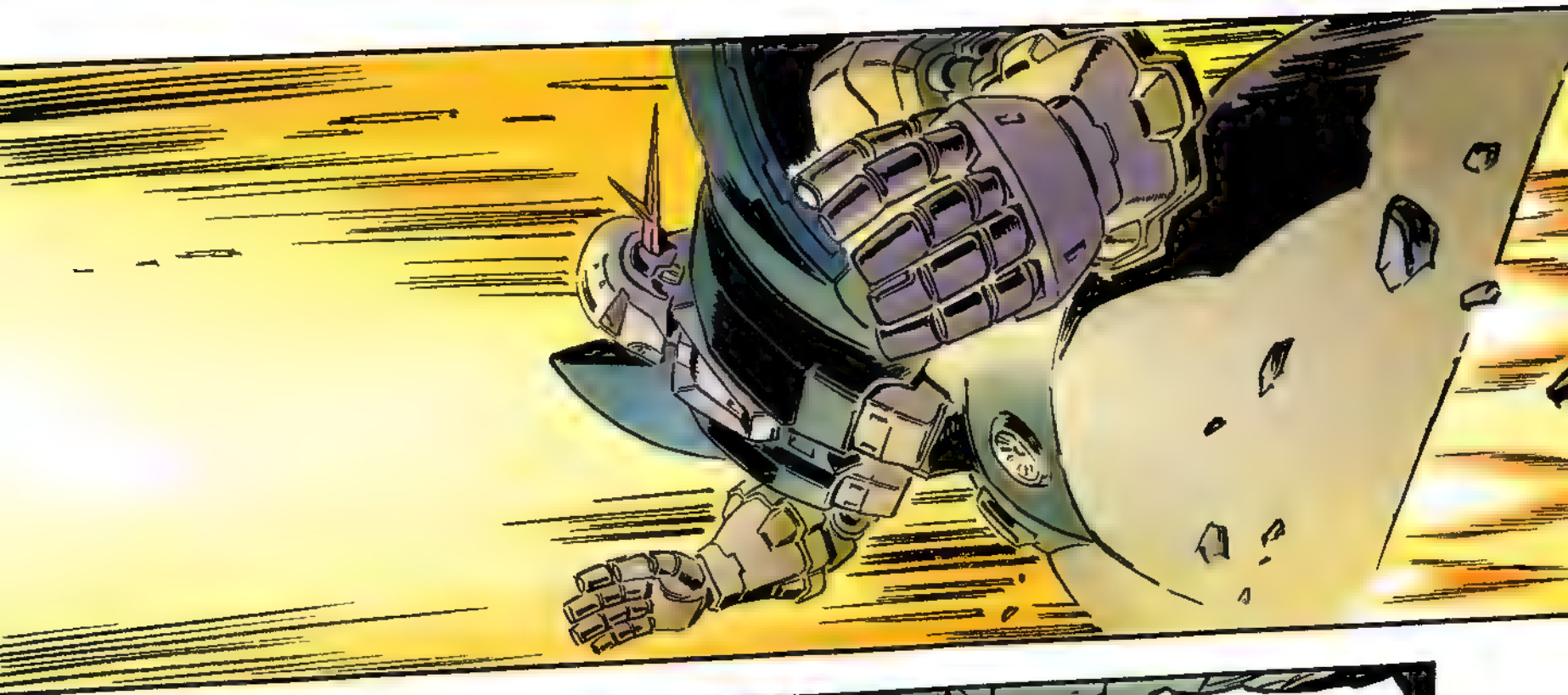
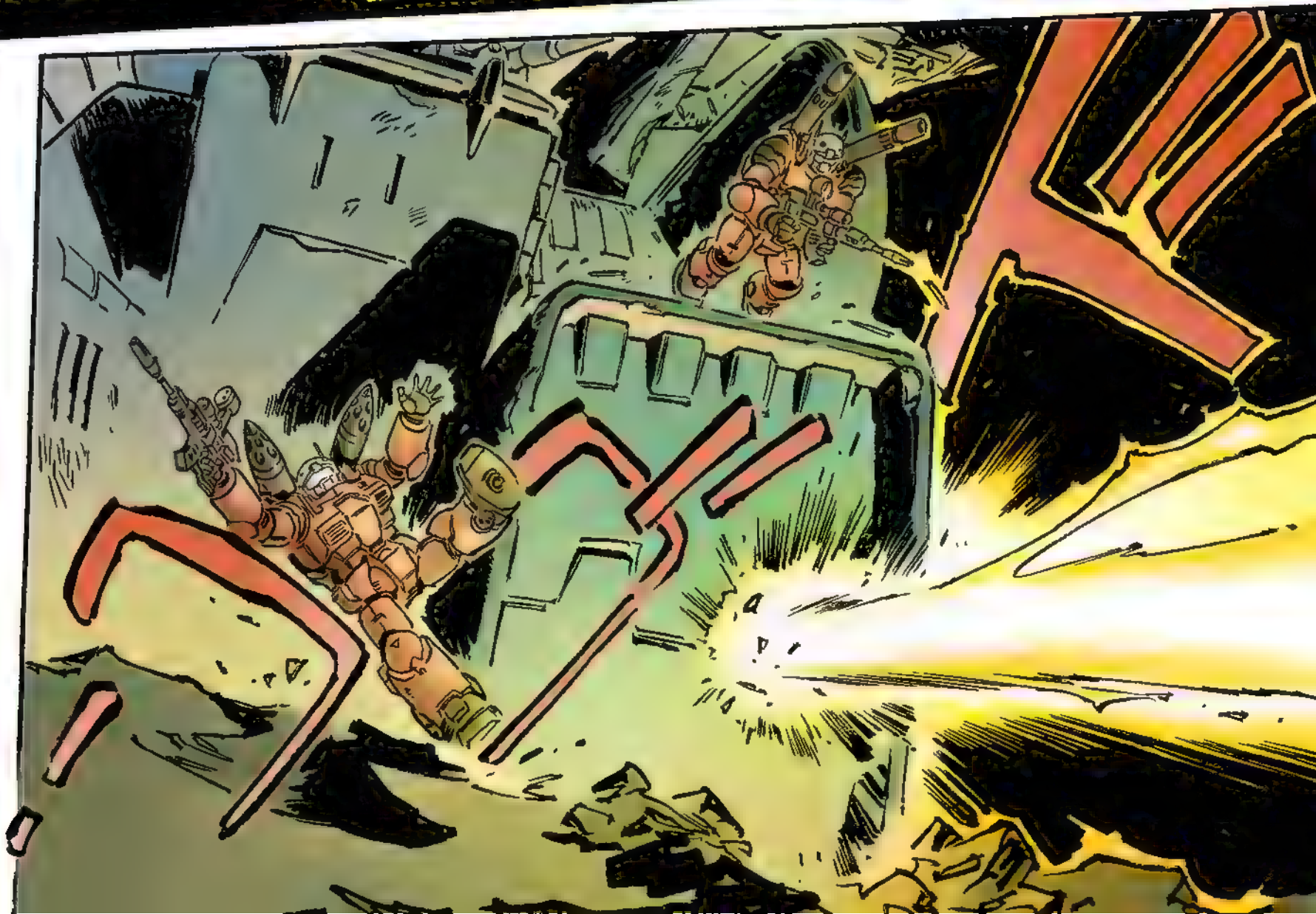
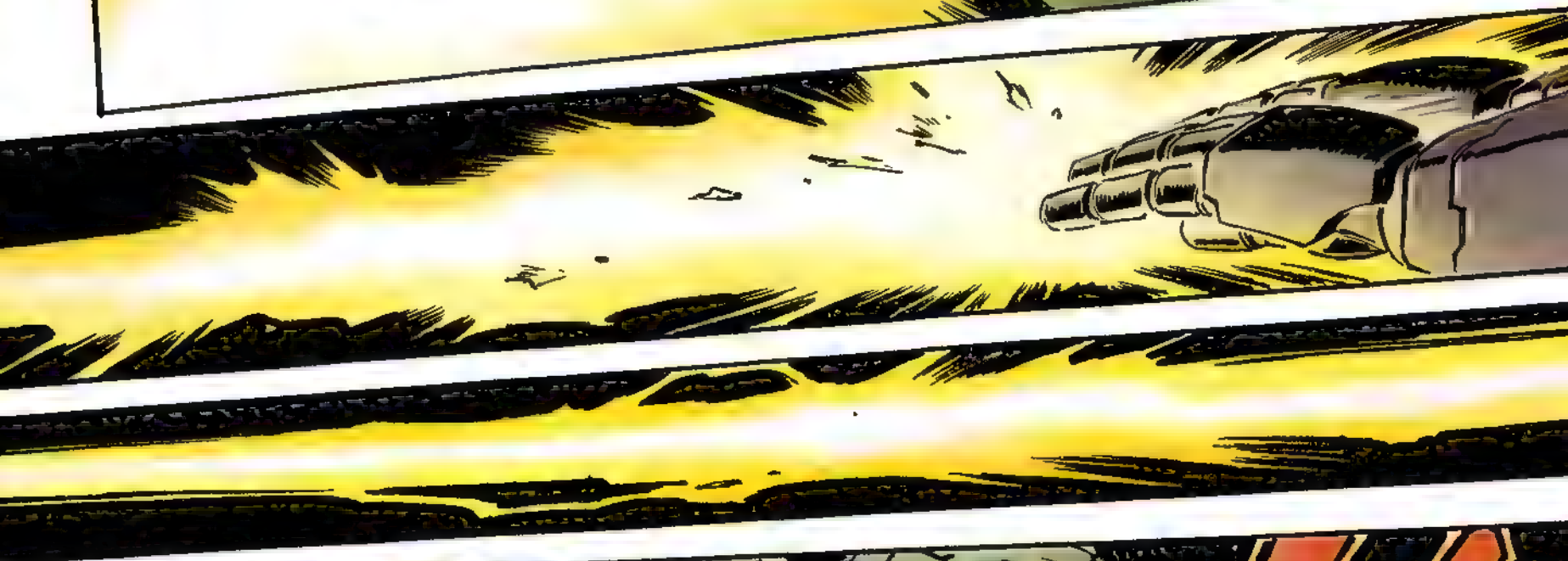
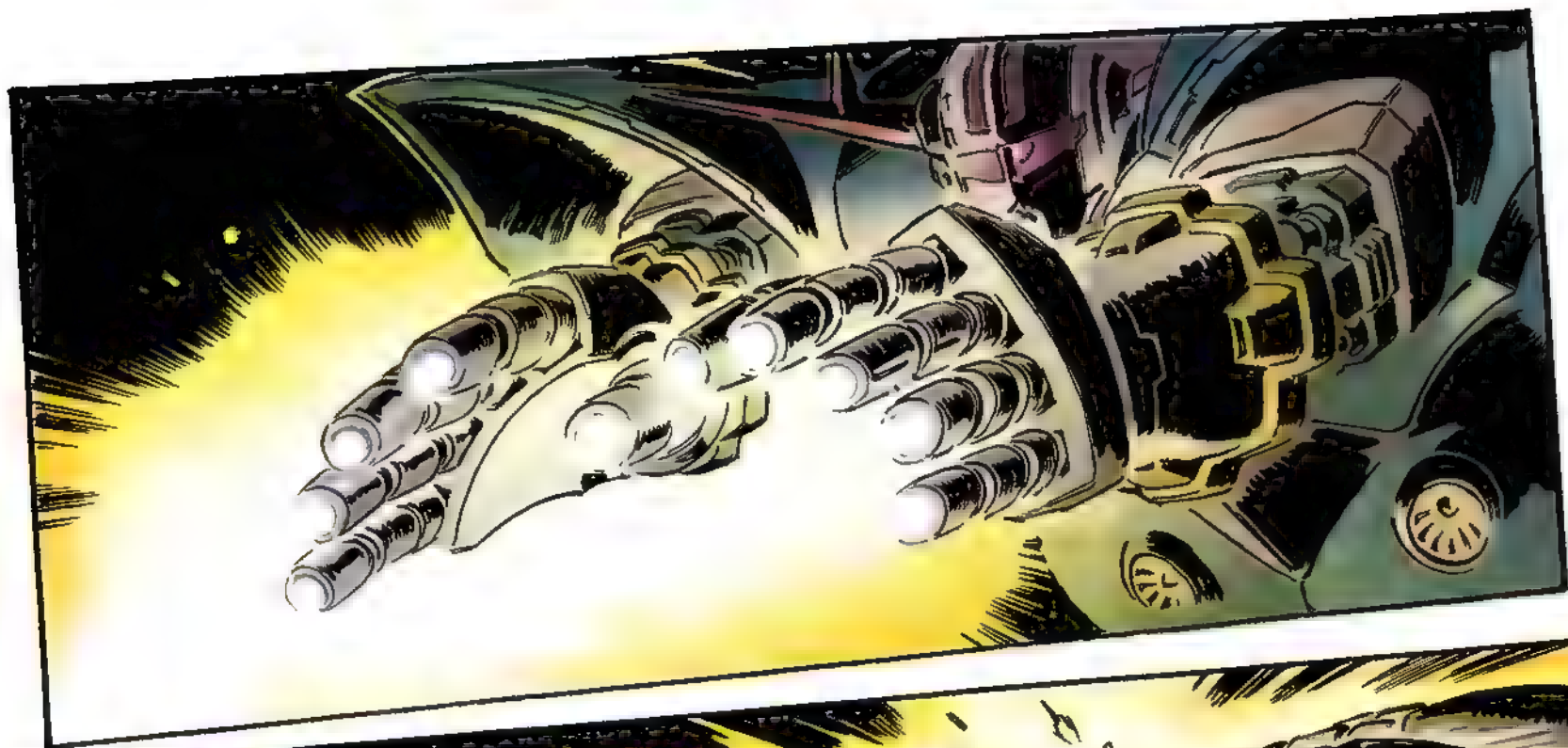
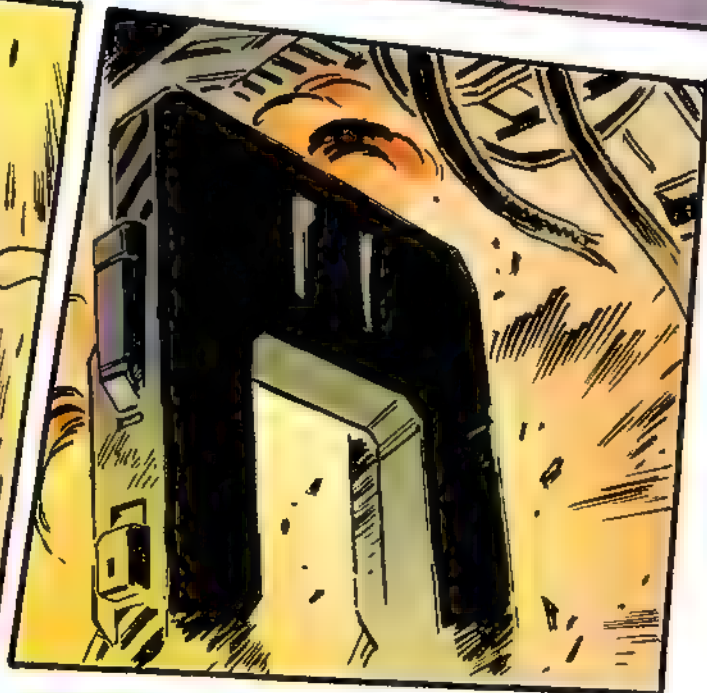
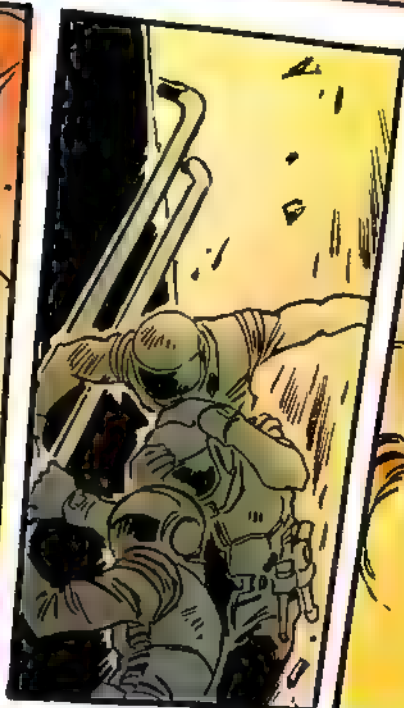
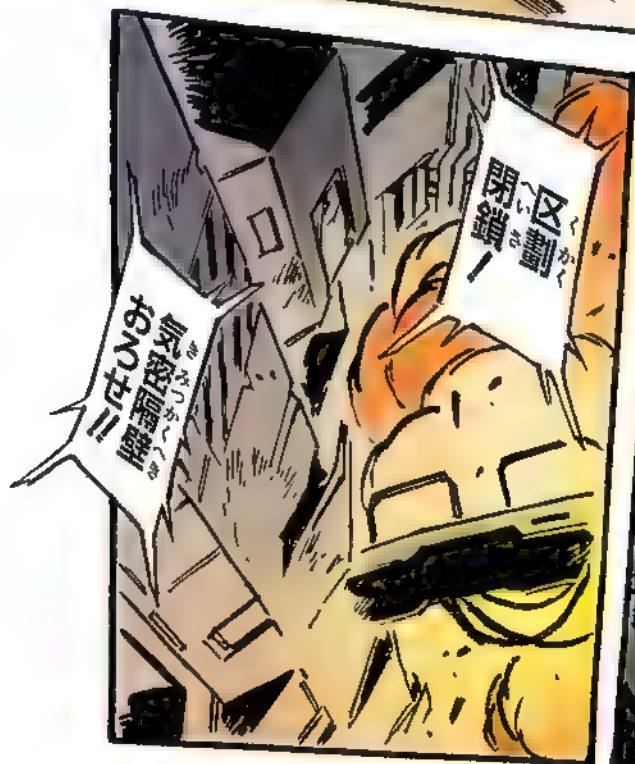
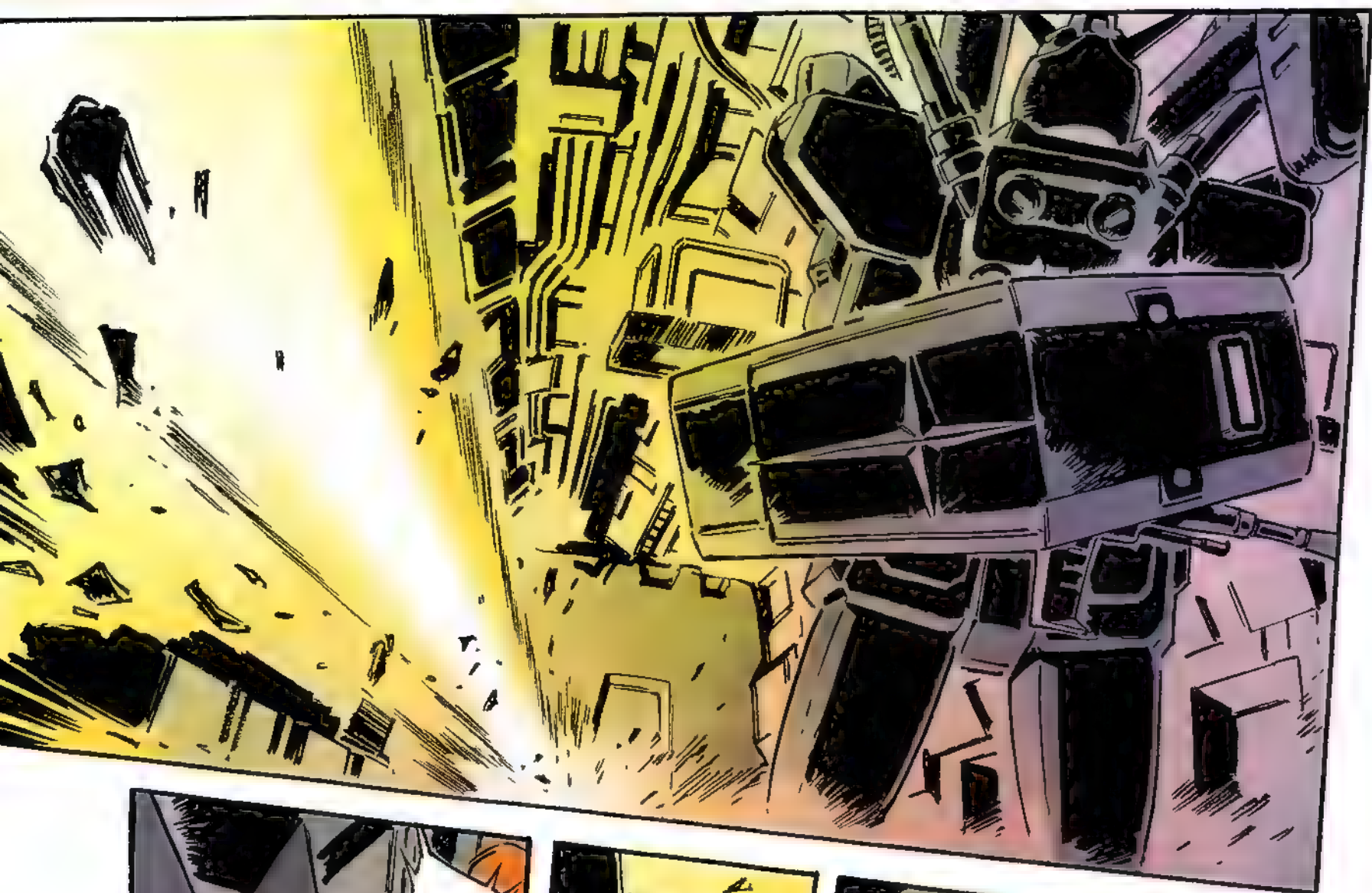
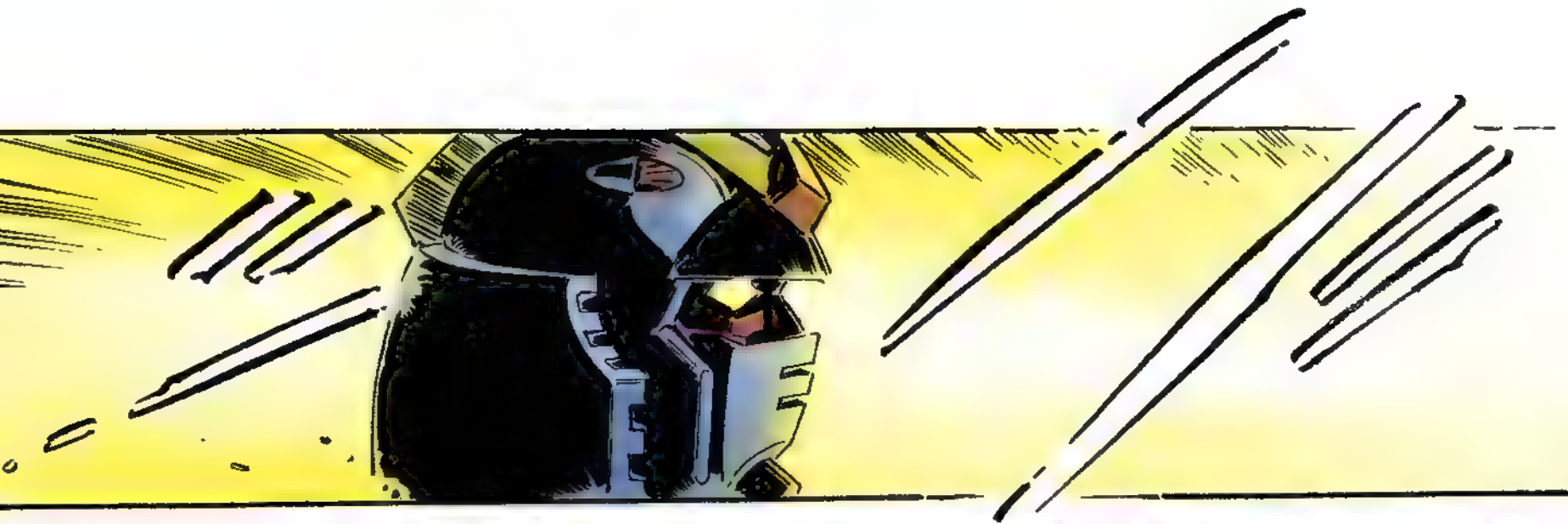
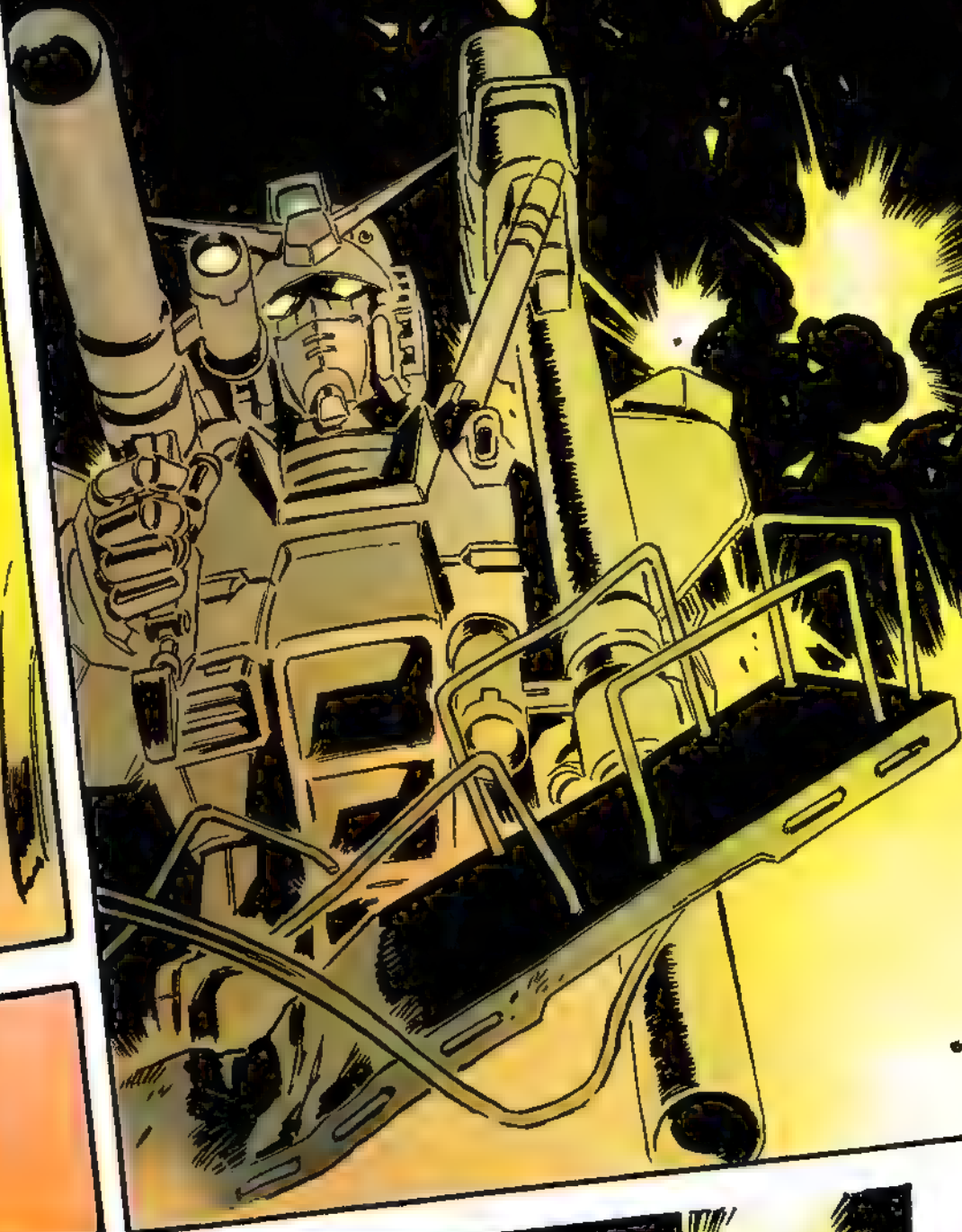
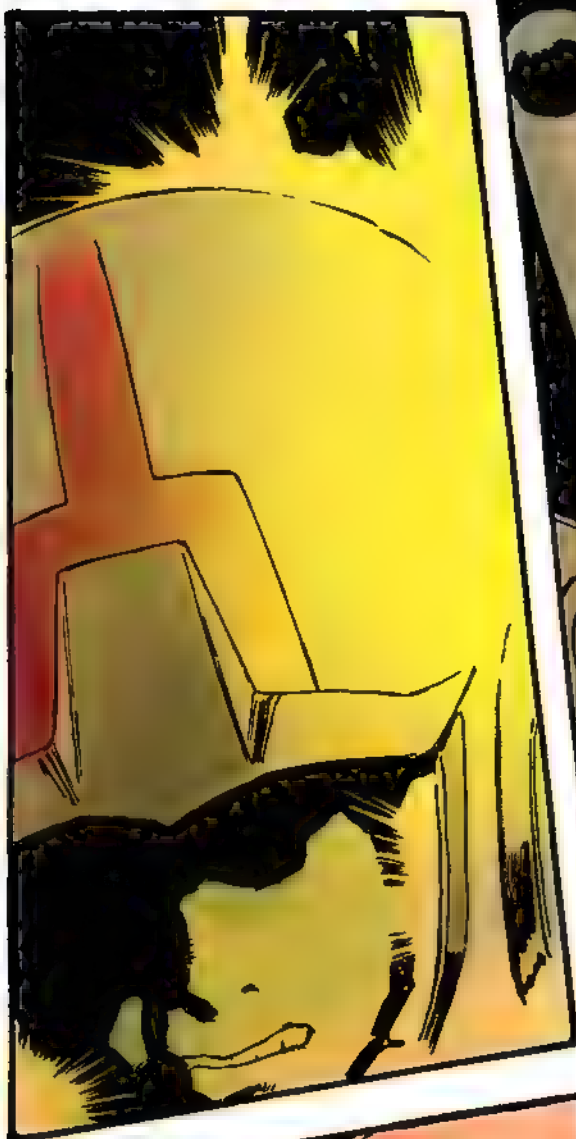
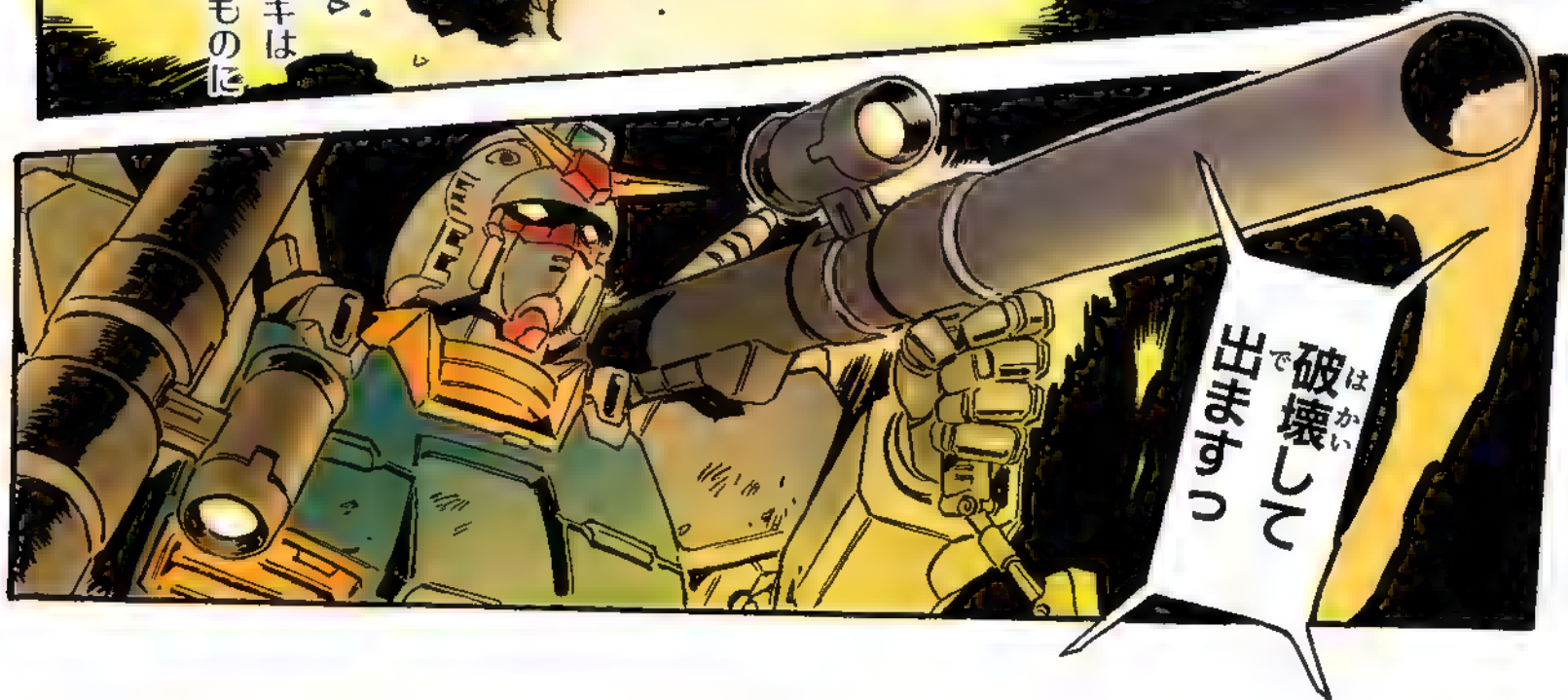
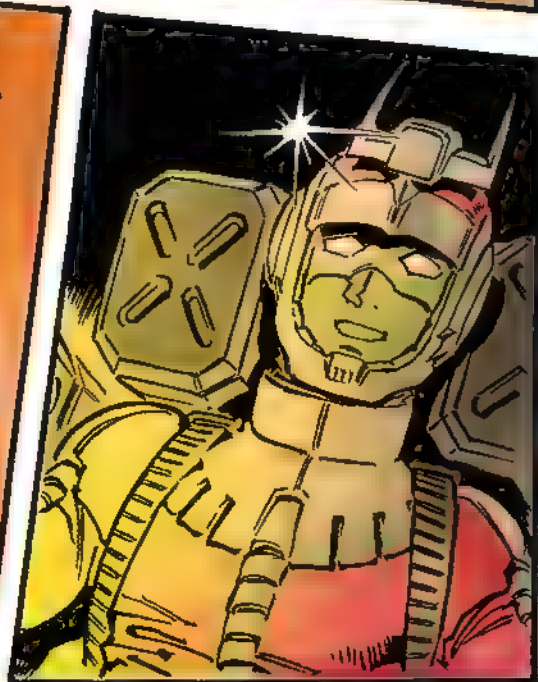
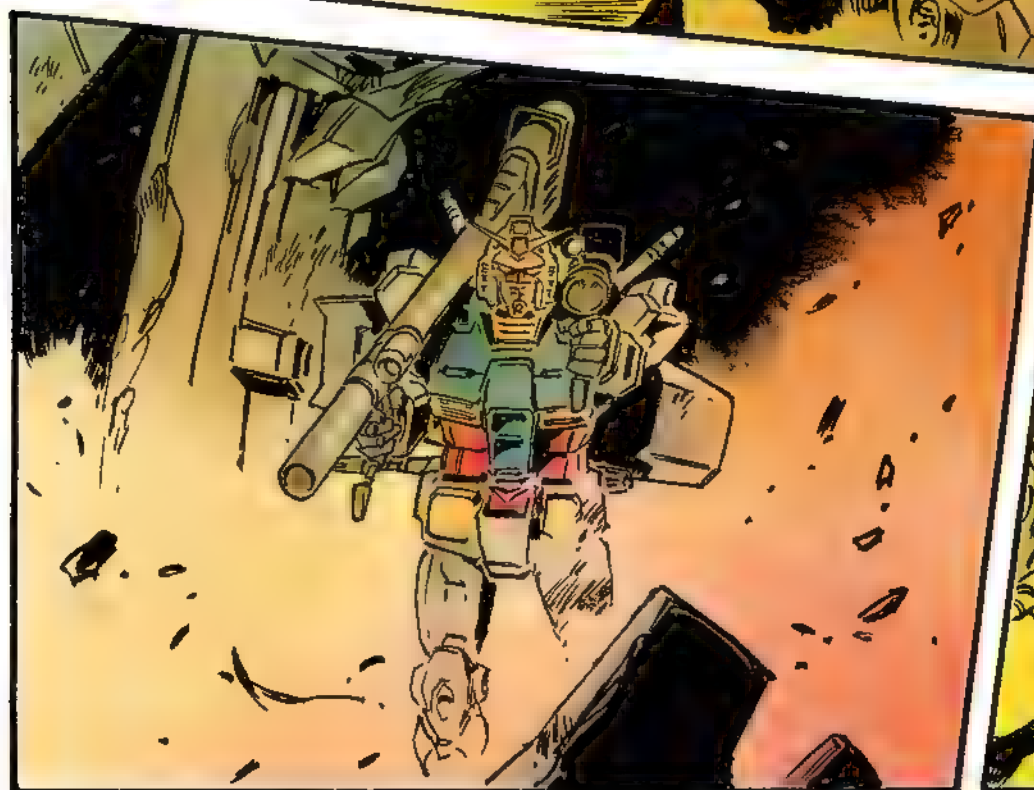
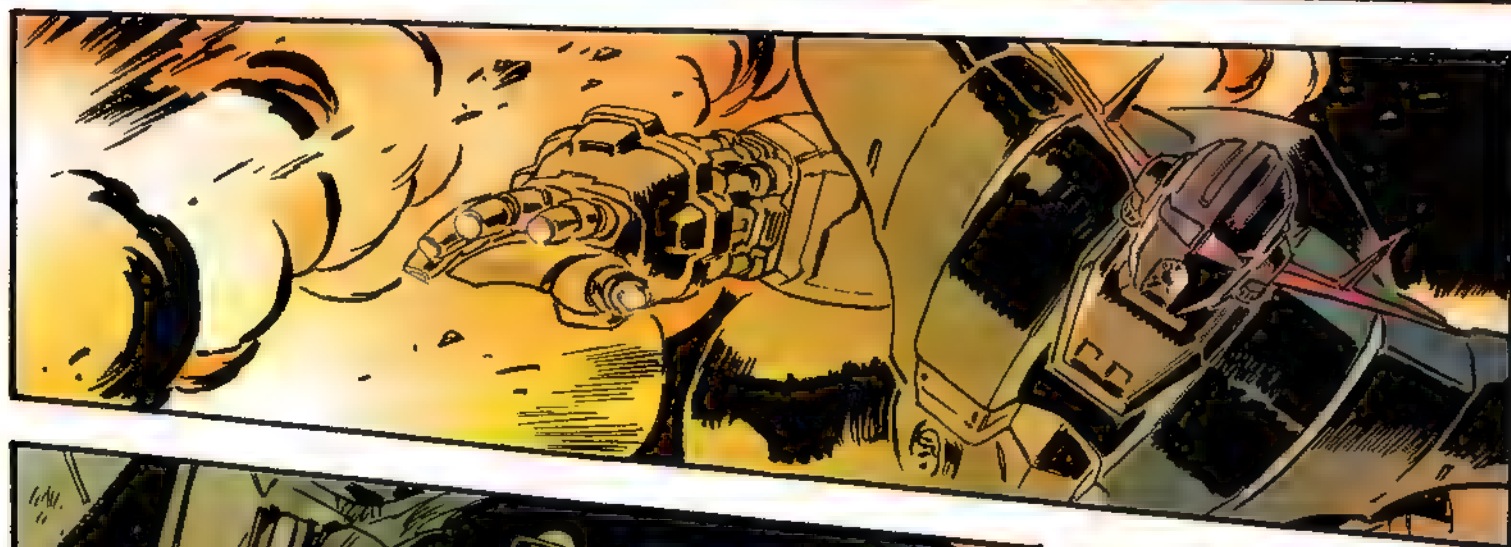
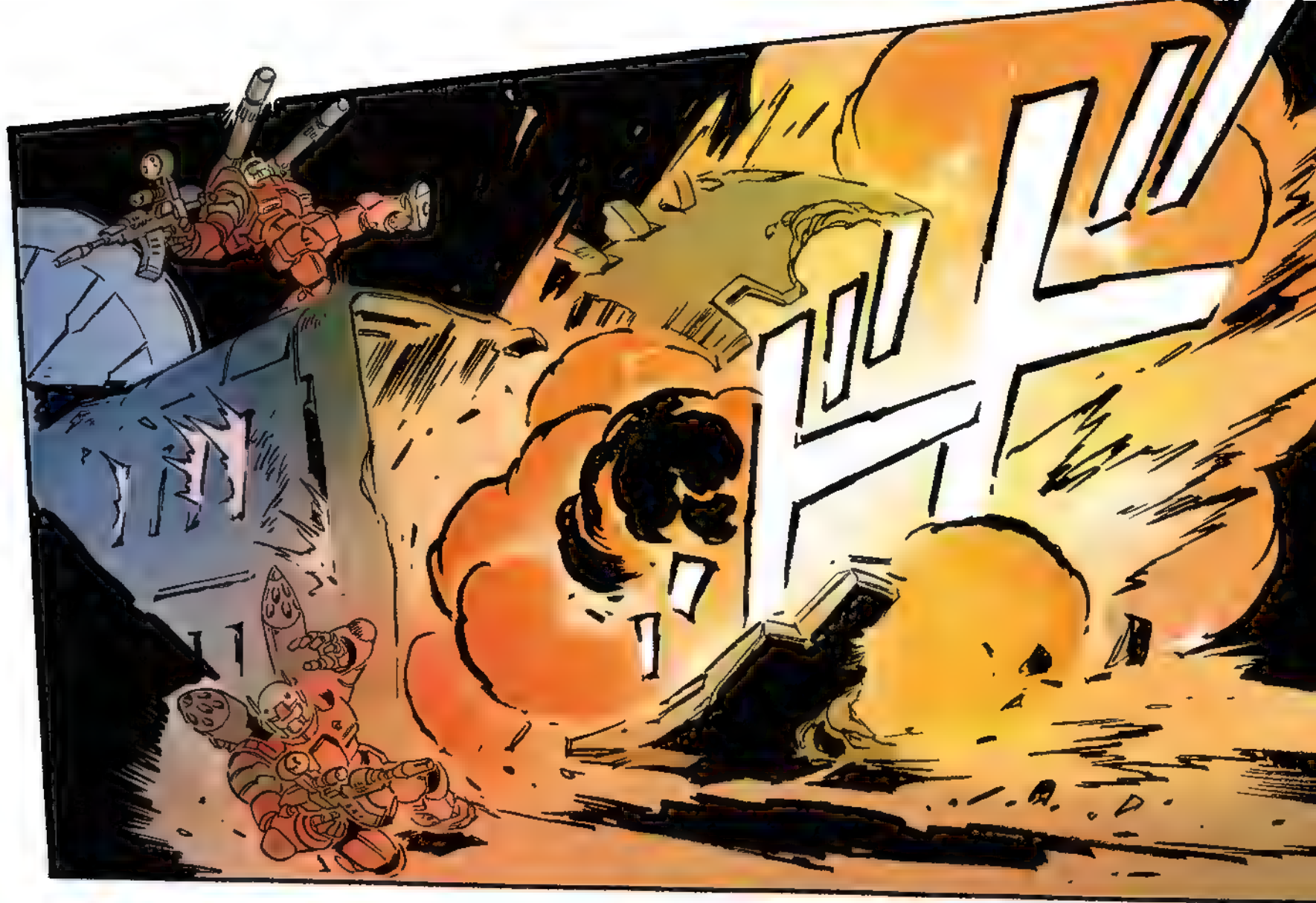
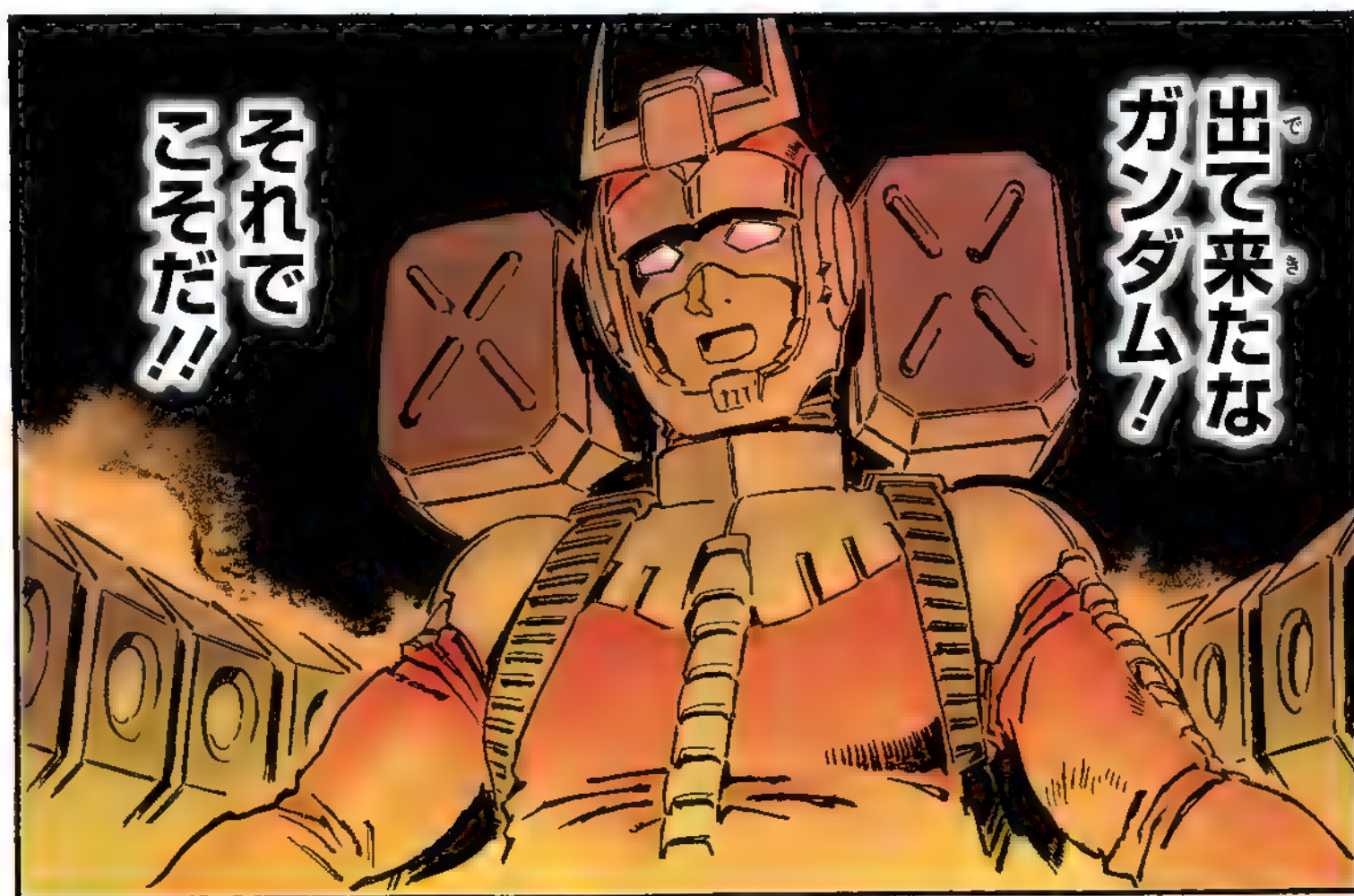
ひかる宇宙編・後—
SECTION
X

敵MS接近!
標的は本艦!!
甲板要員待避せよ
わあああ

フラウは船室（キャビン）へいけ！
アムロ!!
まってアムロ
フラウ!!
下（さ）がって
退避（たいひ）するのよっ

アムロ君！
すぐ出られるぞっ
ありがとう
オムルさんも早く下がって

うわあっ
なんだ!? 向かって来やがる!
カイさん撃ちまあす!!
来るな
来るなああ

区劃閉鎖!
気密隔壁おろせ!!

ブライトさん
ハッチが
やられた
左舷デッキは
もう使いものに
ならない
破壊して
出ますっ

ドド

出て来たな
ガンダム！
それで
こそだ!!

今日こそ決着を
つけるぞ！

ララァの〝あいつ〟と
同じか!?

はずし……

ケーブルつきか
でも
速い！
速い……
けど
見えてる

シャア!
アムロ君
君と判りあえず
こうして
闘い続けているのは
残念だ……
だが
決着はつけねばならんのだっ
こっちこそ!

Nフィールドの敵は駆逐しました！
M-1ベイではなお戦闘中
F・Gラインに敵MS侵入！
詳細確認中!!

ズーン
ドン!
ズウウウン

なんだ
この振動は?

この司令室に
それほど近接した
戦闘区域はない筈
どういうこと
なのだ!?
はっ

司令部警護隊の
ごく一部が反抗的
行動に出たため
只今これを
鎮圧しているので
ありますっ!

叛乱
だと?!

チュン!
チュウン!
それっ
司令室を奪られん!!

キシリアなんかの好きにさせるか!!
あの雌ギツネ野郎オ!!
うわぁぁ…

死ねい
グラナダの叛徒どもォ!!

わあああ

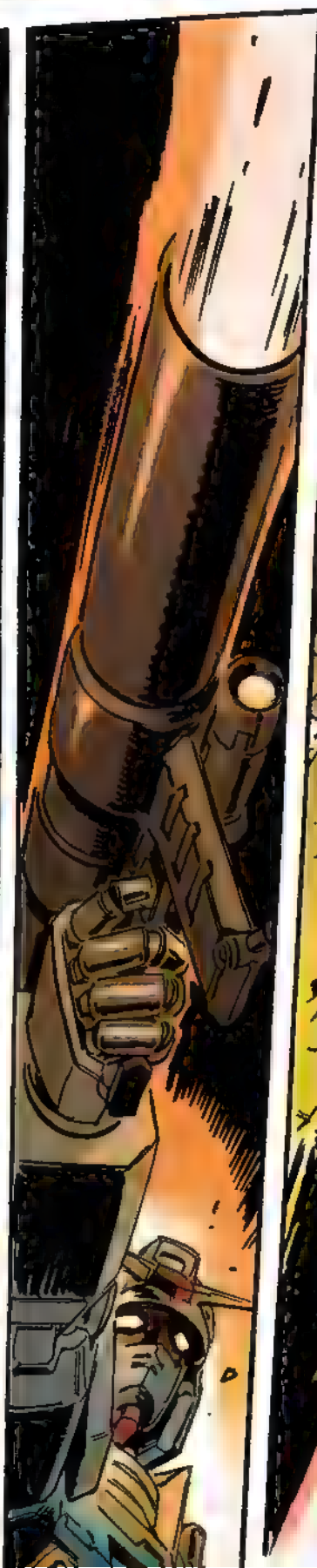
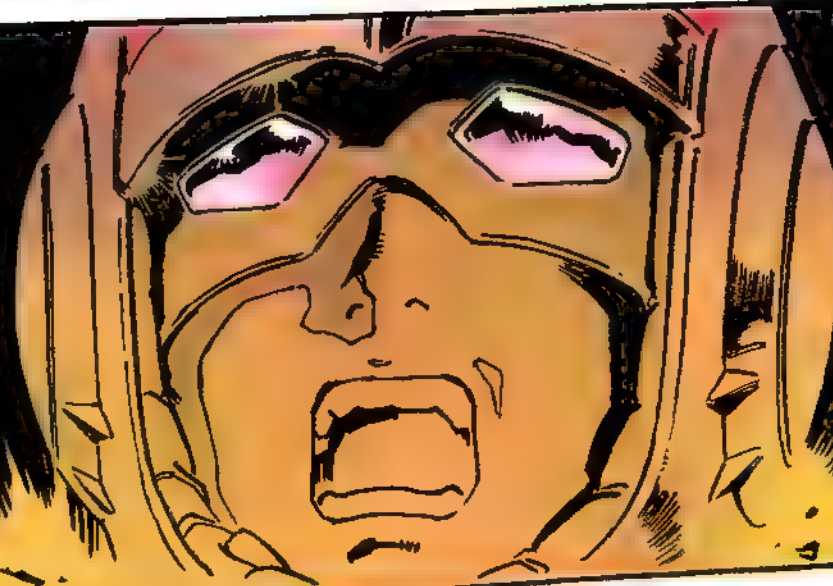
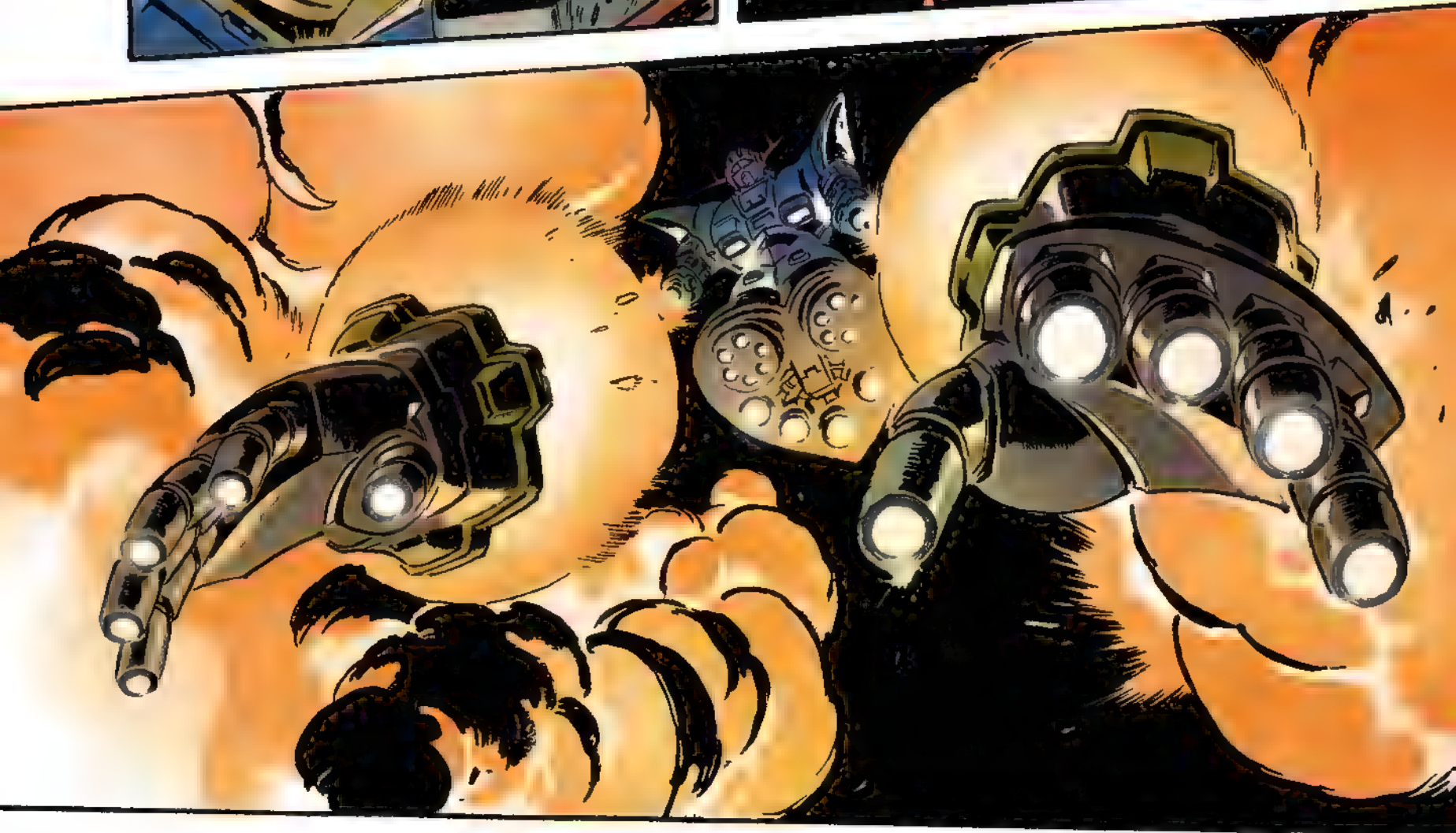
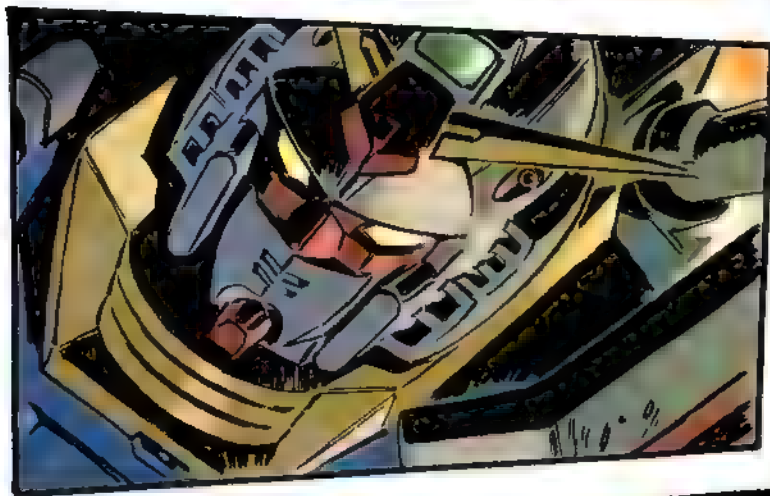
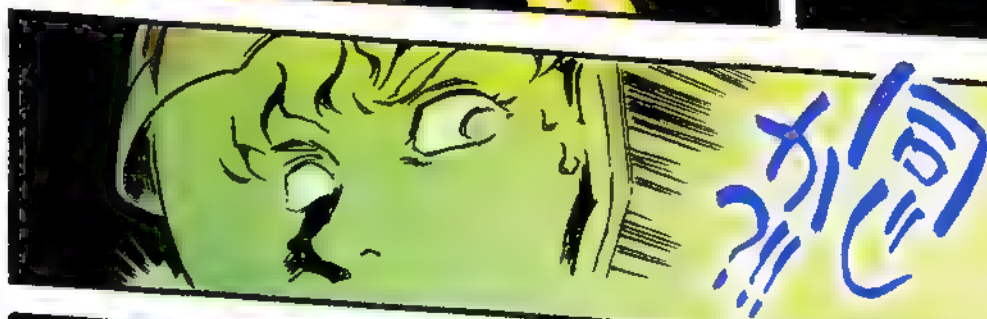
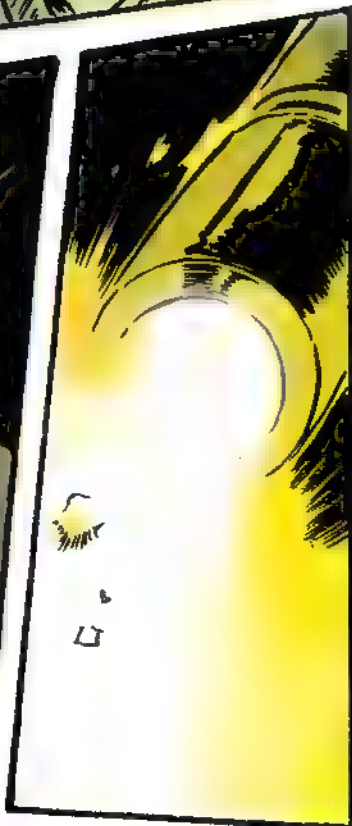
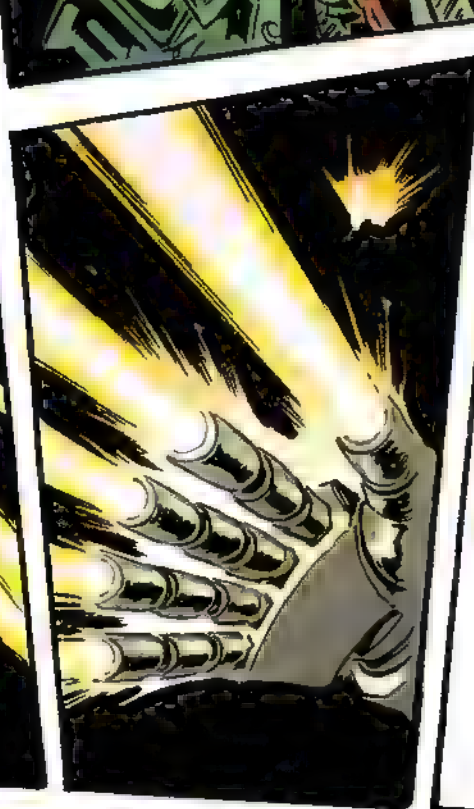
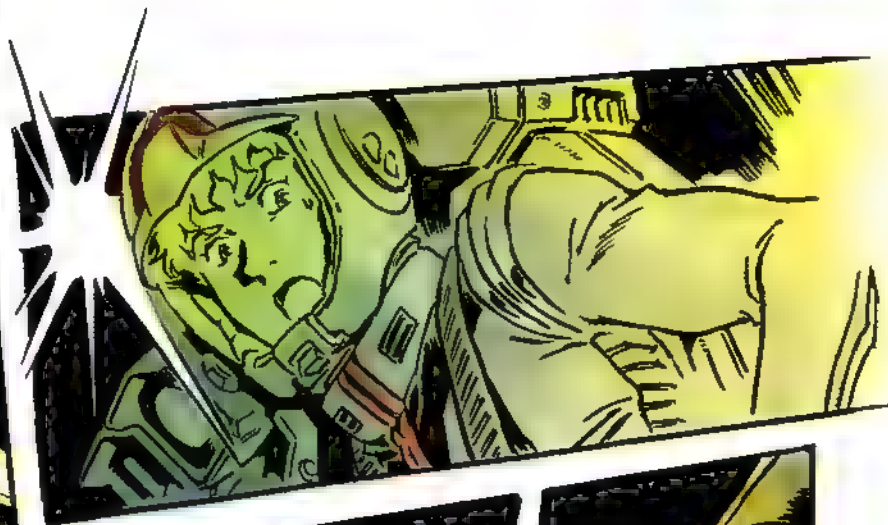
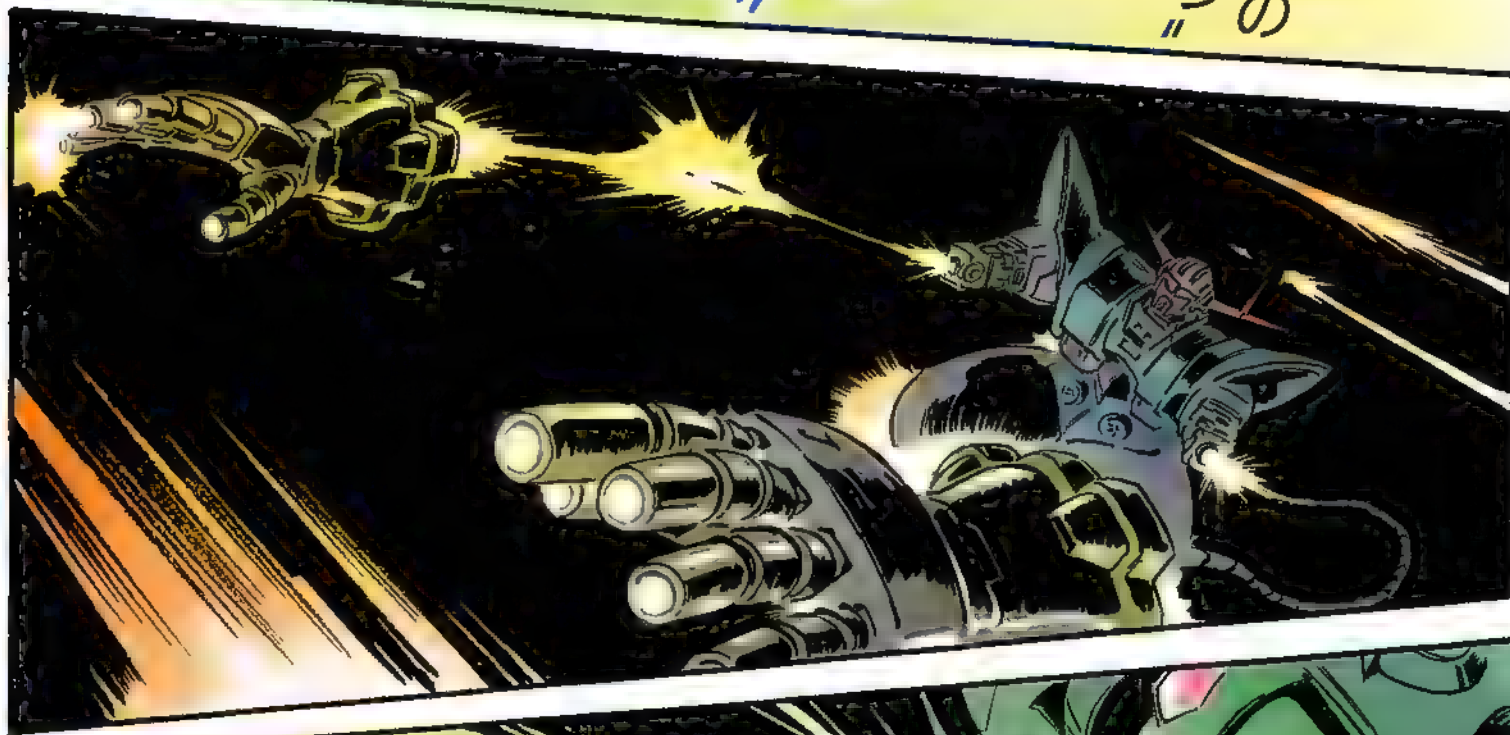
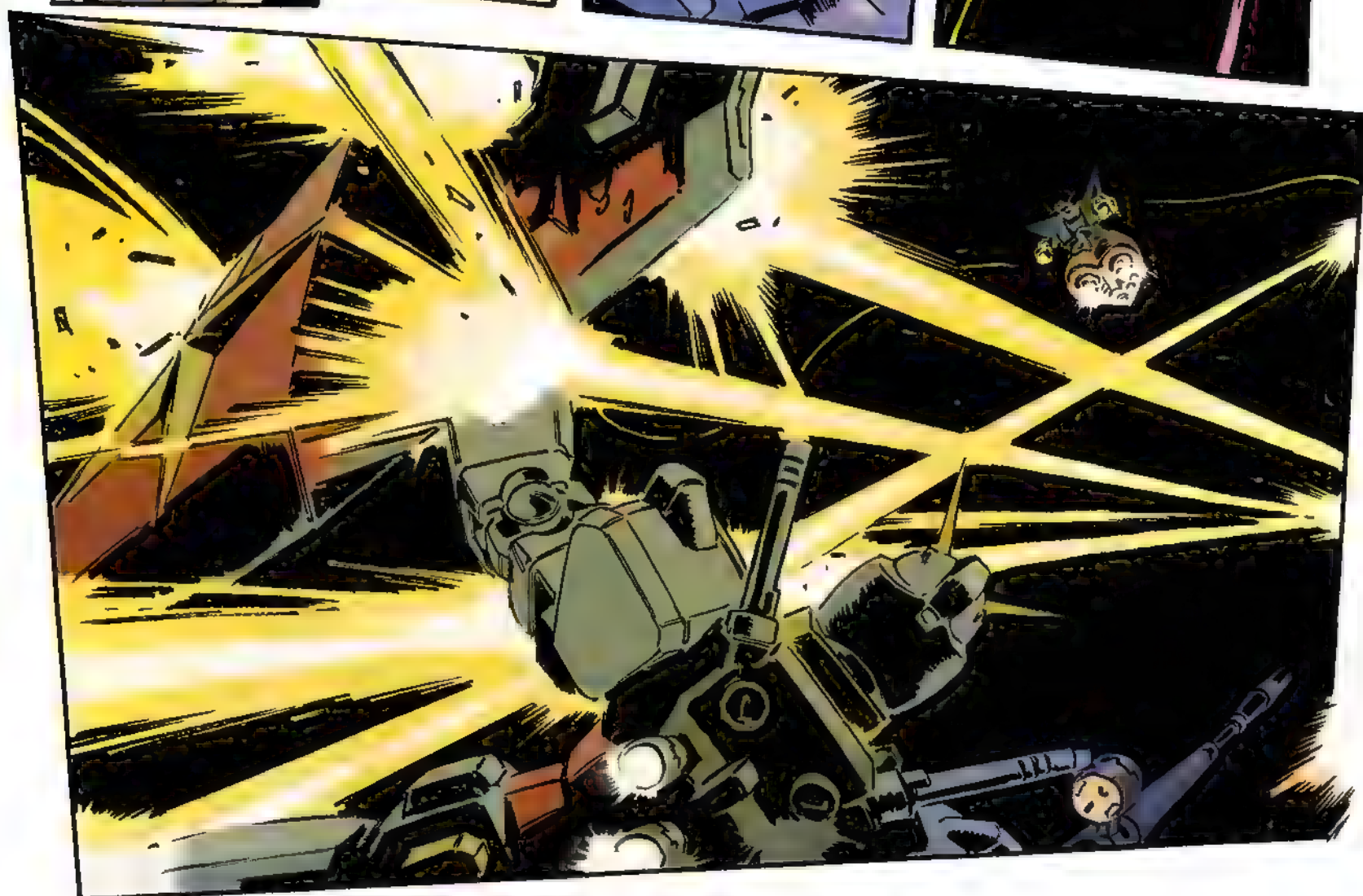
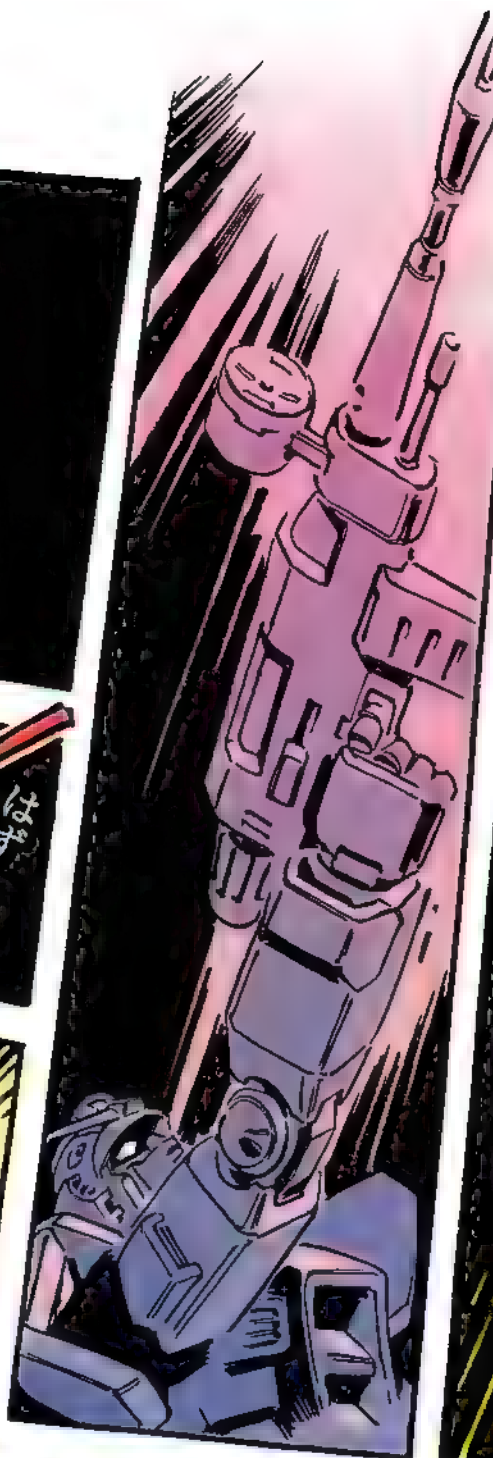
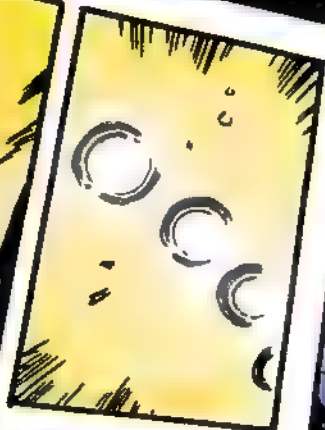
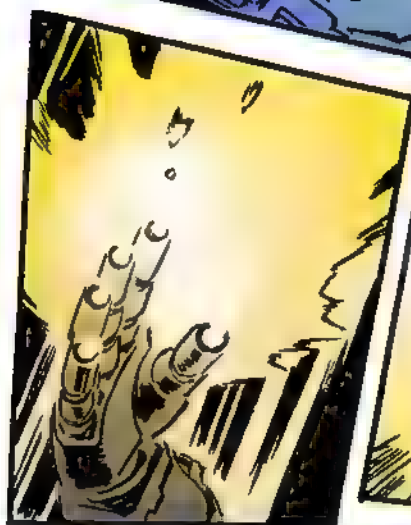
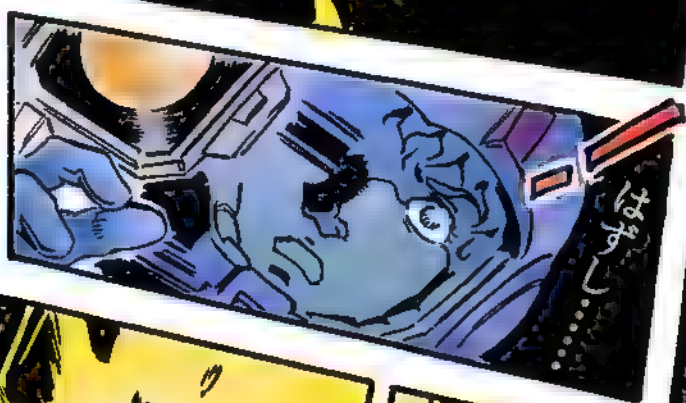
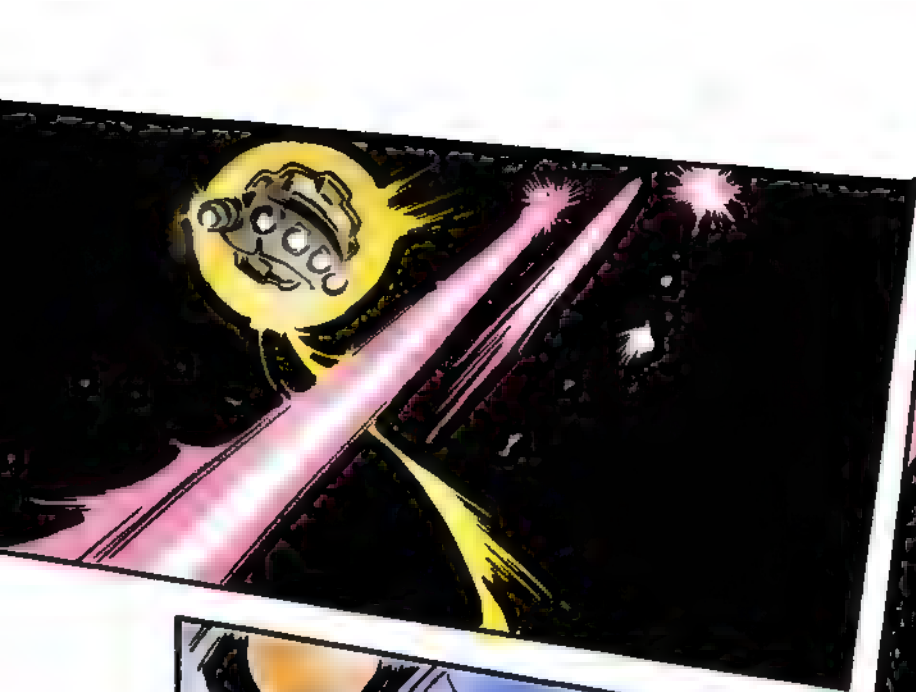
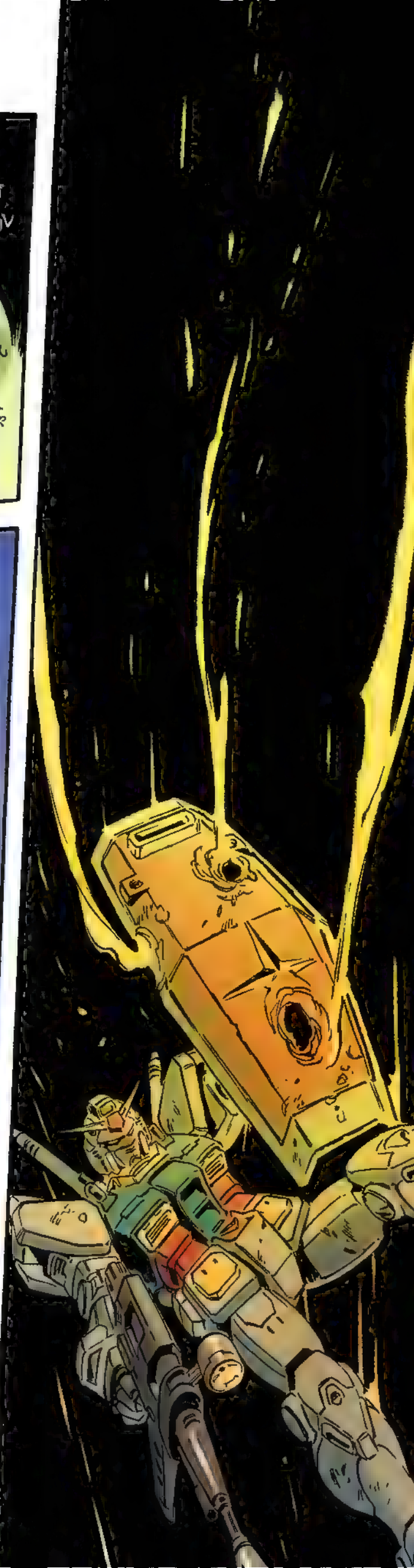
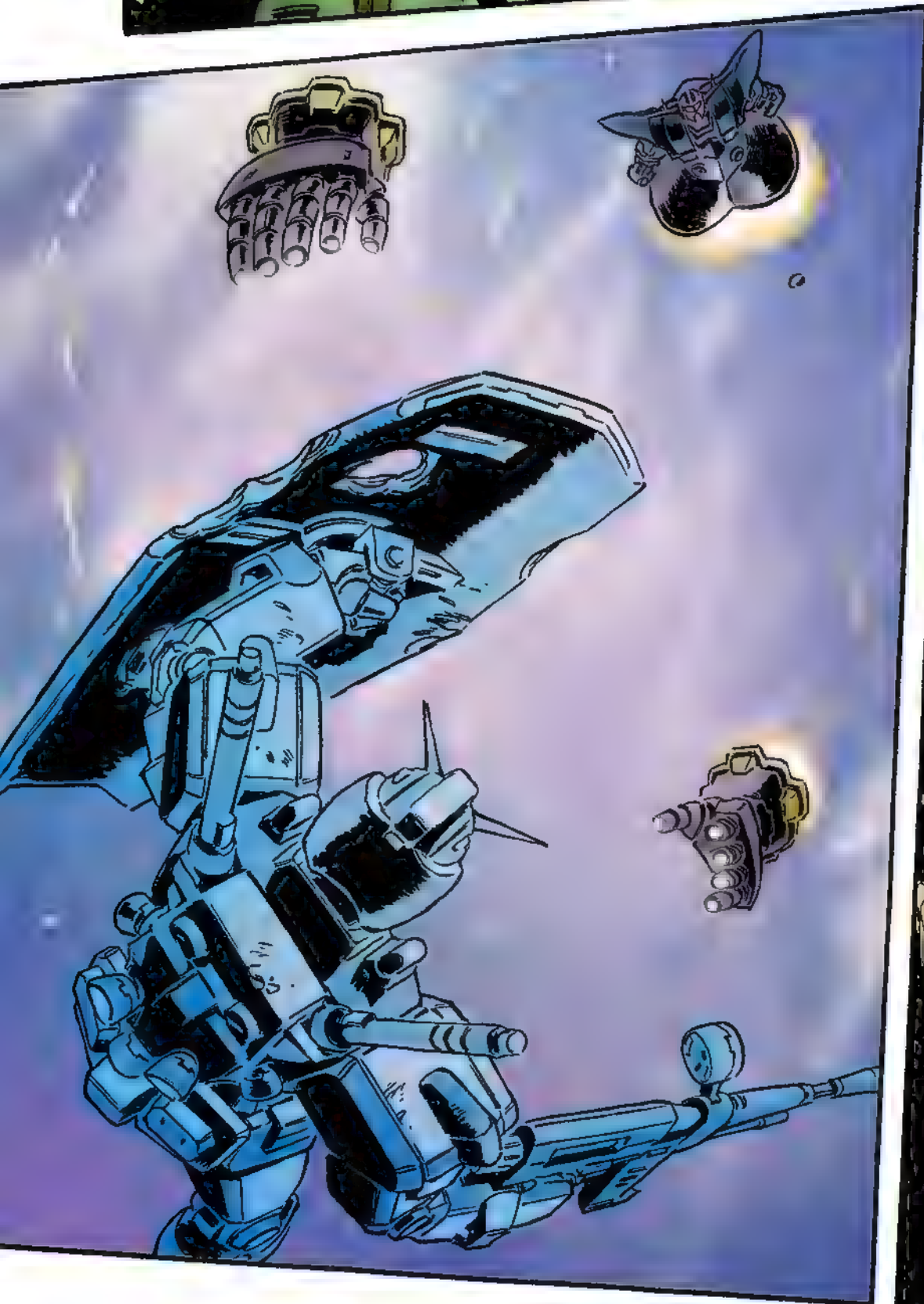
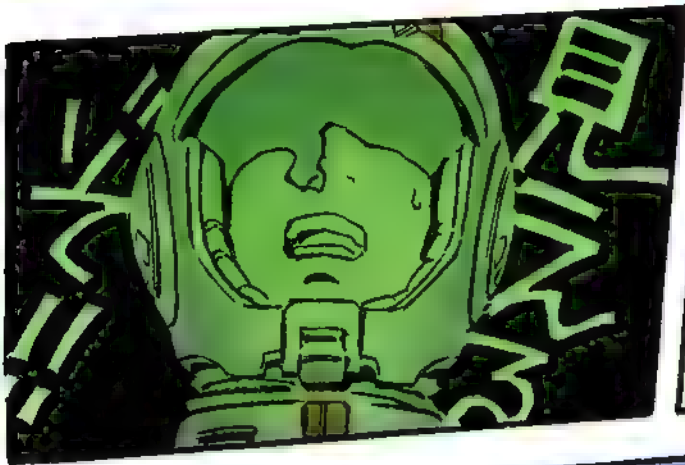
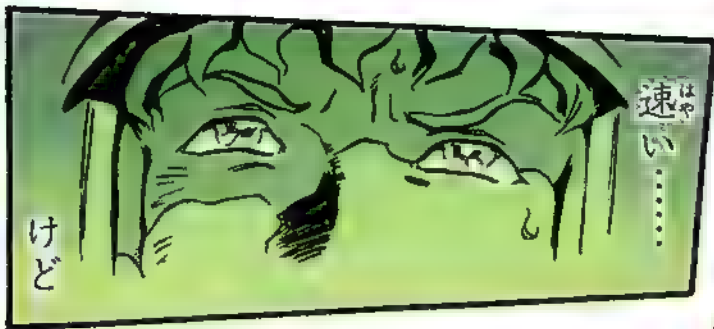
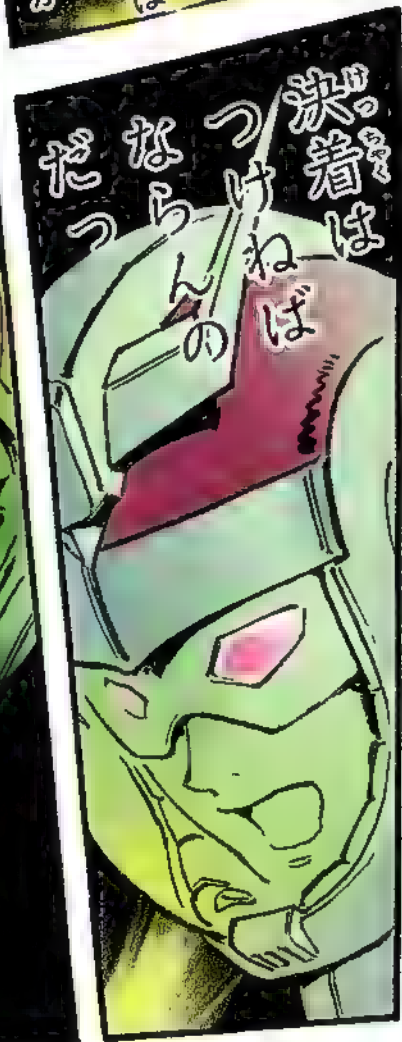
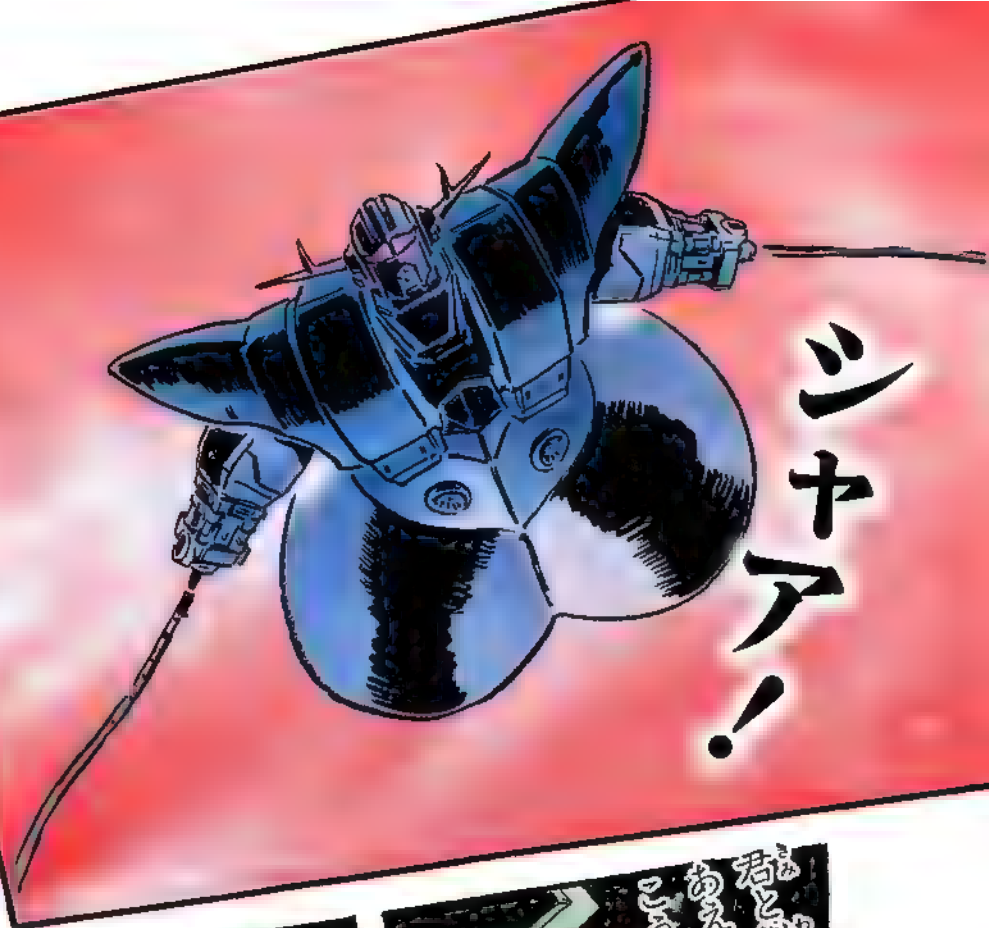
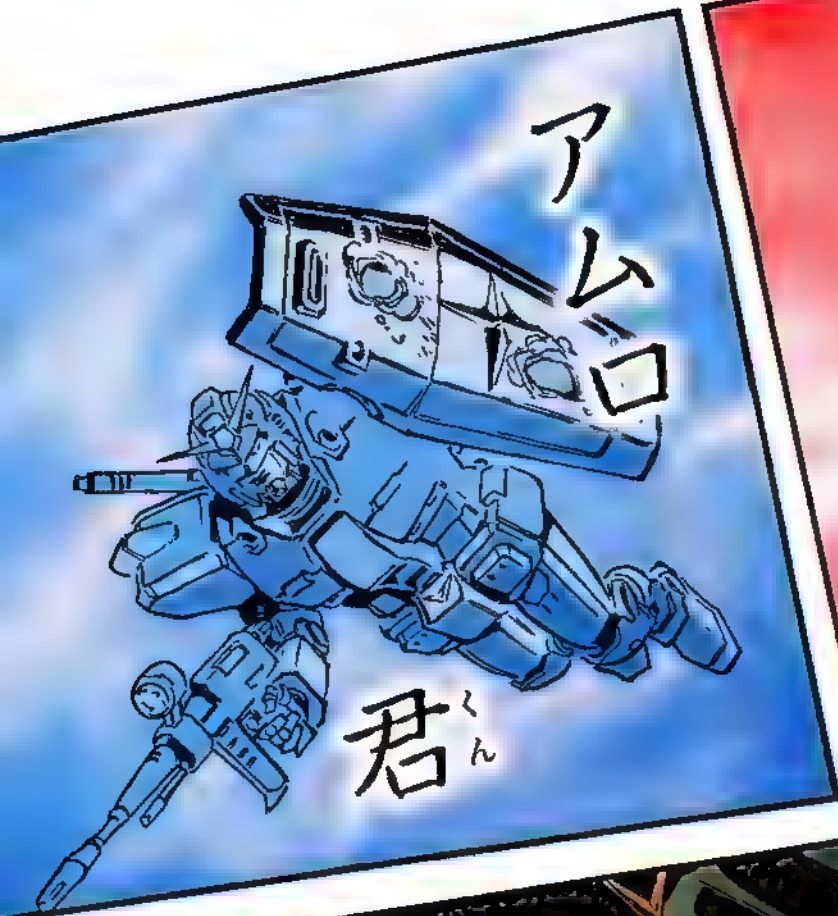
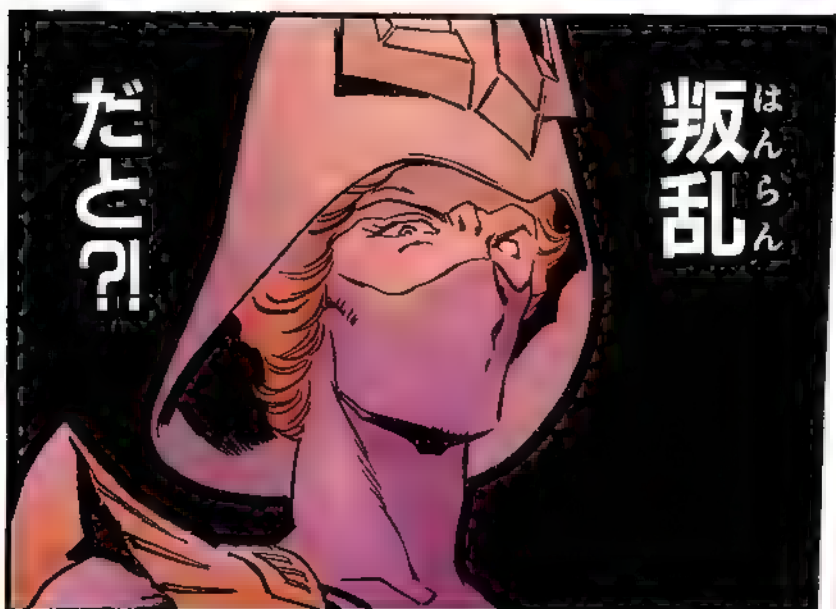
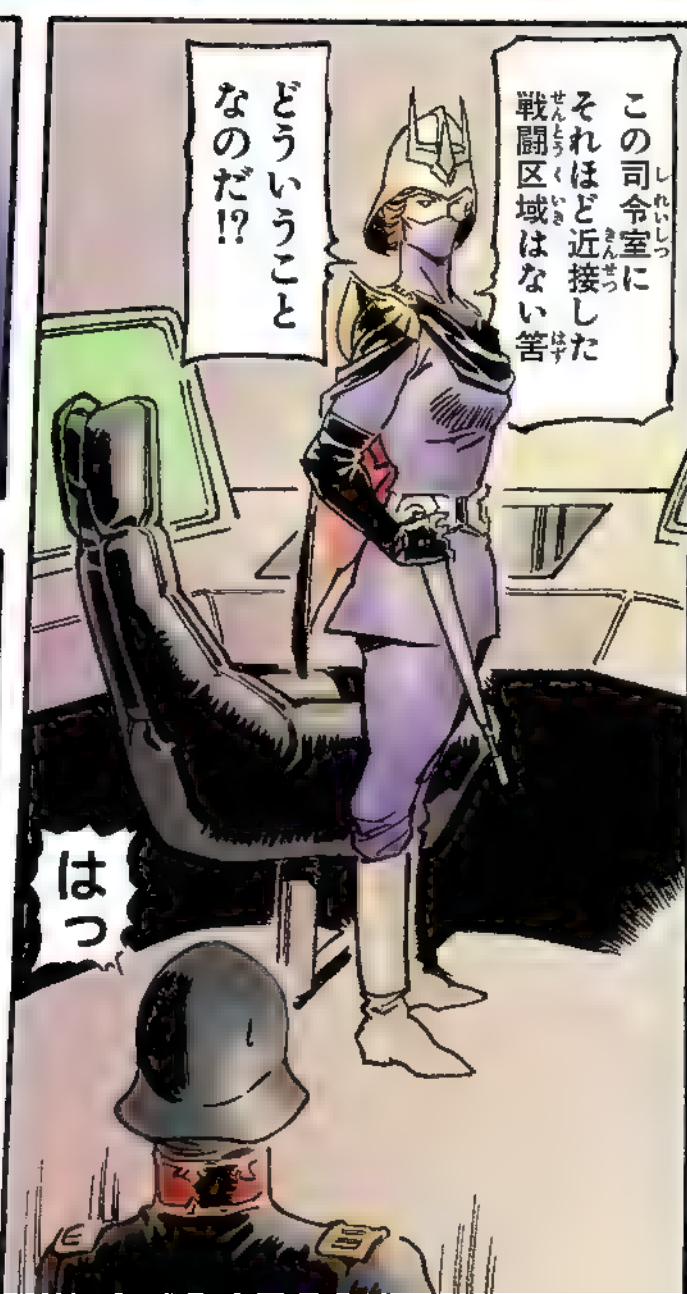
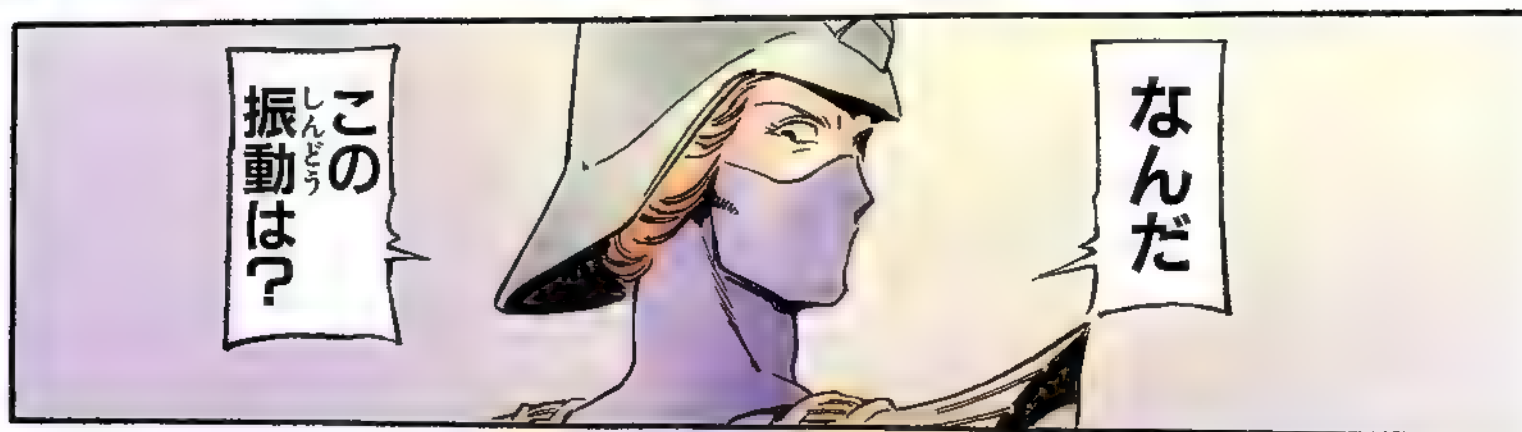
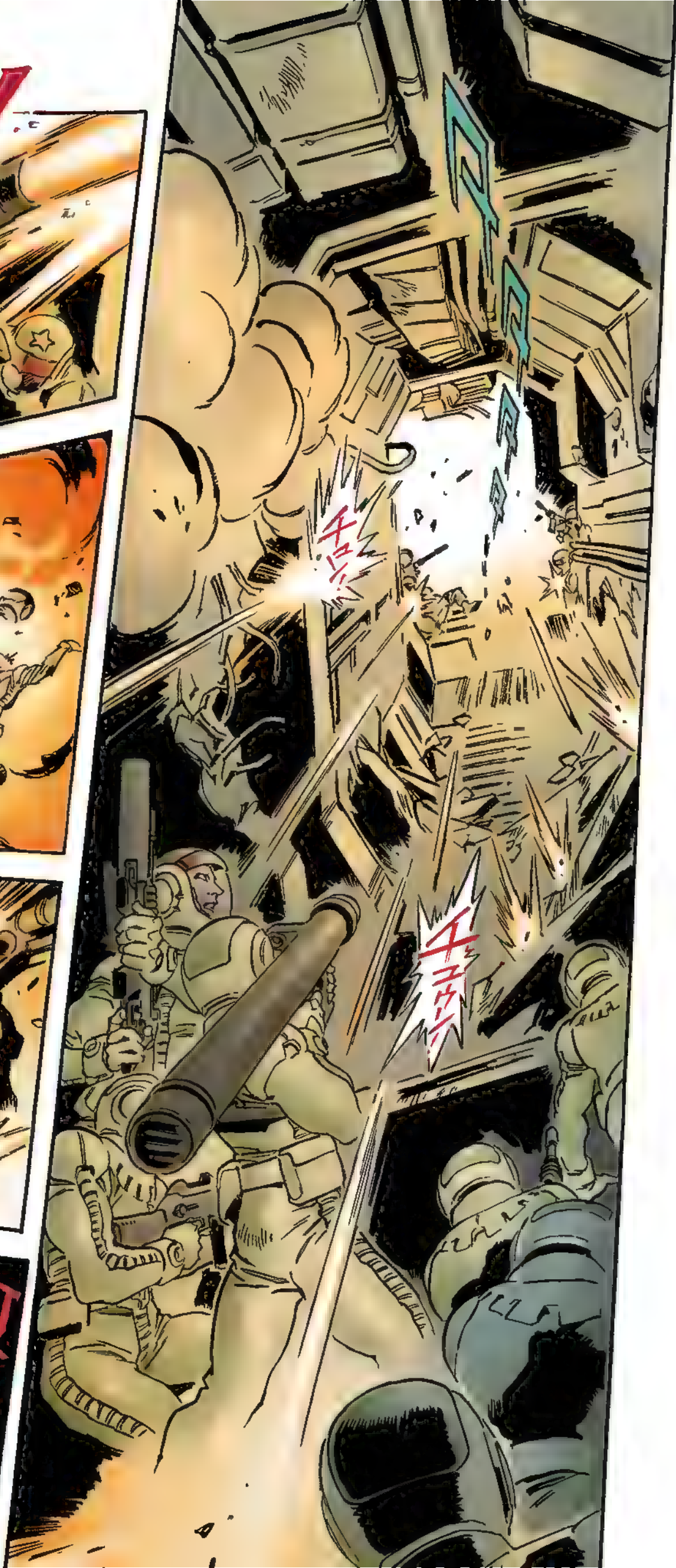
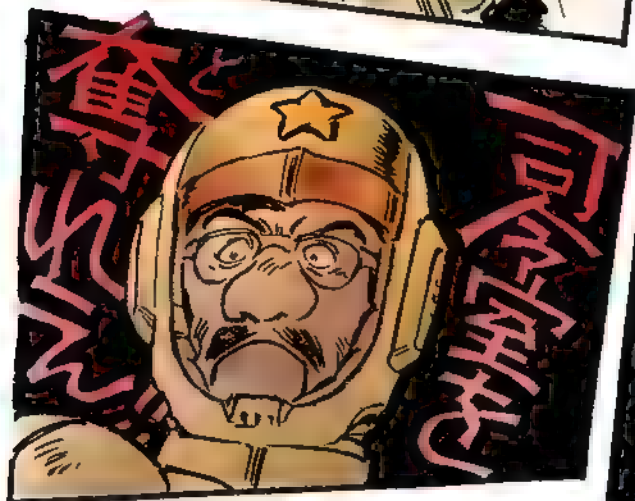
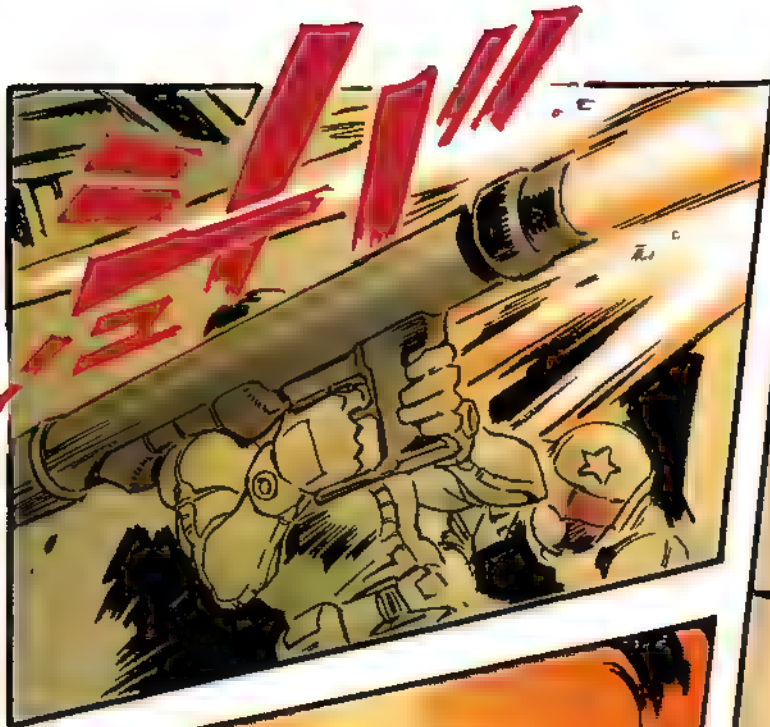
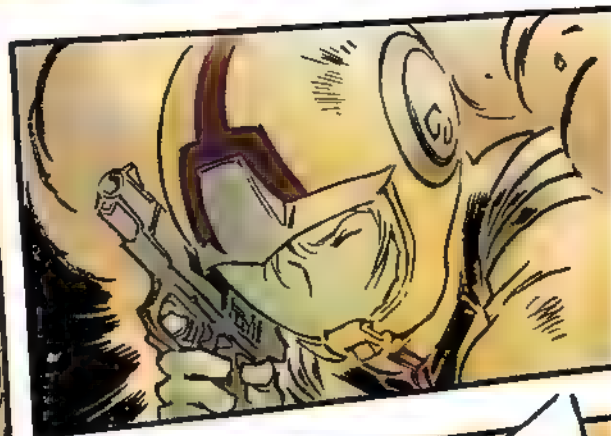
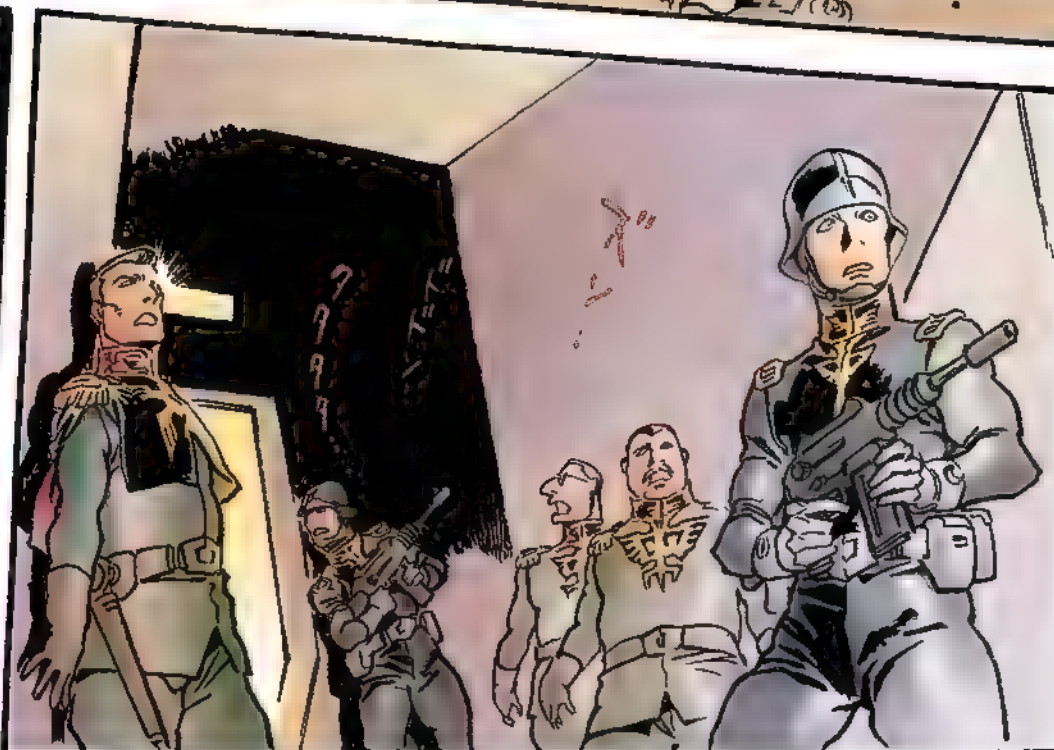
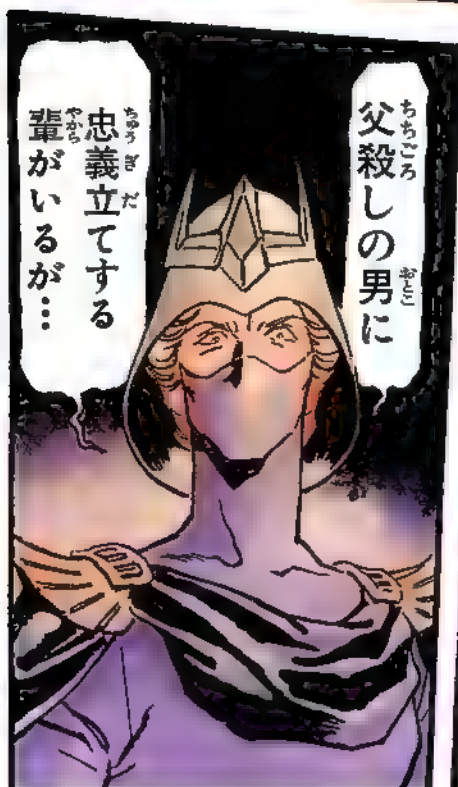
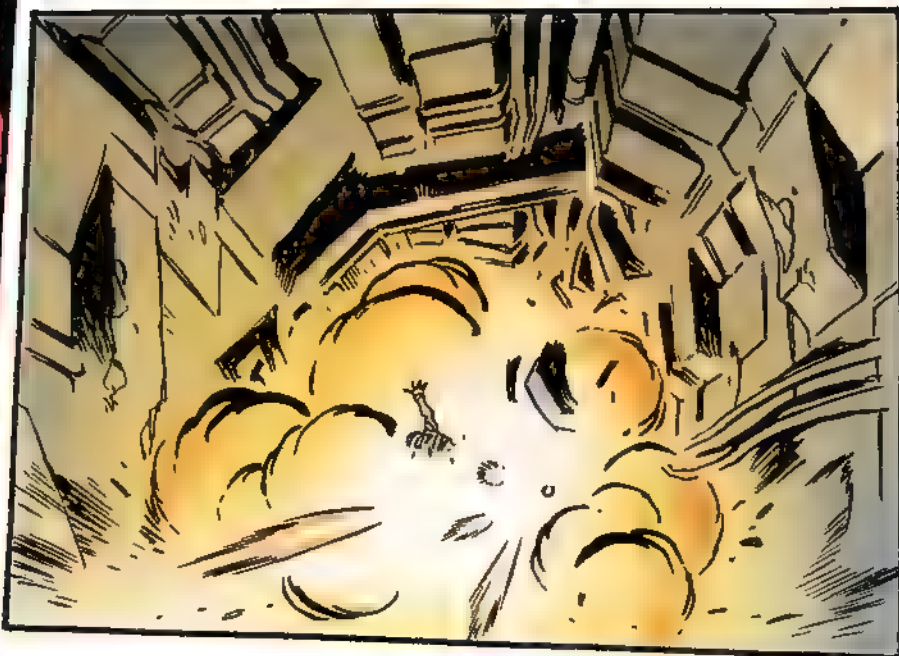
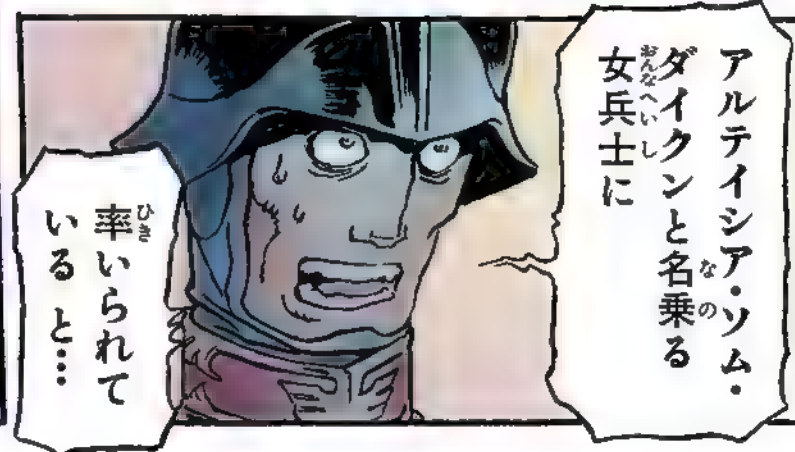
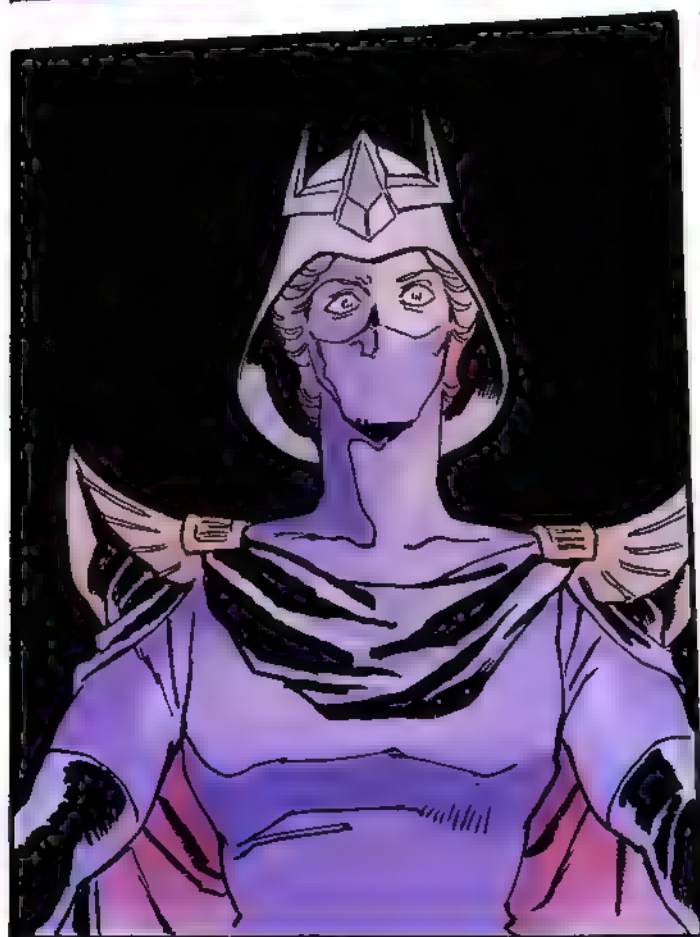
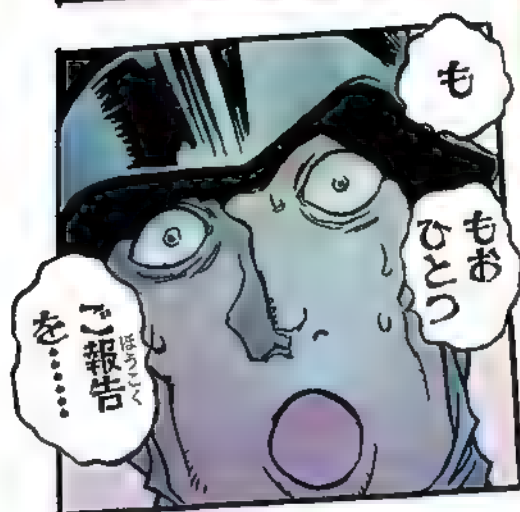
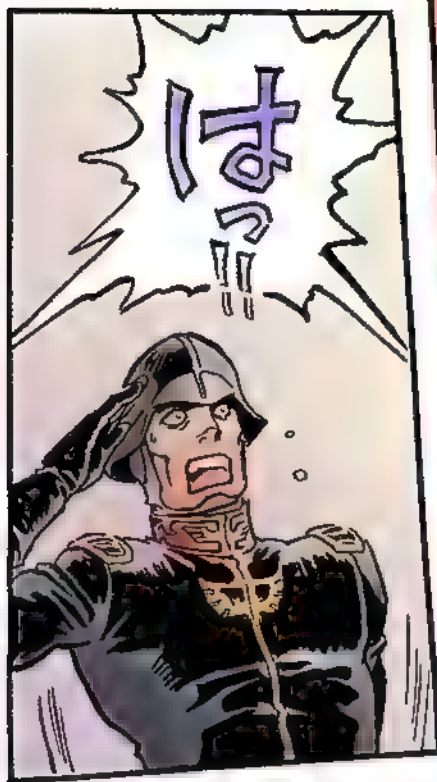
父殺しの男に
忠義立てする輩がいるが…

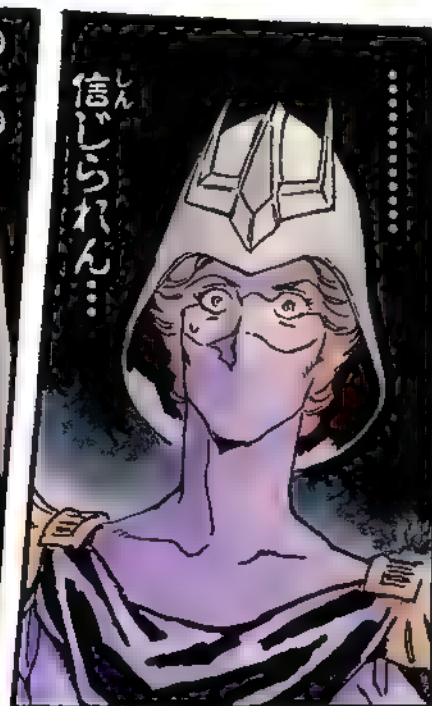
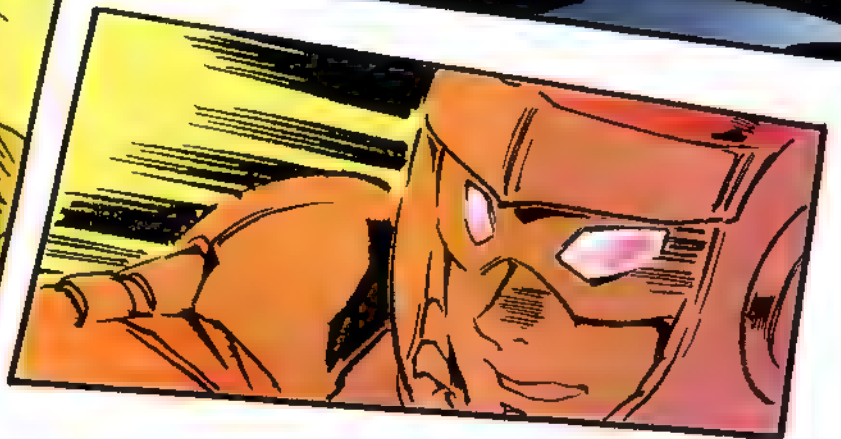
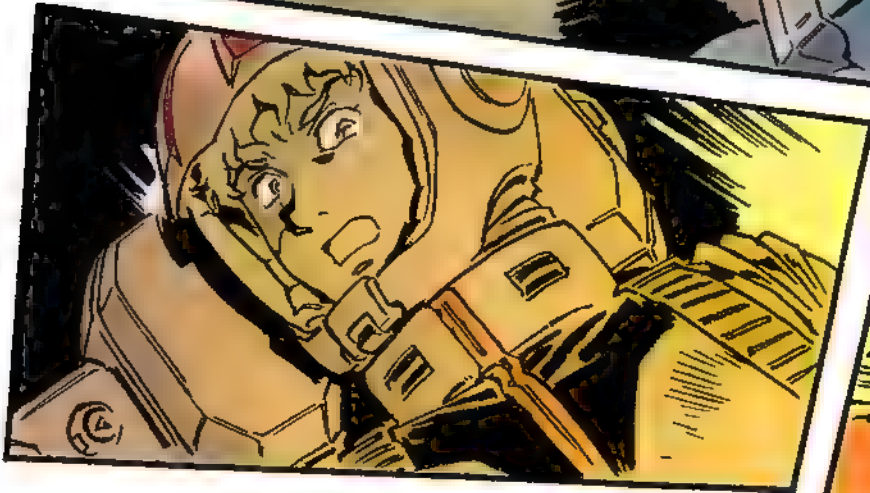
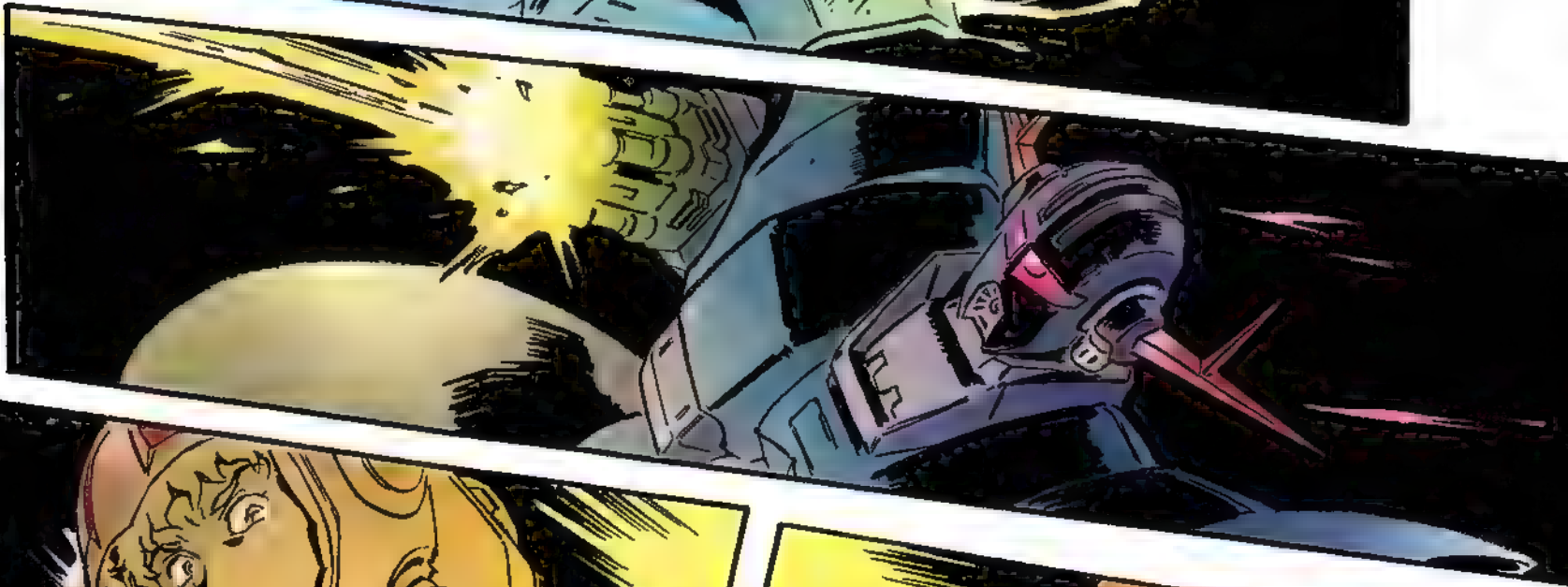
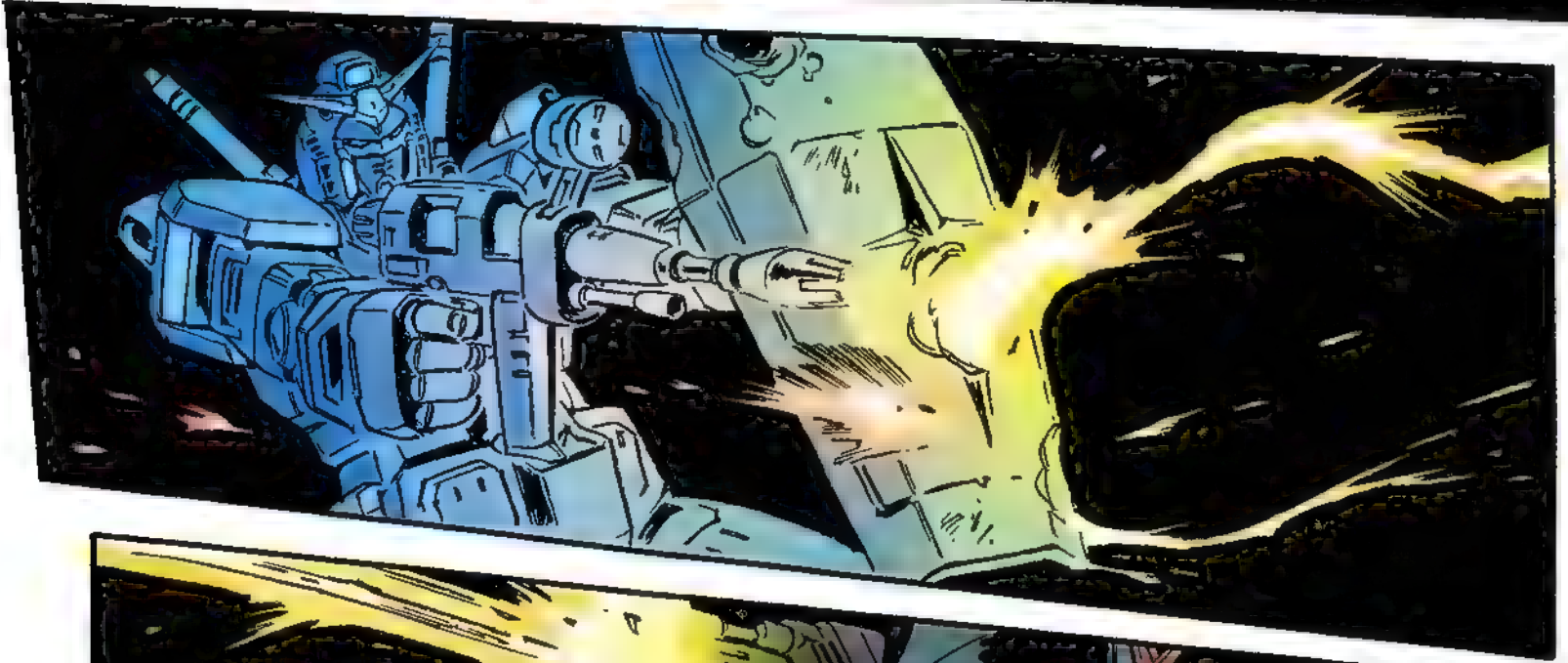
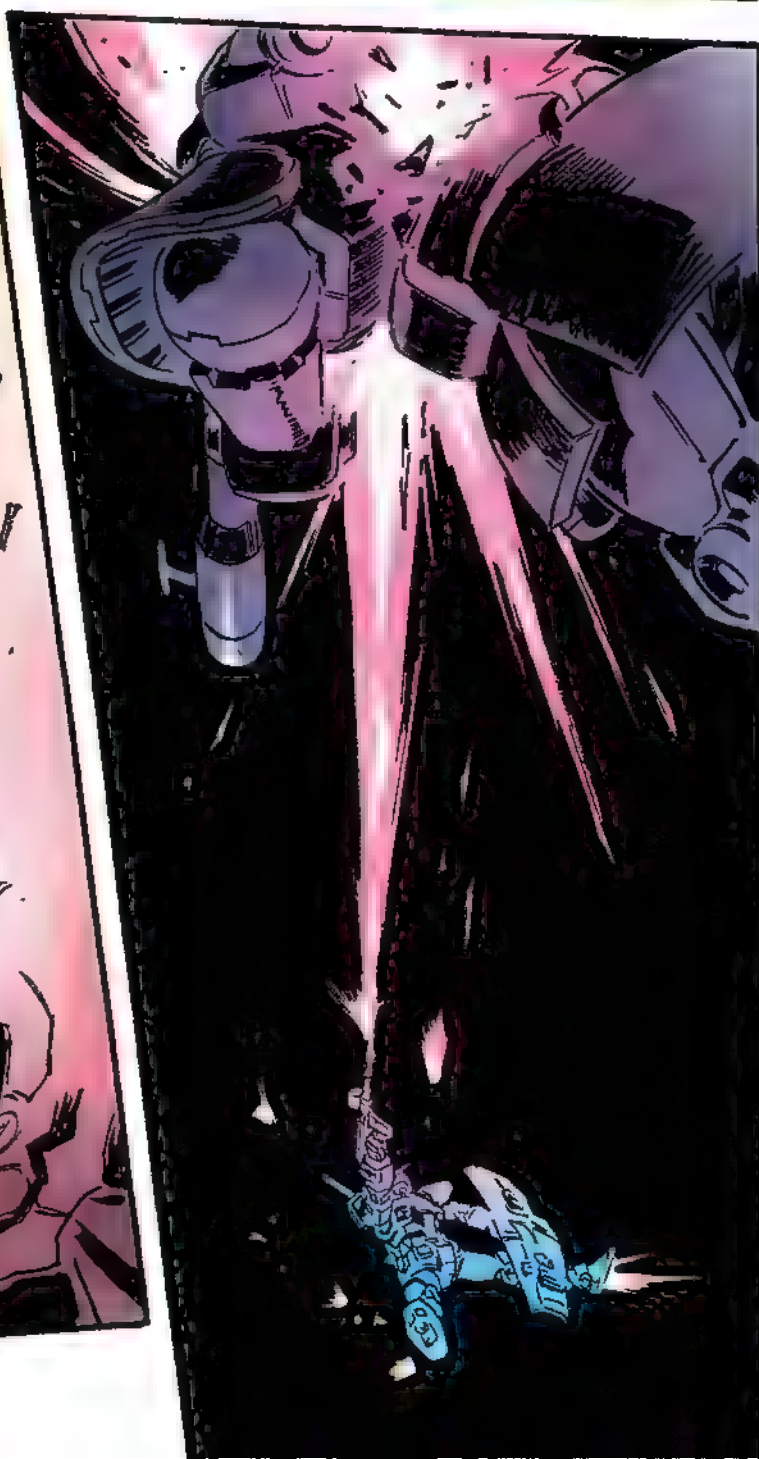
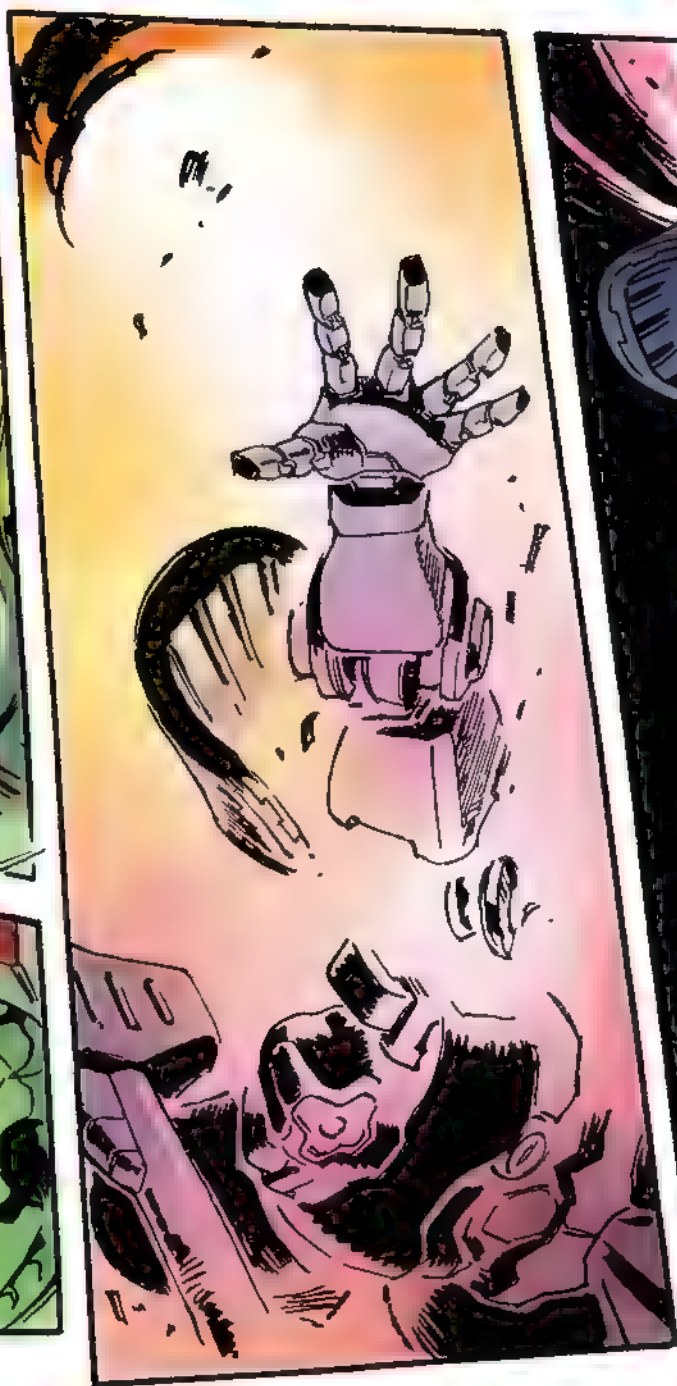
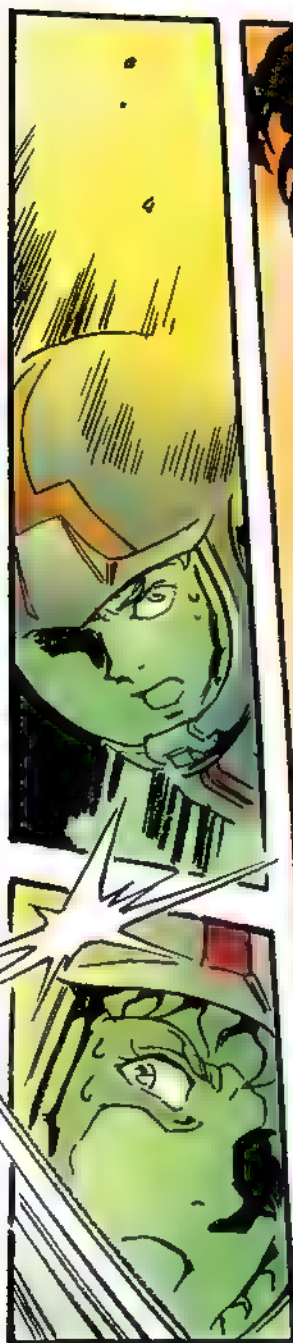
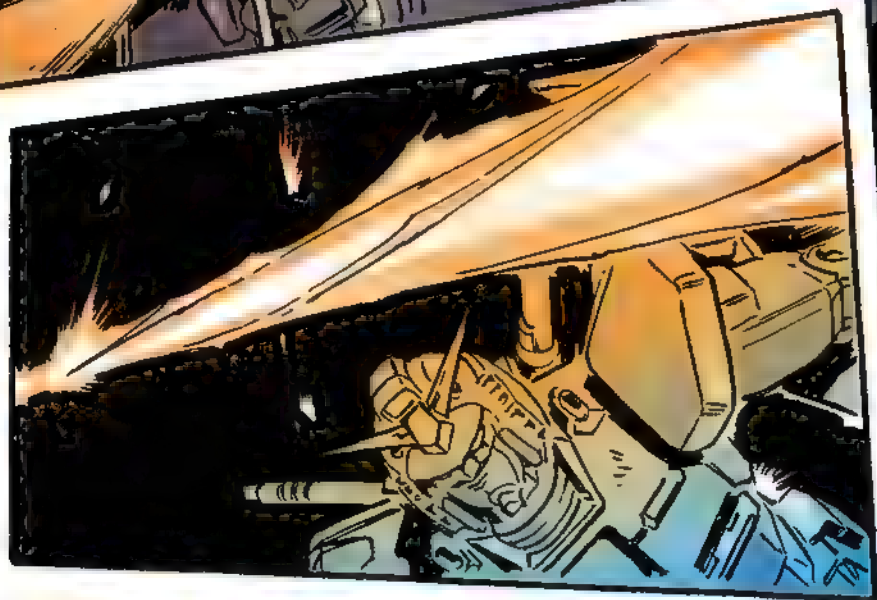
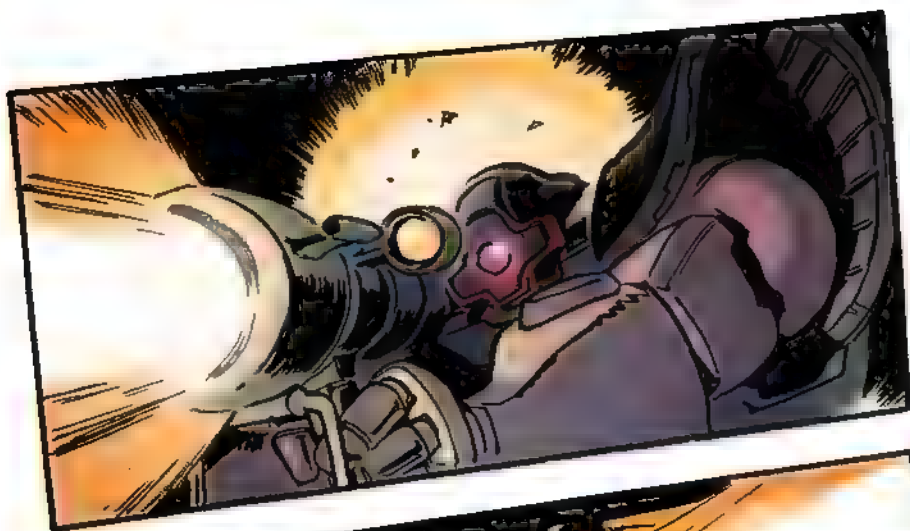
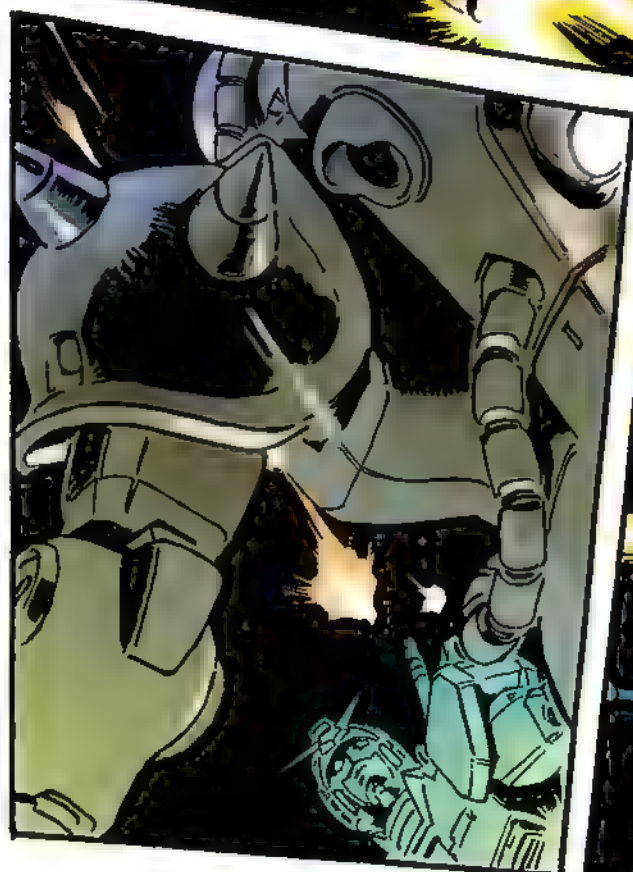
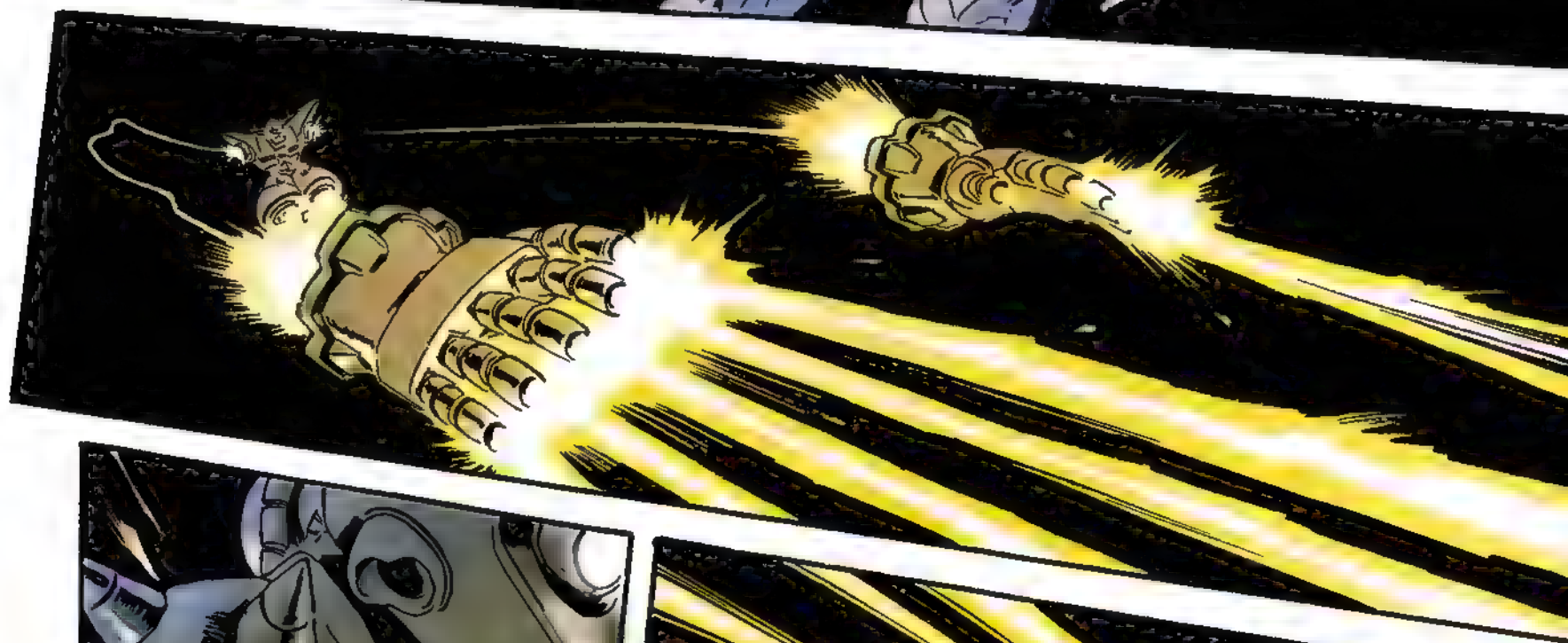
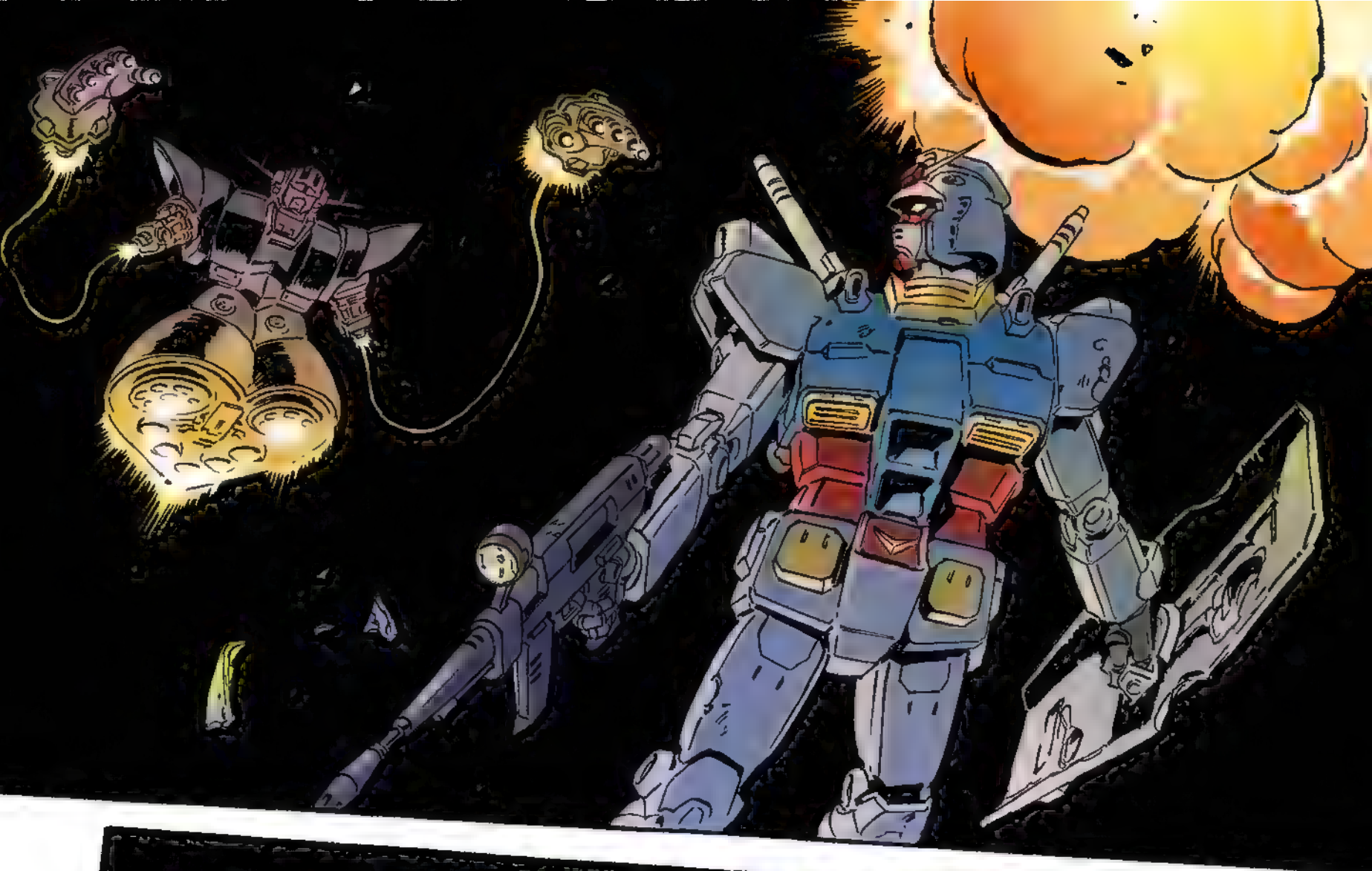
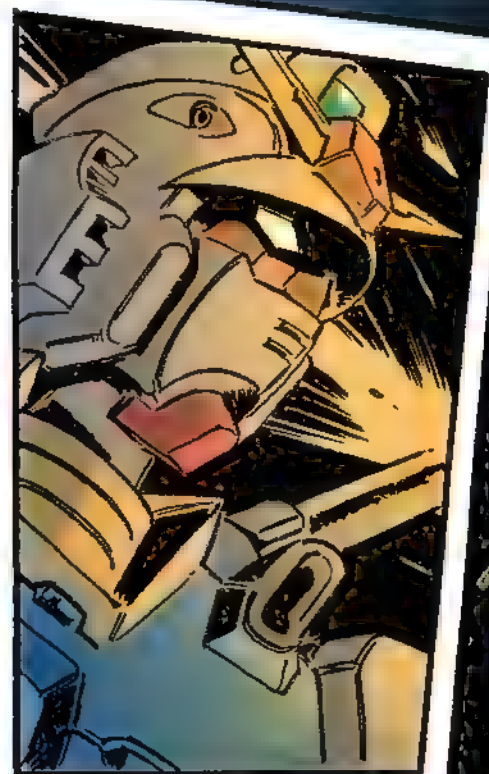
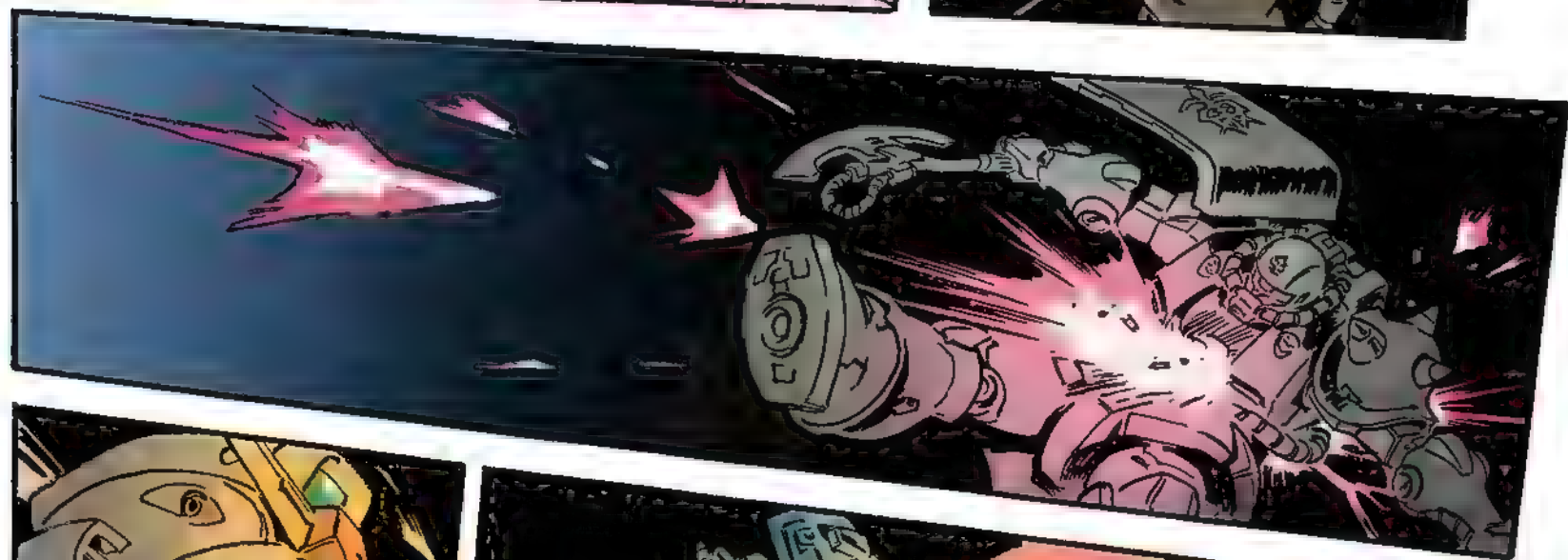
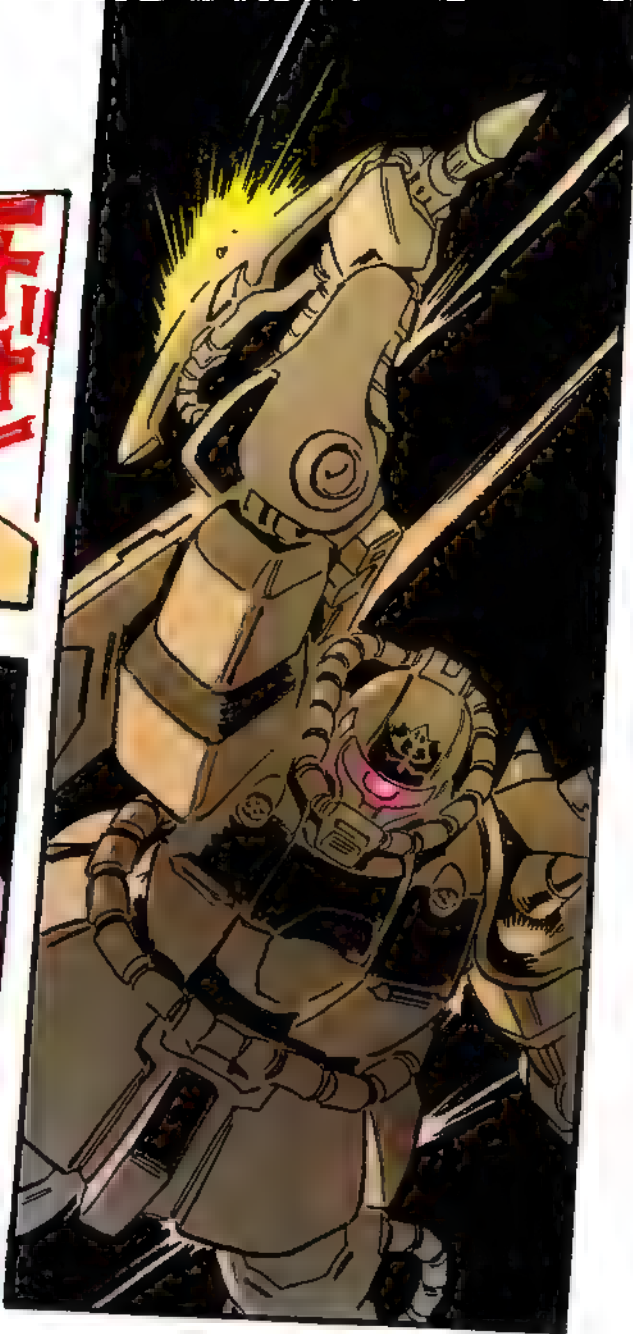
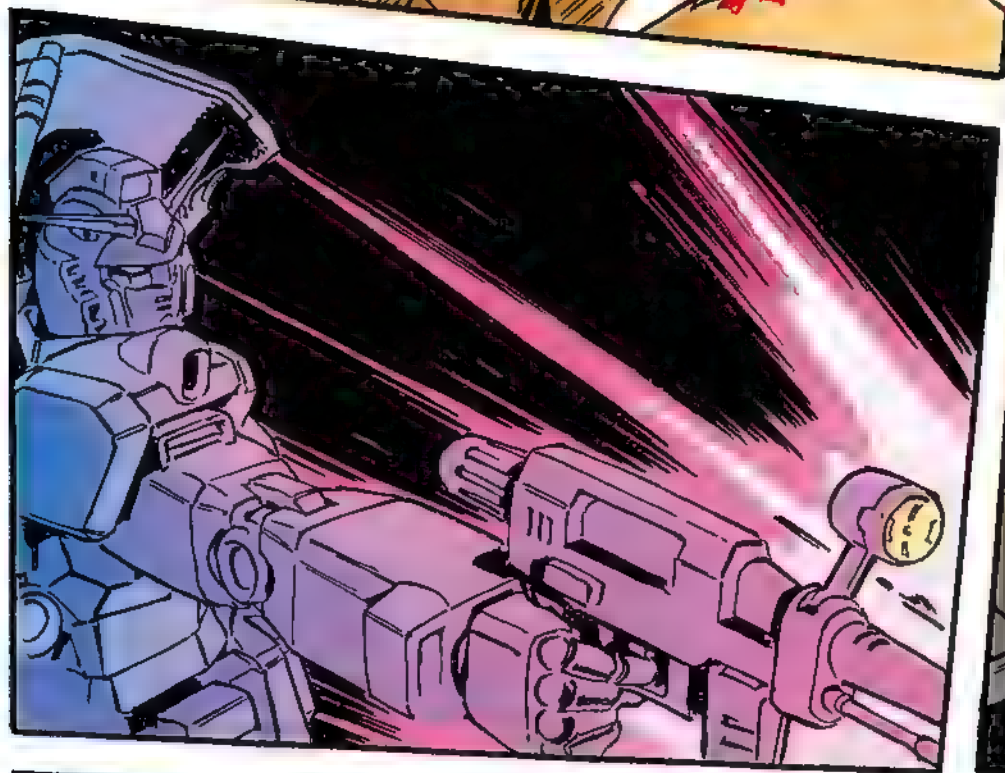
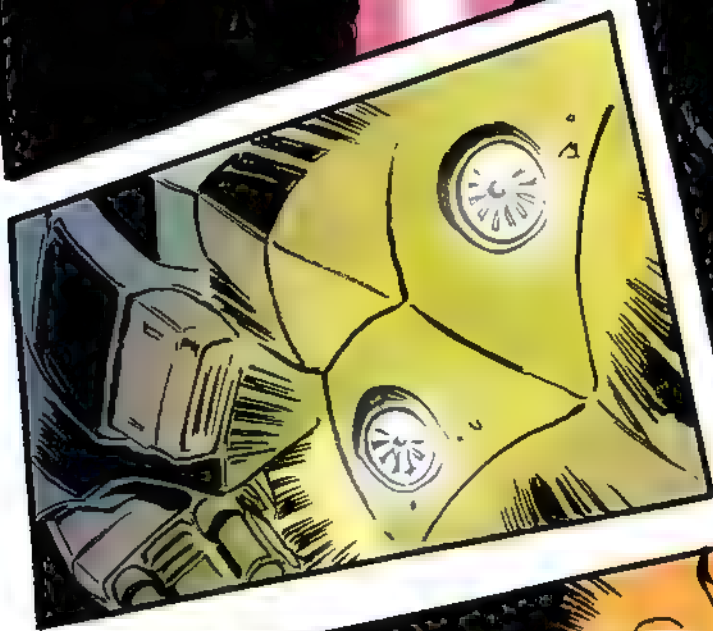
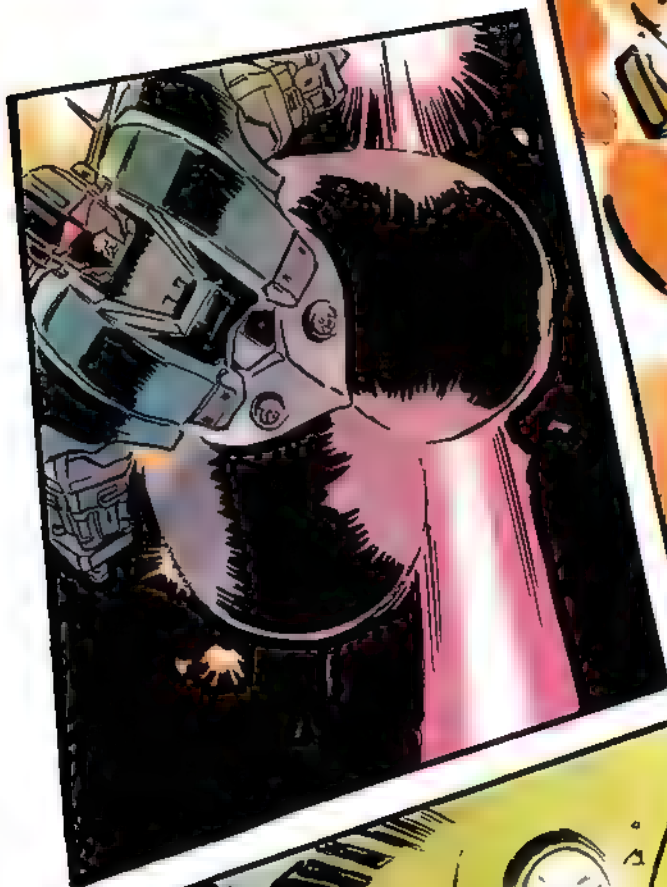
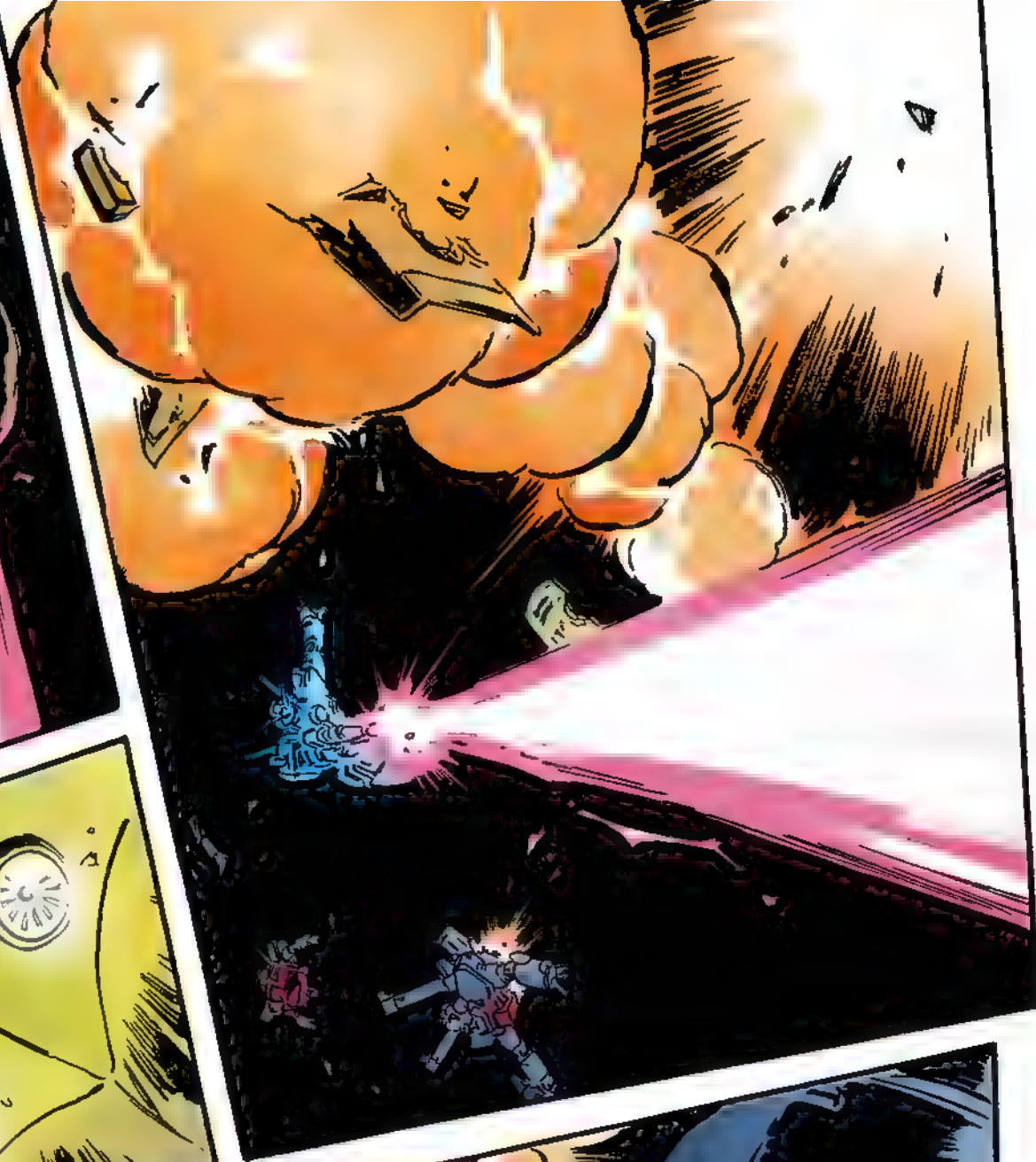
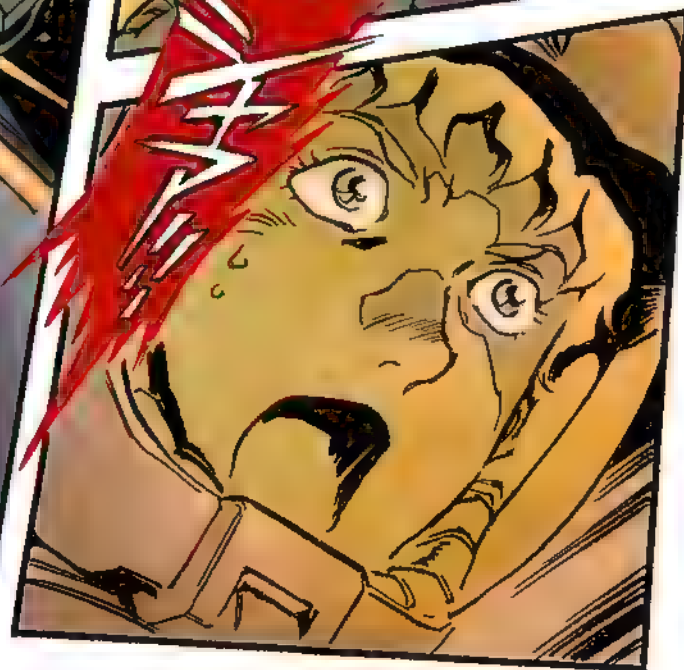
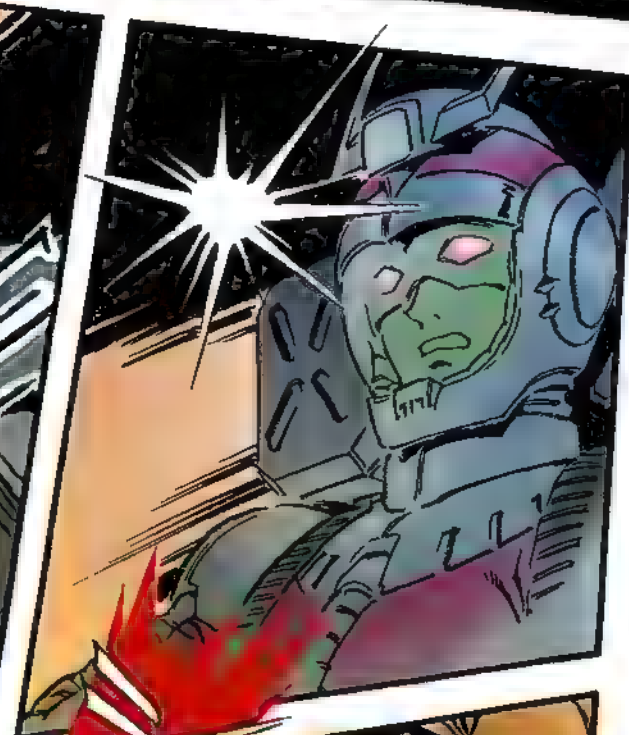
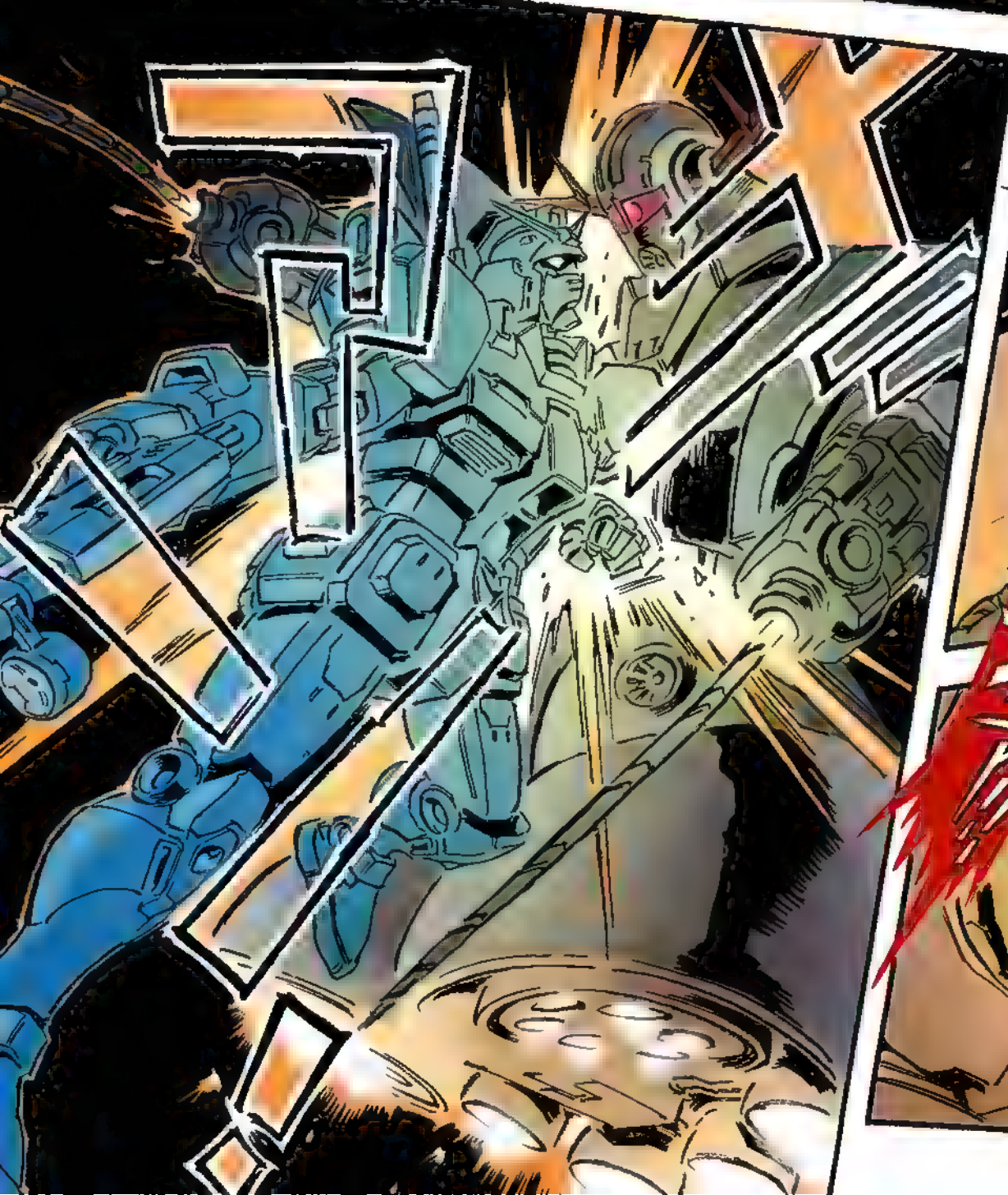
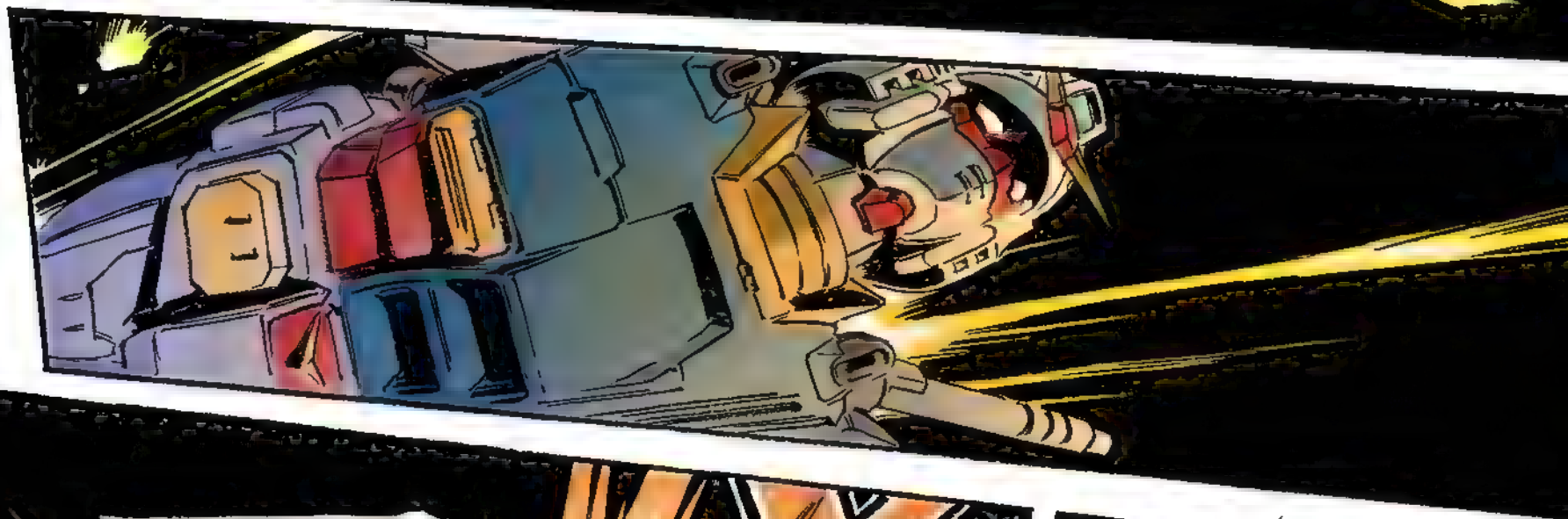
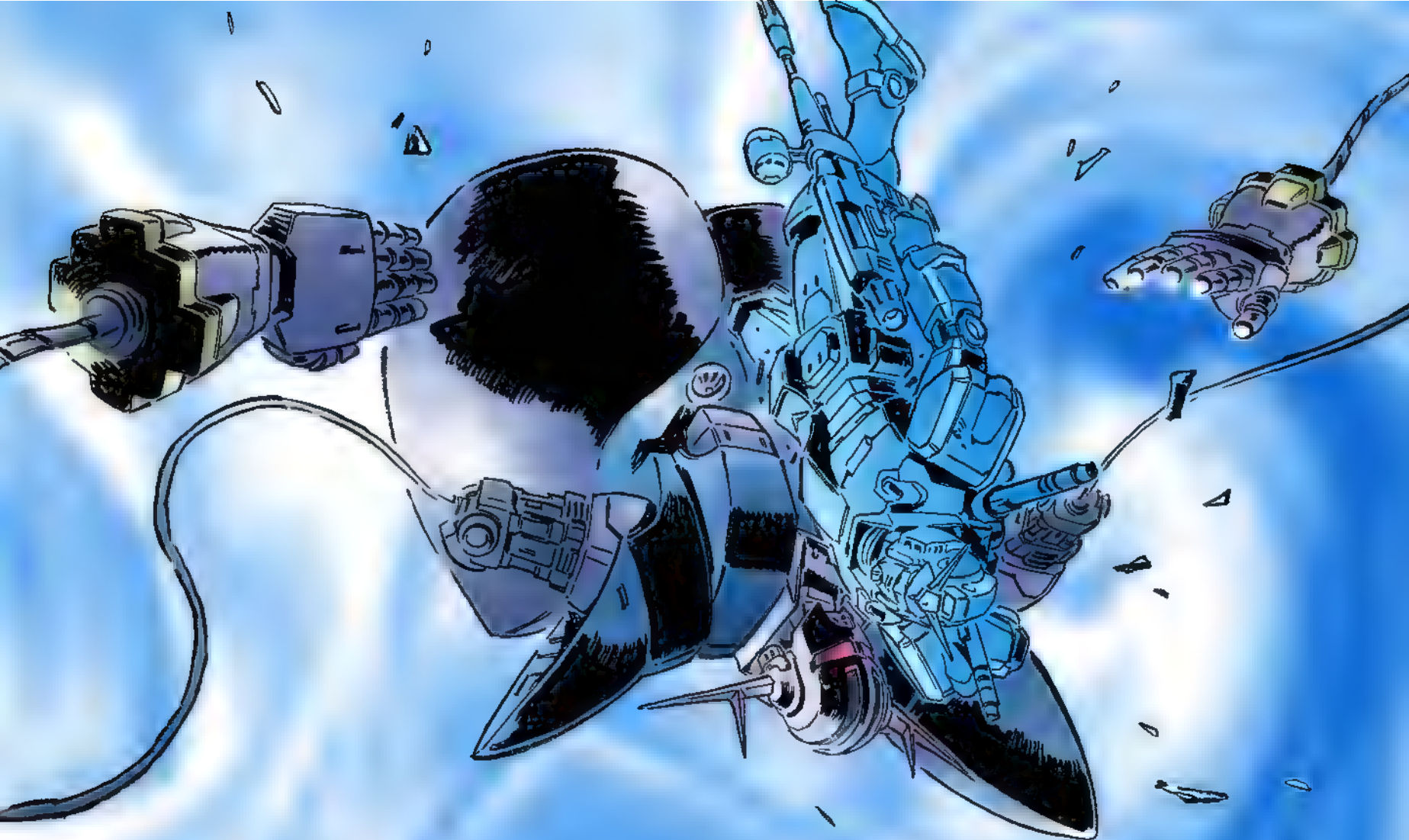
殺せ！
叛乱分子なぞ一人も生かしておくな!!

はっ!!!

も
もおひとつ
ご報告を……

叛乱を起こした司令部警護隊の一派は
ア
アル…
アル

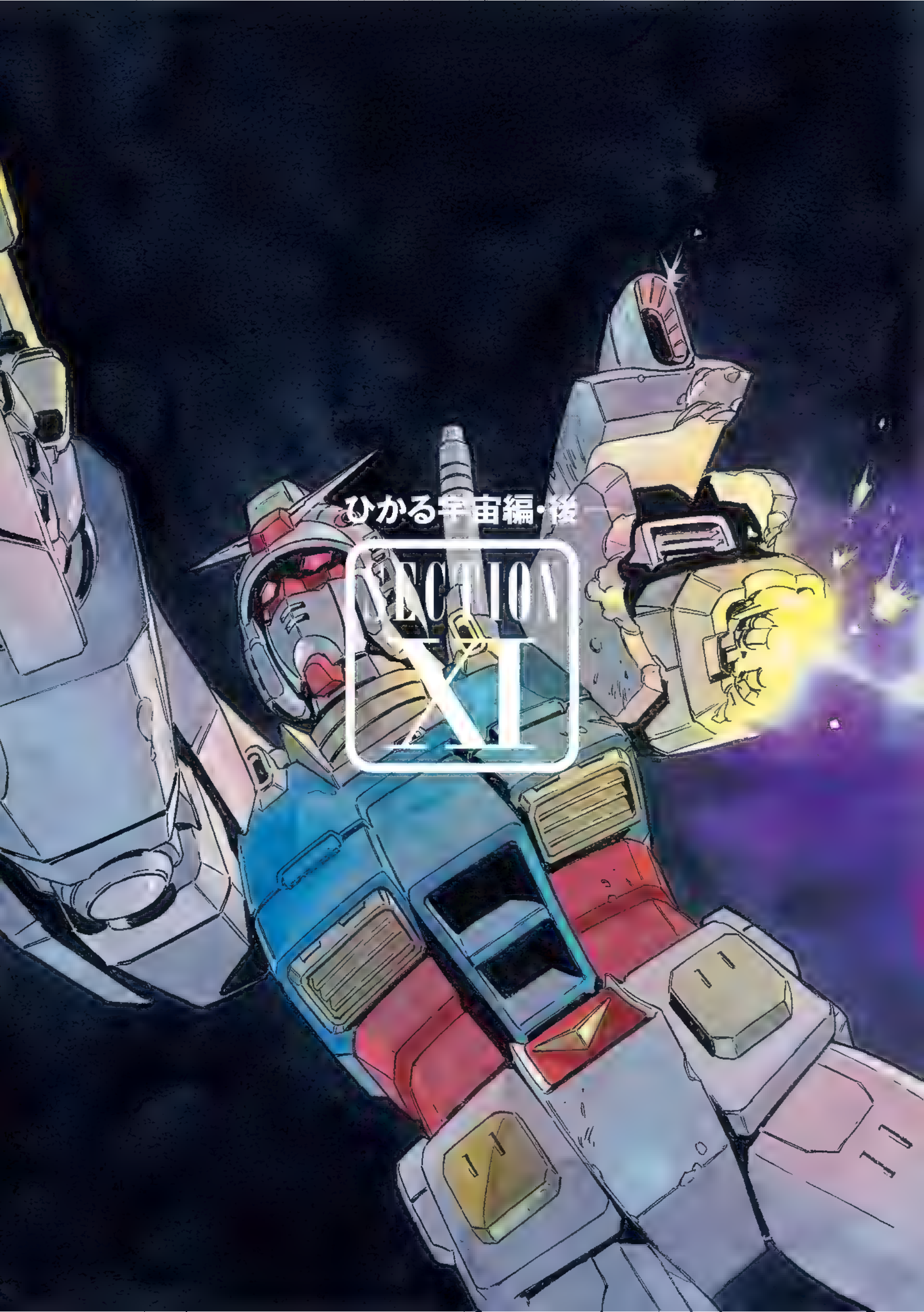
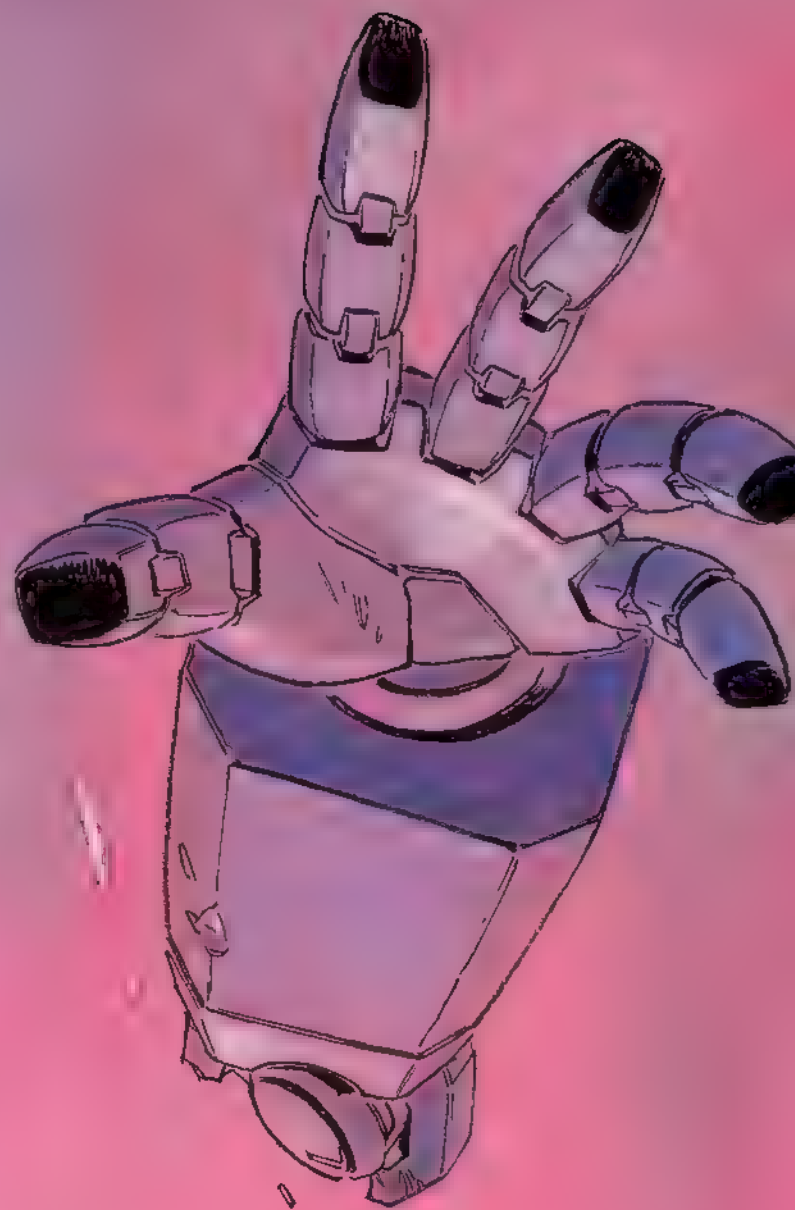
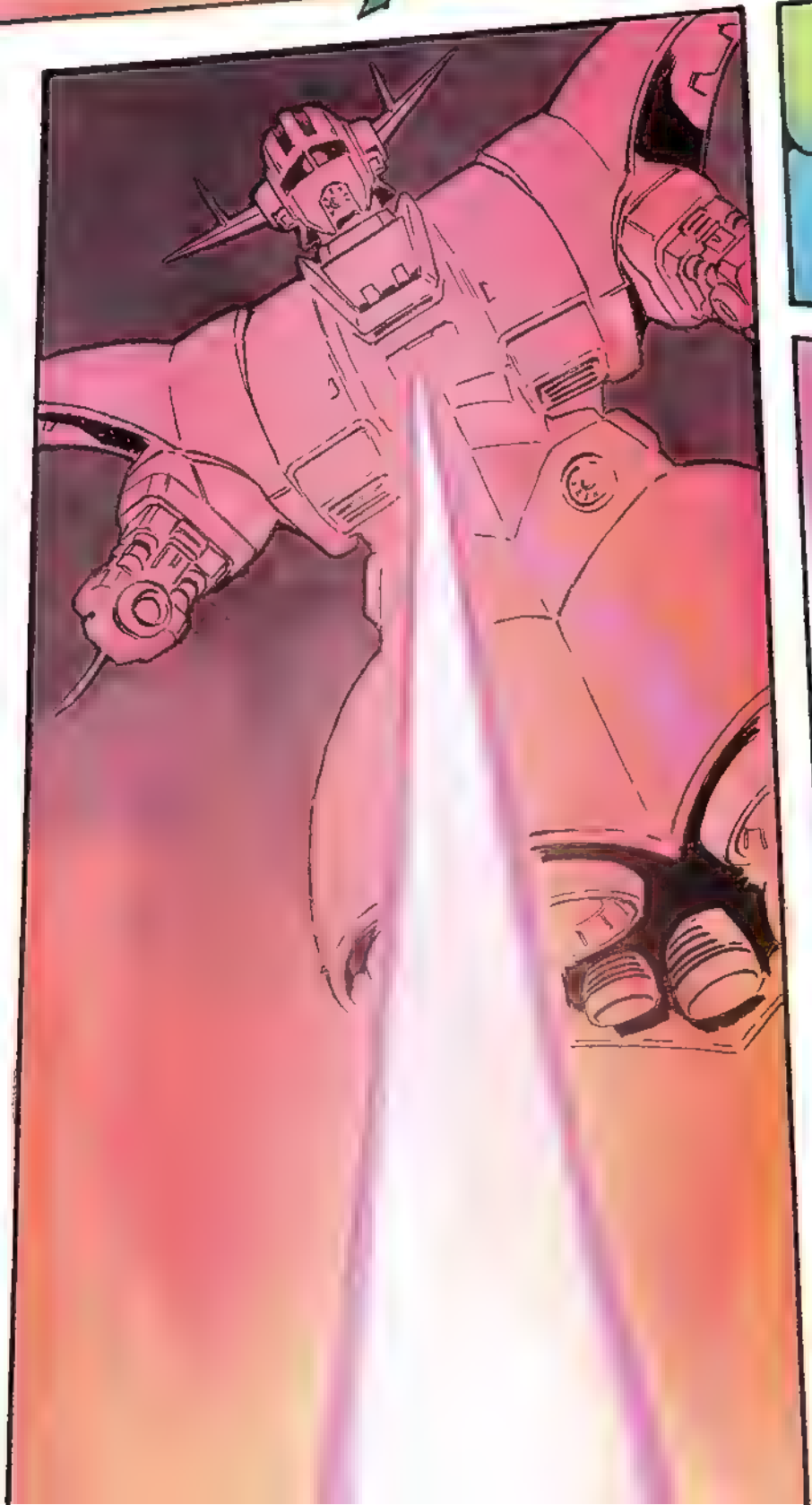
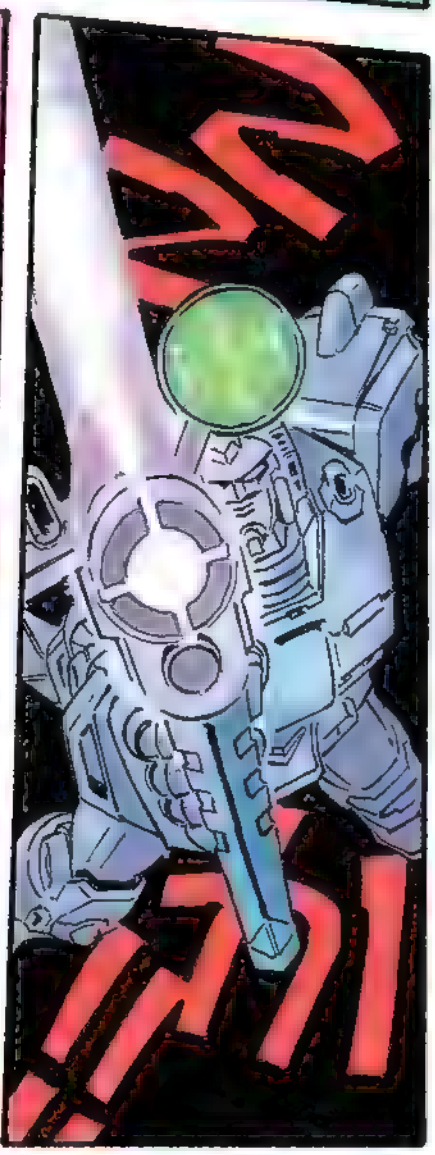
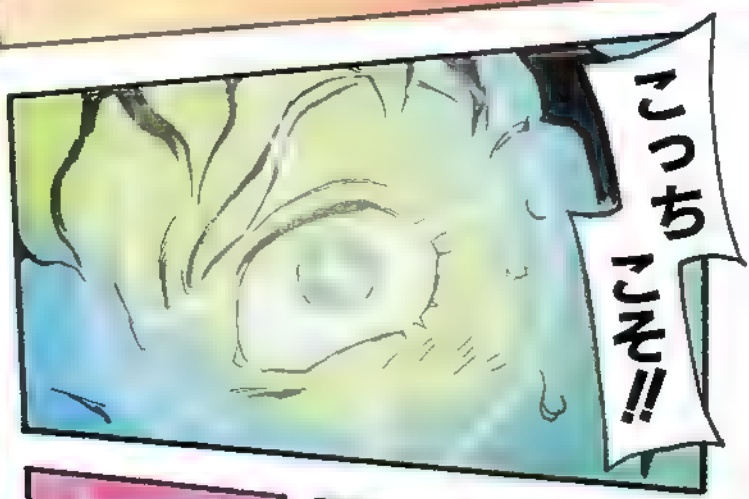
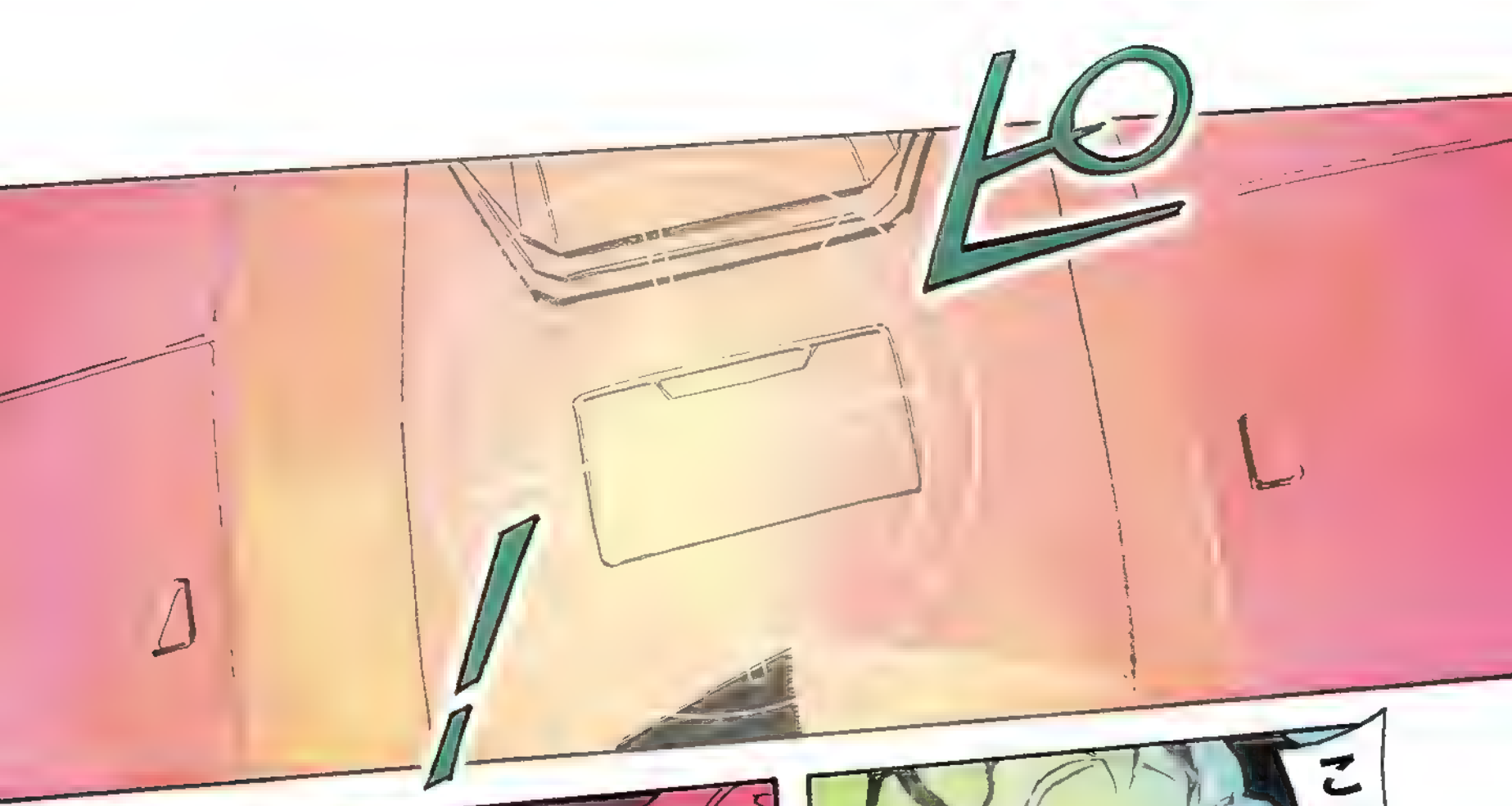
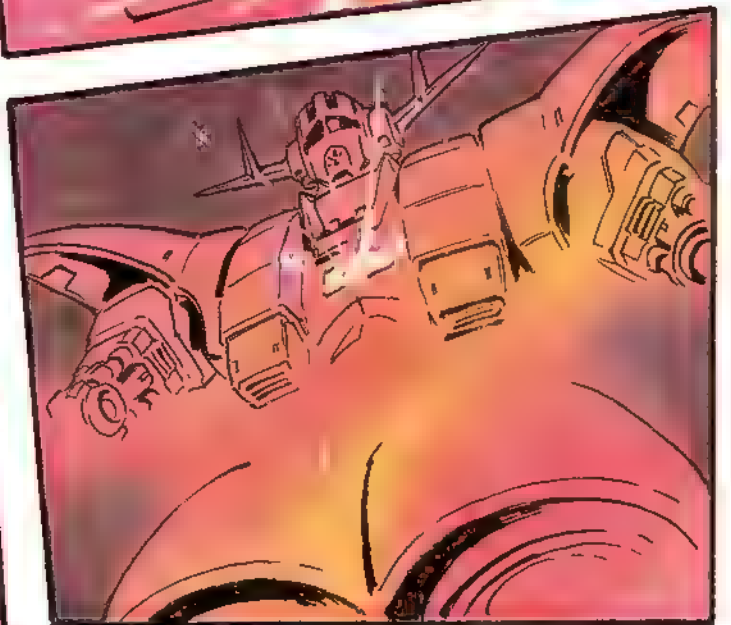
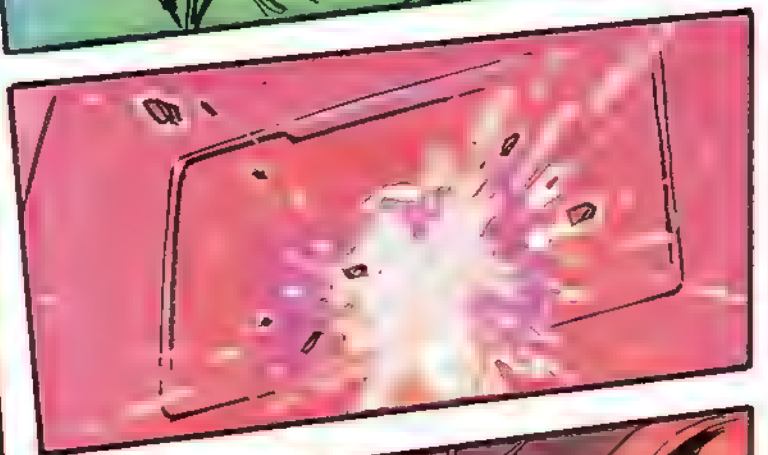
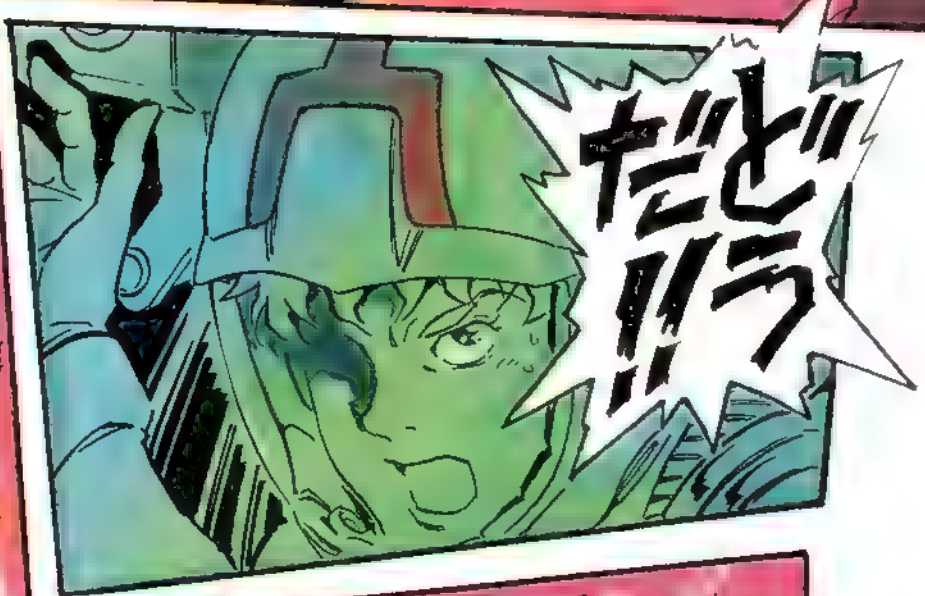
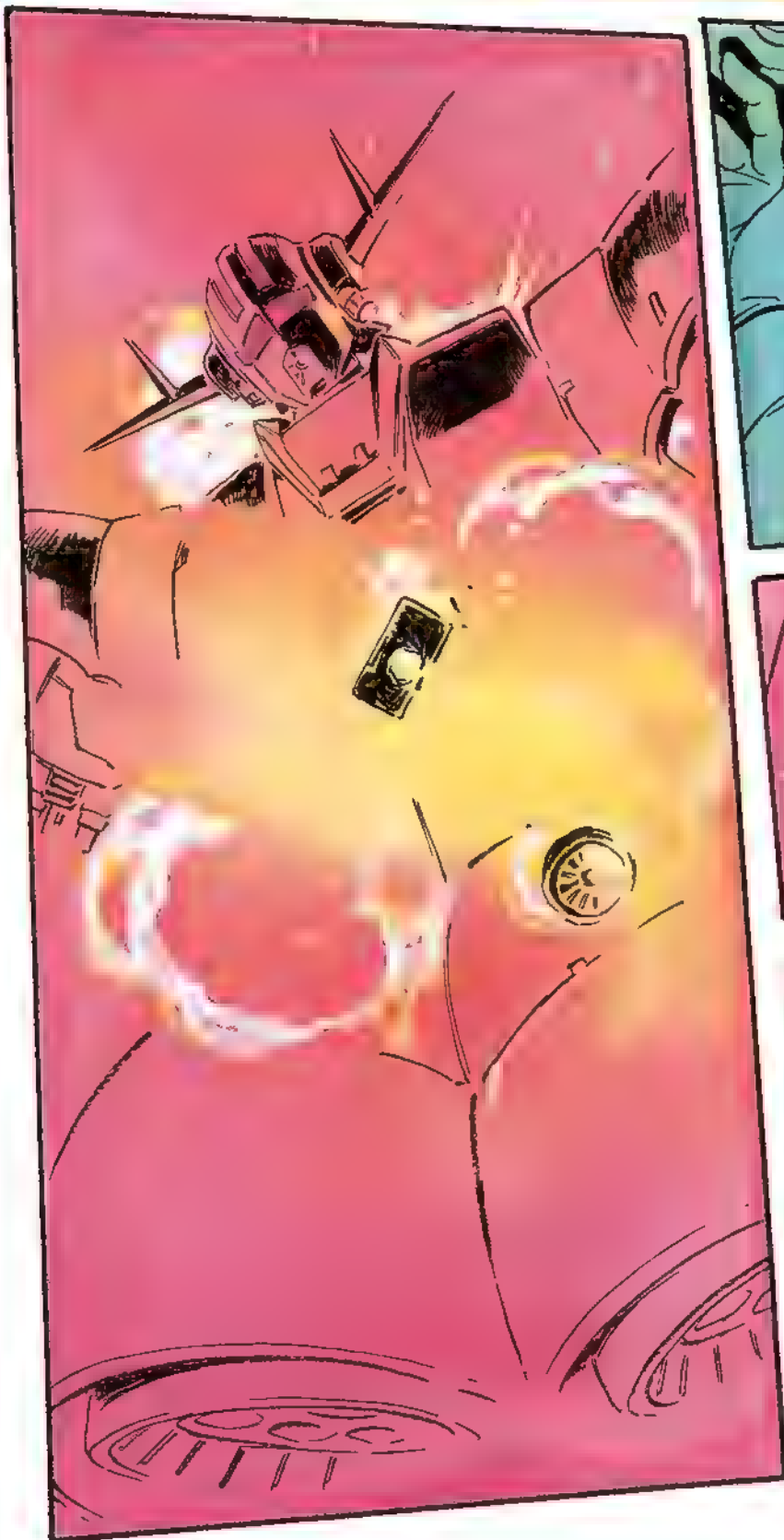
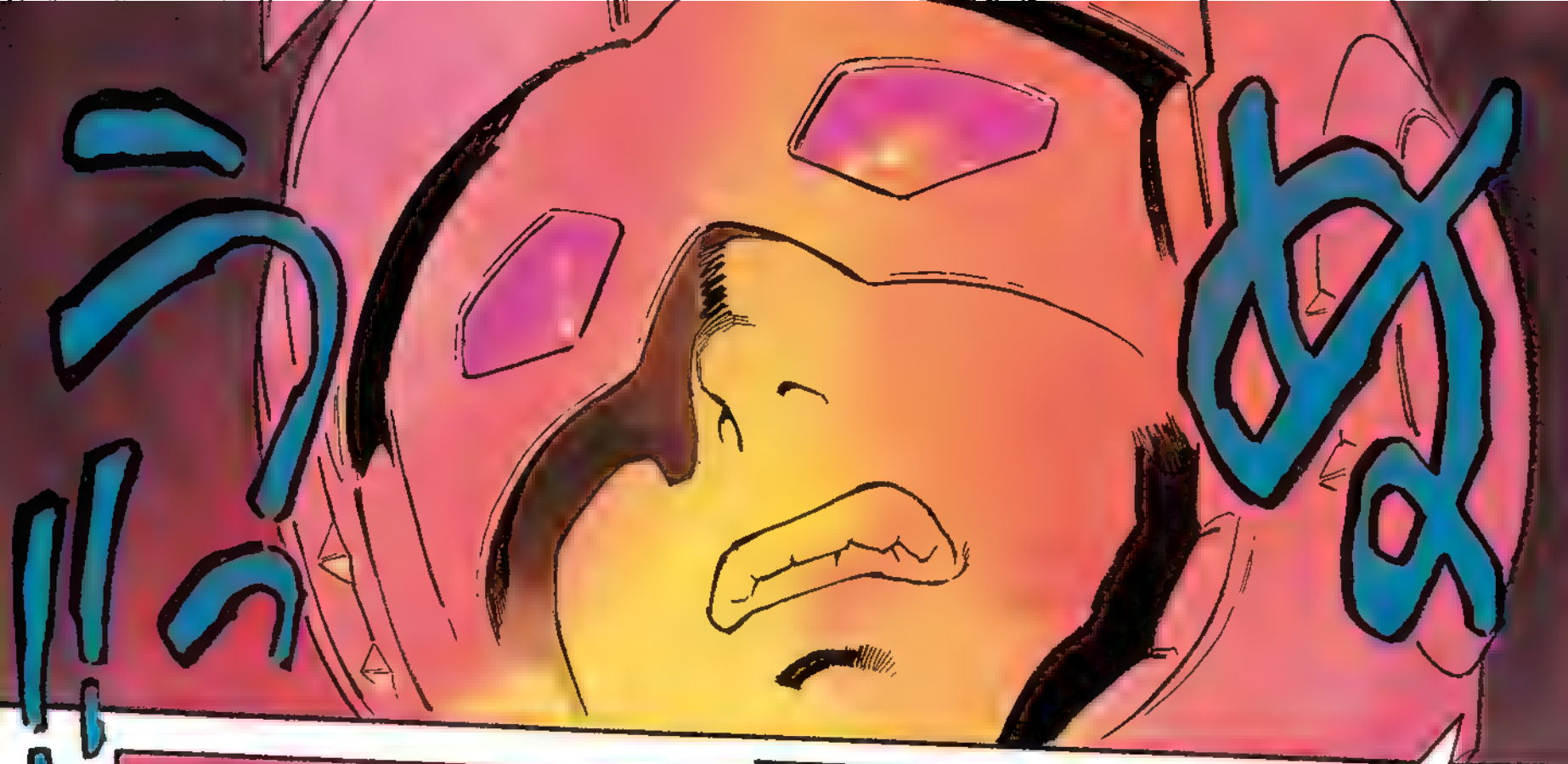
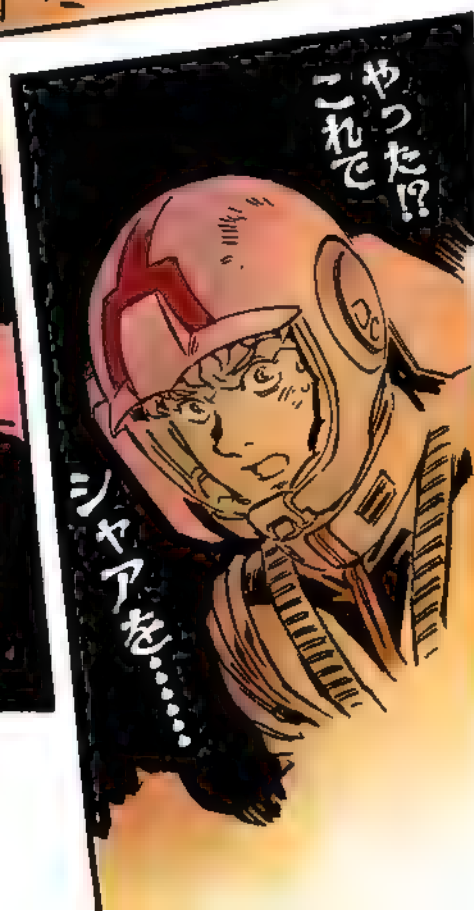
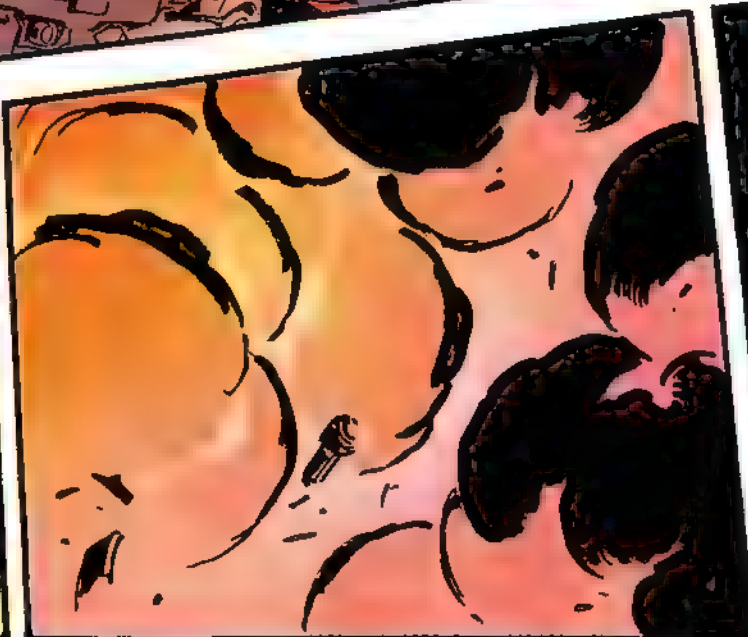
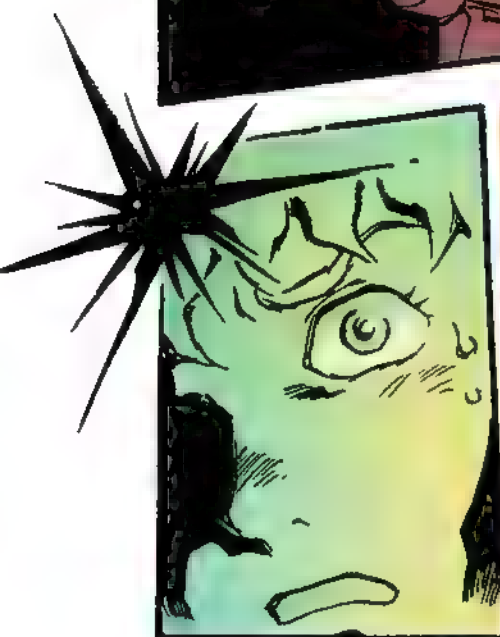
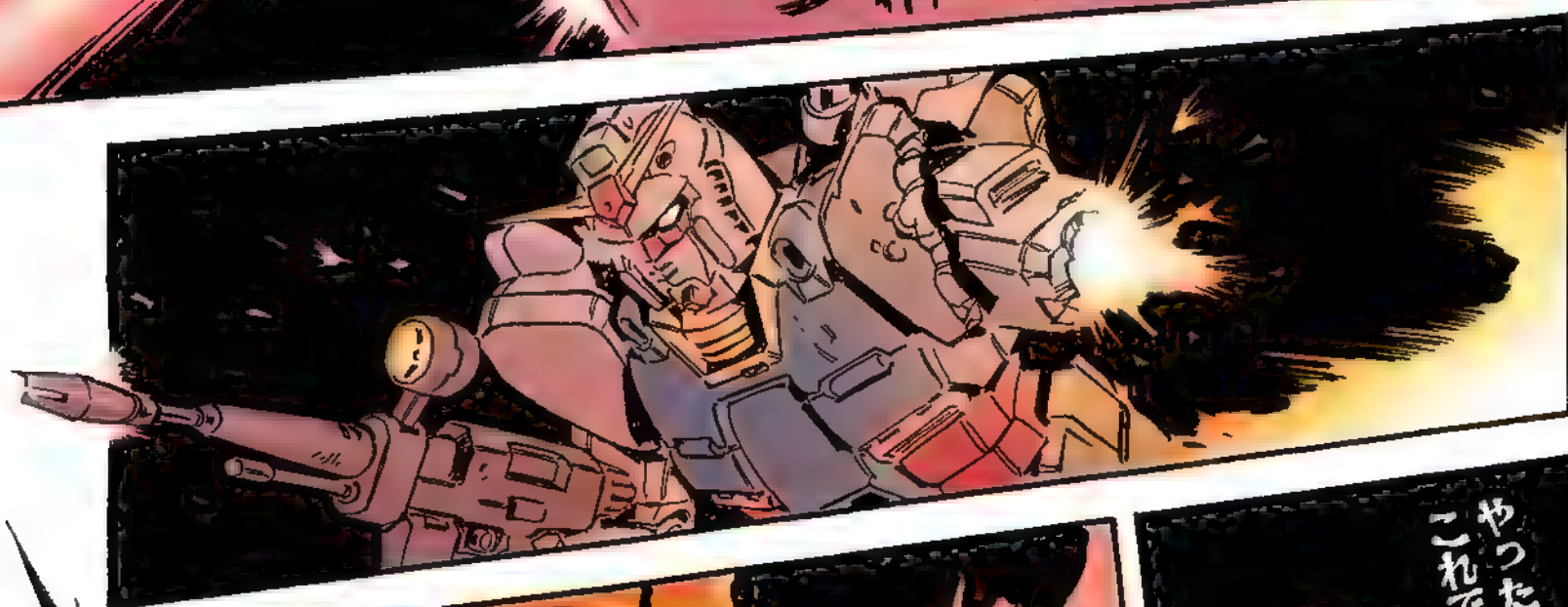
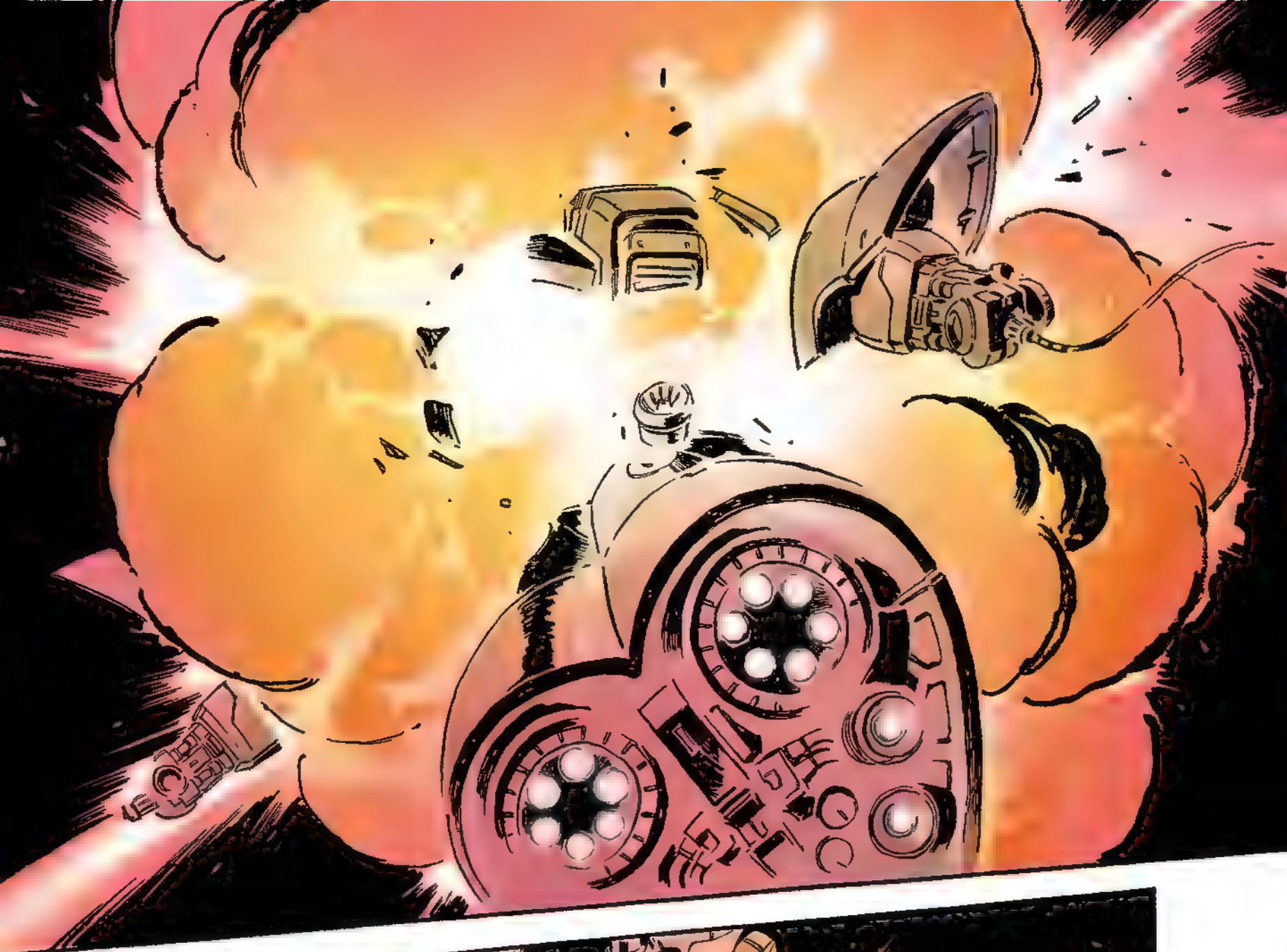
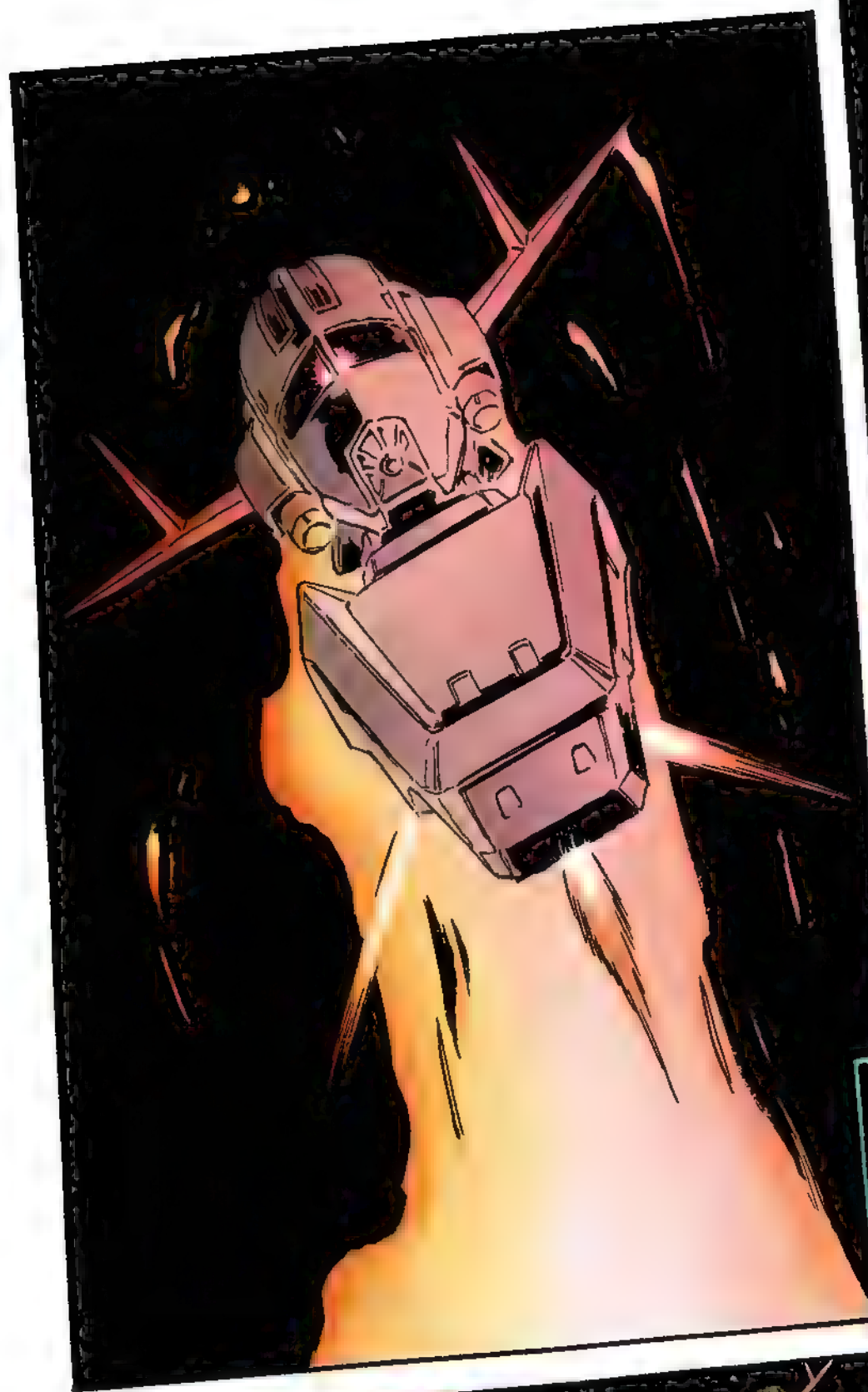
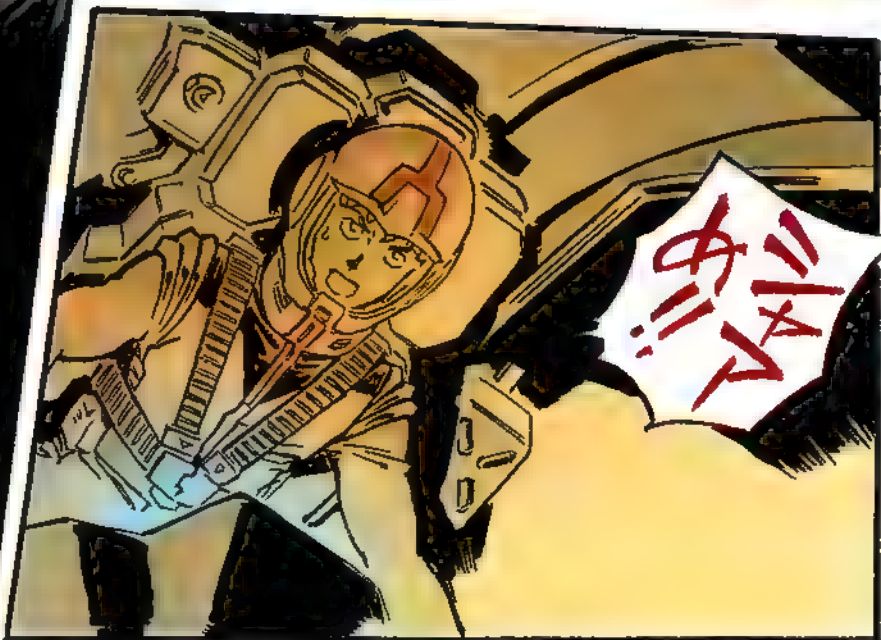
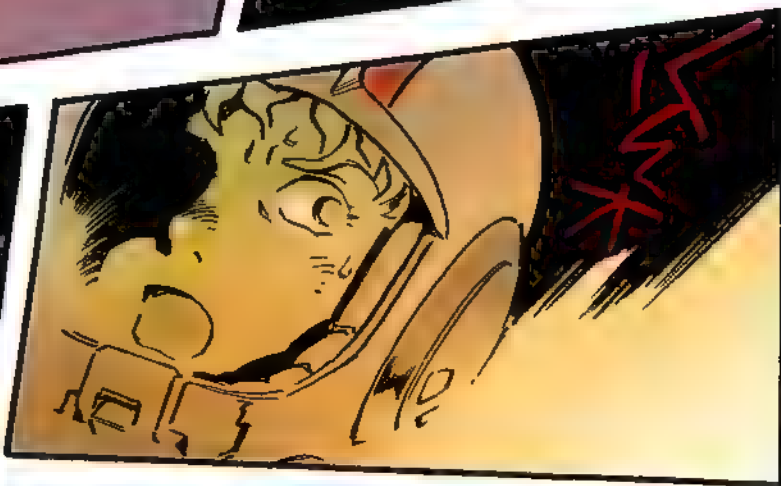
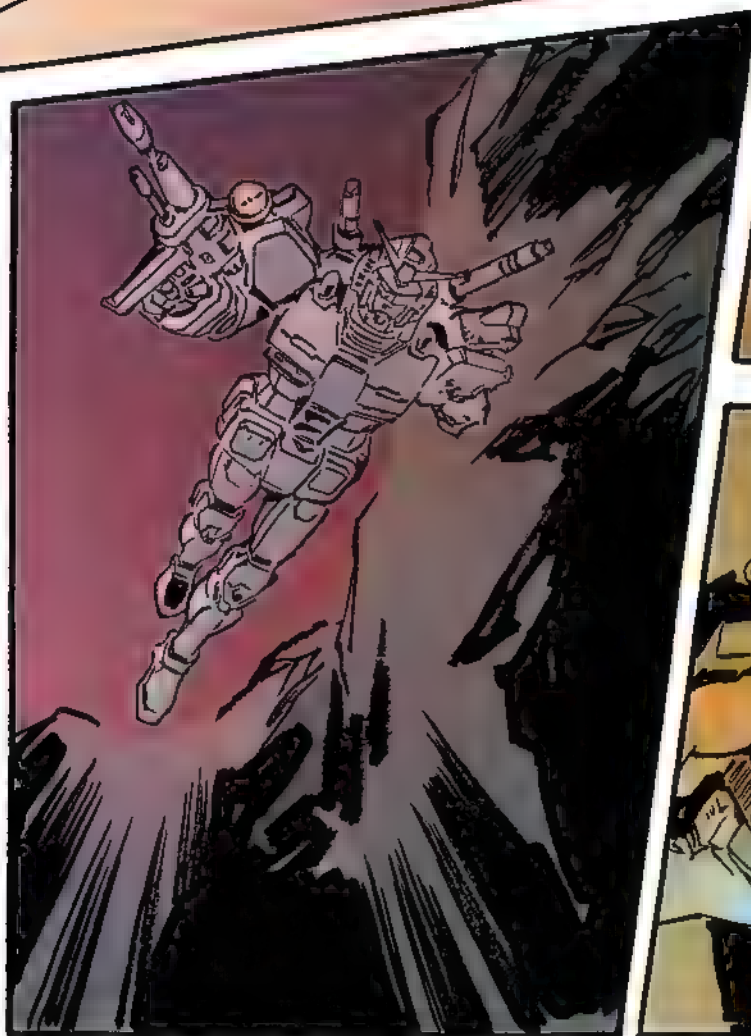
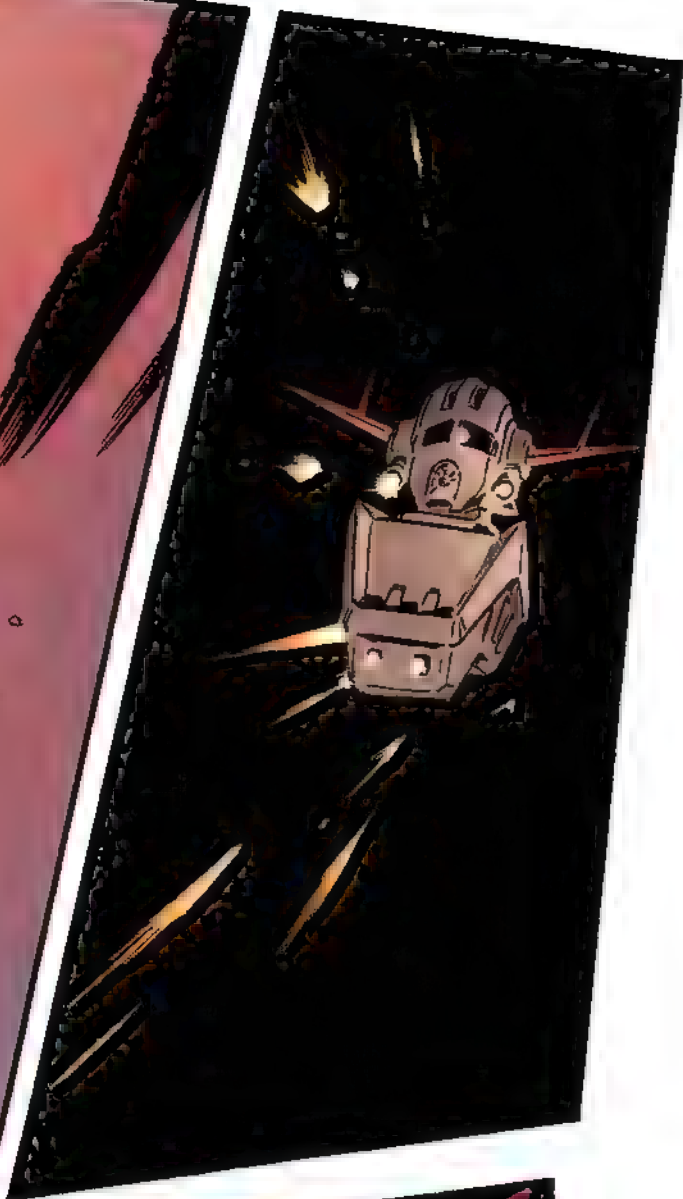
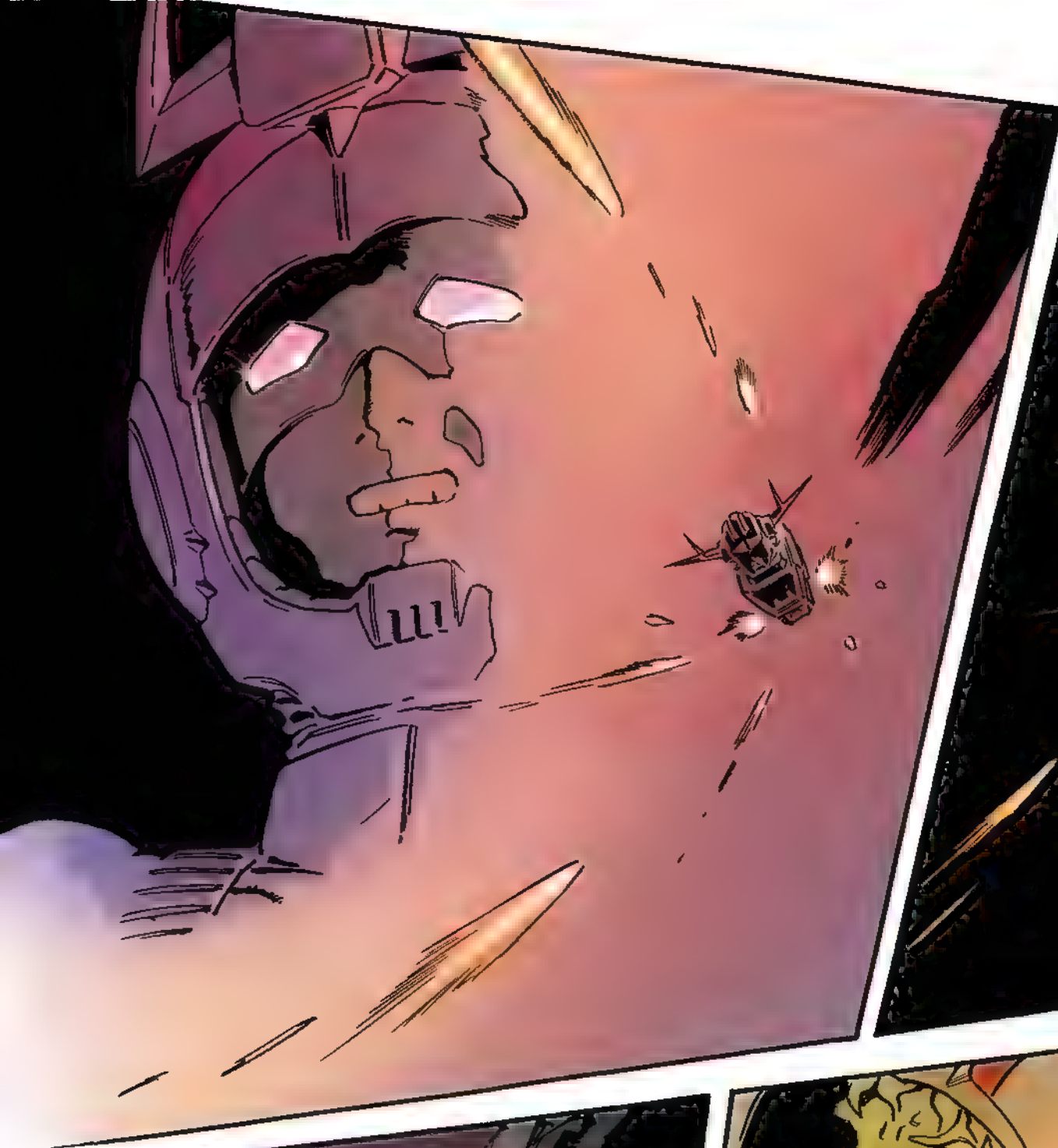
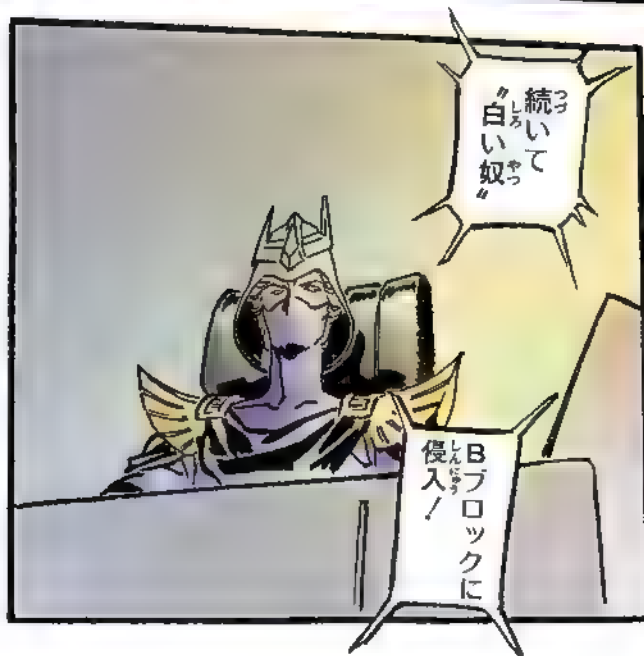
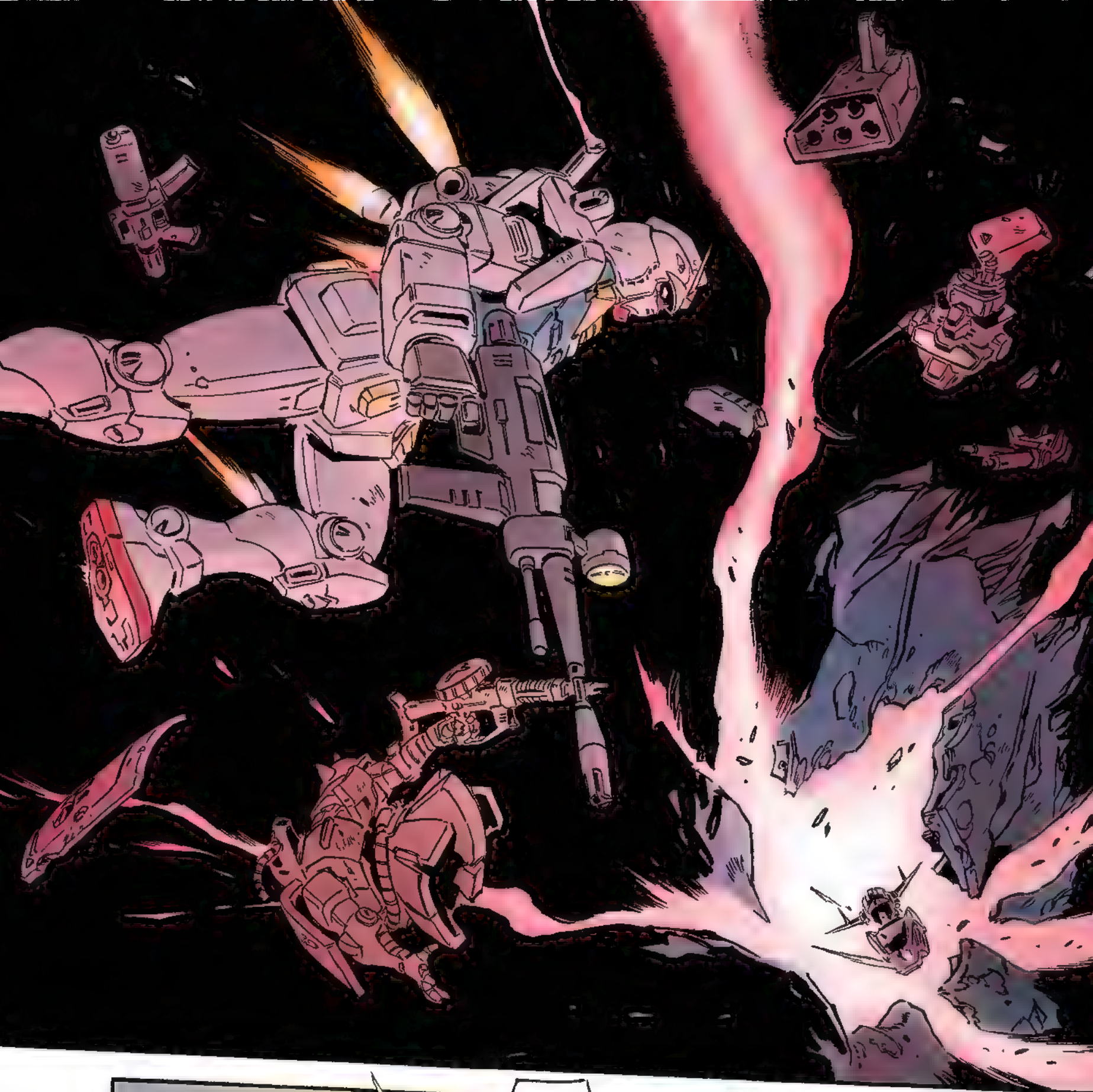
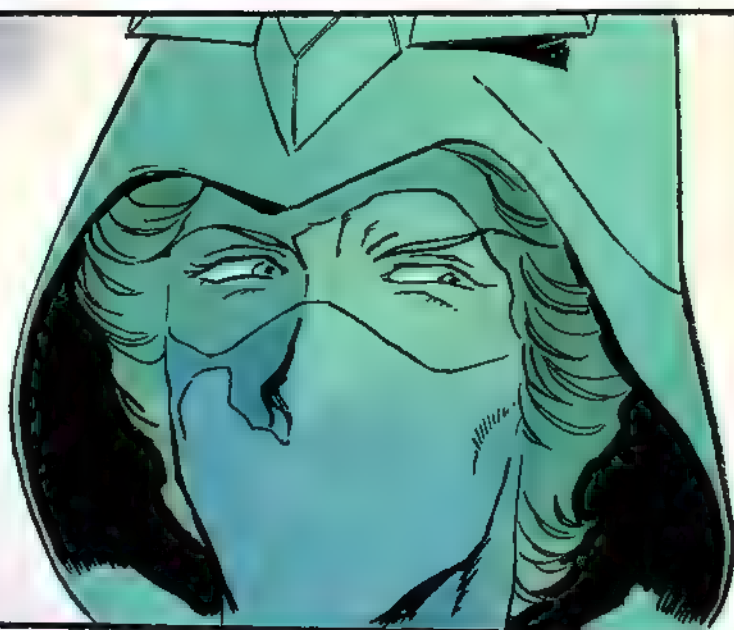
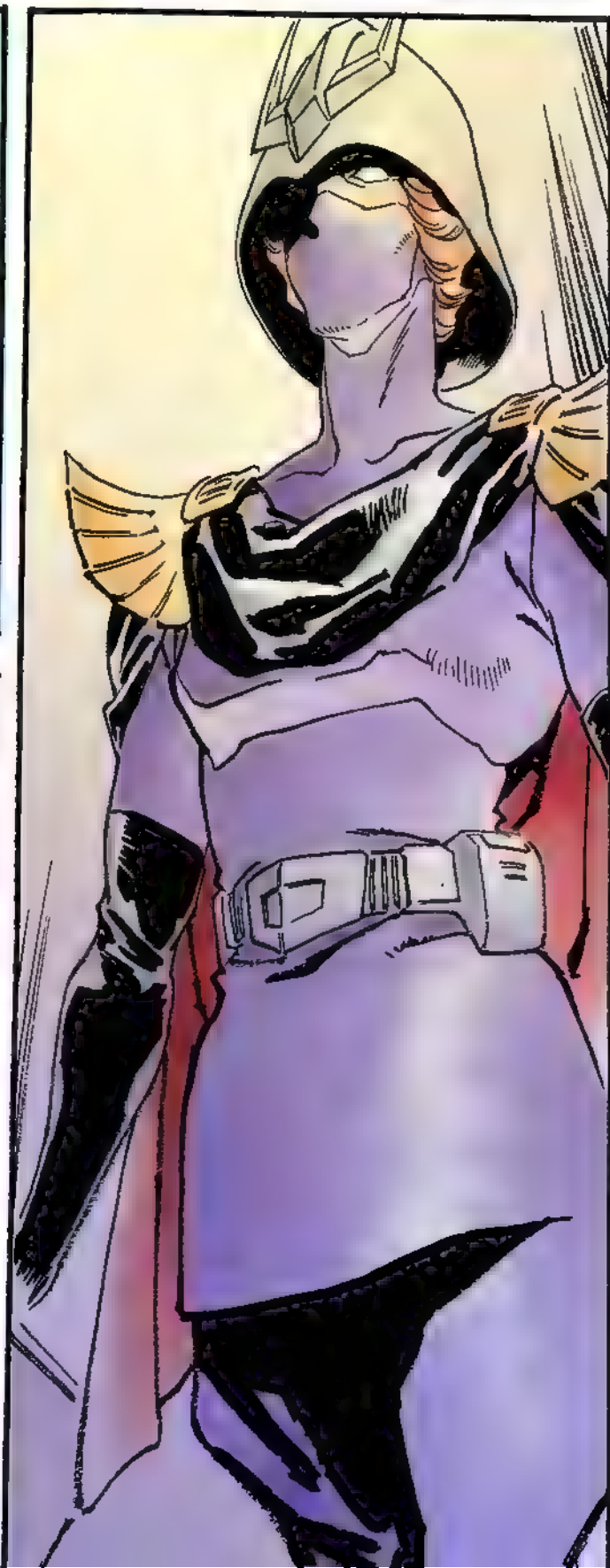
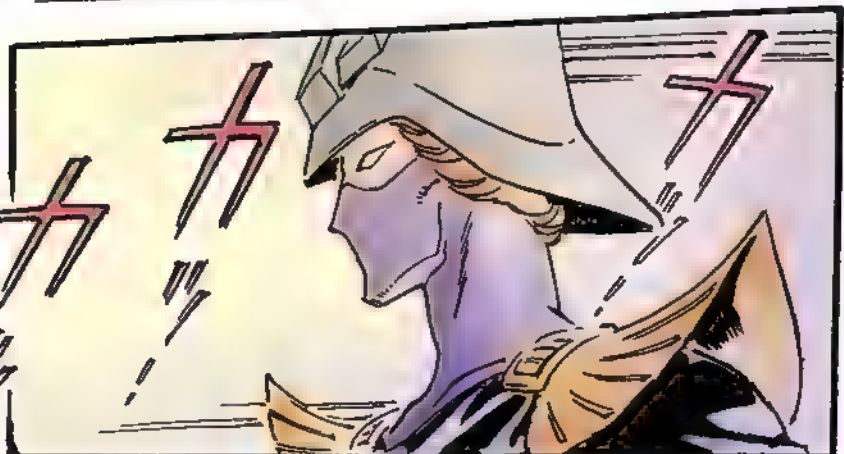
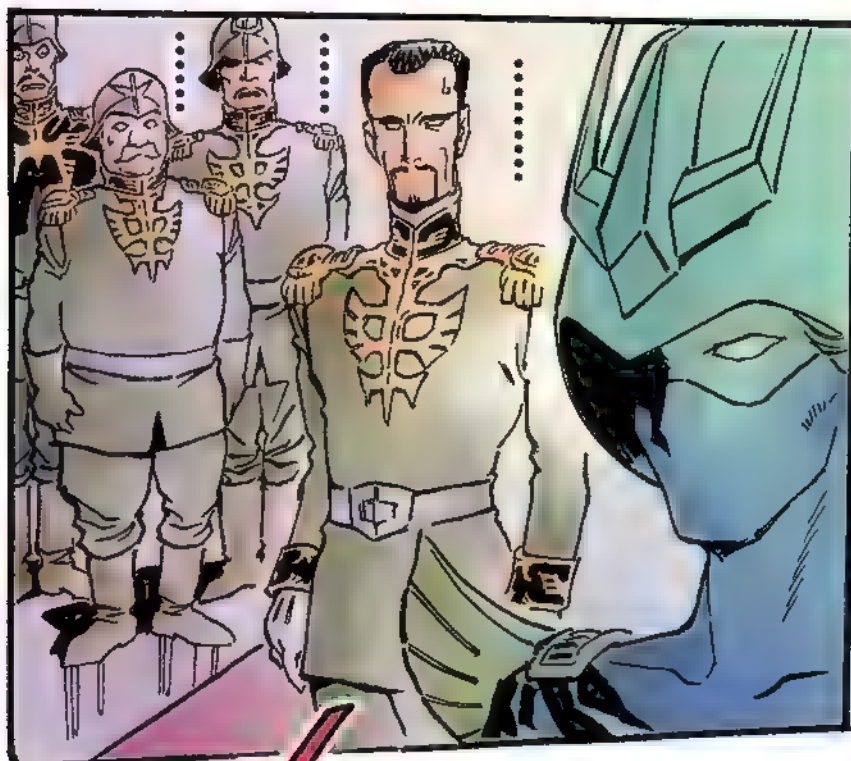
アルテイシア・ソム・ダイクンと名乗る女兵士に
率いられている と…

アルテイシアが――
このア・バオア・クーに?!!

そのようであります!
その女兵士は連邦軍側の軍服を着用して侵入し
自ら捕虜となり
同調者を煽動している模様

ぬかったのかもしれぬ
私とした
ことが
……………

まだ出てくるぜ!!

どうだっ
これだけ密着すれば
オールレンジ攻撃は
できないだろう!?
なぜ
ララァを闘いに巻き込んだっ?
ララァは
そんな女じゃ
なかったのに!

子供のおまえには　なにが判る!!

—ひかる宇宙編・後—
SECTION
XI

仕留めたぞ!

ピ
こっち
こそ!!

ぬうっ!!
どうだ!!

やった!?
これで
シャアを……

ちがう
──か?!

シャアあ!!

ジオングの航跡が消えました！
消失直前に機体の分解を確認!!

続いて〝白い奴〟
Bブロックに侵入！

終つたな……
シャア……

……
……
……
カツ
カツ
カツ
カツ

なにを畏れるアルテイシアごときに！

キャスバル・レム・ダイクンならともかく!!

カッ

カッ

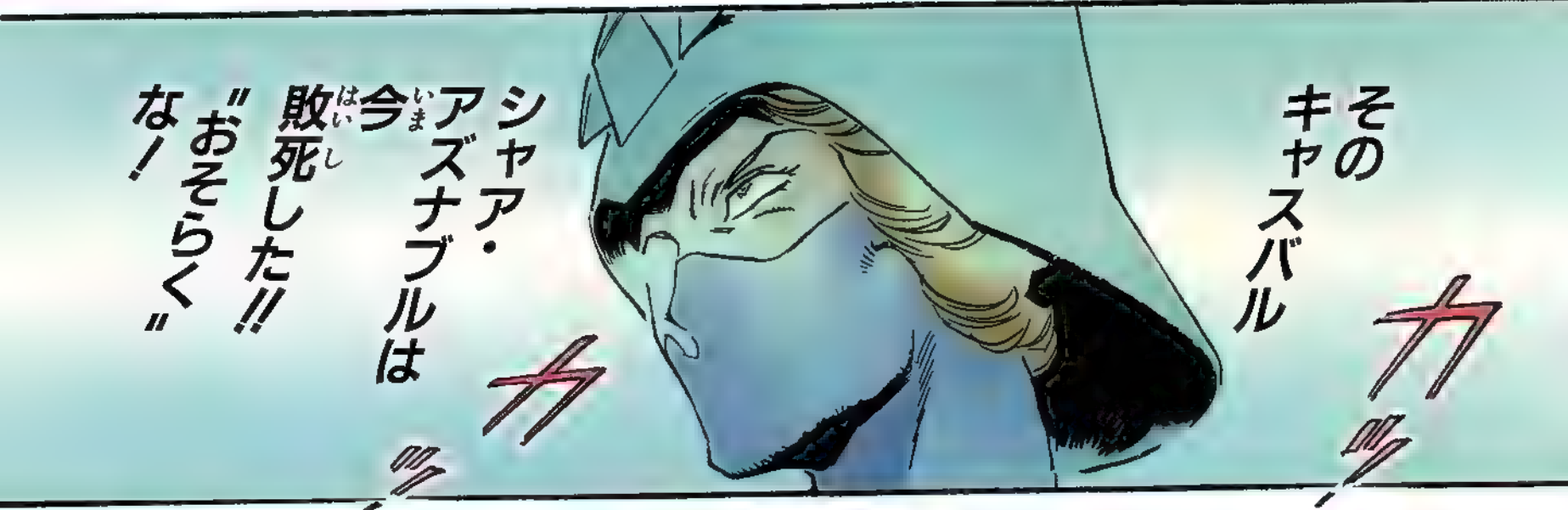
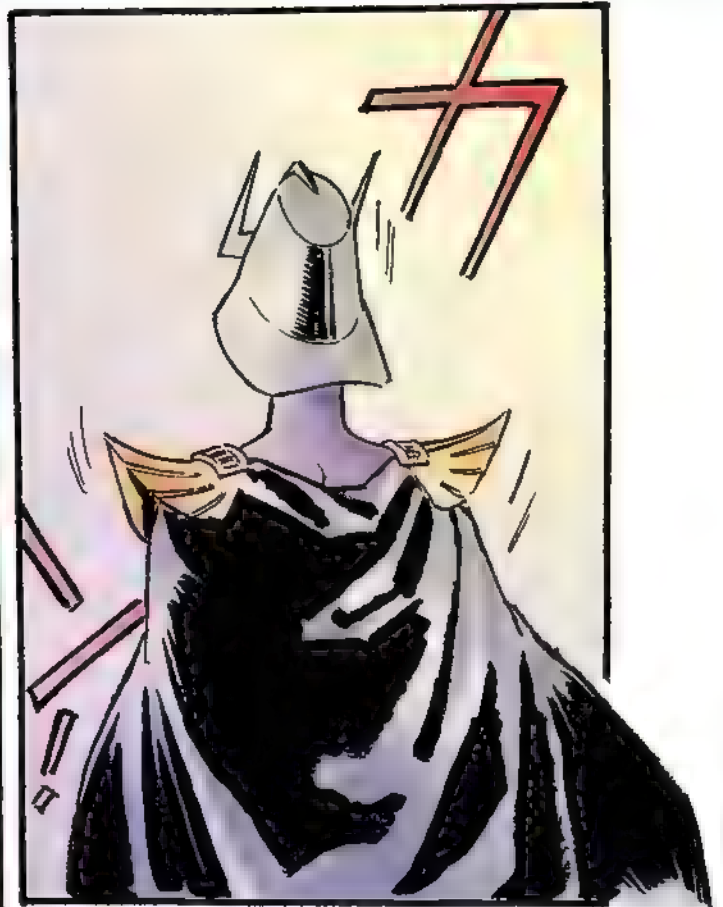
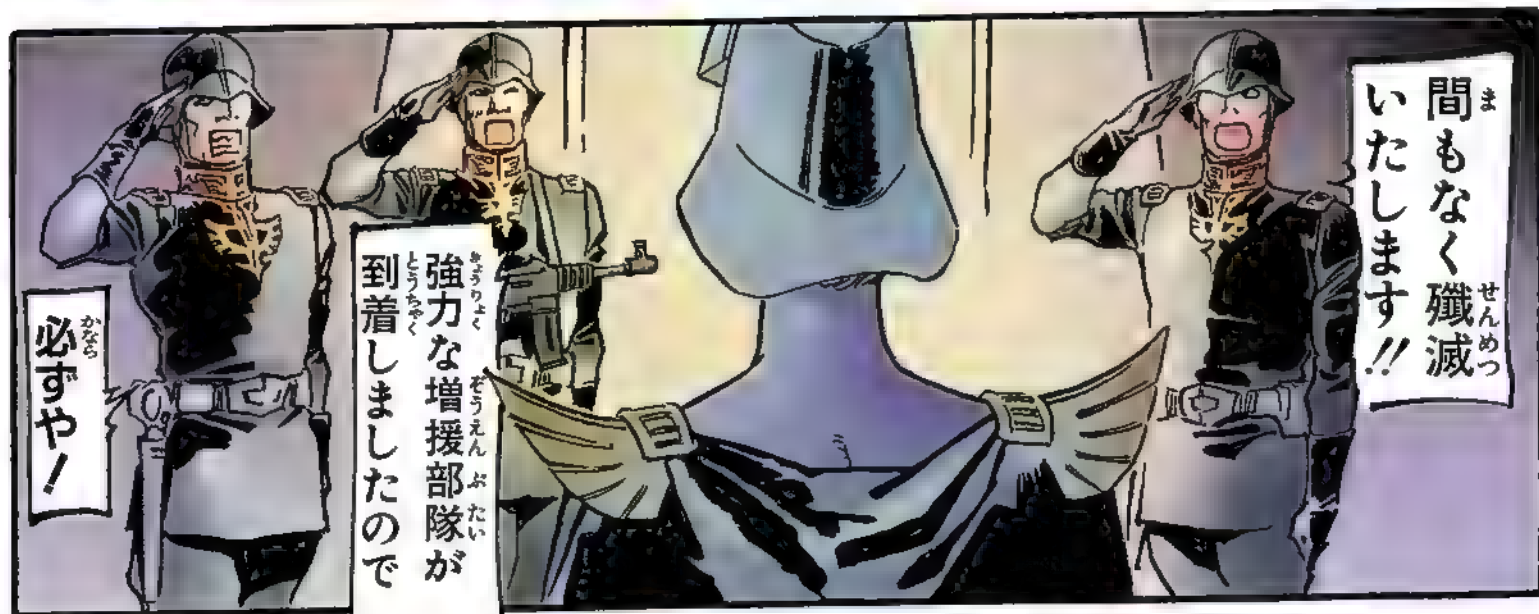
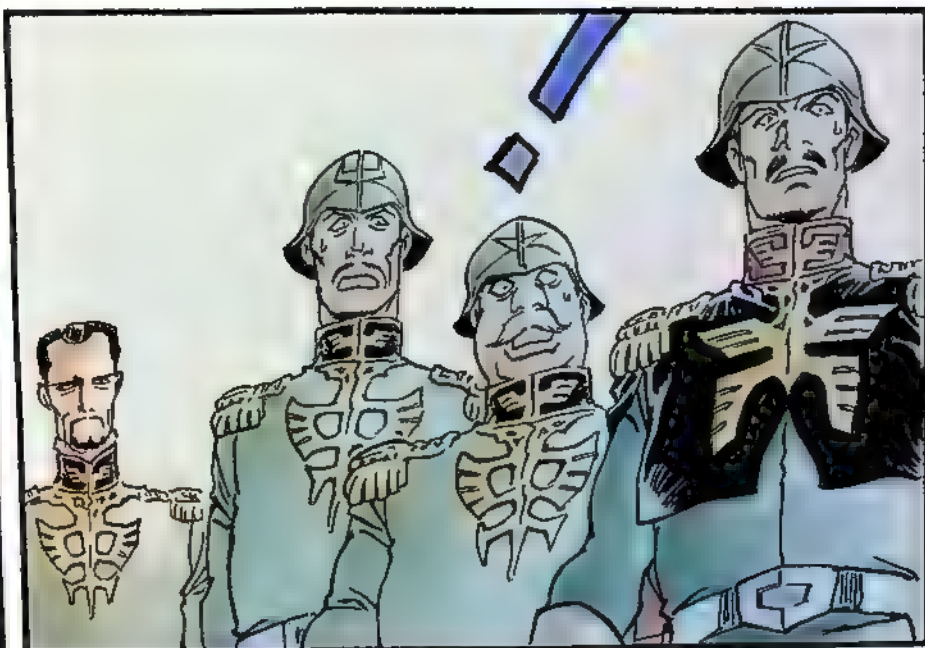
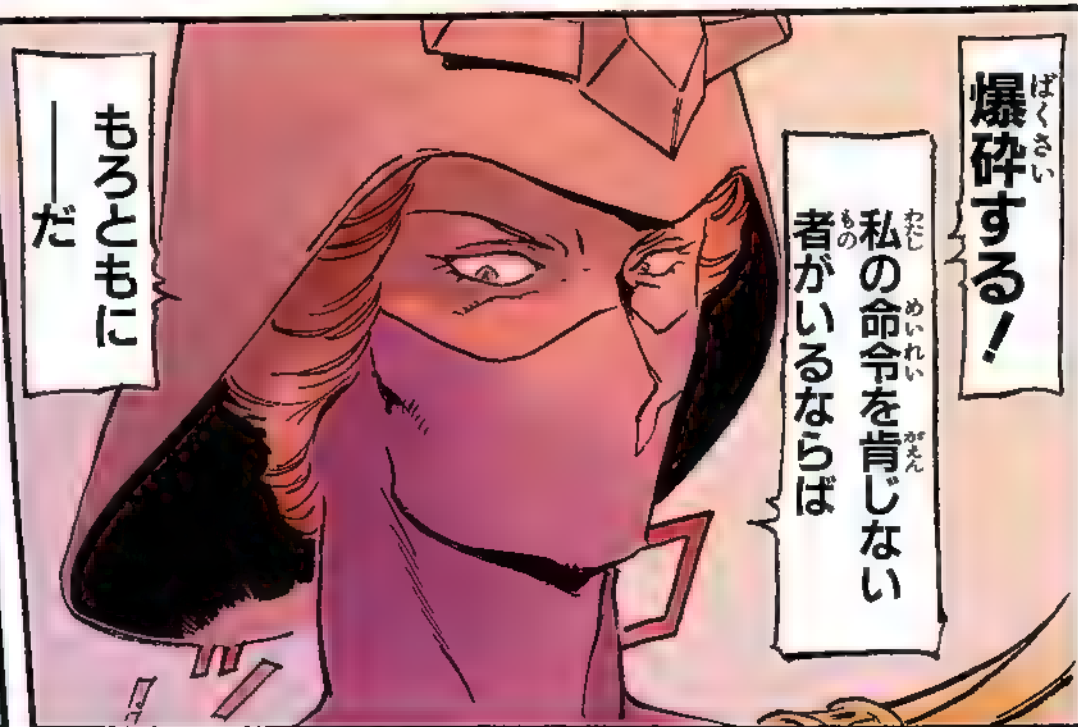
カッ

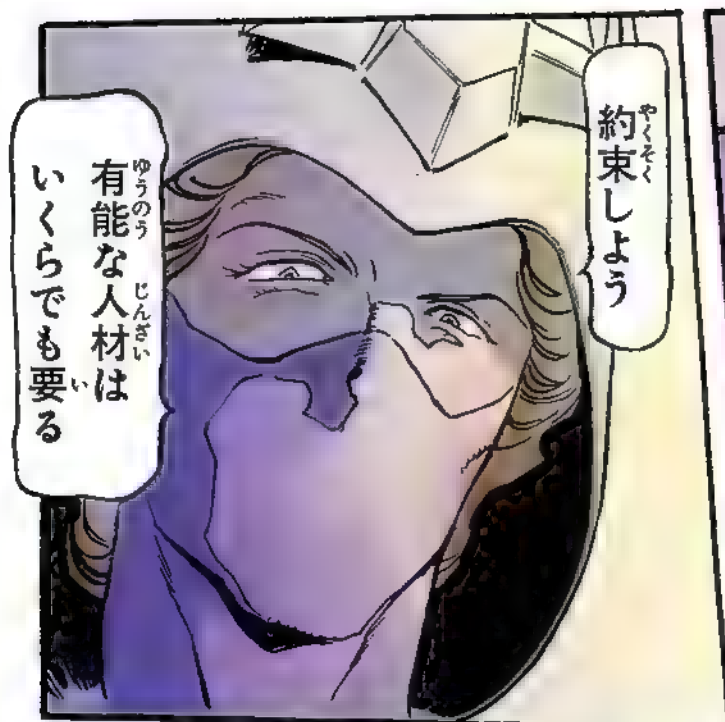
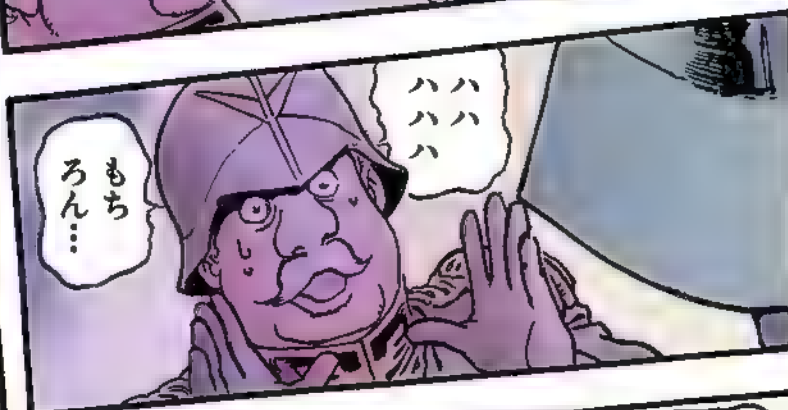
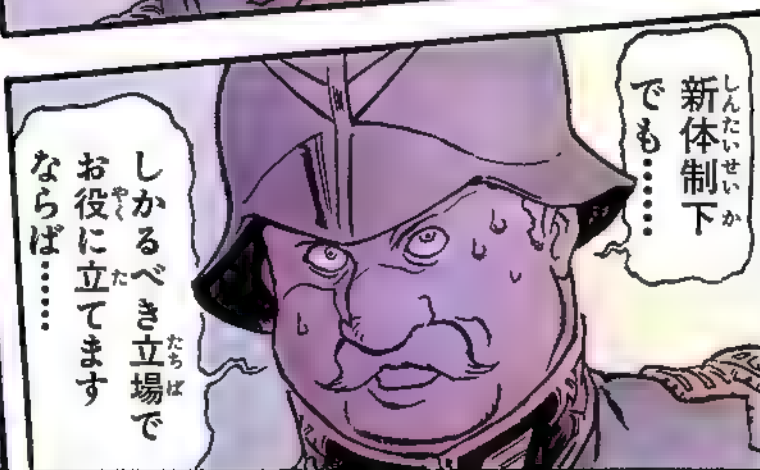
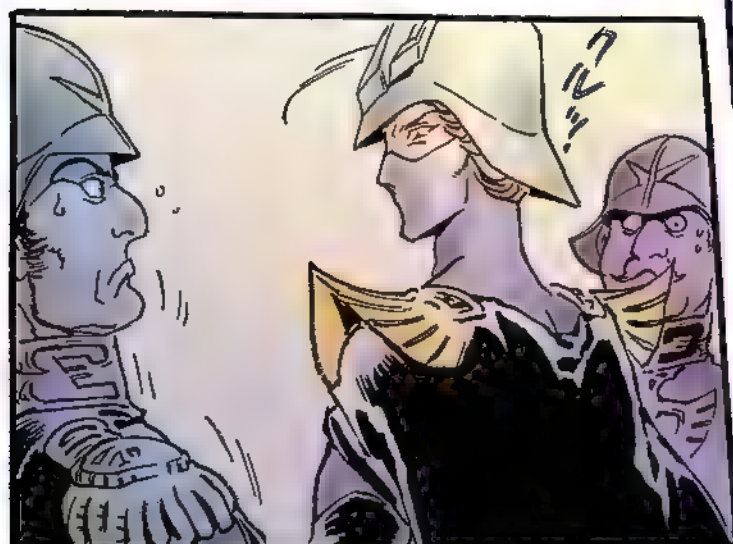
カッ

外の叛乱部隊はどうした?
鎮圧しただろうな
はっ!

間もなく殲滅いたします!!
強力な増援部隊が到着しましたので
必ずや!

よし
降伏する者があっても容認するな
全員殺せ!

ア・バオア・クーを
放棄する

本要塞はこれまで
絶対防衛基地として
重きをなしてきたが
もはや汚辱に
まみれた
!
父 デギン公王を
亡きものにした
ギレン前総帥の
色に染められた
この要塞は
悪しき過去として
葬り去られなければ
ならない
コッ!
コッ!
爆砕する!
私の命令を肯じない
者がいるならば
もろともに
——だ
ゴク…

戦いが劣勢だから退くのではないぞ
逆だ！
戦局は我が軍が圧倒的に優勢だ
既に敵の兵站線は伸びきっており補給も受けられぬ状況下で
敵はこれまでに甚大な損害を出し
今も尚
この攻略戦で消耗し尽くそうとしているっ
それに対して！

ア・バオア・クーなぞ奴等にくれてやればいいのだ！
なんの役にも立たぬ瓦礫の屑にしてな！
連邦軍の連中はさぞかし途方に暮れることだろう!!

どうだ？
私と共にここを脱出するか!?
ハハハハハ
もちろん…
約束しよう
有能な人材はいくらでも要る

新体制下でも……
しかるべき立場でお役に立てますならば……

クルッ

は……
じ
自分は……
これまで一貫してジオン公国のために尽くしてきたつもりです
ギレン閣下にではなく
そこを……考慮していただけるなら

わかった
ここにいる司令部幕僚の中には公国国民に背を向けるような非愛国者は一人もいない
そうだな?!

トワニング准将!

私の乗鑑パープル・ウィドウを
ドロスからメインゲートに回航させておけ

は
新総帥閣下

シャア！
今度こそ──!!
ダーン!

まだだ……

まだメインカメラをやられただけだ!

叛乱部隊の兵士達よ!
今ならまだ遅くない
投降せよ!!

ドドド
ダダダ
ドド

叛乱……
うるさい!!

司令部は機銃とバリケードで固められています
む
直接攻略はムズかしいか!

司令部を奪れば
放送設備を使って状況を一気に打開出来るのだが…

せっかくアルテイシア様という
玉を持っていながら…
キシリアごときに…
まずい
少し下げろ
包囲される!
私達の蜂起に
気づいてくれるといいのだけれど——!!
この内部のどこかに
キャスバル兄さんがいるのに…

叛乱軍に告ぐっ!
叛乱軍に告ぐっ!!
投降せよっ!

シャアだって
わかっているはずだ
本当の倒すべき相手が
誰かということが……

来たな
フム…
よし！
ここで…

to be continued...

Can you remain alive in spite of the WAR?

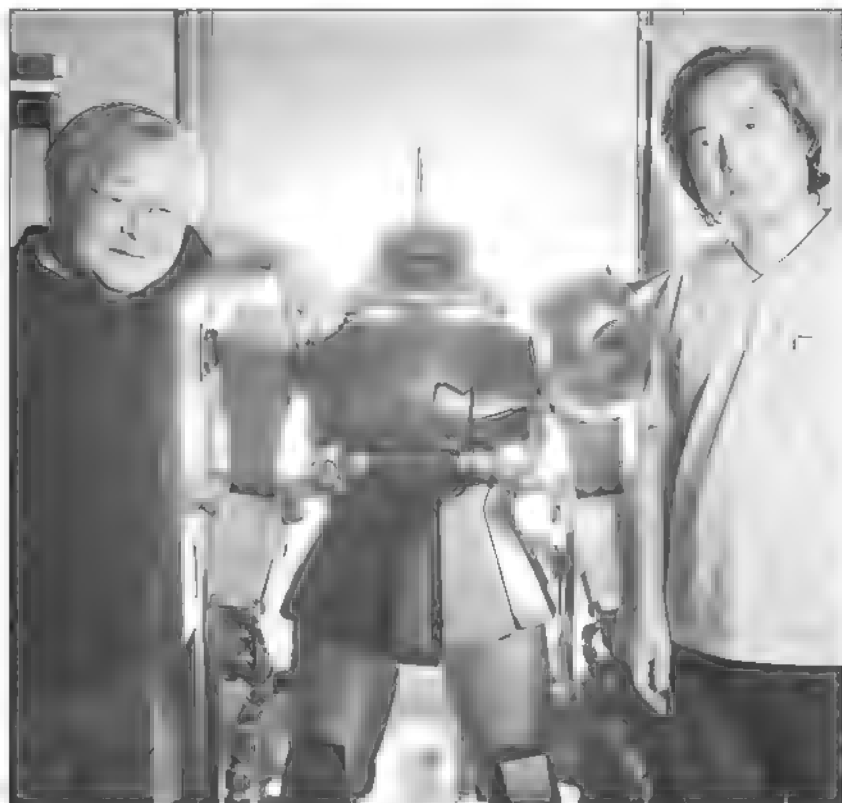
ひかる宇宙編完結記念

完全版

『安彦良和×大河原邦男 対談』

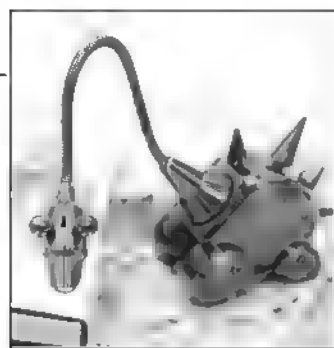
2010年5月下旬、安彦氏が都下某所にある大河原氏の工房を訪問しました。ここではその際に両氏の間で交わされた貴重な対話を再録し、いよいよクライマックスを迎えつつある『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』執筆現場の一端を、約10年にわたって読み続けてくださった読者の皆さまにお伝えしたいと思います。

——ガンダムエース編集部

大河原ファクトリー訪問

工房に隣接した仕事場には、ガンダムエース本誌の記事でもおなじみのガジェットの数々やガンプラが整然と並べられている。安彦氏はそれらを手に取りながら、旺盛な好奇心で大河原氏を質問攻めにし始めた。

安彦 僕はココに来るの、実は初めてなんだよね。

大河原 皆さんは意外かもしれないけど（笑）。

安彦 そうそう、これ（首長竜型のライトを手に取りながら）と同じ物を大河原さんからもらったんだよ。

——ご自宅に飾ってありますよね。

安彦 あめ色のやつ。兄弟だね。これは世間に何匹くらいいるの？

大河原 十数匹ですね。安彦さんに差し上げたあのカラーは、時計なんかもやっている優秀な業者さんにメッキを頼んでます。

安彦 ほ——。これも？

大河原 メッキですね。結局、クローの指の部分は塗装だと無理なんです、メッキじゃないとこうはいかない。

安彦 おなじ首長竜でも微妙に形が違うんだ。このタイプが十何匹？

大河原 いえ、シリーズ全部で。

安彦 じゃあ、もらったタイプの兄弟はもっと少ないんだ。

大河原 あれはお世話になった人にしか配っていない、プロトタイプですから。

安彦 うちの奥さんが凄く大事にしてますよ。「私のものだ触るな」と（笑）。

大河原 商品として出すことになったときにデザインを統一したんですよ。

安彦　いいよねえ。
大河原　ヤッターマン路線ですね。
安彦　誰が見ても大河原デザインだよっていう。だいたい大河原さんは、自分も本当にメカが好きだから（笑）。ここの工作機械は大河原さんが手で操作してるの？
大河原　ええと、こちらはアナログですけれども、向こうはデジタルでパソコン制御です。ほかにもいくつか——。
安彦　たくさんあるんだ？ 今は普通の車なんかも電子制御で色々動くようになっているよね。
大河原　車は今はもうね……故障の履歴とか。例えばタイヤの空気圧がおかしいとか、センサーが全部記録していて、ディーラーに持っていくとどこがおかしいのか異常が出た箇所を自動的にチェックできるんですよ。
安彦　持ち主が気づいてないことも？
大河原　だからある意味、うっとうしいことはうっとうしいですよ。
安彦　僕は車も乗らないから、そのへんの事情はホントわからなくて。でも「俺のハンドルさばきを見てくれ」とか言って、実はそのとおりに動いていなかったりしたら、ドライバーとしては傷つくんじゃない？
大河原　私らが18歳の頃とか、パワーステアリングもなくて、ハンドルなんかどの車も凄く重たかったですよ。今だとファミリーカーとスポーツタイプではパワステの効き方も全然味付けが違っていて、スポーツカーなんかはかなり重いです。ブレーキ、アクセルも重い。セダンとかファミリーカーだと逆にすごく楽に動かせるように設定されている。
　昔はギアの噛み合わせとか、マフラーを外していわゆる単管パイプをエンジンに直結したりとか。もう音がうるさくて……ウチの親父なんか一キロ先からもうドラ息子が帰ってくるなんて分かってましたよ（笑）。でも今の車はボンネット開けてもブラックボックスだらけで何にもできないですね。
安彦　昔から本当にメカ好きだった（笑）、それはよく知ってる。だけど大河原さんのお仕事方面については来歴をなんとなく知ってるだけなので、良い機会だから今回いろいろとお訊きしてもいいかな？

メカデザインの黎明

大河原　私は一九七二年に※タツノコの『科学忍者隊ガッチャマン』でメカデザインを始めて。その頃は映画で『007』が流行っていたから小物（メカ）に関しての描写に気を遣った作品にしようって始めたんですよ。でも当時はメカデザイン専任なんて人はいなかったな。
安彦　※「メカマン」っていつ出来たの？
大河原　メカマンは…いつだっけ？ 私がタツノコを辞めた後、二年くらいはフリーだったから※『無敵超人ザンボット3』※『無敵鋼人ダイターン3』が始まったあたりかな？

※タツノコ：株式会社竜の子プロダクションをさす。『タイムボカンシリーズ』など多数の人気作品を制作してきた。
※メカマン：株式会社デザインオフィスメカマンのこと。『科学忍者隊ガッチャマン』を手がけた美術監督の中村光穀と大河原邦男により一九七六年創設。『無敵超人ザンボット3』などのメカデザインに携わった。
※『無敵超人ザンボット3』：巨大ロボットザンボット3の活躍を描いたサンライズ作品。一九七七年に名古屋テレビで放映された。総監督を富野喜幸（由悠季）、キャラクターデザインを安彦良和がそれぞれ務めた。
※『無敵鋼人ダイターン3』：一九七八年ザンボット3の後番組として名古屋テレビで放映されたサンライズ作品。総監督富野喜幸（由悠季）、キャラクターデザイン

塩山紀生、小国一和。『機動戦士ガンダム』はダイターン3の後を受けて一九七九年から放映された。

大河原　その年の四月にタツノコに入って中村光毅さんの指導を受けて。当時美術部は10数名、だいたい美大あがりだったんだけれど、十月にガッチャマンの本放送が始まるという時期だったんですね。それで「今回はメカを中心にしっかりやってもらう」という風に言われてて、「それなら新人社員にやらせたらいいんじゃないんですか？」っていう流れになったんです。
　私も絵を描いて飯を食えるとは思っていなかったんで、「何でもいいからやらせてください」って。で、やってるうちに、ガッチャマンの鳥が飛んでいるようなロゴを。

安彦　あのロゴ、大河原さんだったんだ。

大河原　そうです。あれは最初の頃の仕事で、何も方程式みたいなものがなくて、大分苦労した思い出があります。

安彦　そういうのも新人の大河原さんにさせたんだ。

大河原　そうです。

科学忍者隊ガッチャマン

安彦　美術部の中にデザインをやる人は？

大河原　私一人です。後は背景を描く美術家なんですよ。タツノコに入って3ヶ月くらいは背景の練習もしてたんですよ。でも、「新人…お前これやっとけ」って。

安彦　背景を実戦で描いたことは…ない？

大河原　数枚あります（笑）。いわゆる「背のみ」……背景だけっていうシーンで、お前コレ好きに描いとけって。で、ガッチャマンが終わったら背景の方に戻るって言う話だったのが、ガッチャマンが105本、二年続いちゃったんですね。
　時代がちょうどメカを求めているときだったんでしょうね。マーチャンダイジングの対象はおもちゃだと。で、いろんなところから仕事が来ちゃう。

安彦　ガッチャマンの人物（デザイン）は※吉田竜夫さん？

大河原　それに※天野喜孝さん。

安彦　天野さんはその頃から現役だったんだ。

大河原　私が入った年は既にやってましたよ。

安彦　天野さんは大河原さんより歳は？

大河原　下ですね。学年で四つ下なのかな？ 高校生で布団を背負って吉田竜夫さんの家に居候していたっていう伝説がありますね。

※吉田竜夫：漫画家でありタツノコプロの初代社長。

※天野喜孝：画家、デザイナー。一九六七年、十五歳でタツノコプロに入社、一九八二年に独立。舞台美術やゲーム『ファイナルファンタジー』のメインビジュアルなど幅広い分野で活躍している。

安彦　もう吉田さんの秘蔵っ子で？

大河原　そうです。ちゃんとキャラクター室っていう自分一人の部屋を持っていました、社長の隣の部屋に。

安彦　天野さんはアニメーターで入っているの？

大河原　えーと、アニメーターでは…。どうだったんでしょう。私が知っているのはキャラクターデザインだけですね。

安彦　今から考えたら、優雅だなあって（笑）。

大河原　タツノコにはそういうセクションがありまして。※高田明美さんなんかもキャラクターデザインだけですよ。男性は天野さんだけだったけど、数名…あと二人くらいいたのかな。

※高田明美：多摩美術大学卒業後、タツノコプロ入社。『科

学忍者隊ガッチャマンⅡ』でキャラクターデザインを担当。代表作に『うる星やつら』『機動警察パトレイバー』など。

大河原　背景は武蔵美とかを出て絵をやりたいんだけど、食えないから背景描いてるとかそういう人が多かったですね。ただ、そういう人はメカやメカっぽい背景が苦手だったり、興味もなかったんでしょうね。だからメカが多いからちょっと背景描いてよとか。そういう……学校で仕事しているような感じでしたね。

安彦　メカといっても派手なものだけじゃなくって、小物が出てくるようなものも全部やるわけでしょ？　車が出るんだけど、どの車にしたらいいかみたいな。

大河原　メカデザイナーはロボットばっかりデザインしているような感じに誤解されてるんだけれど、あれはごく一部で本当は小物が多いんですよね。ボルト一本だってそれが芝居に絡んでくる場合はボルトの形を指定しなきゃいけない。

だから昔はメカデザイナーなんて言ってなかったですよね。メカ設定、設定マンって言われていた。その形をどれだけアニメーターに正確に伝えられるか。アニメーターっていうのは何百人もいるわけですけど。その人たちが個人差なく理解できる形を指定できるのが、優れたメカデザイナーだと今でも私は信じています。

安彦　タツノコのメカデザイン部はそれから少しずつ拡大していくわけ？

大河原　ずっと一人。私が辞めるまで一人。

……ファーストガンダムの季節……

――安彦さんと大河原さんが初めて会われたのはいつ頃の事なんですか？

安彦　それはもうガンダムの時かなあ。実のところいつ初めて大河原さんと会ったかとか、あんまり記憶にないんだよね。

――企画準備段階の打ち合わせで？

大河原　ガンダムであらたまった打ち合わせっていうのはなかったなあ。今みたいに「クールジャパン」なんていう時代じゃないんで（苦笑）。食うためにがむしゃらに仕事をやってた。

安彦　今までも幾度か言ってきたんだけど、ガンダムをやるときに「メカデザインは大河原さんがイイ！」って言ったの僕なんだよね。

大河原　そのことは何年か前に八王子の美術館のトークショーで初めて知りました。あの頃、サンライズのメカデザインに空きが出来たっていう時期があって。それで最初にダイターン3をデザインしました。

ダイターン3はザンボット3の前にやっていて、本来なら日本サンライズの第一作になる予定だったんだけれども……、放映前にスポンサーのブルマァクさんが倒産して放映が延びて。それで作品がずーっとペンディングになっていて。その間にザンボット3のスポンサーがクローバーさんで決まった。

安彦　順番が入れ違っちゃったんだ。

大河原　そう、そのときに安彦さんがキャラクター設定をやってて。メカデザイナーが全部デザインしたものを、アニメーターやキャラクターデザインの人が描き直してフィニッシュする。そういうのが初めての経験だったんでびっくりしましたね。

タツノコにいた時は自分が描いたものはそのまま設定シートになって、そこに他の人は手を入れなかったんですね。サンライズの場合は最終的にデザインをまとめてくれるんだ…と。そういう会社なんだと初め

て知って。そうするとサンライズさんでメカデザインすると仕事が楽かなあって（笑）。

安彦　大河原さんのデザインはヤッターマンやタイムボカンがそうなんだけど、アレンジしようがない。丸や四角が幾何学的にきっちりしているから、アレンジの必要もないんだけど。

でもオモチャ屋さんから出てくるデザインは「こ、これを動かせっていうのか！」としか言いようのないものだったから手を入れざるをえなかった（笑）。「こんなのをただでさえ手薄なアニメーターたちに渡せるか！」って。そうしなきゃとても現場を回せない。

今にして思えばバンダイにいた※村上（克司）さんあたりが描いてたのかもしれないけど、こんなのこの人数でどう動かせと……というのが。

※村上克司：玩具デザイナー。特撮、アニメーション作品関連商品を中心に活躍。Zガンダムの準備段階に村上によって描かれたデザイン案がアレンジされ、サイコガンダムとして劇中に登場している。

大河原　一方、タツノコでは吉田さんの力が強かったので、主導権を持っていかれずに済んでましたね。『ガッチャマン』はスポンサーが森永製菓さんだったから、オモチャ向けのデザインかどうかは、どうでも良かった。

それにタツノコは一つの社屋に全セクションがあったんです。私の席まで来たアニメーターさんに直接「ちょっとこれ線が多い」とか言われたりして。それでずいぶん勉強しましたね。

安彦　『ガッチャマン』や『タイムボカンシリーズ』の大河原さんと、SF考証で鳴らしてた※スタジオぬえとが、ガンダムのメカデザイン候補だったんだよね。デザインに対する考え方が対極的な両者というか。

すこし話が戻るんだけれど、メカマンより、スタジオぬえの方がデザイン集団としての立ち上がりは早かったんだ？　僕が彼らの仕事に初めて注目したのは『宇宙戦艦ヤマト』なんだよね。

※スタジオぬえ：一九七四年に設立されたSF作品を中心とする企画製作スタジオ。前身にあたる有限会社「クリスタルアートスタジオ」からTV版『宇宙戦艦ヤマト』のメカ設定などを引き継いだ。『ガンダムシリーズ』をはじめ『ゼロテスター』、『超時空要塞マクロス』など長年にわたり多数の作品に携わっている。

大河原　私がタツノコにいる時から「ぬえ」の名前は轟いてましたね。

安彦　知ってる人は知ってたのか……。僕は当時「変な奴らだなあ」とか思っていたんだけど（笑）。

大河原　彼らはSFを本当によく判ってデザインしてた。

安彦　「コレ本当にあんたたちがやったの？」って彼らに訊いた覚えがある。たとえば、僕も直接受け取りに行ったことがあるから知ってるんだけど、松本零士さんのデザイン原画は割とアバウトなんだ。でも彼らがそこからキッチリ細部まで起こしてくる。これは凄い。

大河原　好きじゃないとできないよね。

私は仕事が好きじゃないし、絵も好きじゃない。安彦さんもそうだけど、ああいう風に絵を描いてて幸せっていうのは何が面白いのか本当にわかんないんだよね。これは天野さんもそうなんだけど、仕事が来たときに嬉々として取り組んでいくあの目の輝き？……素晴らしいなあと。私、全然ないもん。

安彦　いやあ、大河原さんは十分輝いていると思うけど（笑）。

ぬえの仕事は『ヤマト』では本当に素晴らしかったんだけれども、あの頃サンライズの方でやってたのは、言っちゃあなんだけど僕にはなんかイマイチだったんだよね。なんというか、「ちょっとここ、こうしてもらえないかな」とか頼むと、後でとんでもない問題になったりするんですよ。「これはこうでこうだから、こうなるんです」とか最新のメカとかSFの知識を駆使して説得されてしまう、なぜここにバーニアが付いていけなくてはいけないかとか。それでけっこう僕なんかは消耗したんですよ。

　そういう状態だったんで、大河原さんのデザインを見ていて「ああ、この人のデザインは描きやすそう」って（笑）。「今度の企画（ガンダム）のデザインは、スタジオぬえに出すのか、大河原さんに出すのか、どっちにする？」って訊かれたのかな？　そのときに、僕はもう飛びついたわけですよ。

大河原　いや私はね、「面白ければいいじゃん！」って。観てワクワクして頭のどこかにでも残ってくれれば、それでいいんだよっていう考え方で。いい意味での「たかがTV漫画なんだ」って、タツノコにいる四年間、そういう勉強をさせてもらったから。

　理屈を判っていてあえてそうしない。で、「理屈はともかくこっちの方が面白い」ってなったときにはそっちを選ぶという。それがTVアニメの基本なんじゃないかと。

　ガッチャマンやってた頃なんかは「腕時計型のモニターなんていうのは絶対ウソだよな……」とか思いながら描いていたけど、あれから二十年たったらそういうものが出てきたりしてね。

「ロボットなんか絶対、歩かないよ」とか私が生きているうちは二足歩行なんて無理だろうと思っていたけど、今はもう歩いているしねえ。

安彦　「なんで二足歩行しなければいけないの？」って思ったでしょ？　可能かどうかっていうのはあったけど、二足歩行しなければいけない必然性がない。

大河原　私らは商売なんで二足歩行させる必然性があるんですけどね（笑）。

安彦　それを優秀な技術者が「二足歩行できますよ」ってやっちゃった。

――それは……子供の頃に大河原さんの仕事を見て刷り込まれた世代が、ロボットの自立二足歩行を実現させたのかもしれませんね。

安彦　たぶんそうだろうと思うんだよね。

――ないだろうと思って描いていたデザインが現実の方を変えてしまった。

大河原　そういう意味では※『宇宙の戦士』のパワードスーツから筑波大学の※HALスーツが出て来て、あれは介護とかで一番発展する分野だと思うんだよね。民生用に一番早く量産されるんじゃないかなあ。あれは大事ですよ。

※『宇宙の戦士』：SF作家ロバート・A・ハインラインの代表作の一つ。一九五九年発表、早川書房から一九六七年に邦訳が刊行された。一九七七年、文庫化の際にスタジオぬえがカバーアートを担当、宮武一貴デザインのパワードスーツはその後多くの作品群に影響を与えている。一九九七年制作のアメリカ映画『スターシップ・トゥルーパーズ』の原作でもある。

※ロボットスーツHAL：筑波大学大学院システム情報工学研究科 山海研究室が開発中のロボットスーツ。生体電位信号によって制御され、体の動きに追従し重量物を持ち上げるなどの機能を持つ。

安彦　二足歩行も介護ロボットや何かで役に立つんだっていう。いまタイトルが出たSF小説『宇宙の戦士』がまさにガンダムのとっかかりだった。邦訳されたときにパ

ワードスーツのデザインはぬえがやっている。なのにガンダムのデザインは大河原さんに頼むっていう、ぬえにとってみれば理不尽な話で心中穏やかではなかったと思うんですよ。
　それでも彼らは裏でサポートしてくれた。どのようにサポートしてくれたかは、ずーっと後に『ジ オリジン』を描き始めるまで知らなかったけど。

大河原　SF設定の部分はずっとスタジオぬえが絡んでいたからね。『ガンダムSEED』をやったときも、ぬえに助けてもらっているし。私なんかは「MSは面白ければいいや」って色々やっちゃうけど、それをフォローしていくのは大変だったと思う。

安彦　結果的にはガンダムにとってそれがよかったんじゃないかと思う。大河原さんのアウトラインがあって、ぬえが裏でいろいろサポートしたりするっていう関係だったからバランスがとれたんじゃないかな。

……コア・ブロックを巡る事情……

安彦　で、ガンダムのデザインの成り立ちなんだけど、まずは『宇宙の戦士』があって、次が大河原さんの初稿。そこで「これは違うんじゃないか」って話が出たところまでは知ってるんだけど、そのあとどんな御苦労があったのかは知らないんだよね。

大河原　あの頃のサンライズはとにかく「3」という数字にこだわってて。安彦さんが描いたガンキャノン、それと私が描いたオモチャっぽいガンダムを比べて、あと1個必要って。じゃあガンタンクって。
　コア・ファイターを核にして、ガンタンクの上半身がガンダムだったり、組み合わせで遊べる。そう言ってクローバーの社長を説得してる訳ですが、本編ではそんなシーンは一回もないわけですよ（苦笑）。そういえばRX-78に関しても、デザインのフィニッシュは安彦さんでしたね。

安彦　富野さんは義理堅いからそういう所をちゃんと拾って、空中換装とか繰り返しやるんだよね。

大河原　富野さんは作品に対する思い入れが凄くて、どうやったらヒットさせられるかいつも考えてて。でもザクのデザインは「モノアイをつけて」という注文だけで、あとは私が好きにやったら非常に気に入ってくれた。
　当時のサンライズは貧乏会社で、稼げる作品じゃないと許されなかったんですよ、そこからヒット作をだして、マーチャンダイジングで着実に会社を大きくしていった。あれはすごいと思う。

安彦　でも今ぐらいまで会社を大きくしようと思っていたのかなあ……。

大河原　そういう事情だから、企画をプレゼンする相手が全部オモチャのメーカーさんで。だからあまり作品としてこういうものを世に送り出すというより、あまり主張のない……って言うよりは売れるもの。ショーケースに並べたときに、一番子供たちがワクワクしてくれるようなものにポイントをおいた。売れるものがまず第一。

安彦　貧乏会社だったからマーチャンダイジングに特に思想をもってやってたとか、僕にはそういう風には見えなかったねえ。ただお金がなくて原作が買えないのでオリジナル作品しかないという……。さらに当時はオイルショックの余波を受けて不景気だったから、森永製菓とかカルピスとかそういうところに出入りできないわけですよ。
　で、「オモチャだったらCM枠を全部引き受けてもいいよ」とか。「これはオモチャ

になるから仕事ください」みたいなことになる。そういう状況がそうさせたんじゃないかなあ。

大河原　クローバーさんみたいな小さな会社が番組のスポンサーになれる時代でもあったんですよね。番組が即CMで。それ以上のことは想像してなかったんじゃないかなあ。

安彦　サンライズの自社作品でマーチャンダイジングが入るのはザンボット3が最初だと思っていたんだけど、実はダイターン3の方が先になる予定だったんだね。今のいままで知らなかった。

大河原　それはもう結果的にザンボット3が成功したからダイターン3が出来て、さらにガンダムにつながるわけで。「変形合体するやつだから絵にする前に、大河原ちゃん自分で作ってみてよ!」とか言われて試作したりもしてました。それでダイターン3も作ったし……でも一銭もくんない(笑)。

　で、そうやって作ってるとだいたいオモチャもその通りになる。オモチャだから強度と安全性が大事で。そのへんまで考えないと採用にならない。今みたいにプラモデルにとんがったパーツをいっぱいつけてもいい時代と違って……。でも面白かったですよ。オモチャは実際に売れたし。あの頃、僕らより先にアイデアを出してくるのは、村上(克司)さんがいた(バンダイの子会社の)ポピーくらいしかなくて。あの人たちに負けたくないなっていうのはありましたね。そのへんもずいぶん励みになって。

　変形合体っていうのはパズルみたいだし、ウソがつけないんで面白いんですよ。絵はごまかせるけど、立体はごまかせない。立体がちゃんとしていれば、優秀なアニメーターがさらにそれを膨らましてくれるから、さらにカッコよくなる。

安彦　ガンダムの時は色々あったけど、僕がよかったのは変形合体しないって事で。お腹に入るコア・ファイターはあったけど。

大河原　でもクローバーさんにプレゼンしたのはアレがミソだったんだから。

安彦　ないとダメだったんだねえ。でも当時のほかのロボットに比べるとずっと素朴で。お腹に入れりゃいいわけだし。今度のはシンプルだなあ、よかったなあって(笑)。

ちょうど両氏が談笑しているところに、宅配便で「ネジ」が届けられた。

大河原　私はネジとドリルを見ると、とにかく欲しくなるんですよ(笑)。

安彦　特注品?

大河原　これは特注じゃないですね。それでも一回の注文で4万円くらい遣っちゃうんですよ、このくらいの箱にみっちり入っていて。

――すぐ使うために買うんじゃなくて、いつか使うときのために買いためておくんですか。

大河原　そうですね。見ます?ネジ(笑)。

　まあ話を元に戻しますと、結果的にスポンサーにはかなりウソを使わざるを得なかった。でもまあ安彦さんが作画監督ってことで許してもらった記憶があります。

――三十年前の当時、ガンプラについては如何でしたか。

大河原　プラモデル以外も?

――それも含めて、で。

大河原　クローバーさんのガンダムはザンボット3、ダイターン3の流れで幼い子供向けだったんだよね。作品内容と購買対象がはるかに離れていた。おもちゃのガンダムとアニメのガンダムはもう別物だと割り切ってて。

　プラモデルは放送が終わってからクロー

バーさんに持ちかけたんだけどやらないって返事で、バンダイで出すことになった。感激したのは1/60ザク。それまでロボットものがプラモデルになってしかもスケールモデルになったというのは初めてだったんで。自分でアレを削りだすのって大変なんですよ。それをインジェクションキットで誰でも組み立てられるようにした。

安彦　ガンダムはともかくザクは想定してなかったから感動した?

大河原　ザクは立体化して自分の傍に置いておきたかったんですよ。実際、自分でも削って作り始めていたんです。このへん(上半身)まで出来ていたんですけどバンダイからキットが出るっていうんで、わざわざ苦労して作ることないなって、それで作るのをやめたんですよ。一話でザクがコロニーの中に入っていくシーン。あのザクを形に残したい。3Dにしたいっていう欲求があって。

――ガンダム誕生の現場――

安彦　話は変わるけど、大河原さんと違ってあんまりちゃんとした修行してないんだよね…僕。一九七一年に虫プロで『さすらいの太陽』やってた時なんて、雑用やってたし。さっきの設定みたいに、車が出てくるからどんなのにするか考えろとか。田園調布にロケハンに行って、外から写真撮って、お屋敷ってこういうもんかとか。やるやつがいないからホントにいろんな事を。

大河原　でも、昔はみんなそんなもんだよ。今のガンダムみたいに何人もかかってやるんじゃなくて一人しかいないから全部一人で描いたり。代わりがいないから病気にもなれないですよ。

安彦　ちょっと話が飛躍するけど七〇年代のアニメって面白いね。すごい手薄の中で作ってたのにね。

大河原　それでもタツノコプロはその当時、かなりしっかりした組織だったですね。ある程度計算しながら作ってる。サンライズと仕事するようになってかなり面白かったですね。行き当たりばったりで(笑)。

安彦　実にいい加減で。あの手薄さがなんともいえない。僕もタツノコで『新みなしごハッチ』の演出助手をやっているときに、タツノコってしっかりした会社だなあと思って。サンライズに行くと、ゆる――いんですよ(笑)。

それで、タツノコで少し修行したおかげでサンライズのゆる――いところの良さっていうのが判るようになって、僕みたいないい加減なやつはやっぱここだあと。

大河原　タツノコは※笹川ひろしさんが色々教えたりしてましたね。

安彦　サンライズは※高橋良輔さんがボスだね。あの人もゆる――いから(笑)。

大河原　僕が仕事をした中で一番多い監督・演出家が笹川さんなんですよ。その次が高橋良輔さん。富野さんとはすごい少ない。メカデザイナーとしてはね。結局、ファーストガンダムとF91とあと幾つか。Zでは、もう世代交代するから休めって言われたから。

※笹川ひろし:アニメーション監督。代表作に『新造人間キャシャーン』、『科学忍者隊ガッチャマンII』など多数。手塚治虫の元アシスタント、漫画家でもあった。

※高橋良輔:アニメーション監督。代表作に『装甲騎兵ボトムズ』、『幕末機関説 いろはにほへと』など多数。

安彦　なんか大河原さんと富野さんはずっと付き合ってるような気がしてたんだけど、そうでもないんだね。

大河原　富野さんのガンダムに関しては意

外にやってない。ファーストガンダムのときのデザインなんだけど、富野さんがラフを描いたやつが何点かあったでしょ。それをメカデザイナーの視点でフィニッシュをして中和する。それで富野さんの過激なメカ観とかが中立に近づいたと思うんだけど、それを鈍感だと言われたりもしたっけ。

安彦　また結果論だけど、それでバランスが良かったんだよね。

大河原　放映当時はタツノコのタイムボカンシリーズも平行してやってたし、実はなるべく早くガンダムを終わらせたかった。

安彦　それはみんなそう。早く終わらせて逃げたかった。そうしないと仕事にあぶれちゃうんですよ。

大河原　フリーランスの極意っていうのはそれだから。なるべくどんどん進んじゃっておいて、後から仕事を入れられても対応できるようにしておきたい。アニメの世界だけにいれば幸せっていう今の若い人の一部とは考え方がちょっと違う。

安彦　ガンダムはTVの後に劇場版っていうのがあって、その時は少数の手伝ってくれる人間だけ、非常に限られた戦力だけでやったんだけれど……。

それはもちろん志を同じくする人間でやろうよっていうのもあったんだけれど、もう一つは頼めないいんですね。みんなもう他でレギュラーの仕事してるんだから……。

大河原　我々のデザインだって買い取りだったから、劇場版で使うからといってロイヤリティが入ってくるわけでもない。あのときは安彦さんより私の方が買い取り価格としてはよかったのかなあ。メカは玩具に直接つながるし、でも二五〇万円いくかいかないか位。

安彦　当時の買い取り価格？　キャラクターデザインは一〇〇万。それでも陽の目を見たから一〇〇万なんで。普通だったら「劇場版？　なに言ってんの、お疲れさん！」で終わりだし。

大河原　だからもう仕事の手が早くないとどうしようもない。

安彦　いまだに※山崎和男さんとか※青鉢さん。TV版をやってくれたスタッフには不義理をしたなあって思ってるんだよね。でも頼みたくても頼めなかった。いい仕事してもらったのにリメイクなんてとても頼めない。

オリジナルのスタッフに対して冷たいじゃないか、って言われてもそうじゃなかったんだっていうか。

※山崎和男：アニメーター。TV版『機動戦士ガンダム』最終話『脱出』では作画監督を務めた。

※青鉢芳信：アニメーター。朝日ソノラマから刊行されていた富野喜幸による小説版『機動戦士ガンダム』の本文イラストも描いている（同書は現在角川スニーカー文庫に収録されている、こちらの本文イラストは美樹本晴彦）。

大河原　私もこの仕事をずっとやってて、間が空いたっていうのはほとんどなくて。『機甲戦記ドラグナー』やった後しばらく空いたくらいで。ずっとTVシリーズやってましたからね。そのときもボトムズの外伝の『メロウリンク』をやっていた。それ以後『魔動王グランゾート』からタカラの『勇者シリーズ』をひたすらずっと。

まあ負け惜しみだけどガンダムで権利がなくてよかったなあって。

安彦　そうかもしれないね。

大河原　もし権利があったら、私は今頃おかしくなってたかもしれない。ドラ息子ならぬドラおじさん（苦笑）。

安彦　なんかこう七〇年代は、特にサンライズは貧乏だったかもしれないけど、アニメ業界おしなべてそんな感じだったんだよ

ね。

『ジ オリジン』から……

大河原　ガンダム三十周年ではあちこちのイベントに駆り出されたけど、もうあの赤白青が一人歩きをしていて「私たちがオリジナルスタッフだったんだっけ?」っていうくらい自覚が薄いんだよね。

安彦　もう「僕らはファーストのスタッフでしかないよ」と。Z、ZZ、逆シャアの頃はホントに複雑な事になってて。それが一回りしてようやく落ち着いたというか。

大河原　それは※今川泰宏さんがGガンダムをやってくれたおかげで、富野さんじゃなくてもオリジナルでガンダムが出来るようになった。新しい監督が来ても新しい視点でファンの方に発信できる存在になった。

安彦　Gガンダムは良く知らないんだけど…。

※今川泰宏：アニメーション監督。代表作に『機動武闘伝Gガンダム』、『ジャイアントロボ THE ANIMATION -地球が静止する日』など多数。

大河原　富野さんが『機動戦士Vガンダム』(一九九三年)をやって、その翌年に『機動武闘伝Gガンダム』(一九九四年)、それからオリジナルの『新機動戦記ガンダムW』(一九九五年)、『機動新世紀ガンダムX』(一九九六年)と続き、1年ごとに新シリーズを発信できた。今、ファンが残っているのはあの時、間断なくやってたことが大きい。

安彦　それまでは富野さんが作るものがガンダムだっていう認識があったけれども、それがそれだけじゃないって事が判ったということだよね。

大河原　宇宙世紀オンリーから決別したのが、Gガンダムです。世界各国のガンダム同士が闘うということで作品が成立してて……。

安彦　そういう「えっ!?」って言うようなものまで出てきて、十分拡散しちゃったことで「ホントはこうだったんですよ?」って『ジ オリジン』をやる意味も意義もできて、そこにつながっていくんだよね。

大河原　そうですね。安彦さんは本当にいい時期に『ジ オリジン』を始められたんですよ。

安彦　あの時(二〇〇一年)は、確かにやる必要があるかなあと思ったんだよね。逆に言えばかなり薄くなっていたからね。今だから言うけど、最初のガンダムはこうだったんだよって。

――大河原さんは安彦さんが『ジ オリジン』をやるって聞いたときどう思われたんですか?

大河原　安彦さんのオリジナル部分を入れて欲しいなあって思ったんですよ。シャア・セイラ編でそれは実現しているんだけど、私は「全編それでもいいじゃん!」って思ってます。安彦さんが漫画で描くんだから、安彦さんの主観をどんどん入れ込んでいった方が見る人は面白いんだろうなあって。

安彦　それはやっぱり違うというか。やっぱりファーストは良くできているんですよ。ホント自分で言うのもなんだけど『ジ オリジン』をやってガンダムの良さを再発見した。

　だから『ジ オリジン』では自分の主観だけじゃなくて「客観的に見て、ここはこうだろう」とか、そういう演出を心がけています。大河原さんに言われるまで忘れていたんだけれど、そうやって描いているうちにオリジナル要素も入れたくなってきたんですよ。物語全体の自然な流れとしてね

（笑）。最初は「コミックス1冊分だけ僕にくれ」っていって始めたんだよね。「過去編描きたい！」って。

――『ジ オリジン』の企画が動き出したときから安彦さんにそういう話をしていたのですか？

大河原　そりゃあ、安彦さんはオリジナルも何も全部できる人だし、作品としても自分のものを作ってきた人だから。当然それを見てみたい。

そして当時サンライズ社長だった吉井孝幸さん（現会長）は、台詞を翻訳すればどこの国でも通用するようなものを欲していた。

安彦　当時の映像をそのまま持っていってもわかってもらえないもんね。「TVアニメが長すぎるんなら映画があるでしょ」って言ったんだけどね。「映画版は映画版でいろいろつぎはぎしてるし、わかんない」って言われて、結局『ジ オリジン』を描くことになりました。

――オリジナル要素といえば、大河原さんに無理を言って描いてもらった増加装甲型のジム・バリエーション。こちらも人気です。

大河原　安彦さん、前に私の仕事はもう終わりって言ってたじゃん（笑）。

安彦　バリエーションを色々作ってもらって本編で描いたら、あそこが違うここが違うとか色々言われて。でもこのGMは追加パーツの違いで組み合わせは無限にあるんだよ、と（泣）。

大河原　そりゃそうですね。

――まああれは戦地改造型みたいなものでしょうから。『ジ オリジン』では冒頭に出てくるRX78-01ガンダムが大河原さんのアレンジですが――。

大河原　つねに発注者の注文に応えるというのが私の仕事で。でも安彦さんは自分でデザインできるし、そちらの方がカッコいいじゃんって思うんですけどねえ。

安彦　僕は大河原さんに謝らなくちゃいけないんだけど……。どうもメカが描きづらいと思ってたら、それは自分が「こう変えてくれ」ってアレンジをお願いしたデザインだったりして、連載が進んでからTV版のデザインに戻したモノも幾つかあって……。ガンダムのビーム・ライフルなんかも、最初のアレが正解だったんだと。

大河原　いやいや、ビーム・ライフルは元々のTV版自体が、当時の安彦さんのデザインですよ。

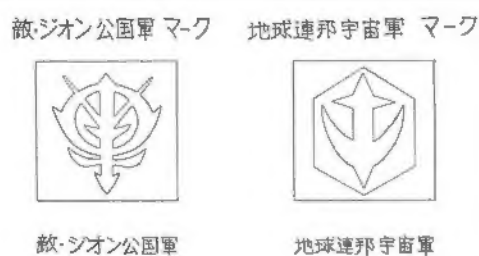
安彦　え――っ？

大河原　そのはずです。

安彦　そうだったかなあ。

大河原　今となってはね、あのジオンマークを誰がデザインしたのかも分かんないんだから。「安彦さんじゃないの？」「あれ中村さんじゃないの？」とか「アニメーターが作画でやったのかな？」とか。定説は無い。でも立体物にジオンマークを入れると、すごく映えるんですよ。連邦軍は貧弱だけど。

敵・ジオン公国軍 マーク　地球連邦宇宙軍 マーク

敵・ジオン公国軍　地球連邦宇宙軍

安彦　あれを考えたやつは偉い（笑）。

大河原　マークといえば、※ガンダムカフェのシンボルマークを頼まれたときは、安彦さんが筆で描いてるから、私も筆で描いてやれってシュッとラフな感じに。

安彦　へえ――。大河原さんはもうホントに何でもやってくれちゃうから。

大河原　職人ですから。

※ガンダムカフェ：二〇一〇年四月ＪＲ秋葉原駅電気街口前に開店したカフェ。ガンダムをテーマにしたメニューや内外装で人気を集めている。

――そういえば過去編にでてきたモビルワーカーの発注は安彦さんの方から？

安彦　いや…あれはむしろどうよって、ただの工作機械でいいのかなあとも思ったんだけど。

大河原　あれは確か※『ガンダムセンチュリー』が最初じゃなかったっけ？ モビルワーカーは私の方でいくつか描いて選んでもらったんだよね。

※『ガンダムセンチュリー』：一九八一年にみのり書房から刊行された『ＧＵＮＤＡＭ ＣＥＮＴＵＲＹ 宇宙翔ける戦士達ガンダムセンチュリー』を指す。

安彦　ガンダムには本当に色んな設定があるんだよね。一年戦争っていうのも誰が言い出したのかはしらないけど、どう考えても一年じゃ無理でしょって。だけどこれも一人歩きしちゃってるから「一年戦争」にしなきゃいけない。

　誰がなんと言おうと違うものは違う。〝専門家〟の言うことなんて「あえて無視！」っていうケースもあるけどね。ただＭＳの成立史っていうのはやっぱり無視できないなあと。だったら形にしようと。

大河原　※ボトムズなんか百年だよ？

※ボトムズシリーズの舞台は「アストラギウス銀河を二分するギルガメスとバララントの百年に及ぶ戦い」である。

――大河原さんは最近だとＭＳＶでも新しい取り組みをされてますが。

大河原　ＭＳＶ・Ｒに関しては、私は言われるままに描いただけですよ（笑）。このへんはもう思い入れのあるスタッフがおりますので。ストリーム・ベースの※川口くんとライターの草刈くん、ガンプラをひっぱってきた人たちです。

※川口克己（現バンダイホビー事業部）と草刈健一（フリー編集者）のこと。幼年誌や模型誌など雑誌媒体で展開されたモビルスーツバリエーション（ＭＳＶ）は人気企画であり、当時の本編映像には一切登場しなかったにも関わらず続々とプラモ化された。

――先日「ハガキに君の考えたＭＳを描きこんで送ってね」という形で読者参加企画をやったんですが、子供たちからも予想を遥かに上回る応募が来て編集部がみんな驚きまして。

安彦　そういう幅広い年齢層向けの企画は狙ってできるもんじゃない。

大河原　なんかもう異常だよね。三十年も続くっていうのは。

安彦　あるポイントを超えちゃうとエンドレスになるのかもしれない。そこを超えられない可能性だってあったんだよね。

　幸運にもＧガンダムでそこを乗り越えられたんで、あとは百年経ってもまだ続いてるかもという……。

大河原　そうなると私らの寿命をはるかに越える（笑）。それにしてもあの頃は、お互いたくさん仕事をしてたよね。

――いえいえ、今も驚異的なお仕事量なわけですけれど（笑）。

　本誌連載ではいよいよクライマックスを迎える『ジ オリジン』ですが、これからも大きな企画が控えていますし、おふたりには是非これからも、これまで通りご活躍いただきたいです。

写真：可児保彦[i/o studio]
　ガンダムエース編集部（首長竜）
文責：鶴田真人[ガンダムエース編集部]
取材協力：サンライズ
＊本稿は月刊ガンダムエース二〇一〇年八月号に9周年記念企画として掲載されたものに加筆修正いたしました。

角川コミックス・エース

フルカラー版 機動戦士ガンダムTHE ORIGIN㉒

著者　安彦良和
原案　矢立肇・富野由悠季
メカニックデザイン　大河原邦男

2022年4月26日　発行
ver.001

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』
(Comic Walker掲載)

発行者　青柳昌行
発行　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ
https://www.kadokawa.co.jp/

●お問い合わせ
https://www.kadokawa.co.jp/　(「お問い合わせ」へお進みください)
※内容によっては、お答えできない場合があります。
※サポートは日本国内のみとさせていただきます。
※Japanese text only

装丁・デザイン　福島トオル(Smile Studio)
カラーリスト　凸版印刷株式会社